2019年度

シラバス

交流文化学科

秋学期は配布しません。１年間必ず保管すること。

獨協大学

シラバスは、科目の担当教員が学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。

【シラバスの見方】

1. 目次について

①シラバスページの検索方法

ページ端にあるインデックスで自分の入学年度に該当する目次ページを探してください。
目次の科目は、授業科目表（学則別表）と同じ順序で掲載しています。
※入学年度によっては授業科目表とシラバスの順序が一致していない場合があります。ご注意ください。

②履修できない科目

「履修不可」の欄に入学年度・所属学部・学科名等が記されている場合は、該当者はその科目を履修することができません。

〈略称説明〉

外：	外国語学部	養：	国際教養学部	経：	経済学部
独：	ドイツ語学科			済：	経済学科
英：	英語学科			営：	経営学科
仏：	フランス語学科			環：	国際環境経済学科
交：	交流文化学科				
全：	交流文化学科以外の全学部学科				

法：	法学部
律：	法律学科
国：	国際関係法学科
総：	総合政策学科
免：	2013年度以降入学の教職課程登録者

2. シラバスページの見方（右図参照）

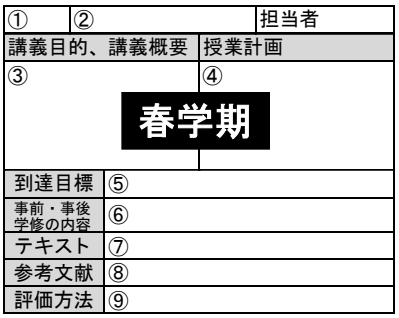
①入学年度

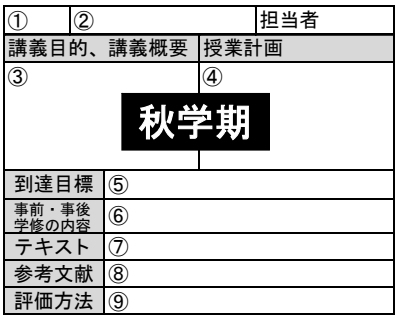
13～18年度……2013～2018年度入学者
19年度　　……2019年度入学者

②入学年度に対応した科目名
③授業の目的や講義全体の説明、学生への要望
④学期の授業計画

各回ごとの講義のテーマ、内容を記載しています。
授業計画回数と実際の回数は必ずしも一致しません。

⑤到達目標
⑥事前・事後学修の内容
⑦授業で使用するテキスト
⑧参考文献
⑨評価方法





3. 注意事項

①履修条件

担当教員が履修者に対して、その他の科目の履修や単位の修得などを条件としている科目があります。
必ず「講義目的、講義概要」の欄(上図③の部分)および『授業時間割表』を確認してください。

②定員

科目の中には定員制のものがあります。詳細は「授業時間割表」を参照してください。

――― 目　次 ―――

2013～2019 年度入学者開設科目一覧表
学科基礎科目 ---------- 2
学科共通科目 ---------- 4
学科専門科目 ---------- 8
第二外国語（英語プラス１言語） ---------- 11
外国語学部共通科目開設一覧表 ---------- 13
担当者別シラバス ---------- 15

【参考資料】（英語レベル表）

2009 年度以降入学者				
レベル	TOEIC®LISTENIG AND READING TEST	TOEFL®TEST		実用英語技能検定
		PBT	iBT	
上級	800 点以上	520 点以上	68 点以上	準１級
中級	600 点以上	480 点以上	54 点以上	

履修条件で一定の英語レベルを必要とする科目は、学内で実施した
TOEIC®LISTENIG AND READING TEST(IP)のスコアが履修条件を満たしていれば登録可能です。

学内で実施した以外のスコアを利用する場合は、
既修条件を満たしていることを証明するコピーを教務課外国語学部係に提出してください。

交流文化学科　授業科目

学科基礎科目

科目名（副題）		担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
交流文化の世界(2019年度入学者用)		北野　収	春	水3	2	1	全	15
交流文化概論i(2019年度入学者用)		鈴木　涼太郎	春	木5	2	1	全	16
交流文化概論i(2013～2018年度入学者用)		北野　収	春	水3	2	1	全	17
交流文化概論ii		須永　和博 / 山口　誠	春	金1	2	1	全	18
交流文化概論iii		堀　芳枝	秋	金1	2	1	全	19
基礎演習Ⅰ		堀　芳枝	春	水1	2	1	全	20
基礎演習Ⅱ		堀　芳枝	秋	水1	2	1	全	20
基礎演習Ⅰ		永野　隆行	春	水1	2	1	全	21
基礎演習Ⅱ		永野　隆行	秋	水1	2	1	全	21
基礎演習Ⅰ		山口　誠	春	水1	2	1	全	22
基礎演習Ⅱ		山口　誠	秋	水1	2	1	全	22
基礎演習Ⅰ		鈴木　涼太郎	春	水1	2	1	全	23
基礎演習Ⅱ		鈴木　涼太郎	秋	水1	2	1	全	23
基礎演習Ⅰ		須永　和博	春	水1	2	1	全	24
基礎演習Ⅱ		須永　和博	秋	水1	2	1	全	24
英語圏の文学と文化概論		高橋　雄一郎	秋	火5	2	1		25
英語の世界Ⅰ		大澤　舞	春	火1	2	2	全	26
English for Business Ⅰ		各担当教員	春		1	2	全	27
English for Business Ⅱ		各担当教員	秋		1	2	全	27
2019年度入学者	Listening & Speaking Ⅰ	D. ブラドリー	春	火1	1	1	全	28
	Listening & Speaking Ⅱ	D. ブラドリー	秋	火1	1	1	全	28
	Listening & Speaking Ⅰ	D. ブラドリー	春	火2	1	1	全	29
	Listening & Speaking Ⅱ	D. ブラドリー	秋	火2	1	1	全	29
	Listening & Speaking Ⅰ	野上　文子	春	金3	1	1	全	30
	Listening & Speaking Ⅱ	野上　文子	秋	金3	1	1	全	30
	Listening & Speaking Ⅰ	L. G. ボンド	春	月2	1	1	全	31
	Listening & Speaking Ⅱ	L. G. ボンド	秋	月2	1	1	全	31
	Listening & Speaking Ⅰ	L. G. ボンド	春	月3	1	1	全	32
	Listening & Speaking Ⅱ	L. G. ボンド	秋	月3	1	1	全	32
2018年度以前入学者	Listening & Speaking	D. ブラドリー	春	火1	1	1	全	33
	Listening Practice for TOEFL＆TOEIC	D. ブラドリー	秋	火1	1	1	全	33
	Listening & Speaking	D. ブラドリー	春	火2	1	1	全	34
	Listening Practice for TOEFL＆TOEIC	D. ブラドリー	秋	火2	1	1	全	34
	Listening & Speaking	野上　文子	春	金3	1	1	全	35
	Listening Practice for TOEFL＆TOEIC	野上　文子	秋	金3	1	1	全	35
	Listening & Speaking	L. G. ボンド	春	月2	1	1	全	36
	Listening Practice for TOEFL＆TOEIC	L. G. ボンド	秋	月2	1	1	全	36
	Listening & Speaking	L. G. ボンド	春	月3	1	1	全	37
	Listening Practice for TOEFL＆TOEIC	L. G. ボンド	秋	月3	1	1	全	37
	Grammar for TOEFL&TOEIC Ⅰ	各担当教員	春		1	2	全	38
	Grammar for TOEFL&TOEIC Ⅱ	各担当教員	秋		1	2	全	38
Reading Strategies Ⅰ		伊藤　兵馬	春	木3	1	1	全	39
Reading Strategies Ⅱ		伊藤　兵馬	秋	木3	1	1	全	39
Reading Strategies Ⅰ		玉井　昇	春	月3	1	1	全	40
Reading Strategies Ⅱ		玉井　昇	秋	月3	1	1	全	40
Reading Strategies Ⅰ		瀬戸　千尋	春	月4	1	1	全	41
Reading Strategies Ⅱ		瀬戸　千尋	秋	月4	1	1	全	41
Reading Strategies Ⅰ		大澤　舞	春	水2	1	1	全	42
Reading Strategies Ⅱ		大澤　舞	秋	水2	1	1	全	42
Reading Strategies Ⅰ		野上　文子	春	金2	1	1	全	43
Reading Strategies Ⅱ		野上　文子	秋	金2	1	1	全	43
Reading StrategiesⅢ		野上　文子	春	金4	1	2	全	44
Reading StrategiesⅣ		野上　文子	秋	金4	1	2	全	44
Reading StrategiesⅢ		河原　宏之	春	月4	1	2	全	45
Reading StrategiesⅣ		河原　宏之	秋	月4	1	2	全	45
Reading StrategiesⅢ		関根　路代	春	水1	1	2	全	46
Reading StrategiesⅣ		関根　路代	秋	水1	1	2	全	46
Reading StrategiesⅢ		白川　貴子	春	水2	1	2	全	47
Reading StrategiesⅣ		白川　貴子	秋	水2	1	2	全	47
Reading StrategiesⅢ		白川　貴子	春	水1	1	2	全	48
Reading StrategiesⅣ		白川　貴子	秋	水1	1	2	全	48
Reading StrategiesⅢ		玉井　昇	春	水1	1	2	全	49
Reading StrategiesⅣ		玉井　昇	秋	水1	1	2	全	49

学科基礎科目

科目名（副題）	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
Writing Strategies Ⅰ	伊藤　兵馬	春	火2	1	1	全	50
Writing Strategies Ⅱ	伊藤　兵馬	秋	火2	1	1	全	50
Writing Strategies Ⅰ	L. G. ボンド	春	水2	1	1	全	51
Writing Strategies Ⅱ	L. G. ボンド	秋	水2	1	1	全	51
Writing Strategies Ⅰ	R. J. バロウズ	春	火3	1	1	全	52
Writing Strategies Ⅱ	R. J. バロウズ	秋	火3	1	1	全	52
Writing Strategies Ⅰ	N. ハミルトン	春	月4	1	1	全	53
Writing Strategies Ⅱ	N. ハミルトン	秋	月4	1	1	全	53
Writing Strategies Ⅰ	D. グライムズ	春	月5	1	1	全	54
Writing Strategies Ⅱ	D. グライムズ	秋	月5	1	1	全	54
Comprehensive English Ⅰ	L. G. ボンド	春	木1	1	1	全	55
Comprehensive English Ⅱ	L. G. ボンド	秋	木1	1	1	全	55
Comprehensive English Ⅰ	N. A. カナロス	春	金2	1	1	全	56
Comprehensive English Ⅱ	N. A. カナロス	秋	金2	1	1	全	56
Comprehensive English Ⅰ	P. マッケビリー	春	月2	1	1	全	57
Comprehensive English Ⅱ	P. マッケビリー	秋	月2	1	1	全	57
Comprehensive English Ⅰ	D. マッキー	春	木3	1	1	全	58
Comprehensive English Ⅱ	D. マッキー	秋	木3	1	1	全	58
Comprehensive English Ⅰ	L. K. ハーキンス	春	月2	1	1	全	59
Comprehensive English Ⅱ	L. K. ハーキンス	秋	月2	1	1	全	59
Comprehensive English Ⅰ	D. ベイカー	春	木3	1	1	全	60
Comprehensive English Ⅱ	D. ベイカー	秋	木3	1	1	全	60
Comprehensive English Ⅰ	K. ミーハン	春	月3	1	1	全	61
Comprehensive English Ⅱ	K. ミーハン	秋	月3	1	1	全	61
Comprehensive English Ⅰ	R. ダラム	春	火2	1	1	全	62
Comprehensive English Ⅱ	R. ダラム	秋	火2	1	1	全	62
Comprehensive English Ⅰ	A. R. ファルヴォ	春	月2	1	1	全	63
Comprehensive English Ⅱ	A. R. ファルヴォ	秋	月2	1	1	全	63
Comprehensive English Ⅰ	J. ハント	春	木3	1	1	全	64
Comprehensive English Ⅱ	J. ハント	秋	木3	1	1	全	64
Comprehensive EnglishⅢ	E. フランコ	春	木3	1	2	全	65
Comprehensive EnglishⅣ	E. フランコ	秋	木3	1	2	全	65
Comprehensive EnglishⅢ	L. K. ハーキンス	春	月3	1	2	全	66
Comprehensive EnglishⅣ	L. K. ハーキンス	秋	月3	1	2	全	66
Comprehensive EnglishⅢ	L. K. ハーキンス	春	月4	1	2	全	67
Comprehensive EnglishⅣ	L. K. ハーキンス	秋	月4	1	2	全	67
Comprehensive EnglishⅢ	E. フランコ	春	木1	1	2	全	68
Comprehensive EnglishⅣ	E. フランコ	秋	木1	1	2	全	68
Comprehensive EnglishⅢ	N. ハミルトン	春	月3	1	2	全	69
Comprehensive EnglishⅣ	N. ハミルトン	秋	月3	1	2	全	69
Comprehensive EnglishⅢ	R. J. バロウズ	春	火4	1	2	全	70
Comprehensive EnglishⅣ	R. J. バロウズ	秋	火4	1	2	全	70
E-learning Ⅰ _交文	玉井　昇	春	木4	1	1	全	71
E-learning Ⅱ _交文	玉井　昇	秋	木4	1	1	全	71

学科共通科目「英語専門講読Ⅰ・Ⅱ」

科目名（副題）	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ （国際取引契約法入門Ⅰ・Ⅱ）	花本　広志	春秋	月1	2	2	全	72
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ※ (Cool Japan: 1900-1960) (Cool Japan: 1960-2016)	J. E. マジャール	春秋	月2	2	2	全	73
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ※ (Videogames in Contemporary Society) (Videogames and Interactive Media in Social Science)	J. D. コーリス	春秋	月2	2	2	全	74
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ※ （変形生成文法理論研究の50年） （生成文法理論・標準理論以降の研究50年）	鈴木　英一	春秋	月2	2	2	全	75
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ※ (Exploring Language Teaching)	浅岡　千利世	春秋	月3	2	2	全	76
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ※ （アメリカの食文化を読む）	大木　理恵子	春秋	月4	2	2	全	77
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ （オセアニアの社会と文化）	玉井　昇	春秋	月4	2	2	全	78
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ （戦後国際政治史）	永野　隆行	春秋	月4	2	2	全	79
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ※ （Children's Classics）	前沢　浩子	春秋	月4	2	2	全	80
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ※ （シンボルを読み解く）（表象文化のシンボルを読み解く）	三吉　美加	春秋	月4	2	2	全	81
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ※ （コリアン・ディアスポラを考える）	大木　理恵子	春秋	月5	2	2	全	82
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ （現代国際関係）	永野　隆行	春秋	月5	2	2	全	83
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ※ （SLA最前線）	羽山　恵	春秋	火2	2	2	全	84
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ※ (History of the English Language)	J. J. ダゲン	春秋	火3	2	2	全	85
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ※ （言語研究のさまざまな知見を巡る）	青柳　真紀子	春秋	火3	2	2	全	86
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ※ （異文化コミュニケーションの基礎）（異文化コミュニケーションの理論）	瀬戸　千尋	春秋	火3	2	2	全	87
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ※ （日系アメリカ人の歴史と文化）（日系アメリカ人の文化と文学）	高田　宣子	春秋	火3	2	2	全	88
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ （文法と文脈の関係）	大澤　舞	春秋	火4	2	2	全	89
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ※ （アメリカ文学:John Steinbeckの文学を読む）	金谷　優子	春秋	火4	2	2	全	90
英語専門講読Ⅱ※ （現代東南アジアの政治・経済・社会）	金子　芳樹	秋	火4	2	2	全	91
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (Introduction to Fair Trade)	北野　収	春秋	火4	2	2	全	92
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ※ （世界ブランドとグローバル社会）	竹田　いさみ	春秋	火4	2	2	全	93
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ※ （言語の不思議）	船越　健志	春秋	火4	2	2	全	94
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ※ （視覚コミュニケーション論入門）	柿田　秀樹	春秋	火5	2	2	全	95
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (International Development Studies)	北野　収	春秋	火5	2	2	全	96
英語専門講読Ⅱ※ （アジア太平洋地域の国際関係・政治経済）	金子　芳樹	秋	水1	2	2	全	97
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ※ (Languages in a Globalizing World)	J. N. ウェンデル	春秋	水2	2	2	全	98
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ※ 英語専門講読Ⅰ（ディズニーと世界情勢）	竹田　いさみ	春秋	水2	2	2	全	99
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ※ （アメリカ現代詩）	原　成吉	春秋	水2	2	2	全	100
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ※ （19世紀アメリカの詩）	関根　路代	春秋	水3	2	2	全	101

※4年生対象（2・3年生は履修不可）

学科共通科目「英語専門講読Ⅰ・Ⅱ」

科目名（副題）	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ※ （実践的な英語の聴解・発音教育）	中田　ひとみ	春秋	水4	2	2	全	102
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ※ （英国ユダヤ人史）	佐藤　唯行	春秋	木1	2	2	全	103
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ （Readings on Japanese Culture Ⅰ・Ⅱ）	L. G. ボンド	春秋	木2	2	2	全	104
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (Diplomacy and International Relations)	伊藤　兵馬	春秋	木2	2	2	全	105
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ※ （国際関係）	佐野　康子	春秋	木2	2	2	全	106
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ （「グローバル理解教育」、開発教育論）	玉井　昇	春秋	木2	2	2	全	107
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ （英語で学ぶ国際関係論）	堀　芳枝	春秋	木2	2	2	全	108
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ※ （日英語の疑問文の比較）（日英語の使役文の比較）	安井　美代子	春秋	木2	2	2	全	109
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ （ハリウッド映画の社会学：初期からWW2まで） （ハリウッド映画の社会学：20世紀後半から現在まで）	山口　誠	春秋	木2	2	2	全	110
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ※ (Multicultural Education & Social Justice)	E. 本橋	春秋	木3	2	2	全	111
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ （ツーリズムの現状と課題）（航空の現状と歴史）	井上　泰日子	春秋	木3	2	2	全	112
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ※ （Global Woman）	上野　直子	春秋	木3	2	2	全	113
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ※ （Allen Ginsberg の詩を精読する）	遠藤　朋之	春秋	木3	2	2	全	114
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ※ （動詞の意味と文法）	小早川　暁	春秋	木3	2	2	全	115
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ※ （コミュニケーションに関する諸モデル） （イノベーションの普及コミュニケーション）	佐々木　輝美	春秋	木3	2	2	全	116
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ （ツーリズム研究の基礎概念）	鈴木　涼太郎	春秋	木3	2	2	全	117
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ （Deconstructing “Japaneseness”）	須永　和博	春秋	木3	2	2	全	118
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ※ （21世紀のグローバル・イシューズ）	水本　義彦	春秋	木3	2	2	全	119
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ （世界の移民・難民について考える）	高橋　雄一郎	春秋	木4	2	2	全	120
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ※ (Research interviewing: Intercultural learning ‘at home’)	工藤　和宏	春秋	金1	2	2	全	121
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ※ （Children’s Literatureを研究する）（児童文学を研究する）	片山　亜紀	春秋	金2	2	2	全	122
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ※ （インコタームズ®の貿易条件を学ぶ）	杉山　晴信	春秋	金2	2	2	全	123
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ※ （現代イギリス小説）	東郷　公徳	春秋	金2	2	2	全	124
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ※ (Schooling Around the World)	M. L. ボイル	春秋	金3	2	2	全	125
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ※ (Conflict and Development)	石川　幸子	春秋	金3	2	2	全	126
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ※ （ディズニー映画の文化研究①・②）	板場　良久	春秋	金3	2	2	全	127
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ※ （シェイクスピア）	東郷　公徳	春秋	金3	2	2	全	128

※4年生対象（2・3年生は履修不可）

学科共通科目

科目名(副題)	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
英語の世界Ⅱ	大澤　舞	秋	火1	2	2		129
観光英語Ⅰ	落合　康男	春	火4	2	2	英	130
観光英語Ⅱ	落合　康男	秋	火4	2	2	英	130
通訳案内士の英語Ⅰ	落合　康男	春	水3	2	2	英	131
通訳案内士の英語Ⅱ	落合　康男	秋	水3	2	2	英	131
Business Writing	各担当教員	春		2	2	英	132
Business Writing	各担当教員	秋		2	2	英	132
Advanced Writing(Creative)	B. D. タッチャー	春	火3	2	3	全	133
Advanced Writing(Business)	D. ブラドリー	春	火3	2	3	全	134
Advanced Writing(Business)	D. ブラドリー	秋	火3	2	3	全	134
Advanced Writing(Creative)	E. 本橋	春	水2	2	3	全	135
Advanced Writing(Creative)	J. J. ダゲン	春	木3	2	3	全	136
Advanced Writing(Research)	K. エラ	春	木3	2	3	全	137
Advanced Writing(Research)	K. エラ	秋	木3	2	3	全	137
Advanced Writing(Research)	M. L. ボイル	春	金2	2	3	全	138
Advanced Writing(Research)	M. L. ボイル	秋	金2	2	3	全	138
Advanced Writing(Research)	A. マグズ	春	金4	2	3	全	139
Advanced Writing(Research)	A. マグズ	秋	金4	2	3	全	139
Advanced Writing(Research)	K. フォード	春	金4	2	3	全	140
Advanced Writing(Research)	K. フォード	秋	金4	2	3	全	140
翻訳Ⅰ	片山　亜紀	秋	火2	2	2	全	141
翻訳Ⅰ	高田　宣子	春	火4	2	2	全	142
翻訳Ⅰ	高田　宣子	秋	火4	2	2	全	142
翻訳Ⅰ	山中　章子	春	水2	2	2	全	143
翻訳Ⅰ	山中　章子	秋	水2	2	2	全	143
翻訳Ⅰ	柴田　耕太郎	春	木3	2	2	全	144
翻訳Ⅰ	柴田　耕太郎	秋	木3	2	2	全	144
翻訳Ⅰ	柴田　耕太郎	春	木4	2	2	全	145
翻訳Ⅰ	柴田　耕太郎	秋	木4	2	2	全	145
翻訳Ⅱ	P. ネルム	春	水4	2	2	全	146
翻訳Ⅱ	P. ネルム	秋	水2	2	2	全	146
翻訳Ⅱ	白川　貴子	春	水3	2	2	全	147
翻訳Ⅱ	白川　貴子	秋	水3	2	2	全	147
College Grammar	河原　宏之	春	月3	2	2	全	148
College Grammar	河原　宏之	秋	月3	2	2	全	148
College Grammar	鈴木　英一	春	月3	2	2	全	149
College Grammar	鈴木　英一	秋	月3	2	2	全	149
College Grammar	河原　宏之	春	月5	2	2	全	150
College Grammar	河原　宏之	秋	月5	2	2	全	150
College Grammar	倉林　秀男	春	月5	2	2	全	151
College Grammar	倉林　秀男	秋	月5	2	2	全	151
College Grammar	府川　謹也	春	火3	2	2	全	152
College Grammar	府川　謹也	秋	火3	2	2	全	152
College Grammar	水口　学	春	水3	2	2	全	153
College Grammar	水口　学	秋	水3	2	2	全	153
College Grammar	水口　学	春	水4	2	2	全	154
College Grammar	水口　学	秋	水4	2	2	全	154
College Grammar	田川　憲二郎	春	金3	2	2	全	155
College Grammar	田川　憲二郎	秋	金3	2	2	全	155

学科共通科目

科目名（副題）	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
Communication Skills	K. フォード	春	月1	2	2	全	156
Communication Skills	K. フォード	秋	月1	2	2	全	156
Communication Skills	R. ジョーンズ	春	月1	2	2	全	157
Communication Skills	R. ジョーンズ	秋	月1	2	2	全	157
Communication Skills	N. ハミルトン	春	月5	2	2	全	158
Communication Skills	N. ハミルトン	秋	月5	2	2	全	158
Communication Skills	R. ダラム	春	火1	2	2	全	159
Communication Skills	R. ダラム	秋	火1	2	2	全	159
Communication Skills	R. J. バロウズ	春	火2	2	2	全	160
Communication Skills	R. J. バロウズ	秋	火2	2	2	全	160
Communication Skills	B. D. タッチャー	秋	火3	2	2	全	161
Communication Skills	R. ウィルコックス	春	火5	2	2	全	162
Communication Skills	R. ウィルコックス	秋	火5	2	2	全	162
Communication Skills	J. スネール	春	木2	2	2	全	163
Communication Skills	J. スネール	秋	木2	2	2	全	163
Communication Skills	R. ダラム	春	木2	2	2	全	164
Communication Skills	R. ダラム	秋	木2	2	2	全	164
Communication Skills	R. ダラム	春	木3	2	2	全	165
Communication Skills	R. ダラム	秋	木3	2	2	全	165
Communication Skills	P. マッケビリー	春	金1	2	2	全	166
Communication Skills	P. マッケビリー	秋	金1	2	2	全	166
Discussion	A. ジェネス	秋	月3	2	2	全	167
Discussion	J. E. マジャール	春	火1	2	2	全	168
Discussion	J. E. マジャール	秋	火1	2	2	全	168
Discussion	N. ハミルトン	春	火3	2	2	全	169
Discussion	N. ハミルトン	秋	火3	2	2	全	169
Discussion	E. フランコ	春	木2	2	2	全	170
Discussion	E. フランコ	秋	木2	2	2	全	170
Discussion	S. ペイン	秋	木2	2	2	全	171
Discussion	B. D. タッチャー	春	木3	2	2	全	172
Discussion	B. D. タッチャー	秋	木3	2	2	全	172
Discussion	L. K. ハーキンス	春	金1	2	2	全	173
Discussion	L. K. ハーキンス	秋	金1	2	2	全	173
Discussion	P. マッケビリー	春	金2	2	2	全	174
Discussion	P. マッケビリー	秋	金2	2	2	全	174
Public Speaking Ⅰ	S. ペイン	春	木2	2	2	全	175
Public Speaking Ⅰ	D. マッキー	春	水2	2	2	全	176
Public Speaking Ⅰ	D. マッキー	秋	水2	2	2	全	176
Public Speaking Ⅰ	J. N. ウェンデル	春	月4	2	2	全	177
Public Speaking Ⅱ	J. N. ウェンデル	秋	月4	2	2	全	177
Debate Ⅰ	N. ハミルトン	春	火4	2	2	全	178
Debate Ⅱ	N. ハミルトン	秋	火4	2	2	全	178

学科共通科目

科目名（副題）	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
Academic Lecture	A. ゾーリンジャー	春	火4	2	2	全	179
Academic Lecture	A. ゾーリンジャー	秋	火4	2	2	全	179
Academic Lecture	伊藤　兵馬	春	木4	2	2	全	180
Academic Lecture	伊藤　兵馬	秋	木4	2	2	全	180
Listening and Pronunciation	中田　ひとみ	春	水3	2	2	全	181
Listening and Pronunciation	中田　ひとみ	秋	水3	2	2	全	181
Listening and Pronunciation	中田　ひとみ	春	水5	2	2	全	182
Listening and Pronunciation	中田　ひとみ	秋	水5	2	2	全	182
英語の音声	青柳　真紀子	春	火4	2	2	全	183
英語の音声	青柳　真紀子	秋	火4	2	2	全	183
通訳Ⅰ	柴原　早苗	春	月3	2	2	全	184
通訳Ⅰ	柴原　早苗	秋	月3	2	2	全	184
通訳Ⅰ	柴原　早苗	春	水1	2	2	全	185
通訳Ⅰ	柴原　早苗	秋	水1	2	2	全	185
通訳Ⅰ	柴原　早苗	春	水2	2	2	全	186
通訳Ⅰ	柴原　早苗	秋	水2	2	2	全	186
通訳Ⅱ	柴原　早苗	春	月4	2	2	全	187
通訳Ⅱ	柴原　早苗	秋	月4	2	2	全	187
英語ビジネス・コミュニケーション	野村　誠二	春	火1	2	2	全	188
英語ビジネス・コミュニケーション	野村　誠二	秋	火1	2	2	全	188
英語ビジネス・コミュニケーション	野村　誠二	春	火2	2	2	全	189
英語ビジネス・コミュニケーション	野村　誠二	秋	火2	2	2	全	189
英語ビジネス・コミュニケーション	土川　孝	春	木1	2	2	全	190
英語ビジネス・コミュニケーション	土川　孝	秋	木1	2	2	全	190
英語ビジネス・コミュニケーション	土川　孝	春	木2	2	2	全	191
英語ビジネス・コミュニケーション	土川　孝	秋	木2	2	2	全	191
英語ビジネス・コミュニケーション	杉山　晴信	春	木3	2	2	全	192
英語ビジネス・コミュニケーション	杉山　晴信	秋	木3	2	2	全	192
英語ビジネス・コミュニケーション	杉山　晴信	春	木4	2	2	全	193
英語ビジネス・コミュニケーション	杉山　晴信	秋	木4	2	2	全	193
英語ビジネス・コミュニケーション実務	杉山　晴信	春	金1	2	3	全	194
英語ビジネス・コミュニケーション実務	杉山　晴信	秋	金1	2	3	全	194
メディア英語Ⅰ	A. R. ファルヴォ	春	月3	2	2	全	195
メディア英語Ⅰ	A. R. ファルヴォ	秋	月3	2	2	全	195
メディア英語Ⅰ	A. ジェネス	秋	月4	2	2	全	196
メディア英語Ⅰ	関根　路代	春	水2	2	2	全	197
メディア英語Ⅰ	土川　孝	春	木3	2	2	全	198
メディア英語Ⅰ	土川　孝	秋	木3	2	2	全	198
メディア英語Ⅰ	P. ネルム	春	金1	2	2	全	199
メディア英語Ⅰ	P. ネルム	秋	金1	2	2	全	199
メディア英語Ⅰ	P. ネルム	秋	金2	2	2	全	200
メディア英語Ⅱ	A. R. ファルヴォ	春	月1	2	2	全	201
メディア英語Ⅱ	A. R. ファルヴォ	秋	月1	2	2	全	201
メディア英語Ⅱ	関根　路代	秋	水2	2	2	全	202
メディア英語Ⅱ	P. ネルム	春	金2	2	2	全	203
メディア英語Ⅱ	E. ホフ	春	金3	2	2	全	204
シネマ英語	J. D. コーリス	春	月1	2	2	全	205
シネマ英語	J. D. コーリス	秋	月1	2	2	全	205
シネマ英語	A. ジェネス	秋	月2	2	2	全	206
シネマ英語	高田　宣子	春	火2	2	2	全	207
シネマ英語	高田　宣子	秋	火2	2	2	全	207
シネマ英語	T. ダニー	春	木2	2	2	全	208
シネマ英語	T. ダニー	秋	木2	2	2	全	208

学科専門科目

ツーリズム

科目名（副題）	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
ツーリズム交流論	鈴木　涼太郎	秋	木5	2	2		209
ツーリズム・リスク論	竹田　いさみ	秋	月3	2	2	全	210
ツーリズム文化論	鈴木　涼太郎	秋	火3	2	2	外	211
ツーリズム・マネジメント論	鈴木　涼太郎	春	火3	2	2	外	211
国際会議・イベント事業論	井上　泰日子	秋	月1	2	2	外	212
ツーリズム政策論	井上　泰日子	秋	月3	2	2	外	213
旅行・宿泊産業論	井上　泰日子	秋	木4	2	2	外	214
航空産業論	井上　泰日子	春	月3	2	2	外	214
地域開発論	北野　収	秋	水1	2	2	外・経	215
オルタナティブ・ツーリズム論	須永　和博	秋	木4	2	2	外	216
ツーリズム人類学	須永　和博	春	木4	2	2	外	216
フィールドワーク論	須永　和博	春	水2	2	2	全	217
インターンシップ	井上　泰日子	春	木4	4	2	全	218
ツーリズム特殊講義 （紛争事例から学ぶ旅行契約法入門）	花本　広志	春	月3	2	2	全	219
ツーリズム特殊講義（ツーリズム地誌論）	須永　和博	秋	水2	2	2	全	220
ツーリズム特殊講義（ツーリズム・メディア論）	山口　誠	秋	金1	2	2	全	221
ツーリズム特殊講義（交流文化の思想を読み解く）	山口　誠	秋	水2	2	2	全	222

トランスナショナル文化

科目名（副題）	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
トランスナショナル文化論	高橋　雄一郎	春	木5	2	2		223
トランスナショナル・メディア論	山口　誠	春	木1	2	2	外	224
表象文化論	高橋　雄一郎	春	火4	2	2	外	225
開発文化論	北野　収	春	水1	2	2	外・経	226
トランスナショナル社会学	北野　収	秋	水2	2	2	外	227
食の文化論	北野　収	春	水2	2	2	外	227
トランスナショナル文化特殊講義（パフォーマンス研究）	高橋　雄一郎	秋	木3	2	2	全	228
トランスナショナル文化特殊講義 （東南アジアのナショナリズム、民主主義と平和）	堀　芳枝	春	金1	2	2	全	229
トランスナショナル文化特殊講義 （グローバル経済とジェンダー）	堀　芳枝	秋	水2	2	2	全	229
トランスナショナル文化特殊講義 （グローバリゼーションと子ども）	堀　芳枝	春	水2	2	2	全	230
トランスナショナル文化特殊講義 （「観る」ことの文化史）	山口　誠	秋	木1	2	2	全	231
トランスナショナル文化特殊講義 （シティズンシップ教育論）	花本　広志	秋	木3	2	2	全	232
トランスナショナル文化特殊講義 （移民・難民と日本社会）	高橋　雄一郎	秋	火4	2	2	全	233
英語圏のエリア・スタディーズa	佐藤　唯行	春	火2	2	2	全	234
英語圏のエリア・スタディーズb	P. ネルム	秋	水4	2	2	全	234
ヨーロッパの文化（フランスの美術Ⅰ）	阿部　明日香	春	月3	2	2	全	235
ヨーロッパの文化（フランスの美術Ⅱ）	阿部　明日香	秋	月3	2	2	全	235
ヨーロッパの文化（ドイツ語圏の思想 a）	工藤　達也	春	月3	2	2	全	236
ヨーロッパの文化（ドイツ語圏の思想 b）	工藤　達也	秋	月3	2	2	全	236
ヨーロッパの文化（フランスの音楽Ⅰ）	松橋　麻利	春	木2	2	2	全	237
ヨーロッパの文化（フランスの音楽Ⅱ）	松橋　麻利	秋	木2	2	2	全	237
ヨーロッパの文化（ドイツ語圏の歴史 a）	上村　敏郎	春	金3	2	2	全	238
ヨーロッパの文化（ドイツ語圏の歴史 b）	上村　敏郎	秋	金3	2	2	全	238

学科専門科目

グローバル社会

科目名（副題）	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
グローバル社会論a	竹田　いさみ	春	火3	2	2	全	239
グローバル社会論a	竹田　いさみ	秋	火3	2	2	全	239
グローバル社会論b	水本　義彦	秋	火3	2	2	全	240
グローバル社会論b	水本　義彦	春	火3	2	2	全	240
国際協力論	金子　芳樹	秋	金3	2	2	全	241
国際開発論	竹田　いさみ	春	月3	2	2	全	242
国際交流論	石川　幸子	春	金2	2	2	全	243
国際NGO・ボランティア論	金子　芳樹	秋	火2	2	2	全	244
英語圏の国際関係a	永野　隆行	春	月2	2	2	全	245
英語圏の国際関係b	永野　隆行	秋	月2	2	2	全	245
グローバル・ヒストリーa	水本　義彦	春	木2	2	2	全	246
グローバル・ヒストリーb	水本　義彦	秋	木2	2	2	全	246
グローバル社会特殊講義	永野　隆行	春	火1	2	2	全	247
グローバル社会特殊講義	佐野　康子	秋	木3	2	2	全	247
グローバル社会特殊講義	石川　幸子	秋	金2	2	2	全	248
グローバル社会文献セミナー	佐野　康子	春	木3	2	3	全	249
グローバル社会文献セミナー	石川　幸子	春	金4	2	3	全	250
グローバル社会文献セミナー	石川　幸子	秋	金4	2	3	全	250
ヨーロッパの社会（フランスの政治経済Ⅰ）	廣田　愛理	春	月2	2	2	全	251
ヨーロッパの社会（フランスの政治経済Ⅱ）	廣田　愛理	秋	月2	2	2	全	251
ヨーロッパの社会（ドイツ語圏の政治・経済 a）	大重　光太郎	春	月3	2	2	全	252
ヨーロッパの社会（ドイツ語圏の政治・経済 b）	大重　光太郎	秋	月3	2	2	全	252
ヨーロッパの社会（ドイツ語圏の地域・環境問題 a）	岡村　りら	春	火1	2	2	全	253
ヨーロッパの社会（ドイツ語圏の地域・環境問題 b）	岡村　りら	秋	火1	2	2	全	253
ヨーロッパの社会（フランスの政治経済Ⅰ）	尾玉　剛士	春	木3	2	2	全	254
ヨーロッパの社会（フランスの政治経済Ⅱ）	尾玉　剛士	秋	木3	2	2	全	254

第二外国語（英語プラス1言語）

言語	科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
ドイツ語	ドイツ語(Ia 総合1)	S. ヴィーク	春	火4	1	1	全	255
	ドイツ語(Ib 総合1)	S. ヴィーク	秋	火4	1	1	全	255
	ドイツ語(Ia 総合2)	S. ヴィーク	春	木2	1	1	全	256
	ドイツ語(Ib 総合2)	S. ヴィーク	秋	木2	1	1	全	256
	ドイツ語(Ia 総合3)	辻本　勝好	春	金4	1	1	全	257
	ドイツ語(Ib 総合3)	辻本　勝好	秋	金4	1	1	全	257
	ドイツ語(IIa 総合1)	H. J. トロル	春	月2	1	2	全	258
	ドイツ語(IIb 総合1)	H. J. トロル	秋	月2	1	2	全	258
	ドイツ語(IIa 総合2)	H. J. トロル	春	金2	1	2	全	259
	ドイツ語(IIb 総合2)	H. J. トロル	秋	金2	1	2	全	259
	ドイツ語(IIa 総合3)	井村　行子	春	火2	1	2	全	260
	ドイツ語(IIb 総合3)	井村　行子	秋	火2	1	2	全	260
	ドイツ語(IIIa 応用)	S. メルテンス	春	火1	1	3	全	261
	ドイツ語(IIIb 応用)	S. メルテンス	秋	火1	1	3	全	261
フランス語	フランス語(Ia 総合1)	横地　卓哉	春	月1	1	1	全	262
	フランス語(Ib 総合1)	横地　卓哉	秋	月1	1	1	全	262
	フランス語(Ia 総合2)	D. ベルテ	春	金4	1	1	全	263
	フランス語(Ib 総合2)	D. ベルテ	秋	金4	1	1	全	263
	フランス語(Ia 応用)	林　ゆき	春	木2	1	1	全	264
	フランス語(Ib 応用)	林　ゆき	秋	木2	1	1	全	264
	フランス語(IIa 総合1)	上杉　未央	春	金2	1	2	全	265
	フランス語(IIb 総合1)	上杉　未央	秋	金2	1	2	全	265
	フランス語(IIa 総合2)	F. X. レット	春	金3	1	2	全	266
	フランス語(IIb 総合2)	F. X. レット	秋	金3	1	2	全	266
	フランス語(IIa 応用)	竹内　久雄	春	月2	1	2	全	267
	フランス語(IIb 応用)	竹内　久雄	秋	月2	1	2	全	267
	フランス語(IIIa 応用)	C. ラビニャス	春	木1	1	3	全	268
	フランス語(IIIb 応用)	C. ラビニャス	秋	木1	1	3	全	268
スペイン語	スペイン語(Ia 総合1)	荒沢　千賀子	春	金4	1	1	全	269
	スペイン語(Ia 総合1)	矢田　陽子	春	火4	1	1	全	269
	スペイン語(Ib 総合1)	荒沢　千賀子	秋	金4	1	1	全	269
	スペイン語(Ib 総合1)	矢田　陽子	秋	火2	1	1	全	269
	スペイン語(Ia 総合2)	櫻井　道子	春	木2	1	1	全	270
	スペイン語(Ia 総合2)	髙橋　睦	春	金4	1	1	全	270
	スペイン語(Ib 総合2)	櫻井　道子	秋	木2	1	1	全	270
	スペイン語(Ib 総合2)	髙橋　睦	秋	金4	1	1	全	270
	スペイン語(Ia 会話)	G. ベギリスタイン	春	月1	1	1	全	271
	スペイン語(Ia 会話)	P. ラゴ	春	月1	1	1	全	271
	スペイン語(Ib 会話)	G. ベギリスタイン	秋	月1	1	1	全	271
	スペイン語(Ib 会話)	P. ラゴ	秋	月1	1	1	全	271
	スペイン語(IIa 会話1)	C. ガリード	春	金2	1	2	全	272
	スペイン語(IIa 会話1)	C. ガリード	春	火2	1	2	全	272
	スペイン語(IIb 会話1)	C. ガリード	秋	金2	1	2	全	272
	スペイン語(IIb 会話1)	C. ガリード	秋	火2	1	2	全	272
	スペイン語(IIa 会話2)	P. ラゴ	春	月2	1	2	全	273
	スペイン語(IIa 会話2)	G. ベギリスタイン	春	金3	1	2	全	273
	スペイン語(IIb 会話2)	P. ラゴ	秋	月2	1	2	全	273
	スペイン語(IIb 会話2)	G. ベギリスタイン	秋	金3	1	2	全	273
	スペイン語(IIa 総合)	髙橋　睦	春	金3	1	2	全	274
	スペイン語(IIa 総合)	北岸　団	春	月2	1	2	全	274
	スペイン語(IIb 総合)	髙橋　睦	秋	金3	1	2	全	274
	スペイン語(IIb 総合)	北岸　団	秋	月2	1	2	全	274
	スペイン語(IIIa 応用)	荒沢　千賀子	春	木1	1	3	全	275
	スペイン語(IIIa 応用)	高際　裕哉	春	木1	1	3	全	275
	スペイン語(IIIb 応用)	荒沢　千賀子	秋	木1	1	3	全	275
	スペイン語(IIIb 応用)	高際　裕哉	秋	木1	1	3	全	275

第二外国語（英語プラス1言語）

言語	科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
中国語	中国語(Ia 講読・文法)	周　俊宇	春	木2	1	1	全	276
	中国語(Ib 講読・文法)	周　俊宇	秋	木2	1	1	全	276
	中国語(Ia 会話1)	張　亜紅	春	月1	1	1	全	277
	中国語(Ib 会話1)	張　亜紅	秋	月1	1	1	全	277
	中国語(Ia 会話2)	蔡　暁軍	春	金4	1	1	全	278
	中国語(Ib 会話2)	蔡　暁軍	秋	金4	1	1	全	278
	中国語(IIa 講読・文法)	関　久美子	春	火2	1	2	全	279
	中国語(IIb 講読・文法)	関　久美子	秋	火2	1	2	全	279
	中国語(IIa 会話1)	星野　芳欣	春	月2	1	2	全	280
	中国語(IIb 会話1)	星野　芳欣	秋	月2	1	2	全	280
	中国語(IIa 会話2)	秦　敏	春	金2	1	2	全	281
	中国語(IIb 会話2)	秦　敏	秋	金2	1	2	全	281
	中国語(IIIa 応用)	馮　曰珍	春	水4	1	3	全	282
	中国語(IIIb 応用)	馮　曰珍	秋	水4	1	3	全	282
韓国語	韓国語(Ia 総合1)	森　勇俊	春	月1	1	1	全	283
	韓国語(Ib 総合1)	森　勇俊	秋	月1	1	1	全	283
	韓国語(Ia 総合2)	柳　蓮淑	春	火4	1	1	全	284
	韓国語(Ib 総合2)	柳　蓮淑	秋	火4	1	1	全	284
	韓国語(Ia 応用)	朴　鍾厚	春	金4	1	1	全	285
	韓国語(Ib 応用)	朴　鍾厚	秋	金4	1	1	全	285
	韓国語(IIa 総合1)	柳　蓮淑	春	火2	1	2	全	286
	韓国語(IIb 総合1)	柳　蓮淑	秋	火2	1	2	全	286
	韓国語(IIa 総合2)	朴　鍾厚	春	月2	1	2	全	287
	韓国語(IIb 総合2)	朴　鍾厚	秋	月2	1	2	全	287
	韓国語(IIa 応用)	白　寅英	春	金3	1	2	全	288
	韓国語(IIb 応用)	白　寅英	秋	金3	1	2	全	288
	韓国語(IIIa 応用)	羅　一等	春	火1	1	3	全	289
	韓国語(IIIb 応用)	羅　一等	秋	火1	1	3	全	289

外国語学部共通科目

科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
総合講座	山口　誠	春	水3	2	1	養・経・法	291
総合講座	堀　芳枝	秋	水3	2	1	養・経・法	291
総合講座	永本　哲也	春	月3	2	1	養・経・法	292
総合講座	有信　真美菜	秋	木2	2	1	養・経・法	292
情報科学概論a	呉　浩東	春	月2	2	1	養・経・法	293
情報科学概論b	休講						
(入門)情報科学各論	各担当教員						
(情報処理演習)[総合]	金子　憲一	春	月3	2	1	養・経・法	294
(情報処理演習)[総合]	金子　憲一	春	月4	2	1	養・経・法	294
(情報処理演習)[総合]	金子　憲一	春	木3	2	1	養・経・法	294
(情報処理演習)[英語]	黄　海湘	春	水5	2	1	養・経・法	295
(情報処理演習)[英語]	黄　海湘	秋	水5	2	1	養・経・法	295
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	金井　満	春	火2	2	1	養・経・法	296
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中　善英	春	金2	2	1	養・経・法	296
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中　善英	春	金3	2	1	養・経・法	296
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	金井　満	秋	火2	2	1	養・経・法	296
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中　善英	秋	金2	2	1	養・経・法	296
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中　善英	秋	金3	2	1	養・経・法	296
(応用)情報科学各論	各担当教員						
(Excel・プレゼンテーション中級)	松山　恵美子	秋	月2	2	1	養・経・法	297
(Excel・プレゼンテーション中級)	金子　憲一	秋	木3	2	1	養・経・法	297
(プレゼンテーション中級)	金子　憲一	秋	月4	2	1	養・経・法	298
(Word中級)	松山　恵美子	春	月1	2	1	養・経・法	299
(Word中級)	松山　恵美子	秋	月1	2	1	養・経・法	299
(Word中級)	金子　憲一	秋	月3	2	1	養・経・法	299
(Word中級)	金子　憲一	秋	月5	2	1	養・経・法	299
(Office中級)	松山　恵美子	春	月2	2	1	養・経・法	300
(Office中級)	休講						
(言語情報処理1)【2015年度以前入学者】/(コーパス言語学a)【2016年度以降入学者】	休講						
(言語情報処理2)【2015年度以前入学者】/(コーパス言語学b)【2016年度以降入学者】	休講						
(HTML)情報科学各論	各担当教員						
(HTML初級)	金子　憲一	春	月5	2	1	養・経・法	301
(HTML初級)	金子　憲一	春	木4	2	1	養・経・法	302
(HTML中級)	金子　憲一	秋	木4	2	1	養・経・法	302
経済原論a	休講						
経済原論b	休講						
社会心理学a	休講						
社会心理学b	休講						

※定員のある科目はオンライン登録による抽選となります。必ず抽選結果を確認してください。
※「情報科学各論(情報処理演習)」は言語が異なる場合でも重複履修はできません。

2019 年度

交流文化学科シラバス

19 年度	交流文化の世界（2019 年度入学者用）	担当者	北野　収

講義目的、講義概要	授業計画
現代においては、国境を越えて移動する人とともに、国や民族に固有のものと思われがちだった文化も交流して変化しつねに新しく創造されています。本授業では、そのような「交流文化」について、言語（英語、プラスワン言語）、および、ツーリズム。トランスナショナル文化、グローバル社会の3つの専門分野の学びの入門編として、国家や民族、宗教や言語の壁を超えて交流する文化と社会を多角的に理解するために必要な知識や視点を学びます。交流文化学科の学びにおいて、語学や専門各分野は単独の領域として存在するのではなく、相互に重なり合っています。このことを意識しつつ、本授業は各教員によるオムニバス形式で行います。	① 交流文化の学びへようこそ　北野 ② 人と言語（ことば）　大澤 ③ メディアと現代社会　山口 ④ Japanese Concepts of Religion As Seen Through Manga　ボンド ⑤ 交渉、法、シティズンシップ　花本 ⑥ 世界遺産・人の移動・ツーリズム　鈴木 ⑦ 人の移動とオーストラリア　永野 ⑧ 移民難民と日本社会　高橋 ⑨ 地域とアート―地域づくりの新たな潮流　須永 ⑩ 国際理解教育入門　玉井 ⑪ 今日のご飯は誰がつくるの？―女性労働の有償化と男性の家事育児参加、そして外国人家事労働者の導入をめぐって　堀 ⑫ 国際協力は誰のため、何のためにするの？―SDGs と私たち　北野 ⑬ 大学の勉強は社会で役に立つのか？－もちろん役に立つ！　井上 ⑭ まとめ　北野

到達目標	交流文化学科における学びの入門編として、国家や民族、宗教や言語の壁を超えて交流する文化と社会を理解するために必要な知識や視点を身につけ多角的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	各回の授業内容を自分なりに消化し、交流文化の学びについての自分なりのイメージをもつこと。
テキスト	特に定めない。
参考文献	適宜、授業内に各教員から提示。
評価方法	小テスト 100%（各回の最後に小テストを行い、その平均点で評価） ただし、欠席 4 回以上は、評価対象外とする。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

19年度	交流文化概論ｉ（2019年度入学者用）	担当者	鈴木　涼太郎

講義目的、講義概要	授業計画
ツーリズムによる国際的な人間の流動は、文化・社会・経済の幅広い領域に関る複合的な現象である。講義では、まずツーリズムに関る基礎的な用語や概念について解説する。次に、人類の移動と交流の歴史について、とくに産業革命後のイギリスにおける鉄道網の発達と旅行業の成立に焦点を当てながら概説する。そして現代ツーリズムを支える諸産業・メディアについて具体的な事例をもとに講義を行った後、ツーリズムが地域にもたらす経済的・社会的・文化的なインパクトの諸相について解説する。その上で、異文化理解の場としてのツーリズムの在り方について履修者間のディスカッションも交えながら考察を行う。	第１回：オリエンテーション 第２回：ツーリズムとは何か：諸概念の整理 第３回：人類の移動と交流の歴史①　：古代エジプトから～近世の西欧社会 第４回：人類の移動と交流の歴史②　：イギリスにおける産業革命と鉄道網の発展 第５回：人類の移動と交流の歴史③　：トマス・クックと近代旅行業の成立 第６回：ツーリズムを支える諸産業①：帝国主義とホテルのグローバル化 第７回：ツーリズムを支える諸産業②：航空機の登場とマス・ツーリズム 第８回：ツーリズムを支える諸産業③：ツーリズムにおける異文化理解とメディア 第９回：ツーリストと観光行動①　：ツーリストのまなざし論 第10回：ツーリストと観光行動②　：ツーリストは真正性を探求しているのか 第11回：ツーリストと観光行動③　：ツーリストが求める日常と非日常をめぐる矛盾 第12回：ツーリズムのインパクト①　：経済効果 第13回：ツーリズムのインパクト②　：社会的・文化的効果 第14回：ツーリズムのインパクト③　：ホストとゲストの文化的コミュニケーション

到達目標	本講義は、ツーリズムに関る基礎的な知識や概念を身に着けることを目的とする。なかでもツーリズムが経済的な現象であるだけでなく、人々の交流を通じて新たな文化を創出する媒介となるとともに文化の交流を促進する役割を有していることを理解し、ツーリズムを通じた異文化理解についての視座を習得することを目指す。
事前・事後学修の内容	授業内の指示に従い各自が予習復習を行うこと。
テキスト	新現代観光総論（前田勇編著、学文社）
参考文献	観光学入門（岡本伸之編、有斐閣）、観光文化学（山下晋司編、新曜社）、観光学ガイドブック（大橋昭一ほか編、ナカニシヤ出版）
評価方法	授業への参加／講義内小課題（20%）、期末試験（80%）

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13～18 年度	交流文化概論 i （2013～2018 年度入学者用）	担当者	北野　収

講義目的、講義概要	授業計画
現代においては、国境を越えて移動する人とともに、国や民族に固有のものと思われがちだった文化も交流して変化しつねに新しく創造されています。本授業では、そのような「交流文化」について、言語（英語、プラスワン言語）、および、ツーリズム。トランスナショナル文化、グローバル社会の3つの専門分野の学びの入門編として、国家や民族、宗教や言語の壁を超えて交流する文化と社会を多角的に理解するために必要な知識や視点を学びます。交流文化学科の学びにおいて、語学や専門各分野は単独の領域として存在するのではなく、相互に重なり合っています。このことを意識しつつ、本授業は各教員によるオムニバス形式で行います。	① 交流文化の学びへようこそ　北野 ② 人と言語（ことば）　大澤 ③ メディアと現代社会　山口 ④ Japanese Concepts of Religion As Seen Through Manga　ボンド ⑤ 交渉、法、シティズンシップ　花本 ⑥ 世界遺産・人の移動・ツーリズム　鈴木 ⑦ 人の移動とオーストラリア　永野 ⑧ 移民難民と日本社会　高橋 ⑨ 地域とアート―地域づくりの新たな潮流　須永 ⑩ 国際理解教育入門　玉井 ⑪ 今日のご飯は誰がつくるの？―女性労働の有償化と男性の家事育児参加、そして外国人家事労働者の導入をめぐって　堀 ⑫ 国際協力は誰のため、何のためにするの？―SDGs と私たち　北野 ⑬ 大学の勉強は社会で役に立つのか？－もちろん役に立つ！　井上 ⑭ まとめ　北野

到達目標	広範な領域にわたるツーリズム関連科目を学ぶ者の入門編として、ツーリズムに関する基礎知識を習得し、人間の基本的欲求としての旅と観光行為の意味を分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	各回の授業内容を自分なりに消化し、交流文化の学びについての自分なりのイメージをもつこと。
テキスト	特に定めない。
参考文献	適宜、授業内に各教員から提示。
評価方法	小テスト 100%（各回の最後に小テストを行い、その平均点で評価） ただし、欠席 4 回以上は、評価対象外とする。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	交流文化概論 ii	担当者	須永　和博／山口　誠

講義目的、講義概要	授業計画
本授業では、英語圏（英国、米国、豪州など）をはじめ、国境を越えた人やモノの移動が加速化するなかで生じる様々な異文化接触や社会・文化の変容のあり様について、体験的な理解を目指します。 前半は主に文化人類学を手掛かりに、文化相対主義やフィールドワークの手法、多文化主義など、現代世界の文化の動態を理解するための基本的視点や方法論について学習します。同時に、様々な地域の民族誌的事例を取り上げることで、世界の文化的多様性についても、体験的かつ実証的な理解を深め、英語圏のフィールドにおける異文化理解の方法を検討します。 後半は、社会学の考え方を土台にして「異文化」という思考そのものを再考し、新たな「交流の文化」を目指すため、「交流」「文化」「国家」「社会」など重要概念の成り立ちと、その誕生の理由を歴史的に理解し、異文化理解やコミュニケーションに必要な知見を学びます。 なお、英語圏の出身者や経験者と実際に交流するプログラムを実施し、異文化をより立体的に理解することを試みます。	第１回：英語圏の歴史・社会・文化と異文化理解 ―自民族中心主義と文化相対主義（担当：須永和博） 第２回：フィールドワークの手法と異文化コミュニケーション（担当：須永和博） 第３回：異文化接触と社会・言語・文化の変容１ ―ピジンとクレオール（担当：須永和博） 第４回：異文化接触と社会・言語・文化の変容２ ―米国における日本文化の消費（担当：須永和博） 第５回：移民と多文化主義１―米国の事例から（担当：須永和博） 第６回：移民と多文化主義２―日本の事例から（担当：須永和博） 第７回：グローバル化とイスラム ―東南アジアにおけるハラール産業（担当：須永和博） 第８回：英語圏における「異文化」と「多文化」（担当：山口誠） 英語圏の出身者や経験者との交流プログラム① 第９回：「英語」の体験的理解 ――実践的カルチュラル・スタディーズ再考（担当：山口誠） 第１０回：「英語」という思想――近代日本における「英語」の変遷（担当：山口誠） 第１１回：異文化理解の体験的理解――米国グアム島の事例から（担当：山口誠） 第１２回：「交流」は可能か――英語圏の観光ガイドブックを事例に（担当：山口誠） 第１３回：「社会」とは――個人、市民、国民、消費者の国際比較（担当：山口誠） 第１４回：英語圏の歴史、社会、文化とモビリティ ――メディアと異文化理解（担当：山口誠） 英語圏の出身者や経験者との交流プログラム②

到達目標	「トランスナショナル（越境的）」な視点で英語圏を中心とする現代の歴史、社会、文化を捉える能力や態度は、私たちにとっての重要なリテラシーの１つです。本授業では「文化」「国家」「民族」など自明とされてきた前提を離れ、複眼的な視点から現代世界の動態について考えるための基本的な視座を身につけることを目指します。
事前・事後学修の内容	各回の授業で示す事例や重要概念について図書館などでさらに調べ、より深く学ぶこと。
テキスト	なし。
参考文献	「共感」へのアプローチ（渥美一弥著、春風社）、グアムと日本人（山口誠著、岩波書店）
評価方法	定期試験（100%）

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	交流文化概論 iii	担当者	堀　芳枝

講義目的、講義概要	授業計画
交流文化学科の専門科目分野のひとつである「グローバル社会」領域の導入科目です。当該分野には多様かつ有益な科目群が用意されていますが、この概論 iii は「交流文化学科での学び」という文脈性を意識して、国際関係、国際政治、国際開発、平和学等の基礎知識を習得することを目的とします。 私たちが生きるグローバル化された社会は、国際機関、各国政府、企業やNGO等非国家行為主体、市民社会等の様々な行為主体の相互交渉、条約等の決まり事（制度的枠組み）によって「運営」されています。にもかかわらず、戦争、紛争、貧困、環境、人権等の問題は後をたちません。 グローバル社会に生きる一員として、これらの問題群について主体的に思考し分析するための基礎的要素を養います。	1. ガイダンス（予習・復習など） 2. 国際関係における主要なアクター 3. 現実主義（リアリズム） 4. 自由主義（リベラリズム） 5. 構成主義（コンストラクティビズム） 6. マルクス主義的アプローチ 7. 平和研究・平和学 8. 国際関係論におけるジェンダー 9. 国際政治とNGO 10. 国際文化論 11. トランスナショナル―移民・難民を中心に 12. 国連と人権 13. 新自由主義とグローバリゼーション 14. 今学期のまとめと質疑応答

到達目標	国際関係研究の役割、および国際関係時事に関する基礎知識を習得し、グローバル社会を分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	資料の指定された部分を事前に読むこと、授業中にレビューポイントが示された場合は、それに従って復習し、理解を深める（しょうさいは全体ガイダンスにおいて説明する）。
テキスト	堀芳枝編『学生のためのピース・ノート 2』コモンズ、2018 年（第二版）。
参考文献	授業で指示。
評価方法	リアクションペーパー（大福帳）15%、期末テスト 85%。ただし、欠席 4 回以上は対象外。

13 年度以降	基礎演習 I	担当者	堀　芳枝

講義目的、講義概要	授業計画
大学では受験勉強のように知識をつめこむのではなく、自分で疑問に思った社会の常識や規範が「本当にそうなのか」を考え、文献調査やフィールドワークをしながら、自分の価値観・ひいては人生観を作る場所です。自立して考え、行動する大人になるためにも、大学で学ぶ土台をこの授業で作っていけたらと思います。 方法としては、まずみなさんの関心を聞いたうえでテキストを輪読しながら、レジメの作り方、論点の出し方、プレゼンテーションについて学びます。また、自分とは異なるバックグラウンドで育ったほかの学生からの意見を帰国ことで、多様な意見や価値を知り、自分の考えを相対化させていけるように指導していきます。 また、個人の関心にそって、レポート作成にもチャレンジします。	1. ガイダンスおよび自己紹介など 2. 図書館研修 3. レジメ、レポート、論文の違いなど 4. レジメを作成・発表・討論：グループ1 5. レジメを作成・発表・討論：グループ2 6. レジメを作成・発表・討論：グループ3 7. レジメを作成・発表・討論：グループ4 8. レジメを作成・発表・討論：グループ5 9. レジメを作成・発表・討論：グループ6 10. レジメを作成・発表・討論：グループ7 11. ゼミ論テーマ発表：グループA 12. ゼミ論テーマ発表：グループB 13. ゼミ論テーマ発表：グループC 14. ゼミ論テーマ発表：グループD

到達目標	レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方といった、基礎的なスタディー・スキルを習得し、実践できるようにする。
事前・事後学修の内容	予習はテキストを事前に読んで授業に臨むこと。復習は授業で指示された課題を行うこと。
テキスト	授業で指示。
参考文献	授業で指示。
評価方法	授業参加・発言など 40%、レジメ発表 30%、レポート課題 30%。

13 年度以降	基礎演習 II	担当者	堀　芳枝

講義目的、講義概要	授業計画
2年次以降の専門科目を受講するにあたっての基礎知識を補強していきたいと思います。そのため、ツーリズム、トランスナショナルやグローバリゼーションなどに関する分野の本を輪読していきます。内容については、参加者の問題意識を大事にして、それを伸ばせるように選書していきたいと思います。また、自分の気になるツーリズムや国際社会の問題について調べ、発表し、まとめる力も身につけるための時間も設定します。	1. ガイダンス（予習・復習について） 2. 専門書の輪読①　グループ1 3. 専門書の輪読②　グループ2 4. 専門書の輪読③　グループ3 5. 専門書の輪読④　グループ4 6. 専門書の輪読⑤　グループ5 7. 専門書の輪読⑥　グループ6 8. 専門書の輪読⑦　グループ7 9. 専門書の輪読⑧　グループ8 10. 専門書の輪読⑨　グループ9 11. 研究発表①　グループA 12. 研究発表②　グループB 13. 研究発表③　グループC 14. 研究発表④　グループD

到達目標	「基礎演習 I 」の学習成果のうえに、レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方といった、基礎的なスタディー・スキルを向上させ、さらに実践できるようにする。
事前・事後学修の内容	予習はテキストを事前に読んで授業に臨むこと。復習は授業で指示された課題をおこなうこと。
テキスト	授業で指示します。
参考文献	授業で指示します。
評価方法	授業参加・発言など 40%、レジメ発表 30%、レポート課題 30%。

13 年度以降	基礎演習 I	担当者	永野　隆行

講義目的、講義概要	授業計画
大学での「学び」と何でしょうか。それは高校とは違い、学生の自発的、積極的な取り組みが求められるものです。大学生は、ただ教師から与えられ、教えられる知識、そしてそれをもとに出来上がっている世界を盲目的に受け入れるのではなく、それらを「批判的」に受け止める姿勢を持つことが大切です。 そして大学での「学び」を通じて、これまで当たり前だ、常識だと教えられてきた世界に疑問を持ち、真実とは何かを見極める力を身につけて欲しいと思っています。大学での「学び」を通じて獲得した能力や姿勢は、卒業後の人生にとっても大いに役立つものです。 授業では、テキスト、もしくはコピー資料を使用しながら、大学で講義を聞くこと、疑問に思うこと、調べること、読むこと、考えをまとめること、書くこと、発表することとは何かを理解し、秋学期の実践編に備えます。この授業を通じて、これから3ないし4年間の大学生活が、少しでも有意義なものとなるように願っています。 なお4月、5月、6月、7月にそれぞれ課題を設定し、レポートの提出を義務づけます。	1. ガイダンス～この授業の進め方に関するオリエンテーション 2. 図書館の利用について 3. テキストについての講義と討論①＆新聞切り抜き発表① 4. テキストについての講義と討論②＆新聞切り抜き発表② 5. レジメ作成指導＆新聞切り抜き発表③ 6. テキストについての講義と討論③＆新聞切り抜き発表④ 7. テキストについての講義と討論④＆新聞切り抜き発表⑤ 8. 草加国際村一番地レポート発表会＆新聞切り抜き発表⑥ 9. テキストについての講義と討論⑤＆新聞切り抜き発表⑦ 10. テキストについての講義と討論⑥＆新聞切り抜き発表⑧ 11. レポート読み比べ 12. 個人研究テーマ指導 13. 個人研究テーマ発表① 14. 個人研究テーマ発表②

到達目標	レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方といった、基礎的なスタディー・スキルを習得し、実践できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキスト指定箇所を事前に読み、疑問点については、他の文献などを参考にクリアにしておくこと。また授業後は、学んだことを改めて思い起こして、内容を整理しておくこと。
テキスト	佐藤望、湯川武ほか『アカデミック・スキルズ(第 2 版)――大学生のための知的技法入門』慶應義塾大学出版会、2012 年。
参考文献	第一回目のガイダンスで参考文献リストを配布予定。
評価方法	授業の参加度（40%）、課題の提出状況（60%）による。なお欠席 4 回以上で「不可」。なお遅刻 2 回で欠席 1 回と計算します。

13 年度以降	基礎演習 II	担当者	永野　隆行

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期は、春学期に学んだことをもとにより実践に近い形で授業を進めます。自ら問題提起を行い、それについて調査し、結果を口頭で発表し、最終的に文章にしたためます。大学生としてふさわしい一連の知的作業を行います。	1. ガイダンス～この授業の進め方に関するオリエンテーション 2. 読書レポートの発表① 3. 読書レポートの発表② 4. 読書レポートの発表③ 5. 個人研究テーマ発表ガイダンス 6. 個人研究発表と質疑応答①＆新聞切り抜き発表① 7. 個人研究発表と質疑応答②＆新聞切り抜き発表② 8. 個人研究発表と質疑応答③＆新聞切り抜き発表③ 9. 個人研究発表と質疑応答④＆新聞切り抜き発表④ 10. 個人研究発表と質疑応答⑤＆新聞切り抜き発表⑤ 11. 個人研究発表と質疑応答⑥＆新聞切り抜き発表⑥ 12. 個人研究発表と質疑応答⑦＆新聞切り抜き発表⑦ 13. 個人研究発表と質疑応答⑧＆新聞切り抜き発表⑧ 14. 最終レポート作成指導

到達目標	「基礎演習 I 」の学習成果のうえに、レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方といった、基礎的なスタディー・スキルを向上させ、さらに実践できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキスト指定箇所を事前に読み、疑問点については、他の文献などを参考にクリアにしておくこと。また授業後は、学んだことを改めて思い起こして、内容を整理しておくこと。
テキスト	佐藤望、湯川武ほか『アカデミック・スキルズ(第 2 版)――大学生のための知的技法入門』慶應義塾大学出版会、2012 年。
参考文献	第一回目のガイダンスで参考文献リストを配布予定。
評価方法	①読書レポート（10 点）、②読書レポート発表（10 点）、③個人研究テーマ発表（30 点）、④個人研究レポート（40 点）、⑤授業への参加度・貢献度（10 点）

13 年度以降	基礎演習 I	担当者	山口　誠

講義目的、講義概要	授業計画
この演習では、大学生に求められる基本的な考え方とスキルを学びます。第一に、「勉強」と「研究」は異なるため、大学では「研究」の考え方を習得し、卒業後も持続して成長できる「思考」の基盤をつくることを目指して、その基本的な部分を本演習で身につけます。 第二に、大学レベルの「読む」「書く」「聞く」「話す」の4スキルを意識し、それぞれの具体的な技法を実践的な課題によって学びます。たとえば本やデータを「読む」ことは、誰でも自然とできるわけではなく、大学で学ぶべきレベルの「読み方」と、それを「思考」につなげる具体的なスキルを習得する必要があります。他の「書く」「聞く」「話す」も同じであり、本演習ではレポートの作成・情報の収集方法・グループ討論・プレゼンテーションの方法などアカデミック・スキルの基礎を実践的に学びます。 第三に、春学期では「書く」ことを重要テーマとし、作文などの文章執筆によって「思考」を明確にし、また深めていく方法を重点的にトレーニングして、秋学期の演習につなげます。	1. ガイダンス：授業の進め方について、自己紹介 2. クリティカル・リーディング①：読解の基礎 3. クリティカル・リーディング②：「比較」と「連想」 4. メディア・リテラシー①：「読む」と「読み解く」 5. 文章実習①：「書く」とは何か 6. 文章実習②：ノートテイキングと「聞く」思考 7. メディア・リテラシー②：「伝える」とは何か 8. 文章実習③：作文の合評会（「良い文章」とは？） 9. 文章実習④：「読む」と「書く」の連動に向けて 10. レジュメを作る①：レポートとレジュメの違い 11. レジュメを作る②：全員で同じ文献のレジュメを作る 12. 図書館の活用方法（本と論文だけではない図書館術） 13. グループ研究①（英文記事から思考する） 14. グループ研究②（口頭プレゼンテーションの基礎）

到達目標	レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方といった、基礎的なスタディー・スキルを習得し、実践できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前の予習と課題に取り組み、図書館などを活用して主体的に予習と復習に取り組んでください。 詳細は初回のガイダンスで指示します。
テキスト	世界思想社編集部『大学生　学びのハンドブック（4 訂版）』世界思想社、2018 年
参考文献	授業で適宜紹介します。
評価方法	授業の参加度（40%）、課題の提出状況（40%））、期末レポート（20%）により総合的に評価します。 なお 4 回以上の欠席（遅刻 2 回で欠席 1 回に換算）で単位認定資格を失います。

13 年度以降	基礎演習 II	担当者	山口　誠

講義目的、講義概要	授業計画
この演習では、春学期に学んだ「読む」「書く」「聞く」「話す」の4スキルを高度化し、さらに「調べる」と「考える」の2スキルを加えて、2年次以降の大学生活において自由に思考するための基礎知力を習得し養成することを目指します。 具体的には、①アクティブ・リーディングの技法を学び、②それをグループで選定した文献において実践し、③レジュメと口頭でプレゼンテーションして他の履修者と討論し、④さらに関連する論や情報を調べてコンパクトな研究発表に挑戦する、というプログラムによって、上記の6スキルを組み合わせて実践することに取り組みます。 また春学期の「書く」ことに引き続き、秋学期では「映像分析の方法（基礎）」や「取材の方法（思考に結び付ける取材の方法）」を取り入れ、「書く」ことで「思考」するスキルの応用と高度化にも試みます。 春学期と比べてグループでの自由研究が増えるため、授業時間外での研究活動を積極的におこなうことが求められます。	1. アクティブ・リーディング①：批判的思考の基礎 2. 「調べる」と「考える」：要約、解説、論説の検討 3. アクティブ・リーディング②：批判的思考の応用 4. アクティブ・リーディング③：グループ研究の方法 5. 研究プレゼンテーションと討論①グループA&B 6. 研究プレゼンテーションと討論②グループC&D 7. 研究プレゼンテーションと討論③グループE&F 8. 研究プレゼンテーションと討論④グループG&H 9. 研究プレゼンテーションと討論⑤グループI&J 10. 映像分析の方法（テレビCM、短編映画） 11. 自由研究発表と討論①グループA, B, C, D 12. 自由研究発表と討論②グループE, F, G 13. 自由研究発表と討論③グループH, I, J 14. 自由研究発表と討論④まとめと講評

到達目標	「基礎演習 I 」の学習成果のうえに、レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方といった、基礎的なスタディー・スキルを向上させ、さらに実践できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前の予習と課題に取り組み、図書館などを活用して主体的に予習と復習に取り組んでください。 詳細は初回のガイダンスで指示します。
テキスト	特に指定しません。
参考文献	授業で適宜紹介します。
評価方法	授業の参加度（40%）、課題の提出状況（40%））、期末レポート（20%）により総合的に評価します。 なお 4 回以上の欠席（遅刻 2 回で欠席 1 回に換算）で単位認定資格を失います。

13 年度以降	基礎演習 I	担当者	鈴木　涼太郎

講義目的、講義概要	授業計画
大学での学びに必要とされる基本的な知識やスキルを習得する。また大学で学んだことが将来とどのように関連するのかについて各自が考え、学生生活における学習活動をより有意義にすることを目指す。 春学期の基礎演習では、講義と演習を織り交ぜながら図書館を利用した文献検索の方法や、レポートやレジュメなどを用いた研究発表などの基本的な作法について学ぶ。授業順は使用施設の都合などにより入れ替わることがある。	1.　ガイダンス 2.　大学での学びのマナー 3.　大学での学びとキャリア 4.　研究の倫理 5.　図書館ガイダンス 6.　クリティカルリーディングとは 7.　レジュメの作り方 8.　レポートの書き方 9.　レジュメを使った発表①：Aグループ 10.　レジュメを使った発表②：Bグループ 11.　レジュメを使った発表③：Cグループ 12.　レジュメを使った発表④：Dグループ 13.　レジュメを使った発表⑤：Eグループ 14.　まとめ

到達目標	レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方といった、基礎的なスタディー・スキルを習得し、実践できるようにする。
事前・事後学修の内容	発表準備には授業外で図書館などを活用した学修が必要となる。授業内での指示に従い各自が予習復習を行うこと。
テキスト	指定しない。
参考文献	授業内で紹介する。
評価方法	授業内小課題 60%　期末課題 40% 4 回以上の欠席、常習的な遅刻は単位認定の資格を失う。

13 年度以降	基礎演習 II	担当者	鈴木　涼太郎

講義目的、講義概要	授業計画
大学での学びに必要とされる基本的な知識やスキルを習得する。また大学で学んだことが将来とどのように関連するのかについて各自が考え、学生生活における学習活動をより有意義にすることを目指す。 秋学期の基礎演習では、春学期の作業を踏まえながらグループごとに課題を設定し、研究プロジェクトに取り組む。文献・資料の収集からプレゼンテーションの準備までを行い、クラス内で発表を行う。	1.　ガイダンス 2.　研究テーマの設定 3.　研究のための調査 4.　研究のためのプレゼンテーション 5.　文献発表①：Aグループ 6.　文献発表②：Bグループ 7.　文献発表③：Cグループ 8.　文献発表④：Dグループ 9.　文献発表⑤：Eグループ 10.　課題発表①：Aグループ 11.　課題発表②：Bグループ 12.　課題発表③：Cグループ 13.　課題発表④：Dグループ 14.　課題発表⑤：Eグループ

到達目標	「基礎演習 I 」の学習成果のうえに、レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方といった、基礎的なスタディー・スキルを向上させ、さらに実践できるようにする。
事前・事後学修の内容	発表準備には授業外で図書館などを活用した学修が必要となる。授業内での指示に従い各自が予習復習を行うこと。
テキスト	指定しない。
参考文献	授業内で紹介する。
評価方法	授業内小課題 60%　期末課題 40% 4 回以上の欠席、常習的な遅刻は単位認定の資格を失う。

13 年度以降	基礎演習 I	担当者	須永　和博

講義目的、講義概要	授業計画
本演習は、ツーリズムや移民・難民、開発、国際関係など交流文化の学びに関連したテーマにもとづく共同研究に取り組むことを通じて、大学という知の拠点において研究活動をしていくための基礎的な考え・技法を身につけることを目的としています。 本演習ではまず、担当者が数回、文献資料収集やフィールドワーク技法、プレゼンテーション技法、レポート作成法等について講義を行ないます。その上で、後半は班ごとに担当教員より指定された課題について研究を行ない、その成果をプレゼンテーションやレポートにまとめてもらいます。 なお、共同研究のテーマ等についての詳細は、初回授業で説明します。	1.　自己紹介 2.　趣旨説明・グループ分け 3.　講義1：研究とは何か 4.　講義2：文献資料収集の作法 5.　講義3：文献資料の読解・引用の流儀 6.　講義4：フィールドワークの技法 7.　講義5：プレゼンテーション・レポート作成技法 8.　発表・議論：グループ1 9.　発表・議論：グループ2 10.　発表・議論：グループ3 11.　発表・議論：グループ4 12.　発表・議論：グループ5 13.　発表・議論：グループ6 14.　まとめ・総評

到達目標	レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方といった、基礎的なスタディー・スキルを習得し、実践できるようにする。
事前・事後学修の内容	新聞等で、ツーリズムや移民、難民、戦争などグローバルな諸現象について情報収集をしてください。
テキスト	佐藤望ほか（編）2012『アカデミック・スキルズ：大学生のための知的技法入門』慶応義塾大学出版会
参考文献	授業時に適宜、参考文献リストを配布します。
評価方法	平常点（20%）、プレゼンテーション（40%）、期末レポート（40%）。 ただし、4 回以上欠席（遅刻は 2 回で欠席 1 回に換算）で単位認定の資格を失います。

13 年度以降	基礎演習 II	担当者	須永　和博

講義目的、講義概要	授業計画
春学期の共同研究を踏まえた上で、秋学期は各自興味のあるテーマを選んで、個人研究を行います。 自分で調べたことをクラスメートの前で発表し、議論することを通じて、大学で勉強する際に必要なアカデミック・スキルを磨くと同時に、研究を行なうための感性や想像力を養います。	1.　ガイダンス 2.　発表・議論：グループ1 3.　発表・議論：グループ2 4.　発表・議論：グループ3 5.　発表・議論：グループ4 6.　発表・議論：グループ5 7.　発表・議論：グループ6 8.　発表・議論：グループ7 9.　発表・議論：グループ8 10.　発表・議論：グループ9 11.　発表・議論：グループ10 12.　発表・議論：グループ11 13.　発表・議論：グループ12 14.　まとめ・総評

到達目標	「基礎演習 I 」の学習成果のうえに、レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方といった、基礎的なスタディー・スキルを向上させ、さらに実践できるようにする。
事前・事後学修の内容	新聞等で、ツーリズムや移民、難民、戦争などグローバルな諸現象について情報収集をしてください。
テキスト	特に定めません。
参考文献	授業時に適宜、参考文献リストを配布します。
評価方法	平常点（20%）、プレゼンテーション（40%）、期末レポート（40%）。 ただし、4 回以上欠席（遅刻は 2 回で欠席 1 回に換算）で単位認定の資格を失います。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後 学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	英語圏の文学と文化概論	担当者	高橋　雄一郎

講義目的、講義概要	授業計画
英語圏の文学・文化の多様性について、歴史的な視座から理解を深め、名作の英語表現に親しみます。主要な作家、思想家による作品を読み、背景となる文化、歴史について講義します。受講生には積極的な授業への参加が求められます。	1.　（導入）英語を媒体とする文学・文化の世界的な多様性 2.　（中世）ヨーロッパ・キリスト教中心の世界観 3.　（17世紀）イギリス・ルネッサンス（シェイクスピアの時代―シェイクスピアの作品を読む） 4.　続けてシェイクスピアの作品を読む 5.　（18世紀）理性と啓蒙の時代の文学者、思想家たち 6.　（19世紀）産業革命と都市化、北米への移民 7.　中産階級と小説の勃興 8.　ロマンティシズム 9.　植民地の展開 10.　（20世紀）2つの世界大戦とモダニズム 11.　フェミニズム、公民権運動 12.　先住民、少数民族、LGBT 13.　ポストコロニアリズム 14.　文化多様性を考える

到達目標	英語圏の文学史と文化史の基礎知識を習得し、基本的な手法をもって文学作品を鑑賞のうえ批評できるようにする。
事前・事後 学修の内容	テクストを十分に読み込んで予習し、事後はテクストだけでなく、歴史、文化、社会的側面についても復習をする。
テキスト	シェイクスピア『マクベス』、イシグロ『わたしを離さないで』、ともに売店（DUO）に発注ずみです。
参考文献	ポータルサイトで配布、図書館指定書の利用など、授業中に指示します。
評価方法	クラスフェイスブックへの書込み（30%）小レポート（20%）、学期末レポート（50%）

13 年度以降	英語の世界 I	担当者	大澤　舞

講義目的、講義概要	授業計画
目的： （1）　英語の音声と文法に関する基礎的な知識を身につける。 （2）　英語の歴史を知り，共時的・通時的な観点から現代英語という言語（ことば）の特徴を理解する。 概要： 　英語学の諸領域のうち，「音声・音韻論」「形態論」「統語論」「意味論」「語用論」について，具体的な事例を扱いながら解説します。特に，日本語との違いをみていくことで，英語の普遍性と特殊性に触れ，英語という言語がどのような規則性に基づいて成り立っているのかを考察していきます。	1.　英語学とは：学校文法と記述文法 2.　英語の歴史（1）：発音・綴り字の変化・語順の確立 3.　英語の歴史（2）：語彙と品詞と意味の歴史的変化 4.　音声・音韻論（1）：音を出す仕組みと発音 5.　音声：音韻論（2）：音節とモーラ 6.　形態論（1）：単語の仕組み 7.　形態論（2）：語形成 8.　統語論（1）：言語の構造・語順の役割 9.　統語論（2）：文をつくる規則 10. 意味論（1）：言語の「意味」とは 11. 意味論（2）：メタファー／「かき氷はじめました」と“Mary began the book.” 12. 語用論（1）：語用論と意味論の関係 13. 語用論（2）：情報構造と文形式 14. まとめ

到達目標	英語学の視点をもって、単語の意味・イントネーション・語法・構文などに関する基礎知識を習得し、英語を的確に用いることができるようにする。
事前・事後学修の内容	予習：テキストを読み，理解できなかったところや疑問点をまとめておく。／復習：授業内容を整理し，改めて疑問点がないか確認する。
テキスト	授業で配付するハンドアウト
参考文献	『日英語対照による英語学概論』西光義弘（編）／『はじめての英語学』長谷川瑞穂　など
評価方法	定期試験（60%）と課題・小テスト（40%）

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	English for Business I	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
小学校高学年で英語の授業が必修となり、また、大学では学生の海外への短期留学を増加させるために、或いは、世界各国から優秀な人材を集め、競争に勝ち抜くために、４学期制を実施・検討している大学もあるようです。更に、社内公用語を英語に変更する企業が出現した現状を考えると、教育界等でも、実務に則った実践的英語慣熟及び習熟が重要課題となっております。 本講義では、ビジネス場面における基礎レベルの英語運用能力を幅広く習得します。Writing では、ビジネス英文メールの中でよく使用される独特な英語表現を勉強し、実践的な学習となるよう指導していきます。Reading では、英字新聞などに使用されているビジネスに関する基本的な語彙と語彙の説明やビジネス英語独特の表現などを学び、英文ビジネス記事の基本的な読み方を学習いたします。	1. 講義概要（詳細は各担当教員が説明します） 2. C1：ビジネス英文メールの形式 3. C2：世界主要支社長会議のお知らせ＆練習問題 4. C3：同上への出席通知＆同上 5. C4：販売本部長の営業報告＆同上 6. C5：宣伝部長報告＆同上 7. C6：企画部長報告＆同上 8. 中間試験と復習 9. C7：議事録送付＆練習問題 10. C8：カリフォルニアワインの見本輸入＆同上 11. C9：見本商品の発送通知＆同上 12. C10：引き合い＆同上 13. C11：オファー＆同上 14. C12：カウンター・オファー＆同上

到達目標	初学者を対象に、ライティング、リーディングを問わずビジネス場面において基礎レベルの英語を運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキスト・プリントの予習・復習が大切。
テキスト	Writing：海老沢達郎・功力義雄著『English for Business』（DTP 出版、2014 年）Reading: プリント使用
参考文献	都度、紹介
評価方法	中間試験 30%、定期試験 60%、授業貢献度 10%、欠席は原則 5 回まで。

13 年度以降	English for Business Ⅱ	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「English for Business II」では、「English for Business I」の「講義目的・講義概要」で書かれた、WritingとReadingの続きを行い、段階的にWritingとReadingの更なる能力向上に努めます。ビジネス英文メールの書き方の習得と同時に、企業内のさまざまなことも学び、異文化への理解増進、外国への留学手続き、国際的に活躍する企業への就職活動、そして就職してからの業務遂行に役立つことができるよう指導致します。国際社会に対応できるように、WritingとReadingを関連させて総合的なビジネス英語の基本を学んでいきます	1. 講義概要（詳細は各担当教員が説明します） 2. C13：カウンター・オファー受託通知＆練習問題 3. C14：信用状開設準備＆同上 4. C15：船積通知＆同上 5. C16：クレーム＆同上 6. C17：クレームの解決＆同上 7. C18：国際展示会及び営業会議招待＆同上 8. 中間試験と復習 9. C19：国際展示会及び会議出席通知＆練習問題 10. C20：宿泊などの申し込み＆同上 11. C21：有力販売店主の工場視察＆同上 12. C22：ホテルへの苦情＆同上 13. C23：顧客のホテル苦情への返信＆同上 14. C24：有力販売店主の工場長宛礼状＆同上

到達目標	「English for Business I」の学習成果のうえに、簡単なビジネス通信文の読み書き、日常的なビジネス文書の読み書き、電話、面談等による簡単な商談、社交会話において、英語を運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキスト・プリントの予習・復習が大切。
テキスト	Writing：海老沢達郎・功力義雄著『English for Business』（DTP 出版、2014 年）Reading: プリント使用
参考文献	都度、紹介
評価方法	中間試験 30%、定期試験 60%、授業貢献度 10%、欠席は原則 5 回まで。

19 年度	Listening & Speaking I （火 1）	担当者	D．ブラドリー

講義目的、講義概要	授業計画
In this class we will work on developing listening comprehension skills. Listening activities will be followed by guided conversations and discussions on the topics introduced in the listenings in order to increase fluency in spoken English. Students will be encouraged to study online using EnglishCentral. The course plan contains a list of topics which may be changed according to the response of the students.	1. Introduction to the course 2. Talking about work 3. Some national stereotypes 4. London 5. Living in the country 6. Wales 7. General knowledge quiz 8. Roleplay 9. TV sitcom 10. A famous author 11. Discussion 12. In the year I was born 13. Emigrants 14. Review

到達目標	英語の聴解能力と発音技能、基本的な会話能力を向上させ、適確に発話できるようにする。
事前・事後学修の内容	Vocabulary and reading for classroom activities: 30 minutes. Supplementary online listening homework: on average, an hour each week.
テキスト	There will be no textbook. I will distribute handouts as necessary.
参考文献	—
評価方法	Grades will be based on classroom participation (30%), classroom activities (30%) and classroom test results (40%).

19 年度	Listening & Speaking II （火 1）	担当者	D．ブラドリー

講義目的、講義概要	授業計画
We will continue the form of lesson established in the spring semester, this time expanding the materials to include reading matter to help students build their English skills so that they can think and respond in English on the topics covered. Students will be encouraged to study online using EnglishCentral. The list of topics in the course plan may be changed according to the response of the students.	1. Consolidation 2. Travel and national preconceptions 3. Language learning 4. The media 5. Health 6. Health and alternative remedies 7. Phrasal verbs 8. General knowledge quiz 9. Tourism in the Lake District 10. TV sitcom 11. Discussion 12. Festivals 13. Seasonal topic 14. Review

到達目標	「Listening & Speaking I 」の学習成果をより向上させ、各種資格試験に対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	Vocabulary and reading for classroom activities: 30 minutes. Supplementary online listening homework: on average, an hour each week.
テキスト	There will be no textbook. I will distribute handouts as necessary.
参考文献	—
評価方法	Grades will be based on classroom participation (30%), classroom activities (30%) and classroom test results (40%).

19 年度	Listening & Speaking I （火 2）	担当者	D．ブラドリー

講義目的、講義概要	授業計画
In this class we will work on developing listening comprehension skills. Listening activities will be followed by guided conversations and discussions on the topics introduced in the listenings in order to increase fluency in spoken English. Students will be encouraged to study online using EnglishCentral. The course plan contains a list of topics which may be changed according to the response of the students.	1. Introduction to the course 2. Talking about work 3. Some national stereotypes 4. London 5. Living in the country 6. Wales 7. General knowledge quiz 8. Roleplay 9. TV sitcom 10. A famous author 11. Discussion 12. In the year I was born 13. Emigrants 14. Review

到達目標	英語の聴解能力と発音技能、基本的な会話能力を向上させ、適確に発話できるようにする。
事前・事後学修の内容	Vocabulary and reading for classroom activities: 30 minutes. Supplementary online listening homework: on average, an hour each week.
テキスト	There will be no textbook. I will distribute handouts as necessary.
参考文献	—
評価方法	Grades will be based on classroom participation (30%), classroom activities (30%) and classroom test results (40%).

19 年度	Listening & Speaking II （火 2）	担当者	D．ブラドリー

講義目的、講義概要	授業計画
We will continue the form of lesson established in the spring semester, this time expanding the materials to include reading matter to help students build their English skills so that they can think and respond in English on the topics covered. Students will be encouraged to study online using EnglishCentral. The list of topics in the course plan may be changed according to the response of the students.	1. Consolidation 2. Travel and national preconceptions 3. Language learning 4. The media 5. Health 6. Health and alternative remedies 7. Phrasal verbs 8. General knowledge quiz 9. Tourism in the Lake District 10. TV sitcom 11. Discussion 12. Festivals 13. Seasonal topic 14. Review

到達目標	「Listening & Speaking I 」の学習成果をより向上させ、各種資格試験に対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	Vocabulary and reading for classroom activities: 30 minutes. Supplementary online listening homework: on average, an hour each week.
テキスト	There will be no textbook. I will distribute handouts as necessary.
参考文献	—
評価方法	Grades will be based on classroom participation (30%), classroom activities (30%) and classroom test results (40%).

19 年度	Listening & Speaking I	担当者	野上　文子

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 「聞く力」に焦点を当て、音声変化の事象を学びつつ、各国の情報を聞き取り、ディクテーションやシャドーイングに取り組むことにより、聴解力を高める。 【講義概要】 教科書を中心にリスニング力向上に取り組むことだけではなく、その聴解力が試験のスコアに反映されるように、TOEICの単語や例文も学ぶ。総合的な英語力向上のためには、口頭練習やグループによるディスカッション、内容真偽を測るアクティビティ等で読み書きに取り組むなど、4技能向上を心掛け、授業を進めていく。	【1】　ガイダンス：授業・評価について・Unit 1 Spain（前） 【2】　Unit 1 Spain　（後） 【3】　Unit 2 China　（前） 【4】　Unit 2 China　（後） 【5】　Unit 3 Peru　（前） 【6】　Unit 3 Peru　（後） 【7】　Unit 4 Tokyo　（前） 【8】　Unit 4 Tokyo　（後） 【9】　Review 中間テスト 【10】　Unit 5 New York City　（前） 【11】　Unit 5 New York City　（後） 【12】　Unit 6 Antarctica　（前） 【13】　Unit 6 Antarctica　（後） 【14】　学期末試験とまとめ

到達目標	英語の聴解能力と発音技能、基本的な会話能力を向上させ、適確に発話できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：予習と毎回の単語テストに備えて学習する。　事後学修：復習とオンライン学習を進める。
テキスト	“Globe Trotters” (CENGAGE learing)
参考文献	新 TOEIC R Test でる順で学ぶボキャブラリー990
評価方法	平常点（40%）、試験（40%）、オンライン学習プログラム（20%）の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。

19 年度	Listening & SpeakingⅡ	担当者	野上　文子

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 「聞く力」に焦点を当て、音声変化の事象を学びつつ、各国の情報を聞き取り、ディクテーションやシャドーイングに取り組むことにより、聴解力を高める。 【講義概要】 教科書を中心にリスニング力向上に取り組むことだけではなく、その聴解力が試験のスコアに反映されるように、TOEICの単語や例文も学ぶ。総合的な英語力向上のためには、口頭練習やグループによるディスカッション、内容真偽を測るアクティビティ等で読み書きに取り組むなど、4技能向上を心掛け、授業を進めていく。	【1】　ガイダンス：授業・評価について・Unit 7 India　（前） 【2】　Unit 7 India　（後） 【3】　Unit 8 New Zealand　（前） 【4】　Unit 8 New Zealand　（後） 【5】　Unit 9 Africa　（前） 【6】　Unit 9 Africa　（後） 【7】　Unit 10 Cambodia　（前） 【8】　Unit 10 Cambodia　（後） 【9】　Review 中間テスト 【10】　Unit 11 Egypt　（前） 【11】　Unit 11 Egypt　（後） 【12】　Unit 12 Italy　（前） 【13】　Unit 12 Italy　（後） 【14】　学期末試験とまとめ

到達目標	「Listening & Speaking I 」の学習成果をより向上させ、各種資格試験に対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：予習と毎回の単語テストに備えて学習する。　事後学修：復習とオンライン学習を進める。
テキスト	“Globe Trotters” (CENGAGE learing)
参考文献	新 TOEIC R Test でる順で学ぶボキャブラリー990
評価方法	平常点（40%）、試験（40%）、オンライン学習プログラム（20%）の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。

19 年度	Listening & Speaking I （月 2）	担当者	L．G．ボンド

講義目的、講義概要	授業計画
This course will focus on developing listening and speaking skills. Controlled short conversations and listening exercises will be used to help build confidence among the students. After working in controlled situations, students will be encouraged each lesson to practice speaking and do paired conversations beyond the controlled topics while developing and advancing their speaking and listening skills. Listening practices will focus on various “kinds” of English. Short reading and writing exercises will also be incorporated to enhance students’ overall English ability.	1. Orientation, Course Guidance, Introductions 2. My home 3. Family 4. My daily life 5. Daily life, looking towards the future 6. My neighborhood 7. Time and space 8. Mid-term assessment 9. My work and Occupations 10. AI in the Work Place 11. Free time 12. Games in Society 13. Consolidation and Review 14. Consolidation and Assessment

到達目標	英語の聴解能力と発音技能、基本的な会話能力を向上させ、適確に発話できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will be expected to do the grammar review and reading for each unit. On-line listening will also be assigned for each unit. Education Central will also be used as supplemental material.
テキスト	Alastair Graham-Marr. World Voices 2. Abax ELT Publishers
参考文献	Longman Dictionary of Contemporary English or a similar dictionary. Electronic dictionaries are okay.
評価方法	Students will be assessed on weekly conversation tasks and homework (40%), mid-term assessment (30%), and end-term assessment (30%).

19 年度	Listening & Speaking II （月 2）	担当者	L．G．ボンド

講義目的、講義概要	授業計画
Students will continue to develop their listening and speaking skills in this course, with the main focus of developing listening skills and strategies. In order to accomplish this, weekly topics will be introduced so students can continue to build their vocabulary and use idiomatic phrases correctly. Various types of speaking and listening activities will be incorporated throughout the course to give students a good overall exposure to English used around the world and throughout society. Practice for English qualification examinations will also be done both in and outside of class.	1. Orientation, Course Guidelines, Vacation 2. Food and Drink 3. Food habits and taboos 4. Travel 5. Trips and vacations 6. Education 7. Gender roles 8. Mid-term assessment 9. Health 10. Numbers and Prices 11. Statistics, graphs, data 12. People 13. Consolidation and Assessment 14. Review and Future study tips

到達目標	「Listening & Speaking I 」の学習成果をより向上させ、各種資格試験に対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will be expected to do the grammar review and reading for each unit. Assignments from Education Central will also be given.
テキスト	Alastair Graham-Marr. World Voices 2. Abax ELT Publishers
参考文献	Longman Dictionary of Contemporary English or a similar dictionary. Electronic dictionaries are okay.
評価方法	Students will be assessed on weekly conversation tasks and homework (40%), mid-term assessment (30%), and end-term assessment (30%).

19 年度	Listening & Speaking I （月 3）	担当者	L．G．ボンド

講義目的、講義概要	授業計画
This course will focus on developing listening and speaking skills. Controlled short conversations and listening exercises will be used to help build confidence among the students. After working in controlled situations, students will be encouraged each lesson to practice speaking and do paired conversations beyond the controlled topics while developing and advancing their speaking and listening skills. Listening practices will focus on various “kinds” of English. Short reading and writing exercises will also be incorporated to enhance students’ overall English ability.	1. Orientation, Course Guidance, Introductions 2. My home 3. Family 4. My daily life 5. Daily life, looking towards the future 6. My neighborhood 7. Time and space 8. Mid-term assessment 9. My work and Occupations 10. AI in the Work Place 11. Free time 12. Games in Society 13. Consolidation and Review 14. Consolidation and Assessment 15. End-term assessment and review

到達目標	英語の聴解能力と発音技能、基本的な会話能力を向上させ、適確に発話できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will be expected to do the grammar review and reading for each unit. On-line listening will also be assigned for each unit. Education Central will also be used as supplemental material.
テキスト	Alastair Graham-Marr. World Voices 2. Abax ELT Publishers
参考文献	Longman Dictionary of Contemporary English or a similar dictionary. Electronic dictionaries are okay.
評価方法	Students will be assessed on weekly conversation tasks and homework (40%), mid-term assessment (30%), and end-term assessment (30%).

19 年度	Listening & Speaking II （月 3）	担当者	L．G．ボンド

講義目的、講義概要	授業計画
Students will continue to develop their listening and speaking skills in this course, with the main focus of developing listening skills and strategies. In order to accomplish this, weekly topics will be introduced so students can continue to build their vocabulary and use idiomatic phrases correctly. Various types of speaking and listening activities will be incorporated throughout the course to give students a good overall exposure to English used around the world and throughout society. Practice for English qualification examinations will also be done both in and outside of class.	1. Orientation, Course Guidelines, Vacation 2. Food and Drink 3. Food habits and taboos 4. Travel 5. Trips and vacations 6. Education 7. Gender roles 8. Mid-term assessment 9. Health 10. Numbers and Prices 11. Statistics, graphs, data 12. People 13. Consolidation and Assessment 14. Review and Future study tips

到達目標	「Listening & Speaking I 」の学習成果をより向上させ、各種資格試験に対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will be expected to do the grammar review and reading for each unit. Assignments from Education Central will also be given.
テキスト	Alastair Graham-Marr. World Voices 2. Abax ELT Publishers
参考文献	Longman Dictionary of Contemporary English or a similar dictionary. Electronic dictionaries are okay.
評価方法	Students will be assessed on weekly conversation tasks and homework (40%), mid-term assessment (30%), and end-term assessment (30%).

13～18 年度	Listening & Speaking（火 1）	担当者	D．ブラドリー

講義目的、講義概要	授業計画
In this class we will work on developing listening comprehension skills. Listening activities will be followed by guided conversations and discussions on the topics introduced in the listenings in order to increase fluency in spoken English. Students will be encouraged to study online using EnglishCentral. The course plan contains a list of topics which may be changed according to the response of the students.	1. Introduction to the course 2. Talking about work 3. Some national stereotypes 4. London 5. Living in the country 6. Wales 7. General knowledge quiz 8. Roleplay 9. TV sitcom 10. A famous author 11. Discussion 12. In the year I was born 13. Emigrants 14. Review

到達目標	英語の聴解能力と発音技能、基本的な会話能力を向上させ、適確に発話できるようにする。
事前・事後学修の内容	Vocabulary and reading for classroom activities: 30 minutes. Supplementary online listening homework: on average, an hour each week.
テキスト	There will be no textbook. I will distribute handouts as necessary.
参考文献	—
評価方法	Grades will be based on classroom participation (30%), classroom activities (30%) and classroom test results (40%).

13～18 年度	Listening Practice for TOEFL®&TOEIC®（火 1）	担当者	D．ブラドリー

講義目的、講義概要	授業計画
We will continue the form of lesson established in the spring semester, this time expanding the materials to include reading matter to help students build their English skills so that they can think and respond in English on the topics covered. Students will be encouraged to study online using EnglishCentral. The list of topics in the course plan may be changed according to the response of the students.	1. Consolidation 2. Travel and national preconceptions 3. Language learning 4. The media 5. Health 6. Health and alternative remedies 7. Phrasal verbs 8. General knowledge quiz 9. Tourism in the Lake District 10. TV sitcom 11. Discussion 12. Festivals 13. Seasonal topic 14. Review

到達目標	「Listening & Speaking」の学習成果をより向上させ、TOEFL®や TOEIC®の試験に対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	Vocabulary and reading for classroom activities: 30 minutes. Supplementary online listening homework: on average, an hour each week.
テキスト	There will be no textbook. I will distribute handouts as necessary.
参考文献	—
評価方法	Grades will be based on classroom participation (30%), classroom activities (30%) and classroom test results (40%).

13～18 年度	Listening & Speaking（火 2）	担当者	D．ブラドリー

講義目的、講義概要	授業計画
In this class we will work on developing listening comprehension skills. Listening activities will be followed by guided conversations and discussions on the topics introduced in the listenings in order to increase fluency in spoken English. Students will be encouraged to study online using EnglishCentral. The course plan contains a list of topics which may be changed according to the response of the students.	1. Introduction to the course 2. Talking about work 3. Some national stereotypes 4. London 5. Living in the country 6. Wales 7. General knowledge quiz 8. Roleplay 9. TV sitcom 10. A famous author 11. Discussion 12. In the year I was born 13. Emigrants 14. Review

到達目標	英語の聴解能力と発音技能、基本的な会話能力を向上させ、適確に発話できるようにする。
事前・事後学修の内容	Vocabulary and reading for classroom activities: 30 minutes. Supplementary online listening homework: on average, an hour each week.
テキスト	There will be no textbook. I will distribute handouts as necessary.
参考文献	—
評価方法	Grades will be based on classroom participation (30%), classroom activities (30%) and classroom test results (40%).

13～18 年度	Listening Practice for TOEFL®&TOEIC®（火 2）	担当者	D．ブラドリー

講義目的、講義概要	授業計画
We will continue the form of lesson established in the spring semester, this time expanding the materials to include reading matter to help students build their English skills so that they can think and respond in English on the topics covered. Students will be encouraged to study online using EnglishCentral. The list of topics in the course plan may be changed according to the response of the students.	1. Consolidation 2. Travel and national preconceptions 3. Language learning 4. The media 5. Health 6. Health and alternative remedies 7. Phrasal verbs 8. General knowledge quiz 9. Tourism in the Lake District 10. TV sitcom 11. Discussion 12. Festivals 13. Seasonal topic 14. Review

到達目標	「Listening & Speaking」の学習成果をより向上させ、TOEFL®や TOEIC®の試験に対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	Vocabulary and reading for classroom activities: 30 minutes. Supplementary online listening homework: on average, an hour each week.
テキスト	There will be no textbook. I will distribute handouts as necessary.
参考文献	—
評価方法	Grades will be based on classroom participation (30%), classroom activities (30%) and classroom test results (40%).

13～18 年度	Listening & Speaking	担当者	野上　文子

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 「聞く力」に焦点を当て、音声変化の事象を学びつつ、各国の情報を聞き取り、ディクテーションやシャドーイングに取り組むことにより、聴解力を高める。 【講義概要】 教科書を中心にリスニング力向上に取り組むことだけではなく、その聴解力が試験のスコアに反映されるように、TOEICの単語や例文も学ぶ。総合的な英語力向上のためには、口頭練習やグループによるディスカッション、内容真偽を測るアクティビティ等で読み書きに取り組むなど、4技能向上を心掛け、授業を進めていく。	【1】　ガイダンス：授業・評価について・Unit 1 Spain（前） 【2】　Unit 1 Spain　（後） 【3】　Unit 2 China　（前） 【4】　Unit 2 China　（後） 【5】　Unit 3 Peru　（前） 【6】　Unit 3 Peru　（後） 【7】　Unit 4 Tokyo　（前） 【8】　Unit 4 Tokyo　（後） 【9】　Review 中間テスト 【10】　Unit 5 New York City　（前） 【11】　Unit 5 New York City　（後） 【12】　Unit 6 Antarctica　（前） 【13】　Unit 6 Antarctica　（後） 【14】　学期末試験とまとめ

到達目標	英語の聴解能力と発音技能、基本的な会話能力を向上させ、適確に発話できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：予習と毎回の単語テストに備えて学習する。　事後学修：復習とオンライン学習を進める。
テキスト	“Globe Trotters” (CENGAGE learing)
参考文献	新 TOEIC R Test でる順で学ぶボキャブラリー990
評価方法	平常点（40%）、試験（40%）、オンライン学習プログラム（20%）の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。

13～18 年度以降	Listening Practice for TOEFL®&TOEIC®	担当者	野上　文子

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 「聞く力」に焦点を当て、音声変化の事象を学びつつ、各国の情報を聞き取り、ディクテーションやシャドーイングに取り組むことにより、聴解力を高める。 【講義概要】 教科書を中心にリスニング力向上に取り組むことだけではなく、その聴解力が試験のスコアに反映されるように、TOEICの単語や例文も学ぶ。総合的な英語力向上のためには、口頭練習やグループによるディスカッション、内容真偽を測るアクティビティ等で読み書きに取り組むなど、4技能向上を心掛け、授業を進めていく。	【1】　ガイダンス：授業・評価について・Unit 7 India　（前） 【2】　Unit 7 India　（後） 【3】　Unit 8 New Zealand　（前） 【4】　Unit 8 New Zealand　（後） 【5】　Unit 9 Africa　（前） 【6】　Unit 9 Africa　（後） 【7】　Unit 10 Cambodia　（前） 【8】　Unit 10 Cambodia　（後） 【9】　Review 中間テスト 【10】　Unit 11 Egypt　（前） 【11】　Unit 11 Egypt　（後） 【12】　Unit 12 Italy　（前） 【13】　Unit 12 Italy　（後） 【14】　学期末試験とまとめ

到達目標	「Listening & Speaking」の学習成果をより向上させ、TOEFL®や TOEIC®の試験に対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：予習と毎回の単語テストに備えて学習する。　事後学修：復習とオンライン学習を進める。
テキスト	“Globe Trotters” (CENGAGE learing)
参考文献	新 TOEIC R Test でる順で学ぶボキャブラリー990
評価方法	平常点（40%）、試験（40%）、オンライン学習プログラム（20%）の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。

13～18 年度	Listening & Speaking　（月 2）	担当者	L．G．ボンド

講義目的、講義概要	授業計画
This course will focus on developing listening and speaking skills.　Controlled short conversations and listening exercises will be used to help build confidence among the students.　After working in controlled situations, students will be encouraged each lesson to practice speaking and do paired conversations beyond the controlled topics while developing and advancing their speaking and listening skills.　Listening practices will focus on various “kinds” of English.　Short reading and writing exercises will also be incorporated to enhance students’ overall English ability.	1. Orientation, Course Guidance, Introductions 2. My home 3. Family 4. My daily life 5. Daily life, looking towards the future 6. My neighborhood 7. Time and space 8. Mid-term assessment 9. My work and Occupations 10. AI in the Work Place 11. Free time 12. Games in Society 13. Consolidation and Review 14. Consolidation and Assessment

到達目標	英語の聴解能力と発音技能、基本的な会話能力を向上させ、適確に発話できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will be expected to do the grammar review and reading for each unit. On-line listening will also be assigned for each unit. Education Central will also be used as supplemental material.
テキスト	Alastair Graham-Marr.　World Voices 2. Abax ELT Publishers
参考文献	Longman Dictionary of Contemporary English or a similar dictionary. Electronic dictionaries are okay.
評価方法	Students will be assessed on weekly conversation tasks and homework (40%), mid-term assessment (30%), and end-term assessment (30%).

13～18 年度	Listening Practice for TOEFL®&TOEIC®（月 2）	担当者	L．G．ボンド

講義目的、講義概要	授業計画
Students will continue to develop their listening and speaking skills in this course, with the main focus of developing listening skills and strategies.　In order to accomplish this, weekly topics will be introduced so students can continue to build their vocabulary and use idiomatic phrases correctly. Various types of speaking and listening activities will be incorporated throughout the course to give students a good overall exposure to English used around the world and throughout society.　Practice for English qualification examinations will also be done both in and outside of class.	1. Orientation, Course Guidelines, Vacation 2. Food and Drink 3. Food habits and taboos 4. Travel 5. Trips and vacations 6. Education 7. Gender roles 8. Mid-term assessment 9. Health 10. Numbers and Prices 11. Statistics, graphs, data 12. People 13. Consolidation and Assessment 14. Review and Future study tips

到達目標	「Listening & Speaking」の学習成果をより向上させ、TOEFL®や TOEIC®の試験に対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will be expected to do the grammar review and reading for each unit. Assignments from Education Central will also be given.
テキスト	Alastair Graham-Marr.　World Voices 2. Abax ELT Publishers
参考文献	Longman Dictionary of Contemporary English or a similar dictionary. Electronic dictionaries are okay.
評価方法	Students will be assessed on weekly conversation tasks and homework (40%), mid-term assessment (30%), and end-term assessment (30%).

13～18 年度以降	Listening & Speaking　（月 3）	担当者	L．G．ボンド

講義目的、講義概要	授業計画
This course will focus on developing listening and speaking skills.　Controlled short conversations and listening exercises will be used to help build confidence among the students.　After working in controlled situations, students will be encouraged each lesson to practice speaking and do paired conversations beyond the controlled topics while developing and advancing their speaking and listening skills.　Listening practices will focus on various “kinds” of English.　Short reading and writing exercises will also be incorporated to enhance students’ overall English ability.	1. Orientation, Course Guidance, Introductions 2. My home 3. Family 4. My daily life 5. Daily life, looking towards the future 6. My neighborhood 7. Time and space 8. Mid-term assessment 9. My work and Occupations 10. AI in the Work Place 11. Free time 12. Games in Society 13. Consolidation and Review 14. Consolidation and Assessment

到達目標	英語の聴解能力と発音技能、基本的な会話能力を向上させ、適確に発話できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will be expected to do the grammar review and reading for each unit. On-line listening will also be assigned for each unit. Education Central will also be used as supplemental material.
テキスト	Alastair Graham-Marr.　World Voices 2. Abax ELT Publishers
参考文献	Longman Dictionary of Contemporary English or a similar dictionary. Electronic dictionaries are okay.
評価方法	Students will be assessed on weekly conversation tasks and homework (40%), mid-term assessment (30%), and end-term assessment (30%).

13～18 年度以降	Listening Practice for TOEFL®&TOEIC®（月 3）	担当者	L．G．ボンド

講義目的、講義概要	授業計画
Students will continue to develop their listening and speaking skills in this course, with the main focus of developing listening skills and strategies.　In order to accomplish this, weekly topics will be introduced so students can continue to build their vocabulary and use idiomatic phrases correctly. Various types of speaking and listening activities will be incorporated throughout the course to give students a good overall exposure to English used around the world and throughout society.　Practice for English qualification examinations will also be done both in and outside of class.	1. Orientation, Course Guidelines, Vacation 2. Food and Drink 3. Food habits and taboos 4. Travel 5. Trips and vacations 6. Education 7. Gender roles 8. Mid-term assessment 9. Health 10. Numbers and Prices 11. Statistics, graphs, data 12. People 13. Consolidation and Assessment 14. Review and Future study tips

到達目標	「Listening & Speaking」の学習成果をより向上させ、TOEFL®や TOEIC®の試験に対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will be expected to do the grammar review and reading for each unit. Assignments from Education Central will also be given.
テキスト	Alastair Graham-Marr.　World Voices 2. Abax ELT Publishers
参考文献	Longman Dictionary of Contemporary English or a similar dictionary. Electronic dictionaries are okay.
評価方法	Students will be assessed on weekly conversation tasks and homework (40%), mid-term assessment (30%), and end-term assessment (30%).

13 年度以降	Grammar for TOEFL® & TOEIC® I	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
この授業の狙いは、大学で英語を学ぶ学生にとって恥ずかしくない、英語の語法と文法の知識を身につけることにあります。そのためには「なぜそうは言えても、こうは言えないのか？」と素朴な疑問を抱くことが大切で、そこから学習し始めると、次第に英語ということばの学術的研究にたいして理解を深め、表面に見える英語現象を手がかりにして水面下に潜む英語母語話者のモノの見方がどのような表現となって表れるのだろうかと探っていく習慣を身につけることができるようになります。そしてこの学習方法こそが、結局は英語を身に付ける効率の良い方法であることがわかるようになります。 授業では、テキストを基にした講義から、文法表現にはその形式に伴うそれなりの意味が有ることがわかるようになり、ネイティブ・スピーカーが英語を理解しているとき、その頭の中で何が起きているのかを感じ取ることができるようになります。	1. 不定冠詞か無冠詞か 2. 情報共有を表す the 3. 総称概念・冠詞を理解するためのふたつの理論 4. 数量を表現する―(a) little、all、some、any、no、both、each と every、ほか 5. 前置修飾と後置修飾―<修飾>形式による意味の違い、関係詞節とは何か 6. 関係詞節の制限的用法と非制限的用法、 7. モノの代わりになる代名詞―'it'と'one'と'that'の違い 8. 名詞の代わりになる表現―名詞節、I like to swim/swimming.の違い 9. コトを時間の関係で捉える―時制と相(1) 10. コトの未来を語る―未来時制はない!?、willとbe going toの使い分け 11. 動詞あれこれ―他動詞と自動詞、原形・現在/過去分詞形、ほか 12. 動詞あれこれ―getとhaveとbeの世界、-ingの力 13. 話し手の態度を示す―法助動詞（can、may、must、willほか） 14. 視点から捉える態―能動態と受動態、get受動態とbe受動態の使い分け

到達目標	「英語の世界Ｉ」の学習成果のうえに、英語の語法・文法に対する知識をさらに深め、TOEFL®や TOEIC®の試験に対応できる。
事前・事後学修の内容	予習（テキストを読んで質問内容を整理）し、学習内容をノートにまとめる等の復習をしっかり行う。
テキスト	田中茂範著『わかるから使えるへ　表現英文法［増補改訂第２版］』（コスモピア）
参考文献	授業で適宜提示する。
評価方法	定期試験 4 割、小テストと課題 3 割および授業における参加度 3 割による。詳細あるいは変更のある場合は第 1 回目の授業で説明される。

13 年度以降	Grammar for TOEFL® & TOEIC® II	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
この授業の狙いは、大学で英語を学ぶ学生にとって恥ずかしくない、英語の語法と文法の知識を身につけることにあります。そのためには「なぜそうは言えても、こうは言えないのか？」と素朴な疑問を抱くことが大切で、そこから学習し始めると、次第に英語ということばの学術的研究にたいして理解を深め、表面に見える英語現象を手がかりにして水面下に潜む英語母語話者のモノの見方がどのような表現となって表れるのだろうかと探っていく習慣を身につけることができるようになります。そしてこの学習方法こそが、結局は英語を身に付ける効率の良い方法であることがわかるようになります。 授業では、テキストを基にした講義から、文法表現にはその形式に伴うそれなりの意味が有ることがわかるようになり、ネイティブ・スピーカーが英語を理解しているとき、その頭の中で何が起きているのかを感じ取ることができるようになります。	1. 動詞との共演者―義務的と任意的のα、to do と doing の違い 2. 形容詞構文 3. 副詞的表現―機能と位置、時・場所・頻度・様態・付帯状況・目的 4. 空間関係を表す表現―at、in、on、off、about、around、across の意味世界 5. 空間関係を表す表現―through、over、up、down、away などの意味世界 6. 空間関係を表す表現―with、to、for、of、from、against などの意味世界 7. 情報の配列の仕方―典型的な語順、情報の流れと語順の原則 8. 情報の配列の仕方―文の接続方法（and、or、when、while ほかの使い方） 9. 情報の配列の仕方―文の接続方法（since、until、because、や分詞構文の使い方） 10. there 存在文の使い方―There's *the* leftover apple pie は言えるか？ 11. 比較構文―類似、優劣、大小などの評価、the のない最上級とは？ 12. 否定表現―No shoes (　) allowed.の括弧に are も is も入るのはなぜ？ 13. 否定表現―文/語否定、全体/部分否定、否定の焦点、条件付き否定 14. 仮想の状況設定―条件文との違い、仮定法現在・過去・過去完了、その他の仮定法

到達目標	「英語の世界Ｉ」の学習成果のうえに、英語の語法・文法に対する知識をさらに深め、TOEFL®や TOEIC®の試験に対応できる。
事前・事後学修の内容	予習（テキストを読んで質問内容を整理）し、学習内容をノートにまとめる等の復習をしっかり行う。
テキスト	田中茂範著『わかるから使えるへ　表現英文法［増補改訂第２版］』（コスモピア）
参考文献	授業で適宜提示する。
評価方法	定期試験 4 割、小テストと課題 3 割および授業における参加度 3 割による。詳細あるいは変更のある場合は第 1 回目の授業で説明される。

13 年度以降	Reading Strategies I	担当者	伊藤　兵馬

講義目的、講義概要	授業計画
Students enrolled in this course are expected to increase the ability to think in English, and increase English vocabulary. Furthermore, students are expected to deepen the understanding of foreign cultures and literatures. The course is also designed to prepare basic English skills for students considering to pursue academics in English speaking countries in the future. This course is conducted using a textbook or other reading materials selected by the instructor. During class, students are expected to engage in activities such as discussion, summation, key word search, vocabulary building, and reading aloud. This course is taught in English.	1. Introduction 2. Selected Text Chapter 1/ Overview 3. Selected Text Chapter 1/ Discussion 4. Selected Text Chapter 1/ Review 5. Selected Text Chapter 2/ Overview 6. Selected Text Chapter 2/ Discussion 7. Selected Text Chapter 2/ Review 8. Selected Text Chapter 3/ Overview 9. Selected Text Chapter 3/ Discussion 10. Selected Text Chapter 3/ Review 11. Selected Text Chapter 4/ Overview 12. Selected Text Chapter 4/ Discussion 13. Selected Text Chapter 4/ Review 14. Course Review

到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare for each class by reviewing lecture and class discussion notes.
テキスト	To be announced.
参考文献	To be announced.
評価方法	Evaluations will be made according to participation (20%), quizzes/assignments (20%), and examinations (60%). Details will be explained by the instructor in the first class.

13 年度以降	Reading Strategies Ⅱ	担当者	伊藤　兵馬

講義目的、講義概要	授業計画
The purpose of this course is as above. Students are expected to further improve the skills acquired in the spring semester, by reading advanced reading materials. This course is conducted using a textbook or other reading materials selected by the instructor. During class, students are expected to engage in activities such as discussion, summation, key word search, vocabulary building, and reading aloud. This course is taught in English.	1. Introduction 2. Selected Text Chapter 5/ Overview 3. Selected Text Chapter 5/ Discussion 4. Selected Text Chapter 5/ Review 5. Selected Text Chapter 6/ Overview 6. Selected Text Chapter 6/ Discussion 7. Selected Text Chapter 6/ Review 8. Selected Text Chapter 7/ Overview 9. Selected Text Chapter 7/ Discussion 10. Selected Text Chapter 7/ Review 11. Selected Text Chapter 8/ Overview 12. Selected Text Chapter 8/ Discussion 13. Selected Text Chapter 8/ Review 14. Course Review

到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare for each class by reviewing lecture and class discussion notes.
テキスト	To be announced.
参考文献	To be announced.
評価方法	Evaluations will be made according to participation (20%), quizzes/assignments (20%), and examinations (60%). Details will be explained by the instructor in the first class.

13 年度以降	Reading Strategies I	担当者	玉井　昇

講義目的、講義概要	授業計画
The purpose of this course is to help students improve their English language skills of reading. Through extensive reading, students are expected not only to increase English vocabulary and to grasp simply the meaning of the text, but also to read aloud, to predict the context before reading, and to recognise patterns in paragraphs and of text orgnisation. Reading materials such as news stories in press will be selected and offered in the course. Basically, this course is conducted in English but explained in Japanese where necessary. In order to learn correct, natural and real English, the students are strongly recommended to use an English-English dictionary. Note: This course syllabus might be changed if needed after starting.	1. Introduction for Reading: how to study, etc. 2. Reading (1) (Target: Vocabulary building) 3. Reading (2) (Target: Reading aloud) 4. Reading (3) (Target: Predicting Context/ Pictures) 5. Reading (4) (Target: Recognising patterns in parag) 6. Reading (5) (Target: Recognising patterns in org) 7. Midterm Exam & Introduction for Second Half 8. Reading (6) (Target: Vocabulary building) 9. Reading (7) (Target: Reading aloud) 10. Reading (8) (Target: Predicting Context/ diagrams) 11. Reading (9) (Target: Recognising patterns in parag) 12. Reading (10) (Target: Recognising patterns in org) 13. Reading (11) (Target: Total Skills) 14. Course Review & Preparing for Final Exam Note: These plans might be changed if needed.

到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to come to class fully (or at least adequately) prepared.
テキスト	To be announced (planning to use materials such as news stories in press).
参考文献	To be announced (planning to use materials such as news stories in press).
評価方法	Final grade will be based on the following: 30% Participation and Preparedness; 20% Quizzes and Writing Assignments; and 50% Mid-term and Final Examinations.

13 年度以降	Reading Strategies II	担当者	玉井　昇

講義目的、講義概要	授業計画
The purpose of this course is to help students improve their English language skills of reading. Through extensive reading, students are expected not only to increase English vocabulary and to grasp the meaning of the text, but also to recognise patterns of text orgnisation, to make inferences and to outline the text. Reading materials such as news stories in press will be selected and offered in the course. Basically, this course is conducted in English but explained in Japanese where necessary. In order to learn correct, natural and real English, the students are strongly recommended to use an English-English dictionary. Note: This course syllabus might be changed if needed after starting.	1. Introduction for Reading: how to study, etc. 2. Reading (1) (Target: Vocabulary building) 3. Reading (2) (Target: Recognising patterns in org.) 4. Reading (3) (Target: Scanning / Finding facts) 5. Reading (4) (Target: Making inferences) 6. Reading (5) (Target: Outlining) 7. Midterm Exam & Introduction for Second Half 8. Reading (6) (Target: Predicting Context/ Pictures) 9. Reading (7) (Target: Recognising patterns in org.) 10. Reading (8) (Target: Skimming / summaries) 11. Reading (9) (Target: Making inferences) 12. Reading (10) (Target: Outlining) 13. Reading (11) (Target: Total Skills) 14. Course Review & Preparing for Final Exam Note: These plans might be changed if needed.

到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to come to class fully (or at least adequately) prepared.
テキスト	To be announced (planning to use materials such as news stories in press).
参考文献	To be announced (planning to use materials such as news stories in press).
評価方法	Final grade will be based on the following: 30% Participation and Preparedness; 20% Quizzes and Writing Assignments; and 50% Mid-term and Final Examinations.

13 年度以降	Reading Strategies I	担当者	瀬戸　千尋

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では，語彙の増強を図り，外国の文化を理解し，将来，英語圏で学習する場合にも役立つような基礎的な読解技能を身に付けることを目標としている．このため，英文を「精確に読む」ための技術と姿勢を身に付け，「読む≠訳す」からの脱却を図り，英語で書かれた文章を日本語の文章と同じ精度で読めるようになることを目的とする． 授業では，英文を精確に読むために必要な文法知識の再整理とそれに基づく英文読解演習を行う．この時，英語と日本語の言語上の異同，読みの技術，日本語の語彙の強化を徹底的に意識する．言語が英語であるか日本語であるかに関わらず，内容を精確に理解するためには，背景知識は言うまでもなく，筆者の意図を汲み取ることができる母語能力が極めて重要である．本授業は，「英文読解能力の強化には母語能力の向上が不可欠」という認識に基づくものとなっている．	1. 授業オリエンテーション，統語の基礎 2. 統語に基づくリーディングの技術 3. Chapter 1: pp. 3-4 4. Chapter 1: pp. 4-5 5. Chapter 1: pp. 5-6 6. Chapter 1: pp. 6-7 7. Chapter 2: pp. 11-12 8. Chapter 2: pp.12-13 9. Chapter 2: pp. 13-14 10. Chapter 2: pp. 14-15 11. Chapter 3: pp. 20-21 12. Chapter 3: pp. 21-22 13. Chapter 3: pp. 22-23 14. Chapter 3: pp. 23-24

到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	指定された箇所の英文や語句・背景について十分に予習すること．また，既習箇所を繰り返し読み返し，英文の理解が自動化できるまで徹底して復習すること．
テキスト	Becker, C. (2012). *American and English Ideals* (rev. ed.). 英宝社.
参考文献	Jaybee Choi. (2018).『英語は絶対逆から読むな』. IBC パブリッシング.
評価方法	チャプターテスト（30%），期末試験（30%），授業レポート（20%），授業内評価（20%）に基づいて評価する．

13 年度以降	Reading Strategies II	担当者	瀬戸　千尋

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期は，「『Reading Strategies I』に引き続き，英語・日本語における語彙の増強，外国の文化の理解，『Reading Strategies I』で身につけた基礎的な読解技能の定着と発展」を目標としている．このため，英文を高い精度で読むことや内容に対する論理力や推測力を駆使して，短時間により多くの量の英文が読めるようになることを目的とする． 授業は前半と後半に分けられる．前半では，パラグラフの構造を理解した上で，精確に読むべき箇所とscanningやskimmingの技術を使って読む箇所を判断し要約する演習を行う．後半では，エッセイ全体の構造を理解し，skimmingの技術を使って「意味段落」を把握し要約する演習を行う．最終的には，「英語を日本語のように読」み，簡潔に，自分の言葉で，分かり易く説明できるようになることを目指している．	1. エッセイの構造とパラグラフの構造 2. Chapter 4: pp. 28-30 3. Chapter 4: pp. 30-32 4. Chapter 5: pp. 36-38 5. Chapter 5: pp. 38-39 6. Chapter 6: pp. 43-45 7. Chapter 6: pp. 45-47 8. Chapter 7 9. 中間試験と前半の総括 10. Chapter 8 11. Chapter 9 12. Chapter 10 13. Chapter 11 14. Chapter 12

到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	指定された箇所の英文や語句・背景について十分に予習すること．また，既習箇所を繰り返し読み返し，英文の理解が自動化できるまで徹底して復習すること．
テキスト	Becker, C. (2012). *American and English Ideals* (rev. ed.). 英宝社.
参考文献	特になし。
評価方法	中間試験・期末試験（60%），授業レポート（20%），授業内評価（20%）に基づいて評価する．

13 年度以降	Reading Strategies I	担当者	大澤　舞

講義目的、講義概要	授業計画
目的：英文読解の素地を養うために，以下の力を身につけていきます。 （1）語彙や文法の知識を活用し，英語で書かれた文章を正確に読んで理解する力 （2）文章全体を視野にいれて，それぞれの文や段落を読んで理解する力 概要： 受講者にとって，身近なテーマを扱う文章や，最新の一般向け科学記事など，英語で書かれた生のテキストを精読します。テキストに関する様々な「なぜ？」を考えながら，上記の力を段階的に身につけていきます。	1. オリエンテーション 2. 「読む」とはどういうことか（1）：読み手の責任 3. 「読む」とはどういうことか（2）：解釈 4. 論理的に捉える：一文レベル 5. 前提と解釈：否定の表現 6. 文と文のつながり 7. 意味のまとまりと音読 8. 段落と主題 9. 論理的に捉える：段落レベル 10. 文章における段落の位置づけ（1）：段落のつながり 11. 文章における段落の位置づけ（2）：全体の構成 12. 論理的に捉える：文脈レベル 13. 文章構成を把握する 14. まとめ

到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	予習：テキストを読み，語句や一般知識（固有名詞など）について調べておく。また，読んで理解できなかったところをまとめておく。／復習：授業内容を整理し，改めて疑問点がないか確認する。
テキスト	授業で配付する。
参考文献	授業で適宜紹介する。
評価方法	定期試験（60%）と小テスト（40%）

13 年度以降	Reading StrategiesⅡ	担当者	大澤　舞

講義目的、講義概要	授業計画
目的：「Reading Strategies I 」で身につけた（1）と（2）の力を向上させながら，さらに（3）の力を身につけていきます。 （1）語彙や文法の力を活用し，英語で書かれた文章を正確に読んで理解する力 （2）文章全体を視野にいれて，それぞれの文や段落を読んで理解する力 （3）正確に読み取った内容に関して自らの考えを持ち，クリティカル・ロジカルに思考する力 概要： 受講者にとって，身近なテーマを扱う文章や，最新の一般向け科学記事など，英語で書かれた生のテキストを精読します。テキストに関する様々な「なぜ？」を考えながら，論理的に思考していきます。	1. オリエンテーション 2. 「読み手」と「書き手」の責任 3. 書き手の立場になる：情報抽出の適切性 4. 書き手の立場になる：解釈と言語形式の関係 5. 「行間」を読むということ 6. 「行間」の上限 7. 文法（言語形式）と文脈（1）：含意 8. 文法（言語形式）と文脈（2）：百科事典的知識 9. 文法（言語形式）と曖昧性 10. 文法（言語形式）と根拠 11. 文章構成と論理関係（1）：接続詞・言語表示 12. 文章構成と論理関係（2）：流れ 13. 思考のアウトプットと論理関係 14. まとめ

到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	予習：テキストを読み，語句や一般知識（固有名詞など）について調べておく。また，読んで理解できなかったところをまとめておく。／復習：授業内容を整理し，改めて疑問点がないか確認する。
テキスト	授業で配付する。
参考文献	授業で適宜紹介する。
評価方法	定期試験（60%）と小テスト（40%）

13 年度以降	Reading Strategies I	担当者	野上　文子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、映画を題材に、アメリカの抱える社会問題や文化への理解を深め、原書の一部を読むことにより、さらなる探求心を深めることを目的とする。 英文読解力の向上に向け、単語力の増強を図る。 そのため、毎回、単語テストを行う。 また、リーディングの力だけではなく、発信力を鍛えるため、グループやペアでのディスカッションを行い、観たもの、読んだものを他者との意見交換を通して咀嚼し、より深い理解を目指す。	1. ガイダンス 2. Gone with the Wind 『風と共に去りぬ』Unit1 3. Gone with the Wind 『風と共に去りぬ』Unit2 4. Gone with the Wind 『風と共に去りぬ』Unit3 5. Gone with the Wind 『風と共に去りぬ』Unit3 6. Gone with the Wind 『風と共に去りぬ』Unit4 7. Gone with the Wind 『風と共に去りぬ』Unit4 8. ロールプレイプレゼンテーション 9. Little Women 『若草物語』Unit1 10. Little Women 『若草物語』Unit2 11. Little Women 『若草物語』Unit3 12. Little Women 『若草物語』Unit4 13. Little Women 『若草物語』Unit4 14. Review

到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に指定した課題を行い、事後に復習を行ってください。
テキスト	*American Spirits in Movies*　Seibido
参考文献	新 TOEIC R TEST 出る順で学ぶボキャブラリー990 神崎 正哉 著　講談社 2009 年
評価方法	平常点（40%）、単語テストを含む試験（60%）の総合評価とします。全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。

13 年度以降	Reading StrategiesⅡ	担当者	野上　文子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、映画を題材に、アメリカの抱える社会問題や文化への理解を深め、原書の一部を読むことにより、さらなる探求心を深めることを目的とする。 また、TOEICのスコア向上を目指し、単語力の増強を図り、読解問題の解答力を養成する。 そのため、毎回、単語テストを行う。 授業では、リーディングの力だけではなく、発信力を鍛えるため、グループやペアでのディスカッションを行い、観たもの、読んだものを他者との意見交換を通して咀嚼し、より深いを目指す。	1. ガイダンス 2. The Wizard of Oz『オズの魔法使い』Unit1 3. The Wizard of Oz『オズの魔法使い』Unit2 4. The Wizard of Oz『オズの魔法使い』Unit3 5. The Wizard of Oz『オズの魔法使い』Unit3 6. The Wizard of Oz『オズの魔法使い』Unit4 7. The Wizard of Oz『オズの魔法使い』Unit4 8. ロールプレイプレゼンテーション 9. To Kill a Mockingbird『アラバマ物語』Unit1 10. To Kill a Mockingbird『アラバマ物語』Unit2 11. To Kill a Mockingbird『アラバマ物語』Unit3 12. To Kill a Mockingbird『アラバマ物語』Unit4 13. To Kill a Mockingbird『アラバマ物語』Unit4 14. Review

到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に指定した課題を行い、事後に復習を行ってください。
テキスト	*American Spirits in Movies*　Seibido
参考文献	新 TOEIC R TEST 出る順で学ぶボキャブラリー990 神崎 正哉 著　講談社 2009 年
評価方法	平常点（40%）、単語テストを含む試験（60%）の総合評価とします。全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。

13 年度以降	Reading StrategiesⅢ	担当者	野上　文子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、映画を題材に、アメリカの抱える社会問題や文化への理解を深め、原書の一部を読むことにより、さらなる探求心を深めることを目的とする。 英文読解力の向上に向け、単語力の増強を図るため、毎回、単語テストを行う。 また、速読力、TOEIC解法力がつくよう、例文や長文問題を使用し、速読、音読も行う。 さらに、リーディングの力だけではなく、発信力を鍛えるため、グループやペアでのロールプレイやディスカッションを行い、観たもの、読んだものを他者との意見交換を通して咀嚼し、それを英語で発信できることを目指す。	1.　ガイダンス 2.　Gone with the Wind 『風と共に去りぬ』Unit1 3.　Gone with the Wind 『風と共に去りぬ』Unit2 4.　Gone with the Wind 『風と共に去りぬ』Unit3 5.　Gone with the Wind 『風と共に去りぬ』Unit3 6.　Gone with the Wind 『風と共に去りぬ』Unit4 7.　Gone with the Wind 『風と共に去りぬ』Unit4 8.　ロールプレイプレゼンテーション 9.　Little Women 『若草物語』Unit1 10.　Little Women 『若草物語』Unit2 11.　Little Women 『若草物語』Unit3 12.　Little Women 『若草物語』Unit4 13.　Little Women 『若草物語』Unit4 14.　Review

到達目標	１年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に指定した課題を行い、事後に復習を行ってください。
テキスト	*American Spirits in Movies*　Seibido
参考文献	新 TOEIC R Test でる順で学ぶボキャブラリー990
評価方法	平常点（40%）、単語テストを含む試験（60%）の総合評価とします。全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。

13 年度以降	Reading StrategiesⅣ	担当者	野上　文子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、映画を題材に、アメリカの抱える社会問題や文化への理解を深め、原書の一部を読むことにより、さらなる探求心を深めることを目的とする。 英文読解力の向上に向け、単語力の増強を図るため、毎回、単語テストを行う。 また、速読力、TOEIC解法力がつくよう、例文や長文問題を使用し、速読、音読も行う。 さらに、リーディングの力だけではなく、読む、書く、聞く、話すの4技能習得を目指し、グループやペアでのロールプレイやディスカッションを行い、観たもの、読んだものを他者との意見交換を通して咀嚼し、それを英語で発信することを目指す。	1.　ガイダンス 2.　The Wizard of Oz『オズの魔法使い』Unit1 3.　The Wizard of Oz『オズの魔法使い』Unit2 4.　The Wizard of Oz『オズの魔法使い』Unit3 5.　The Wizard of Oz『オズの魔法使い』Unit3 6.　The Wizard of Oz『オズの魔法使い』Unit4 7.　The Wizard of Oz『オズの魔法使い』Unit4 8.　ロールプレイプレゼンテーション 9.　To Kill a Mockingbird『アラバマ物語』Unit1 10.　To Kill a Mockingbird『アラバマ物語』Unit2 11.　To Kill a Mockingbird『アラバマ物語』Unit3 12.　To Kill a Mockingbird『アラバマ物語』Unit4 13.　To Kill a Mockingbird『アラバマ物語』Unit4 14.　Review

到達目標	１年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に指定した課題を行い、事後に復習を行ってください。
テキスト	*American Spirits in Movies*　Seibido
参考文献	新 TOEIC R Test でる順で学ぶボキャブラリー990
評価方法	平常点（40%）、単語テストを含む試験（60%）の総合評価とします。全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。

13 年度以降	Reading StrategiesⅢ	担当者	河原　宏之

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は、英語における語彙力の増強、および読む目的に応じて精読や速読など味わい方や読み方を変えて読むことができるようになる技術学習である。 Vocabulary building: 文脈や接辞を利用して知らない単語の意味を推測したり、単語の用法を学んだりする。 Intensive reading: 文章の中での言葉遣いや文中に込められた背景的知識にも注目して読む。一度に読む量は少なくても文章を味わって読む読み方。文学作品（散文、詩、演劇など）やジャーナリスティックな文、論文などを教材として用いる。 Faster reading：ScanningやSkimmingの技法も含めて、短時間に多くの文を読むことを実践的に学ぶ。 オンライン学習プログラム：交流文化学科のカリキュラムの一環として、オンライン学習プログラムを課外学習用に採用している。これに沿っての日々の練習度合いが成績の一部に反映される。	1・講義の概要 2・At an Airports 3・Telephone Message 4・Language Barrier: Translators 5・Water, please 6・The Magic of Disney 7・Balancing Studies and a Part-Time Job 8・Convenience Stores 9・Japanese Loan Words 10・Diet and Health 11・Sensory Branding 12・Time to take a Nap 13・Artificial Intelligence 14・まとめ ※ 上記内容が変更する場合もあります。 ※ 初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。

到達目標	１年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業前に Intensive Reading は訳せるレベルでの読み込みを行ってください。 授業後に演習読解は習った語彙と構文の復習を行ってください。
テキスト	テキスト：初回授業にて指示します。
参考文献	—
評価方法	平常点（30%）、試験（40%）、オンライン学習プログラム（30%）の総合評価とします。出席は全体の1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。

13 年度以降	Reading StrategiesⅣ	担当者	河原　宏之

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は、英語における語彙力の増強、および読む目的に応じて精読や速読など味わい方や読み方を変えて読むことができるようになる技術学習である。 Vocabulary building: 文脈や接辞を利用して知らない単語の意味を推測したり、単語の用法を学んだりする。 Intensive reading: 文章の中での言葉遣いや文中に込められた背景的知識にも注目して読む。一度に読む量は少なくても文章を味わって読む読み方。文学作品（散文、詩、演劇など）やジャーナリスティックな文、論文などを教材として用いる。 Faster reading：ScanningやSkimmingの技法も含めて、短時間に多くの文を読むことを実践的に学ぶ。 オンライン学習プログラム：交流文化学科のカリキュラムの一環として、オンライン学習プログラムを課外学習用に採用している。これに沿っての日々の練習度合いが成績の一部に反映される。	1・講義の概要 2・Campus Life in the U.S. 3・Cosmetic Surgery 4・Japanese Hostages Released 5・Great Inventions 6・The Titanic 7・Brain Training 8・The Incas 9・Making Sense of Numbers 10・Pickpockets and Purse Snatchers 11・Panda Facts and Stories 12・Women in Society 13・Why Do We Lie? 14・まとめ ※ 上記内容が変更する場合もあります。 ※ 初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。

到達目標	１年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業前に Intensive Reading は訳せるレベルでの読み込みを行ってください。 授業後に演習読解は習った語彙と構文の復習を行ってください。
テキスト	テキスト：初回授業にて指示します。
参考文献	—
評価方法	平常点（30%）、試験（40%）、オンライン学習プログラム（30%）の総合評価とします。出席は全体の1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。

13 年度以降	Reading StrategiesⅢ	担当者	関根　路代

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、Reading Strategies Ⅰ，Ⅱで学習したことを踏まえ、さまざまな文章や文体を以下の活動を通して、戦略的に読むことを目的とする。 1) Vocabulary Building: 文脈や接辞を利用して知らない単語の意味を推測し、単語の用法を学ぶ。 2) Intensive Reading: 文章の中での言葉遣いや文中に込められた背景的知識に注目して読む。 3) Faster Reading: scanningやskimmingの技法も含め、短時間に多くの文を読む。 4) Effective Reading: 読む目的に合わせて精読したり速読したりして、柔軟に読む方法を身につける。 また、毎回の授業で個人やグループでのプレゼンテーション及び、ディスカッションを行う。	1. オリエンテーション 2. *Absolutely True Diary of Part-Time Indian* 3. “The Joy of Reading and Writing: Superman and Me” 4. “Turkeys in the Kitchen” 5. “Learning to Read and Write” 6. “Salvation” 7. “Two Ways to Belong in America” 8. “A Hidden Cost to Giving Kids Their Vegetables” 9. “Young, Transgender and Acting on TV” 10. “Carrying a Ladder,” “Added Significance” 11. *On the Road* ①：イントロ 12. *On the Road* ②：キャラクター分析 13. *On the Road* ③：時代背景 14. Summary

到達目標	1 年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で扱う文献を事前に精読しておくこと。また、授業後に出す課題を次回に提出すること。
テキスト	初回の授業にて指示する。
参考文献	授業中に適宜紹介する。
評価方法	授業内での発表と参加度（20%）、課題（20%）、レポート（30%）、オンライン学習プログラム（30%） 出席は全体の 1/3 以上を欠席するとその時点で単位認定不能となります。

13 年度以降	Reading StrategiesⅣ	担当者	関根　路代

講義目的、講義概要	授業計画
春に引き続き本講義では、さまざまな文章や文体を以下の活動を通して、戦略的に読むことを目的とする。 1) Vocabulary Building: 文脈や接辞を利用して知らない単語の意味を推測し、単語の用法を学ぶ。 2) Intensive Reading: 文章の中での言葉遣いや文中に込められた背景的知識に注目して読む。 3) Faster Reading: scanningやskimmingの技法も含め、短時間に多くの文を読む。 4) Effective Reading: 読む目的に合わせて精読したり速読したりして、柔軟に読む方法を身につける。 また、毎回の授業で個人やグループでのプレゼンテーション及び、ディスカッションを行う。	1. オリエンテーション 2. “The Ways We Lie” ① “The White Lie” 3. “The Ways We Lie” ② “Out-And-Out Lies” 4. “The Ugly Tourist” 5. “Ripples on the Surface” 6. “Japanese Plant Seeds of Baseball in Africa” 7. “Don’t punch the dolphins” 8. “Right to be Forgotten” 9. *Cannery Row* ① Intro 10. *Cannery Row* ② プレゼン Ch. 1 11. *Cannery Row* ③ プレゼン Ch. 2、3 12. *Cannery Row* ④ プレゼン Ch. 4、5 13. *Cannery Row* ⑤ プレゼン Ch. 6 14. Summary

到達目標	1 年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で扱う文献を事前に精読しておくこと。また、授業後に出す課題を次回に提出すること。
テキスト	初回の授業にて指示する。
参考文献	授業中に適宜紹介する。
評価方法	授業内での発表と参加度（20%）、課題（20%）、レポート（30%）、オンライン学習プログラム（30%） 出席は全体の 1/3 以上を欠席するとその時点で単位認定不能となります。

13 年度以降	Reading StrategiesⅢ（水 2）	担当者	白川　貴子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　この講義では語彙を増やし、文法を踏まえた上で、目的に応じて多角的に英文を読みとる力を養います。 講義概要 　テキストを読み、わかったつもりから確かな理解へと読解力を磨いていきます。発表や小テスト、ディスカッションなども取り入れます。詳細は初回のオリエンテーションで説明しますので、オリエンテーションには必ず出席してください。 　なお、課外学習用にオンライン学習プログラムを採用します。 　授業には毎回必ず辞書を持参すること。	1.　オリエンテーション 2.　リーディング演習　教科書Unit 1 3.　リーディング演習　教科書Unit 2 4.　リーディング演習　教科書Unit 3 5.　リーディング演習　教科書Unit 4 6.　リーディング演習　教科書Unit 5 7.　リーディング演習　教科書Unit 6 8.　リーディング演習　教科書Unit 7 9.　リーディング演習　教科書Unit 8 10.　リーディング演習　教科書Unit 9 11.　リーディング演習　教科書Unit 10 12.　リーディング演習　教科書Unit 11 13.　リーディング演習　教科書Unit 12 14.　総括

到達目標	1年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回指定された箇所を予習しておいてください。
テキスト	初回に指示します。
参考文献	必要に応じ、適宜プリントを配布します。
評価方法	提出物（小テスト、課題）および授業参加態度 75%、オンライン学習プログラム 25%

13 年度以降	Reading StrategiesⅣ（水 2）	担当者	白川　貴子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　春学期に引き続き、リーディングの力を強化していきます。春学期で身につけた読解力を定着させ、発展させることを目指します。 講義概要 　具体的な詳細は初回のオリエンテーションで説明します。オリエンテーションには必ず出席してください。 　毎回必ず辞書を持参すること。 　なお、課外学習用にオンライン学習プログラムを採用します。	1.　オリエンテーション 2.　リーディング演習　教科書Unit 1 3.　リーディング演習　教科書Unit 2 4.　リーディング演習　教科書Unit 3 5.　リーディング演習　教科書Unit 4 6.　リーディング演習　教科書Unit 5 7.　リーディング演習　教科書Unit 6 8.　リーディング演習　教科書Unit 7 9.　リーディング演習　教科書Unit 8 10.　リーディング演習　教科書Unit 9 11.　リーディング演習　教科書Unit 10 12.　リーディング演習　教科書Unit 11 13.　リーディング演習　教科書Unit 12 14.　総括

到達目標	1年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回指定された箇所を予習しておいてください。
テキスト	初回に指示します。
参考文献	必要に応じ、適宜プリントを配布します。
評価方法	提出物（小テスト、課題）および授業参加態度 75%、オンライン学習プログラム 25%

13 年度以降	Reading StrategiesⅢ（水 1）	担当者	白川　貴子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　この講義では語彙を増やし、文法を踏まえた上で、目的に応じて多角的に英文を読みとる力を養います。 講義概要 　テキストを読み、わかったつもりから確かな理解へと読解力を磨いていきます。発表や小テスト、ディスカッションなども取り入れます。詳細は初回のオリエンテーションで説明しますので、オリエンテーションには必ず出席してください。 　なお、課外学習用にオンライン学習プログラムを採用します。 　授業には毎回必ず辞書を持参すること。	1.　オリエンテーション 2.　リーディング演習　教科書Unit 1 3.　リーディング演習　教科書Unit 2 4.　リーディング演習　教科書Unit 3 5.　リーディング演習　教科書Unit 4 6.　リーディング演習　教科書Unit 5 7.　リーディング演習　教科書Unit 6 8.　リーディング演習　教科書Unit 7 9.　リーディング演習　教科書Unit 8 10.　リーディング演習　教科書Unit 9 11.　リーディング演習　教科書Unit 10 12.　リーディング演習　教科書Unit 11 13.　リーディング演習　教科書Unit 12 14.　総括

到達目標	1年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回指定された箇所を予習しておいてください。
テキスト	初回に指示します。
参考文献	必要に応じ、適宜プリントを配布します。
評価方法	提出物（小テスト、課題）および授業参加態度 75%、オンライン学習プログラム 25%

13 年度以降	Reading StrategiesⅣ（水 1）	担当者	白川　貴子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　春学期に引き続き、リーディングの力を強化していきます。春学期で身につけた読解力を定着させ、発展させることを目指します。 講義概要 　具体的な詳細は初回のオリエンテーションで説明します。オリエンテーションには必ず出席してください。 　毎回必ず辞書を持参すること。 　なお、課外学習用にオンライン学習プログラムを採用します。	1.　オリエンテーション 2.　リーディング演習　教科書Unit 1 3.　リーディング演習　教科書Unit 2 4.　リーディング演習　教科書Unit 3 5.　リーディング演習　教科書Unit 4 6.　リーディング演習　教科書Unit 5 7.　リーディング演習　教科書Unit 6 8.　リーディング演習　教科書Unit 7 9.　リーディング演習　教科書Unit 8 10.　リーディング演習　教科書Unit 9 11.　リーディング演習　教科書Unit 10 12.　リーディング演習　教科書Unit 11 13.　リーディング演習　教科書Unit 12 14.　総括

到達目標	1年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回指定された箇所を予習しておいてください。
テキスト	初回に指示します。
参考文献	必要に応じ、適宜プリントを配布します。
評価方法	提出物（小テスト、課題）および授業参加態度 75%、オンライン学習プログラム 25%

13 年度以降	Reading StrategiesⅢ	担当者	玉井　昇

講義目的、講義概要	授業計画
The purpose of this course is to help students improve their English language skills of reading. Through extensive reading, students are expected not only to increase English vocabulary and to read intensively in order to understand the content, but also to read faster using reading skills like scanning or skimming, and to paraphrase the text in their own “English” words. Reading materials such as news stories in press will be selected and offered in the course. Basically, this course is conducted in English but explained in Japanese where necessary. In order to learn correct, natural and real English, the students are strongly recommended to use an English-English dictionary. Note: This course syllabus might be changed if needed after starting.	1. Introduction for Reading: how to study, etc. 2. Reading (1) (Target: Predicting Context / Pictures) 3. Reading (2) (Target: Skimming / Topic & main idea) 4. Reading (3) (Target: Scanning / Finding figures) 5. Reading (4) (Target: Making Notes / lists) 6. Reading (5) (Target: Predicting Context / Title) 7. Midterm Exam & Introduction for Second Half 8. Reading (6) (Target: Skimming / summaries) 9. Reading (7) (Target: Scanning / Finding facts) 10. Reading (8) (Target: Making Notes / diagrams) 11. Reading (9) (Target: Predicting Context / First part) 12. Reading (10) (Target: Skimming / Writer’s opinions) 13. Reading (11) (Target: Total Skills) 14. Course Review & Preparing for Final Exam Note: These plans might be changed if needed.

到達目標	1年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to come to class fully (or at least adequately) prepared.
テキスト	To be announced (planning to use materials such as news stories in press).
参考文献	To be announced (planning to use materials such as news stories in press).
評価方法	Final grade will be based on the following: 30% Participation and Preparedness; 20% Quizzes and Writing Assignments; and 50% Mid-term and Final Examinations.

13 年度以降	Reading StrategiesⅣ	担当者	玉井　昇

講義目的、講義概要	授業計画
The purpose of this course is to help students improve their English language skills of reading. Through extensive reading, students are expected not only to increase English vocabulary and to read intensively in order to understand the content, but also to read faster using reading skills like scanning or skimming, and to paraphrase the text in their own “English” words. Reading materials such as news stories in press will be selected and offered in the course. Basically, this course is conducted in English but explained in Japanese where necessary. In order to learn correct, natural and real English, the students are strongly recommended to use an English-English dictionary. Note: This course syllabus might be changed if needed after starting.	1. Introduction for Reading: how to study, etc. 2. Reading (1) (Target: Predicting Context / Pictures) 3. Reading (2) (Target: Skimming / Topic & main idea) 4. Reading (3) (Target: Scanning / Finding figures) 5. Reading (4) (Target: Making Notes / lists) 6. Reading (5) (Target: Predicting Context / Title) 7. Midterm Exam & Introduction for Second Half 8. Reading (6) (Target: Skimming / summaries) 9. Reading (7) (Target: Scanning / Finding facts) 10. Reading (8) (Target: Making Notes / diagrams) 11. Reading (9) (Target: Predicting Context / First part) 12. Reading (10) (Target: Skimming / Writer’s opinions) 13. Reading (11) (Target: Total Skills) 14. Course Review & Preparing for Final Exam Note: These plans might be changed if needed.

到達目標	1 年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to come to class fully (or at least adequately) prepared.
テキスト	To be announced (planning to use materials such as news stories in press).
参考文献	To be announced (planning to use materials such as news stories in press).
評価方法	Final grade will be based on the following: 30% Participation and Preparedness; 20% Quizzes and Writing Assignments; and 50% Mid-term and Final Examinations.

13 年度以降	Writing Strategies I	担当者	伊藤　兵馬

講義目的、講義概要	授業計画
The main purpose of this course is to help students write English sentences using correct grammar. Furthermore, the course makes students aware of commonly made mistakes and at the same time, it introduces self-help strategies to help students analyze problems and revise their writing. This course is conducted using a textbook or other materials selected by the instructor. Students enrolled in this course are expected to engage in various exercises and activities suggested by the instructor. This course is taught in English.	1. Introduction 2. Selected Text Chapter 1/ Overview 3. Selected Text Chapter 1/ Discussion 4. Selected Text Chapter 1/ Review 5. Selected Text Chapter 2/ Overview 6. Selected Text Chapter 2/ Discussion 7. Selected Text Chapter 2/ Review 8. Selected Text Chapter 3/ Overview 9. Selected Text Chapter 3/ Discussion 10. Selected Text Chapter 3/ Review 11. Selected Text Chapter 4/ Overview 12. Selected Text Chapter 4/ Discussion 13. Selected Text Chapter 4/ Review 14. Course Review

到達目標	単文の英訳技能のポイント、および英語で論文を作成するために必要なアカデミック・ライティング・スキルの基礎を習得し、正確な英文章を書くことができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare for each class by reviewing lecture and class discussion notes.
テキスト	To be announced.
参考文献	To be announced.
評価方法	Evaluations will be made according to participation (20%), quizzes/assignments (20%), and examinations (60%). Details will be explained by the instructor in the first class.

13 年度以降	Writing Strategies II	担当者	伊藤　兵馬

講義目的、講義概要	授業計画
This course is designed to help students write a coherent paragraph, which is a necessary process in composing most forms of academic, business, professional and general-purpose writing in English. The course will focus on various aspects of good writing such as how to organize paragraph structures and use certain paragraph patterns. This course is conducted using a textbook or other materials selected by the instructor. Students enrolled in this course are expected to engage in various exercises and activities suggested by the instructor. This course is taught in English.	1. Introduction 2. Selected Text Chapter 5/ Overview 3. Selected Text Chapter 5/ Discussion 4. Selected Text Chapter 5/ Review 5. Selected Text Chapter 6/ Overview 6. Selected Text Chapter 6/ Discussion 7. Selected Text Chapter 6/ Review 8. Selected Text Chapter 7/ Overview 9. Selected Text Chapter 7/ Discussion 10. Selected Text Chapter 7/ Review 11. Selected Text Chapter 8/ Overview 12. Selected Text Chapter 8/ Discussion 13. Selected Text Chapter 8/ Review 14. Course Review

到達目標	「Writing Strategies I 」の学習成果のうえに、単文の英訳技能、および英語で論文を作成するために必要なアカデミック・ライティング・スキルを向上させ、より正確な英文章を書くことができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare for each class by reviewing lecture and class discussion notes.
テキスト	To be announced.
参考文献	To be announced.
評価方法	Evaluations will be made according to participation (20%), quizzes/assignments (20%), and examinations (60%). Details will be explained by the instructor in the first class.

13 年度以降	Writing Strategies I	担当者	L．G．ボンド

講義目的、講義概要	授業計画
This course will focus on developing writing skills by examining various grammatical points and structures to write simple and complex/compound sentences. Then students will focus on writing simple paragraphs. Common mistakes and how to avoid them will be also introduced to the students. Self-help techniques as well as peer checking and reviewing will also be incorporated in this course. This course will be learner-centered in nature, and students will be expected to complete homework assignments for each week. Students will also be expected to keep an English journal throughout the entire course.	1. Course Introduction, Self-introduction 2. Verb tenses 3. Nouns, Pronouns, Articles 4. Modals 5. Passive Voice 6. Clauses (Adjective and Noun) 7. Connecting Ideas / Mid-term Assessment 8. Topic Sentences 9. Main ideas and supporting details 10. Descriptive Paragraphs 11. Comparison Writing 12. Contrast Paragraphs 13. Key Words and Summary Writing 14. Consolidation / Final Assessment

到達目標	単文の英訳技能のポイント、および英語で論文を作成するために必要なアカデミック・ライティング・スキルの基礎を習得し、正確な英文章を書くことができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will be expected to do the grammar review and homework for each class as well as keep an English journal throughout the course.
テキスト	Materials will be provided in class.
参考文献	Longman Dictionary of Contemporary English or a similar dictionary. Grammar reference book.
評価方法	Students will be assessed on class participation (20%), journal writing (20%), writing assignments (20%) and mid-term and end-term assessments (40%).

13 年度以降	Writing Strategies Ⅱ	担当者	L．G．ボンド

講義目的、講義概要	授業計画
This course will focus on continuing to develop the writing skills studied in the spring semester by examining various purposes of writing. Students will write simple paragraphs and develop their writing in to short essays during the course. Common mistakes and how to avoid them will be also introduced to the students. Self-help techniques as well as peer checking and reviewing will also be incorporated in this course. This course will be learner-centered in nature, and students will be expected to complete homework assignments for each week. Students will also be expected to keep an English journal throughout the entire course.	1. Course Introduction, Reporting 2. Processes, Time 3. Descriptions, Space 4. Explanation paragraphs 5. Essay questions 6. Resources and Citations 7. Opinions / Mid-term Assessment 8. Problems and Solutions 9. Resume and Cover Letters 10. Business letters 11. Short Essay Writing (1) Outline, Research 12. Short Essay Writing (2) Writing, Re-writing 13. Final Assessment 14. Consolidation and Summary

到達目標	「Writing Strategies I 」の学習成果のうえに、単文の英訳技能、および英語で論文を作成するために必要なアカデミック・ライティング・スキルを向上させ、より正確な英文章を書くことができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will be expected to do the grammar review and homework for each class as well as keep an English journal throughout the course.
テキスト	Materials will be provided in class.
参考文献	Longman Dictionary of Contemporary English or a similar dictionary. Grammar reference book.
評価方法	Students will be assessed on class participation (20%), journal writing (20%), writing assignments (20%) and mid-term and end-term assessments (40%).

13 年度以降	Writing Strategies I	担当者	R．J．バロウズ

講義目的、講義概要	授業計画
This course will enable students to master basic paragraph structuring to through a process approach. Areas covered will include generating ideas, organizing, drafting, reviewing & revising. In addition to regular homework assignments, students will be expected to produce a number of printed reports on subjects of their own choosing. It is necessary to have access to a computer & printer as hand-written assignments will not be accepted. In addition to regular attendance, students must bring a dictionary to class each week, if possible, an electronic one.	Week1 Course Introduction Week2 Beginning to Work Week3 Giving & Receiving Presents Week4 A Favourite Place Week5 An Exceptional Person Week6 Trends & Fads Week7 White Lies Week8 Explanations & Excuses Week9 Problems Week10 Strange Stories Week11 Differences Week12 Difficult Decisions Week13 Finding Answers Week14 Timed Reports

到達目標	単文の英訳技能のポイント、および英語で論文を作成するために必要なアカデミック・ライティング・スキルの基礎を習得し、正確な英文章を書くことができるようにする。
事前・事後学修の内容	Exercises from the text book will be set as homework (30 minutes) Report preparation (30 minutes+)
テキスト	*'Writing Paragraphs'* by Dorothy Zemach & Carlos Islam
参考文献	An electronic or smartphone dictionary will be required at all classes
評価方法	30% Class work, 40% Homework Reports 30% Final Report

13 年度以降	Writing StrategiesⅡ	担当者	R．J．バロウズ

講義目的、講義概要	授業計画
This course will take students from paragraph structuring to essay writing through a process approach. Areas covered will include generating ideas, organizing, drafting, reviewing & revising. In addition to regular homework assignments, students will be expected to produce a number of printed reports on subjects of their own choosing. It is necessary to have access to a computer & printer as hand-written assignments will not be accepted. In addition to regular attendance, students must bring a dictionary to class each week, if possible, an electronic one.	Week1 Process & Pre-Writing Week2 The Structure of a Paragraph Week3 The Development of a Paragraph Week4 Descriptive & Process Paragraphs Week5 Opinion Paragraphs Week6 Comparison & Contrast Paragraphs Week7 Problem/Solution Paragraphs Week8 he Structure of an Essay Week9 Outlining an Essay Week10 Introductions &Conclusions Week11 Unity & Coherence Week12 Footnotes, References & Citations Week13 Essays for Examinations Week14 Plagiarism

到達目標	「Writing Strategies I 」の学習成果のうえに、単文の英訳技能、および英語で論文を作成するために必要なアカデミック・ライティング・スキルを向上させ、より正確な英文章を書くことができるようにする。
事前・事後学修の内容	Exercises from the text book will be set as homework (30 minutes) Report preparation (30 minutes+)
テキスト	*'Writing Essays'* by Dorothy Zemach & Lisa Ghulldu
参考文献	An electronic or smartphone dictionary will be required at all classes
評価方法	30% Class work, 40% Homework Reports 30% Final Report

13 年度以降	Writing Strategies I	担当者	N．ハミルトン

講義目的、講義概要	授業計画
This course will enable students to master the basic paragraph structuring and writing skills in English. Areas covered will include brainstorming, organising, drafting, reviewing and revising. In addition to regular homework assignments, students will be expected to produce a number of printed Reports on subjects of their own choosing. It is necessary to have access to a computer and a printer as hand written assignments will not be accepted. In addition to regular attendance, students should bring a dictionary to class each week, an electronic one is preferable. I aim to make this an enjoyable Writing course!	Week1 Course and Self Introductions! Week2 Unit 1 -Beginning to Work Week3 Unit 1 - Giving and receiving Presents Week4 Unit 1 - A Favourite Place Week5 Unit 2 - An Exceptional Person Week6 Unit 2 - Trends and Fads Week7 Unit 3 -White Lies Week8 Unit 3 - Explanations and Excuses Week9 Unit 3 - Problems Week10 Unit 4 - Strange Stories Week11 Unit 4 - Differences Week12 Unit 4 - Difficult Decisions Week13 Unit 5 - Finding Answers Week14 Unit 5 - Timed Reports

到達目標	単文の英訳技能のポイント、および英語で論文を作成するために必要なアカデミック・ライティング・スキルの基礎を習得し、正確な英文章を書くことができるようにする。
事前・事後学修の内容	Exercises from the textbook will be set as homework (30 minutes) Report preparation (30 minutes plus)
テキスト	Writing Paragraphs by Dorothy Zemach and Carlos Islam
参考文献	Electronics Dictionary
評価方法	Class Work 30% Homework Reports 40% Final Report 30%

13 年度以降	Writing StrategiesⅡ	担当者	N．ハミルトン

講義目的、講義概要	授業計画
This course will take students from Paragraph Structuring to Essay Writing through a process approach. Areas covered will include Brainstorming/generating ideas, organising, drafting, reviewing and revising. In addition to regular homework assignments, students will be expected to produce a number of printed reports on subjects of their own choosing. It is necessary to have access to a computer and a printer as handwritten assignments will not be accepted. In addition to regular attendance, students should bring an electronic dictionary. Lets enjoy this Writing Class!	Week1 Process and Pre-Writing Week2 The Structure of a Paragraph Week3 The Development of a Paragraph Week4 Descriptive and Process Paragraphs Week5 Opinion Paragraphs Week6 Comparison and Contrast Paragraphs Week7 Problem/Solution Paragraphs Week8 The Structure of an Essay Week9 Outlining an Essay Week10 Introductions and Conclusions Week11 Unity and Coherence Week12 Footnotes, References and Citations Week13 Essays for Examinations Week14 Plagarism

到達目標	「Writing Strategies I 」の学習成果のうえに、単文の英訳技能、および英語で論文を作成するために必要なアカデミック・ライティング・スキルを向上させ、より正確な英文章を書くことができるようにする。
事前・事後学修の内容	Exercises from the textbook will be set as Homework (30 minutes) Report Preparation (30 minutes plus)
テキスト	“Writing Essays” by Dorothy Zemach and Lisa Ghulldu
参考文献	An electronic or Smartphone Dictionary required
評価方法	Class Work 30% Homework Reports 40%　Final Report 30%

13 年度以降	Writing Strategies I	担当者	D．グライムズ

講義目的、講義概要	授業計画
The purpose of this course is to give students a solid understanding of how to write a well-structured paragraph through a variety of academic-style writing tasks.　The students will be taught several strategies to generate and organize their writing ideas. Emphasis will be placed on composition, organization, and content of writing, however, some grammar and vocabulary building will also be covered. Overall Objectives 1. To teach how to write a well-structured paragraph. 2. To help students write about their own ideas and experiences. 3. To teach the skills necessary for students to revise their work effectively. 4. To increase student computer literacy skills.	1. Introduction 2. Opinion Paragraph / Recognizing Factors 3. The Topic Sentence 4. Paragraph Overview / Concluding Sentence 5. Revising / Writing Workshop 6. Descriptive Paragraph / Sense Detail 7. Cutting and Adding Detail / Mind Map 8. Concluding Sentences / Since and Because 9. Revising / Writing Workshop 10. Narrative Paragraph / Spider Map 11. Analyzing a Topic Sentence / Present Perfect 12. Concluding a Narrative / Demonstratives 13. Revising / Writing Workshop 14. Review and Wrap-up

到達目標	単文の英訳技能のポイント、および英語で論文を作成するために必要なアカデミック・ライティング・スキルの基礎を習得し、正確な英文章を書くことができるようにする。
事前・事後学修の内容	Before class, students are required to read text and handouts assigned. After class, students are required to do all homework tasks set (brainstorming, writing drafts, doing exercises, etc.).
テキスト	Pavlic & Segal, *Interactions 2 Writing, Silver Edition.* McGraw Hill
参考文献	—
評価方法	Assignments–75%　　In-class Participation –25%

13 年度以降	Writing Startegies II	担当者	D．グライムズ

講義目的、講義概要	授業計画
The purpose of this course is to give students an understanding of how to write more complex compositions. Students will move from writing one-paragraph compositions to complete essays through a gradual step-by-step process. As before, emphasis will be placed on composition, organization, and content of writing, however, some grammar and vocabulary building will also be covered. Overall Objectives 1. To teach the various patterns of short essay organization. 2. To make the students more aware of the editing process through peer-review. 3. To teach the skills necessary for students to revise their work effectively. 4. To increase student computer literacy skills.	1. Introduction / Narrative Essay (Anecdotes) 2. Topic and Introduction Sentence / Timeline Organizer 3. Using Two Paragraphs /Past Perfect 4. Identifying Omissions / Identifying Digressions 5. Revising / Writing Workshop 6. Argument Essay / Generating Ideas via Discussion 7. Making Arguments – Reasons and Supporting Detail 8. Organization an Argument / Editing for Grammar 9. Revising / Writing Workshop 10. Compare and Contrast Essay / Choose a topic 11. Venn Diagrams / Introductory Paragraph 12. Concluding Paragraph / Comparatives 13. Revising / Writing Workshop 14. Review and Wrap-up

到達目標	「Writing Strategies I 」の学習成果のうえに、単文の英訳技能、および英語で論文を作成するために必要なアカデミック・ライティング・スキルを向上させ、より正確な英文章を書くことができるようにする。
事前・事後学修の内容	Before class, students are required to read all handouts and articles assigned. After class, students are required to do all homework tasks set (write introductions, do research, have group meetings, etc.)
テキスト	Pavlic & Segal, *Interactions 2 Writing, Silver Edition.* McGraw Hill
参考文献	—
評価方法	Assignments–75%　　In-class Participation –25%

13 年度以降	Comprehensive English I	担当者	L．G．ボンド

講義目的、講義概要	授業計画
Students in this course will develop critical thinking skills as well as continue to expand their listening and speaking abilities. The course will be learner-centered in nature, and activities will be centered on the topics presented in the textbook. Discussion techniques, presentation skills, speech skills and conversation techniques will all be covered in this course. Students will be expected to speak on a given topic for 10 minutes. This course will be in English and "Learner-centered" in nature. Students will be expected to work in pairs and groups to complete tasks, and active participation in discussions will be essential. Students should come to class willing to participate and work with others to make this class a success.	1. Course introduction, Self-introductions 2. Unit 1: Overview 3. Unit 1: Development of topic 4. Unit 1: Consolidation and group presentation 5. Unit 2: Overview 6. Unit 2: Development of topic 7. Unit 2: Consolidation and debate 8. Unit 3: Overview 9. Unit 3: Development of topic 10. Unit 3: Consolidation and pair presentation 11. Unit 4: Overview 12. Unit 4: Development of topic 13. Unit 4: Consolidation and pair presentation 14. Final Class: Summary, Consolidation and Assessment

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Read material prior to class, prepare for class discussion, and review vocabulary and grammatical structures.
テキスト	21 Century Comunication 4;　Listening, Speaking and Critical Thinking (Cengage).
参考文献	Reference material and appropriate dictionaries for study will be recommended in class.
評価方法	Grades are based on the following: in-class participation, 50%; quizzes, 25%; presentations, 25%.

13 年度以降	Comprehensive English II	担当者	L．G．ボンド

講義目的、講義概要	授業計画
Students in this course will develop critical thinking skills as well as continue to expand their listening and speaking abilities. The course will be learner-centered in nature, and activities will be centered on the topics presented in the textbook. Discussion techniques, presentation skills, speech skills and conversation techniques will all be covered in this course. Students will be expected to speak on a given topic for 10 minutes. This course will be in English and "Learner-centered" in nature. Students will be expected to work in pairs and groups to complete tasks, and active participation in discussions will be essential. Students should come to class willing to participate and work with others to make this class a success.	1. Course introduction and Vacation Chat 2. Unit 5: Overview 3. Unit 5: Development of topic 4. Unit 5: Consolidation and individual presentation 5. Unit 6: Overview 6. Unit 6: Development of topic 7. Unit 6: Consolidation and role-play 8. Unit 7: Overview 9. Unit 7: Development of topic 10. Unit 7: Consolidation and group presentation 11. Unit 8: Overview 12. Unit 8: Development of topic 13. Unit 8: Consolidation and individual presentation 14. Final Class: Summary, Consolidation and Assessment

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Read material prior to class, prepare for class discussion, and review vocabulary and grammatical structures.
テキスト	21 Century Comunication 4;　Listening, Speaking and Critical Thinking (Cengage).
参考文献	Reference material and appropriate dictionaries for study will be recommended in class.
評価方法	Grades are based on the following: in-class participation,50%; quizzes, 25%; presentations, 25%

13 年度以降	Comprehensive English I	担当者	N．A．カナロス

講義目的、講義概要	授業計画
This required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school. Overall Objectives 1. To give students maximum opportunities to communicate 2. To build student confidence in interpersonal communication 3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution	1. Course introduction 2. Small group discussion skills 3. Small group presentation skills 4. Small group discussion and presentation 5. Small group discussion and presentation 6. Small group discussion and presentation 7. Small group discussion and presentation 8. Large group discussion skills 9. Large group presentation skills 10. Large group discussion and presentation 11. Large group discussion and presentation 12. Large group discussion and presentation 13. Large group discussion and presentation 14. Speaking evaluation

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Homework will be given each week. Students are expected to preview the readings before class.
テキスト	No textbook is required for this class. Materials and readings will be provided by the instructor.
参考文献	none
評価方法	Grades will be based on classroom participation 40%, homework assignments 20%, presentations 20%, speaking test 20%

13 年度以降	Comprehensive English II	担当者	N．A．カナロス

講義目的、講義概要	授業計画
This required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer. Overall Objectives 1. To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing 2. To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills 3. To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context	1. Course introduction 2. Narrative listening and speaking skills 3. Communication through narrative 4. Communication through narrative 5. Narrative writing 6. Narrative presentations 7. Narrative presentations 8. Active viewing skills 9. Video viewing and discussion 10. Video viewing and discussion 11. Video viewing and discussion 12. Video viewing and discussion 13. Video viewing and discussion 14. Communication evaluation

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Homework will be given each week. Students are expected to preview the readings before class.
テキスト	Oxford University Press, Pride and Prejudice.
参考文献	none
評価方法	Grades will be based on classroom participation 40%, homework assignments 20%, presentations 20%, speaking test 20%

13 年度以降	Comprehensive English I	担当者	P．マッケビリー

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term once-a-week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school. <u>Overall Objectives</u> 1. To give students maximum opportunities to communicate 2. To build student confidence in interpersonal communication 3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution	Week 1- Introductions Week 2- Getting to know you Week 3- Best friends Week 4- The way we live Week 5- Tales of two cities Week 6- What happened next? Week 7- The Man with The Golden Gun Week 8- Midterm Exam Week 9- The marketplace Week 10- Markets around the world Week 11- What do you want to do? Week 12- Brat camp Week 13- Places and things Week 14- Review & Final Examination

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to spend 90 minutes each to preview and review course content – the textbook and I recommend that they read English newspaper articles and look at English language websites. CNN news programs
テキスト	American Headway 2 (Second Edition) by John and Liz Soars, Oxford University Press
参考文献	特になし
評価方法	Class participation – 40%, Midterm Exam – 30% and Final Exam – 30%

13 年度以降	Comprehensive English II	担当者	P．マッケビリー

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term ce-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer. <u>Overall Objectives</u> 1. To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing 2. To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills 3. To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context	Week 1- London, The World in One City Week 2- Fame Week 3- The band Cherry Hill Week 4- Dos and don’ts Week 5- Leaving home Week 6- Going places Week 7- Travel addicts Week 8- Midterm Exam Week 9- Things that changed the world Week 10- The Invention of Google Week 11- What if …? Week 12- At a crossroads in life Week 13- Trying your best Week 14- Review & Final Examination

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to spend 90 minutes each to preview and review course content – the textbook and I recommend that they read English newspaper articles and look at English language websites. CNN news programs
テキスト	American Headway 2 (Second Edition) by John and Liz Soars, Oxford University Press
参考文献	特になし
評価方法	Class participation – 40%, Midterm Exam – 30% and Final Exam – 30%

13 年度以降	Comprehensive English I	担当者	D．マッキー

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term twice-a-week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral questioning and report writing) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school. Overall Objectives 1. To give students maximum opportunities to communicate 2. To build student confidence in interpersonal communication. 3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution. Lessons will include practice understanding authentic spoken English, plus topic-based guided Pair and Group discussions and report writing.	Week 1 ：Course introduction and requirements Week 2 ：Interview and introduce another student. Week 3 ：Families Week 4 ：Best friends Week 5 ：House and Home Week 6 ：Time Week 7 ：School Week 8 ：Numbers Week 9 ：Money Week 10 ：Transportation Week 11 ：Books, magazines, internet, news Week 12 ：Fears Week 13 ：Beliefs Week 14 ：Opinions

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will be asked to keep a weekly journal.
テキスト	Materials will be provided by the teacher.
参考文献	—
評価方法	Assessment will be based on class participation 40%, short quizzes 30%, and Journal keeping 30%.

13 年度以降	Comprehensive English II	担当者	D．マッキー

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer. Overall Objectives 1. To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing 2. To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills 3. To build student confidence in speech communication in a small group as well as a larger group context.	Week 1 ： Course introduction, Public-Speaking basics, what listeners need. Week 2 ： What speakers must do, self-introduction speech Week 3 ： Introduce topic - Plan and explain a short trip to foreign city. Research information Week 4 ： Write up research Week 5 ： Plan visual aids, decide how to present, practice. Week 6 ： Presentations. Week 7 ： Topic. Teaching how to do something. Research Week 8 ： Write up research Week 9 ： Plan visual aids, decide how to present, practice. Week 10： Presentations. Week 11： Topic - Making a formal argument. Research Week 12： Write up research Week 13： Plan visual aids, decide how to present, practice. Week 14： Presentations.

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will have homework preparing, and practicing presentations, also reviewing others' performances
テキスト	Materials will be provided by the teacher.
参考文献	—
評価方法	Students will be continuously assessed. Assessment will be based on work done in class preparing and delivering a number of short presentations, and on audience responses to those presentations.

13 年度以降	Comprehensive English I	担当者	L．K．ハーキンス

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term, twice-a-week required class for first-year students develops a range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in highschool. Overall Objectives 1. To give students maximum opportunities to communicate 2. To build student confidence in interpersonal communication 3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution	1. Introduction 2. Video Lesson (1) Summarizing 3. Video Lesson (2) Idioms 4. Video Lesson (3) Dangerous Experience 5. Dangerous Experience Presentaions 6. Video Lesson (4) Role Play (1) 7. Video Lesson (5) Role Play (2) 8. Video Lesson (6) Summary 9. Summary Speaking 10. Mid Term Test 11. My Passion Discussion 12. My Passion Presentation Preparation 13. Presentation Day 1 14. Presentation Day 2

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Homework will be assigned for this course
テキスト	No textbook will be assigned for this class
参考文献	No book will be used
評価方法	Students will be evaluated on attendance (10%), the Role plays (15%), the mid Term Test (30%) and the presentations (50%)

13 年度以降	Comprehensive English II	担当者	L．K．ハーキンス

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term, twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a more competent speaker and writer. Overall Objectives 1. To help students to develop a basic knowledge of the skills required for organizing a speech and developing speech writing skills 2. To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and speech writing skills 3. To build student confidence in speech communication in small and larger group contexts	1. Introduction 2. Video Lesson (1) Emotions 3. Video Lesson (2) Idioms 4. Video Lesson (3) “What should she do”? 5. Personal Experience Presentation 6. Video Lesson (4) Advice 7. Video Lesson (5) Role play 8. Video Lesson (6) Summary 9. Summary Speaking 10. Mid Term Test 11. Disney Role Play Discussion 12. Role Play Preparation 13. Disney Role plays Day 1 14. Disney Role Play Day 2

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Homework will be assigned for this course
テキスト	No textbook will be assigned for this course
参考文献	No book will be used
評価方法	Students will be evaluated on attendance (10%), the Role play (15%), the mid Term Test (30%), and the Disney Role play (50%)

13 年度以降	Comprehensive English I	担当者	D．ベイカー

講義目的、講義概要	授業計画
This course has 3 overall objectives -to give students maximum opportunities to communicate -to build students' confidence in interpersonal communication -to develop basic study skills needed for English language courses at university level	1. Course introduction & orientation 2. First impressions 3. Cultural awareness 4. Communicative awareness 5. Icebreakers 6. Wh questions 7. Y/N questions 8. Roundtable 1: food & drink 9. Roundtable 2: music & feelings 10. Roundtable 3: books & films 11. Study skills 12. Group project preparation 13. Group project practice 14. Group presentations

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Before - extensive writing for short speeches (20 mins) After - review previous week's classes (20 mins)
テキスト	No set text
参考文献	—
評価方法	Evaluation based upon continuous assessment of: (1)in-class attendance, attentiveness & attitude 50%　(2) assignments 25%　(3) review quizzes 25%

13 年度以降	Comprehensive English II	担当者	D．ベイカー

講義目的、講義概要	授業計画
This course has three overall objectives: - to give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills - to build students' organizational skills in writing for public-speaking - to develop students' confidence in speech communication from small to larger groups.	1. Overview of the creative process 2. Choosing your topic & researching 3. Outlining & drafting 4. Editing & practicing 5. Presentation week 1 6. Remember the 5th of November 7. Rule of 3：Number 5 8. Number 5：Letter V 9. V for vocabulary：Back to the Futura 10. Presentation week 2 11. Presentation feedback 12. Love Actually 13. Love Actually 14. Presentation week 3, actually

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Before - presentation preparation & practice (30-60mins) After - editing (20 mins)
テキスト	No set text
参考文献	—
評価方法	Evaluation based upon continuous assessment of: (1)in-class attendance, attentiveness & attitude 50%　(2)1 presentations 50%

13 年度以降	Comprehensive English I	担当者	K．ミーハン

講義目的、講義概要	授業計画
The objective of this course is to have students develop the necessary skills, knowledge, and practice, to master oral communication. The course will put an emphasis on vocabulary building , speeches, pair-work and discussion. Students should be open to speak and work in small groups.	1. Introduction 2. Memories and keepsakes 3. Opinions about food 4. Crimes and mysteries 5. Trends 6. Errands 7. Postgraduate plans 8. Celebrations 9. Fairy tales and folk stories 10. The world of work 11. Telecommunications 12. Technology today 13. Travel preparation 14. Test -Poster presentation

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Review and Prepare the reading.
テキスト	To be announced.
参考文献	—
評価方法	Grades will be based on in-class performance (40%), presentations (30%) and tests (30%).

13 年度以降	Comprehensive English II	担当者	K．ミーハン

講義目的、講義概要	授業計画
The objective of this course is to have students develop the necessary skills, knowledge, and practice, to master oral communication. The course will put an emphasis on vocabulary building, speeches, pair-work and discussion. Students should be open to speak and work in small groups.	1. Summer vacation 2. Imagination,dreams,and rules 3. Career plans 4. Media 5. Men and women 6. Cultural differences 7. Big business 8. Health 9. Sports and hobbies 10. Social issues 11. Wealth 12. Honesty and lies 13. Our earth 14. Test- Poster presentation

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Review and Prepare the reading.
テキスト	To be announced.
参考文献	—
評価方法	Grades will be based on in-class performance (40%), presentations (30%) and tests (30%).

09 年度以降	Comprehensive English I	担当者	R．ダラム

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term, twice-a-week required class for first-year students develops a range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school. Overall Objectives 1. To give students maximum opportunities to communicate 2. To build student confidence in interpersonal communication 3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution	(* Note: This is a ***tentative*** weekly schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.) Week 1: **Introductions**, in modern English: eye contact; proper handshake; suitable follow-up questions. Practice of Introductions in English. International News article and/or International video exercises & discussion. Week 2: Review/ practice of Introductions. Note-taking exercises. Asking *student suggestions for* **INTERNATIONAL** *topics/themes which they would like to learn & study.* Replies to the question, "How's it going?" Week 3: 'What are your plans for Golden Week?': explaining Future activities, in Modern English. Assignment of a Presentation Topic; and selection of Presentation partner(s). Continuous assessment. Week 4: Focusing your Presentation: How to summarize, prepare, and make [present] for your Presentation. Video and/or Audio Cloze-listening exercise, with note-taking, & discussion thereof. Week 5: Student hobbies, and explaining thereof, in Modern English. Pair practice. Continuous assessment. Mother's Day song and/or discussion. Week 6: Discussion of recent International News articles and/or News Videos. (Focus on striving to obtain a balanced Global viewpoint.) Note-taking in English. Ongoing student assessment. Week 7: Preparations for making presentations & discussions. International vs. Domestic etiquette and manners ('EQ'): asking and replying, politely. Week 8: International News stories, with discussion. Continuous assessment. Presentation practice, with peer-assessment. Week 9: Peer-assessment of 'intro' presentations. Preparations for final class presentations. 'What kind of --- do you like?': explaining preferences, in Modern English. Pair practice. Week 10: Final Student presentations begin. Video and/or Audio Cloze listening exercise. Week 11: Discussion of recent International News articles and/or News Videos: stating your opinions clearly, in English. Presentations. Week 12: Further student presentations & class discussion. Video and/or song listening & discussion exercise. Week 13: Final presentations. 'What do you think of ----?': Giving your opinions about various topics. Week 14: Giving opinions, part two: *elaborating*. Final presentations. Ongoing assessment.

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Please do homework assignments as soon as possible (the same day; or the next day). Waiting until the last minute to do assignments/homework ('ichiyazuke') is NOT a good way to prepare for classes.
テキスト	We will be researching newspapers, books, the Internet, audio clips, etc., and library materials. ***IF*** a textbook is truly necessary, one will be chosen.
参考文献	特になし　N／A
評価方法	The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often--the 'ongoing assessment technique'. Your assessment will be based on: how well you **participate** in class; how well you **speak and elaborate** (explain) in English, the ways in which you ***reason*** (think); how well you ***summarize & present*** your topic; how well you *work together* with other class members; and so on. Your grade will be *tentatively* & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (20%); homework/test(s)/presentations (45%). The actual percentages may vary, depending upon student abilities and needs. **Attendance** is ***CRUCIAL*** (very important) in this class. ***You must NOT miss more than three classes,*** **for any reason.**

09 年度以降	Comprehensive English II	担当者	R．ダラム

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term, twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a more competent speaker and writer. Overall Objectives 1. To help students to develop a basic knowledge of the skills required for organizing a speech and developing speech writing skills 2. To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and speech writing skills 3. To build student confidence in speech communication in small and larger group contexts	(* Note: This is a ***tentative*** schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.) Week 1: Asking, replying, elaborating on, and discussing your Summer Break, using modern English. Week 2: Asking and giving train directions, in English. Continuous assessments. Week 3: Start of researching Christmas (and/or another Presentation topic). Discussion of News/Documentary Video. Week 4: Preparation time for pair presentations. How to invite someone to an event, in English, by telephone; and how to politely decline invitations. Week 5: Practice with polite telephone invitations. Hallowe'en discussion, and/or video. Week 6: Restaurant ordering, in English, at a sit-down restaurant. Ongoing assessments. Continuation of TV documentary listening & discussion. Week 7: Pair practice of restaurant ordering. Start of short "demo" presentations. Peer-assessment (& recommendations) of those short presentation 'intros'. Week 8: Thanksgiving: history; and usual Thanksgiving customs & dates. 'What are you thankful for?' Further short 'demo' presentations; peer-assessment & recommendations, re: those 'demo' presentations. Week 9: Pair practice of 'thankful' activity. Finalizing preparations and practice for presentations. Week 10: Asking for, and giving, street directions, in English. Pair practice of that. Student presentations begin. Week 11: Class presentations & discussions. Christmas song-listening activity, and/or Christmas video. Week 12: Discussion of Christmas and New Year's plans. Christmas song activity, continued. Further class presentations. Week 13: How was your New Year's/ Christmas? Pair-practice thereof. Class presentations. Week 14: Discussing & pair-practicing 'prognosticating' [predicting future News stories] for 2018. Last opportunity for class presentations.

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Please do homework assignments as soon as possible (the same day; or the next day). Waiting until the last minute to do assignments/homework ('ichiyazuke') is NOT a good way to prepare for classes.
テキスト	We will be researching newspapers, books, the Internet, audio clips, etc., and library materials. IF a textbook is truly necessary, one will be chosen.
参考文献	特になし　N／A
評価方法	The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often--the 'ongoing assessment technique'. Your assessment will be based on: how well you **participate** in class; how well you **speak and elaborate** (explain) in English, the ways in which you ***reason*** (think); how well you ***summarize & present*** your topic; how well you *work together* with other class members; and so on. Your grade will be *tentatively* & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (20%); homework/test(s)/presentations (45%). The actual percentages may vary, depending upon student abilities and needs. **Attendance** is ***CRUCIAL*** (very important) in this class. ***You must NOT miss more than three classes,*** **for any reason.**

13 年度以降	Comprehensive English I	担当者	A．R．ファルヴォ

講義目的、講義概要	授業計画
This course will offer students a novel approach for communication in the passive skills of listening and reading as well as in the active skills of speaking and writing. Student confidence building in interpersonal communication with members of their class. Development of the basic study skills necessary for success in their advanced courses as well as in their seminar classes. The contents of the course are subject to change.	1. People from around the World Reading 2. The Last of the Woman Divers Video Journal 3. Ted Talks Eric Whitacre Reading 4. Monkey Business Video Journal 5. Smart Traveler Reading 6. Beagle Patrol Video Journal 7. Midterm Evaluation 8. Bugs as food Reading 9. Dangerous Diner Video Journal 10. Ted Talks: My Mind Shifting Everest Swim Reading 11. Cheese-Rolling Races Video Journal 12. The Cradle of the Inca Empire Reading 13. Machu Picchu Video Journal 14. Final　Evaluation

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Reading selections of various topics and , preparation of , unit goals for listening, speaking , reading and writing activities presented in class.. .. Weekly review of previous items...
テキスト	World English, National Geographic Learning.
参考文献	Ted Talks in National Geographic.
評価方法	35% In-class performance 35% Continuous assessment　based on quizzes, presentations and homework submitted by email as well as other tasks assigned in class 30% Final Evaluation

13 年度以降	Comprehensive English II	担当者	A．R．ファルヴォ

講義目的、講義概要	授業計画
This course will further the novel approach for communication in the passive skills of listening and reading as well as in the active skills of speaking and writing. Increasing student confidence building in interpersonal communication with members of their class. Furthering the development of the basic study skills necessary for success in their advanced courses as well as in their seminar classes. The contents of the course are subject to change	1. Ted Talks The Interspecies Internet Reading 2. Wild Animal Trackers Video Journal 3. Future Energy Reading 4. Solar Cooking Video Journal 5. Silk-the Queen of Textiles Reading 6. How you T-shirt Can Make a Difference Video 7. The Secrets of Long Life Reading 8. The Science of Stress Video Journal 9. Midterm Evaluation 10. Humanity's Greatest Achievement Reading 11. Spacewalk Video Journal 12. Ted Talks How to buy Happiness Reading 13. The Missing Snows of Kilimanjaro Video Journal 14. Final Evaluation

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Reading selections of various topics and , preparation of , unit goals for listening, speaking , reading and writing activities presented in class.. .. Weekly review of previous items...
テキスト	World English, National Geographic Learning
参考文献	Ted Talks in National Geographic
評価方法	35% In-class performance 35% Continuous assessment　based quizzes, presentations and homework submitted by email as well as other tasks assigned in class 30% Final Evaluation

13 年度以降	Comprehensive English I	担当者	J．ハント

講義目的、講義概要	授業計画
This introductory course will help students develop their essential English skills by engaging in communicative activities addressing important everyday issues. Students are introduced to vocabulary and scenarios, and encouraged to share their opinions on key issues such as animal rights, fashion and relationships. There will be a number of projects assigned and students should complete these tasks in order to get a good grade. There will be opportunities for pair and group work, and students will work in teams to prepare a presentation on one of the topics covered in class.	1. Introduction 2. Health habits 3. Health & safety 4. Animal rights 5. Endangered species 6. Fashion 7. Eating disorders 8. Raising children 9. Family relationships 10. Cultural misunderstandings 11. Traditional culture 12. Building strong relationships 13. Choosing a suitable partner 14. Presentations

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Textbook exercises, project work. Approx. 90 minutes/week.
テキスト	'*Topic Talk Issues*' by Kirsty McLean. EFL Press.
参考文献	To be provided.
評価方法	Participation 50%, Presentations 50%

13 年度以降	Comprehensive English II	担当者	J．ハント

講義目的、講義概要	授業計画
This course builds upon the work done in Comprehensive English I, and will help students to further develop their English skills by engaging in communicative activities addressing interesting and important everyday issues. Students are encouraged to share their opinions on key issues such as gender, the environment and fame. There will be a number of projects assigned and students should complete these tasks in order to get a good grade. There will be opportunities for pair and group work, and students will work in teams to prepare a presentation on one of the topics covered in class.	1. Introduction 2. Applying for jobs 3. Men's/women's roles 4. Consumerism 5. The environment 6. The school system 7. Problems at school 8. TV and movies 9. Fame 10. Respecting nature 11. Environmental problems 12. Review 13. Presentations 14. Presentations

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Textbook exercises, project work. Approx. 90 minutes/week.
テキスト	'*Topic Talk Issues*' by Kirsty McLean. EFL Press.
参考文献	To be provided.
評価方法	Participation 50%, Presentations 50%

13 年度以降	Comprehensive EnglishⅢ（木 3）	担当者	E．フランコ

講義目的、講義概要	授業計画
This is a one-term required class teaches students how to read more effectively and then provides students with the opportunity to share ideas and opinions in group and class discussion while working with tourism and issues of global and international importance today. This course seeks to improve student's individual English competency and fluency. The weekly class activities use tourism and issues of global and international importance topics. The class activities focus discussion, speaking, reading, listening, writing and comprehension skills. Class-work will be completed individually, in pairs and in small groups. Students will prepare a class presentation based on a chosen research topic and come to class prepared to present it in their own words to a group and or the class.	1. Introductions, course outline, evaluation, course requirements, discussions, start individual e-journal (to be completed weekly, using Microsoft word and email at the end of the semester). Choose a research topic for semester and start research, data collection and PowerPoint presentation. 2. Mexico; The history, culture, world heritage, tourist locations, cuisine, famous people & attractions 3. Denmark; The history, culture, world heritage, tourist locations, cuisine, famous people & attractions 4. London; The history, culture, world heritage, tourist locations, cuisine, famous people & attractions 5. India; The history, culture, world heritage, tourist locations, cuisine, famous people & attractions 6. Saudi Arabia; The history, culture, world heritage, tourist locations, cuisine, famous people & attractions 7. Mid-term quiz -15% - Reading, listening & comprehension questions. 8. Egypt; The history, culture, world heritage, tourist locations, cuisine, famous people & attractions 9. Brazil; The history, culture, world heritage, tourist locations, cuisine, famous people & attractions 10.Peru; The history, culture, world heritage, tourist locations, cuisine, famous people & attractions 11.Australia; The history, culture, world heritage, tourist locations, cuisine, famous people & attractions 12.Finland; The history, culture, world heritage, tourist locations, cuisine, famous people & attractions 13.New York; The history, culture, world heritage, tourist locations, cuisine, famous people & attractions. 14.End-of-term quiz - 15% - Reading, listening & comprehension questions. E-journal 20%, email final submission in Microsoft Word format. Research topic presentation report 20%, email final submission in Microsoft PowerPoint format

到達目標	1 年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Individual topic research, weekly e-journal report and research topic presentation report
テキスト	Class notes and handouts will be provided every week
参考文献	Class notes and handouts will be provided every week
評価方法	1. Research topic presentation report = 20%. 2. e-journal= 20%. 3. Weekly class activities = 30% 4. Mid-term quiz – week 7 = 15%, 5. End-of-term quiz – week 14 = 15%

13 年度以降	Comprehensive EnglishⅣ（木 3）	担当者	E．フランコ

講義目的、講義概要	授業計画
This is a one-term required class teaches students how to read more effectively and then provides students with the opportunity to share ideas and opinions in group and class discussion while working with tourism and issues of global and international importance today. This course seeks to improve student's individual English competency and fluency. The weekly class activities use tourism and issues of global and international importance topics. The class activities focus discussion, speaking, reading, listening, writing and comprehension skills. Class-work will be completed individually, in pairs and in small groups. Students will prepare a class presentation based on a chosen research topic and come to class prepared to present it in their own words to a group and or the class.	1. Introductions, course outline, evaluation, course requirements, discussions, , start individual e-journal (to be completed weekly, using Microsoft word and email at the end of the semester). Choose a research topic for the semester and start research, data collection and PowerPoint presentation. 2. Greece; The history, culture, world heritage, tourist locations, cuisine, famous people & attractions 3. Italy; The history, culture, world heritage, tourist locations, cuisine, famous people & attractions 4. France; The history, culture, world heritage, tourist locations, cuisine, famous people & attractions 5. Los Angeles; The history, culture, world heritage, tourist locations, cuisine, famous people & attractions 6. Canada; The history, culture, world heritage, tourist locations, cuisine, famous people & attractions 7. Mid-term quiz -15% - Reading, listening & comprehension questions. 8. Israel; The history, culture, world heritage, tourist locations, cuisine, famous people & attractions 9. Taiwan; The history, culture, world heritage, tourist locations, cuisine, famous people & attractions 10.Singapore; The history, culture, world heritage, tourist locations, cuisine, famous people & attractions 11.Turkey; The history, culture, world heritage, tourist locations, cuisine, famous people & attractions 12.China; The history, culture, world heritage, tourist locations, cuisine, famous people & attractions 13.Sweden; The history, culture, world heritage, tourist locations, cuisine, famous people & attractions. 14.End-of-term quiz - 15% - Reading, listening & comprehension questions. E-journal 20%, email final submission in Microsoft Word format. Research topic presentation report 20%, email final submission in Microsoft PowerPoint format

到達目標	1 年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Individual topic research, weekly e-journal report and research topic presentation report
テキスト	Class notes and handouts will be provided every week
参考文献	Class notes and handouts will be provided every week
評価方法	1. Research topic presentation report = 20%. 2. e-journal= 20%. 3. Weekly class activities = 30% 4. Mid-term quiz – week 7 = 15%, 5. End-of-term quiz – week 14 = 15%

13 年度以降	Comprehensive EnglishⅢ（月 3）	担当者	L．K．ハーキンス

講義目的、講義概要	授業計画
The goal of this course is to provide the students with ample opportunity to augment their knowledge of modern English and to practice what they have learned in an interactive, interesting manner.	1. Introduction 2. Video lesson 1 idioms 3. Video lesson 2 idioms/presentations 4. Video lesson 3 role play (practice) 5. Video lesson 4 role play (perform) 6. Video lesson 5 formal/informal conversation 7. Formal/informal conversation (perform) 8. Video lesson 6 summary 9. Summary speaking 10. Mid term Test 11. Ted Talks Presentation (introduction) 12. Ted Talks Presentation (formation/check) 13. Presentations Day 1 14. Presentations Day 2

到達目標	1 年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Homework will be assigned in this class
テキスト	No text book is assigned in his class
参考文献	No book is required
評価方法	The students will be evaluated on the following: attendance/participation (20%), Mid term Test (40%) and the presentation (40%)

13 年度以降	Comprehensive EnglishⅣ（月 3）	担当者	L．K．ハーキンス

講義目的、講義概要	授業計画
The goal of this course is to provide the students with ample opportunity to augment their knowledge of modern English and to practice what they have learned in an interactive, interesting manner.	1. Introduction 2. Video lesson 1 (plans/goals) 3. Video lesson 2 (someone I admire) 4. Video lesson 3 Presentation) 5. Video lesson 4 (3 wishes) 6. Video lesson 5 (role play formation) 7. Role play (perform) 8. Video lesson 6 summary 9. Summary speaking 10. Mid term Test 11. Disney Role play (Introduction) 12. Disney Role play (formation/check) 13. Disney Role play (practice) 14. Disney Role play (perform)

到達目標	1 年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Homework will be assigned in this class
テキスト	No text book is assigned for this class
参考文献	No book is required
評価方法	The students will be evaluated on the following: attendance/participation (20%), Mid term Test (40%) and the presentation (40%)

13 年度以降	Comprehensive EnglishⅢ（月 4）	担当者	L．K．ハーキンス

講義目的、講義概要	授業計画
The goal of this course is to provide the students with ample opportunity to augment their knowledge of modern English and to practice what they have learned in an interactive, interesting manner.	1. Introduction 2. Video lesson 1 idioms 3. Video lesson 2 idioms/presentations 4. Video lesson 3 role play (practice) 5. Video lesson 4 role play (perform) 6. Video lesson 5 formal/informal conversation 7. Formal/informal conversation (perform) 8. Video lesson 6 summary 9. Summary speaking 10. Mid term Test 11. Ted Talks Presentation (introduction) 12. Ted Talks Presentation (formation/check) 13. Presentations Day 1 14. Presentations Day 2

到達目標	1 年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Homework will be assigned in this class
テキスト	No text book is assigned in his class
参考文献	No book is required
評価方法	The students will be evaluated on the following: attendance/participation (20%), Mid term Test (40%) and the presentation (40%)

13 年度以降	Comprehensive EnglishⅣ（月 4）	担当者	L．K．ハーキンス

講義目的、講義概要	授業計画
The goal of this course is to provide the students with ample opportunity to augment their knowledge of modern English and to practice what they have learned in an interactive, interesting manner.	1. Introduction 2. Video lesson 1 (plans/goals) 3. Video lesson 2 (someone I admire) 4. Video lesson 3 Presentation) 5. Video lesson 4 (3 wishes) 6. Video lesson 5 (role play formation) 7. Role play (perform) 8. Video lesson 6 summary 9. Summary speaking 10. Mid term Test 11. Disney Role play (Introduction) 12. Disney Role play (formation/check) 13. Disney Role play (practice) 14. Disney Role play (perform)

到達目標	1 年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Homework will be assigned in this class
テキスト	No text book is assigned for this class
参考文献	No book is required
評価方法	The students will be evaluated on the following: attendance/participation (20%), Mid term Test (40%) and the presentation (40%)

13 年度以降	Comprehensive EnglishⅢ（木 1）	担当者	E．フランコ

講義目的、講義概要	授業計画
This is a one-term required class teaches students how to read more effectively and then provides students with the opportunity to share ideas and opinions in group and class discussion while working with tourism and issues of global and international importance today. This course seeks to improve student's individual English competency and fluency. The weekly class activities use tourism and issues of global and international importance topics. The class activities focus discussion, speaking, reading, listening, writing and comprehension skills. Class-work will be completed individually, in pairs and in small groups. Students will prepare a class presentation based on a chosen research topic and come to class prepared to present it in their own words to a group and or the class.	1. Introductions, course outline, evaluation, course requirements, discussions, start individual e-journal (to be completed weekly, using Microsoft word and email at the end of the semester). Choose a research topic for semester and start research, data collection and PowerPoint presentation. 2. Mexico; The history, culture, world heritage, tourist locations, cuisine, famous people & attractions 3. Denmark; The history, culture, world heritage, tourist locations, cuisine, famous people & attractions 4. London; The history, culture, world heritage, tourist locations, cuisine, famous people & attractions 5. India; The history, culture, world heritage, tourist locations, cuisine, famous people & attractions 6. Saudi Arabia; The history, culture, world heritage, tourist locations, cuisine, famous people & attractions 7. Mid-term quiz -15% - Reading, listening & comprehension questions. 8. Egypt; The history, culture, world heritage, tourist locations, cuisine, famous people & attractions 9. Brazil; The history, culture, world heritage, tourist locations, cuisine, famous people & attractions 10.Peru; The history, culture, world heritage, tourist locations, cuisine, famous people & attractions 11.Australia; The history, culture, world heritage, tourist locations, cuisine, famous people & attractions 12.Finland; The history, culture, world heritage, tourist locations, cuisine, famous people & attractions 13.New York; The history, culture, world heritage, tourist locations, cuisine, famous people & attractions 14.End-of-term quiz - 15% - Reading, listening & comprehension questions. E-journal 20%, email final submission in Microsoft Word format. Research topic presentation report 20%, email final submission in Microsoft PowerPoint format.

到達目標	1 年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Individual topic research, weekly e-journal report and research topic presentation report
テキスト	Class notes and handouts will be provided every week
参考文献	Class notes and handouts will be provided every week
評価方法	1. Research topic presentation report = 20%. 2. e-journal= 20%. 3. Weekly class activities = 30% 4. Mid-term quiz – week 7 = 15%, 5. End-of-term quiz – week 14 = 15%

13 年度以降	Comprehensive EnglishⅣ（木 1）	担当者	E．フランコ

講義目的、講義概要	授業計画
This is a one-term required class teaches students how to read more effectively and then provides students with the opportunity to share ideas and opinions in group and class discussion while working with tourism and issues of global and international importance today. This course seeks to improve student's individual English competency and fluency. The weekly class activities use tourism and issues of global and international importance topics. The class activities focus discussion, speaking, reading, listening, writing and comprehension skills. Class-work will be completed individually, in pairs and in small groups. Students will prepare a class presentation based on a chosen research topic and come to class prepared to present it in their own words to a group and or the class.	1. Introductions, course outline, evaluation, course requirements, discussions, , start individual e-journal (to be completed weekly, using Microsoft word and email at the end of the semester). Choose a research topic for the semester and start research, data collection and PowerPoint presentation. 2. Greece; The history, culture, world heritage, tourist locations, cuisine, famous people & attractions 3. Italy; The history, culture, world heritage, tourist locations, cuisine, famous people & attractions 4. France; The history, culture, world heritage, tourist locations, cuisine, famous people & attractions 5. Los Angeles; The history, culture, world heritage, tourist locations, cuisine, famous people & attractions 6. Canada; The history, culture, world heritage, tourist locations, cuisine, famous people & attractions 7. Mid-term quiz -15% - Reading, listening & comprehension questions. 8. Israel; The history, culture, world heritage, tourist locations, cuisine, famous people & attractions 9. Taiwan; The history, culture, world heritage, tourist locations, cuisine, famous people & attractions 10.Singapore; The history, culture, world heritage, tourist locations, cuisine, famous people & attractions 11.Turkey; The history, culture, world heritage, tourist locations, cuisine, famous people & attractions 12.China; The history, culture, world heritage, tourist locations, cuisine, famous people & attractions 13.Sweden; The history, culture, world heritage, tourist locations, cuisine, famous people & attractions. 14.End-of-term quiz - 15% - Reading, listening & comprehension questions. E-journal 20%, email final submission in Microsoft Word format. Research topic presentation report 20%, email final submission in Microsoft PowerPoint format.

到達目標	1 年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Individual topic research, weekly e-journal report and research topic presentation report
テキスト	Class notes and handouts will be provided every week
参考文献	Class notes and handouts will be provided every week
評価方法	1. Research topic presentation report = 20%. 2. e-journal= 20%. 3. Weekly class activities = 30% 4. Mid-term quiz – week 7 = 15%, 5. End-of-term quiz – week 14 = 15%

13 年度以降	Comprehensive EnglishⅢ	担当者	N．ハミルトン

講義目的、講義概要	授業計画
The aims of this course are to promote critical thinking and to have extensive discussion about a variety of interesting and important contemporary issues. Students will learn the skills necessary for effective Group Discussions Furthermore, students will be taught how to prepare　and lead a class presentation/discussion. The typical class will consist of small group discussions on a unit from the textbook to build vocabulary. Students will be required to study vocabulary regularly and will be exposed to authentic listening exercises in each unit. An eagerness to speak English and take responsibility for their own learning would be a bonus.	Week1　Course Introduction Week2　Unit 1 - Technology - discussion and listening Week3　Unit 1 - Researching a technology Week4　Unit 1 - Presentations Week5　Unit 2 - Discussing Overseas Travel Week6　Unit 2 - Discussing types of travel Week7　Unit 3 - Discussion - Culture Week8　Unit 3 - Listening and Note Taking Week9　Unit 3 - Researching the Culture of a Country Week10　Unit 4 - Volunteering - discussion and listening Week11　Unit 4 - Researching a Volunteer Organisation Week12　Unit 4 - Presentations Week13　Unit 5 - Beliefs - discussion and listening Week14　Unit 5 - Mini Debate and Vocabulary Quiz

到達目標	1年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Read and listen to the conversation for each unit before class.　After class, please study the vocabulary section for that unit.
テキスト	The English Course-Discussion Book 2 Gary Ireland Kabushikigaisha ; The English Company;978-4-9902962-6-1
参考文献	None
評価方法	Research 40%　Presentations 40%　Participation 20%

13 年度以降	Comprehensive EnglishⅣ	担当者	N．ハミルトン

講義目的、講義概要	授業計画
The aims of this course are to promote critical thinking and to have extensive discussion about a variety of interesting and important contemporary issues. Students will learn the skills necessary for effective Group Discussions Furthermore, students will be taught how to prepare　and lead a class presentation/discussion. The typical class will consist of small group discussions on a unit from the textbook to build vocabulary. Students will be required to study vocabulary regularly and will be exposed to authentic listening exercises in each unit. An eagerness to speak English and take responsibility for their own learning would be a bonus.	Week1　Unit 7 - Fake News Week2　Unit 7 - news discussion in groups Week3　Unit 8 - Studying Abroad Week4　Unit 8 - Culture Shock Week5　Unit 9 - Ecotourism Week6　Unit 9 - Tourism in Japan Week7　Unit 10 - Education in Japan Week8　Unit 10 - Presentation Preparation Week9　Unit 10 - Presentations Week10　Unit 11 - The Environment Week11　Unit 11 - Poster Preparation Week12　Unit 11 - Poster Presentations Week13　Unit 12 - International Marriage Week14　Unit 12 - Mini Debate and Vocabulary Quiz

到達目標	1年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Read and listen to the conversation for each unit before class.　After class, please study the vocabulary section for that unit.
テキスト	The English Course-Discussion Book 2 Gary Ireland Kabushikigaisha; The English Company;978-4-9902962-6-1
参考文献	None
評価方法	Research 40%　Presentations 40%　Participation 20%

13 年度以降	Comprehensive EnglishⅢ	担当者	R．J．バロウズ

講義目的、講義概要	授業計画
This reading-focused course seeks to develop students' ability to: a) enjoy & understand articles within a time limit b) employ a variety of reading techniques to improve speed & comprehension c) learn how to find the outline of, & summarize an article d) learn the basic skills of publicly presenting their ideas & opinions In addition to regular reading practice, students will have ample opportunity to widen their vocabulary knowledge, practice various reading skills and begin presenting their ideas to an audience	1. Course Introduction 2. Meaning from Context 3. Word Parts <u>Set Text Analysis</u> 4. Pride & Prejudice 1 - introduction 5. Pride & Prejudice 2 - plot line 6. Pride & Prejudice 3 - characters 7. Pride & Prejudice 4 - issues 8. Pride & Prejudice 5 - resolution 9. Body Language I & Self-Introductions 10. Notes, timing & prompt cards 11. Understanding Paragraphs 12. Body Language & Show + Tell 13. Book Review Presentation 14. Review

到達目標	1 年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Topic & vocabulary preview – 30 minutes Post-reading practice assignments – 30 -45 minutes
テキスト	*Pride & Prejudice (Pearson Graded Reader Level 5)*
参考文献	An electronic or smartphone dictionary will be required at every class
評価方法	Classwork 30%, Homework 30%, Report 20%, Presentation 20%

13 年度以降	Comprehensive EnglishⅣ	担当者	R．J．バロウズ

講義目的、講義概要	授業計画
This presentation-focus course seeks to develop students' ability to: a) present their ideas & opinions to an audience b) methodically prepare formal presentations with visual aids c) question & discuss their own & other class members' ideas d) consider contemporary issue facing Japan In addition to skills development, students will have a number of opportunities to present their ideas & opinions on topics of interest to them, to other class members	1. Course Introduction 2. Visual Aids 3. Movie Review Presentations <u>Contemporary Issues in Japan</u> 4. Hafu 1 – Japanese/Australian 5. Hafu 2 – Japanese/Korean 6. Hafu 3 – Japanese/Ghanain 7. Hafu 4 – Japanese/Venezuelan 8. Final Presentation Topics 9. Facts vs Opinions 10. Transitions & Persuasive Expressions 11. Presentation Timing & Questions <u>Presentation Evaluation</u> 12. Final Presentation 13. Final Evaluation 14. Review 14. Review

到達目標	1 年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Preview – topic presentation, data gathering & slide preparation 30 – 60 minutes Review – instructor's feedback, evaluation & student questions 30 minutes
テキスト	Since there is no textbook for this course, students will be expected to provide an A4/B4 binder in order to keep the photocopies handed out by the instructor at the start of each class.
参考文献	An electronic or smartphone dictionary will be required at every class
評価方法	Classwork 30%, Homework 20%, Movie Review 20%, Final Presentation 30%

13 年度以降	E-learning I	担当者	玉井　昇

講義目的、講義概要	授業計画
（講義目的）英語の聴き取りと発音を上達させるために、以下の能力の習得を目指して実践的に練習する。 （1）単語やフレーズなど意味のまとまりを識別する。 （2）個々の音は現れる位置によって異なることを認識する。 （3）英語には英語のリズムがあることを理解する。 （4）日本語と英語では音節構造が異なることを理解する。 （5）英語圏における多様な英語（Englishes）の音に慣れる。 （6）文強勢とイントネーションの重要性を理解する。 （講義概要）リスニング力を高め、発信された情報を正確に聴き取るということは、語彙力、構文解析力だけではなく、国内外の社会的動向や国際情勢に関する一般的知識など、あらゆる能力と知識を総動員する知的作業である。授業時には上記6点の能力に関する基礎的知識を得て、課外では各自Web学習により実践的トレーニングを積んでいくことで、英語対応力の向上を目指す。	1.　ガイダンス 2.　Web教材の活用と実践 3.　何が英語を聴き取りにくくしているのか 4.　強勢拍子の英語 vs. 音節拍子の日本語 5.　文強勢が置かれる位置 6.　弱く発音される単語と要素 7.　文強勢の有無で変わる音 8.　英語と日本語の音節構造の違い 9.　イントネーションの重要性 10.　断定を避けるイントネーション 11.　母音の多様性 12.　日本語と英語の子音 13.　紛らわしい子音および聴き取りにくい子音 14.　全体の振り返りと期末試験に向けて （授業の進度やその他の諸事情により変更する場合有り）

到達目標	E-learning システムを用いた自律学習により、語彙を増強し、英語の発音や韻律を身につけることができるようにする。
事前・事後学修の内容	指示された教材の範囲を毎日 30 分以上自主学習することを習慣づけ、毎週 180 分以上の事前、事後学習により授業内小テストの準備をする。
テキスト	English Central の Web 学習教材と授業で配付するハンドアウト
参考文献	授業で適宜紹介する。
評価方法	小テスト（30%）、課題（40%）および期末試験（30%）により評価する。変更がある場合には初回の授業時に告知する。

13 年度以降	E-learning II	担当者	玉井　昇

講義目的、講義概要	授業計画
（講義目的）春期に続き英語の聴き取りと発音を上達させるために、以下の能力の習得を目指して実践的に練習する。 （1）単語やフレーズなど意味のまとまりを識別する。 （2）個々の音は現れる位置によって異なることを認識する。 （3）英語には英語のリズムがあることを理解する。 （4）日本語と英語では音節構造が異なることを理解する。 （5）英語圏における多様な英語（Englishes）の音に慣れる。 （6）文強勢とイントネーションの重要性を理解する。 （講義概要）リスニング力を高め、発信された情報を正確に聴き取るということは、語彙力、構文解析力だけではなく、国内外の社会的動向や国際情勢に関する一般的知識など、あらゆる能力と知識を総動員する知的作業である。授業時には上記6点の能力に関する基礎的知識を得て、課外では各自Web学習により実践的トレーニングを積んでいくことで、英語対応力の向上を目指す。	1.　ガイダンス 2.　w と y に母音が続く語 3.　語頭の破裂音／摩擦音に r や l が続く語 4.　語末においてs, z, r, l に子音が続く語 5.　子音で終わる語の聴き取りと発音 6.　語末の聴き取りにくい音（1） 7.　語末の鼻音 8.　単語と単語を連続させた発音 9.　聴き取りにくくない子音連続 10.　変化する「ラ」の音／化ける「ン」の音 11.　慣用的な省略・短縮表現 12.　機能語の聴き取りと発音 13.　多様な英語（Englishes）における発音 14.　全体の振り返りと期末試験に向けて （授業の進度やその他の諸事情により変更する場合有り）

到達目標	E-learning システムを用いた自律学習により、語彙を増強し、英語の発音や韻律を身につけることができるようにする。
事前・事後学修の内容	指示された教材の範囲を毎日 30 分以上自主学習することを習慣づけ、毎週 180 分以上の事前、事後学習により授業内小テストの準備をする。
テキスト	English Central の Web 学習教材と授業で配付するハンドアウト
参考文献	授業で適宜紹介する。
評価方法	小テスト（30%）、課題（40%）および期末試験（30%）により評価する。変更がある場合には初回の授業時に告知する。

13 年度以降	英語専門講読Ⅰ （国際取引契約法入門Ⅰ）	担当者	花本　広志

講義目的、講義概要	授業計画
国際取引契約において準拠法として指定されることも増えてきた「UNIDROIT 国際商事契約原則」の2016年版公式注釈書（下記テキスト）のうち、「第2章第1節　契約の成立」及び「第7章 不履行」の部分（pp.34-74, pp.227-291）を講読していきます。もっとも、科目の性質上、この授業の目的は、国際取引契約法や国際商事契約原則に関する専門的な知識を獲得することよりも、法律英語を読んでみてその特徴をつかむこと、日本の契約法と比較することで、「法という文化現象」の現われ方の違いについて考察すること、法的なものの考え方とはどのようなものかを知ることに置きたいと思います。 授業では、「ジグソー法」というアクティブラーニングの手法を用いますが、第1回のオリエンテーションでは、ジグソー法を含め授業の運営方法や成績評価の方法・基準などについて詳しく説明するほか、テキストを読むうえで必要な契約法等の基礎知識についての講義もしますので、受講希望者は、可能な限り第１回のオリエンテーションに出席して、どのような授業か理解したうえで履修してください。	1.　オリエンテーション、契約法等の基礎知識 2.　2.1.1 ~ 2.1.2（pp.34 – 37） 3.　2.1.3 ~ 2.1.4（pp.37 – 41） 4.　2.1.5 ~ 2.1.6（pp.41 – 45） 5.　2.1.7 ~ 2.1.10（pp.45 – 49） 6.　2.1.11 ~ 2.1.12（pp.49 – 53） 7.　2.1.13 ~ 2.1.14 Comment2.（pp.53 – 57） 8.　2.1.14 Comment 3. ~ 2.1.15 Comment 2.（pp.57 – 61） 9.　2.1.15 Comment 3. ~ 2.1.17（pp.61 – 65） 10. 2.1.18 ~ 2.1.20 Comment 2.（pp.65 – 70） 11. 2.1.20 Comment 3.~ 2.1.21（pp.37 – 74） 12. 7.1.1 ~ 7.1.3（pp.227 – 230） 13. 7.1.4（pp.230 – 234） 14. 授業全体のまとめと振り返り ＊　各回の講読範囲は目安です。受講者の理解度を見ながら適宜調整します。

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前には、各自に割り当てられた役割に応じて準備して予習メモを作成し提出すること、事後にはグループごとに授業日誌を作成して提出することを求めます（詳細はオリエンテーションで説明します）。
テキスト	UNIDROIT PRINCIPLES OF INTERNATIONAL COMMERCIAL CONTRACT 2016（コピー配布）
参考文献	内田貴ほか訳『UNIDROIT 国際商事契約原則 2010』（商事法務、2013 年）
評価方法	①正当な事由のない欠席２回以内、②正当な事由のあるものを含め欠席４回以内、③予習メモ提出率 70%以上、④授業日誌を（日誌担当回数―2）回以上提出していること、⑥ラーニング・ポートフォリオ（受講者自身による学習成果のまとめ）の自己採点 70 点以上、のすべて満たしていることを単位認定（C 以上）の必要条件とします。その他、AA～C の基準を含む成績評価方法について詳細は、第１回のオリエンテーションで説明します。

13 年度以降	英語専門講読Ⅱ （国際取引契約法入門Ⅱ）	担当者	花本　広志

講義目的、講義概要	授業計画
下記テキスト「第7章　不履行」のうち、春学期のⅠで読了しなかった部分（pp.234-291）について講読していきます（コピー配布）。 授業の目的は、Ⅰと同様ですが、Ⅰで学習する内容について一定以上の理解をしていることが前提となりますので、できるだけ、Ⅰを履修してからⅡを履修するようにしてください。 なお、授業の運営方法や成績評価の基準と方法などは、Ⅰと同じです。	1.　7.1.5 ~ 7.1.6 Comment 4.（pp.234 – 239） 2.　7.1.6 Comment 5. ~ 7.1.7（pp.239 – 242） 3.　7.2.1 ~ 7.2.2（pp.243 – 247） 4.　7.2.3 ~ 7.2.4（pp.247 – 251） 5.　7.2.5 ~ 7.3.1 Comment 2.（pp.251 – 254） 6.　7.3.1 Comment 3. ~ 7.3.2（pp.254 – 258） 7.　7.3.3 ~ 7.3.5（pp.258 – 263） 8.　7.3.6　~ 7.3.6 Comment 4.（pp.263 – 267） 9.　7.3.6 Comment 5. ~ 7.4.1（pp.267 – 271） 10. 7.4.2 ~ 7.4.3（pp.271 – 276） 11. 7.4.4 ~ 7.4.6（pp.276 – 280） 12. 7.4.7 ~ 7.4.8（pp.280 – 283） 13. 7.4.9 ~ 7.4.11（pp.284 – 288） 14. 7.4.12 ~ 7.4.13（pp.288 – 291）、授業全体のまとめと振り返り ＊　各回の講読範囲は目安です。受講者の理解度を見ながら適宜調整します。

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前には、各自に割り当てられた役割に応じて準備して予習メモを作成し提出すること、事後にはグループごとに授業日誌を作成して提出することを求めます（詳細はオリエンテーションで説明します）。
テキスト	UNIDROIT PRINCIPLES OF INTERNATIONAL COMMERCIAL CONTRACT 2016（コピー配布）
参考文献	内田貴ほか訳『UNIDROIT 国際商事契約原則 2010』（商事法務、2013 年）
評価方法	①正当な事由のない欠席２回以内、②正当な事由のあるものを含め欠席４回以内、③予習メモ提出率 70%以上、④授業日誌を（日誌担当回数―2）回以上提出していること、⑥ラーニング・ポートフォリオ（受講者自身による学習成果のまとめ）の自己採点 70 点以上、のすべて満たしていることを単位認定（C 以上）の必要条件とします。その他、AA～C の基準を含む成績評価方法について詳細は、第１回のオリエンテーションで説明します。

13 年度以降	英語専門講読 I 【4 年生対象】 (Cool Japan: 1900-1960)	担当者	J．E．マジャール

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to: (1) build students' confidence in English reading and presentation skills: from reading to integrating knowledge to presenting information (2) improve students' skills in academic reading strategies: from logical comprehension to cohesive summary (3) build students' confidence by contributing to group work Attendance Policy: 1. If you have four unexcused absences, you will automatically receive a grade of F. If you are more than 10 minutes late for class three times it will count as one absence. 2. Turn off your cell phones in class. 3. Report your absence in advance whenever possible. 4. NO LATE HOMEWORK IS ACCEPTED (Very Important).	1. Course Introduction 2. Japan in the World (Exhibitions) 3. Meiji: to be or not to be (Japanese) 4. Moga 5. Modern Tokaido [Reserch Paper Topic Due] 6. Issei, Nisei, Sansei [RP Outline Due] 7. Nippon (magazine) 8. Department Store Miracle [RP Introduction Due] 9. Chiune Sugihara [RP Body Paragraph I Due] 10. Shashin Shuho [RP Body Paragraph II Due] 11. Transport: rush to the city [RP Body Paragraph Ⅲ Due] 12. Made in Japan [RP Conclusion Due] 13. Protest or Compliance [Research Paper Final Due] 14. Final Exam

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	(1)Check the course schedule above and ask fellow students for the class material if you are absent, (2) Read the articles thoroughly and look up any unknown words, (3) Go through the content and digest the main points, (4) Reading summaries' dates and contributors will be announced in class, (5) Use MyDOC to receive notices from me
テキスト	Handouts are prepared by the instructor.
参考文献	—
評価方法	In-class participation (20%), Research paper (40%), Final Exam (40%)

13 年度以降	英語専門講読 II 【4 年生対象】 (Cool Japan: 1960-2016)	担当者	J．E．マジャール

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to: (1) build students' confidence in English reading and presentation skills: from reading to integrating knowledge to presenting information (2) improve students' skills in academic reading strategies: from logical comprehension to cohesive summary (3) build students' confidence by contributing to group work Attendance Policy: 1. If you have four unexcused absences, you will automatically receive a grade of F. If you are more than 10 minutes late for class three times it will count as one absence. 2. Turn off your cell phones in class. 3. Report your absence in advance whenever possible. 4. NO LATE HOMEWORK IS ACCEPTED (Very Important).	1. Course introduction 2. Made in Japan and admired 3. The Bubble 4. Western Japan - Eastern Japan 5. Japanese in the world [Research Paper Topic Due] 6. The world in Japan [RP Outline] 7. Images of Japan 8. Manga [RP Introduction Due] 9. J-pop [RP Body Paragraph I Due] 10. 21st century Japonism [RP Body Paragraph Ⅱ Due] 11. Ryugaku [RP Body Paragraph III Due] 12. Japan First [RP Conclusion Due] 13. Final Exam [Research Paper Final Due] 14. Final & Review

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	(1)Check the course schedule above and ask fellow students for the class material if you are absent, (2) Read the articles thoroughly and look up any unknown words, (3) Go through the content and digest the main points, (4) Reading summaries' dates and contributors will be announced in class, ,(5) Use MyDOC to receive notices from me
テキスト	Handouts are prepared by the instructor.
参考文献	—
評価方法	In-class participation (20%), Research paper (40%), Final Exam (40%)

13 年度以降	英語専門講読 I 【4 年生対象】 (Videogames in Contemporary Society)	担当者	J．D．コーリス

講義目的、講義概要	授業計画
Videogames in Contemporary Society: This course will examine contemporary debates about the impact of videogames on society. Whether you play them or not, videogames play a significant role in everyday life throughout the developed world today. They shape our education, legal and healthcare systems. They influence the health and development of our children, not to mention the economic impact of the global videogame industry. This has prompted wide speculation about the potential benefits and harms of videogames on society. Videogames have been labeled "digital heroin" and "virtual murder simulators" on the one hand, and celebrated for unprecedented breakthroughs in learning, communication, and therapeutics on the other. Students will read selections from a range of sources and practice the analysis of the politics, moral panic and scholarly research underlying debates about the impact of videogames on society today. The course will include weekly readings and response papers and a final presentation.	1. Greeting and Introduction: Games and Everyday Life 2. "Murder Simulators", Violence, and Desensitization 3. Representation and Recruitment 4. Social Development 5. Literacy and Communication 6. Cognitive Development and Problem-solving 7. "Digital Heroin" and Addiction 8. Physiological Development, Stress and Healthcare 9. Screen-time and Sleep 10. Education and Learning 11. Gender and Diversity on the Screen 12. Gender and Diversity Behind the Scenes 13. Labor: Culture of "Crunch" 14. Student Presentations

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students prepare vocabulary and assigned readings before class. Students research and prepare a final presentation throughout the semester.
テキスト	All materials will be provided in class.
参考文献	Provided in class.
評価方法	Classroom Participation 40%, Response papers 25%, Final Presentation 25%, Quizzes and Homework 10%

13 年度以降	英語専門講読 II 【4 年生対象】 (Videogames and Interactive Media in Social Science)	担当者	J．D．コーリス

講義目的、講義概要	授業計画
Videogames and Interactive Media in Social Science: This course will survey the growing body of social science literature on the study of videogames and emerging interactive media. Videogames are now the single largest sector of the global entertainment industry, and this commercial impact is matched by an equally profound cultural impact. Today videogames shape and participate in our learning, sociality, and work, as much as they do in our play. As a result, videogames and videogame research have pushed scholars to rethink some of the dominant models of these spheres of human activity. In this class students will read selections to learn about key areas of videogame scholarship and practice critical analysis and discussion of those topics and readings. The course will include weekly readings and response papers and a final research essay.	1. Greeting and Introduction: What is a videogame? 2. Narratology and Ludology 3. Interactivity and Emergent Authorship 4. Physicality and Embodiment 5. Empathy and Aggression 6. Discipline: Reward, Punishment, and Agency 7. Midterm Presentations 8. Community and Socialization 9. Learning and Literacy 10. Work and Play: Making Games as Work 11. Work and Play: Playing Games as Work 12. Hacking, Modding and User-generated Content 13. Deviance and Subversion: Cheating and Griefing 14. Course Review

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students prepare vocabulary and assigned readings before class. Students research and prepare a final essay throughout the semester.
テキスト	All materials will be provided in class.
参考文献	Provided in class.
評価方法	Classroom Participation 40%, Homework and Response Papers 30%, Final Research Paper 30%

13 年度以降	英語専門講読 I 【4 年生対象】 （変形生成文法理論研究の 50 年）	担当者	鈴木　英一

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的: 近年 変形生成文法理論の研究を回顧する二つのイベントがあった. 一つは, MIT 言語学の 50 周年記念行事（2011 年 12 月 9 日－ 11 日）であり, もう一つは, Noam Chomsky が変形文法の初期の研究の集大成と今後の展望を明らかにした Chomsky (1965)*Aspects of the Theory of Syntax* 以降の 50 年の研究を回顧する論文集の刊行（2015 年 12 月）である. 春学期は前者のイベントを中心に生成文法理論の内容を学習するとともに英語の読解能力の向上を目指す. **講義概要**: まず50周年記念集会への招待状を読む. 次に, 招待されるMITの修了者への二つの質問への著名な言語学者の返答を数通読む. さらに, *Aspects*以降の50年の研究回顧論文集に寄せたChomskyの所感（「まえがき」）を読む.	1. Invitation to the scientific reunion & two questions 2. Ross's reply – on linguistic universals 3. Ross's reply – the start of squibs 4. Ross's reply – on explanations in linguistics 5. Emonds's reply 6. Longobardi's reply - on parametric theories 7. Longobardi's reply - evidence for P & P 8. Rizzi's reply to the questions 〈中間試験〉 9. Chomsky's remarks on his own Aspects (1965) 10. Basic assumptions in Aspects (1965) 11. Goals for linguistic theory 12. On the properties of language 13. Construction of explicit grammars 14. Study of I-language

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回の授業の準備のために必ず予習し, 予習に際しては, 参考文献の『統辞構造論』の「【解説】「生成文法の企て」の原典」を適宜参考にされたい。
テキスト	配布する“50 years of Linguistics at MIT —A scientific reunion”に関する文書・論文
参考文献	Noam Chomsky（著）, 福井直樹・辻子美保子（訳）『統辞構造論』（岩波書店, 2014 年）
評価方法	出席は単位認定の前提とし, 授業での発表（10%）と中間試験（45%）と期末試験（45%）に基づいて評価する。

13 年度以降	英語専門講読Ⅱ 【4 年生対象】 （生成文法理論・標準理論以降の研究 50 年）	担当者	鈴木　英一

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的: 変形生成文法理論研究を回顧する二つのイベントのうち, 秋学期は, Chomsky (1965) *Aspects of the Theory of Syntax.*以降の生成文法理論研究の50年を回顧する論文集 *50 Years Later Reflections on Chomsky's* Aspects に収録された論文を読み, 生成文法理論の研究の経過を学習するとともに英語の読解能力の向上を目指す. **講義概要**: Aspects以降の50年回顧論文に収録されている論文のうち, Aspects以降の生成文法の研究をよく説明している, Tim Stowell “Mentalism and Universals in *Aspects*”と Samuel Epstein et al. “From *Aspects*' Daughterless Mothers' (AKA Delta Nodes) to POP's 'Motherless Sets' (AKA Non-Projection): A Selective History of the Evolution of Simplest Merge“という二つの論文を読む.	1. Mentalism in Aspects [Stowell] 2. Mentalistic interpretation of linguistic theory 3. Shift to mentalism 4. Universals in Aspects 5. Two types of universals 6. Problems of Projecton (POP) [Epstein et al.] 7. Certain aspects of Aspects 8. Properties of phrase structure rules 〈中間試験〉 9. from phrase structure rules to X-bar Theory 10. Properties of -bar Theory 11. Minimalist Program 12. Emergence of bare phrase structure 13. simplest Merge 14. from Aspects to Problems of Projection

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回の授業の準備のために必ず予習し, 予習に際しては, 参考文献の『統語理論の諸相』を適宜参考されたい。
テキスト	配布する論文: Stowell “Mentalism and Universals in Aspects” と Epstein et al. “From *Aspects* to POP…”
参考文献	Noam Chomsky（著）・安井稔（訳）『統語理論の諸相』（研究社, 1970 年）
評価方法	出席は単位認定の前提とし, 授業での発表（10%）と中間試験（45%）と期末試験（45%）に基づいて評価する。

13 年度以降	英語専門講読 I 【4 年生対象】 (Exploring Language Teaching)	担当者	浅岡　千利世

講義目的、講義概要	授業計画
In this course, you will learn theoretical ideas and practical techniques which you can use to make your own learning and teaching more effective and enjoyable for yourselves. *All the coursework will be conducted in English.* You will be encouraged to actively participate in the class activities. This course is recommended for students who are in the initial teacher training course.	1. Introduction 2. What is a bilingual? 3. Characteristics of L2 users 4. What are l2 users like? 5. A best age for learning L2 6. The experience of immigrants 7. The idea of a critical period 8. Acquiring L2 vocabulary 9. The lexical challenge in infancy and later 10. Learning words from context 11. Learning L2 grammar 12. Grammatical morphemes 13. Word order and processing 14. Wrap-up

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	reading assignments, writing summaries, doing research and preparing for presentations
テキスト	*Key Topics in Second Language Acquisition*, V. Cook & D. Singleton (Multilingual Matters, 2014)
参考文献	特になし
評価方法	In-class participation (20%), presentations (40%), reading assignments and summary (30%), self evaluation (10%)

13 年度以降	英語専門講読 II 【4 年生対象】 (Exploring Language Teaching)	担当者	浅岡　千利世

講義目的、講義概要	授業計画
In this course, you will learn theoretical ideas and practical techniques which you can use to make your own learning and teaching more effective and enjoyable for yourselves. *All the coursework will be conducted in English.* You will be encouraged to actively participate in the class activities. This course is recommended for students who are in the initial teacher training course.	1. Introduction 2. Learning to write in L2 3. Writing system 4. Reading and writing processes 5. Attitudes and motivation in learning L2 6. Attitudes 7. Motivation 8. Teaching and learning 9. The grammar translation method 10. The audiolingual method 11. The communicative approach 12. The hierarchy of languages 13. Groups of L2 users 14. Native speakers and L2 users

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	reading assignments, writing summaries, doing research and preparing for presentations
テキスト	*Key Topics in Second Language Acquisition,* V. Cook & D. Singleton (Multilingual Matters, 2014)
参考文献	特になし
評価方法	In-class participation (20%), presentations (40%), reading assignments and summary (30%), self evaluation (10%)

13 年度以降	英語専門講読Ⅰ【4 年生対象】 （アメリカの食文化を読む）	担当者	大木　理恵子

講義目的、講義概要	授業計画
アジア系アメリカ人社会の食文化に関する学術論文を、精読する。春学期はカリフォルニア大学ロサンゼルス校歴史学科のV. J. マツモト教授の論文を取り上げる。 昨今の学生には、なぜか辞書を引かず、内容の概略をスキミングしていき、分からないことがあっても確かめずに推測にまかせ読み進めるという方法を好む方が多いように思う。資格試験の問題を読んだり、雑誌や軽い読み物を楽しんだりするときにはよいだろう。しかし、単語、熟語、文法等の知識を確認しながら、論文をきちんと読む作業は、全学生に必ず経験していただき、できれば習慣として身につけてほしいことのひとつである。 本授業ではそのような訓練を行うと同時に、アカデミックな英語の文章の特徴や、学術論文の構造などに親しんでもらうことで、いざ学生が自分で論文を執筆しようとしたときにも役立つ読み方を心がけていきたい。	1. オリエンテーション 2. 論文理解の前提となる必要基本知識の確認（時代など） 3. 必要基礎知識の確認（用語など）／導入部分 4. 第二次世界大戦前の日系アメリカ人①pp.256-257 5. 第二次世界大戦前の日系アメリカ人②pp.257-258 6. 第二次世界大戦前の日系アメリカ人③pp.258-259 7. 〈新〉日系アメリカ人料理①pp.259-260 8. 〈新〉日系アメリカ人料理②pp.260-261／食べ物と民族性pp.261-262 9. 〈新しい〉多文化料理 10. 食べ物とジェンダー①pp.264-265 11. 食べ物とジェンダー②pp.265-266 12. 祝祭の食べ物 13. 食べ物と第二次世界大戦 14. まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	予習として、次回の授業範囲となるテクストの箇所を精読し、辞書を引き、分からないことがあればその箇所を明らかにしておくこと（2 時間。人によってはもっとかかるかもしれません）。
テキスト	Matsumoto. “Apple Pie and Makizushi.” (2013)
参考文献	授業中に適宜紹介する。
評価方法	授業参加度 50%とその他の平常点（提出物、発表など）50%から、総合的に評価する。

13 年度以降	英語専門講読Ⅱ【4 年生対象】 （アメリカの食文化を読む）	担当者	大木　理恵子

講義目的、講義概要	授業計画
アジア系アメリカ人社会の食文化に関する学術論文を、精読する。秋学期はハワイ大学人類学科のC. R. ヤノ教授の論文を取り上げる。 昨今の学生には、なぜか辞書を引かず、内容の概略をスキミングしていき、分からないことがあっても確かめずに推測にまかせ読み進めるという方法を好む方が多いように思う。資格試験の問題を読んだり、雑誌や軽い読み物を楽しんだりするときにはよいだろう。しかし、単語、熟語、文法等の知識を確認しながら、論文をきちんと読む作業は、全学生に必ず経験していただき、できれば習慣として身につけてほしいことのひとつである。 本授業ではそのような訓練を行うと同時に、アカデミックな英語の文章の特徴や、学術論文の構造などに親しんでもらうことで、いざ学生が自分で論文を執筆しようとしたときにも役立つ読み方を心がけていきたい。	1. オリエンテーション 2. 論文理解の前提となる必要基本知識の確認 3. 導入部分①pp.30-32 4. 導入部分②pp.32-33 5. 今昔給食談義①pp.33-35 6. 今昔給食談義②pp.35-37 7. 今昔給食談義③pp.37-36 8. 今昔給食談義④pp.36-38 9. 給食のおばさん 10. ある給食のおばさんの肖像 11. 給食のレガシー 12. カフェテリアで育まれるアメリカ市民権 13. ハワイの学校給食における人気メニュー 14. まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	予習として、次回の授業範囲となるテクストの箇所を精読し、辞書を引き、分からないことがあればその箇所を明らかにしておくこと（2 時間。人によってはもっとかかるかもしれません）。
テキスト	Yano. “Tasting America.” (2013)
参考文献	授業中に適宜紹介する。
評価方法	授業参加度 50%とその他の平常点（提出物、発表など）50%から、総合的に評価する。

13 年度以降	英語専門講読 I （オセアニアの社会と文化）	担当者	玉井　昇

講義目的、講義概要	授業計画
（講義目的）主に次の能力の向上を目指します。1）課題設定力：オセアニア地域の政治、社会や文化を理解し、自らの関心に応じた課題を設定する。2）情報収集分析力：各自が設定した課題に関する英語文献を収集し、熟読の上、論点を整理する。3）発信力／対応力：自身の分析や論点を他者に発信し、質問やコメントに応対する。 （講義概要）オセアニア地域の政治や社会に関する英語文献を通して、地域に関する理解を深めます。また、応用英語学的な観点から、文献をどのように読み、論点や課題を設定するか考え、他者への効果的な伝達手段についても考えます。よって、オセアニア地域に対する関心はもちろんのこと、効果的なプレゼンテーションや英語での教育に関心がある人にも適しています。受講者が主体となって取り組みアクティブラーニング的手法やピア・ティーチングも重視します。	1. Course Introduction 2. Introduction for Oceania Studies 3. Presentation & Discussion: Political issues 4. Presentation & Discussion: Economic situation 5. Presentation & Discussion: Cultural issues 6. Presentation & Discussion: Social trends 7. Presentation & Discussion Education 8. Midterm Review & Introduction for Second half 9. Presentation & Discussion(6) Tourism& Hospitality 10. Presentation & Discussion(7) Specific city of AUS 11. Presentation & Discussion(8) Specific city of NZ 12. Presentation & Discussion(9) Specific city of others 13. Presentation & Discussion(10) Global situation 14. Course Review Note: These plans might be changed if needed.

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	配布資料の事前・事後の学習。とくにディスカッションリーダーは入念な事前準備が必要です。
テキスト	主に ABC や RNZ など豪州や NZ のオンラインサイトの情報をテキストとして利用します。
参考文献	適宜紹介します。
評価方法	ディスカッションリーダーとしての授業運営（30%）、通常ディスカッションへの参加と貢献度（30%）、最終レポート（40%）

13 年度以降	英語専門講読 II （オセアニアの社会と文化）	担当者	玉井　昇

講義目的、講義概要	授業計画
（講義目的）春期と同様に次の3点です。1）課題設定力：オセアニア地域の政治、社会や文化を理解し、自らの関心に応じた課題を設定する。2）情報収集分析力：各自が設定した課題に関する英語文献を収集し、熟読の上、論点を整理する。3）発信力／対応力：自身の分析や論点を他者に発信し、質問やコメントに応対する。 （講義概要）春期に続き、オセアニア地域の政治や社会に関する英語文献を通して、地域に関する理解の習熟をめざします。また、応用英語学的な観点から、文献をどのように読み、論点や課題を設定するか考え、他者への効果的な伝達手段についても考えます。よって、オセアニア地域に対する関心はもちろんのこと、効果的なプレゼンテーションや英語での教育に関心がある人にも適しています。受講者が主体となって取り組みアクティブラーニング的手法やピア・ティーチングも重視します。	1. Course Introduction 2. Introduction for Oceania Studies 3. Presentation & Discussion: Political issues 4. Presentation & Discussion: Economic situation 5. Presentation & Discussion: Cultural issues 6. Presentation & Discussion: Social trends 7. Presentation & Discussion Education 8. Midterm Review & Introduction for Second half 9. Presentation & Discussion(6) Tourism& Hospitality 10. Presentation & Discussion(7) Specific city of AUS 11. Presentation & Discussion(8) Specific city of NZ 12. Presentation & Discussion(9) Specific city of others 13. Presentation & Discussion(10) Global situation 14. Course Review Note: These plans might be changed if needed.

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	配布資料の事前・事後の学習。とくにディスカッションリーダーは入念な事前準備が必要です。
テキスト	主に ABC や RNZ など豪州や NZ のオンラインサイトの最新記事をテキストとして利用します。
参考文献	適宜紹介します。
評価方法	ディスカッションリーダーとしての授業運営（30%）、通常ディスカッションへの参加と貢献度（30%）、最終レポート（40%）

13 年度以降	英語専門講読 I （戦後国際政治史）（月 4）	担当者	永野　隆行

講義目的、講義概要	授業計画
第二次世界大戦後の国際関係に関する英語文献を読むことを通じて、国際関係に関する知識を習得することを目指す。毎回の授業では、パラグラフごとに内容を確認しながら進めていく。出席者にはパラグラフの要約、ならびに教員からの質問に答えてもらうので、予習が不可欠となる。なお毎週、英文和訳や内容確認の小テストを行う。 使用するテキストは図書館に所蔵しているが、授業指定図書となるため館外貸し出しは不可。各自コピーするか、アマゾンなどで購入せよ（Kindle版もあるが、授業はペーパーバック版をもとに進める）。テキストの英文は平易であるが、国際関係論についての基礎知識がないと読み進めることはできないし、教員の説明を聞いても理解できないだろう。特に２年生は注意して欲しい。この授業と併せて、「グローバル・ヒストリー」などの国際政治史に関する授業を履修することを勧める。 ＊なお、第一回目から授業を開始し、小テストを実施するので、少なくとも第９章の５ページ程度は読んでおくこと。	1. 授業の進め方に関するオリエンテーション 2. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読① 3. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読② 4. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読③ 5. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読④ 6. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑤ 7. 前半の総括と質疑応答 8. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑥ 9. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑦ 10. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑧ 11. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑨ 12. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑩ 13. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑪ 14. 後半の総括と質疑応答

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に読んでおくこと。また授業終了後は、授業内容を思い起こし、ポイントを整理しておくこと。疑問点があれば、次週の授業で質問すること。
テキスト	Antony Best et al. *International History of the Twentieth Century and Beyond* (Oxford: Oxford University Press, 2014), Chap. 9 – Chap. 23.
参考文献	第一回目の授業で参考文献リストを配布予定。
評価方法	評価は次の 2 点による。①授業の参加度・貢献度（30%）、②小テスト（70%）。欠席が4回になった時点で不可。遅刻は 2 回で欠席とみなす。なお授業中の教員からの質問に答えられなかった場合は減点する。

13 年度以降	英語専門講読 II （戦後国際政治史）（月 4）	担当者	永野　隆行

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に引き続き、第二次世界大戦後の国際関係に関する英語文献を読むことを通じて、国際関係に関する知識を習得することを目指す。毎回の授業では、パラグラフごとに内容を確認しながら進めていく。出席者にはパラグラフの要約、ならびに教員からの質問に答えてもらうので、予習が不可欠になる。なお毎週、和文英訳や内容確認の小テストを行う。 使用するテキストは図書館に所蔵しているが、授業指定図書となるため館外貸し出しは不可。各自コピーするか、アマゾンなどで購入せよ（Kindle版もあるが、授業ではペーパーバック版をもとに進める）。テキストの英文は平易であるが、国際関係論についての基礎知識がないと読み進めることはできないし、教員の説明を聞いても理解できないだろう。特に2年生は要注意。この授業と併せて、「グローバル・ヒストリー」などの国際政治史に関する授業を履修することを勧める。 ＊なお、第一回目から授業を開始し、小テストを実施するので、少なくとも５ページ程度は読んでおくこと。	1. 授業の進め方に関するオリエンテーション 2. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読① 3. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読② 4. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読③ 5. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読④ 6. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑤ 7. 前半の総括と質疑応答 8. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑥ 9. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑦ 10. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑧ 11. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑨ 12. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑩ 13. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑪ 14. 後半の総括と質疑応答

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に読んでおくこと。また授業終了後は、授業内容を思い起こし、ポイントを整理しておくこと。疑問点があれば、次週の授業で質問すること。
テキスト	Antony Best et al. *International History of the Twentieth Century and Beyond* (Oxford: Oxford University Press, 2014), Chap. 9 – Chap. 23.
参考文献	第一回目の授業で参考文献リストを配布予定。
評価方法	評価は次の 2 点による。①授業の参加度・貢献度（30%）、②小テスト（70%）。欠席が4回になった時点で不可。遅刻は 2 回で欠席とみなす。なお授業中の教員からの質問に答えられなかった場合は減点する。

13 年度以降	英語専門講読 I 【4 年生対象】 (Children's Classics)	担当者	前沢　浩子

講義目的、講義概要	授業計画
《イギリス児童文学》 古典とされるイギリス児童文学の中から、いくつかを選んで読みながら、イギリス文化への理解を深めることを目的とする。春学期はA Bear Called Paddingtonのシリーズを読む。きわめて平易な英語で書かれているが、イギリス英語特有の表現、ロンドンのミドルクラスの生活と価値観、ペルーからの「移民」であるクマへの視線といったものが細部には書き込まれている。そうした面白さは翻訳では、なかなか理解できない。平易な英語を速読しながら、細部の面白さを理解することを目指す。またこのシリーズはStephen Fryの朗読によるAudio Bookもあるので、音声としての英語の面白さへの鑑賞力を高めることも目的のひとつである。	1. Introduction 2. *A Bear Called Paddington*, Chapter 1 3. *A Bear Called Paddington*, Chapter 2 4. *A Bear Called Paddington*, Chapter 3 5. *A Bear Called Paddington*, Chapter 4 6. *A Bear Called Paddington*, Chapter 5 7. *A Bear Called Paddington*, Chapter 6 8. *A Bear Called Paddington*, Chapter 7 9. *More about Paddington*, Chapter 1 10. *More about Paddington,* Chapter 2 11. *More about Paddington*, Chapter 3 12. *More about Paddington*, Chapter 4 13. *More about Paddington*, Chapter 5 14. *More about Paddington*, Chapter 6

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	1 回およそ 20〜25 ページ程度を読む。その指定された箇所について、事前に精読しておくこと。
テキスト	Bond, Michael. (1958). *A Bear Called Paddington*. Collins. ISBN: 0007174160、その他 1 冊
参考文献	授業中に紹介する。
評価方法	毎回の授業で行う小テストと授業への参加度によって評価する。

13 年度以降	英語専門講読 II 【4 年生対象】 (Children's Classics)	担当者	前沢　浩子

講義目的、講義概要	授業計画
春学期の続き。秋学期はFrances Hodgson Burnettの*Little Lord Fauntleroy*を読む。*Little Lord Fauntleroy*は大きな運命の転変を経験する少年の物語であるが、同時にイギリスとアメリカの文化や社会、それに根ざした価値観の差を反映している。英語で丹念に読みながら、筋書きを追うだけではなく、イギリスの階級社会とアメリカの共和制、イギリスのクリケットとアメリカの野球など、英米の文化や制度の差についても理解を深めることを目指す。	1. *Little Lord Fauntleroy*, Chapter 1 2. *Little Lord Fauntleroy*, Chapter 2 3. *Little Lord Fauntleroy*, Chapter 3 4. *Little Lord Fauntleroy*, Chapter 4 5. *Little Lord Fauntleroy*, Chapter 5 6. *Little Lord Fauntleroy*, Chapter 6 7. *Little Lord Fauntleroy*, Chapter 7 8. *Little Lord Fauntleroy*, Chapter 8 9. *Little Lord Fauntleroy*, Chapter 9 10. *Little Lord Fauntleroy*, Chapter 10 11. *Little Lord Fauntleroy*, Chapter 11 12. *Little Lord Fauntleroy*, Chapter 12 13. *Little Lord Fauntleroy*, Chapter 13 14. *Little Lord Fauntleroy*, Chapter 14

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回指定された章を事前に精読してくること。
テキスト	Burnett, Frances Hodgson (1886) *Little Lord Launtleroy*. Puffin Classics. ISBN: 9780141330143
参考文献	授業中に紹介する。
評価方法	毎回の授業で行う小テストと授業への参加度 70%、学期末試験 30%

13 年度以降	英語専門講読Ⅰ【4 年生対象】 （シンボルを読み解く）	担当者	三吉　美加

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、さまざまな表象文化におけるシンボルを読み解いていく。短編小説、詩、歌のリリックスなどのテキストを用いて、シンボルや暗黙的前提を明らかにしながら、背後にある歴史、社会、宗教、ポピュラーカルチャー、消費主義などについて深く理解していく。 春学期はとくに食文化に注目していく。	1.　ガイダンス 2.　身の周りのシンボル 3.　小説におけるシンボルの解釈 4.　食べものとストーリー　1　甘味 5.　食べものとストーリー　2　主食 6.　食べものとストーリー　3　肉 7.　食べものとストーリー　4　スパイス 8.　食べものとストーリー　5　飲み物 9.　映画/音楽のなかのシンボル 10.　短編小説のなかのシンボル　1米国 11.　短編小説のなかのシンボル　2英国 12.　プレゼンテーション前半 13.　プレゼンテーション 後半・コメント 14.　まとめと試験

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定されたところを事前に精読しておいてください。予習は必須です。
テキスト	プリントを配布する。
参考文献	三吉美加『米国のラティーノ』（大学教育出版、2014 年）
評価方法	授業への参加度 20%　プレゼンテーション 20%　試験 60%

13 年度以降	英語専門講読Ⅱ【4 年生対象】 （表象文化のシンボルを読み解く）	担当者	三吉　美加

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期も、春学期と同様のトピックを扱うが米国の アフリカ系アメリカ人、ラティーノ、カリブ系の文化について焦点をあてる。	1.　ガイダンス 2.　身の周りのシンボル 3.　小説におけるシンボル 4.　アメリカ文化におけるシンボル 5.　アフリカ系アメリカ文化のシンボル 6.　ラティーノ・カリブ系のシンボル 1アフリカの伝統 7.　ラティーノ・カリブ系のシンボル 2音楽と食 8.　映画/音楽のなかのシンボル　1「死者の日」 9.　映画/音楽のなかのシンボル　2「ハロウィーン」 10.　お話しのなかのシンボル　1不思議な話 11.　お話しのなかのシンボル　2ストーリーテリング 12.　プレゼンテーション前半 13.　プレゼンテーション後半・コメント 14.　まとめと試験

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定されたところを事前に精読しておいてください。予習は必須です。
テキスト	プリントを配布します。
参考文献	三吉美加『米国のラティーノ』（大学教育出版、2014 年）
評価方法	授業への参加度 20%　グループプレゼンテーション 20%　試験 60%

13 年度以降	英語専門講読Ⅰ【4 年生対象】 （コリアン・ディアスポラを考える）	担当者	大木　理恵子

講義目的、講義概要	授業計画
ディアスポラ――故国や民族の居住地を離れて越境し、別の土地に定住して、そこで暮らす人々。その言葉の語源となったユダヤ人を始め、世界各地には多くのディアスポラが存在するが、日本に暮らす我々にとって最も近しい存在なのは、なんといっても全国に90万人近く（2013年の時点で）が住んでいるという、在日コリアンであろう。 この授業では、在米韓国人作家Min Jin Leeによる在日コリアンを題材とした長編小説で、2017年の全米図書賞のファイナリストにもなったベストセラー『パチンコ』の講読を通じ、コリアン・ディアスポラについて、そして文化の共生について考えていきたい。 全体で500頁を超える長編小説だが、英語は平易で読みやすく、ベストセラーになるだけあって、なにより話が面白い。長編小説を英語で読んだことのない学生も楽しめ、また考えさせられることの多い経験となるだろう。	1. オリエンテーション 2. Book 1: 1章, 2章, 3章, 3. 4章, 5章, 6章, 4. 7章, 8章, 9章, 5. 10章, 11章, 12章, 6. 13章, 14章, 15章, 7. 16章, 17章. Book 1のまとめ 8. Book 2: 1章, 2章, 3章, 9. 4章, 5章, 6章, 10. 7章, 8章, 9章, 11. 10章, 11章, 12章, 12. 13章, 14章, 15章, 13. 16章, 17章, 18章, 14. 19章, 20章. Book 2のまとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	扱われる箇所を必ず読み、各の内容を象徴するような一文を準備すること（提出）。また、登場人物の相関関係や新事実などを整理し、質問に答えられるよう準備しておくこと。所要時間は、3〜5 時間。
テキスト	Min Jin Lee. *Pachinko*. Head of Zeus. 2017.
参考文献	授業中に適宜紹介する。
評価方法	授業参加度 50%、提出物 50%

13 年度以降	英語専門講読Ⅱ【4 年生対象】 （コリアン・ディアスポラを考える）	担当者	大木　理恵子

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に引き続き、在米韓国人作家Min Jin Leeによる在日コリアンを題材とした長編小説で、2017年の全米図書賞のファイナリストにもなったベストセラー『パチンコ』の講読を通じ、コリアン・ディアスポラについて、そして文化の共生について考えていきたい。 授業の進め方は、基本的に春学期と同じだが、第12週と第13週には、受講者による短いプレゼンテーションの機会を設ける。取り上げた作品や授業内容に関連したトピックで、各学生に発表をしていただくことになる（時間は受講生の人数により加減）。 なお、秋学期のみ履修の受講生は、夏季休暇の間にBook 1とBook 2を読んでおくこと。	1. オリエンテーション 2. Book 3: 1章, 2章, 3. 3章, 4章, 4. 5章, 6章, 5. 7章, 8章, 6. 9章, 10章, 7. 11章, 12章, 8. 13章. 14章, 9. 15章, 16章, 10. 17章, 18章, 11. 19章, 20章, Book 3のまとめ 12. プレゼンテーション（受講者前半のかた） 13. プレゼンテーション（受講者後半のかた） 14. 総括

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	春学期に同じ。それに加えて、プレゼンテーションの前には、一定の準備が必要である。
テキスト	Min Jin Lee. *Pachinko*. Head of Zeus. 2017.
参考文献	授業中に適宜紹介する。
評価方法	授業参加度（プレゼンテーションを含む）50%、提出物 50%

13 年度以降	英語専門講読 I （現代国際関係）（月 5）	担当者	永野　隆行

講義目的、講義概要	授業計画
「インド太平洋」地域の国際関係に関する評論を読んでいく。講読の対象となる評論は、国際問題専門誌Diplomatや米経済紙Wall Street Journal、オーストラリアの国際問題に関する２つの研究所ローウィ研究所（Lowy Institute）とオーストラリア戦略政策研究所（ASPI）のリサーチペーパーなどから取り上げる。 主なトピックは、トランプ政権のアジア政策、中国の「一帯一路」とインド太平洋、サイバー問題を巡る米中対立、日本の「インド太平洋構想」、南シナ海問題、北朝鮮の核問題、オーストラリアの外交政策などである。 受講者に対しては毎週、対象英文の全文和訳を宿題として課す。その上で、授業ではパラグラフごとに受講者が交代で日本語訳を発表し、受講者はさらにパラグラフの内容についての教員からの質問に答える義務が課される。質問に答えられなかった場合は、減点する。しがって、予習するにあたっては、単に英語を和訳するのではなく、関連文献を読むなどして、内容の理解を務めることが必要である。	1. オリエンテーション 2. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読① 3. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読② 4. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読③ 5. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読④ 6. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑤ 7. 前半の総括と質疑応答 8. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑥ 9. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑦ 10. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑧ 11. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑨ 12. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑩ 13. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑪ 14. 後半の総括と質疑応答

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	指定された英文を事前に読み、内容を理解し、疑問点を明確にしておくこと。授業後は授業内容を復習し、理解できなかった部分を翌週の授業で提示し、疑問点を解消しておくこと。
テキスト	テキストはポータルサイトを通じて配布する。
参考文献	第一回目の授業で参考文献リストを配布予定。
評価方法	①宿題（60%）、②授業時の和訳担当（40%）、欠席が４回になった時点で不可。遅刻は２回で欠席とみなす（欠席した場合には宿題を受理することはできない）。

13 年度以降	英語専門講読 II （現代国際関係）（月 5）	担当者	永野　隆行

講義目的、講義概要	授業計画
「インド太平洋」地域の国際関係に関する評論を読んでいく。講読の対象となる評論は、国際問題専門誌Diplomatや米経済紙Wall Street Journal、オーストラリアの国際問題に関する２つの研究所ローウィ研究所（Lowy Institute）とオーストラリア戦略政策研究所（ASPI）のリサーチペーパーなどから取り上げる。 主なトピックは、トランプ政権のアジア政策、中国の「一帯一路」とインド太平洋、サイバー問題を巡る米中対立、日本の「インド太平洋構想」、南シナ海問題、北朝鮮の核問題、オーストラリアの外交政策などである。 受講者に対しては毎週、対象英文の全文和訳を宿題として課す。その上で、授業ではパラグラフごとに受講者が交代で日本語訳を発表し、受講者はさらにパラグラフの内容についての教員からの質問に答える義務が課される。質問に答えられなかった場合は、減点する。しがって、予習するにあたっては、単に英語を和訳するのではなく、関連文献を読むなどして、内容の理解を務めることが必要である。	1. オリエンテーション 2. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読① 3. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読② 4. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読③ 5. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読④ 6. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑤ 7. 前半の総括と質疑応答 8. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑥ 9. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑦ 10. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑧ 11. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑨ 12. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑩ 13. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑪ 14. 後半の総括と質疑応答

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	指定された英文を事前に読み、内容を理解し、疑問点を明確にしておくこと。授業後は授業内容を復習し、理解できなかった部分を翌週の授業で提示し、疑問点を解消しておくこと。
テキスト	テキストはポータルサイトを通じて配布する。
参考文献	第一回目の授業で参考文献リストを配布予定。
評価方法	①宿題（60%）、②授業時の和訳担当（40%）、欠席が４回になった時点で不可。遅刻は２回で欠席とみなす（欠席した場合には宿題を受理することはできない）。

13 年度以降	英語専門講読 I 【4 年生対象】 （SLA 最前線）	担当者	羽山　恵

講義目的、講義概要	授業計画
第2言語（英語）を習得すること（second language acquisition: SLA）は、なぜこんなに難しいのか？どのような学習方法・教授方法が効果的なのか？第2言語習得に長けている人と苦労する人は、一体何が違うのか？ このような疑問に答えるべく、調査や実験を行うのが、「実証研究」である。この授業では、英語で書かれたSLA実証研究論文を講読していく。 実証研究論文は「科学的」である。「研究課題」（Research questions）があり、「研究方法」（Research method）があり、得られた「結果」（Results）は図や表と共に数値で表される。多くの受講生の皆さんにとっては、初めて読むタイプの文書だと思われるが、どのように読み解いて行くのかという基本的なことを講義する。その後、読んだ内容を基に、ディスカッションやリサーチデザイン案を立ててみる活動を中心とした、活発な演習を行っていく。	1. ガイダンス・練習論文の配布 2. 練習論文 3. 論文1-1. 語彙習得について：Intro, Background 4. 論文1-2. 語彙習得について：Method 5. 論文1-3. 語彙習得について：Results, Discussion 6. 論文1-4. 語彙習得について：議論・デザイン練習 7. 論文2-1. 学習者要因について：Intro, Background 8. 論文2-2. 学習者要因について：Method 9. 論文2-3. 学習者要因について：Results, Discussion 10. 論文2-4. 学習者要因について：議論・デザイン練習 11. 論文3-1. 効果的な学習方法とは：Intro, Background 12. 論文3-2. 効果的な学習方法とは：Method 13. 論文3-3. 効果的な学習方法とは：Results, Discussion 14. 論文3-4. 効果的な学習方法とは：議論・デザイン練習

到達目標	分野専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	予め配布される質問紙に対する答えを探しながら、当該論文を読んだ上、授業に臨むこと。
テキスト	日本国内で出版された、日本人英語学習者を対象とした研究論文。
参考文献	論文のテーマごとに、授業中に紹介する。
評価方法	毎回の授業中での活動（60%）、学期末レポート（40%）

13 年度以降	英語専門講読 II 【4 年生対象】 （SLA 最前線）	担当者	羽山　恵

講義目的、講義概要	授業計画
春学期同様、SLA実証研究論文を講読する。秋学期は、日本国外で出版された、日本人英語学習者以外を対象としたSLA研究に触れ、世界で第2言語の学習・教授がどのように行われているのかについて知ることも目的の1つである。 また秋学期は、読んだ論文の要約、議論などの授業内活動を英語で行う。最終レポートも英語で書いて頂く。これらを通じ、研究論文で仕様されている高度でアカデミックな英語表現を身につけることを目指す。	1. ガイダンス 2. 論文1-1. リスニングプロセス：Intro, Background 3. 論文1-2. リスニングプロセス：Method 4. 論文1-3. リスニングプロセス：Results, Discussion 5. 論文1-4. リスニングプロセス：議論・デザイン練習 6. 論文2-1. 言語テストと評価：Intro, Background 7. 論文2-2. 言語テストと評価：Method 8. 論文2-3. 言語テストと評価：Results, Discussion 9. 論文2-4. 言語テストと評価：議論・デザイン練習 10. 論文3-1. WTC：Intro, Background 11. 論文3-2. WTC：Method 12. 論文3-3. WTC：Results, Discussion 13. 論文3-4. WTC：議論・デザイン練習 14. まとめ

到達目標	分野専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	予め配布される質問紙に対する答えを探しながら、当該論文を読んだ上、授業に臨むこと。
テキスト	日本国外で出版された、日本人英語学習者を対象とした研究論文。
参考文献	論文のテーマごとに、授業中に紹介する。
評価方法	毎回の授業中での活動（60%）、学期末レポート（40%）

13 年度以降	英語専門講読 I 【4 年生対象】 (History of the English Language)	担当者	J．J．ダゲン

講義目的、講義概要	授業計画
This course is designed to help students interested in language and language learning to better understand the English language. In this course we will trace English's journey across the globe in the wake of British imperialism, following it to first to America. By reading and discussing the text material, including pre-reading and post-reading activities to enhance the reader's comprehension, it is hoped that students will come away from this course with a better understanding of the English language today. Students will be required to keep reading journals in which they will record their assignments as well as their own observations, opinions, and discussion of the text.	Week 1: Introduction Week 2: My America: Vocabulary & Discuss (V&D) Week 3: My America: Video & Reading (V&R) Week 4: Wild West Words: V&D Week 5: Wild West Words: V&R Week 6: Sold Down the River: V&D Week 7: Sold Down the River: V&R Week 8: Quiz I. Mastering the Language: V&D Week 9: Mastering the Language: V&R Week 10: The Proper Way to Talk: V&D Week 11: The Proper Way to Talk: V&R Week 12: Steam, Streets and Slang: V&D Week 13: Steam, Streets and Slang: V&R Week 14: Quiz II. Journals due.

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will be required each week to complete the assigned reading and homework assignments (approximately 4 hours) in preparation for class participation.
テキスト	Bragg, M. *The Adventure of English: The Biography of a Language*. (Sceptre, 2011)
参考文献	Presented on a case-by-case basis
評価方法	Grades are based on assignments & in-class participation (60%), quizzes (20%), and a final assessment based on the text and lecture (20%).

13 年度以降	英語専門講読 II 【4 年生対象】 (History of the English Language)	担当者	J．J．ダゲン

講義目的、講義概要	授業計画
This course is designed to help students interested in language and language learning to better understand the English language. In this course we will trace English's journey across the globe in the wake of British imperialism, following it to India, Australia, and elsewhere. By reading and discussing the text material, including pre-reading and post-reading activities to enhance the reader's comprehension, it is hoped that students will come away from this course with a better understanding of the English language today. Students will be required to keep reading journals in which they will record their assignments as well as their own observations, opinions, and discussion of the text.	Week 1: Introduction Week 2: Indian Takeover: Vocabulary & Discuss (V&D) Week 3: Indian Takeover: Video & Reading (V&R) Week 4: The West Indies: V&D Week 5: The West Indies: V&R Week 6: Advance Australia: V&D Week 7: Advance Australia: V&R Week 8: Quiz I. Warts and All: V&D Week 9: Warts and All: V&R Week 10: All Over the World: V&D Week 11: All Over the World: V&R Week 12: And Now…?: V&D Week 13: And Now…?: V&R Week 14: Quiz II. Journals due.

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will be required each week to complete the assigned reading and homework assignments (approximately 4 hours) in preparation for class participation.
テキスト	Bragg, M. *The Adventure of English: The Biography of a Language*. (Sceptre, 2011)
参考文献	Presented on a case-by-case basis
評価方法	Grades are based on assignments & in-class participation (60%), quizzes (20%), and a final assessment based on the text and lecture (20%).

13 年度以降	英語専門講読Ⅰ【4 年生対象】 （言語研究のさまざまな知見を巡る）	担当者	青柳　真紀子

講義目的、講義概要	授業計画
昨年度に続き（題材は異なる）、言語研究のさまざまな知見について読む。 本授業では、音声学や音韻論、統語論、意味論等といった中核ではなく、触れる機会がより少ないかもしれない関連領域のトピックを読み、ことばからヒトや世界を学ぶ。トピックは、文字から見る世界・ヒト、対話の中でのことば（語用論）、社会の中でのことば（社会言語学）、音から見る世界、乳児の音から見ることば、などである。 テキストは一般向けの平易な英文で読みやすい。毎週、程よい分量を継続して読むことで、英語を読むことへの慣れを促し、また、内容を詳細に読む練習により、正確な読解力と分析的な視点を養う。	1. Introduction 2. Ch 17-1 Writing（形の違いだけでない世界の文字） 3. Ch 17-2 Sounding out words: 3200BC（文字の始まり） 4. Ch 17-3 Writing around the world（世界の文字） 5. Ch 18 Writing changes your brain（文字と脳） 6. Ch 8-1 Pragmatics（語用論: 対話の中でのことば） 7. Ch 8-2 Meaning more than you say（言外の意味） 8. Ch 8-3 Saying it makes it so（発話でことを起こす） 9. Ch 8-4 Shaping meaning with context（ことばと文脈） 10. Ch 9-1 Sociolinguistics（社会言語学） 11. Ch 9-2 Language variation（ことばの多様性） 12. Ch 9-3 Language variation（2） 13. Ch 9-4 Projecting your style（発話スタイルと社会） 14. Review and General Discussions

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	学生は毎週の事前の読み課題や事前/事後のまとめ課題等をこなし、論点や疑問点と共に授業に臨むことが求められる。
テキスト	Burton, Déchaine & Vatikiotis-Bateson. (2011) Linguistics for Dummies. Wiley and Sons Canada, Ltd.（ISBN: 978- 1-118-09169-2, ebook ISBN: 978-1-118-10157-5）
参考文献	その他　配布資料
評価方法	授業参加（準備・クイズ/課題）：約 30%, 発表 30%, まとめ課題/試験：約 40%。 単位認定には約 70%以上の出席が求められる。

13 年度以降	英語専門講読Ⅱ【4 年生対象】 （言語研究のさまざまな知見を巡る）	担当者	青柳　真紀子

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に引き続き、言語にまつわるさまざまなトピックを読む。主に音声のトピックを取り上げるが、音声の観点から世界の言語の違い・広がりや、ヒトとことばの関係を見てみる。	1. Introduction 2. Ch 15-1 World’s languages（言語ﾌｧﾐﾘｰと珍しい音） 3. Ch 15-2 Airstreams（肺からの呼気だけでない） 4. Ch 15-3 Voice and Tones（声の質、トーン） 5. Ch 15-4 VOT（君のpは私のb） 6. Ch 16-1 Other places/manners（世界の色々な音） 7. Ch 16-2 Retroflex, Throat（同じ”r”とは思えない） 8. Ch 16-3 Epiglottis（肺の入口までも使う） 9. Ch 16-4 Syllable- vs stress-timed（世界の言語リズム） 10. Ch 17-1 Child’s speech development（赤ﾁｬﾝのことば） 11. Ch 17-2 Errors or disorders（想定内異変or言語障害） 12. Ch 17-3 Transcription（赤ﾁｬﾝの音を文字で表せる?） 13. (Ling) Ch 5-1 Morphology（形態論） 14. (Ling) Ch 5-2 Morphology Maze（語を読み解く）

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	学生は毎週の事前の読み課題や事前/事後のまとめ課題をこなし、論点や疑問点をもって授業に臨むことが求められる。
テキスト	Katz, Wiliiam F. (2013) Phonetics for Dummies. John Wiley and Sons, Inc., Ltd.（ISBN: 978- 1-118-50508-3, ebook ISBN: 978-1-118-50509-0）
参考文献	その他　配布資料
評価方法	授業参加（準備・クイズ/課題）：約 30%, 発表 30%, まとめ課題/試験：約 40%。 単位認定には約 70%以上の出席が求められる。

13年度以降	英語専門講読Ⅰ【4年生対象】 （異文化コミュニケーションの基礎）	担当者	瀬戸　千尋

講義目的、講義概要	授業計画
春学期は，コミュニケーション論分野の基礎的な文献を読み，コミュニケーションの諸概念や仕組みを理解することを目的とする． 授業形式は，3～4人のグループによるプレゼンテーションである．学生諸君が日常生活で経験しているコミュニケーション現象を紹介・分析・説明することを通して，文献の内容に関する理解の共有を図る．また，学んだことを教室の内外で実践することも求められる． この授業は，「学生の，学生による，学生のための授業」である．学生諸君の活発な議論を通して，活気ある授業作りや履修者間の人間関係作りをしてもらいたい．そして，日常のコミュニケーション現象に興味を持ったり，新しい発見をしたりしながら，毎週の授業を楽しみにしてもらえれば幸いである．	1. 授業オリエンテーション，英語文献の読み方 2. 文献精読演習（基礎文献） 3. 文献精読演習（学術論文） 4. プレゼンテーションとは何か（準備と方法） 5. グループの決定 6. プレゼンテーション：文化とコミュニケーション 7. プレゼンテーション：コミュニケーションのしくみ 8. プレゼンテーション：言語記号 9. プレゼンテーション：非言語記号 10. プレゼンテーション：コンテキスト 11. プレゼンテーション：コミュニケーションと認知 12. プレゼンテーション：自己認知とは 13. プレゼンテーション：自己認知と自己開示 14. 春学期のまとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	各回で割り当てられた箇所を精読する．プレゼンターは資料等の準備，プレゼンター以外は質問事項などを整理しておく．学習内容に基づき，日常のコミュニケーション現象を観察・分析する．
テキスト	授業で読む文献はコピーとして配布する．
参考文献	適宜，コミュニケーション論，心理学，社会学に関する辞典・文献．Reading Assignment（別途指示）
評価方法	グループワークの評価（30%），授業への貢献度（10%），学期末レポート（40%），ポートフォリオ（20%）により評価する．

13年度以降	英語専門講読Ⅱ【4年生対象】 （異文化コミュニケーションの理論）	担当者	瀬戸　千尋

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期は，春学期の内容を踏まえ，特に「異文化」に焦点を当てながら理論に関する文献を読み，その内容を理解することを目的とする．また，特殊講義として，ムスリムの文化を扱う文献を講読する． 授業形式は，3～4人のグループによるプレゼンテーションである．学生諸君が日常生活で経験しているコミュニケーション現象を紹介・分析・説明することを通して，文献の内容に関する理解の共有を図る．また，学んだことを教室の内外で実践することも求められる． この授業は，「学生の，学生による，学生のための授業」である．学生諸君の活発な議論を通して，活気ある授業作りや履修者間の人間関係作りをしてもらいたい．そして，日常のコミュニケーション現象に興味を持ったり，新しい発見をしたりしながら，毎週の授業を楽しみにしてもらえれば幸いである．	1. Reading Assignmentに基づくディスカッション 2. イスラーム・ムスリムとは何か 3. イスラーム文化（歴史） 4. イスラーム文化（習慣） 5. プレゼンテーション：文化アイデンティティ理論（前半） 6. プレゼンテーション：文化アイデンティティ理論（後半） 7. プレゼンテーション：面子交渉理論（前半） 8. プレゼンテーション：面子交渉理論（後半） 9. プレゼンテーション：予想・期待違反理論（定義） 10. プレゼンテーション：予想・期待違反理論（理論） 11. プレゼンテーション：予想・期待違反理論（発展） 12. プレゼンテーション：コミュニケーション能力 13. プレゼンテーション：メタ理論 14. 秋学期のまとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	各回で割り当てられた箇所を精読する．プレゼンターは資料等の準備，プレゼンター以外は質問事項などを整理しておく．学習内容に基づき，日常のコミュニケーション現象を観察・分析する．
テキスト	授業で読む文献はコピーとして配布する．
参考文献	適宜，コミュニケーション論，心理学，社会学，統計学に関する辞典・文献．
評価方法	グループワークの評価（30%），授業への貢献度（10%），学期末レポート（40%），ポートフォリオ（20%）により評価する．

13年度以降	英語専門講読Ⅰ【4年生対象】 （日系アメリカ人の歴史と文化）	担当者	高田　宣子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、アメリカ合衆国の日系移民の歴史と文化（映画や音楽を含む）と文学をたどりながら、時代背景や文化認識の変化を探ることを目的とします。 前期の前半は、初期の移住から第二次世界大戦に至るまでの日系移民の生活と価値観の変遷をたどります。後半は第二次世界大戦が日系アメリカ人にもたらした影響について、日系移民の世代と性別の相違を中心に考察します。 履修人数にもよりますが、グループごとにひとつの作品を取り上げ、テーマと英語表現上の特色について、日本語と英語でプレゼンテーションを行ってもらいます。また、毎回のプレゼンテーションをもとに、履修者全員にコメント（日本語と英語）を提出してもらいます。	第1回　ガイダンス　日系アメリカ人とは？ 第2回　ハリウッド映画にみられる日本人のイメージについて 第3回　Yoshiko Uchida その1 第4回　Yoshiko Uchida その2 第5回　ハワイの日系アメリカ人 第6回　映画Picture Bride分析 第7回　まとめと復習テスト　発表テーマ確認 第8回　日系アメリカ人の盆踊り 第9回　第二次世界大戦と強制収容所 「愛と哀しみの旅路」分析 第10回　グループプレゼンテーション準備 第11回　グループプレゼンテーションの内容確認 第12回　学生によるプレゼンテーションと講評 第13回　学生によるプレゼンテーションと講評 第14回　まとめと復習テスト

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当作品の分析および発表に向けてのパワーポイントおよび配布資料の作成
テキスト	プリント配布
参考文献	特になし
評価方法	分析コメント30%、ワークシート20%、プレゼンテーション20%、テスト20%、レポート10%とする。 なお、4回以上欠席した場合は、原則として成績評価の対象となりません。

13年度以降	英語専門講読Ⅱ【4年生対象】 （日系アメリカ人の文化と文学）	担当者	高田　宣子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、アメリカ合衆国の日系アメリカ人の歴史と文化（映画や音楽を含む）と文学をたどりながら、第二次世界大戦から現在に至るまでの日系移民の価値観の変遷とその多様性に着目します。 履修人数にもよりますが、後期の後半はグループ（3〜4人）ごとにひとつの作品を取り上げ、テーマと英語表現上の特色について、日本語と英語でプレゼンテーションを行ってもらいます。また、毎回のプレゼンテーションをもとに、履修者全員にコメント（日本語と英語）を提出してもらいます。	第1回　ガイダンス　第二次世界大戦と日系アメリカ人 第2回　Mike ShinodaとKenji 第3回　「Mirikitaniの猫」分析 第4回　Janice Mirikitani その1 第5回　Janice Mirikitani その2 第6回　Janice Mirikitani その3 第7回　まとめと復習テト 第8回　日本人を演じる日系アメリカ人 第9回　発表資料作成と内容チェック 第10回　発表資料作成と内容チェック 第11回　学生によるプレゼンテーションと講評 第12回　学生によるプレゼンテーションと講評 第13回　学生によるプレゼンテーションと講評 第14回　まとめと復習テスト

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当作品の分析および発表に向けてのパワーポイントおよび配布資料の作成
テキスト	プリント配布
参考文献	特になし
評価方法	分析コメント30%、ワークシート20%、プレゼンテーション20%、テスト20%、レポート10%とする。 なお、4回以上欠席した場合は、原則として成績評価の対象となりません。

13 年度以降	英語専門講読 I （文法と文脈の関係）	担当者	大澤　舞

講義目的、講義概要	授業計画
目的： （1）言語学の分野における「語用論」に注目し，英語で書かれた文献を読むことを通じて当該分野の基礎的知識を身につける。 （2）テキストに書かれている内容を正確に把握することができるようになる。 （3）テキストの内容を正確に理解した上で，関連する言語データを収集できるようになる。 概要： 言語学の「語用論」と呼ばれる分野について書かれた英語文献を講読することを通じて，語用論の基礎的事項を学びます。そして，我々の実際の言語活動において，それらの事項がどのように反映されているかを観察し，ディスカッションしていきます。	1. 語用論とは 2. 協調の原理と会話の含意（1）：基礎的概念 3. 協調の原理と会話の含意（2）：データ分析 4. 有標と無標（1）：基礎的概念 5. 有標と無標（2）：データ分析 6. presuppositionとentailment（1）：基礎的概念 7. presuppositionとentailment（2）：データ分析 8. 発話行為（1）：基礎的概念 9. 発話行為（2）：データ分析 10. ポライトネス（1）：基礎的概念 11. ポライトネス（2）：データ分析・コミュニケーション論との関連 12. 情報構造（1）：基礎的概念 13. 情報構造（2）：データ分析 14. まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	予習：テキストを読み，理解できなかったところや疑問点をまとめておく。／復習：授業内容を整理し，改めて疑問点がないか確認する。
テキスト	授業で配付する。
参考文献	授業で適宜紹介する。
評価方法	授業内での発表（20%），言語データの収集（20%）と期末レポート（60%）

13 年度以降	英語専門講読 II （文法と文脈の関係）	担当者	大澤　舞

講義目的、講義概要	授業計画
目的： （1）英語で書かれた論文を読めるようになる。 （2）論文に書かれている内容を正確に把握し，把握したことを他者に分かりやすく伝えることができるようになる。 （3）英語学的アプローチを習得し，規則や原理などによるメカニズムの解明の仕方を理解できるようになる。 概要： 「英語専門講読 I」で学んだ基礎的知識を活用し，語用論について英語で書かれた専門文献（論文）を講読します。そして，実際の語用論研究がどのようなものであるかを理解していきます。	1. 文法における語用論の役割 2. let alone構文（1）：導入 3. let alone構文（2）：データ観察と事実把握 4. let alone構文（3）：先行研究 5. let alone構文（4）：データ分析と考察 6. let alone構文（5）：クラス内ディスカッション 7. just because構文（1）：導入 8. just because構文（2）：データ観察と事実把握 9. just because構文（3）：先行研究 10. just because構文（4）：データ分析と考察 11. just because構文（5）：オリジナルデータの提示と分析 12. just because構文（6）：クラス内ディスカッション 13. 議論の展開と構成 14. まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	予習：テキストを読み，理解できなかったところや疑問点をまとめておく。／復習：授業内容を整理し，改めて疑問点がないか確認する。
テキスト	授業で配付する。
参考文献	授業で適宜紹介する。
評価方法	授業内での発表（20%），言語データの収集（20%）と期末レポート（60%）

13 年度以降	英語専門講読 I 【4 年生対象】 （アメリカ文学:John Steinbeck の文学を読む）	担当者	金谷　優子

講義目的、講義概要	授業計画
『怒りの葡萄』（The Grapes of Wrath, 1939)、『エデンの東』（The East of Eden, 1952）の著者であり、1962年にノーベル文学賞を受賞したJohn Steinbeck（1902-1968）は、20世紀のアメリカ文学を語る際に忘れてはならない作家と言えよう。彼は上掲の二大作品の他、多様なジャンルにわたる数多くの作品を創作したが、この授業では昨年に引き続いて、彼の初期の作品『天の牧場』（The Pastures of Heaven, 1932）を読解してゆく。 毎回作品を精読し、ストーリー展開を把握しながら、作品のテーマ、個々の文章表現や技巧、作家の視点、作品の時代背景等にも注意を払って、作品から多くのものを読み取りつつ、多角的な視野を養うことを目指す。特に、作品のテーマや文章表現についてはグループワークを通して意見交換を行なってゆく。	1. Introduction: 作家John Steinbeckと代表作品を紹介 2. 小説を読む楽しみについて／修辞法解説 3. Chapter 1 作品読解 4. Chapter 1 歴史的背景・文章表現について考察 5. Chapter 2 作品読解 6. Chapter 2 歴史的背景・文章表現について考察 7. Chapter 3 作品読解 8. Chapter 3 歴史的背景・文章表現について考察 9. Chapter 4 作品読解 10. Chapter 4 歴史的背景・文章表現について考察 11. Chapter 5 作品読解 12. Chapter 5 歴史的背景・文章表現について考察 13. グループ発表 14. 総復習　/ テスト　/ レポート回収

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学習：テキストの予習　／　事後学習：授業中に読んだ内容に関して、あらすじ、文章表現、技巧、作家の視点、歴史的、文化的事柄について整理してまとめ、Chapter 終了ごとに提出する。
テキスト	John Steinbeck, The Pastures of Heaven (Penguin Twentieth-Century Classics)
参考文献	ジョン・スタインベック全集第 1 巻　『天の牧場』（大阪教育図書）
評価方法	授業参加度（30%）、提出物（20%）、期末テスト（25%）、期末レポート（25%）を総合的に評価。 全体の 2/3 の出席が不可欠。授業中の居眠りは欠席とみなします。

13 年度以降	英語専門講読 II 【4 年生対象】 （アメリカ文学:John Steinbeck の文学を読む）	担当者	金谷　優子

講義目的、講義概要	授業計画
前期に引き続き、The Pastures of Heavenを読み、更に作品についての評論も読んでゆく。また、時間が許せば、スタインベックの他の作品も適宜紹介してゆきたい。 ＊授業には予習をして臨んで下さい。	1. Chapter 6 作品読解 2. Chapter 6 歴史的背景・文章表現について考察 3. Chapter 7 作品読解 4. Chapter 7 歴史的背景・文章表現について考察 5. Chapter 8 作品読解 6. Chapter 8 歴史的背景・文章表現について考察 7. Chapter 9 作品読解 8. Chapter 9 歴史的背景・文章表現について考察 9. Chapter 10 作品読解 10. Chapter 10 歴史的背景・文章表現について考察 11. Chapter 11 作品読解 12. Chapter 11 歴史的背景・文章表現について考察 13. Chapter 12 作品読解とグループ発表 14. 総復習　/ テスト / レポート回収

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学習：テキストの予習　／　事後学習：授業中に読んだ内容に関して、あらすじ、文章表現、技巧、作家の視点、歴史的、文化的事柄について整理してまとめ、Chapter 終了ごとに提出する。
テキスト	John Steinbeck, The Pastures of Heaven (Penguin Twentieth-Century Classics)
参考文献	ジョン・スタインベック全集第 1 巻　『天の牧場』（大阪教育図書）
評価方法	授業参加度（30%）、提出物（20%）、期末テスト（25%）、期末レポート（25%）を総合的に評価。 全体の 2/3 の出席が不可欠。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後 学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	英語専門講読Ⅱ【4 年生対象】 （現代東南アジアの政治・経済・社会）	担当者	金子　芳樹

講義目的、講義概要	授業計画
授業の目的は以下の 3 点です。 ①東南アジア諸国の経済･政治の基本的知識および各国の現状分析に必要な視点や手法を習得する。 ②東南アジアの地域研究（area studies）のみならず、広く国際関係や経済・政治を中心とする社会科学を勉強・理解するために不可欠な概念・知識を身につける。 ③プレゼンテーションとディスカッションのスキルを収得。 これら目的のために､テキストに基づき東南アジア各国の経済・政治に関する諸問題を取り上げます。授業では、グループごとに 2 週分を担当し、(1) プレゼンテーション、(2) 担当箇所の全訳および文献・資料で関連知識を補強したレジュメの提出、(3) 全体での質疑応答、(4) 同グループによる翌週のフォローアップ、関連テーマの討論から構成されます。	1. イントロダクション：授業プランの説明、担当決め 2. *Southeast Asian Affairs 2018*（The Region：a） 3. The Region：1 のフォローアップ&ディスカッション 4. *Southeast Asian Affairs 2018*（The Region：b） 5. The Region：2 のフォローアップ&ディスカッション 6. *Southeast Asian Affairs 2018*（The Region：c） 7. The Region：3 のフォローアップ&ディスカッション 8. *Southeast Asian Affairs 2018*（The Countries：a） 9. The Countries：1 のフォローアップ&ディスカッション 10. *Southeast Asian Affairs 2018*（The Countries：b） 11. The Countries：2 のフォローアップ&ディスカッション 12. *Southeast Asian Affairs 2018*（The Countries：c） 13. The Countries：3 のフォローアップ&ディスカッション 14. 総括、全般的な質疑応答 ・ テキストの内容は、近年における東南アジア諸国の国際関係・政治・経済に関する主要な出来事についてのイシュー別、国別の分析・解説。その他の資料もサブ・テキストとして適宜使用します。 ・ テキストは第1回目授業日までにポータルサイトにアップロードしておくので各自でダウンロードしてください。

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後 学修の内容	テキストをポータルサイトからダウンロードした上で事前に読み込んでおく（第 1 回目の授業で指示）。
テキスト	Institute of Southeast Asian Studies, *Southeast Asian Affairs 2018*
参考文献	第 1 回目の授業の中で指示する。
評価方法	プレゼン内容、レジュメ・訳の内容、討論への参加状況を基に評価する。

13 年度以降	英語専門講読 I （Introduction to Fair Trade）	担当者	北野　収

講義目的、講義概要	授業計画
先進国と途上国のフェアトレード（公正貿易）というテーマを春秋連続して学習します。フェアトレードとは、途上国の生産者（コーヒー、農産物、工芸品等）と先進国の消費者が、環境や文化に関する一定の理解に基づいて取引する地球版「産直」ともいえる活動です。私達も、ODAなどの援助とは別なやり方で、貧困や地球環境の問題の解決・緩和に参加することができるのです。大切なのは身の回りのできることから、グローバルな問題について考えていくという「発想」です。そして、英語を活用して、こうした事柄に対する「学び」を深めることの喜びを知っていただきたいと思います。授業の進め方は、事前に配布した文献をもとに担当する学生（班）がレジュメを用意し、それに基づき文献の内容に関する日本語プレゼンテーションを行います。プレゼンテーションをもとに、教材のテーマに関連した事柄について、ディスカッションをします。最後に教員が講評します。	1. 授業の進め方について、グループ分け 2. 教員によるレクチャー（予定） 3. Fair Trade: Why it's not just for coffee farmers anymore? 4. Fish don't know they are wet or how trading influences our lives 5. Why is Fair Trade so popular? 6. Fair Trade principles and practices 7. Fair Trade histories 8. ビデオと討論 9. Yes, but does it work? 10. Ordinary people making Fair Trade extraordinary 11. Will free trade ever be fair? 12. The future of Fair Trade 13. Daily life with Fair Trade 14. 全体のまとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	当番の人はレジメ作成、ディスカッションの内容を考える。それ以外の人は教科書の該当章を熟読。
テキスト	Jacqueline Decarlo, *Fair Trade: A Beginner's Guide* (Oneworld Publications)※各自で大学書店で購入して下さい。
参考文献	フランツ・ヴァンデルホフ『貧しい人々のマニフェスト：フェアトレードの思想』創成社。
評価方法	レジメとプレゼン（20%）、プレゼン振り返りペーパー（30%）、期末レポート（50%）。以上各 1 回。

13 年度以降	英語専門講読 II （Introduction to Fair Trade）	担当者	北野　収

講義目的、講義概要	授業計画
春学期の学習を踏まえ、さらに専門的な英語文献の読解と応用学習を行います。取り上げる文献は、今のところ、フェアトレード、途上国開発（特に農業、教育、貧困、環境問題に関する現場の事例を含んだもの）、日本を含む先進国の食料・農業問題に関する社会科学分野の雑誌論文、専門著書の章、報告書等を予定しています。文献読解を反映したレジメ作成をベースとして、各グループが教室内アクティビティを行い、さらなる議論に発展させます。 担当する学生（班）が自分で読む英語論文を選定、レジュメを用意し、それに基づき文献の内容に関する日本語プレゼンテーションを行います。プレゼンテーションをもとに、教材のテーマに関連した事柄について、教室内のアクティビティと議論をします。最後に教員が講評とアドバイスをします。	1. グループ分け 2. 教員によるレクチャー（予定） 3. グループ発表・議論　1班 4. グループ発表・議論　2班 5. グループ発表・議論　3班 6. グループ発表・議論　4班 7. グループ発表・議論　5班 8. ビデオ・議論 9. グループ発表・議論　6班 10. グループ発表・議論　7班 11. グループ発表・議論　8班 12. グループ発表・議論　9班 13. グループ発表・議論　10班 14. まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	当番の人はレジメ作成、ディスカッションの内容を考える。それ以外の人は配布された英語論文を事後に熟読。
テキスト	毎回、英語論文が配布される。
参考文献	フランツ・ヴァンデルホフ『貧しい人々のマニフェスト：フェアトレードの思想』創成社。
評価方法	レジメとプレゼン（20%）、プレゼン振り返りペーパー（30%）、期末レポート（50%）。以上各 1 回。

13 年度以降	英語専門講読Ⅰ【4 年生対象】 （世界ブランドとグローバル社会）	担当者	竹田　いさみ

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、世界ブランドの研究と共に、グローバル社会の研究を、２つのテーマとして設定しています。 ルイ・ヴィトン、ココ・シャネル、ティファニー、ブルガリ、アジアの有名ブランド企業を取り上げ、ブランド企業の誕生、成長、ロゴ・マークの意味などに注目して、プレゼンを行っていきます。グローバル社会については、雑誌記事などを扱う予定です。 プレゼンはグループごとに行ないます。グループを作り、プレゼンの準備をみんなで一緒に行ないます。 担当者の専門講読を既に履修したことのある学生は、登録を遠慮して下さい。新しい学生へ授業機会を提供するためです。	1　グループの編成、ボイス・トレーニング 2　ティファニー　前編 3　ティファニー　後編 4　シャネル　前編 5　シャネル　後編 6　グローバル社会　前編 7　グローバル社会　後編 8　世界の中のアジア　前編 9　世界の中のアジア　後編 10　高級ホテル・チェーン　前編 11　高級ホテル・チェーン　後編 12　エミレーツ航空（比較：シンガポール航空） 13　ドバイ　都市ブランド 14　まとめ　討論

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	配布資料の事前・事後の学習。
テキスト	E. Baxter-Wright, The Little Book of Chanel(Carlton Books,.2012); Tea at Fortnum & Mason: Piccadilly since 1707(Ebury Books,2010)など。
参考文献	テキストの続き：Paul Temporal, Asia’s Star Brands(John Wiley &Sons,2006)など。
評価方法	プレゼン資料＋プレゼンテーション 60%、授業参加への貢献度 40%

13 年度以降	英語専門講読Ⅱ【4 年生対象】 （世界ブランドとグローバル社会）	担当者	竹田　いさみ

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、世界ブランドの研究と共に、グローバル社会の研究を、２つのテーマとして設定しています。 ルイ・ヴィトン、ココ・シャネル、ティファニー、ブルガリ、アジアの有名ブランド企業を取り上げ、ブランド企業の誕生、成長、ロゴ・マークの意味などに注目して、プレゼンを行っていきます。グローバル社会については、雑誌記事などを扱う予定です。 プレゼンはグループごとに行ないます。グループを作り、プレゼンの準備をみんなで一緒に行ないます。 担当者の専門講読を既に履修したことのある学生は、登録を遠慮して下さい。新しい学生へ授業機会を提供するためです。	1　グループの編成、ボイス・トレーニング 2　ルイ・ヴィトン　前編 3　ルイ・ヴィトン　後編 4　ブルガリ　前編 5　ブルガリ　後編 6　グローバル社会　前編 7　グローバル社会　後編 8　世界の中のアジア　前編 9　世界の中のアジア　後編 10　フォートナム・アンド・メイソン　前編 11　フォートナム・アンド・メイソン　後編 12　ディオール　前編 13　ディオール　後編 14　まとめ　討論

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	配布資料の事前・事後の学習。
テキスト	E. Baxter-Wright, The Little Book of Chanel(Carlton Books,.2012); Tea at Fortnum & Mason: Piccadilly since 1707(Ebury Books,2010)など。
参考文献	テキストの続き：Paul Temporal, Asia’s Star Brands(John Wiley &Sons,2006)など。
評価方法	プレゼン資料＋プレゼンテーション 60%、授業参加への貢献度 40%

13 年度以降	英語専門講読 I 【4 年生対象】 （言語の不思議）	担当者	船越　健志

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、言語学一般の入門書であるRoberts (2017) を読みます。教科書の講読を通して、我々が普段何気なく用いている言語を客観化し、それがいかに不思議に満ちた魅力的な研究対象であるかを理解してもらうのが、本授業の第一の目的です。また、毎週まとまった量の専門的な英文を読んでもらうことで、英語読解力の向上も目指します。 春学期は、音・語というまとまり・言語の変化に注目して考察します。 授業では、教科書の指定箇所を読んできたことを前提に、問題演習に取り組み、グループディスカッションをします。	1. オリエンテーション 2. Introduction & How to Make Noises: Phonetics（母音） 3. Phonetics（子音とまとめ） 4. How to Organize Noises: Phonology（音素など） 5. Phonology（音韻規則など） 6. Phonology（まとめ） 7. 前半の復習 8. How to Build a Word: Morphology（形態素など） 9. Morphology（複合語など） 10. Morphology（まとめ） 11. How to Find Lost Languages: Historical Linguistics（失われた言語） 12. Historical Linguistics（言語の再構築） 13. Historical Linguistics（まとめ） 14. 後半の復習

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎週、教科書の指定箇所を読んで授業に臨み、授業後は復習課題に取り組む。
テキスト	Roberts, Ian (2017) *The wonders of language: Or how to make noises and influence people*. Cambridge University Press.
参考文献	なし
評価方法	テスト 50% + 授業への参加度・貢献度 50%

13 年度以降	英語専門講読 II 【4 年生対象】 （言語の不思議）	担当者	船越　健志

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に引き続き、Roberts (2017) を講読します。講義目的、講義概要は同一講師の「英語専門購読 I （言語の不思議）」（春学期）を参照してください。 秋学期は、文というまとまり・言語の獲得・言語の喪失・言語の多様性・言語の普遍性に注目して考察します。	1. オリエンテーション 2. Syntax（統語範疇など） 3. Syntax（句構造など） 4. Syntax（まとめ） 5. How to Lose a Language and How to Learn a Language: Psycholinguistics（I-LanguageとE-Languageなど） 6. Psycholinguistics（第一言語獲得など） 7. Psycholinguistics（まとめ） 8. 前半の復習 9. How to Build a Language: Language Typology（言語変異など） 10. Language Typology（言語変異の要因など） 11. Language Universals（言語の普遍性など） 12. Language Universals（含意的普遍性など） 13. How to Build a Language（まとめ） 14. 後半の復習

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎週、教科書の指定箇所を読んで授業に臨み、授業後は復習課題に取り組む。
テキスト	Roberts, Ian (2017) *The wonders of language: Or how to make noises and influence people*. Cambridge University Press.
参考文献	なし
評価方法	テスト 50% + 授業への参加度・貢献度 50%

13 年度以降	英語専門講読Ⅰ【4 年生対象】 （視覚コミュニケーション論入門）	担当者	柿田　秀樹

講義目的、講義概要	授業計画
現代コミュニケーション研究において主要な分野である視覚文化論で、重要となる基礎的な批判的概念について、理解を得ることを目的とします。 絵画や写真、映画など、映像やイメージによるメディアの実践を論じた教科書の重要な箇所を精読し、その内容について学生が批判的に議論していきます。この講義の目的は、映像やイメージから今まできちんと意識してこなかった＜読み＞を理論的に行うことです。課題として教科書の 1 節を 2 週で取り上げ、そこに論じられた視覚メディアの理論的（手法ではない）概念と分析を読みこみ、授業の中で議論しながら理解していきます。 授業では、①グループで準備（レジュメ作成）をして発表し、②発表者のファシリテーションによってクラス全体で討論するという手順で行います。履修者は文献をきちんと理解して発表して下さい。また、自分が発表しない回でも、積極的に授業に取り組み、間違った発言をすることを恐れることなく、他の受講生の知的好奇心を刺激する発言をすることを心がけて下さい。 これまでの自分を超えた新たな自分になるために、自分自身に向き合い、皆と共に勉強しましょう。 **第1回目の授業でグループを作り、担当箇所を決めます。必ず参加してください。**	1. オリエンテーション 2. Representation: Ch. 1 発表 3. Representation: Ch. 1 議論 4. Psychoanalysis and the Image Spectator: Ch.3 発表 5. Psychoanalysis and the Image Spectator: Ch.3 議論 6. The Gaze: Ch.3 発表 7. The Gaze: Ch.3 議論 8. Power/Knowledge and Panopticism: Ch. 3 発表 9. Power/Knowledge and Panopticism: Ch. 3 議論 10. Realism and the History of Perspective: Ch. 4 発表 11. Realism and the History of Perspective: Ch. 4 議論 12. Reproduced Images as Politics: Ch. 4 発表 13. Reproduced Images as Politics: Ch. 4 議論 14. まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	受講生は事前に次の授業で扱う箇所を読み、論点の整理を準備して授業に参加します。輪読による発表の為の準備は必須となります。毎回、授業後には内容の復習もしてください。
テキスト	Sturken, M., & Cartwright, L. (2001). *Practices of looking: An introduction to visual culture*. New York: Oxford UP. （コピーを配布）
参考文献	必要に応じて授業で紹介します。
評価方法	毎回の授業での発言（20%）、授業での発表（20%）要約作成（20%）、定期試験又はレポート（40%）、出席状況（4 回以上の欠席は不合格）から総合的に評価します。

13 年度以降	英語専門講読Ⅱ【4 年生対象】 （視覚コミュニケーション論入門）	担当者	柿田　秀樹

講義目的、講義概要	授業計画
春学期と同じ **第１回目の授業でグループを作り、担当箇所を決めます。必ず参加してください。**	1. オリエンテーション 2. Modernism: Ch. 7 発表 3. Modernism: Ch. 7 議論 4. Reflexivity: Ch. 7 発表 5. Reflexivity: Ch. 7 議論 6. Addressing the Postmodern Consumer: Ch. 7 発表 7. Addressing the Postmodern Consumer: Ch. 7 議論 8. Image as Evidence: Ch. 8 発表 9. Image as Evidence: Ch. 8 議論 10. Scientific Looking: Ch. 8 発表 11. Scientific Looking: Ch. 8 議論 12. Scientific Image as Advocacy and Politics: Ch.8 発表 13. Scientific Image as Advocacy and Politics: Ch.8 議論 14. まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	受講生は事前に次の授業で扱う箇所を読み、論点の整理を準備して授業に参加します。輪読による発表の為の準備は必須となります。毎回、授業後には内容の復習もしてください。
テキスト	Sturken, M., & Cartwright, L. (2001). *Practices of looking: An introduction to visual culture*. New York: Oxford UP.（コピーを配布）
参考文献	必要に応じて授業で紹介します。
評価方法	毎回の授業での発言（20%）、授業での発表（20%）要約作成（20%）、定期試験又はレポート（40%）、出席状況（4 回以上の欠席は不合格）から総合的に評価します。

13 年度以降	英語専門講読 I （International Development Studies）	担当者	北野　収

講義目的、講義概要	授業計画
国際開発学の入門的知識を英文テキストを用い、輪読、プレゼン、議論をしながら学びます。どうして南北格差が生まれ、富める人々と貧しい人々がいるのでしょうか。国際社会および私たちは、今までどのような開発協力をしてきたのでしょうか。そもそも「開発」とは何でしょうか。こうした事柄について、とりわけ、「グローバル・ポリティカルエコノミー」から、「持続可能な開発」について掘り下げて考えていきます。	1. 授業の進め方について、 2. 教員レクチャー 3. What is Development? 4. History of Development 5. Globalization 6. Political Economy of Development 7. Politics of Development 8. 教員レクチャーまたはビデオ 9. Religion and Development 10. The Natural Environment 11. Human Rights and Gender 12. Development in the 21 Century: The New Issues and Approaches 13. 持続可能な開発目標（SDGs）について(予定) 14. 全体まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	当番の人はレジメ作成、ディスカッションの内容を考える。それ以外の人は教科書の該当章を熟読。
テキスト	Jeffrey Haynes (2008) *Development Studies*, Polity. ※各自で学内売店で購入して下さい。
参考文献	北野収『国際協力の誕生』創成社新書。
評価方法	レジメとプレゼン（20%）、プレゼン振り返りペーパー（30%）、期末レポート（50%）。以上各 1 回。

13 年度以降	英語専門講読 II （International Development Studies）	担当者	北野　収

講義目的、講義概要	授業計画
春学期の学習を踏まえ、さらに専門的な英語文献の読解と応用学習を行います。取り上げる文献は国際協力、ODA、NGO、ジェンダーと開発、教育開発、BOP、開発と倫理等、国際開発学に関する社会科学分野の雑誌論文、専門著書の章、報告書等を予定しています。文献読解を反映したレジメ作成をベースとして、各グループが教室内アクティビティを行い、さらなる議論に発展させます。 担当する学生（班）が自分で読む英語論文を選定、レジュメを用意し、それに基づき文献の内容に関する日本語プレゼンテーションを行います。プレゼンテーションをもとに、教材のテーマに関連した事柄について、教室内のアクティビティと議論をします。最後に教員が講評とアドバイスをします。	1. グループ分け 2. 教員によるレクチャー（予定） 3. グループ発表・議論　1班 4. グループ発表・議論　2班 5. グループ発表・議論　3班 6. グループ発表・議論　4班 7. グループ発表・議論　5班 8. ビデオ・議論 9. グループ発表・議論　6班 10. グループ発表・議論　7班 11. グループ発表・議論　8班 12. グループ発表・議論　9班 13. グループ発表・議論　10班 14. まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	当番の人はレジメ作成、ディスカッションの内容を考える。それ以外の人は教科書の該当章を熟読。
テキスト	毎回、英語論文が配布される。
参考文献	北野収『国際協力の誕生』創成社新書。
評価方法	レジメとプレゼン（20%）、プレゼン振り返りペーパー（30%）、期末レポート（50%）。以上各 1 回。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	英語専門講読Ⅱ【4 年生対象】 （アジア太平洋地域の国際関係・政治経済）	担当者	金子　芳樹

講義目的、講義概要	授業計画
授業の目的は 3 つあります。第 1 に、国際関係論や地域研究（area studies）にとって不可欠な概念や表現を英語で理解すること、第 2 に、アジア太平洋地域の国際関係、政治、経済の基本的知識、および各国・地域の現状分析に必要な視点や手法を習得すること、第 3 に、効果的なプレゼンテーションのスキルを身につけ、磨くことです。 上記の目的に沿って、テキストに基づきアジア太平洋地域の状況や同地域に横たわる諸問題を取り扱います。授業は、グループごとにプレゼンと文献・資料で関連知識を補強したレジュメの提出、全体での質疑応答、討論の形で進めます。また、毎週、受講者全員にテキストの指定されたパートの英文和訳を課題として提出してもらいます。なお、本授業の受講者数には上限があります。	1. イントロダクション：授業プランの説明、担当決め 2. *ISEAS Perspective*（The International Issues：a） 3. *ISEAS Perspective*（The International Issues：b） 4. *ISEAS Perspective*（The International Issues：c） 5. The International Issues：1〜3 のフォローアップ 6. *ISEAS Perspective*（The Regional Issues：a） 7. *ISEAS Perspective*（The Regional Issues：b） 8. *ISEAS Perspective*（The Regional Issues：c） 9. The Regional Issues 1〜36 についてのフォローアップ 10. *ISEAS Perspective*（The Country Issues：a） 11. *ISEAS Perspective*（The Country Issues：b） 12. *ISEAS Perspective*（The Country Issues：c） 13. The Country Issues 1〜3 についてのフォローアップ 14. 総括、全般的な質疑応答 ・テキスト*ISEAS Perspective Series*の内容は、近年におけるアジア太平地域の国際関係・政治・経済に関する主要な出来事に関するイシュー別の分析・解説。 ・使用するテキストは第 1 回授業日までにポータルサイトにアップロードするので各自でダウンロードしておく。

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	取り扱うテキストをダウンロードした上で事前に読み込むとともに、毎授業で出される課題を翌週の授業までに完成させる。
テキスト	ISEAS, *ISEAS Perspective Series*（http://www.iseas.edu.sg/）の 2019 年に発行される 9 ペーパー）
参考文献	CIA, *The World Factbook* (https://www.cia.gov/ library/publications/the-world-factbook/)など。
評価方法	課題の提出状況、レポート内容、プレゼン内容、討論への参加状況を基に評価します。

13 年度以降	英語専門講読 I 【4 年生対象】 (Languages in a Globalizing World)	担当者	J．N．ウェンデル

講義目的、講義概要	授業計画
We will examine when, how and why human languages have changed over time. In so doing, we will trace the impact on languages of the first major globalization and subsequent cultural adaptations, and examine how these phenomena have altered the structure (morphology and syntax) of the languages we speak and the ways we communicate. To begin, however, we will survey the languages around the world in their present-day distribution, and then consider how these distributions were achieved. By the end of this semester, we should have a fair idea about what languages looked like in their natural state (that is, before the invention of agriculture and writing) and the ways languages were used in daily interaction.	1. Orientation to Semester I 2. Survey: Languages around the world 3. Survey: Language families I – Europe, West Asia 4. Survey: Language families II –Africa, Central Asia 5. Survey: Langauge families III – South & East Asia 6. The first globalization event 7. Language in its natural state I – interaction 8. Language in its natural state II –morphology 9. Language in its natural state III – syntax 10. Case study: northern Vanuatu I – the setting 11. Case study: northern Vanuatu II – the issues 12. Case study: a village in Cameroon I – the setting 13. Case study: a village in Cameroon II – the issues 14. Review, evaluation, reflection

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	You should complete all homework before coming to class. You should read all materials and answer all questions in your notebooks after each class. (About 4 hours each week of homework)
テキスト	Texts to be distributed in class.
参考文献	References to be distributed in class.
評価方法	Essays = 20%, Notebooks = 40%, Participation = 20%, Quizzes 20%

13 年度以降	英語専門講読 II 【4 年生対象】 (Languages in a Globalizing World)	担当者	J．N．ウェンデル

講義目的、講義概要	授業計画
This is a continuation of the first semester. Whereas the first semester took account of the past to the present, the focus this semester will be on the present and the future state of language. We will focus in particular on the emergence of the nation-state and the impact this has had on language ecologies in countries around the world. We will continue to develop our understanding of the processes of language change and the novel ways of contact and connectivity (e.g., open borders, jet travel, Internet, SNS) in the globalizing world. Along the way, we will examine the language histories of India, Indonesia, several countries in Africa. Finally, we will consider English: its present fuctions and roles, and its possible futures.	1. Orientation to Semester II 2. The world language ecology – history and definitions 3. The world language ecology II – case studies 4. Nationalism and language 5. India: a brief language history I – the setting 6. India: a brief language history II – the issues 7. Indonesia: a brief language history I – the setting 8. Indonesia: a brief language history II – the issues 9. Africa: a brief language history I – the setting 10. Africa: a brief language history II – the issues 11. A globalizing world – the 21st century up close 12. The role and functions of English today 13. The possible futures of English in the future 14. Review, evaluation, reflection

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	You should complete all homework before coming to class. You should read all materials and answer all questions in your notebooks after each class. (About 4 hours each week of homework)
テキスト	Words of the World (2001). Abram de Swaan. Polity Press: Cambridge, UK.
参考文献	References to be distributed in class.
評価方法	Essays = 20%, Notebooks = 40%, Participation = 20%, Quizzes 20%

13 年度以降	英語専門講読Ⅰ【4 年生対象】 （ディズニーと世界情勢）	担当者	竹田　いさみ

講義目的、講義概要	授業計画
ディズニー映画やアニメ作品を制作し、魅力的なテーマパーク展開してきたウォルト・ディズニー・カンパニーに注目します。 この授業では、ディズニー映画やドキュメンタリーを鑑賞しますが、映画そのものを取り上げるのではなく、企業体としてのディズニーの誕生と発展を扱います。 映画やアニメが上映された時の社会、ディズニーランドが建設された時の米国と世界、さらに成功し続けるディズニーの企業戦略やマネージメントなどに注目します。 担当者の専門講読を既に履修したことのある学生は、登録を遠慮して下さい。新しい学生へ授業機会を提供するためです。	1. グループの編成（毎回、ボイストレーニング） 2. Disney Universe 3. Mickey Mouse 4. Walt Disney 5. Animation Factory 6. Wonderlad 7. Disney and the Government 8. Disney Corporate Legacy 9. Disney Empire 10. Evolution of Corporate Disney 11. New Disney 12. Theme Parks and Resorts 13. Disneyland Resort 14. Disney's America

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	配布資料の事前・事後の学習。
テキスト	B. Capodagli & L.Jackson, The Disney Way,(2007); J. Wasko, Understanding Disney (2001) など。
参考文献	授業中にお知らせします。
評価方法	プレゼン資料＋プレゼンテーション 60%、授業参加への貢献度 40%

13 年度以降	英語専門講読Ⅱ【4 年生対象】 （ディズニーと世界情勢）	担当者	竹田　いさみ

講義目的、講義概要	授業計画
ディズニー映画やアニメ作品を制作し、魅力的なテーマパーク展開してきたウォルト・ディズニー・カンパニーに注目します。 この授業では、ディズニー映画やドキュメンタリーを鑑賞しますが、映画そのものを取り上げるのではなく、企業体としてのディズニーの誕生と発展を扱います。 映画やアニメが上映された時の社会、ディズニーランドが建設された時の米国と世界、さらに成功し続けるディズニーの企業戦略やマネージメントなどに注目します。 担当者の専門講読を既に履修したことのある学生は、登録を遠慮して下さい。新しい学生へ授業機会を提供するためです。	1. グループの編成（毎回、ボイストレーニング） 2. Analyzing the World According to Disney 3. Approaches to Interpreting Media Content 4. Classic Disney 5. Evolution of Classic Disney 6. Classic Disney Characters 7. Classic Disney Themes and Values 8. Escape, Fantasy, Magic, Imagination 9. Walt Disney and the Artist 10. Remember, this all started with a mouse, Mickey 11. Critique of Disney's Interpretation, Snow White 12. History of Disney's Worlds 13. Classic Disney and Beyond 14. Disney and the World

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	配布資料の事前・事後の学習。
テキスト	B. Capodagli & L.Jackson, The Disney Way,(2007); J. Wasko, Understanding Disney (2001) など。
参考文献	授業中にお知らせします。
評価方法	プレゼン資料＋プレゼンテーション 60%、授業参加への貢献度 40%

13 年度以降	英語専門講読 I 【4 年生対象】 （アメリカ現代詩）	担当者	原　成吉

講義目的、講義概要	授業計画
ゲーリー・スナイダー(Gary Snyder b. 1930)の詩集『波について』(*Regarding Wave,* 1970) は、現在わたしたちが直面している環境問題を含めた地球という生命体「ガイア」についての作品が収められています。スナイダーは、エコロジー、神話、仏教、自分が暮らす場所、そしてウィルダネスへの旅をとおして得てきた経験と知識をこのテキストに織り込みました。このクラスの目的は、スナイダーの詩をとおして、ガイアで暮らすためのこれからのライフスタイルを考えることです。授業は、学生による発表・討論のプリゼン形式で行い、学期末にレポートを提出してもらいます。 DVD や CD を使って「声としての詩」についても紹介します。 最初の授業でプリゼンのペアと担当作品を決めるので必ず出席のこと。	1. Introduction 2. “Wave” 3. “Seed Pods” 4. “All Over the Dry Grasses” 5. “By the Tama River at the North End of the Plain” 6. The Wide Mouth” 7. “In the House of the Rising Sun” 8. “White Devils” 9. “Song of the Cloud” 10. “Song of the Tangle” 11. “Song of the Slip” 12. “Song of the View” 13. “Song of the Taste” 14. “Kyoto Born in Spring Song”

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	次回取りあげる作品を読み、疑問点をまとめ、メーリングリストで知らせる
テキスト	Gary Snyder. *Regarding Wave.* New York: New Directions, 1970. (ISBN 978-0-8112-0196-4) ＊各自 amazon.co.jp などで購入のこと。
参考文献	授業で紹介
評価方法	作品論のレポート 70%、プレゼンテーション 20%、授業での発言 10%。

13 年度以降	英語専門講読 II 【4 年生対象】 （アメリカ現代詩）	担当者	原　成吉

講義目的、講義概要	授業計画
ゲーリー・スナイダー(Gary Snyder b. 1930)の詩集『波について』(*Regarding Wave,* 1970) は、現在わたしたちが直面している環境問題を含めた地球という生命体「ガイア」についての作品が収められています。スナイダーは、エコロジー、神話、仏教、自分が暮らす場所、そしてウィルダネスへの旅をとおして得てきた経験と知識をこのテキストに織り込みました。このクラスの目的は、スナイダーの詩をとおして、ガイアで暮らすためのこれからのライフスタイルを考えることです。授業は、学生による発表・討論のプリゼン形式で行い、学期末にレポートを提出してもらいます。 DVD や CD を使って「声としての詩」についても紹介します。 最初の授業でプリゼンのペアと担当作品を決めるので必ず出席のこと。	1. “Archaic Round and Keyhole Tombs” 2. “Burning Island 3. “Roots” 4. “Rainbow Body” 5. “Everybody Lying on Their Stomachs, ...” 6. “Shark Meat” 7. “It Was When” 8. “The Bed in the Sky 9. “Kai, Today” 10. “Not Leaving the House” 11. “Regarding Wave” 12. “Revolution in the Revolution in the Revolution” 13. “What You Should Know to Be a Poet” 14. “Aged Tamba Temple Plum Tree Song”

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	次回取りあげる作品を読み、疑問点をまとめ、メーリングリストで知らせる
テキスト	Gary Snyder. *Regarding Wave.* New York: New Directions, 1970. (ISBN 978-0-8112-0196-4)
参考文献	授業で紹介
評価方法	作品論のレポート 70%、プレゼンテーション 20%、授業での発言 10%。

13 年度以降	英語専門講読 I 【4 年生対象】 （19 世紀アメリカの詩）	担当者	関根　路代

講義目的、講義概要	授業計画
詩人Walt Whitmanの代表作“Song of Myself”を1年通して精読する。1855年にこの詩を含む詩集*Leaves of Grass*が出版されて以降、アメリカ現代詩なるものが生まれた。定型詩の韻律とは違う口語のリズム。主題も先駆的だ。民衆のありのままの日常を、その肉体の美しさを、同性愛を、歴史の中に埋もれてゆく死者の声を、この詩人は書いた。 “Song of Myself”を読めば、そのような彼の詩の面白みが堪能できる。実験的なこの詩は今なお重要な文学テキストである。発表やディスカッションを通して、現在の文脈からこのテキストを精読・分析することで、新たな解釈を生み出すことがこの授業の目的である。 授業はプレゼンテーション形式で進める。	1. イントロダクション：詩人紹介, “Song of Myself 1” 2. Section 2 3. Section 3 4. Section 4 5. Section 5 6. Section 6 7. Section 7 8. Section 8, 9 9. Section 10 10. Section 11 11. Section 12, 13 12. Section 14 13. Section 15 14. Section 15, Summary

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	自分の訳を作り、声に出して作品を味わってくること。授業で読んだ作品を読み直し、イメージを膨らませること。
テキスト	Walt Whitman. *Song of Myself: With a Complete Commentary*. U of Iowa P, 2016.
参考文献	酒本雅之訳『草の葉』（岩波書店、1998 年）
評価方法	授業内での発表（30%）、参加度（30%）、レポート（40%） 出席は全体の 1/3 以上を欠席するとその時点で単位認定不能となります。

13 年度以降	英語専門講読 II 【4 年生対象】 （19 世紀アメリカの詩）	担当者	関根　路代

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に引き続き“Song of Myself”を鑑賞し分析する。 授業はプレゼンテーション形式で進める。	1. Review 2. Section 16 3. Section 17, 18 4. Section 19 5. Section 20 6. Section 21 7. Section 22 8. Section 23 9. Section 24 10. Section 24, 25 11. Section 26 12. Section 27, 28 13. Section 29, 30 14. Section 31, Summary

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	自分の訳を作り、声に出して作品を味わってくること。授業で読んだ作品を読み直し、イメージを膨らませること。
テキスト	Walt Whitman. *Song of Myself: With a Complete Commentary*. U of Iowa P, 2016.
参考文献	酒本雅之訳『草の葉』（岩波書店、1998 年）
評価方法	授業内での発表（30%）、参加度（30%）、レポート（40%） 出席は全体の 1/3 以上を欠席するとその時点で単位認定不能となります。

13 年度以降	英語専門講読Ⅰ【4 年生対象】 （実践的な英語の聴解・発音教育）	担当者	中田　ひとみ

講義目的、講義概要	授業計画
目的 従来の英語「音」の学習では子音や母音などの個別音に焦点を置いたものが多く、学習者そして教育者の側でも音声学の専門用語のイメージから苦手意識を持つ傾向にある。しかし実際は英語の持つリズム、強弱のコントラスト、そしてイントネーションなどの「音楽性」が英語らしさを左右し、コミュニケーションの場で重視されるという現実が研究そして教育の現場から多く報告されている。本講義では、こうした現実を踏まえ、母音や子音を意識しながらもフレーズや文などの「大きな単位で」英語の音をとらえ、聴解力・発音力の向上を目的とする教授法を分析し、体系化を図っていく。 概要 春学期は、主に教科書を中心に第二外国語としての英語リスニング・発音指導の問題点や課題、そして提案されている解決策を学習する。	1. コース概要１：オリエンテーション 2. Introduction (教科書viii-xv)： いわゆる「アクセント」とは何か？等 3. Unit 1：シラブル（音節）とは 4. Unit 2：母音のルール 5. Unit 3：強勢と母音長との関係１ 6. Unit 4：強勢と母音長との関係２ 7. Unit 1-4のまとめ 8. ＜中間テスト＞ 9. Unit 5：語強勢のさまざまなパターン 10. Unit 6：内容語の文における役割 11. Unit 7：機能語の役割（音としては弱いが重要） 12. Unit 5-7のまとめ 13. ＜期末テスト＞ 14. Review

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	次回授業でカバーする語彙や専門用語の意味を調べておく・授業後は配布資料を基に内容の確認
テキスト	『Clear Speech － Pronunciation and Listening Comprehension in North American English － Teacher’s Resource and Assessment Book. 4th Edition』(2012) Judy B. Gilbert 著 Cambridge University Press
参考文献	必要に応じて学習者用テキストからのコピー等を配布する
評価方法	中間・期末試験の結果（60%）の他に課題提出（20%）や授業への積極的な参加（20%）を加味して総合評価する

13 年度以降	英語専門講読Ⅱ【4 年生対象】 （実践的な英語の聴解・発音教育）	担当者	中田　ひとみ

講義目的、講義概要	授業計画
目的 従来の英語「音」の学習では子音や母音などの個別音に焦点を置いたものが多く、学習者そして教育者の側でも音声学の専門用語のイメージから苦手意識を持つ傾向にある。しかし実際は英語の持つリズム、強弱のコントラスト、そしてイントネーションなどの「音楽性」が英語らしさを左右し、コミュニケーションの場で重視されるという現実が研究そして教育の現場から多く報告されている。本講義では、こうした現実を踏まえ、母音や子音を意識しながらもフレーズや文などの「大きな単位で」英語の音をとらえ、聴解力・発音力の向上を目的とする教授法を分析し、体系化を図っていく。 概要 第二外国語としての英語リスニング・発音の研究資料、あるいはウェブ教材なども参考にしながら、実践的な教授法を学習する。後半はグループワークで「英語音を習得するための効果的な教材の作成」に取り組む予定。	1. コース概要１：オリエンテーション 2. Unit 8：文のなかで強調される部分 3. Unit 9：機能語をあえて強調する 4. Unit 10：英語の /s/と/t/ 5. Unit 11：英語の /r/と/d/, /l/と/d/ 6. Unit 12：有声音・無声音について 7. Unit 8-12のまとめ 8. ＜中間テスト＞ 9. Unit 13：シラブルの長さと有声・無声音との関係 10. Unit 14：‘Sibilants’ 11. 教材作成（グループワーク）① 12. 教材作成（グループワーク）② 13. ＜期末テスト＞ 14. Presentation + Review

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	次回授業でカバーする語彙や専門用語の意味を調べておく・授業後は配布資料を基に内容の確認
テキスト	『Clear Speech － Pronunciation and Listening Comprehension in North American English － Teacher’s Resource and Assessment Book. 4th Edition』(2012) Judy B. Gilbert 著 Cambridge University Press
参考文献	必要に応じて学習者用テキストからのコピー等を配布する
評価方法	中間・期末試験の結果（60%）の他に課題提出（20%）や授業への積極的な参加（20%）を加味して総合評価する

13 年度以降	英語専門講読Ⅰ【4 年生対象】 （英国ユダヤ人史）	担当者	佐藤　唯行

講義目的、講義概要	授業計画
学生の中には、英文の和訳が一応出来ても、意味が理解できていなかったり、内容を要約し、結論をひとことで表現する力が不足している者が少なくありません。英文の学術書を読み進む場合、パラグラフ毎の内容要約能力が常に求められます。そのため本授業では、学生側のそうした弱点を補強するために、各パラグラフ毎に内容の要旨をひとことで要約する能力を養う事を授業の目標といたします。 使用するテキストは英国ユダヤ人史の概説書です。	1. *Jews of Britain* 1~5 ページを講読 2. 同上 6～10 ページを講読 3. 同上 11～15 ページを講読 4. 同上 16～20 ページを講読 5. 同上 21～25 ページを講読 6. 同上 26～30 ページを講読 7. 同上 31～35 ページを講読 8. 同上 36～40 ページを講読 9. 同上 41～45 ページを講読 10. 同上 46～50 ページを講読 11. 同上 51～55 ページを講読 12. 同上 56～60 ページを講読 13. 同上 61～65 ページを講読 14. 同上 66～70 ページを講読

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいて下さい。また、授業で学んだ箇所を事後に復読して下さい。
テキスト	高価なため、コピーを配布します。
参考文献	—
評価方法	毎回出席をとります。授業日数の１／３以上欠席された方は単位をあげません。 遅刻２回で欠席１回にカウント。（筆記試験が 70%、平常点が 30%）

13 年度以降	英語専門講読Ⅱ【4 年生対象】 （英国ユダヤ人史）	担当者	佐藤　唯行

講義目的、講義概要	授業計画
英国ユダヤ人史の概説書を使用します。 講義目的、講義概要は春学期と同じです。	1. *Jews of Britain* 71～75ページを講読 2. 同上 76～80ページを講読 3. 同上 81～85ページを講読 4. 同上 86～90ページを講読 5. 同上 91～95ページを講読 6. 同上 96～100ページを講読 7. 同上 101～105ページを講読 8. 同上 106～110ページを講読 9. 同上 111～115ページを講読 10. 同上 116～120ページを講読 11. 同上 121～125ページを講読 12. 同上 126～130ページを講読 13. 同上 131～135ページを講読 14. 同上 136～140ページを講読

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	春学期と同じ
テキスト	春学期と同じ
参考文献	—
評価方法	春学期と同じ

13 年度以降	英語専門購読 I （Readings on Japanese Culture I）	担当者	L．G．ボンド

講義目的、講義概要	授業計画
The aim of this reading course is to examine different threads and ideas prevalent in Japanese culture. Threads originating in historical times that are still present, if even in a hybrid form, will be the main focus. Some such threads will include harmony, respect, mindfulness, concepts of religion as well as others will be discussed. Materials used will come from translations of original works as well as journal and academic writings. This course will be in English and “Learner-centered” in nature. Students will be expected to work in pairs and groups to complete tasks, and active participation in discussions will be essential. Students will be required to write reflection papers and take quizzes intermittently throughout the semester.	1. Course introduction 2. Reading 1: Overview and Discussion 3. Reading 1: Discussion and Reflection 4. Reading 2: Overview and Discussion 5. Reading 2: Discussion and Reflection 6. Reading 3: Overview and Discussion 7. Reading 3: Discussion and Reflection 8. Reading 4: Overview and Discussion 9. Reading 4: Discussion and Reflection 10. Reading 5: Overview and Discussion 11. Reading 5: Discussion and Reflection 12. Reading 6: Overview and Discussion 13. Reading 6: Discussion and Reflection 14. Final Class: Summary and Consolidation

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	Read material prior to class, prepare for class discussion, and write reflection paper after each reading.
テキスト	Materials will be provided.
参考文献	Reference material and appropriate dictionaries for study will be recommended in class.
評価方法	Grades are based on the following: in-class participation, 50%; quizzes, 25%; reflection papers, 25%.

13 年度以降	英語専門購読 II （Readings on Japanese Culture II）	担当者	L．G．ボンド

講義目的、講義概要	授業計画
The aim of this reading course is to examine different threads and ideas prevalent in Japanese culture. Threads originating in historical times that are still present, if even in a hybrid form, will be the main focus. Some such threads will include harmony, respect, mindfulness, concepts of religion as well as others will be discussed. Materials used will come from translations of original works as well as journal and academic writings. This course will be in English and “Learner-centered” in nature. Students will be expected to work in pairs and groups to complete tasks, and active participation in discussions will be essential. Students will be required to write reflection papers and take quizzes intermittently throughout the semester. Some field work may be required in the fall term.	1. Course introduction, Review of spring term 2. Reading 7: Overview and Discussion 3. Reading 7: Discussion and Reflection 4. Reading 8: Overview and Discussion 5. Reading 8: Discussion and Reflection 6. Reading 9: Overview and Discussion 7. Reading 9: Discussion and Reflection 8. Reading 10: Overview and Discussion 9. Reading 10: Discussion and Reflection 10. Reading 11: Overview and Discussion 11. Reading 11: Discussion and Reflection 12. Reading 12: Overview and Discussion 13. Reading 12: Discussion and Reflection 14. Final Class: Summary and Consolidation

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	Read material prior to class, prepare for class discussion, and write reflection paper after each reading.
テキスト	Materials will be provided.
参考文献	Reference material and appropriate dictionaries for study will be recommended in class.
評価方法	Grades are based on the following: in-class participation,25%; quizzes, 25%; reflection papers, 25%, field work presentation/ report, 25%.

13 年度以降	英語専門講読 I (Diplomacy and International Relations)	担当者	伊藤　兵馬

講義目的、講義概要	授業計画
Diplomacy is one of the central aspects in the study of international relations. By examining the nature of diplomacy from various historical perspectives, this course attempts to understand diplomacy, which serves as an essential factor in shaping contemporary international politics today. In the spring semester, the focus will be placed on the evolution of diplomacy, along with some historical events. Each class will be conducted using the textbook indicated below. Students are expected to be able to summarize designated paragraphs from the textbook and also engage in discussions based on various topics related to the subject suggested by the instructor. Furthermore, there will be quizzes and or assignments periodically. **This course is taught in English**. It is an ideal course for students who wish to learn the essential aspects of international relations in English. Students are required to purchase the textbook from the university bookstore DUO **before the first class.**	1. Introduction 2. Evolution of Diplomacy/ Overview 3. Evolution of Diplomacy/ General Discussion 4. Evolution of Diplomacy/ Specific Discussion 5. Evolution of Diplomacy/ Review 6. Diplomacy of the American Revolution/ Overview 7. Diplomacy of the American Revolution/ General Discussion 8. Diplomacy of the American Revolution/ Specific Discussion 9. Diplomacy of the American Revolution/ Review 10. Diplomatic Origins of the Great War and Versailles/ Overview 11. Diplomatic Origins of the Great War and Versailles/ General Discussion 12. Diplomatic Origins of the Great War and Versailles/ Specific Discussion 13. Diplomatic Origins of the Great War and Versailles/ Review 14. Course Review

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare for each class by reviewing lecture and class discussion notes.
テキスト	Siracusa, Joseph M., *Diplomacy: A Very Short Introduction* (Oxford: Oxford University Press, 2010).
参考文献	To be announced.
評価方法	Evaluations will be made according to participation (20%), quizzes/assignments (20%), and examinations (60%). Details will be explained by the instructor in the first class.

13 年度以降	英語専門講読 II (Diplomacy and International Relations)	担当者	伊藤　兵馬

講義目的、講義概要	授業計画
The purpose of this course is as above. In the fall semester, the focus will be placed on more historical events and the changing nature of diplomacy in the age of globalization and beyond. Each class will be conducted using the textbook indicated below. Students are expected to be able to summarize designated paragraphs from the textbook and also engage in discussions based on various topics related to the subject suggested by the instructor. Furthermore, there will be quizzes and or assignments periodically. **This course is taught in English**. It is an ideal course for students who wish to learn the essential aspects of international relations in English.	1. Introduction 2. The Night Stalin and Churchill Divided Europe/ Overview 3. The Night Stalin and Churchill Divided Europe/ General Discussion 4. The Night Stalin and Churchill Divided Europe/ Specific Discussion 5. The Night Stalin and Churchill Divided Europe/ Review 6. The ANZUS Treaty/ Overview 7. The ANZUS Treaty/ General Discussion 8. The ANZUS Treaty/ Specific Discussion 9. The ANZUS Treaty/ Review 10. Diplomacy in the Age of Globalization/ Overview 11. Diplomacy in the Age of Globalization/ General Discussion 12. Diplomacy in the Age of Globalization/ Specific Discussion 13. Diplomacy in the Age of Globalization/ Review 14. Course Review

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare for each class by reviewing lecture and class discussion notes.
テキスト	Siracusa, Joseph M., *Diplomacy: A Very Short Introduction* (Oxford: Oxford University Press, 2010).
参考文献	To be announced.
評価方法	Evaluations will be made according to participation (20%), quizzes/assignments (20%), and examinations (60%). Details will be explained by the instructor in the first class.

13 年度以降	英語専門講読Ⅰ【4 年生対象】 （国際関係）	担当者	佐野　康子

講義目的、講義概要	授業計画
グローバリゼーションとはどのような現象であり、私達の生活にどのような影響を及ぼしているのだろうか。 一般的にグローバリゼーションとは、ヒト・モノ・カネ・サービスの境界線を越えての移動と説明されるが、果たしてそれだけなのか。グローバリゼーションの進展は文化的な差異性と同質性のどちらをもたらし、経済的な格差を助長するのだろうか。 この授業ではグローバリゼーションを文化的、経済的、政治的、生態的、イデオロギー的側面から捉え直す。 テキストとしてはオックスフォード大学出版局のShort Introduction Seriesの*Globalization*（第4版、2017年)を用いる。 授業への積極的な貢献を求めるため、テキスト指定箇所の予習を怠らないこと。毎回、課題の提出がある。	1. 授業概要の説明（Preface） 2. Chap.1（概念）: A contested concept 3. Chap.1（概念）: Towards a definition of globalization 4. Chap.2（歴史）: The prehistoric period 5. Chap.2（歴史）: The premodern period 6. Chap.2（歴史）: The modern period 7. Chap.3（経済）: Trade and finance 8. Chap.3（経済）: Global economic volatility 9. Chap.3（経済）: Transnational corporations 10. Chap.3（経済）: Role of international economic orgs. 11. Chap.4（政治）: The demise of nation-state? 12. Chap.4（政治）: Migration 13. Chap.4（政治）: Global governance 14. 授業総括

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキスト指定箇所の予習
テキスト	Manfred B. Steger. *Globalization: A Very Short Introduction*. Oxford University Press. 2017.
参考文献	適宜紹介する。
評価方法	課題 20%、授業への参加度 20%、定期試験 30%、レポート 30%

13 年度以降	英語専門講読Ⅱ【4 年生対象】 （国際関係）	担当者	佐野　康子

講義目的、講義概要	授業計画
グローバリゼーションとはどのような現象であり、私達の生活にどのような影響を及ぼしているのだろうか。 一般的にグローバリゼーションとは、ヒト・モノ・カネ・サービスの境界線を越えての移動と説明されるが、果たしてそれだけなのか。グローバリゼーションの進展は文化的な差異性と同質性のどちらをもたらし、経済的な格差を助長するのだろうか。 この授業ではグローバリゼーションを文化的、経済的、政治的、生態的、イデオロギー的側面から捉え直す。 テキストとしてはオックスフォード大学出版局のShort Introduction SeriesのGlobalization（第4版、2017年)を用いる。 授業への積極的な貢献を求めるため、テキスト指定箇所の予習を怠らないこと。毎回、課題の提出がある。	1. 授業概要の説明（Preface） 2. Chap.5（文化）: Sameness of difference? 3. Chap.5（文化）: The role of media 4. Chap.5（文化）: The globalization of languages 5. Chap.6（環境）: Population growth 6. Chap.6（環境）: Transboundary pollution 7. Chap.6（環境）: Global Warming 8. Chap.7（環境）: Blocked negations 9. Chap.7（思想）: Market globalism 10. Chap.7（思想）: Justice globalism 11. Chap.7（思想）: Religious globalism 12. Chap.8（終章）: The past of globalization 13. Chap.8（終章）: The future of globalization 14. 授業総括

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキスト指定箇所の予習
テキスト	Manfred B. Steger. *Globalization: A Very Short Introduction*. Oxford University Press. 2017.
参考文献	適宜紹介する。
評価方法	課題 20%、授業への参加度 20%、定期試験 30%、レポート 30%

13 年度以降	英語専門講読 I （「グローバル理解教育」、開発教育論）	担当者	玉井　昇

講義目的、講義概要	授業計画
（講義目的）主に次の能力の向上を目指します。１）課題設定力：「グローバル理解教育」の現状と課題を理解し、自らの関心に応じた課題を設定する。２）情報収集分析力：各自が設定した課題に関する英語文献を収集し、熟読の上プレゼンテーションに備える。３）企画力・ファシリテーション力：自身の授業プランを企画し実践する。 （講義概要）Education for sustainable developmentなど関連分野の英語文献を通して、「グローバル理解教育」への理解を深めます。また、教育学的な観点から、文献をどのように読み、論点や課題を設定するか考え、英語による他者への効果的な発信手段についても考えます。グローバル・イッシュ―に対する関心はもちろんのこと、ファシリテーションや教育実践に関心がある人にも適しています。受講者が主体となって取り組みアクティブラーニング的手法やピア・ティーチングも重視します。	1. Course Introduction 2. Introduction for Education for Global Understanding 3. Presentation & Discussion: MDGs 4. Presentation & Discussion: SDGs 5. Presentation & Discussion: Justice 6. Presentation & Discussion: Global South 7. Presentation & Discussion: Human rights 8. Midterm Review & Introduction for Second half 9. Presentation & Discussion: Poverty 10. Presentation & Discussion: Climate changes 11. Presentation & Discussion: political agenda 12. Presentation & Discussion: NGOs and individuals 13. Presentation & Discussion: Action plans 14. Course Review Note: These plans might be changed if needed.

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	配布資料の事前・事後の学習。とくにディスカッションリーダーは入念な事前準備が必要です。
テキスト	主に NYCI's Development Education Programme などオンライン英語文献をテキストとして利用
参考文献	適宜紹介します。
評価方法	ディスカッションリーダーとしての授業運営（30%）、通常ディスカッションへの参加と貢献度（30%）、最終レポート（40%）

13 年度以降	英語専門講読 II （「グローバル理解教育」、開発教育論）	担当者	玉井　昇

講義目的、講義概要	授業計画
（講義目的）春期と同様に次の3点です。１）課題設定力：「グローバル理解教育」の現状と課題を理解し、自らの関心に応じた課題を設定する。２）情報収集分析力：各自が設定した課題に関する英語文献を収集し、熟読の上プレゼンテーションに備える。３）企画力・ファシリテーション力：自身の授業プランを企画し実践する。 （講義概要）春期に続き、Development Education など関連分野の英語文献を通して、「グローバル理解教育」への理解を深めます。また、教育学的な観点から、文献をどのように読み、論点や課題を設定するか考え、英語による他者への効果的な発信手段についても考えます。グローバル・イッシュ―に対する関心はもちろんのこと、ファシリテーションや教育実践に関心がある人にも適しています。受講者が主体となって取り組みアクティブラーニング的手法やピア・ティーチングも重視します。	1. Course Introduction 2. Introduction for Education for Global Understanding 3. Presentation & Discussion: SDGs 4. Presentation & Discussion: Conflicts 5. Presentation & Discussion: Hunger 6. Presentation & Discussion: Infectious diseases 7. Presentation & Discussion: Cultural identities 8. Midterm Review & Introduction for Second half 9. Presentation & Discussion: Minority 10. Presentation & Discussion: inter-dependence 11. Presentation & Discussion: Sound environment 12. Presentation & Discussion: Consumer choice 13. Presentation & Discussion: Action plans 14. Course Review Note: These plans might be changed if needed.

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	配布資料の事前・事後の学習。とくにディスカッションリーダーは入念な事前準備が必要です。
テキスト	主に NYCI's Development Education Programme などオンライン英語文献をテキストとして利用
参考文献	適宜紹介します。
評価方法	ディスカッションリーダーとしての授業運営（30%）、通常ディスカッションへの参加と貢献度（30%）、最終レポート（40%）

13 年度以降	英語専門購読 I （英語で学ぶ国際関係論）	担当者	堀　芳枝

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：国際関係における様々な理論（リアリズム、リベラリズム、批判理論、構成主義、戦争、国際政治経済、トランスナショナル・アクター、国連、ジェンダー）について、英語の文献講読を通じて、専門用語に慣れ親しむと同時に、国際関係論についても理解する。 講義概要：欧米の大学の学部の授業で広く使用されている国際関係論のテキストを読解してゆく。単に訳をおこなうだけでなく、内容について理解し、質疑応答や討論をしてゆく。この授業は春・秋継続しておこなうことで、専門用語や内容、国際関係論の考え方について慣れて行ってほしいと思います。	1. Introduction 2. Realism 3. Liberalism 4. Contemporary approaches: neo-realism and neo-liberalism 5. Marxist theories of international relations 6. Social Constructivism 7. The changing character of war 8. International and Global Security 9. International Political Economy in an age of globalization 10. Gender in World Politics 11. International Regimes 12. The United Nations 13. Transnational Actors and International Organizations in Global Politics 14. Assessment

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの予習と復習。関連文献を自分で読んで理解する。プレゼンテーションの準備。
テキスト	Baylis, John, *The Globalization of World Politics: An introduction to International Relations*, Oxford.
参考文献	授業で適宜紹介する
評価方法	講義への出席、発言や受講姿勢　30%、プレゼンテーションの内容　40%、期末課題　30%

13 年度以降	英語専門購読 II （英語で学ぶ国際関係論）	担当者	堀　芳枝

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：国際関係の歴史と英語の文献講読を通じて、環境、テロ、ナショナリズム、地域主義、貿易と金融、貧困と発展、人間の安全保障といった具体的なイシューについて英語の文献を講読することで、専門用語に慣れ親しむと同時に、国際関係の歴史と今日的課題についても理解する。 講義概要：欧米の大学の学部の授業で広く使用されている国際関係論のテキストを読解してゆく。単に訳をおこなうだけでなく、内容について理解し、質疑応答や討論をしてゆく。この授業は春・秋継続しておこなうことで、専門用語や内容、国際関係論の考え方について慣れて行ってほしいと思います。	1. Introduction 2. The evolution of international society 3. International history 1900-99 4. From the end of the cold war to a new global era? 5. Rising Powers and the emerging global order 6. Environmental Issues 7. Terrorism and Globalization 8. Nationalism 9. Regionalism in international affairs 10. Global trade and global finance 11. Poverty, development and hunger 12. Human security 13. Human rights 14. Assessment

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの予習と復習。関連文献を自分で読んで理解する。プレゼンテーションの準備。
テキスト	Baylis, John, *The Globalization of World Politics: An introduction to International Relations*, Oxford.
参考文献	授業で適宜紹介する
評価方法	講義への出席、発言や受講姿勢　30%、プレゼンテーションの内容　40%、期末課題　30%

13 年度以降	英語専門講読Ⅰ【4 年生対象】 （日英語の疑問文の比較）	担当者	安井　美代子

講義目的、講義概要	授業計画
英語の wh-疑問文では wh-句を文頭に移動しなければなりませんが、日本語では移動する必要がありません。 （1）Which book did he read? （2）彼はどの本を読んだの/どの本を彼は読んだの では、（3）と（4）を日本語ではどのように区別するでしょうか。（3）と（4）の和訳は1文字違いになるはずです。 （3）Which book did John say Mary would read? （4）Did John say which book Mary would read? その1文字の機能は何でしょうか。また、そもそも英語でwh-句を移動しなければならないのは何故でしょうか。 wh-疑問文はどんな言語にも存在し、概ね、英語タイプと日本語タイプに分かれます。２つのタイプは発音上大きく異なりますが、「本質的に同じ」であることをNishigauchi (1999)に沿って見ていきます。 「シンタクスa,b」の既修もしくは平行履修が望ましいですが、学期の初めに必要最低限の基礎は導入します。	1. 授業の概要とグループ分け 2. 英語のシンタクスに関する基礎：必須要素と修飾要素 3. 英語のシンタクスに関する基礎：節構造と移動規則 4. wh-句が動かない言語 5. wh-句の移動／解釈にみられる局所性 6. wh-island 7. 複雑な名詞句 8. wh-語を含む大きな句の移動 9. その他の islands 10. 英語の多重 wh-疑問文 11. 日本語の wh-語の不定表現用法 12. 補文節のタイプ 13. 「何故」の特殊性 14. 全体のまとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に与えられる論文に関する質問について考え、毎回の授業での議論を踏まえて解答をまとめる。
テキスト	Nishigauchi, T. (1999) Quantification and Wh-movement. In Tsujimura (ed.) *The Handbook of Japanese Linguistics*, Ch. 9.
参考文献	Freiden, R. (2012) *Syntax: Basic Concepts and Applications* (CUP), 中村捷・他　(1989)『生成文法の基礎』(研究社)
評価方法	毎回の授業での言語分析、論文のまとめなど（40%）、学期末試験（60%）

13 年度以降	英語専門講読Ⅱ【4 年生対象】 （日英語の使役文の比較）	担当者	安井　美代子

講義目的、講義概要	授業計画
英語では、have, make, letのような独立した動詞を使役的意味を表すのに使いますが、日本語の「持つ」や「作る」は使役構文には使われません。代わりに、独立した語ではない(-s)aseを本動詞につけます。 （1）　John had/let/made Mary come into the room. （2）　ジョンはメアリーを部屋に入らせ（hair-ase）た。 （2）の「入る（hair)」は自動詞で、対応する他動詞「入れる」があります。どちらも「気合いが入る／を入れる」のように熟語的意味を持ちますが、自動詞＋(-s)aseの「気合いを入らせる」は奇妙です。これは何故でしょうか。 日本語は「させ」のような非独立語を動詞につけて色々な構文を作る点が英語と異なりますが、両言語を分析的に見ていくと、「本質的に同じ」であることをMiyagawa (1989)に沿って見ていきます。	1. 授業の概要とグループ分け 2. 使役構文における副詞句の曖昧性 3. 使役構文における「自分」の曖昧性 4. 使役構文における述語の代用表現 5. 使役構文における節の代用表現 6. 変形規則による使役構文の分析 7. 語彙的規則による使役構文の分析 8. Blocking 現象 9. 使役「させ」を含むイディオム 10. 使役「させ」を含む派生名詞 11. 不可能な使役表現 12. 使役構文の意味解釈 13. 語彙的な使役動詞 14. 全体のまとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に与えられる論文に関する質問について考え、毎回の授業での議論を踏まえて解答をまとめる。
テキスト	Miyagawa, S. (1989) Paradigmatic structures and the causatives. In S. Miyagawa, Syntax and Semantics 22, Ch.4.
参考文献	Freiden, R. (2012) *Syntax: Basic Concepts and Applications* (CUP), 中村捷・他　(1989)『生成文法の基礎』(研究社)
評価方法	毎回の授業での言語分析、論文のまとめなど（40%）、学期末試験（60%）

13 年度以降	英語専門講読 I （ハリウッド映画の社会学：初期から WW2 まで）	担当者	山口　誠

講義目的、講義概要	授業計画
ハリウッドは、最初から「ハリウッド」だったわけではありません。この授業では、アメリカ映画の代表格、あるいは大衆娯楽映画の代名詞になった「ハリウッド」が、いつ、どのようにして誕生し、いかなる特徴の映画を世界へ発信するようになったのかについて、社会学の視点から考えます。ハリウッドの歴史と現状を論じた書籍を読解し、また必要に応じて映画作品の一部を観て議論することで、現代社会における映画メディアの魅力と課題を考えます。 授業は①指定テキストの担当箇所について個人単位で英文要約レジュメを作成して口頭発表し、②担当箇所について2～3問のクイズを作成して出題し、③全員でクイズに回答した後に討論する、というスタイルを採ります。 履修者には、主体的に課題に取り組み、かつ積極的に討論に参加することを期待します。	1. ガイダンス：授業内容の説明、担当箇所の決定 2. 講読準備①：ハリウッドと「ハリウッド」 3. 講読準備②：映画産業の歴史と映画研究の位置付け 4. 講読①：第1章前半 5. 講読②：第1章後半 6. 講読③：第2章前半 7. 講読④：第2章前半 8. ハリウッド映画を分析する①初期サイレント作品 9. 講読⑤：第3章前半 10. 講読⑥：第3章後半 11. 講読⑦：第4章前半 12. 講読⑧：第4章後半 13. ハリウッド映画を分析する②WW2期作品 14. 全体討論、まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定個所を毎回必ず複数回精読し、論点を整理して授業に参加してください。 また授業後に 1 回は指定個所を読み返してください。詳細は初回と第 2 回の授業で説明します。
テキスト	Decherney, P., 2016, *Hollywood: A Very Short Introduction*, Oxford University Press.　ほか
参考文献	授業で適宜提示します。
評価方法	授業参加度 50%、発表 40%、期末レポート 10%によって総合的に評価します。

13 年度以降	英語専門講読 II （ハリウッド映画の社会学 : 20 世紀後半から現在まで）	担当者	山口　誠

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、前期の「英語専門講読 I （ハリウッド映画の社会学：初期からWW2まで）」で取り組んだ方法を応用して、①指定テキストの後半を講読するとともに、②関連する学術論文をあわせて読解し、③「ハリウッド」が映し出す現代社会のメカニズムを考えることを試みます。 前期と同様に、英文要約の発表、クイズの出題と回答、全体討論の3部で授業を構成し、必要に応じて有名・無名のハリウッド映画の一部を鑑賞します。出席は毎回確認し、要約発表とクイズ出題に工夫を求めますが、充実した授業を求めるタイプの学生が楽しめるよう、履修者の意見を取り入れて教員も工夫を重ねて改良していきます。 映画が好きな方はもちろん、これまで映画をあまり観なかった方やハリウッド映画が嫌いな方を含めて、映画メディアの歴史から我々が生きる現代社会を考える社会学に意欲的な受講生を歓迎します。	1. ガイダンス：授業内容の説明、担当箇所の決定 2. 講読準備①：「ハリウッド」と日本 3. 講読準備②：「ハリウッド」以外の映画界 4. 講読①：第5章前半 5. 講読②：第5章後半 6. 講読③：第6章前半 7. 講読④：第6章後半 8. ハリウッド映画を分析する③1980年代作品 9. 講読⑤：第7章前半 10. 講読⑥：第7章後半 11. 講読⑦：関連論文（二世部隊とハリウッド） 12. 講読⑧：関連論文（文化、資本、権力） 13. ハリウッド映画を分析する④21世紀作品 14. 全体討論、まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定個所を毎回必ず複数回精読し、論点を整理して授業に参加してください。 また授業後に 1 回は指定個所を読み返してください。詳細は初回と第 2 回の授業で説明します。
テキスト	Decherney, P., 2016, *Hollywood: A Very Short Introduction*, Oxford University Press.　ほか
参考文献	授業で適宜提示します。
評価方法	授業参加度 50%、発表 40%、期末レポート 10%によって総合的に評価します。

13 年度以降	英語専門講読 I 【4 年生対象】 (Multicultural Education & Social Justice)	担当者	E．本橋

講義目的、講義概要	授業計画
Multicultural education is not just about exploring various cultures in the classroom. It is also about addressing inequities, stereotypes, and the ways they influence both the way teachers teach and students learn and engage in/with, or resist, their lessons and the school culture. . In this course we will examine the ways that various teaching practices and socio-cultural perspectives impact the learning environment.. By building awareness of a variety of perspectives, students will better understand how schools both reflect and reproduce social inequities that exist outside of the classroom and school and consider the ways in which a shift toward a social justice oriented education can begin to address these inequities.	Week1 ntroduction to Course-What is Social Justice? Week2 John Rawls' Theory of Social Justice Week3 Relating Social Justice to Education Week4 Considering Injustice in the Classroom Week5 What Counts as Knowledge? Who Decides? Who Benefits? Week6 Educational Inequality – Immigrants & Schooling Week7 Educational Inequality – Domestic Minorities & Schooling Week8 Educational Inequality – Racial Inequality & Schooling Week9 Educational Inequality – Gender Inequality Week10 Educational Inequality – Social Class & Inequality Week11 Lost in Translation Week12 Latinos, School & Society Week13 Poster Presentations-Grp.A Week14 Poster Presentations-Grp.B

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will be required each week to complete the assigned reading and homework assignments in preparation for class participation
テキスト	There is no text for this course
参考文献	Materials will be provided by the instructor
評価方法	In-class participation & homework (40%), Reflective Response /Article Summary (20%), Mid-term presentations (20%), Final Poster Presentation (20%)

13 年度以降	英語専門講読 II 【4 年生対象】 (Multicultural Education & Social Justice)	担当者	E．本橋

講義目的、講義概要	授業計画
The fall term of the course continues with an exploration of how social inequalities are reflected and reproduced within educational institutions and how a social justice oriented education can address these issues. The main topics of study include social mobility and educational stratification; human & social capital; social & cultural reproduction; the affect of race, ethnicity, gender, class, etc. on the type and quality of education individuals receive.	Week1 Equal Opportunity & Education Week2 Purposes of Public Education – Is it reallyEqual? Week3 Considering Equality and Equity Week4 Aims & Objectives of a Social Justice Education Week5 Elements of Social Justice Education Week6 Social Justice Case Studies – How Does It Work? Week7 Globalization, Human Capital & Schooling Week8 Colonization, Global Disparity & Education Week9 Schooling the World Week10 Inequality and Schooling:Japan,Economic Difference Week11 Inequality and Schooling:Japan,Racial/Ethnic Difference Week12 Inequality and Schooling: Japan,Linguistic Difference Week13 Final Project – Grp.A Week14 Final Project – Grp.B

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will be required each week to complete the assigned reading and homework assignments in preparation for class participation
テキスト	There is no text for this course
参考文献	Materials will be provided by the instructor
評価方法	In-class participation & homework (40%), Reflective Responses x2 (20%), Mid-term presentations (20%), Final Project (20%)

13 年度以降	英語専門講読 I （ツーリズムの現状と課題）	担当者	井上　泰日子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 　我が国を訪問する外国人旅行者数は大きく伸びているが、我が国のツーリズムはいまだ発展途上である。本講義は、英語文献を通して、我が国のツーリズムの現状を理解すること、さらに、英語によるプレゼンテーション手法を習得することを目的としている。 講義概要： 　本講義は、ツーリズム関連資料（英文）の読解と、受講生によるパワーポイントを使用した英語によるプレゼンテーション＋ディスカッションで構成されている。できるだけ英語を使用する時間を長くし、英語を使った学習を実践する。	1. Orientation 2. Tourism in Japan-history 3. Tourism in Japan-future 4. Presentation & Discussion group 1 5. Presentation & Discussion group 2 6. Presentation & Discussion group 3 7. Presentation & Discussion group 4 8. Japan's World Heritage Sites 9. Over tourism 10. Culture of Japan 11. Final Presentation & Discussion group 1 12. Final Presentation & Discussion group 2 13. Final Presentation & Discussion group 3 14. Final Presentation & Discussion group 4

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの丁寧な予習と復習。プレゼンテーションの準備。
テキスト	テキストを適宜配布する。
参考文献	特に指定無し。
評価方法	講義での発言、受講姿勢、講義参画７０％、プレゼンテーションとレポート３０％。

13 年度以降	英語専門講読 II （航空の現状と歴史）	担当者	井上　泰日子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 　本講義においては、航空事業の歴史と現状について学習する。航空事業は外から見ると華やかな産業であるが故に、その背景にある様々な重要な出来事や歴史を忘れがちである。よって、航空事業の現状に至る経緯や、現在の航空事業を支える基礎には何があるのかを中心に考えることを目的としている。 講義概要： 　本講義は、航空産業関連資料（英文）の読解と、受講生によるパワーポイントを使用した英語によるプレゼンテーション＋ディスカッションで構成されている。できるだけ英語を使用する時間を長くし、英語を使った学習を実践する。	1. Orientation 2. The History of The Airline Business-America 3. The History of The Airline Business-Europe 4. The History of The Airline Business-Japan 5. Presentation & Discussion group 1 6. Presentation & Discussion group 2 7. Presentation & Discussion group 3 8. The Airline Business in Japan 9. The Airport in Japan 10. LCC 11. Final Presentation & Discussion group 1 12. Final Presentation & Discussion group 2 13. Final Presentation & Discussion group 3 14. Final Presentation & Discussion group 4

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの丁寧な予習と復習。プレゼンテーションの準備。
テキスト	適宜配布する。
参考文献	特に指定無し。
評価方法	講義での発言、受講姿勢、講義参画７０％、プレゼンテーションとレポート３０％。

13 年度以降	英語専門講読 I 【4 年生対象】 （Global Woman）	担当者	上野　直子

講義目的、講義概要	授業計画
グローバル化した世界のなかでのジェンダー問題、特に女性移民労働者についてのエッセイや論文を読む、テクストのタイトルは*Global Woman*。「グローバル・ウーマン」という言葉から、あなたは何を連想するだろうか。ある授業で、アンケートをとったところ、次のようなイメージが大半をしめた。たとえば、いわゆる「国際的で」、「高収入」の仕事につき、外国語を操り、国境を越えて活躍する女性。 しかし、現在、国境を越えて移動する女性たちの多くは、第三世界から第一世界への低賃金の移民労働者である。彼女たちが担うのは、第一世界の女性たちが好まなくなった「女性の役割」だ。テキストの副題にあるとおり、家事、育児、そしてセックス・ワークが彼女たちの主な仕事なのである。その労働の現場では、どのような問題が起こっているのだろうか。（以下、(秋)の欄に続く）	1. Introduction（問題提起） 2. Introduction（考えてみよう） 3. Introduction（まとめ） 4. Love and Gold（前半） 5. Love and Gold（後半） 6. Nanny Dilemma 7. The Care Crisis in the Philippines（問題提起） 8. The Care Crisis in the Philippines（考えてみよう） 9. The Care Crisis in the Philippines（まとめ） 10. The Commodification of Domestic Labor（問題提起） 11. The Commodification of Domestic Labor（まとめ） 12. Presentation（First Group） 13. Presentation（Second Group） 14. Presentation（Third Group）

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テクストの指定箇所を必ず事前に読んでおくこと。
テキスト	*Global Woman: Nannies, Maids and Sex Workers in the New Economy*（2002）
参考文献	必要に応じて授業時に紹介する。
評価方法	授業貢献度（30%）、小テスト（35%）、プレゼンテーション（35%）　（変更の可能性もある）

13 年度以降	英語専門講読 II 【4 年生対象】 （Global Woman）	担当者	上野　直子

講義目的、講義概要	授業計画
そもそも、何がこのような状況を生み出しているのか。原因は複合的なものである。グローバリゼーションの問題とジェンダーの問題とが、複雑に絡み合っているのだ。 第三世界からの女性移民労働者の問題は、単純に彼女たちだけの問題ではない。彼女たちが後に残してくる家族、また彼女たちを必要とする、第一世界側の男性と女性にも関ってくるのである。つまり、第三世界からの女性移民労働者の問題について考えると、いくつもの異なる社会のジェンダーシステムが抱える課題が見えてくるのである。 そしてまた、この問題はいままさに、わたしたちの社会の問題ともなろうとしている。様々な問題を扱ったエッセイや論文を読み、グローバリゼーションとジェンダーについて考えたい。各学期の最後の数回は、受講者によるプレゼンテーションに充てる予定である。	1. Selling Sex for Visas（問題提起） 2. Selling Sex for Visas（考えてみよう＋まとめ） 3. Because She Looks like a Child（問題提起） 4. Because She Looks like a Child（考えてみよう） 5. Because She Looks like a Child（まとめ） 6. Clashing Dreams: Highly Educated Overseas Brides and Low-Wage U.S. Husband（問題提起） 7. Clashing Dreams（考えてみよう） 8. Clashing Dreams（まとめ） 9. 日本の「いま」を考える（問題提起） 10. 日本の「いま」を考える（考えてみよう） 11. 日本の「いま」を考える（まとめ） 12. Presentation（First Group） 13. Presentation（Second Group） 14. Presentation（Third Group）

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テクストの指定箇所を必ず事前に読んでおくこと。
テキスト	*Global Woman: Nannies, Maids and Sex Workers in the New Economy*（2002）
参考文献	必要に応じて授業時に紹介する。
評価方法	授業貢献度（30%）、小テスト（35%）、プレゼンテーション（35%）　（変更の可能性もある）

13 年度以降	英語専門講読 I 【4 年生対象】 （Allen Ginsberg の詩を精読する）	担当者	遠藤　朋之

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、タイトル通り、アメリカの「ビート派」の中心的詩人、 Allen Ginsberg (1926~1997) の詩を精読、そして20世紀初頭の詩の刷新運動 Imagismからの Ginsberg の連続性を確認することを目的とする。なんだか難しいことを語ったが、とにかく Ginsberg の詩をひたすら読むことが目的だ。20世紀初頭の英語詩は、日本の俳句に影響を受けている。それがどのような影響だったかをまずは確認し、その詩学（詩のありよう）が Ginsberg にも引き継がれていることを、実作品に読み込む。「時間」とは、どのようにして生まれるのだろうか？　ビート詩人たちを語るときに使われる “Here & Now” という、時間と空間が混交したフレーズをしっかりと Ginsberg の実作品から考えてみたい。そして、そこからどのように Ginsberg が political な方向へと動いていったか、それを確認したい。音楽は J-Pop しか聴かない学生向き。	1) introduction 2) Imagism の詩論の確認。 3) 同上、エッセイ “Vorticism” を読む 4) 同上、Imagism の作品精読 5) “The Green Automobile,” 1st ~17th stanzas 6) 18th~34th stanzas 7) “Song” 8) “On Burroughs’ Work,” “A Supermarket in California” 9) “Sunflower Sutra,” l. 1~10 10) 同上、l. 11~22 11) “America,” l. 1~36 12) 同上、l. 37~73 13) “To Aunt Rose” 14) “I Am a Victim of Telephone”

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業前にわからない単語を調べる、授業後には再度、詩を読み直す、これ以外にあるだろうか？
テキスト	*Selected Poems: 1945~1995*, (Penguin Modern Classics)
参考文献	多々あるので、学生自身が検索して調べること。もちろん、適宜、紹介する。
評価方法	学期末レポート、及び、授業への participation

13 年度以降	英語専門講読 II 【4 年生対象】 （Allen Ginsberg の詩を精読する）	担当者	遠藤　朋之

講義目的、講義概要	授業計画
春学期と同じく、 Ginsberg の詩を精読する。Imagism からの連続性は保ちつつ、そこから少々離れ、political な方向へと進む。Political な方向へと進むにしたがって、Ginsberg の詩は紙の上では「ユル」く、とはいえ、歌われることによって、より効果を持つようになる。Ginsberg 自身がゲイであったこと、そして反核活動家でもあったこと、それを現在の日本社会にも反映させようとする意識のある学生向き。春学期、秋学期ともに言えることであるが、「メッセージ」は、それはそれで重要。しかし、それだけでは「詩」にはならない。「プロパガンダ」と「詩」の違いを考えてみたい。同性愛の性的な表現も多々出てくるが、それを「キモい」としか受容できない子供の意識しか持ち合わせていない学生には不向き。	1) 春学期のレポートの講評 2) “These States: into L. A.,” “Ayers Rock / Uluru Song” 3) “Mind Breaths” 4) “Stay Away from White House” 5) “Jaweh and Allah Battle” 6) “Father Death Blues” 7) “Nagasaki Days: Everybody’s Fantasy,” “Plutonian Ode I” 8) “Plutonian Ode I” 9) “Plutonian Ode II” 10) “Birdbrain!” 11) “Capitol Air,” 1st~12th stanzas 12) 同上、 13th~24th stanzas 13) “Why I meditate,” “Cosmopolitan Greetings” 14) “Hum Bomb!”

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	春学期と同様、予習、復習。
テキスト	春学期のものを継続して使う。
参考文献	これも、適宜、紹介するし、学生が自分で検索して読むこと。
評価方法	学期末レポート、及び、授業への participation

13 年度以降	英語専門講読Ⅰ【4 年生対象】 （動詞の意味と文法）	担当者	小早川　暁

講義目的、講義概要	授業計画
この講義の目的は，英語の読解力を高めることである。使用するテキストは、英語のテンス、アスペクト及びモダリティに関する書籍である。 授業は演習形式で実施する。履修登録者は、あらかじめ割り当てられた部分を発表することになる。 英語を読む力は、鍛錬とか修練ということばによって特徴づけられるような、ときとして忍耐を必要とする学びの過程なしには高められないように思う。個々の単語の意味を調べ、それを並べかえさえすればそれでよしというようなことをせず、真の意味で英語が読めるようになることを目指したい。単なる情報収集を目的とするような読みとは違う丹念な読みを通じて、日本語らしさ、英語らしさについても学ぶことができるはずである。 諸連絡にはポータルサイトを利用する。	1. 講義方針等のガイダンス（出席は必須である） 2. Preface 3. Introduction 4. Simple Present 5. Simple Past 6. Progressive Aspect 7. Classes of verb with the Preogressive Aspect 8. Special cases 9. Present perfect tense 10. Present Perfect and Simple Past 11. Adverbials in relation to Perfect and Past 12. Past Perfect 13. Perfect Progressive 14. 春学期のまとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの予習に 1 時間以上、復習に 1 時間以上の授業時間外学修を必要とする。
テキスト	Leech, Geoffrey (2011) *Meaning and the English Verb* (Third Edition). 東京：ひつじ書房.
参考文献	G. N. リーチ．國廣哲彌訳注（1976）『意味と英語動詞』東京：大修館書店.
評価方法	評価を受ける資格を有する者について、日本語による記述式の試験にて評価を行う。なお、成績発表に先立って個人的に成績を知らせることはせず、特別の「救済措置」などは実施しない。

13 年度以降	英語専門講読Ⅱ【4 年生対象】 （動詞の意味と文法）	担当者	小早川　暁

講義目的、講義概要	授業計画
この講義の目的は，英語の読解力を高めることである。使用するテキストは、英語のテンス、アスペクト及びモダリティに関する書籍である。 授業は演習形式で実施する。履修登録者は、あらかじめ割り当てられた部分を発表することになる。 英語を読む力は、鍛錬とか修練ということばによって特徴づけられるような、ときとして忍耐を必要とする学びの過程なしには高められないように思う。個々の単語の意味を調べ、それを並べかえさえすればそれでよしというようなことをせず、真の意味で英語が読めるようになることを目指したい。単なる情報収集を目的とするような読みとは違う丹念な読みを通じて、日本語らしさ、英語らしさについても学ぶことができるはずである。 諸連絡にはポータルサイトを利用する。	1. ガイダンス・春学期の復習（出席は必須である） 2. The Expression of Future Time 3. *Will* 4. *Be going to* 5. Futurate Present Progressive 6. Simple Present with futre meaning 7. *Will* + Progressive Infinitive 8. The Primary Modal Auxiliaries 9. *Can* 10. *May* 11. *Must* 12. *Have to* 13. Root and epistemic modality 14. 秋学期のまとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの予習に 1 時間以上、復習に 1 時間以上の授業時間外学修を必要とする。
テキスト	Leech, Geoffrey (2011) *Meaning and the English Verb* (Third Edition). 東京：ひつじ書房.
参考文献	G. N. リーチ．國廣哲彌訳注（1976）『意味と英語動詞』東京：大修館書店.
評価方法	評価を受ける資格を有する者について、日本語による記述式の試験にて評価を行う。なお、成績発表に先立って個人的に成績を知らせることはせず、特別の「救済措置」などは実施しない。

13 年度以降	英語専門購読Ⅰ【4 年生対象】 （コミュニケーションに関する諸モデル）	担当者	佐々木　輝美

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 コミュニケーション現象を客観的に理解し、分析できるようになる。 **講義概要** まずコミュニケーションのダイナミックなプロセス性を学んだ後、具体的なコミュニケーションモデルを10件くらい学び、その学びを定着させるためにそれらのモデルを利用して具体的なコミュニケーション現象を分析し発表してもらいます。	1. 導入と班分け、コミュニケーションのプロセスの概念 2. コミュニケーション送り手・受け手の要素 3. コミュニケーションのメッセージの要素 4. コミュニケーションのメディアの要素 5. 【第１回個人中間発表】 6. ラスウェルのモデル、オズグッドのモデル 7. ＡＢＣモデル、ヘリカルモデル 8. 議題設定モデル 9. 沈黙の螺旋モデル 10. 【第２回個人中間発表】 11. ABX モデル 12. 利用と満足モデル 13. 遠慮察しモデル 14. 【最終個人発表】

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキスト内容の予習を行い、プレゼンに備えて授業での学習内容を定着させるための復習を行うこと。
テキスト	テキストとして毎回プリントを配布する.
参考文献	*McQuail,D., Communication Models*, Longman.
評価方法	毎回の授業活動への参加点 30%、中間個人発表×2 回 40%、最終個人発表 30%

13 年度以降	英語専門購読Ⅱ【4 年生対象】 （イノベーションの普及コミュニケーション）	担当者	佐々木　輝美

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 イノベーション（技術革新）が普及していく過程を客観的に理解し、分析できるようになる。 **講義概要** イノベーション（技術革新）が普及していくプロセスはコミュニケーションプロセスの一形態であると捉えることができる。本授業ではイノベーションの定義を行った後、イノベーションが普及・伝達していく上で重要な要因である、1)文化的要因、2)イノベーションの採用過程、3)イノベーションの特徴、4)イノベーションの採用者類型、5)オピニオンリーダーやチェンジエージェントの特徴と役割などについて学んでいく。そして、授業での学びを定着させるために具体的なイノベーションを取り上げ、その普及戦略について発表してもらう。	1. 導入と班分け、イノベーションとは 2. イノベーションのコミュニケーションと日本の文化的要因 3. イノベーションのコミュニケーションと欧米の文化的要因 4. イノベーションのコミュニケーションとその他の国の文化的要因 5. 【第１回個人中間発表】 6. イノベーションの採用過程 7. イノベーションの特徴としての相対的優位性と適合性 8. イノベーションの特徴としての複雑性と試行可能性と観察可能性 9. 【第２回個人中間発表】 10. イノベーションの採用者類型（革新者、初期採用者） 11. イノベーションの採用者類型（初期追随者、後期追随者、遅滞者） 12. オピニオンリーダーの特徴と役割 13. チェンジエージェントの特徴と役割 14. 最終個人発表

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキスト内容の予習を行い、プレゼンに備えて授業での学習内容を定着させるための復習を行うこと
テキスト	毎回プリントを配布予定
参考文献	Rogers, E.M. (2003) . *Diffusion of Innovations(5th Ed.)*, Free press.
評価方法	毎回の授業活動への参加点 30%、中間個人発表×2 回 40%、最終個人発表 30%

13 年度以降	英語専門講読 I （ツーリズム研究の基礎概念）	担当者	鈴木　涼太郎

講義目的、講義概要	授業計画
本授業は、観光研究における主要な概念や理論について、英語文献の読解を通じて、基礎的な理解を得ることを目的とする。春学期は主に観光の経済的・産業的側面にかかわる概念を取り上げる。 Sageの*key concepts in tourist studies*およびRoutledgeの*Tourism the key concepts*をテキストとして使用し、文献の読解とそれをもとにした履修者間のディスカッションによって、現代のツーリズムについて理解を深めたい。 進め方としては、各履修者が項目を分担して担当する。担当者はテキストの項目を抄訳するとともに、補助文献等を用いながら他の履修者に内容のプレゼンテーションを行う。それをもとに授業後半ではディスカッションを行う。テキストは、必要個所をコピーして配布する。	1.　ガイダンス 2.　発表方法について（講義） 3.　Mass Tourism 4.　Mobility 5.　Hospitality 6.　Experience Economy 7.　Economics of Tourism 8.　Transportation 9.　Tour Operations 10.　Accommodation Providers 11.　Planning Tourism 12.　Carrying Capacity 13.　Urban Tourism 14.　総合討論

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当者以外も該当箇所を読了の上授業に参加のこと。
テキスト	Smith,　M.、N. Macleod and M. Robertson (2010) *key concepts in tourist studies.* Sage. Robinson, P. ed. (2012) *Tourism the key concepts.* Routledge
参考文献	授業内で紹介する。
評価方法	授業内発表 20%　授業内小課題 40%　期末試験 40% ※ただし授業内発表を行わない場合は単位を認めない

13 年度以降	英語専門講読 II （ツーリズム研究の基礎概念）	担当者	鈴木　涼太郎

講義目的、講義概要	授業計画
本授業は、観光研究における主要な概念や理論について、英語文献の読解を通じて、基礎的な理解を得ることを目的とする。秋学期は主に観光の社会的・文化的側面にかかわる概念を取り上げる。 Sageの*key concepts in tourist studies*およびRoutledgeの*Tourism the key concepts*をテキストとして使用し、文献の読解とそれをもとにした履修者間のディスカッションによって、現代のツーリズムについて理解を深めたい。 進め方としては、各履修者が項目を分担して担当する。担当者はテキストの項目を抄訳するとともに、補助文献等を用いながら他の履修者に内容のプレゼンテーションを行う。それをもとに授業後半ではディスカッションを行う。テキストは、必要個所をコピーして配布する。	1.　ガイダンス 2.　発表方法について（講義） 3.　Tourist Gaze 4.　Self and Other 5.　Authenticity 6.　Post Tourism 7.　Sustainable Tourism 8.　Eco Tourism 9.　Heritage Tourism 10.　Film and TV Tourism/ Literary Tourism 11.　Sex / LGBT Tourism 12.　Dark Tourism 13.　Ethical Tourism 14.　総合討論

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当者以外も該当箇所を読了の上授業に参加のこと。
テキスト	Smith,　M.、N. Macleod and M. Robertson (2010) key concepts in tourist studies. Sage. Robinson, P. ed. (2012) Tourism the key concepts. Routledge
参考文献	授業内で紹介する。
評価方法	授業内発表 20%　授業内小課題 40%　期末レポート 40% ※ただし授業内発表を行わない場合は単位を認めない

13 年度以降	英語専門講読 I （Deconstructing “Japaneseness”）	担当者	須永　和博

講義目的、講義概要	授業計画
現代日本の社会や文化について、エスニシティやジェンダー、地域文化などを題材に考えてみたいと思います。 従来、日本社会についての諸研究は「日本人らしさ」や「国民性」などを所与のものとして扱うものが主流でしたが、この授業ではこうした視点を批判的に検討し、マルチカルチュラルな視点から現代日本の現状をとらえることを目指します。 テキストとして扱うのは、社会学者によって書かれた日本研究の基本的な（＝海外で日本研究を専攻する大学生向け）文献です。この授業では、同書の中から右記の５つの章を扱います。各自、図書館で必要な箇所をコピーしておいてください。 授業の進め方は、受講生数によって適宜調整しますが、基本的にはグループ作業を基本とした演習形式で行ないます。そのため、ディスカッション等に積極的に参加することが履修・単位取得の条件となります。	1. 趣旨説明・グループ分け 2. 近代日本のナショナリティ（講義） 3. グローバル・エスノスケイプとしての現代日本（講義） 4. 発表・議論（テキスト第1章前半） 5. 発表・議論（テキスト第1章後半） 6. 発表・議論（テキスト第3章前半） 7. 発表・議論（テキスト第3章後半） 8. 発表・議論（テキスト第6章前半） 9. 発表・議論（テキスト第6章後半） 10. 発表・議論（テキスト第7章前半） 11. 発表・議論（テキスト第7章後半） 12. 発表・議論（テキスト第9章前半） 13. 発表・議論（テキスト第9章後半） 14. まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	一定の社会学的素養が求められるので、日本語で書かれた社会学の基本文献等を併せて読むことが望ましい。
テキスト	Sugimoto, Yoshio 2014. An Introduction to Japanese Society (Forth Edition). Cambridge University Press.
参考文献	随時、文献リストを配布する。
評価方法	授業における発表・議論（50%）、期末レポート（50%）。 ただし、4 回以上の欠席（遅刻は 2 回で欠席 1 回に換算）で単位認定の資格を失う。

13 年度以降	英語専門講読 II （Deconstructing “Japaneseness”）	担当者	須永　和博

講義目的、講義概要	授業計画
長期間のフィールドワークにもとづいて書かれた民族誌（エスノグラフィ）の読解・議論を通じて、現代日本における多文化共生の可能性や課題について考えます。 班ごとにテーマを決め、在日コリアンやムスリム、日系ブラジル人、フィリピン人女性、先住民族アイヌなどについて書かれたテキストの内容紹介をしてもらいます。その上で、首都圏近郊のエスニック・タウンにて、プチ・フィールドワークを行ない、その成果を学期末に報告をしてもらいます。 授業の進め方は、受講者数によって適宜調整しますが、基本的にはグループ作業を基本とした演習形式で行ないます。そのため、ディスカッション等に積極的に参加することが履修・単位取得の条件となります。また、英語文献を教材として扱いますが、英文読解力の向上にとどまらず、グローバル化が加速化している今日的状況を「文化」という視点から考えるための文化人類学的・社会学的思考を養うことを目的とします。	1. 趣旨説明・グループ分け 2. 多文化共生とは何か 3. 映像資料『となりに生きる外国人』 4. 発表・議論（在日コリアンに関する文献・前半） 5. 発表・議論（在日コリアンに関する文献・後半） 6. 発表・議論（在日ムスリムに関する文献・前半） 7. 発表・議論（在日ムスリムに関する文献・後半） 8. 発表・議論（日系ブラジル人に関する文献・前半） 9. 発表・議論（日系ブラジル人に関する文献・後半） 10. 発表・議論（在日フィリピン人に関する文献・前半） 11. 発表・議論（在日フィリピン人に関する文献・後半） 12. 発表・議論（先住民族アイヌに関する文献・前半） 13. 発表・議論（先住民族アイヌに関する文献・後半） 14. まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	日本の移民や難民を取り巻く状況について、新聞記事等で情報収集をしておこくこと。
テキスト	初回の授業で、論文リストを配布するので、担当グループは各自図書館でコピーすること。
参考文献	随時、文献リストを配布する。
評価方法	授業における発表・議論（50%）、期末レポート(50%)。 ただし、4 回以上の欠席（遅刻は 2 回で欠席 1 回に換算）で単位認定の資格を失う。

13 年度以降	英語専門講読Ⅰ【4 年生対象】 （21 世紀のグローバル・イシューズ）	担当者	水本　義彦

講義目的、講義概要	授業計画
「グローバル・イシューズ」と呼ばれる今日の世界問題を論じた各国政府、国際機関（国連等）、NGO、シンクタンク、新聞等の現状分析、政策提言レポート、評論を講読する。 課題文献のテーマは、人権、民主化、テロ、内戦、平和構築、核・ミサイル拡散、貧困、開発支援、地球環境、国際保健衛生、領土問題、歴史認識、ジェンダーなど、すべて現在生起している問題を想定している。テキストはそれぞれの分野に関する専門的な文献であるため、決して容易ではない。自宅での事前学習が必須である。 授業は以下のように進める。まず受講者は課題文献の和訳レポートを自宅で事前に作成し、毎回の講義に臨むこことする。講義では、受講者が順番で和訳を発表し、全員で検討する。また、英語表現の理解にとどまらず、テーマとなっている国際問題について各自の意見を発表し、全員で議論することにしたい。	1　文献1 New York Times：地球環境（段落1-15） 2　文献1 New York Times：地球環境（段落16-30） 3　文献1 New York Times：地球環境（段落31-45） 4　文献2 NGO（OXFAM）報告書：人権（段落1-10） 5　文献2 NGO（OXFAM）報告書：人権（段落11-20） 6　文献2 NGO（OXFAM）報告書：人権（段落21-30） 7　文献3 UNHCR報告書：難民（段落1-10） 8　文献3 UNHCR報告書：難民（段落11-20） 9　文献3 UNHCR報告書：難民（段落21-30） 10　文献4 シンクタンク（CSIS）：核問題（段落1-10） 11　文献4 シンクタンク（CSIS）：核問題（段落11-20） 12　文献4 シンクタンク（CSIS）：核問題（段落21-30） 13　文献5 国連報告書:貧困（段落1-10） 14　文献5 国連報告書：貧困（段落11-20）

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	課題の事前学習（和訳レポートの作成）
テキスト	課題文献のプリントを配布する。
参考文献	付属資料を配布する。
評価方法	平常点・発表点（30%）、和訳レポート点（70%）を総合して評価を決定する。なお、欠席回数が 4 回に達すると評価対象にならないので、予め承知しておくこと。

13 年度以降	英語専門講読Ⅱ【4 年生対象】 （21 世紀のグローバル・イシューズ）	担当者	水本　義彦

講義目的、講義概要	授業計画
「グローバル・イシューズ」と呼ばれる今日の世界問題を論じた各国政府、国際機関（国連等）、NGO、シンクタンク、新聞等の現状分析、政策提言レポート、評論を講読する。 課題文献のテーマは、人権、民主化、テロ、内戦、平和構築、核・ミサイル拡散、貧困、開発支援、地球環境、国際保健衛生、領土問題、歴史認識、ジェンダーなど、すべて現在生起している問題を想定している。テキストはそれぞれの分野に関する専門的な文献であるため、決して容易ではない。自宅での事前学習が必須である。 授業は以下のように進める。まず受講者は課題文献の和訳レポートを自宅で事前に作成し、毎回の講義に臨むこことする。講義では、受講者が順番で和訳を発表し、全員で検討する。また、英語表現の理解にとどまらず、テーマとなっている国際問題について各自の意見を発表し、全員で議論することにしたい。	1　文献1 Washington Post：民主化（段落1-15） 2　文献1 Washington Post：民主化（段落16-30） 3　文献1 Washington Post：民主化（段落31-45） 4　文献2 NGO（Human Rights Watch）人権（段落1-10） 5　文献2 NGO（Human Rights Watch）人権（段落11-20） 6　文献2 NGO（Human Rights Watch）人権（段落21-30） 7　文献3 トランプ大統領演説―（段落1-10） 8　文献3 トランプ大統領演説―（段落11-20） 9　文献3 トランプ大統領演説―（段落21-30） 10　文献4 シンクタンク（Brookings）平和構築（段落1-10） 11　文献4 シンクタンク（Brookings）平和構築（段落11-20） 12　文献4 シンクタンク（Brookings）平和構築（段落21-30） 13　文献5 Foreign Affairs：歴史問題（段落1-10） 14　文献5 Foreign Affairs：歴史問題（段落11-20）

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	課題の事前学習（和訳レポートの作成）
テキスト	課題文献のプリントを配布する。
参考文献	付属資料を配布する。
評価方法	平常点・発表点（30%）、和訳レポート点（70%）を総合して評価を決定する。なお、欠席回数が 4 回に達すると評価対象にならないので、予め承知しておくこと。

13 年度以降	英語専門講読 I （世界の移民・難民について考える）	担当者	高橋　雄一郎

講義目的、講義概要	授業計画
昨年、UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）は世界の難民の数が6800万人を超えたと発表しました。難民は遠い国々の出来事のように考える傾向も日本にはありますが、全ての人々の安全と権利を守るため、私たちみんなが取り組むべきイシューです。 ＊ディスカッション形式なので授業への積極的参加が必要です。 春学期は、2016年に連合王国（UK=イギリスのこと）で出版された子ども向けのテクストを中心に、難民だけでなく、故郷を離れて移動する人たちについて学んでいきます。 授業はディスカッション形式なので、積極的な参加が必須です。獨協大学図書館に所蔵されている映画を鑑賞、内容について発表してもらい、クラスで議論するコーナーも設けます。また、学外のシンポジウムやワークショップへの参加も推奨されます。 評価では、レポートのほかに、毎週の授業について、何を調べ、何を考えたかを記録したポートフォリオの提出が大切になります。作成方法については授業中に説明します。	1. イントロダクション 2. Who are refugees and migrants? 3. Michael Rosen 4. Annemarie Young 5. What makes people leave their homes? 6. Muzoon Almellehan 7. How refugees and migrants travel? 8. Omid Djalili 9. Migrants through history 10. What rights do refugees and migrants have? 11. Meltem Avcil 12. Does it matter how we use words? 13. What is culture and how do we share it? 14. まとめのディスカッション

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テクストを必ず精読して予習し、背景となる歴史や社会状況についても調べ、問題点や質問事項を整理して授業に臨むこと。授業後は自分の意見をクラスのフェイスブック・グループに投稿し、ポートフォリオ作成の準備をする。
テキスト	*Who Are Refugees and Migrants? What Makes People Leave Their Homes? and Other Big Questions*　ほか
参考文献	プリント、図書館の指定書など
評価方法	予習復習の成果を含めたポートフォリオを最終授業で提出（40%）、授業での積極的な発言と毎週のクラス・フェイスブックへの投稿（30%）、最終レポート（30%）

13 年度以降	英語専門購読 II （世界の移民・難民について考える）	担当者	高橋　雄一郎

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期は、元連合王国（イギリス）外相で、難民支援の国際NGOを率いるDavid Milibandの著作を読み、移民・難民について考えます。授業では彼のTED Talk （2017年6月）の映像、スクリプトと組み合わせて議論していきます。 また、海外の新聞記事やドキュメンタリー番組など、テクスト以外の英語教材も多数取り上げます。移民や難民に関心があり、かつ、難しい英語にも挑戦して勉強しようという、意欲の高い学生が対象の授業です。	1. イントロダクション 2. The Crisis pp.1-10 3. pp.11-23 4. Why We Should Care pp.43-55 5. pp.56-66 6. The Renewal of Rescue pp.67-75 7. pp.76-90 8. Refugees Welcome pp.91-96 9. pp.97-105 10. pp.106-108 11. Conclusion pp.109-115 12. pp.116-125 13. Ted Talks 14. まとめのディスカッション

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テクストを必ず精読して予習し、背景となる歴史や社会状況についても調べ、問題点や質問事項を整理して授業に臨むこと。授業後は自分の意見をクラスのフェイスブック・グループに投稿し、ポートフォリオ作成の準備をする。
テキスト	David Miliband, R*escue: Refugees and the Political Crisis of Our Time* (TED Books, 2017)
参考文献	プリント、図書館の指定書など
評価方法	予習復習の成果を含めたポートフォリオを最終授業で提出（40%）、授業での積極的な発言と毎週のクラス・フェイスブックへの投稿（30%）、最終レポート（30%）

13 年度以降	英語専門講読Ⅰ【4 年生対象】 (Research interviewing: Intercultural learning 'at home')	担当者	工藤　和宏

講義目的、講義概要	授業計画
【本講義は英語で行います。】 This course is designed to help students with advanced English language proficiency to develop both a concrete and conceptual understanding of research interviewing. Drawing on the literature of qualitative research methodology and international higher education, this course provides students with the opportunity to *conduct a small research project* on intercultural interactions between domestic and international students at Dokkyo University. Topics to be covered in the spring semester include: internationalisation of the student experience 'at home'; paradigms of qualitative and quantitative research; the place of the literature in qualitative research; pros and cons of interviewing; writing a research proposal; and ethics in human research. This course is highly recommended to students who want to learn the basics of qualitative/interview research, to internationalise their daily student life, and most importantly, to discover their unknown self through learning from/with 'the other'.	1. Introduction to course: 'Why can't we become friends?' 2. Internationalisation of the student experience 'at home' 3. Qualitative and quantitative research 4. 'Us' and 'them' separatism in the classroom 5. The use of the literature in qualitative research 6. Friendship networks of university students 7. Research interviewing: Pros and cons 8. Intercultural relationships 1: Critical incidents 9. Writing a research proposal 10. Intercultural relationships 2: A longitudinal approach 11. Ethics in human research 12. Group presentation 13. Tips for writing up 14. Wrap-up 【受講生は毎週の課題として、5,000 語程度の英文資料を読み、200 語程度の英文を執筆することが求められます。教室では、この課題を基に学習活動が展開されます。グループワークが活動の核になりますので、単位修得のためには、全ての授業に無遅刻無欠席であることが求められます。】

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are required to read all the course materials including 10 or more journal articles, to write weekly essays, and to work closely with other students to complete tasks, including group research.
テキスト	Electronic copies, prints and handouts (to be provided by the instructor)
参考文献	To be introduced by the instructor
評価方法	Contribution to the class 10%, weekly essays 30%, group research presentation 30% and final paper 30%

13 年度以降	英語専門講読Ⅱ【4 年生対象】 (Research interviewing: Intercultural learning 'at home')	担当者	工藤　和宏

講義目的、講義概要	授業計画
【本講義は英語で行います。】 This course is designed to help students with advanced English language proficiency to develop both a concrete and conceptual understanding of research interviewing. Drawing on the literature of qualitative research methodology and international higher education, this course provides students with the opportunity to *conduct a small research project* on intercultural interactions between domestic and international students at Dokkyo University. Topics to be covered in the fall semester include: keeping a research diary; interview variations; conducting an interview; transcribing an interview; data analysis; and writing up. This course is highly recommended to students who want to learn the basics of qualitative/interview research, to internationalise their daily student life, and most importantly, to discover their unknown self through learning from/with 'the other'.	1. Introduction to course 2. Keeping a research diary 3. Interview variations 4. Conducting an interview 5. Transcribing an interview 6. Using the literature 1: Review paper 7. Using the literature 2: Empirical paper 8. Data analysis 9. Using the literature 3: Position/policy paper 10. Writing up 11. Tutorial 12. Group presentation 13. Tips for writing up 14. Wrap-up 【受講生は毎週の課題として、5,000 語程度の英文資料を読み、200 語程度の英文を執筆することが求められます。グループワークが活動の核になりますので、単位修得のためには、全ての授業に無遅刻無欠席であることが求められます。】

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are required to read all the course materials including 10 or more journal articles, to write weekly essays, and to work closely with other students to complete tasks, including group research.
テキスト	Electronic copies, prints and handouts (to be provided by the instructor)
参考文献	To be introduced by the instructor
評価方法	Contribution to the class 10%, weekly essays 30%, group research presentation 30% and final paper 30%

13 年度以降	英語専門講読 I 【4 年生対象】 （Children's Literature を研究する）	担当者	片山　亜紀

講義目的、講義概要	授業計画
Children's Literatureとは、日本語に訳せば「児童文学」ですが、10代向けのYA小説や、ルイス・キャロルの『不思議の国のアリス』や、サリンジャーの『ライ麦畑でつかまえて』なども含むもので、欧米では、古くは『イソップ物語』あたりから始まり、17世紀の印刷技術の発展などを背景に本格化してきたジャンルと考えられています。 このジャンルの歴史、読み方、今日的変容、問題点などを大づかみに捉えた入門書を、この講義では読みます。一回の授業で4〜5ページほど。輪読形式で、毎回発表者2人か3人にそれぞれレジュメを作って発表をしてもらいます。発表者以外の人にも毎回課題が出されます。 アカデミックな本を丸ごと読むのも初めて、という受講者も念頭に置いています。ある程度馴染みのあるテーマについて、理屈っぽく英語を使って考えるトレーニングをしましょう。	1. ガイダンス（やり方を説明し、発表担当を決めます） 2. 子ども向けの本の出版史：概論 3. 子ども向けの本の出版史：古代から18世紀まで 4. 子ども向けの本の出版史：18世紀から19世紀 5. 子ども向けの本の出版史：20世紀 6. 子ども向けの本の出版史：21世紀 7. 子ども向けの本の出版史：21世紀 8. 研究アプローチ：大人の作者と子どもの読者 9. 研究アプローチ：初期の方法 10. 研究アプローチ：心理学アプローチ 11. 研究アプローチ：言語学的アプローチ 12. 研究アプローチ：ポストコロニアル・アプローチ 13. 研究アプローチ：子どもを中心とするアプローチ 14. まとめ ＊ タイトルは変更することがあります。

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前：全員がプリントを手がかりにテキストを読んでくる。発表者はレジュメを作る。 事後：レジュメを見直しておく。
テキスト	Kimberley Reynolds, *Children's Literature: A Very Short Introduction* (OUP, 2011)
参考文献	桂宥子ほか『はじめて学ぶ英米児童文学史』（ミネルヴァ書房、2004）など
評価方法	発表 30%,毎回の提出課題 30%,学期末試験 40% （ただし 5 回以上欠席は成績評価対象にしません。遅刻は 1/2 欠席扱いにします。）

13 年度以降	英語専門講読 II 【4 年生対象】 （児童文学を研究する）	担当者	片山　亜紀

講義目的、講義概要	授業計画
目的や概要は上の「I」に書いたとおりなので、ここではレジュメと発表の手順について書きます。 レジュメには、テキストの担当範囲（2ページくらい）について、(1) 議論の流れがわかるように日本語でアウトラインを作ってもらいます（具体的なサンプルは「I」の初回で示しますが、A4で2枚程度です）。(2) テキスト以外のsourceから調べて紹介してもらいます。(3) みんなで議論したいポイントを一つ探して、疑問点を作ってもらいます。これを各人一人ずつやってもらいます。 レジュメは作成したら前日までに担当者（片山）と打ち合わせをしてほしいので、私にアポイントを取ってください。片山はレジュメを読み、英文理解の漏れや誤りなど、気づいたことを指摘しますので、修正の上、人数分印刷して授業に臨んでください。発表時間は一人当たり20〜30分くらいです。	1. ガイダンス（やり方を説明し、担当を決めます） 2. メディアの変化：子どもとシェイクスピア 3. メディアの変化：ファンタジーの変容 4. メディアの変化：トランスリテラシー 5. メディアの変化：相互作用 6. 家族の物語：「ジャンル」フィクション 7. 家族の物語：ジャンルの変容 8. 家族の物語：家族のフリクション（摩擦） 9. 家族の物語：家族と友人たち 10. 未来をどう書くか：さまざまな死生観 11. 未来をどう書くか：さまざまな未来観 12. 倫理的な問題：プロパガンダ？ 13. 倫理的な問題：権力の作用 14. まとめ ＊タイトルは変更することがあります。

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前：全員がプリントを手がかりにテキストを読んでくる。発表者はレジュメを作る。 事後：レジュメを見直しておく。
テキスト	上と同じ。難易度が心配な人は、amazon の「なか身!検索」の機能などを使って検討してください。
参考文献	桂宥子ほか『はじめて学ぶ英米児童文学史』（ミネルヴァ書房、2004）など
評価方法	発表 30%,毎回の提出課題 30%,学期末試験 40% （ただし 5 回以上欠席は成績評価対象にしません。遅刻は 1/2 欠席扱いにします。）

13 年度以降	英語専門講読Ⅰ【4 年生対象】 （インコタームズ®の貿易条件を学ぶ）	担当者	杉山　晴信

講義目的、講義概要	授業計画
インコタームズ®（Incoterms®）とは、国際商業会議所が制定した「貿易条件の解釈に関する統一規則」であり、1936年の初版以来、数次の改訂を経ながら長年にわたり貿易取引の迅速化・効率化に貢献してきました。現在、現行最新版のIncoterms®2010と旧版のIncoterms®2000がもっぱら実務に使用されています。この授業では、米国で出版された下記のテキストを使用して、インコタームズ®が規定する各々の貿易条件（trade terms）を徹底的に学習することにより、実践的な貿易条件の知識とスキルを身につけることを目的とします。春学期は、Incoterms®2000が規定する4類型・13条件について、売主と買主の手続き義務、費用負担の分岐点（採算条件）、危険負担の分岐点（引渡し条件）、適用可能な運送手段などの観点から詳細かつ正確に学習し、主要な貿易条件を用いた輸出価格および輸入価格の積算訓練も行います。	1. 春学期の授業内容と授業計画の説明 2. Incoterms®2000が規定する4類型・13条件の概略 3. E類型（出荷地条件）の概略とEXWの詳細 4. F類型（主要運賃買主負担条件）の概略 5. F類型の各貿易条件（FAS、FOB、FCA）の詳細 6. C類型（主要運賃売主負担条件）の概略 7. C類型の貿易条件のうち、CFRとCIFの詳細 8. C類型の貿易条件のうち、CPTとCIPの詳細 9. D類型（到着地条件）の概略 10. D類型の貿易条件のうち、DAF、DES、DEQの詳細 11. D類型の貿易条件のうち、DDUとDDPの詳細 12. Incoterms®2000と改正米国貿易定義（1941）の比較 13. 主要貿易条件を用いた輸出入価格の積算 14. 春学期の総復習と質疑応答

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	配布されたテキスト、資料等は事前に必ず精読して置いて下さい。また、税関、JETRO、経済産業省等のサイトに頻繁にアクセスし、貿易関連の最新情報（特に法令改正や通達）を入手するよう努めて下さい。
テキスト	**Catherine J. Petersen** (2011); *Incoterms® 2000 and Incoterms® 2010:* , **Global Training Center**
参考文献	杉山晴信『貿易実務の英語　ビジネス英文メール　パーフェクトブック』（すばる舎、2009 年）
評価方法	期末試験の結果（概ね 80%の比重）および平常授業における小テストや課題レポートの実績（概ね 20%の比重）を合計して評価します。

13 年度以降	英語専門講読Ⅱ【4 年生対象】 （インコタームズ®の貿易条件を学ぶ）	担当者	杉山　晴信

講義目的、講義概要	授業計画
（上欄から続く） 秋学期は、Incoterms®2010が規定する2分類・11規則について、Incoterms®2000からの変更点を確認した後、各々の規則（貿易条件）を詳細かつ正確に学習します。各規則の学習が一通り終わった後には、売主と買主の立場から各々の貿易条件の長所と短所を検討し、いわゆるロジスティクス（logistic）の観点から、自社に有利な貿易条件を選択する戦略を考えます。また、実務の世界で貿易条件が誤用されている事例を紹介し、その問題点を検討します。 この授業は、特に貿易、国際物流、ロジスティクス等に興味があり、これらの業界への就職や就活を考えている学生諸君に対して、非常に有益で興味深い情報を提供できるものと確信しています。その反面、かなり専門的で高度な内容を扱いますので、学習のモチベーションが相当高くないと履修を継続するのが難しいかもしれません。	1. 秋学期の授業内容と授業計画の説明 2. Incoterms®2000からIncoterms®2010への主な変更点 3. Incoterms®2010が規定する2分類・11規則の概略 4. “Rules for Any Mode(s) of Transport”の概略 5. Rules for Any Mode(s)のうち、EXWとFCAの詳細 6. Rules for Any Mode(s)のうち、CPTとCIPの詳細 7. Rules for Any Mode(s)のうち、DAPとDATの詳細 8. Rules for Any Mode(s)のうち、DDPの詳細 9. 在来船専用の規則（貿易条件）の概略 10. 在来船専用の規則のうち、FASとFOBの詳細 11. 在来船専用の規則のうち、CFRとCIFの詳細 12. 各規則（貿易条件）の長所と短所の検討 13. ロジスティクス戦略と貿易条件の誤用事例の検討 14. 秋学期の総復習と質疑応答

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	配布されたテキスト、資料等は事前に必ず精読して置いて下さい。また、税関、JETRO、経済産業省等のサイトに頻繁にアクセスし、貿易関連の最新情報（特に法令改正や通達）を入手するよう努めて下さい。
テキスト	**Catherine J. Petersen** (2011); *Incoterms® 2000 and Incoterms® 2010:* , **Global Training Center**
参考文献	杉山晴信『貿易実務の英語　ビジネス英文メール　パーフェクトブック』（すばる舎、2009 年）
評価方法	期末試験の結果（概ね 80%の比重）および平常授業における小テストや課題レポートの実績（概ね 20%の比重）を合計して評価します。

13 年度以降	英語専門講読Ⅰ【4 年生対象】 （現代イギリス小説）	担当者	東郷　公徳

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、英国の作家ジョージ・オーエルの小説 Nineteen Eighty-four（1948年作品）を読む。 ここで描かれているのは、ビッグ・ブラザーと呼ばれる独裁者が君臨する極度に非人間的な全体主義的管理社会である。世界は3つの超大国によって分割され、いつ終わるとも知れない戦争が続いている。人々の私生活は細部まで当局に監視され、思想は管理され、愛情を持つことすら禁止されている。歴史は権力者の都合に合わせて常に改ざんされ続ける。当局に背いた者は拷問により洗脳された後に、公衆の面前で自らの罪を告白したうえで処刑される。 人間の肉体的精神的自由を否定し過去も未来も自在にコントロールしようとする権力の出現に対してオーエルが鳴らした警鐘は決して今でも色あせていない。受講生と共に、「人間らしく」あるとはどういうことかを考えたい。 **受講を希望する学生は初回の授業に必ず出席すること。**	第1回　イントロダクション 第2回　講読　pp.3-5 第3回　講読　pp.5-8 第4回　講読　pp.8-11 第5回　講読　pp.11-15 第6回　講読　pp.15-18 第7回　講読　pp.18-22 第8回　講読　pp.22-25 第9回　講読　pp.25-30 第10回　講読　pp.30-34 第11回　講読　pp.34-38 第12回　講読　pp.38-42 第13回　講読　pp.249-253 第14回　講読　pp.253-256

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に分からない単語は辞書を引いておくこと。事後は音読をして内容理解を深めること。
テキスト	George Orwell, *Nineteen Eighty-Four*. Penguin.
参考文献	特になし
評価方法	授業参加　40%　期末課題　60%　欠席が 5 回を越えると原則として単位は付与しない。

13 年度以降	英語専門講読Ⅱ【4 年生対象】 （現代イギリス小説）	担当者	東郷　公徳

講義目的、講義概要	授業計画
春学期の続き	春学期の続き。初回から通常の授業を行う。 第1回　講読　pp.259-263 第2回　講読　pp.263-266 第3回　講読　pp.266-270 第4回　講読　pp.270-274 第5回　講読　pp.275-279 第6回　講読　pp.279-283 第7回　講読　pp.283-287 第8回　講読　pp.287-290 第9回　講読　pp.290-295 第10回　講読　pp.295-298 第11回　講読　pp.299-303 第12回　講読　pp.303-306 第13回　講読　pp.331-335 第14回　講読　pp.335-338

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に分からない単語は辞書を引いておくこと。事後は音読をして内容理解を深めること。
テキスト	George Orwell, *Nineteen Eighty-Four*. Penguin.
参考文献	特になし
評価方法	授業参加　40%　期末課題　60%　欠席が 5 回を越えると原則として単位は付与しない。

13 年度以降	英語専門講読 I 【4 年生対象】 (Schooling Around the World)	担当者	M．L．ボイル

講義目的、講義概要	授業計画
As Japan relaxes its immigration laws, Japanese schools are seeing a rise in the number of foreign students enrolled in classes. Developing an understanding of the range of educational backgrounds of students from other countries can help teachers be more sympathetic to non-native students' needs. In this course we will consider the difference between education and schooling, and examine teaching practices and educational philosophies from around the world. Knowing how children learn, the range of curricula and the variations in teaching styles can help develop a broader understanding of other cultures.	1. Introduction to course – Comparative Studies in Education 2. Schooling and Education. What's the difference? 3. Japanese schools – a view from the outside. 4. The changing demographics of Japanese schools. 5. Education in China 6. Education in South Korea 7. Discussion– comparing south-east Asian school systems 8. Education in Brazil 9. Education in the Philippines 10. Discussion –cultural expectations and the 'good' pupil 11. Education in Russia 12. Education in Finland 13. Presentations 14. Summary session

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	Read assigned texts before lesson; complete homework assignments and hand-in work promptly.
テキスト	No textbook is required for this class. Reading materials will be provided by the instructor. Bring paper and pen.
参考文献	—
評価方法	Class involvement, 20%; homework 20%; mid-term paper, 20%; final paper and presentation 40%.

13 年度以降	英語専門講読 II 【4 年生対象】 (Schooling Around the World)	担当者	M．L．ボイル

講義目的、講義概要	授業計画
The fall term of this course will continue to examine teaching practices and educational philosophies around the world. In particular, we will consider how Japanese schools are responding to the needs of non-native Japanese speakers, and what can we learn from other countries who are dealing with similar issues. This course is aimed at any student interested in global issues, and for those students in particular who are considering a career in teaching. Developing an awareness of school experiences around the world, will help them to reflect more fully on the educational needs of both the ethnic minority students and Japanese pupils they will teach.	1. The Language Learner 2. Bordieu, Linguistic Capital and the non-native speaker 3. Education in Canada – a bilingual approach 4. Education in the USA – a bilingual approach 5. Discussion – whose language is best? 6. Education in France – education of ethnic minorities 7. Education in UK – education of ethnic minorities 8. Discussion – multiculturalism or assimilation? 9. Non-native Japanese student experiences 10. What ethnic minority pupils add to the school 11. Discussion – creating an inclusive system 12. Lessons for Japanese schools 13. Presentations 14. Summary lesson

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	Read assigned texts before lesson; complete homework assignments and hand-in work promptly.
テキスト	No textbook is required for this class. Reading materials will be provided by the instructor. Bring paper and pen.
参考文献	—
評価方法	Class involvement, 20%; homework 20%; mid-term paper, 20%; final paper and presentation 40%.

13 年度以降	英語専門講読 I 【4 年生対象】 (Conflict and Development)	担当者	石川　幸子

講義目的、講義概要	授業計画
本授業では、「Conflict and Development」をテーマとした専門書を読み進めながら、様々な角度から紛争と開発、特に冷戦終焉後の国内紛争と国際社会の関与に関わる課題を学ぶと共に、討論を通じて課題への理解を深めることを目的とします。 1. 授業は、英語または日本語のプレゼンテ―ションと討論形式で進めます。 2. 学年混合の主体的なグループ作業によってプレゼンの準備・発表を行います。 授業は、グループ分け・プレゼン内容（章）の決定後、グループ準備作業⇒授業でのプレゼン⇒ディスカッションのサイクルで行います。授業の教材、及び進め方の詳細は、最初の授業で説明します。 紛争と開発、平和構築について関心と意欲のある学生の受講を歓迎します。	1. Orientation 2. Introduction chapter 3. The evolution of development theory 4. The evolution of conflict theory 5. Poverty, profit and the political economy of conflict 1 6. Poverty, profit and the political economy of conflict 2 7. Poverty, profit and the political economy of conflict 3 8. Institutions: hardware and software 1 9. Institutions: hardware and software 2 10. Institutions: hardware and software 3 11. People: participation, civil society and gender 1 12. People: participation, civil society and gender 2 13. People: participation, civil society and gender 3 14. Review of the studied chapters

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	受講生は各自、事前に課題の章を読んで授業に臨み、積極的にディスカッションに参加してください。発表担当グループは、プレゼン準備としてパワポを作成します。
テキスト	MacGinty and Williams (2016) *Conflict and Development*. Oxon. Routledge. 詳細は授業で説明します
参考文献	適宜、授業内で紹介します。
評価方法	プレゼンテーションの準備と発表 40%　&　授業中討論への参加度 60%

13 年度以降	英語専門講読 II 【4 年生対象】 (Conflict and Development)	担当者	石川　幸子

講義目的、講義概要	授業計画
本授業では、「Conflict and Development」をテーマとした専門書を読み進めながら、様々な角度から紛争と開発、特に冷戦終焉後の国内紛争と国際社会の関与に関わる課題を学ぶと共に、討論を通じて課題への理解を深めることを目的とします。 1. 授業は、英語または日本語のプレゼンテ―ションと討論形式で進めます。 2. 学年混合の主体的なグループ作業によってプレゼンの準備・発表を行います。 授業は、グループ分け・プレゼン内容（章）の決定後、グループ準備作業⇒授業でのプレゼン⇒ディスカッションのサイクルで行います。授業の教材、及び進め方の詳細は、最初の授業で説明します。 紛争と開発、平和構築について関心と意欲のある学生の受講を歓迎します。	1. Orientation 2. Review of the spring semester 3. Conflict transformation and development 1 4. Conflict transformation and development 2 5. Conflict transformation and development 3 6. Post-conflict reconstruction and democratization 1 7. Post-conflict reconstruction and democratization 2 8. Post-conflict reconstruction and democratization 3 9. Development, aid and violent conflict 1 10. Development, aid and violent conflict 2 11. Development, aid and violent conflict 3 12. Conclusion 13. Review of the studied chapters 1 14. Review of the studied chapters 2

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	受講生は各自、事前に課題の章を読んで授業に臨み、積極的にディスカッションに参加してください。発表担当グループは、プレゼン準備としてパワポを作成します。
テキスト	MacGinty and Williams (2016) *Conflict and Development*. Oxon. Routledge. 詳細は授業で説明します
参考文献	適宜、授業内で紹介します。
評価方法	プレゼンテーションの準備と発表 40%　&　授業中討論への参加度 60%

13 年度以降	英語専門講読Ⅰ【4 年生対象】 （ディズニー映画の文化研究①）	担当者	板場　良久

講義目的、講義概要	授業計画
現代ポピュラー文化の土台の１つとなった20世紀のディズニー映画を文化研究の立場から複眼的に分析したエッセイを読んでいきます。通常の授業は、課題箇所の内容理解を目標に、学生によるファシリテーションと教員を交えたインタラクションで進行していきます。	1. Overview; Breaking the Disney Spell 2. “The Wonderful World of Disney”: Comprehension 3. “The Wonderful World of Disney”: Application 4. Pinocchio: Comprehension 5. Pinocchio: Application 6. Disney Does Dutch: Comprehension 7. Disney Does Dutch: Application 8. The Movie You See, The Movie Don't: Comprehension 9. The Movie You See, The Movie Don't: Application 10. Somatexts at the Disney Shop: Comprehension 11. Somatexts at the Disney Shop: Application 12. “The Whole Wide World …”: Comprehension 13. “The Whole Wide World …”: Application 14. Presentations on Bambi (take-home exam due)

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定箇所を精読してから授業に参加してください。また、グループ単位の事前準備には担当箇所を読んでから参加してください。
テキスト	初回の授業で説明します。
参考文献	必要に応じて授業で紹介します。
評価方法	授業中のインタラクション（グループワーク・発言等）：30%、最終発表：30%、take-home exam：40%

13 年度以降	英語専門講読Ⅱ【4 年生対象】 （ディズニー映画の文化研究②）	担当者	板場　良久

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に引き続き、20世紀のディズニー映画を文化研究の立場から複眼的に分析したエッセイを読んでいきます。通常の授業は、課題箇所の内容理解を目標に、学生によるファシリテーションと教員を交えたインタラクションで進行していきます。	1. Overview; warm-up exercise 2. Beyond Captain Nemo: Comprehension 3. Beyond Captain Nemo: Application 4. The Curse of Masculinity: Comprehension 5. The Curse of Masculinity: Application 6. “Where Do The Mermaids Stand?”: Comprehension 7. “Where Do The Mermaids Stand?”: Application 8. “Eighty-Six the Mother”: Comprehension 9. “Eighty-Six the Mother”: Application 10. Spinsters in Sensible Shoes: Comprehension 11. Spinsters in Sensible Shoes: Application 12. Pretty Woman: Comprehension 13. Pretty Woman: Application 14. Presentations on Mickey (take-home exam due)

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定箇所を精読してから授業に参加してください。また、グループ単位の事前準備には担当箇所を読んでから参加してください。
テキスト	春学期の初回の授業で説明します。
参考文献	必要に応じて授業で紹介します。
評価方法	授業中のインタラクション（グループワーク・発言等）：30%、最終発表：30%、take-home exam：40%

13 年度以降	英語専門講読Ⅰ【4 年生対象】 （シェイクスピア）	担当者	東郷　公徳

講義目的、講義概要	授業計画
この講義ではシェイクスピアの戯曲を日本語の詳しい注釈が付いたテキストを使って精読します。現代英語生成に大きな影響を与えたシェイクスピアの英語とはどんなものだったのかを学ぶと同時に、シェイクスピア作品の時代背景を学び、その魅力に迫ります。今年度は喜劇の代表作である『十二夜』を読みます。ほとんどの学生が初めて原文でシェイクスピアを読むことを念頭に、基礎的な事項を丁寧に確認しながら授業を進めます。基本的にひとりがひとつの文章（ピリオドまで）を英語で読んで日本語に訳す、という作業を繰り返しながら、必要に応じてテキストの解説も読んだり、講師が解説を加えたりして読み進めます。期末には試験を行います。 ★受講を希望する学生は必ず初回の授業に出席すること。	第1回　イントロダクション 第2回　1幕1場 第3回　1幕2場 第4回　1幕3場61行目まで 第5回　1幕3場62行目から最後まで 第6回　1幕4場 第7回　1幕5場68行目まで 第8回　1幕5場69行目から133行目まで 第9回　1幕5場134行目から230行目まで 第10回　1幕5場231行目から最後まで 第11回　2幕1場 第12回　2幕2場 第13回　2幕3場70行目まで 第14回　まとめと期末試験

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前にテキストを予習し、分からないところを明確にしておくこと。事後は音読をくり返してシェイクスピア英語に親しむこと。
テキスト	安西徹雄編注　『十二夜』　大修館　1987 年
参考文献	教室で紹介する
評価方法	授業参加　40%、期末試験　60%

13 年度以降	英語専門講読Ⅱ【4 年生対象】 （シェイクスピア）	担当者	東郷　公徳

講義目的、講義概要	授業計画
春学期の続き	第1回　2幕3場71行目から121行目まで 第2回　2幕3場122行目から最後まで 第3回　2幕4場78行目まで 第4回　2幕4場79行目から最後まで 第5回　2幕5場60行目まで 第6回　2幕5場61行目から130行目まで 第7回　2幕5場131行目から最後まで 第8回　3幕1場67行目まで 第9回　3幕1場68行目から最後まで 第10回　5幕1場92行目まで 第11回　5幕1場93行目から184行目まで 第12回　5幕1場185行目から275行目まで 第13回　5幕1場276行目から最後まで 第14回　まとめと期末試験

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前にテキストを予習し、分からないところを明確にしておくこと。事後は音読をくり返してシェイクスピア英語に親しむこと。
テキスト	安西徹雄編注　『十二夜』　大修館　1987 年
参考文献	教室で紹介する
評価方法	授業参加　40%、期末試験　60%

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	英語の世界Ⅱ	担当者	大澤　舞

講義目的、講義概要	授業計画
目的： （1）　英語の文法に関する知識を身につける。 （2）　英語の言語的特徴に関する理解を深める。 （3）　言語を文法的観点から分析できるようになる。 概要： 「英語の世界 I」で学習した英語学の諸領域における具体的な事例を，特に日本語と比較しながら分析し，「日本語と英語」や「学習者の英語と母語話者の英語」などにおける共通点と相違点を探ります。言語を意識的に分析してみることによって，実際の英文読解や作文などでも言語を分析的に捉える能力が役に立ち，同時に英語を教える立場になってもそれが有効的であることを体験的に学んでいきます。	1.　世界の英語（1）：国際語としての英語 2.　世界の英語（2）：英語のバリエーション 3.　英語の歴史と世界の英語 4.　日英語の母音：Yukiと「ゆき／ゆうき」 5.　音の規則性：cups/cubsと貯金箱 6.　複合語の判別基準：darkroomと暗室 7.　ことばの構造：自分とoneselfの規則 8.　言語と認識：国境の長いトンネルを／The train came out of... 9.　動詞枠付け言語と衛星枠付け言語 10.　情報のなわ張り：“I'm coming.”と「いま，行きます。」 11.　新情報・旧情報 12.　会話の含意 13.　英語学と英語教育 14.　まとめ

到達目標	英語学に関して基礎知識を習得し、言語データを分析・論証できるようにする。
事前・事後学修の内容	予習：テキストを読み，理解できなかったところや疑問点をまとめておく。／復習：授業内容を整理し，改めて疑問点がないか確認する。
テキスト	授業で配付するハンドアウト
参考文献	『＜不思議＞に満ちたことばの世界（上・下)』高見健一ほか（編）
評価方法	定期試験（60%）と課題・小テスト（40%）

13 年度以降	観光英語Ⅰ	担当者	落合　康男

講義目的、講義概要	授業計画
国際化の時代、海外に旅行したり滞在している日本人や海外から来日する外国人の数が急激に増えています。この講義は、将来、観光業・旅行業・エアライン業・ホテルレストラン業などの各種業界で自分の語学力、特に英語を活かして活躍を考えている人を対象としています。このような業界では、英語の一般的能力ばかりでなく、その業界の専門用語や独特の言い回しを身につけなければなりません。そこで、この講義では、主として観光や旅行の仕事で役立つ観光英語を習得することを目的とし、「観光英語検定試験」2級合格程度の実力を目指します。 観光英語Ⅰでは、海外の世界遺産や観光地の話題を取り上げて、観光と旅行の分野に関する用語や表現を学びながら、文化の違いなども研究することを目標とします。また、観光に関する最新のニュースがある場合は、授業の中に随時取り入れていきます。	1. オリエンテーション 2. 世界遺産から日本の国立／国定公園までの説明 3. 世界遺産の始まり 4. 欧州の世界遺産や観光地の問題（1） 5. 欧州の世界遺産や観光地の問題（2） 6. 欧州の世界遺産や観光地の問題（3） 7. 通常授業＋小テスト（30分） 8. 北米・南米の世界遺産や観光地の問題（1） 9. 北米・南米の世界遺産や観光地の問題（2） 10. アジア・豪州の世界遺産や観光地の問題（1） 11. アジア・豪州の世界遺産や観光地の問題（2） 12. 観光英語検定試験2級の問題研究（1） 13. 観光英語検定試験2級の問題研究（2） 14. 春学期の講義のまとめ

到達目標	ツーリズム業界の専門用語や独特の言い回しなど、海外旅行、および観光・旅行業務に必要な中級レベルの英語を習得し、観光英語として運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回、授業の最後に次回用の資料を配布しますので、精読して質問・発表の準備をしておくこと。また、授業後は必ず復習をして、その日の授業内容の整理・確認をすること。
テキスト	テキスト：なし、プリントを使用
参考文献	観光英検に関する語彙集や問題集（研究社、三修社など）
評価方法	定期試験（50%）、課題・小テスト（40%）、授業貢献度（10%）

13 年度以降	観光英語Ⅱ	担当者	落合　康男

講義目的、講義概要	授業計画
2019年のラグビーワールドカップ、2020年の東京オリンピックの開催、日本への外国人訪問客数3000万人突破という話題は、少子化による日本経済の先細りが心配されている中、観光業への波及効果の期待はとても大きなものになっています。来日する外国人旅行者は、もちろんいろいろな言葉を使いますが、英語のグローバル性を考慮すれば、英語がその中心的役割を果たすことは間違いありません。そこで、この講義では、主として観光や旅行の仕事で役立つ観光英語を習得することを目的とし、「観光英語検定試験」1級合格程度の実力を目指します。 観光英語Ⅱでは、国内の自然景観、文化遺産、伝統工芸、行事、祭りなどに加えて、日本の文化・観光に貢献してくれた外国人を取り上げます。また、観光に関する最新のニュースがある場合は、授業の中に随時取り入れていきます。	1. オリエンテーション 2. 現代の観光業の始まり 3. 国内の観光・文化・歴史に関する問題（1） 4. 国内の観光・文化・歴史に関する問題（2） 5. 国内の観光・文化・歴史に関する問題（3） 6. 英語による日本の世界遺産・観光名所案内（1） 7. 通常授業＋小テスト（30分） 8. 英語による日本の世界遺産・観光名所案内（2） 9. 英語による日本の世界遺産・観光名所案内（3） 10. 英語による国内の行事・祭り・土産品の紹介（1） 11. 英語による国内の行事・祭り・土産品の紹介（2） 12. 日本の観光・文化に貢献した外国人（1） 13. 日本の観光・文化に貢献した外国人（2） 14. 秋学期の講義のまとめ

到達目標	ツーリズム業界の専門用語や独特の言い回しなど、海外旅行、および観光・旅行業務に必要な中級レベルの英語を習得し、観光英語として運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回、授業の最後に次回用の資料を配布しますので、精読して質問・発表の準備をしておくこと。また、授業後は必ず復習をして、その日の授業内容の整理・確認をすること。
テキスト	テキスト：なし、プリントを使用
参考文献	観光英検に関する語彙集や問題集（研究社、三修社など）
評価方法	定期試験（50%）、課題・小テスト（40%）、授業貢献度（10%）

13 年度以降	通訳案内士の英語Ⅰ	担当者	落合　康男

講義目的、講義概要	授業計画
通訳案内士制度が改正され、2018年1月4日より、免許を所持していない人であっても、有料で通訳案内業務が可能となりました。しかし、大手の旅行・観光関連の会社では、高度な会話能力と観光知識のある人材を求めて、通訳案内士への需要は以前とあまり変化はありません。そこで、この講義では、来日する外国人に英語で日本を紹介することに興味のある人にプロのガイドを目指していただけるよう、通訳案内士試験の第1次試験合格のための実力養成を目標とします。 「通訳案内士の英語Ⅰ」では、非常に広範囲に及ぶ項目を多角的に研究して、数多くの問題を解きながら、第1次試験合格のために英文読解や英作文のレベル向上を目指します。	1. オリエンテーション 2. 英語通訳案内士第１次試験問題研究（1） 3. 英語通訳案内士第１次試験問題研究（2） 4. 日本の伝統文化を英語で伝える（1） 5. 日本の伝統文化を英語で伝える（2） 6. 日本の伝統文化を英語で伝える（3） 7. 通常授業＋小テスト（30分） 8. 日本の年中行事を英語で伝える（1） 9. 日本の年中行事を英語で伝える（2） 10. 日本の観光名所（寺院・神社など） 11. 日本の観光名所（城・庭園など） 12. 日本の観光名所（温泉・祭りなど） 13. 日本の地理（自然・気候・地形など） 14. 春学期の講義のまとめ

到達目標	中級レベル英語の読解力、説明力、語彙力等を総合的に習得し、通訳案内士として実践できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回、授業の最後に次回用の資料を配布しますので、精読して質問・発表の準備をしておくこと。また、授業後は必ず復習をして、その日の授業内容の整理・確認をすること。
テキスト	テキスト：なし、プリントを使用
参考文献	通訳案内士試験に関する語彙集や問題集（研究社、三修社、語研など）
評価方法	定期試験（50%）、課題・小テスト（40%）、授業貢献度（10%）

13 年度以降	通訳案内士の英語Ⅱ	担当者	落合　康男

講義目的、講義概要	授業計画
「通訳案内士の英語Ⅰ」は、第1次の筆記試験対策となっています。そして、「通訳案内士の英語Ⅱ」では、第2次の口述試験対策となります。この講義では、「通訳案内士の英語Ⅰ」で習得した英文読解や英作文の実力に加えて、面接試験のために必要な実践的コミュニケーション能力を高めて、通訳案内士第2次口述試験合格のための実力養成を目的とします。 第2次試験合格のためには、日本の伝統文化、宗教、食べ物、風物、行事、娯楽、政治、経済などすべての日本事象から最近のニュースまでのあらゆる話題を面接委員に英語で流暢に伝えなければなりません。そのために、「通訳案内士の英語Ⅱ」の授業では、口述試験のあらゆる問題に対応できるように、幅広い話題を取り上げていきます。	1. オリエンテーション 2. 英語通訳案内士第２次試験問題研究（1） 3. 英語通訳案内士第２次試験問題研究（2） 4. 日本の宗教・神話を英語で伝える（1） 5. 日本の宗教・神話を英語で伝える（2） 6. 英語による日本の世界遺産・観光名所案内（1） 7. 通常授業＋小テスト（30分） 8. 英語による日本の世界遺産・観光名所案内（2） 9. 日本の伝統料理を英語で伝える（1） 10. 日本の伝統料理を英語で伝える（2） 11. 日本の文学を英語で伝える 12. 日本の住生活を英語で伝える 13. 日本の政治・産業を英語で伝える 14. 秋学期の講義のまとめ

到達目標	「通訳案内士の英語Ⅱ」の学習成果のうえに、中級レベル英語の読解力、説明力、語彙力等を総合的に向上させ、通訳案内士試験の第２次口述試験を合格するのに必要な、実践的なコミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回、授業の最後に次回用の資料を配布しますので、精読して質問・発表の準備をしておくこと。また、授業後は必ず復習をして、その日の授業内容の整理・確認をすること。
テキスト	テキスト：なし、プリントを使用
参考文献	通訳案内士試験に関する語彙集や問題集（研究社、三修社、語研など）
評価方法	定期試験（50%）、課題・小テスト（40%）、授業貢献度（10%）

13 年度以降	Business Writing	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本科目はビジネス英語上級編の位置付けです。 English for Business Ⅰ & Ⅱ 習得に基き Business Writingを履修すれば実業界等で十分に通用するビジネス英語を総合的に学習することになります。 具体的には教科書に則り時系列的に商取引：引き合い・料金提示・受諾・出荷・支払い・クレーム・解決等の講義及び本格的な英文ビジネスレターの書き方を学びます。 対外文書の特徴である簡潔明瞭で丁寧なビジネスレターの書き方を指導し、外資系企業、航空業界、国際物流業界、製造業の輸出入担当部門、金融業界、ホテル・観光業界等で英語を駆使して活躍したい学生を対象に講義を進めて行きます。 業務遂行に役立つ実践的な講義であり且つアカデミックな講義を目指します。	1. 講義概要（詳細は各担当教員が説明します） 2. ビジネスレターの形式&練習問題 3. 効果的なビジネスレターの書き方1 （Clarity等）&練習問題 4. 効果的なビジネスレターの書き方2 （Active Voice等）&練習問題 5. 取引の申し込み&練習問題 6. 申し込みに対する応答&練習問題 7. 引き合い（具体的な問い合わせ）&練習問題 8. 中間試験と復習 9. オファー（売り手からの申し込み）&練習問題 10. オファーに対する応答&練習問題 11. 信用状&練習問題 12. 積み出し&練習問題 13. クレーム申し出&練習問題 14. クレームに対する応答&練習問題

到達目標	ビジネスに必要な電子メール、英文レター&ファックスや各種報告書などの英文を、パラグラフ単位で作成できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキスト・プリントの予習・復習が肝要。
テキスト	海老沢達郎著　「Business Writing—英文ビジネスレター入門」（金星堂：2007 年・2011 年重版）
参考文献	都度、紹介。
評価方法	中間試験 30%、定期試験 60%、授業貢献度 10%、欠席は原則 5 回まで。

13 年度以降	Business Writing	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本科目はビジネス英語上級編の位置付けです。 English for Business Ⅰ & Ⅱ 習得に基き Business Writingを履修すれば実業界等で十分に通用するビジネス英語を総合的に学習することになります。 具体的には教科書に則り時系列的に商取引：引き合い・料金提示・受諾・出荷・支払い・クレーム・解決等の講義及び本格的な英文ビジネスレターの書き方を学びます。 対外文書の特徴である簡潔明瞭で丁寧なビジネスレターの書き方を指導し、外資系企業、航空業界、国際物流業界、製造業の輸出入担当部門、金融業界、ホテル・観光業界等で英語を駆使して活躍したい学生を対象に講義を進めて行きます。 業務遂行に役立つ実践的な講義であり且つアカデミックな講義を目指します。	1. 講義概要（詳細は各担当教員が説明します） 2. ビジネスレターの形式&練習問題 3. 効果的なビジネスレターの書き方1 （Clarity等）&練習問題 4. 効果的なビジネスレターの書き方2 （Active Voice等）&練習問題 5. 取引の申し込み&練習問題 6. 申し込みに対する応答&練習問題 7. 引き合い（具体的な問い合わせ）&練習問題 8. 中間試験と復習 9. オファー（売り手からの申し込み）&練習問題 10. オファーに対する応答&練習問題 11. 信用状&練習問題 12. 積み出し&練習問題 13. クレーム申し出&練習問題 14. クレームに対する応答&練習問題

到達目標	ビジネスに必要な電子メール、英文レター&ファックスや各種報告書などの英文を、パラグラフ単位で作成できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキスト・プリントの予習・復習が肝要。
テキスト	海老沢達郎著　「Business Writing—英文ビジネスレター入門」（金星堂：2007 年・2011 年重版）
参考文献	都度、紹介。
評価方法	中間試験 30%、定期試験 60%、授業貢献度 10%、欠席は原則 5 回まで。

13 年度以降	Advanced Writing (Creative)	担当者	B．D．タッチャー

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course will offer students an opportunity to look at and produce creative writing. We will look at some examples of creative writing, considering the features of various genres and the benefits of writing creatively. The class will workshop students' own pieces, refining and improving their style, while working towards a final piece of written work.	1. Welcome - introductions and course outline. 2. Getting to know you – conversation activities. 3. Writing and you – the creative process. 4. Creative space – writing environments. 5. Narratives – story types. 6. Genres – forms of creative writing. 7. Introduction to workshopping – peer review. 8. Aspects of genre – characteristics of style. 9. The process – methods of creativity. 10. Workshop – peer review 2. 11. Building ideas – writing exercises. 12. First draft peer review – group review. 13. Second draft peer review – group and teacher review. 14. Final portfolio submission and course review.

到達目標	論文の構想や推敲、論文草稿や注釈の書き方、校正の仕方、よくある間違いの修正方法などのライティングスキルを習得し、英語圏の大学でエッセイやターム・ペーパーを書き上げることができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will be expected to write at home before classes, and review and edit after classes.
テキスト	None
参考文献	None
評価方法	Assessment will be based on in-class performance (20%) and a final portfolio of work (80%)

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	Advanced Writing (Business)	担当者	D．ブラドリー

講義目的、講義概要	授業計画
The aim of this course is to provide opportunities to practice business writing skills to help students in their future workplace. We will use a course book in business English with reading and writing materials to give context and introduce genre-specific vocabulary so that students can learn to write the kinds of communications needed in business situations. By the end of the course you will have put together a folder of memos, emails, letters and reports which will be used for assessment. We will do half the units in the book in the spring term.	1. Introduction to the course 2. Consolidation 3. Newspaper business page 4. Mergers: writing a press release 5. Meetings: writing a memo 6. Technology: writing a formal email 7. Negotiating: writing a letter 8. Review and writing a report 9. Investment: writing a letter 10. Company finance: writing a recommendation 11. Banking: writing a policy choice letter 12. Consulting: writing a formal email 13. Business quiz and writing a report 14. Review

到達目標	論文の構想や推敲、論文草稿や注釈の書き方、校正の仕方、よくある間違いの修正方法などのライティングスキルを習得し、英語圏の大学でエッセイやターム・ペーパーを書き上げることができるようにする。
事前・事後学修の内容	Preparing vocabulary and readings: 30 minutes. Writing task each week: one hour.
テキスト	*Intelligent Business Coursebook Upper Intermediate* by Tonya Trappe and Graham Tullis.
参考文献	—
評価方法	Grades will be based on class participation (40%) and your folder of work (60%). Not coming every week from day one will impact your grade.

13 年度以降	Advanced Writing (Business)	担当者	D．ブラドリー

講義目的、講義概要	授業計画
The aims of this course are the same as in the spring course and the procedures largely similar. It will in effect be a parallel course using the half of the textbook not used in the spring. For anyone wanting to do a whole year they can get extensive practice without repeating the same material	1. Introduction to the course 2. Consolidation 3. Newspaper business page 4. Projects: writing an informal email 5. Information: writing a letter 6. Advertising: writing a fax 7. Brands: writing a formal email 8. Review and writing a report 9. Energy: writing an email 10. Competition: writing a press release 11. Company training: writing an email 12. Review and writing a report 13. Business quiz 14. Review

到達目標	論文の構想や推敲、論文草稿や注釈の書き方、校正の仕方、よくある間違いの修正方法などのライティングスキルを習得し、英語圏の大学でエッセイやターム・ペーパーを書き上げることができるようにする。
事前・事後学修の内容	Preparing vocabulary and readings: 30 minutes. Writing task each week: one hour.
テキスト	*Intelligent Business Coursebook Upper Intermediate* by Tonya Trappe and Graham Tullis.
参考文献	—
評価方法	Grades will be based on class participation (40%) and your folder of work (60%). Not coming every week from day one will impact your grade.

13 年度以降	Advanced Writing (Creative)	担当者	E．本橋

講義目的、講義概要	授業計画
The course is designed to provide students the opportunity to write in a variety of genres, including poetry, narratives, short stories, memoir, autobiography, and descriptive pieces. Students will learn about characterization, descriptive writing techniques and figurative language, style and point of view. The students will be provided opportunities to produce multiple kinds of creative writing with an emphasis on revision and editing skills. There is also a cooperative aspect to the course,therefore students should expect to do pair/group work.	Week 1 Introduction to Course/Why Creative Writing? Week 2 Types of Creative Writing Week 3 Starting with Yourself (Memoir) Week 4 Descriptives & Figurative Language Week 5 Enriching Your Memoir Week 6 Types of Poetry Week 7 Poetry (cont'd) Week 8 Where I Am From Poem Week 9 Where I am From Poem Presentation Week 10 Narrative Structure Week 11 Characterization Week 12 Point of View Week 13 Scripted Language/Writing Dialogues Week 14 Reader's Theater Performances

到達目標	論文の構想や推敲、論文草稿や注釈の書き方、校正の仕方、よくある間違いの修正方法などのライティングスキルを習得し、英語圏の大学でエッセイやターム・ペーパーを書き上げることができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will be required each week to complete the assigned reading and homework assignments in preparation for class participation
テキスト	There is no text for this course
参考文献	Materials will be provided by the instructor
評価方法	Homework and In-class participateon (40%), Revisions of Writing Projects (20%), Mid-term and Final Writing Project/Assignments (40%),

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	Advanced Writing (Creative)	担当者	J．J．ダゲン

講義目的、講義概要	授業計画
This course is intended as a broad-based introduction to various forms of creative writing, such as short fiction, nonfiction, and poetry. Students are also given an opportunity to write in these genres and explore their creative strengths. The class is usually comprised of technique and style discussions, reading assignments and writing exercises. Students will be introduced to the concept of a writing workshop, wherein they share pieces with peers in order to give and receive feedback.	Week 1: Introduction. Week 2: The concept of creativity. Week 3: Where and how to get ideas. Week 4: Short fiction readings. Week 5: Short fiction writing. Week 6: Rewriting a story Week 7: Nonfiction readings. Week 8: Nonfiction writing. Week 9: Editing writing. Week 10: Text organization. Week 11: Appreciating poetry. Week 12: Creating poetry. Week 13: Sharing poetry. Week 14: Review and consolidation.

到達目標	論文の構想や推敲、論文草稿や注釈の書き方、校正の仕方、よくある間違いの修正方法などのライティングスキルを習得し、英語圏の大学でエッセイやターム・ペーパーを書き上げることができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will be required each week to complete any assigned reading and/or written homework (approximately 4 hours) in preparation for class participation.
テキスト	Handouts
参考文献	Presented on a case-by-case basis
評価方法	Grades are based on in-class participation (20%) and weekly assigned work (20%), and submission of final portfolio of work (60%).

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	Advanced Writing (Research)	担当者	K．エラ

講義目的、講義概要	授業計画
The goals of the Research Writing course are to refine the writing skills students should have developed in their previous writing courses in order to write academic essays by enhancing reading, critical thinking, and research skills.　Students will be taught how to analyze, evaluate, and synthesize diverse sources and viewpoints to develop persuasive and academic essays. When writing academic essays, learning how to summarize, paraphrase, and draft revisions will be emphasized. APA style will be used. (one semester course)	1. Course Introduction 2. Paragraph/Essay Review 3. Introduction to the Research Essay 4. Choosing Topics, Brainstorming, Outlining 5. Gathering Sources, Note Cards raft Writing 6. Summarizing and Paraphrasing 7. Plagiarism 8. Using Citations, Draft Writing 9. Coherence and Unity 10. The Reference Page 11. Peer Editing and Revision 12. Teacher Conferences 13. Teacher Conferences 14. Research Essay due, Course wrap-up

到達目標	論文の構想や推敲、論文草稿や注釈の書き方、校正の仕方、よくある間違いの修正方法などのライティングスキルを習得し、英語圏の大学でエッセイやターム・ペーパーを書き上げることができるようにする。
事前・事後学修の内容	Introduction and Completion of Steps to Research Writing
テキスト	Academic Writing Skills, Book 3
参考文献	Chin, Peter, et.al., Cambridge, 2013
評価方法	Classwork, Homework, and Essays

13 年度以降	Advanced Writing (Research)	担当者	K．エラ

講義目的、講義概要	授業計画
The goals of the Research Writing course are to refine the writing skills students should have developed in their previous writing courses in order to write academic essays by enhancing reading, critical thinking, and research skills.　Students will be taught how to analyze, evaluate, and synthesize diverse sources and viewpoints to develop persuasive and academic essays. When writing academic essays, learning how to summarize, paraphrase, and draft revisions will be emphasized. APA style will be used. (one semester course)	1. Course Introduction 2. Paragraph/Essay Review 3. Introduction to the Research Essay 4. Choosing Topics, Brainstorming, Outlining 5. Gathering Sources, Note Cards raft Writing 6. Summarizing and Paraphrasing 7. Plagiarism 8. Using Citations, Draft Writing 9. Coherence and Unity 10. The Reference Page 11. Peer Editing and Revision 12. Teacher Conferences 13. Teacher Conferences 14. Research Essay due, Course wrap-up

到達目標	論文の構想や推敲、論文草稿や注釈の書き方、校正の仕方、よくある間違いの修正方法などのライティングスキルを習得し、英語圏の大学でエッセイやターム・ペーパーを書き上げることができるようにする。
事前・事後学修の内容	Introduction and Completion of Steps to Research Writing
テキスト	Academic Writing Skills, Book 3
参考文献	Chin, Peter, et.al., Cambridge, 2013
評価方法	Classwork, Homework, and Essays

13 年度以降	Advanced Writing (Research)	担当者	M．L．ボイル

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to develop students' research skills and build on writing skills developed in their previous courses. Students will practice critical thinking and reading, by analyzing, evaluating, and using diverse sources. They will have opportunities throughout the course to apply and refine their research writing skills to enable them to produce longer papers. Students will be required to present their final paper and critically evaluate their peers' work. They will be expected to produce a mid-term paper of at least 800 words and a final paper of over 1000 words.	1. Course Introduction What is research? 2. Introduction to first research topic. 3. Sourcing Information 4. Avoiding plagiarism: Quotes, paraphrases and summaries. 5. Draft 1 mid-term paper – sharing and critiquing. 6. Writing the bibliography (1) 7. Choosing a new topic. (Mid-term paper due). 8. Introductions and Conclusions 9. Writing the body 10. Citations and bibliography (2) 11. Draft 1 final-paper – sharing and critiquing. 12. Grammar checks and preparing for presentation 13. Presentation and Peer Evaluation 14. An introduction to field research techniques. (Final paper due).

到達目標	論文の構想や推敲、論文草稿や注釈の書き方、校正の仕方、よくある間違いの修正方法などのライティングスキルを習得し、英語圏の大学でエッセイやターム・ペーパーを書き上げることができるようにする。
事前・事後学修の内容	Read assigned texts before lesson; complete homework assignments and hand-in work promptly.
テキスト	No textbook is required for this class. Reading materials will be provided by the instructor. Bring paper and pen.
参考文献	―
評価方法	Class involvement, 20%; homework 20%; mid-term paper, 20%; final paper and presentation 40%.

13 年度以降	Advanced Writing (Research)	担当者	M．L．ボイル

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to develop students' research skills and build on writing skills developed in their previous courses. Students will practice critical thinking and reading, by analyzing, evaluating, and using diverse sources. They will have opportunities throughout the course to apply and refine their research writing skills to enable them to produce longer papers. Students will be required to present their final paper and critically evaluate their peers' work. They will be expected to produce a mid-term paper of at least 800 words and a final paper of over 1000 words.	1. Course Introduction What is research? 2. Introduction to first research topic. 3. Sourcing Information 4. Avoiding plagiarism: Quotes, paraphrases and summaries. 5. Draft 1 mid-term paper – sharing and critiquing. 6. Writing the bibliography (1) 7. Choosing a new topic. (Mid-term paper due). 8. Introductions and Conclusions 9. Writing the body 10. Citations and bibliography (2) 11. Draft 1 final-paper – sharing and critiquing. 12. Grammar checks and preparing for presentation 13. Presentation and Peer Evaluation 14. An introduction to field research techniques. (Final paper due).

到達目標	論文の構想や推敲、論文草稿や注釈の書き方、校正の仕方、よくある間違いの修正方法などのライティングスキルを習得し、英語圏の大学でエッセイやターム・ペーパーを書き上げることができるようにする。
事前・事後学修の内容	Read assigned texts before lesson; complete homework assignments and hand-in work promptly.
テキスト	No textbook is required for this class. Reading materials will be provided by the instructor. Bring paper and pen.
参考文献	―
評価方法	Class involvement, 20%; homework 20%; mid-term paper, 20%; final paper and presentation 40%.

13 年度以降	Advanced Writing (Research)	担当者	A．マグズ

講義目的、講義概要	授業計画
This is a one semester only course. You will study how to write good quality academic essays of between 800 ~ 1000 words　using internet research. You will also learn how to plan the essay, and how to write a bibliography at the end of the essay. Attendance is very important on this course because new important skills will be taught every class. Attendance policy: 4 absences = fail the course Up to 15 minutes after the bell = 1 late 3 lates = 1 absence	1. Essay 1 select topic / general v specific information 2. Introduction & conclusion technique 3. Introduction to internet research (part 1) 4. How to write the body / referencing 5. Select essay 2 topic / note-taking / essay 1 draft due 6. Editing essay 1 draft 7. Internet research (part2) / essay 1 final due 8. Paraphrasing, summarizing & plagiarism 9. How to write an essay plan page in note style 10. How to write a bibliography 11. Essay 2 draft due / extra research -- essay data gaps 12. Editing essay 2 draft 13. Essay 2 final due / problem areas discussion 14. Essay 2 – collect essay & review

到達目標	論文の構想や推敲、論文草稿や注釈の書き方、校正の仕方、よくある間違いの修正方法などのライティングスキルを習得し、英語圏の大学でエッセイやターム・ペーパーを書き上げることができるようにする。
事前・事後学修の内容	The teacher will inform students on a weekly basis of any pre or post lesson preparation, homework, or assignments
テキスト	No textbook . All materials provided by the teacher.
参考文献	Electronic dictionary is OK
評価方法	Your course grade is based only on your essay grades

13 年度以降	Advanced Writing (Research)	担当者	A．マグズ

講義目的、講義概要	授業計画
This is a one semester only course. You will study how to write good quality academic essays of between 800 ~ 1000 words　using internet research. You will also learn how to plan the essay, and how to write a bibliography at the end of the essay. Attendance is very important on this course because new important skills will be taught every class. Attendance policy: 4 absences = fail the course Up to 15 minutes after the bell = 1 late 3 lates = 1 absence	1. Essay 1 select topic / general v specific information 2. Introduction & conclusion technique 3. Introduction to internet research (part 1) 4. How to write the body / referencing 5. Select essay 2 topic / note-taking / essay 1 draft due 6. Editing essay 1 draft 7. Internet research (part2) / essay 1 final due 8. Paraphrasing, summarizing & plagiarism 9. How to write an essay plan page in note style 10. How to write a bibliography 11. Essay 2 draft due / extra research -- essay data gaps 12. Editing essay 2 draft 13. Essay 2 final due / problem areas discussion 14. Essay 2 - collect essay & review

到達目標	論文の構想や推敲、論文草稿や注釈の書き方、校正の仕方、よくある間違いの修正方法などのライティングスキルを習得し、英語圏の大学でエッセイやターム・ペーパーを書き上げることができるようにする。
事前・事後学修の内容	The teacher will inform students on a weekly basis of any pre or post lesson preparation, homework, or assignments
テキスト	No textbook . All materials provided by the teacher.
参考文献	Electronic dictionary is OK
評価方法	Your course grade is based only on your essay grades

13 年度以降	Advanced Writing (Research)	担当者	K．フォード

講義目的、講義概要	授業計画
In this one-semester course students develop their ability to write essays that have logical academic structure, using appropriate academic tone, style and language. Students will need to express their opinions and reasoning clearly in argumentative style essays. Students work on the same issue for the first model 1000-word essay. The issue for the second essay is selected by students from a list of choices. Essays will incorporate researched sources, using paraphrases and quotations. Essay assignments involve research, outlining, drafting, detailed revision and editing.	1. Course Introduction 2. Review of essay structure/ Analyzing model essays 3. Analyzing introductions and thesis statements 4. Brainstorming/Outlining 5. Analyzing logical body paragraph structure 6. Developing body paragraphs 7. Finding sources 8. Incorporating paraphrase, summary and quotation 9. Incorporating paraphrase, summary and quotation 10. Revision/Editing of body paragraphs 11. Analyzing concluding paragraphs 12. Revision and editing checklists 13. Final essay submission/Course review test 14. Return of essays/Self-reflection

到達目標	論文の構想や推敲、論文草稿や注釈の書き方、校正の仕方、よくある間違いの修正方法などのライティングスキルを習得し、英語圏の大学でエッセイやターム・ペーパーを書き上げることができるようにする。
事前・事後学修の内容	Review of class instructional materials and writing preparation for next class
テキスト	No textbook is required
参考文献	No reference book
評価方法	Work in progress and final essay submissions (90%), and academic skills writing test (10%)

13 年度以降	Advanced Writing (Research)	担当者	K．フォード

講義目的、講義概要	授業計画
In this one-semester course students develop their ability to write essays that have logical academic structure, using appropriate academic tone, style and language. Students will need to express their opinions and reasoning clearly in argumentative style essays. Students work on the same issue for the first model 1000-word essay. The issue for the second essay is selected by students from a list of choices. Essays will incorporate researched sources, using paraphrases and quotations. Essay assignments involve research, outlining, drafting, detailed revision and editing.	1. Course Introduction 2. Review of essay structure/ Analyzing model essays 3. Analyzing introductions and thesis statements 4. Brainstorming/Outlining 5. Analyzing logical body paragraph structure 6. Developing body paragraphs 7. Finding sources 8. Incorporating paraphrase, summary and quotation 9. Incorporating paraphrase, summary and quotation 10. Revision/Editing of body paragraphs 11. Analyzing concluding paragraphs 12. Revision and editing checklists 13. Final essay submission/Course review test 14. Return of essays/Self-reflection

到達目標	論文の構想や推敲、論文草稿や注釈の書き方、校正の仕方、よくある間違いの修正方法などのライティングスキルを習得し、英語圏の大学でエッセイやターム・ペーパーを書き上げることができるようにする。
事前・事後学修の内容	Review of class instructional materials and writing preparation for next class
テキスト	No textbook is required
参考文献	No reference book
評価方法	Work in progress and final essay submissions (90%), and academic skills writing test (10%)

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後 学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	翻訳 I	担当者	片山　亜紀

講義目的、講義概要	授業計画
みなさんは英語の構文についてひととおり勉強し、文法の知識もだいたい身に付けていると思います。この講義では、それらの勉強を土台に、さまざまな英語の文章を日本語に訳していきます。人称をどうするか、I は「私」か「僕」か「俺」か、「です・ます」なのか「である」調なのか。女性は「だわ」で男性は「だぜ」なのか。これらの選択を始めとするさまざまな翻訳上の問題について、そして面白さについて、受講者全員で味わいましょう。 授業では毎回1ページ程度の英文課題を出しますので、次回の授業開始時に自分で翻訳したものを持参してください。その上で授業中には少しずつご自分の訳を読み上げてもらい、担当者が解説します。授業の最後には、各自持参した翻訳を修正して提出してください（←polishする能力は、翻訳者としてぜひ身に付けてほしいものなので、この修正のプロセスを重視しています）。	1. はじめに（辞書選び／字幕と吹き替えと出版翻訳etc） 2. 絵本を翻訳する 3. 児童書を翻訳する 4. YA小説を翻訳する 5. 一般向けの小説：女ことばを翻訳するには 6. 一般向けの小説：男ことばを翻訳するには 7. 三人称の語り手を翻訳する 8. 自由間接話法を翻訳する 9. 文体を翻訳する 10. 詩を翻訳する 11. 新聞記事を翻訳する 12. 雑誌記事を翻訳する 13. インターネットのブログを翻訳する 14. まとめ

到達目標	中級レベルの総合的な英語力（文法・論理・教養・表現等）を総合的に習得し、文化的発想の違いにも目を配りながら英文を的確に和訳し、ならびに和文を的確に英訳できるようにする。
事前・事後 学修の内容	事前：課題プリントを翻訳してくる。 事後：プリントを見直しておく。
テキスト	プリントを配布。
参考文献	構文力に自信のない人は、岡田伸夫『英語の構文 150』（美誠社）などで各自勉強してください。
評価方法	授業中の発言や課題プリント約 60%、学期末試験約 40% （ただし欠席回数が 5 回以上の場合は、理由にかかわらず成績評価対象としません。）

13 年度以降	翻訳 I	担当者	高田　宣子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、さまざまな分野の英文あるいは和文の翻訳に関する問題点を挙げながら、翻訳の可能性について実践的に探ります。 授業では、毎週、新聞報道記事や雑誌記事、広告、字幕、歌詞、文芸作品などの一部を取り上げながら、日英翻訳の演習を行います。 履修人数にもよりますが、前期後半は各学生の関心のあるジャンルについての翻訳プレゼンテーションを行ってもらいます。 初回授業には必ず出席してください。	第１回　ガイダンス　辞書について 第２回　翻訳の難しさと面白さについて 第３回　機械翻訳の可能性について 第４回　翻訳の実例比較　その１ 第５回　翻訳の実例比較　その２ 第６回　復習テスト 第７回　翻訳テキスト分析と発表内容チェック 第８回　翻訳テキスト分析と発表内容チェック 第９回　翻訳テキスト分析と発表内容チェック 第１０回　学生による翻訳プレゼンテーション 第１１回　学生による翻訳プレゼンテーション 第１２回　学生による翻訳プレゼンテーション 第１３回　学生による翻訳プレゼンテーション 第１４回　まとめと復習テスト

到達目標	中級レベルの総合的な英語力（文法・論理・教養・表現等）を総合的に習得し、文化的発想の違いにも目を配りながら英文を的確に和訳し、ならびに和文を的確に英訳できるようにする。
事前・事後学修の内容	翻訳発表のための準備およびパワーポイント作成
テキスト	プリント配布
参考文献	特になし
評価方法	分析コメント２０％、プレゼンテーション２０％、翻訳実習３０％、テスト２０％、レポート１０％とする。なお、４回以上欠席した場合は、原則として成績評価の対象となりません。

13 年度以降	翻訳 I	担当者	高田　宣子

講義目的、講義概要	授業計画
翻訳言語における性別、階級、地域差、時代、民族などを考慮しながら、翻訳する際の問題点をさらに検証します。授業では、毎週、さまざまなジャンルの翻訳演習を行います。 また、各学生の関心分野から自由に翻訳題材を選び、プレゼンテーションを行なってもらいます。また、発表内容について毎回、各学生にコメントを行ってもらいます。 なお、後期のみ履修する学生を考慮し、初回授業はガイダンスおよび前期に行った内容についての復習とします。 また、履修者の人数および習熟度に合わせて授業内容を変更します。 初回授業には必ず出席してください。	第１回　前期テストの講評および後期授業のガイダンス 第２回　日英および英日翻訳の分析 第３回　日英および英日翻訳の実例検討　その１ 第４回　日英および英日翻訳の実例検討　その２ 第５回　翻訳テキスト分析および発表のテーマ検討 第６回　復習テストと発表テーマの確認 第７回　発表準備　資料作成と内容チェック 第８回　発表準備　資料作成と内容チェック 第９回　発表準備　資料作成と内容チェック 第１０回　学生発表と講評　その１ 第１１回　学生発表と講評　その２ 第１２回　学生発表と講評　その３ 第１３回　学生発表と講評　その４ 第１４回　　まとめと復習テスト

到達目標	中級レベルの総合的な英語力（文法・論理・教養・表現等）を総合的に習得し、文化的発想の違いにも目を配りながら英文を的確に和訳し、ならびに和文を的確に英訳できるようにする。
事前・事後学修の内容	翻訳発表のための準備およびパワーポイント作成
テキスト	プリント配布
参考文献	特になし
評価方法	分析コメント２０％、プレゼンテーション２０％、翻訳実習３０％、テスト２０％、レポート１０％とする。なお、４回以上欠席した場合は、原則として成績評価の対象となりません。

13 年度以降	翻訳 I	担当者	山中　章子

講義目的、講義概要	授業計画
一口に「翻訳する」といっても、単に意味の通る日本語に置き換えればよいわけではありません。適切な英文読解に加え、作品自体を味わい、文化的背景を読み込む必要もあります。受験英語的な「和訳」でも、行き過ぎた「意訳」でもなく、日本語のみを読んで原作と同様の魅力を味わえる「翻訳」を目指します。課題文には短編小説や長編小説中の短いチャプターを使用します。まず全体に目を通してから翻訳に取り掛かってください。授業中も一語一語しつこく丁寧に読んでいきます。 授業では、事前提出してもらう翻訳課題をセレクトした抜粋資料を配布します。自分の翻訳と読み比べより良い翻訳を模索するために、積極的な参加と発言が求められます。学期の中盤からグループまたはペアで発表します。その際俳句の英訳も行い、母語から外国語への翻訳感覚を味わいます。言葉のブラッシュアップを楽しみましょう。	1　イントロダクション 2　個人翻訳：英文読解の精度を上げる（概要） 3　個人翻訳：英文読解の精度を上げる（パラグラフ） 4　個人翻訳：英文読解の精度を上げる（文脈） 5　個人翻訳：英文の意図を汲んだ日本語を作る（概要） 6　個人翻訳：英文の意図を汲んだ日本語を作る（文体） 7　個人翻訳：英文の意図を汲んだ日本語を作る（文脈） 8　グループ共訳の作成、発表（概要） 9　グループ共訳の作成、発表（パラグラフ） 10 グループ共訳の作成、発表（文脈） 11 グループ共訳の作成、発表（文体） 12 グループ共訳の作成、発表、改定版作成（文脈） 13 グループ共訳の作成、発表、改定版作成（文体） 14 グループ共訳の作成、発表、改定版作成（総合）

到達目標	中級レベルの総合的な英語力（文法・論理・教養・表現等）を総合的に習得し、文化的発想の違いにも目を配りながら英文を的確に和訳し、ならびに和文を的確に英訳できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修として、課題を提出し疑問点などをリストアップする（1 時間）。事後学修として、返却された課題を読み直しリバイズする（1 時間）。
テキスト	課題作品を授業時に配布する。
参考文献	*Longman Dictionary of Contemporary English*. Pearson. (2014) 978-1447954200
評価方法	課題・授業参加度（25%）、発表（25%）、学期末レポート（50%）通常授業の課題未提出は欠席と同じ扱いとします。

13 年度以降	翻訳 I	担当者	山中　章子

講義目的、講義概要	授業計画
一口に「翻訳する」といっても、単に意味の通る日本語に置き換えればよいわけではありません。適切な英文読解に加え、作品自体を味わい、文化的背景を読み込む必要もあります。受験英語的な「和訳」でも、行き過ぎた「意訳」でもなく、日本語のみを読んで原作と同様の魅力を味わえる「翻訳」を目指します。課題文には短編小説や長編小説中の短いチャプターを使用します。まず全体に目を通してから翻訳に取り掛かってください。授業中も一語一語しつこく丁寧に読んでいきます。 授業では、事前提出してもらう翻訳課題をセレクトした抜粋資料を配布します。自分の翻訳と読み比べより良い翻訳を模索するために、積極的な参加と発言が求められます。学期の中盤からグループまたはペアで発表します。その際俳句の英訳も行い、母語から外国語への翻訳感覚を味わいます。言葉のブラッシュアップを楽しみましょう。	1　イントロダクション 2　個人翻訳：英文読解の精度を上げる（概要） 3　個人翻訳：英文読解の精度を上げる（パラグラフ） 4　個人翻訳：英文読解の精度を上げる（文脈） 5　個人翻訳：英文の意図を汲んだ日本語を作る（概要） 6　個人翻訳：英文の意図を汲んだ日本語を作る（文体） 7　個人翻訳：英文の意図を汲んだ日本語を作る（文脈） 8　グループ共訳の作成、発表（概要） 9　グループ共訳の作成、発表（パラグラフ） 10 グループ共訳の作成、発表（文脈） 11 グループ共訳の作成、発表（文体） 12 グループ共訳の作成、発表、改定版作成（文脈） 13 グループ共訳の作成、発表、改定版作成（文体） 14 グループ共訳の作成、発表、改定版作成（総合）

到達目標	中級レベルの総合的な英語力（文法・論理・教養・表現等）を総合的に習得し、文化的発想の違いにも目を配りながら英文を的確に和訳し、ならびに和文を的確に英訳できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修として、課題を提出し疑問点などをリストアップする（1 時間）。事後学修として、返却された課題を読み直しリバイズする（1 時間）。
テキスト	課題作品を授業時に配布する。
参考文献	*Longman Dictionary of Contemporary English*. Pearson. (2014) 978-1447954200
評価方法	課題・授業参加度（25%）、発表（25%）、学期末レポート（50%）通常授業の課題未提出は欠席と同じ扱いとします。

13 年度以降	翻訳 I （木 3）	担当者	柴田　耕太郎

講義目的、講義概要	授業計画
この講座は、社会人の翻訳志望者に実施している内容の一部をそのまま、意欲ある学生諸君に提供するものです。高級な英文エッセイを題材とします。 （1）掛かり方を示す構文分析　（2）一語一句おろそかにしない解説　（3）英文和訳での正解となる「原文に即した訳」　（4）原文と等価の日本語を目指す「モデル訳」（5）指名した受講生の答案添削、により、受講生は「一点の曇りなく英文を読み解く」ことができます。 英文を精読し、その論理をきちんとした日本語に置き換えてみることで、文法力・論理力・表現力が鍛えられます。翻訳家志望者のみならず、編集者・ジャーナリスト・語学教員志望者にも役立つでしょう。 二年（春、秋×2）かけて全100題を終了します。今・春学期は51番から75番を取り上げます。	1.　モデル授業 2.　イギリス人（国民性とは） 3.　イギリス人（イギリス人の特質） 4.　イギリス人（他国民との違い） 5.　イギリス人（イギリスの庶民） 6.　中年の想いごと 7.　目の見える有難さ 8.　機械と人間 9.　忘れっぽさ 10. 友情論 11. 幸福論 12. 外国語を学ぶ効用（何のために学ぶか） 13. 外国語を学ぶ効用（どう裨益されるか） 14. 日本人論 ＊各回、他に1題を扱います。

到達目標	中級レベルの総合的な英語力（文法・論理・教養・表現等）を総合的に習得し、文化的発想の違いにも目を配りながら英文を的確に和訳し、ならびに和文を的確に英訳できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前：予習し、疑問点を明らかにして授業に臨むこと　事後：重要ポイントを復習し納得すること
テキスト	テキストは、講師の手作り。初回に渡します。
参考文献	柴田耕太郎著『翻訳家になろう！』青弓社。折にふれ参照しますので、必ず入手してください。
評価方法	定期試験 80%, 授業での課題 20%

13 年度以降	翻訳 I （木 3）	担当者	柴田　耕太郎

講義目的、講義概要	授業計画
この講座は、社会人の翻訳家志望者に実施している内容の一部をそのまま、意欲ある学生諸君に提供するものです。高級な英文エッセイを題材とします。 （1）掛かり方を示す構文分析　（2）一語一句おろそかにしない解説　（3）英文和訳での正解となる「原文に即した訳」　（4）原文と等価の日本語を目指す「モデル訳」（5）指名した受講生の答案添削、により、受講生は「一点の曇りなく英文を読み解く」ことができます。 英文を精読し、その理解をきちんとした日本語に置き換えてみることで、文法力・論理力・教養力・表現力が鍛えられます。翻訳家志望者のみならず、編集者・ジャーナリスト・語学教員志望者にも役立つでしょう。 二年（春、秋×2）かけて全100題を終了します。今・秋学期は76番から100番を取り上げます。	1.　モデル授業 2.　英国人と詩心 3.　イギリス小説 4.　海外の日本人 5.　青年期の読書 6.　幼年期教育 7.　感情と理性 8.　幸せな人間 9.　伝記とは 10. 人間の人間たるゆえん 11. 日本人の和 12. シェークスピア礼賛 13. 出版の使命 14. 無限の歴史 ＊他に1題を扱います。

到達目標	中級レベルの総合的な英語力（文法・論理・教養・表現等）を総合的に習得し、文化的発想の違いにも目を配りながら英文を的確に和訳し、ならびに和文を的確に英訳できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前：予習し、疑問点を明らかにして授業に臨むこと　事後：重要ポイントを復習し納得すること
テキスト	テキストは、講師の手作り。初回に渡します。
参考文献	柴田耕太郎著『翻訳家になろう！』青弓社。折にふれ参照しますので、必ず入手してください。
評価方法	定期試験 80%, 授業での課題 20%

13 年度以降	翻訳 I （木 4）	担当者	柴田　耕太郎

講義目的、講義概要	授業計画
この講座は初心者向きに、文法の根幹をおさらいしたあと、さまざまなジャンルの比較的やさしい英文を丁寧に読み解いてゆきます。「翻訳は日本語力の問題」といわれますが、それは原文を正確に理解した上でのこと。原文の正確な理解には、文法力だけでなく、論理力・調査力・教養力も必要です。これらを養う訓練を、翻訳を通じて行います。最終的には、原文と等価の読みやすい日本語をつくることを目指します。 木曜3時限の柴田講師の翻訳講座の姉妹編です。英語と表現力の基礎を固めたい人は、ここから入ってください。 秋学期同時限（木4）の、中級向けの出版翻訳クラスにつながります。	1. モデル授業 2. 英語の規則（アンドとカンマ） 3. 英語の規則（掛かり方） 4. 訳文校正 5. 歴史「ミノタウロス」 6. 児童文学「不思議の国のアリス」（導入部） 7. 児童文学「不思議の国のアリス」（地底の国） 8. 子供百科「フクロウの目」 9. 子供百科「恐竜」 10. 子供百科「宇宙」 11. ミュージカル「オクラホマ」 12. 詩「虹の歌」 13. 小説「マダム・ロゼット」 14. 歴史「トロイ戦争」

到達目標	中級レベルの総合的な英語力（文法・論理・教養・表現等）を総合的に習得し、文化的発想の違いにも目を配りながら英文を的確に和訳し、ならびに和文を的確に英訳できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前：予習し、疑問点を明らかにして授業に臨むこと　事後：重要ポイントを復習し納得すること
テキスト	テキストは、講師の手作り。初回に渡します。
参考文献	柴田耕太郎著『翻訳家になろう！』青弓社。折に触れ参照しますので、必ず入手してください。
評価方法	定期試験 80%, 授業での課題 20%

13 年度以降	翻訳 I （木 4）	担当者	柴田　耕太郎

講義目的、講義概要	授業計画
この講座では、さまざまな分野の書籍の抜粋部分（600ワード程度）を精読したうえで、「商品として通用する訳文」づくりを訓練します。英文読解と表現力に自信のある学生の聴講を期待します。 木曜3時限の柴田講師の翻訳講座の姉妹編です。翻訳現場の厳しさを実感したい人の受講を期待します。	1. モデル授業 2. 辞書の引き方 3. 小説「ミセス・ビクスビーと大佐のコート」（書き出し） 4. 小説「ミセス・ビクスビーと大佐のコート」（展開） 5. スポーツ「アマチュア・チャンピオンシップ」 6. 美術「古代の芸術」 7. ドキュメンタリー「生き残りし者」 8. 科学「重力の問題」 9. 造形「心の庭」 10. 音楽「オーケストラを指揮する」 11. 評伝「二都物語」 12. 動物「人間と動物の絆」 13. 歴史「そして水は引かなかった」 14. 観光「コルシカへの招待」

到達目標	中級レベルの総合的な英語力（文法・論理・教養・表現等）を総合的に習得し、文化的発想の違いにも目を配りながら英文を的確に和訳し、ならびに和文を的確に英訳できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前：予習し、疑問点を明らかにして授業に臨むこと　事後：重要ポイントを復習し納得すること
テキスト	テキストは、講師の手作り。初回に渡します。
参考文献	柴田耕太郎著『翻訳家になろう！』青弓社
評価方法	定期試験 80%, 授業での課題 20%

13 年度以降	翻訳Ⅱ（水 4）	担当者	P．ネルム

講義目的、講義概要	授業計画
The aim of the course during the first semester will be to give students the skill set to translate more effectively, focusing on translations from English to Japanese. Particular attention will be given to common mistranslations and translation strategies. The materials used will mainly include poems (by Robert Frost, et al.), novels (Mark Twain's "Huckleberry Finn," etc.)newspaper and magazine articles (mainly from Newsweek and Newsweek Japan), along with English-language movies (Japanese subtitles). The format of the course will consist of lectures in Japanese presenting the material chosen for the week, with students expected to do translations in class. Students will also be expected to compare and discuss their translations with each other in class. Homework will include trial translations, and a final essay examination will be given to test students' knowledge of what was learned in class, along with a self-evaluation. It is not necessary to take this class both semesters, though preference in student selection will be given to those students planning on doing so.	1 Introduction 2 Document #1 (see list at left for examples) 3 Document #2 4 Document #3 5 Document #4 6 Document #5 7 Document #6 8 Document #7 9 Document #8 10 Document #9 11 Document #10 12 Document #11 13 Document #12 14 Final Examination and Self-Evaluation

到達目標	中級レベルの総合的な英語力（文法・論理・教養・表現等）を総合的に習得し、文化的発想の違いにも目を配りながら英文を的確に和訳し、ならびに和文を的確に英訳できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎週の例文を復習 配られた文章を予習
テキスト	Materials to be handed out in class weekly.
参考文献	—
評価方法	Class performance 25% (maximum number of absences=4), Homework 25%, Final examination and self-evaluation50% Four or more absences will likely disqualify students from getting credit. 4 回以上の欠席は単位取得を困難にする。

13 年度以降	翻訳Ⅱ（水 2）	担当者	P．ネルム

講義目的、講義概要	授業計画
The aim of the course during the second semester will be to give students the skill set to translate more effectively, focusing on translations from Japanese to English. Particular attention will be given to vocabulary nuance and word order. The materials used will include English translations of novels and essays by famous Japanese authors (including Matsuo Basho, NatsumeSoseki, Yasunari Kawabata, Junichiro Tanizaki, Yukio Mishima, Shusaku Endo, Kobo Abe, Haruki Murakami, Banana Yoshimoto, et al.), along with movies based on those authors' works, and Japanese animated features(looking at the English and Japanese subtitles). The format of the course will consist of lectures in Japanese presenting the material chosen for the week, with students expected to do translations in class. Students will also be expected to compare and discuss their translations with each other in class. Homework will include trial translations, and a final essay examination will be given to test students' knowledge of what was learned in class, along with a self-evaluation. It is not necessary to take this class both semesters, though preference in student selection will be given to those students planning on doing so.	1 Introduction 2 Author #1 (see list at left for examples) 3 Author #2 4 Author #3 5 Author #4 6 Author #5 7 Author #6 8 Author #7 9 Author #8 10 Author #9 11 Author #10 12 Author #11 13 Author #12 14 Final Examination and Self-evaluation

到達目標	中級レベルの総合的な英語力（文法・論理・教養・表現等）を総合的に習得し、文化的発想の違いにも目を配りながら英文を的確に和訳し、ならびに和文を的確に英訳できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎週の例文を復習 配られた文章を予習
テキスト	Materials to be handed out in class weekly.
参考文献	—
評価方法	Class performance 25% (maximum number of absences=4), Homework 25%, Final examination and self-evaluation 50% Four or more absences will likely disqualify students from getting credit. 4 回以上の欠席は単位取得を困難にする。

13 年度以降	翻訳Ⅱ	担当者	白川　貴子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　翻訳は学校英語の英文和訳とは大きく違います。なぜ、どう違うのかを認識することが翻訳の第一歩になります。この講義では翻訳をするための基本的な枠組みを学び、演習を通して実践に役立つ力を身につけます。 講義概要 　今日の情報化社会にあっては翻訳においてもインターネットの活用は欠かせません。授業ではパソコンを活用して翻訳演習を行い、訳文の解析、発表やグループワークを通してさまざまな角度から翻訳の要諦を学んでいきます。授業計画は変更する場合があります。具体的な内容はオリエンテーションで説明しますので必ず出席してください。	1.　オリエンテーション 2.　リテラシーとしての翻訳概論（翻訳とは） 3.　リテラシーとしての翻訳概論（翻訳の諸形態） 4.　リテラシーとしての翻訳概論（翻訳のdo's and don'ts） 5.　翻訳の基本（構文） 6.　翻訳の基本（品詞） 7.　翻訳の基本（コンテクスト） 8.　翻訳演習　ノンフィクション（初級レベル） 9.　翻訳演習　ノンフィクション（中級レベル） 10. 翻訳演習　ノンフィクション（難解レベル） 11. 翻訳演習　フィクション（初級レベル） 12. 翻訳演習　フィクション（中級レベル） 13. 翻訳演習　フィクション（難解レベル） 14. 総括

到達目標	中級レベルの総合的な英語力（文法・論理・教養・表現等）を総合的に習得し、文化的発想の違いにも目を配りながら英文を的確に和訳し、ならびに和文を的確に英訳できるようにする。
事前・事後学修の内容	指示に従って指定された箇所を事前に準備し、適宜授業時に課題を提出。
テキスト	初回に指示します。
参考文献	必要に応じプリントを配布します。
評価方法	課題および授業参加態度 70%、発表および期末レポート 30%

13 年度以降	翻訳Ⅱ	担当者	白川　貴子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　英文和訳と翻訳とはどう違うのか。翻訳の心がまえを学び、概念としての理解にとどまらず、実践的に翻訳に取り組む力を養います。 講義概要 　授業ではパソコンを活用して翻訳演習を行い、訳文の解析、発表やグループワークを通してさまざまな角度から翻訳の要諦を学んでいきます。授業計画は変更する場合があります。具体的な内容はオリエンテーションで説明しますので必ず出席してください。	1.　オリエンテーション 2.　翻訳とは 3.　翻訳の方法 4.　翻訳の基本（品詞や構文） 5.　翻訳の基本（コンテクスト） 6.　翻訳演習　ノンフィクション（案内文など） 7.　翻訳演習　ノンフィクション（論説文など） 8.　翻訳演習　フィクション（初級レベル前半） 9.　翻訳演習　フィクション（初級レベル後半） 10. 翻訳演習　フィクション（中級レベル前半） 11. 翻訳演習　フィクション（中級レベル後半） 12. 翻訳演習　フィクション（難解レベル前半） 13. 翻訳演習　フィクション（難解レベル後半） 14. 総括

到達目標	中級レベルの総合的な英語力（文法・論理・教養・表現等）を総合的に習得し、文化的発想の違いにも目を配りながら英文を的確に和訳し、ならびに和文を的確に英訳できるようにする。
事前・事後学修の内容	指示に従って指定された箇所を事前に準備し、適宜授業時に課題を提出。
テキスト	初回に指示します。
参考文献	必要に応じプリントを配布します。
評価方法	課題および授業参加態度 70%、発表および期末レポート 30%

13 年度以降	College Grammar（月３）	担当者	河原　宏之

講義目的、講義概要	授業計画
学校文法（School Grammar）と呼ばれる中学・高校で慣れ親しんだ英文法から更に一段高いレベルの英文法を学ぶことを目的とします。 一般的に広く認知されているに英文法の枠組から出発し、その発展型としての英文法の可能性を考察します。まず、基本例文などで馴染みの深いデータの観察から入り、これまでなされてきた英文法体系の一般化の方法を概観・検討します。それを踏まえた上で新たな視点から考察した結果、実はこれまで当然のこととして受け入れてきた英文法の在り方が実はまだまだ考察の余地があるものだということに気付かされます。 授業内容の性質上、英文法の公式を暗記したりするものではなく、英文法に興味があり、かつ深い考察力と理解力のある学生の参加が求められることを十分に留意して下さい。また、学生側からの活発な意見交換の場にしたいとも考えていますので受身的に授業を受ける姿勢にならないことを希望します。	１・イントロダクション ２・学校文法の概観 ３・移動が関与する構文（１） ４・移動が関与する構文（２） ５・移動が関与する構文（３） ６・補部と付加部の区別（１） ７・補部と付加部の区別（２） ８・補部と付加部の区別（３） ９・条件の副詞節（１） 10・条件の副詞節（２） 11・条件の副詞節（３） 12・Be動詞の機能（１） 13・Be動詞の機能（２） 14・総復習 ※　上記内容が変更する場合もあります。 ※　初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。 ※　本講義（前期）の過去の受講経験者は登録を控えて下さい。

到達目標	高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	各講義のテーマについて高校までに習った英文法の復習をして授業に臨んでください。 また、習った内容は次の講義のテーマの前提知識となります。十分な復習をして望んでください。
テキスト	初回授業にて指示します。
参考文献	『英語構文事典』大修館書店
評価方法	平常点＆授業参加率（30%）、試験、およびそれに順ずるもの（70%）の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。

13 年度以降	College Grammar（月３）	担当者	河原　宏之

講義目的、講義概要	授業計画
学校文法（School Grammar）と呼ばれる中学・高校で慣れ親しんだ英文法から更に一段高いレベルの英文法を学ぶことを目的とします。 一般的に広く認知されているに英文法の枠組から出発し、その発展型としての英文法の可能性を考察します。まず、基本例文などで馴染みの深いデータの観察から入り、これまでなされてきた英文法体系の一般化の方法を概観・検討します。それを踏まえた上で新たな視点から考察した結果、実はこれまで当然のこととして受け入れてきた英文法の在り方が実はまだまだ考察の余地があるものだということに気付かされます。 授業内容の性質上、英文法の公式を暗記したりするものではなく、英文法に興味があり、かつ深い考察力と理解力のある学生の参加が求められることを十分に留意して下さい。また、学生側からの活発な意見交換の場にしたいとも考えていますので受身的に授業を受ける姿勢にならないことを希望します。	１・イントロダクション ２・学校文法の概観 ３・解釈の曖昧性（１） ４・解釈の曖昧性（２） ５・SVOC構文の下位区分（１） ６・SVOC構文の下位区分（２） ７・代名詞と再帰代名詞の指示解釈（１） ８・代名詞と再帰代名詞の指示解釈（２） ９・一般動詞の意味特性（１） 10・一般動詞の意味特性（２） 11・一般動詞の意味特性（３） 12・情報構造（１） 13・情報構造（２） 14・総復習 ※　上記内容が変更する場合もあります。 ※　初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。 ※　本講義（後期）の過去の受講経験者は登録を控えて下さい。

到達目標	高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	各講義のテーマについて高校までに習った英文法の復習をして授業に臨んでください。 また、習った内容は次の講義のテーマの前提知識となります。十分な復習をして望んでください。
テキスト	初回授業にて指示します。
参考文献	『英語構文事典』大修館書店
評価方法	平常点＆授業参加率（30%）、試験、およびそれに順ずるもの（70%）の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。

13 年度以降	College Grammar	担当者	鈴木　英一

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的: 〈College Grammar for TOEIC〉と題して，TOEIC の成績向上をめざし，英文法の重要事項を学習するとともに，TOEIC の試験に頻出する問題を解きながら，英文法の重要な点を理解することを目的とする. **講義概要**: 1時限100分という授業時間を有効に使い，TOEIC の成績向上に資するため次のように授業を進める. 10分:宿題の答合せと質疑応答 60分:教科書の重要事項の学習 20分:TOEIC関連問題の解答 10分:答合せと問題点の解説 春学期では，5文型を中心とする文の構造と疑問文，感嘆文，命令文などの文の種類を学習し，それを踏まえて，文を構成する要素として，述語動詞，名詞，代名詞，形容詞，冠詞，副詞の特徴と用法を学習し，これらに関する練習問題を解く.	1. 文(1) :「主部+述部」，主部を欠く文，節・句・語 2. 文(2) :主部の要素と述部の要素 3. 文型 :5 文型，5 文型の拡張，7 文型 4. 述語動詞(1) :述部，述語動詞の種類，等位叙述型，補語 5. 述語動詞(2) :自動詞型，他動詞型，他動詞型の述部 6. 文の種類(1) :中心文型の文，文の種類，重文と複文 7. 文の種類(2) :疑問文，感嘆文，命令文，否定文 8. 名詞の種類 : 可算・不可算・集合名詞〈中間試験〉 9. 代名詞の種類(1) :人称代名詞，再帰代名詞 10. 代名詞の種類(2) :指示代名詞，不定代名詞 11. 形容詞(1) :形容詞の種類と用法 12. 形容詞(2) :形容詞の語順，数詞 13. 冠詞，不定冠詞，定冠詞，無冠詞の用法 14. 副詞，副詞の種類，副詞の用法，副詞の位置

到達目標	高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回の授業の準備のために，宿題の練習問題を解き，英語例文の日本語訳を含め，必ず予習すること.
テキスト	安井稔(1986) *A Shorter Guide to English Grammar* (開拓社)
参考文献	石井辰哉『TOEIC TEST 文法別問題集』，福居盛世『新 TOEIC テスト 900 点を突破する英文法トレーニング』
評価方法	出席は単位認定の前提とし，授業での発表(10%)と中間試験(45%)と期末試験(45%)に基づいて評価する.

13 年度以降	College Grammar	担当者	鈴木　英一

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的: 〈College Grammar for TOEIC〉と題して，TOEIC の成績向上をめざし，英文法の重要事項を学習するとともに，TOEIC の試験に頻出する問題を解きながら，英文法の重要な点を理解することを目的とする. **講義概要**: 1時限100分という授業時間を有効に使い，TOEIC の成績向上に資するため次のように授業を進める. 10分:宿題の答合せと質疑応答 60分:教科書の重要事項の学習 20分:TOEIC関連問題の解答 10分:答合せと問題点の解説 秋学期では，助動詞，関係代名詞，関係副詞を学習し，次に，動詞の不定詞と分詞の四つの用法と，時制，比較表現，否定表現，強調表現，仮定法，時制の一致や話法を学習し，合わせて，これらに関する練習問題を解く.	1. 助動詞の種類 2. 助動詞の用法 3. 非定形節(1) :不定詞 4. 非定形節(2) :分詞，動名詞 5. 関係代名詞，関係副詞 6. 時制(1) :現在時制の用法 7. 時制(2) :過去時制の用法 8. 現在完了の用法，過去完了の用法 **〈中間試験〉** 9. 進行形の用法 10. 能動態と受動態 11. 呼応 12. 時制の一致 13. 仮定法，直説法と仮定法 14. 話法 : 直接話法と間接話法

到達目標	高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回の授業の準備のために，宿題の練習問題を解き，英語例文の日本語訳を含め，必ず予習すること.
テキスト	安井稔(1986) *A Shorter Guide to English Grammar* (開拓社)
参考文献	石井辰哉『TOEIC TEST 文法別問題集』，福居盛世『新 TOEIC テスト 900 点を突破する英文法トレーニング』
評価方法	出席は単位認定の前提とし，授業での発表(10%)と中間試験(45%)と期末試験(45%)に基づいて評価する.

13 年度以降	College Grammar（月５）	担当者	河原　宏之

講義目的、講義概要	授業計画
学校文法（School Grammar）と呼ばれる中学・高校で慣れ親しんだ英文法から更に一段高いレベルの英文法を学ぶことを目的とします。 一般的に広く認知されているに英文法の枠組から出発し、その発展型としての英文法の可能性を考察します。まず、基本例文などで馴染みの深いデータの観察から入り、これまでなされてきた英文法体系の一般化の方法を概観・検討します。それを踏まえた上で新たな視点から考察した結果、実はこれまで当然のこととして受け入れてきた英文法の在り方が実はまだまだ考察の余地があるものだということに気付かされます。 授業内容の性質上、英文法の公式を暗記したりするものではなく、英文法に興味があり、かつ深い考察力と理解力のある学生の参加が求められることを十分に留意して下さい。また、学生側からの活発な意見交換の場にしたいとも考えていますので受身的に授業を受ける姿勢にならないことを希望します。	１・イントロダクション ２・学校文法の概観 ３・移動が関与する構文（１） ４・移動が関与する構文（２） ５・移動が関与する構文（３） ６・補部と付加部の区別（１） ７・補部と付加部の区別（２） ８・補部と付加部の区別（３） ９・条件の副詞節（１） 10・条件の副詞節（２） 11・条件の副詞節（３） 12・Be動詞の機能（１） 13・Be動詞の機能（２） 14・総復習 ※　上記内容が変更する場合もあります。 ※　初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。 ※　本講義（前期）の過去の受講経験者は登録を控えて下さい。

到達目標	高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	各講義のテーマについて高校までに習った英文法の復習をして授業に臨んでください。 また、習った内容は次の講義のテーマの前提知識となります。十分な復習をして望んでください。
テキスト	初回授業にて指示します。
参考文献	『英語構文事典』大修館書店
評価方法	平常点＆授業参加率（30%）、試験、およびそれに順ずるもの（70%）の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。

13 年度以降	College Grammar（月５）	担当者	河原　宏之

講義目的、講義概要	授業計画
学校文法（School Grammar）と呼ばれる中学・高校で慣れ親しんだ英文法から更に一段高いレベルの英文法を学ぶことを目的とします。 一般的に広く認知されているに英文法の枠組から出発し、その発展型としての英文法の可能性を考察します。まず、基本例文などで馴染みの深いデータの観察から入り、これまでなされてきた英文法体系の一般化の方法を概観・検討します。それを踏まえた上で新たな視点から考察した結果、実はこれまで当然のこととして受け入れてきた英文法の在り方が実はまだまだ考察の余地があるものだということに気付かされます。 授業内容の性質上、英文法の公式を暗記したりするものではなく、英文法に興味があり、かつ深い考察力と理解力のある学生の参加が求められることを十分に留意して下さい。また、学生側からの活発な意見交換の場にしたいとも考えていますので受身的に授業を受ける姿勢にならないことを希望します。	１・イントロダクション ２・学校文法の概観 ３・解釈の曖昧性（１） ４・解釈の曖昧性（２） ５・SVOC構文の下位区分（１） ６・SVOC構文の下位区分（２） ７・代名詞と再帰代名詞の指示解釈（１） ８・代名詞と再帰代名詞の指示解釈（２） ９・一般動詞の意味特性（１） 10・一般動詞の意味特性（２） 11・一般動詞の意味特性（３） 12・情報構造（１） 13・情報構造（２） 14・総復習 ※　上記内容が変更する場合もあります。 ※　初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。 ※　本講義（後期）の過去の受講経験者は登録を控えて下さい。

到達目標	高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	各講義のテーマについて高校までに習った英文法の復習をして授業に臨んでください。 また、習った内容は次の講義のテーマの前提知識となります。十分な復習をして望んでください。
テキスト	初回授業にて指示します。
参考文献	『英語構文事典』大修館書店
評価方法	平常点＆授業参加率（30%）、試験、およびそれに順ずるもの（70%）の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。

13 年度以降	College Grammar	担当者	倉林　秀男

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では実際に英語の歌詞を毎回一つ取り上げ、それを文法的な側面から理解することで、正確に歌詞の内容を理解し、そして歌詞の解釈、意味の理解をめざします。 例えば、Queenの”We are the Champions”の中にI've done my sentence, but committed no crimeという一節が出てきます。ここでどうして現在完了が使われているのか、そして実際に刑務所に入っているわけではないのにも関わらず刑期を終えたという表現になっているのか、ということを考えたりしながら、文法を理解し、さらに語感を養うことができると思っています。 授業は教員の講義ではなく、受講生同士のディスカッションやリサーチの時間を多く取りながら進めていきます。 高校時代に使った学習用の文法書や参考文献にあげる文法書を必ず１冊は持ってくること。	1.　イントロダクション 2.　Joe Yellow U.S.A. 3.　The Carpenters I Need to Be in Love 4.　Bruno Mars Just the Way You Are 5.　Les Misérables Do you hear the people sing? 6.　Adele When We Were Young 7.　Ariana Grande Baby I 8.　Katy Perry Firework 9.　Queen We are the Champions 10.　One Direction Best Song Ever 11.　Ben E King Stand By Me 12.　Eric Clpaton　Change the World 13.　Les Misérables One Day More 14.　まとめ

到達目標	高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	Youtube などを利用して事前に授業で扱う歌を繰り返し聞き、イメージした内容をまとめておくこと。
テキスト	なし。
参考文献	江川泰一郎『英文法解説』、田中茂範『表現英文法』、Michael Swan *Practical English Usage*
評価方法	授業後のリアクションペーパー30 パーセント、レポート 30 パーセント、試験 40 パーセント。

13 年度以降	College Grammar	担当者	倉林　秀男

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では実際に英語の歌詞を毎回一つ取り上げ、それを文法的な側面から理解することで、正確に歌詞の内容を理解し、そして歌詞の解釈、意味の理解をめざします。 例えば、Queenの”We are the Champions”の中にI've done my sentence, but committed no crimeという一節が出てきます。ここでどうして現在完了が使われているのか、そして実際に刑務所に入っているわけではないのにも関わらず刑期を終えたという表現になっているのか、ということを考えたりしながら、文法を理解し、さらに語感を養うことができると思っています。 授業は教員の講義ではなく、受講生同士のディスカッションやリサーチの時間を多く取りながら進めていきます。 高校時代に使った学習用の文法書や参考文献にあげる文法書を必ず１冊は持ってくること。	1.　イントロダクション 2.　Queen We are the Champions 3.　The Carpenters Yesterday Once More 4.　ABBA Thank you for the Music 5.　Backstreet Boys All I Have to Give 6.　Michael Jackson Heal the World 7.　Carly Rae Jepsen Call Me Maybe 8.　Stevie Wonder I Just to Say Call I Love You 9.　Les Misérables Stars 10.　Queen I was born to love you 11.　Wham! Last Christmas 12.　Christmas songs 13.　Christmas hymns 14.　まとめ

到達目標	高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	Youtube などを利用して事前に授業で扱う歌を繰り返し聞き、イメージした内容をまとめておくこと。
テキスト	なし。
参考文献	江川泰一郎『英文法解説』、田中茂範『表現英文法』、Michael Swan *Practical English Usage*
評価方法	授業後のリアクションペーパー30 パーセント、レポート 30 パーセント、試験 40 パーセント。

13 年度以降	College Grammar	担当者	府川　謹也

講義目的、講義概要	授業計画
コミュニケーションが「何を言いたいか」という<意味のやり取り>であることから、この授業では、“英文法”を意味の観点から徹底的に見直していきます。そのためには、「なぜこう言えても、ああ言えないのか？」と素朴な疑問を発することが大切です。 “No news is good news.”と“No tap water is 100% pure.”で“No”はどこを否定するのかと学生に訊くと、前者は“news”だけを否定する「語否定」で、後者は「水道水が 100 パーセント純粋などということはない」という「文否定」であると答えます。しかしどうしてそうなるのかと尋ねると、「そう教わったから」と、ただ記憶・暗記型の学習をしてきただけということがわかります。 しかしこの授業では、英文法学習を通じ、理由も考えずに、」言われた通りの正解を丸暗記する受動的な(passive)学習から脱却し、自ら積極的(active)に問いを立てて答を見つけ出そうとする姿勢を身に付けてもらうことを狙いとします。	1. モノの捉え方と表現の仕方（配布プリントに基づく講義） 2. （不定冠詞と複数語尾）vs.（はだか名詞）vs. 定冠詞（同上） 3. 基本文型―新しい視点から眺めて：基本文型とそうでない構文 4. 文の構造―文の多様性を探る:構造と意味から見た文の種類 5. 文の構造―文の意味階層/音声による文の分類 6. 動詞―動詞の分類/時制（tense）と相（aspect） 7. 動詞―進行形の意味機能 8. 動詞―完了形の意味機能 9. 否定―否定の正しい意味解釈のために：語否定と文否定 10. 否定―部分否定と全体否定/否定と焦点 11. 助動詞―根源的用法と認識的用法 12. 助動詞―個々の助動詞の意味用法 13. 受動文―/be 受動文の意味的･形式的制約 14. 受動文―be 受動文と get 受動文の使い分け

到達目標	高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	予習（テキストを読んで質問内容を整理）し、学習内容をノートにまとめる等の復習をしっかり行う。
テキスト	伊藤健三・ほか『大学生のための現代英文法』開拓社
参考文献	授業で適宜紹介する。
評価方法	定期試験 6 割、小テスト･課題 4 割。詳細あるいは変更のある場合は第 1 回目の授業で説明される。

13 年度以降	College Grammar	担当者	府川　謹也

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的と概要は春学期と同じですが、この授業を履修すると、高校までは「likeはto不定詞とing動名詞を取るのにdislikeは不定詞をとらない」と習って、ただそれを暗記してきたわけですが、実は「なぜそうなっているのか」ということはto不定詞のもつ意味とing動名詞のもつ意味に加え、dislikeの意味特性をよく考えれば、「なるほど！」わかってくるようになります。 また、高校生に「（訪問のときに）ドアをノックする」を英語で何と言うかと尋ねると、多くがknock the door と答えます。正解はknock *on* the door ですが，ではなぜそうなのかと問うと、「そう習ったからそう覚えている」としか答えません。しかし、実はどうしてonが必要なのかというような問い掛けこそが英語の勘を養う上でとても重要なことなのです。本授業を履修すればknock the doorもknock on the doorも、果てはknock at the doorも言えるが、それぞれ形が違うことから意味もまた異なるということがよくわかるようになります。	1. 時制の一致とは？（配布プリントに基づく講義） 2. 準動詞―不定詞の意味用法 3. 準動詞―動名詞と現在分詞の意味用法 4. 形容詞―名詞修飾だけが形容詞の機能ではない 5. 形容詞―visible starsとstars visibleの意味の違い 6. 名詞句と文構造の多様性―同格/文名詞句 7. 名詞句と文構造の多様性―間接疑問と潜伏疑問/話法 8. 代用表現―合理的な表現手段について：代名詞の用法 9. Do you prefer brown bread or {white /*white one}?など 10. Some ate rice and others rice.など 11. 関係詞―基本から派生へ：関係詞の機能と種類 12. 関係詞―制限的と非制限的用法/関係詞の二重制限 13. 特殊（?）構文―前置構文/倒置構文/強調構文/後置構文 14. John is tough to please. vs. John is eager to please.

到達目標	高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	予習（テキストを読んで質問内容を整理）し、学習内容をノートにまとめる等の復習をしっかり行う。
テキスト	伊藤健三・ほか『大学生のための現代英文法』開拓社
参考文献	授業で適宜紹介する。
評価方法	定期試験 6 割、小テスト･課題 4 割。詳細あるいは変更のある場合は第 1 回目の授業で説明される。

13 年度以降	College Grammar（水 3）	担当者	水口　学

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】本講義では、これまでに学習してきた文法事項を含めて英文法に対する理解を深め、確固たる知識として確立していくことを目的とする。英文法を深く理解するためには「理論」と「実践」の両要素が必要不可欠である。本講義では主に前者に焦点を当て、文法を単なる暗記するものではなく、「考える・研究する」対象として扱い、言語学の視点から英文法を考える。本講義で英文法に対するこれまでとは違った見方を提供できればと思う。 **【講義概要】**本講義は伝統文法に基づく英文法を基調とするが、生成文法論などの最近の言語学研究で得られた知見を積極的に取り込みながら、講義を進めていく。春学期は文の構成を中心に講義し、大枠となる文の種類、文の構成や文型、品詞の考察から始めて、動詞、時制、法助動詞、未来表現など文の骨格となる要素に焦点を当てる。その上で、受動態などの文の発展事項へと移り、文構成への理解を深めていくことにする。講義の前提として、英語学入門程度の知識があることが望ましい。	1.　講義の説明、英文法への導入 文の構成（1）：文の種類、文と節 2.　文の構成（2）：文の種類（続き）、文の形態と伝達内容 3.　文の構成（3）：文を構成する要素、品詞、文型 4.　動詞と時制（1）：動詞の分類、時と時制、相と時制 5.　動詞と時制（2）：時制各論（現在時制、過去時制） 6.　動詞と時制（3）：相各論（進行相、完了相） 7.　法助動詞（1）：法助動詞とその文法的特徴 8.　法助動詞（2）：法助動詞各論（用法上の違いなど） 9.　法助動詞（3）：法助動詞各論（続き） 10.　未来表現（1）：文法、表現形式、形式と意味 11.　未来表現（2）：形式と意味（続き） 12.　受動態（1）：「態」とは何か、受動態の文法的特徴 13.　受動態（2）：過去分詞の性質、be受動文とget受動文 14.　春学期のまとめ ※講義の進捗により授業計画が前後する可能性がある ※同一学期に同一教員の重複履修不可

到達目標	高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	講義で扱う箇所を毎回事前に予習し、問題意識を持って授業に臨むこと。事後は、教科書等講義で扱った例文や他の例文を確認しながら、講義の内容をレヴューすること。
テキスト	水鳥・岡田・西村著『大学英文法入門』英宝社、その他、適宜ハンドアウトを配布して使用する。
参考文献	必要に応じて授業内で指示する。
評価方法	期末試験（100%）に、講義への取り組みを加味して最終評価を決定する。

13 年度以降	College Grammar（水 3）	担当者	水口　学

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】本講義では、これまでに学習してきた文法事項を含めて英文法に対する理解を深め、確固たる知識として確立していくことを目的とする。英文法を深く理解するためには「理論」と「実践」の両要素が必要不可欠である。本講義では主に前者に焦点を当て、文法を単なる暗記するものではなく、「考える・研究する」対象として扱い、言語学の視点から英文法を考える。本講義で英文法に対するこれまでとは違った見方を提供できればと思う。 **【講義概要】**本講義は伝統文法に基づく英文法を基調とするが、生成文法論など、最近の言語学研究で得られた知見を積極的に取り込みながら、講義を進めていく。秋学期は従属節構造や関係詞など、文の埋め込み構造を中心に講義し、埋め込み節の特徴を概観し、考察する。それと関連して名詞や形容詞、副詞や否定など、埋め込み構造を理解する上で重要となる要素もできるだけ扱うことにし、英文法に対する幅広い理解を得られるようにしたい。講義の前提として、英語学入門程度の知識があることが望ましい。	1.　講義の説明、英文法への導入 仮定法（1）：「法」とは何か、直説法と仮定法 2.　仮定法（2）：直説法と仮定法（続き）、仮定法の特徴 3.　命令法：命令法の特徴、注意するべき点 4.　節構造（1）：節とは何か、節の種類、句と節の違い 5.　節構造（2）：節の機能、その注意点 6.　節構造（3）：動詞・形容詞に続く定・非定形節の特徴 7.　関係節（1）：関係節の文法的特徴、関係詞節の特徴 8.　関係節（2）：関係詞節の特徴（続き）、自由関係詞 9.　関係節（3）：不定関係節、擬似関係詞節、分裂文 10.　比較構文（1）：「比較」とは、比較の文法的特徴 11.　比較構文（2）：比較級・最上級の特徴、絶対比較 12.　否定(1)：否定の種類、文法的特徴、否定の作用域 13.　否定(2)：否定の作用域（続き）、否定の注意点 14.　秋学期のまとめ ※講義の進捗により授業計画が前後する可能性がある ※同一学期に同一教員の重複履修不可

到達目標	高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	講義で扱う箇所を毎回事前に予習し、問題意識を持って授業に臨むこと。事後は、教科書等講義で扱った例文や他の例文を確認しながら、講義の内容をレヴューすること。
テキスト	水鳥・岡田・西村著『大学英文法入門』英宝社、その他、適宜ハンドアウトを配布して使用する。
参考文献	必要に応じて授業内で指示する。
評価方法	期末試験（100%）に、講義への取り組みを加味して最終評価を決定する。

13 年度以降	College Grammar（水 4）	担当者	水口　学

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】本講義では、これまでに学習してきた文法事項を含めて英文法に対する理解を深め、確固たる知識として確立していくことを目的とする。英文法を深く理解するためには「理論」と「実践」の両要素が必要不可欠である。本講義では主に前者に焦点を当て、文法を単なる暗記するものではなく、「考える・研究する」対象として扱い、言語学の視点から英文法を考える。本講義で英文法に対するこれまでとは違った見方を提供できればと思う。 **【講義概要】**本講義は伝統文法に基づく英文法を基調とするが、生成文法論などの最近の言語学研究で得られた知見を積極的に取り込みながら、講義を進めていく。春学期は文の構成を中心に講義し、大枠となる文の種類、文の構成や文型、品詞の考察から始めて、動詞、時制、法助動詞、未来表現など文の骨格となる要素に焦点を当てる。その上で、受動態などの文の発展事項へと移り、文構成への理解を深めていくことにする。講義の前提として、英語学入門程度の知識があることが望ましい。	1. 講義の説明、英文法への導入 文の構成（1）：文の種類、文と節 2. 文の構成（2）：文の種類（続き）、文の形態と伝達内容 3. 文の構成（3）：文を構成する要素、品詞、文型 4. 動詞と時制（1）：動詞の分類、時と時制、相と時制 5. 動詞と時制（2）：時制各論（現在時制、過去時制） 6. 動詞と時制（3）：相各論（進行相、完了相） 7. 法助動詞（1）：法助動詞とその文法的特徴 8. 法助動詞（2）：法助動詞各論（用法上の違いなど） 9. 法助動詞（3）：法助動詞各論（続き） 10. 未来表現（1）：文法、表現形式、形式と意味 11. 未来表現（2）：形式と意味（続き） 12. 受動態（1）：「態」とは何か、受動態の文法的特徴 13. 受動態（2）：過去分詞の性質、be受動文とget受動文 14. 春学期のまとめ ※講義の進捗により授業計画が前後する可能性がある ※同一学期に同一教員の重複履修不可

到達目標	高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	講義で扱う箇所を毎回事前に予習し、問題意識を持って授業に臨むこと。事後は、教科書等講義で扱った例文や他の例文を確認しながら、講義の内容をレヴューすること。
テキスト	水鳥・岡田・西村著『大学英文法入門』英宝社、その他、適宜ハンドアウトを配布して使用する。
参考文献	必要に応じて授業内で指示する。
評価方法	期末試験（100%）に、講義への取り組みを加味して最終評価を決定する。

13 年度以降	College Grammar（水 4）	担当者	水口　学

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的】本講義では、これまでに学習してきた文法事項を含めて英文法に対する理解を深め、確固たる知識として確立していくことを目的とする。英文法を深く理解するためには「理論」と「実践」の両要素が必要不可欠である。本講義では主に前者に焦点を当て、文法を単なる暗記するものではなく、「考える・研究する」対象として扱い、言語学の視点から英文法を考える。本講義で英文法に対するこれまでとは違った見方を提供できればと思う。 **【講義概要】**本講義は伝統文法に基づく英文法を基調とするが、生成文法論など、最近の言語学研究で得られた知見を積極的に取り込みながら、講義を進めていく。秋学期は従属節構造や関係詞など、文の埋め込み構造を中心に講義し、埋め込み節の特徴を概観し、考察する。それと関連して名詞や形容詞、副詞や否定など、埋め込み構造を理解する上で重要となる要素もできるだけ扱うことにし、英文法に対する幅広い理解を得られるようにしたい。講義の前提として、英語学入門程度の知識があることが望ましい。	1. 講義の説明、英文法への導入 仮定法（1）：「法」とは何か、直説法と仮定法 2. 仮定法（2）：直説法と仮定法（続き）、仮定法の特徴 3. 命令法：命令法の特徴、注意するべき点 4. 節構造（1）：節とは何か、節の種類、句と節の違い 5. 節構造（2）：節の機能、その注意点 6. 節構造（3）：動詞・形容詞に続く定・非定形節の特徴 7. 関係節（1）：関係節の文法的特徴、関係詞節の特徴 8. 関係節（2）：関係詞節の特徴（続き）、自由関係詞 9. 関係節（3）：不定関係節、擬似関係詞節、分裂文 10. 比較構文（1）：「比較」とは、比較の文法的特徴 11. 比較構文（2）：比較級・最上級の特徴、絶対比較 12. 否定（1）：否定の種類、文法的特徴、否定の作用域 13. 否定（2）：否定の作用域（続き）、否定の注意点 14. 秋学期のまとめ ※講義の進捗により授業計画が前後する可能性がある ※同一学期に同一教員の重複履修不可

到達目標	高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	講義で扱う箇所を毎回事前に予習し、問題意識を持って授業に臨むこと。事後は、教科書等講義で扱った例文や他の例文を確認しながら、講義の内容をレヴューすること。
テキスト	水鳥・岡田・西村著『大学英文法入門』英宝社、その他、適宜ハンドアウトを配布して使用する。
参考文献	必要に応じて授業内で指示する。
評価方法	期末試験（100%）に、講義への取り組みを加味して最終評価を決定する。

2013 年度以降	College Grammar	担当者	田川　憲二郎

講義目的、講義概要	授業計画
皆さんは中学、高校で英文法の体系を一通り学んできたと思いますが、その過程で「なぜこの表現はこんな意味で使用されるのか？」、「この単語の品詞は何だろう？」といった疑問を数多く抱かれてきたと思います。しかし、受験という大目標を前にして、とりあえず丸暗記することでしのいできたのではないでしょうか？　受験から解放された今こそ、こうした疑問について徹底的に考えるチャンスです。本講義では、誰もが抱く英文法の疑問の中から、主として動詞、時制、アスペクトに関する問題を取り上げて、合理的な説明を与えることを試みます。文法書や辞書に網羅的に記述されている、英語のさまざまな文型、語法、慣用表現の例をたたき台にして、皆さんとともに納得のいく説明を見つけていきたいと思います。そして、授業での解説を鵜呑みにするのではなく、自分なりの解答を見つけていくよう努力してください。	1.　認知言語学と生成文法 2.　John BowersのPredicate Phrase 3.　iconicity 4.　進行相 5.　受動態 6.　完了相 7.　to 不定詞 8.　いわゆるSVOC文型（ 知覚動詞 ） 9.　いわゆるSVOC文型（ 指示・願望動詞 ） 10.　いわゆるSVOC文型（ 使役動詞 ） 11.　仮定法 12.　法助動詞 13.　法助動詞 14.　まとめ

到達目標	高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前にはテーマ表現の視覚的なイメージを試作し、事後は授業で提示されてイメージと比較する。
テキスト	英和辞典を持参してください。ジーニアス英和辞典を推奨しますが、他のものでも大丈夫です。
参考文献	David Lee. *Cognitive Linguistics: An Introduction.* Oxford University Press など。
評価方法	授業内小テスト 30%、授業への参加姿勢 10%、期末試験 60%の割合で算出します。

2013 年度以降	College Grammar	担当者	田川　憲二郎

講義目的、講義概要	授業計画
前期の講義を履修した人もしていない人も歓迎します。前期に引き続いての授業ですが、英文法や語法の中から、前期とは異なる項目を選んで、その仕組みを解明することを目指します。受験から解放された今こそ、皆さんが長年抱いていた諸問題に納得できる説明を見つける好機です。英語の表現を日本語に置き換え日本語のフィルターを通して理解する方法は捨て、native speakerが世界をどうとらえているか、という視点から英語の表現の背景にある考え方や感じ方をできるだけ直観的に理解することを目指します。後期は、主として非動詞系の諸現象に関わる問題を取り上げますが、授業での説明を鵜呑みにするのではなく、自分なりの解答を見つけていくことを試みてください。そして、英文法が直観的・視覚的に理解できるシステムなのだということを体感してください。	1.　iconicity 2.　metonymy 3.　notとnoの比較 4.　真理値（ いわゆる「鯨の構文」） 5.　真理値（ as well as, much less など） 6.　譲歩 7.　強調構文 8.　倍数表現 9.　時間表現のパラドックス 10.　不定代名詞、指示代名詞、人称代名詞 11.　同時性を強調する表現 12.　等位接続詞 13.　機能からみた文の分類 14.　まとめ

到達目標	高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前にはテーマ表現の視覚的なイメージを試作し、事後は授業で提示されてイメージと比較する。
テキスト	英和辞典を持参してください。ジーニアス英和辞典を推奨しますが、他のものでも大丈夫です。
参考文献	David Lee. *Cognitive Linguistics: An Introduction.* Oxford University Press など。
評価方法	授業内小テスト 30%、授業への参加姿勢 10%、期末試験 60%の割合で算出します。

13 年度以降	Communication Skills	担当者	K．フォード

講義目的、講義概要	授業計画
In this one-semester Communication Skills course students develop their persuasive and communicative language skills. This will involve reading, discussing, and presenting news articles that students choose themselves. Each student presents two or three news articles during the semester to their classmates and leads discussion based on questions they have prepared. Questions should promote opinion giving and logical reasoning. Students taking this course should feel confident that they have the ability to communicate opinions, and logical reasoning effectively in English	1. Introduction to course and class 2. Discussing an example news article 3. Developing mind map skills for presenting articles 4. Students present articles to small groups/discussion 5. Students present articles to small groups/discussion 6. Students present articles to small groups/discussion 7. Students present articles to small groups/discussion 8. Students present articles to small groups/discussion 9. Review of presentation/mind map skills 10. Students present articles to whole class/discussion 11. Students present articles to whole class/discussion 12. Students present articles to whole class/discussion 13. Students present articles to whole class/discussion 14. Speaking test

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Review of class instructional materials and discussion preparation for next class
テキスト	No textbook is required
参考文献	No reference book
評価方法	Active class participation (60%), oral reports/presentations (30%), speaking tests (10%)

13 年度以降	Communication Skills	担当者	K．フォード

講義目的、講義概要	授業計画
In this one-semester Communication Skills course students develop their persuasive and communicative language skills. This will involve reading, discussing, and presenting news articles that students choose themselves. Each student presents two or three news articles during the semester to their classmates and leads discussion based on questions they have prepared. Questions should promote opinion giving and logical reasoning. Students taking this course should feel confident that they have the ability to communicate opinions, and logical reasoning effectively in English	1. Introduction to course and class 2. Discussing an example news article 3. Developing mind map skills for presenting articles 4. Students present articles to small groups/discussion 5. Students present articles to small groups/discussion 6. Students present articles to small groups/discussion 7. Students present articles to small groups/discussion 8. Students present articles to small groups/discussion 9. Review of presentation/mind map skills 10. Students present articles to whole class/discussion 11. Students present articles to whole class/discussion 12. Students present articles to whole class/discussion 13. Students present articles to whole class/discussion 14. Speaking test

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Review of class instructional materials and discussion preparation for next class
テキスト	No textbook is required
参考文献	No reference book
評価方法	Active class participation (60%), oral reports/presentations (30%), speaking tests (10%)

13 年度以降	Communication Skills	担当者	R．ジョーンズ

講義目的、講義概要	授業計画
Beat the Monday morning blues by studying in this dynamic class. All students, who are prepared to try hard, are most welcome. Interesting topics will be covered in the lessons, there will be a lot of fun, and plenty of opportunities to speak and discuss a variety of issues in English. You do not need a textbook in the class because materials will be given to you. At the end of the course if you have studied hard, you will have increased your English speaking, listening and vocabulary abilities a great deal. **Student who have previously studied in the class are welcome - the content will be changed from last year.**	Below is a list of topics that may be covered. The order of the topics may change, or new ones introduced, depending on the class. More information will be provided in the first class. First Semester Topics 1. Introduction to the class and teacher. 2. Discussion of learning strategies. 3. Details of your teacher's background and discussion. 4. Reading, discussion and the use of the internet in learning. 5. Class surveys on learning styles. 6. Bad habits discussion related to smoking and drinking. 7. Smoking comparative analysis. 8. Drinking alcohol – customs examined around the world. 9. Historical discussion on how tobacco and alcohol became used in society. 10. Case study of the use of tobacco and addictions. 11. Researching tobacco use in Japan. 12. Should Japan change tobacco laws because of upcoming Olympic games. 13. Other bad habits discussed. 14. Review of the semesters study A change may be made to the exact content of this class especially if previous students return.

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students need to prepare for lessons, do homework and review lessons.
テキスト	No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students.
参考文献	
評価方法	Participation and effort = 20%, Class & Homework = 30%, Written reports = 20% End of Term assessment = 30%

13 年度以降	Communication Skills	担当者	R．ジョーンズ

講義目的、講義概要	授業計画
Beat the Monday morning blues by studying in this dynamic class. All students, who are prepared to try hard, are most welcome. Interesting topics will be covered in the lessons, there will be a lot of fun, and plenty of opportunities to speak and discuss a variety of issues in English. You do not need a textbook in the class because materials will be given to you. At the end of the course if you have studied hard, you will have increased your English speaking, listening and vocabulary abilities a great deal. **Student who have previously studied in the class are welcome - the content will be changed from last year.**	Below is a list of topics that may be covered. The order of the topics may change, or new ones introduced, depending on the class. More information will be provided in the first class. First Semester Topics: 1. Welcome back to class. 2. Introduction to the course of studies. 3. Marriage and divorce. 4. Cultural comparisons of marriage. 5. Marriage and divorce research. 6. Gender issues on marriage. 7. Pets. 8. Cultural perspective; pets in UK. 9. Benefits of pets. 10. Pet therapy. 11. Ways of relieving stress. 12. Zoos and animal welfare. 13. Environmental issues and species. 14. Review and discussion of semester topics. A change may be made to the exact content of this class especially if previous students return.

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students need to prepare for lessons, do homework and review lessons.
テキスト	No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students.
参考文献	
評価方法	Participation and effort = 20%, Class & Homework = 30%, Written reports = 20% End of Term assessment = 30%

13 年度以降	Communication Skills	担当者	N．ハミルトン

講義目的、講義概要	授業計画
The Culture and Societies of the British Isles This is an intermediate level content based course which seeks to: a) offer students an overview of British society, people and culture b) improve students' analytical and critical abilities towards foreign and Japanese culture c) broaden students' communicative abilities via listening and conversation practice around a variety of topics and issues In addition to viewing and discussing UK culture video material, students will study related written material and grammar structures. In addition, students need to make a 5-10 minute presentation and submit a 1500+ word report on any topic from British culture during the term.	Week 1: Getting to Know you - Introductions Week 2: Introduction to the Course (The U.K.) Week 3: England Week 4: Kings and Queens Week 5: The King James Bible and Shakespeare Week 6: London - An English City? Week 7: English Accents Week 8: Princess Diana - Queen of Hearts Week 9: British Popstars/ Music Week 10: "The Season" - An English Summer Week 11: To be arranged Week 12: Scotland - An Independent Country? Week 13: Students' Final Presentations Week 14: Students' Final Presentations

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Vocabulary Preview and Topic Preview will be required before each class.
テキスト	There is no set text but a file or folder will be needed to keep photocopied handouts.
参考文献	An electronic or smartphone dictionary is required at every class.
評価方法	30% Classwork; 30 % Homework; 20% Presentation; 20% Report.

13 年度以降	Communication Skills	担当者	N．ハミルトン

講義目的、講義概要	授業計画
The Culture and Societies of the British Isles This is an intermediate level content based course which seeks to: a) offer students an overview of British society, people and culture b) improve students' analytical and critical abilities towards foreign and Japanese culture c) broaden students' communicative abilities via listening and conversation practice around a variety of topics and issues In addition to viewing and discussing UK culture video material, students will study related written material and grammar structures. In addition, students need to make a 5-10 minute presentation and submit a 1500+ word report on any topic from British culture during the term.	Week 1: Second Semester Introduction/Britain's Got Talent! Week 2: Northern Ireland Week 3: The Troubles Week 4: Ireland - Saints and Scholars Week 5: Irish Music and Culture Week 6: Irish Accents and Blarney Week 7: British Television Week 8: Wales Week 9: British Humour Week 10: Brexit Week 11: British Youth Week 12: Christmas Special Week 13: Students' Final Presentations Week 14: Students' Final Presentations

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Vocabulary Preview and Topic Preview will be required before each class.
テキスト	There is no set text but a file or folder will be needed to keep photocopied handouts.
参考文献	An electronic or smartphone dictionary is required at every class.
評価方法	30% Classwork; 30 % Homework; 20% Presentation; 20% Report.

13 年度以降	Communication Skills（火１）	担当者	Ｒ．ダラム

講義目的、講義概要	授業計画
The purposes of the course are to show you how to: a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence); b) learn about and actively discuss **World Issues**, from an ***International*** point of view; c) enjoy *dynamic, interesting conversations* in smooth, Modern English; and d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and e) (perhaps) research and 'give' (present) a *class presentation*. ※同一学期に同一教員の重複履修不可	(* Note: This is a ***tentative*** schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.) Week 1: **Introductions**, in modern English: eye contact; proper handshake; suitable follow-up questions. Practice of Introductions in English. Listening and/or video exercise, & discussion. Week 2: Review/ practice of Introductions, using aliases. Asking *student suggestions for topics/themes which they would like to learn & study (especially with respect to* ***international*** *communication.)* Week 3: Learning how to socialize with people from various cultures. What is "EQ"; and how can we best use it, to have *more effective communication*? **Expressing your opinions**, part one: "How do you feel about _____?" & "What do you think of _____?"[Discussion of News/Current topics/songs/videos. (Focus on striving to obtain and *communicate* a balanced Global viewpoint.)] Week 4: ***Communicating about future plans.*** "What are your plans for Golden Week?"/ "What are your plans for Mother's Day?" Week 5: "How was your Golden Week?" / "How was your Mother's Day?": **communicating a past experience**...and elaborating (explaining a lot). Song-Listening exercise re: Mother's day. Discussion of plans/hopes for Mother's Day. Week 6: Song/ video exercise. Expressing your opinions, part two. **Directions**: asking for and communicating *street directions*, in international English. Perhaps: selecting and preparing for a class presentation. Week 7: Asking and telling other people about likes & dislikes. Pair practice, communicating. Perhaps: selecting and preparing for a class presentation. Ongoing assessment. Week 8: Discussing and communicating about your **hobbies**. Pair practice. Song-listening, and/or video watching/listening exercise. Continuous assessment. Week 9: Perhaps Student research/discussion about a variety of themes/books, such as: 'Global Warming' (a.k.a. 'Climate Change'); International Relations; 'GM' Food; Pros & Cons of the Internet; and many more current topics of interest. Pair practice, re: hobbies. Week 10: "What kind of _____ do you like?": Discussing and communicating about **movies, books, music, food, etc.**, in dynamic, modern English. Ongoing assessment of student abilities & class performance. Perhaps: refining possible presentation topics. Week 11: Examining & using of International vs. Domestic ***etiquette*** and ***manners***. Song exercise, International News exercise, and/or video exercise, with discussion. Preparations for making presentations. Week 12: Preparations for students' presentations. How to ask for and give: ***street directions***, and/or ***train directions***. Preparing for student presentations. Week 13: Continuous assessment. **Ways to meet new people** (using English); and how to continue/develop conversations with them. News, song-listening, and/or video exercise; with discussion thereof. Class presentations. Week 14: **Body Language & 'EQ'** Gestures & postures to be aware of, while travelling internationally. Pair practice. Listening exercise & discussion. Class presentations.

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Please do homework assignments as soon as possible (the same day; or the next day). Waiting until the last minute to do assignments/homework (‘ichiyazuke’) is NOT a good way to prepare for classes.
テキスト	We may be using audio book listening exercises; videos/movies; copies of recent International News articles, Internet research, songs & song-listening exercises; International (travel) videos, and/or library materials. IF a textbook is truly necessary, one will be chosen.
参考文献	特になし　Ｎ／Ａ
評価方法	The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you participate in class; how well you speak and elaborate (explain) in English, the ways in which you reason (think); how well you use the information taught to you; how well you work together with other class members; and so on. Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (20%); and homework/test(s)/presentations (45%).. These percentages may vary, depending upon student abilities and needs. Attendance is CRUCIAL (very important) in this class. You must NOT miss more than three classes, for any reason. Please also keep in mind that: a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F"); b) lateness will also greatly affect your grade in this course. (One late = 1/2 absence.)

13 年度以降	Communication Skills（火１）	担当者	Ｒ．ダラム

講義目的、講義概要	授業計画
The purposes of the course are to show you how to: a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence); b) learn about and actively discuss **World Issues**, from an ***International*** point of view; c) enjoy *dynamic, interesting conversations* in smooth, Modern English; d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and e) (if students are interested) research and 'give' (present) a *class presentation*. ※同一学期に同一教員の重複履修不可	(* Note: This is a tentative schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.) Week 1: Asking, replying, communicating, and elaborating about your Summer Break, using modern English. Pair practice. Song-listening exercise, and/or video exercise, and/or News exercises. Week 2: "What do you usually do ...?": discussing and communicating about your usual activities. Pair practice. (Perhaps: asking student suggestions for topics, themes, and festivals which they would like to learn about & study.) Continuous assessments. Week 3: "What do you usually do...?, part two. Discussing your usual practices on holidays/weekends/weeknights. More pair practice and discussion. Week 4: Hallowe'en: researching and discussing about this international 'festival'. Hallowe'en video. Ongoing assessment. Assignment of class presentations. Week 5: Researching and discussing 'Guy Fawkes Day' & Hallowe'en. Song/video/News exercise, and discussion thereof. Hallowe'en video, continued. Refinement and preparations for student presentations. Week 6: Asking and communicating how to ask for, give, and receive advice, in English. Pair practice. Ongoing assessments. Week 7: Train and subway directions, part 2. Choosing a country and Fall/Winter festival about which to make a presentation. Discussion about "EQ", and its effect on success in International communication, and on business success. Ongoing assessment. Preparations for student presentations. Week 8: Research and discussion re: Thanksgiving. Song-listening exercise. Student answers to "What are you thankful for?" Preparations for student presentations. Week 9: Pair practice re: Thanksgiving. English-listening and discussion exercise. Preparations for presentations. Ongoing assessments. Preparations for student presentations. Week 10: Start of in-class 'demonstration' mini-presentations/rehearsals. Conversation practice/explanations. Song and/or video exercise. Preparations for student presentations. Week 11: "How often do you ...?": discussing and communicating about activities, and frequency of doing those activities. Pair practice, and elaborating. Using dynamic English & "EQ" in conversations. Continuous assessments. Student presentations. Week 12: Finalizing preparations and practice for presentations. Song-listening activity and/or video, re: Christmas, and Christmas cultures in various countries. Class presentations. Week 13: Asking others, and elaborating about New Year's wishes and plans. Class presentations. Christmas video and/or Christmas song exercise. Student presentations. Week 14: "How was your Christmas?" & "How was your O Sho Gatsu?": discussing and communicating about your Winter Break. Pair practice. Discussing and talking about your "New Year's Resolutions". Final student presentations.

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Please do homework assignments as soon as possible (the same day; or the next day). Waiting until the last minute to do assignments/homework (‘ichiyazuke’) is NOT a good way to prepare for classes.
テキスト	We may be using dynamic conversation topics; videos/movies; song-listening exercises and discussion thereof; International newspaper articles, Internet research, and/or research materials from the library. If a textbook is necessary, one will be chosen.
参考文献	特になし　Ｎ／Ａ
評価方法	The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you participate in class; how well you speak and elaborate (explain) in English, the ways in which you reason (think); how well you use the information taught to you; how well you work together with other class members; and so on. Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (25%); and homework/test(s)/presentations (40%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs. Attendance is CRUCIAL (very important) in this class. You must NOT miss more than three classes, for any reason. Please also keep in mind that: a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F"); b) lateness will also greatly affect your grade in this course. (One late = 1/2 absence.)

13 年度以降	Communication Skills	担当者	R．J．バロウズ

講義目的、講義概要	授業計画
- UK Culture & Society This is an intermediate-level content based course which seeks to: a) offer students an overview of British society, people & culture b) improve students analytical & critical abilities towards foreign & Japanese culture c) broaden students' communicative abilities via listening & conversation practice around a variety of topics & issues In addition to viewing & discussing UK culture video material, students will study related written material and grammar structures. In addition, students need to make a 5 - 10 minute presentation and submit a 1,500+ word report on any topic from British culture during the term.	UK Culture I 1. Introductory Class 2. Introduction to Britain 3. British Pop 4. London 5. The Train 6. Heathrow Airport 7. William Shakespeare 8. Tea 9. Climbers 10. Sherlock Holmes 11. The Purple Violin 12. British Universities 13. An English Summer 14. Review

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Vocabulary preview (30 minutes) & Topic Preview will be required before each class (30 minutes)
テキスト	There is no set text but a file or folder will be needed to keep photocopied handouts. An electronic dictionary or smartphone is also required
参考文献	An electronic or smartphone dictionary is required at every class
評価方法	30 % Classwork, 30% Homework, 20% Presentation, 20% Report.

13 年度以降	Communication Skills	担当者	R．J．バロウズ

講義目的、講義概要	授業計画
- UK Culture & Society This is an upper-intermediate content based course which seeks to: a) offer students an overview of British society, people & culture b) improve students analytical & critical abilities towards foreign & Japanese culture c) broaden students' communicative abilities via listening & conversation practice around a variety of topics & issues In addition to viewing & discussing UK culture video material, students will study related written material and grammar structures. In addition, students need to make a 5 – 10 minute presentation and submit a 1,500+ word report on any topic from British culture during the term.	UK Culture II 1. Preview 2. The Seven Wonders of Britain 3. Wales 4. BBC World Service 5. The Mini 6. The Village 7. Agatha Christie 8. Charles Dickens 9. The Sea 10. Taxi 11. Public School 12. WOMAD 13. A British Christmas 14. Review

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Vocabulary preview (30 minutes) & Topic Preview will be required before each class (30 minutes)
テキスト	There is no set text but a file or folder will be needed to keep photocopied handouts. An electronic dictionary or smartphone is also required.
参考文献	An electronic or smartphone dictionary is required at every class
評価方法	30 % Classwork, 30% Homework, 20% Presentation, 20% Report.

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後 学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	Communication Skills	担当者	B．D．タッチャー

講義目的、講義概要	授業計画
In this class we will look at contemporary issues from persuasive perspectives. Students will develop their abilities to form and present cohesive opinions and arguments while responding to the opinions and ideas of others. The discussion topics will be chosen by the teacher and the students and presented in written (article) and verbal form.	1. Welcome – introductions and course outline.. 2. Getting to know you – conversation activities. 3. Narrative fictions – lying and describing. 4. Happiness – activities related to wellbeing 5. Fear – activities related to fear. 6. Structuring debates – debate analysis. 7. Persuasive language – types of persuasive language. 8. You, preparation – student topics for debate, planning. 9. Points of view – analyzing perspectives. 10. You, debate – student topics for debate, performance. 11. Sadness – activities relating to unhappiness. 12. Presentation planning – student preparation. 13. Presentations performance – presentations and discussion. 14. Presentations feedback – presentations analysis.

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後 学修の内容	Students will be expected to research and prepare materials before class and review after class
テキスト	None
参考文献	None
評価方法	Assessment will be based on in-class performance (50%) and final presentations (50%)

13 年度以降	Communication Skills	担当者	R．ウィルコックス

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term semi-elective course aims to further develop and build on language communication skills covered in Comprehensive English I/II and Reading Strategies I/II. The prerequisites for the Communication Skills are Comprehensive English I/II and Reading Skills I/II or a TOEIC score of 600 or above. Overall Objectives 1. Giving students maximum opportunity to practice and develop their communication skills; 2. To improve reading comprehension via critical analysis of text; 3. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process; 4. To foster a mature, analytical and constructively critical approach toward the development and presentation of one's own ideas and opinions;	Weeks 1. Text unit 1: Physical Fitness 2. Text unit 2: Blood Types 3. Text unit 3: Dreams 4. Text unit 4: Speed Dating 5. Preparation Mid Term Speaking Test 6. Mid Term Speaking Test 7. Text unit 5: Pets In Japan 8. Text unit 6: Stress 9. Preparation Student Debates 10. Student Debates 11. Text Unit 7: Fast Food 12. Text Unit 8: Shopping Trends 13. Preparation Final Presentation 14. Final Presentations

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Weekly homework assignments
テキスト	Textbook: Life Topics [Advanced], Shimaoka and Berman, Nan Undo, 2014, ISBN: 9784523177517
参考文献	Google Scholar
評価方法	Written reports 30%, Oral Test And Debate 35%, Final Presentation 35%

13 年度以降	Communication Skills	担当者	R．ウィルコックス

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term semi-elective course aims to further develop and build on language communication skills covered in Comprehensive English I/II and Reading Strategies I/II. The prerequisites for the Communication Skills are Comprehensive English I/II and Reading Skills I/II or a TOEIC score of 600 or above. Overall Objectives 1. Giving students maximum opportunity to practice and develop their communication skills; 2. To improve reading comprehension via critical analysis of text; 3. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process; 4. To foster a mature, analytical and constructively critical approach toward the development and presentation of one's own ideas and opinions;	Weeks 1. Text unit 9: Women and Work 2. Text unit 10: The Internet 3. Text unit 11: Kawaii 4. Text unit 12: Same Sex Marriage 5. Preparation Mid Term Speaking Test 6. Mid Term Speaking Test 7. Text unit 13: Japan Dresses Casual 8. Text unit 14: World Happiness 9. Preparation Student Debates 10. Student Debates 11. Text Unit 15: The Right to Die 12. Text Unit 16: Pet Cloning 13. Preparation Final Presentation 14. Final Presentations

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Weekly homework assignments
テキスト	Textbook: Life Topics [Advanced], Shimaoka and Berman, Nan Undo, 2014, ISBN: 9784523177517
参考文献	Google Scholar
評価方法	Written reports 30%, Oral Test And Debate 35%, Final Presentation 35%

13 年度以降	Communication Skills	担当者	J．スネール

講義目的、講義概要	授業計画
The goal of this course is to learn to use language and communication skills for persuading and influencing others about current topics that affect society.　A secondary goal is to improve reading comprehension and analysis of those current topics. The class will also emphasize developing persuasive presentation skills. It will build on skills developed in the first semester. Most of class time will be devoted to the discussion of reading materials. Students will be expected to be active and participate in a variety of speaking situations—in pairs, small groups, with the teacher, and before the class. Once during the semester, each student will have to lead a small group discussion. Students will also give one multimedia presentation to the class. Grades will be based on class participation, small group discussion leadership and a multimedia presentation.	Week1: Orientation, introduction to topic discussion Week2: Good observation, making pros and cons Week3: Writer point of view, background influences Week4: Making effective visual aids Week5: Good discussion questions Week6: Small group discussion workshop Week7: Leadership skills--1st (of 4) small group discussion presentations Week8: Leadership skills--2nd (of 4) small group discussion presentations Week9: Leadership skills--3rd (of 4) small group discussion presentations Week10: Leadership skills--4th (of 4) small group discussion presentations Week11: Making effective topic presentations Week12: Presentation workshop Week13: Presentations Week14: Presentations

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Preparation for small group discussion group leadership, multimedia presentation
テキスト	No class textbook.　Handout will be provided by the teacher
参考文献	To be introduced in class
評価方法	20% class participation 40% small group discussion leadership 40% multimedia presentation

13 年度以降	Communication Skills	担当者	J．スネール

講義目的、講義概要	授業計画
The goal of this course is to learn to use language and communication skills for persuading and influencing others about current topics that affect society.　A secondary goal is to improve reading comprehension and analysis of those current topics. The class will also emphasize developing persuasive presentation skills. It will build on skills developed in the first semester. Most of class time will be devoted to the discussion of reading materials. Students will be expected to be active and participate in a variety of speaking situations—in pairs, small groups, with the teacher, and before the class. Once during the semester, each student will have to lead a small group discussion. Students will also give one multimedia presentation to the class. Grades will be based on class participation, small group discussion leadership and a multimedia presentation.	Week1: Orientation, introduction to topic discussion Week2: Good observation, making pros and cons Week3: Writer point of view, background influences Week4: Making effective visual aids Week5: Good discussion questions Week6: Small group discussion workshop Week7: Leadership skills --1st (of 4) small group discussion presentations Week8: Leadership skills--2nd (of 4) small group discussion presentations Week9: Leadership skills--3rd (of 4) small group discussion presentations Week10: Leadership skills--4th (of 4) small group discussion presentations Week11: Making effective topic presentations Week12: Presentation workshop Week13: Presentations Week14: Presentations

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Preparation for small group discussion group leadership, multimedia presentation
テキスト	No class textbook.　Handout will be provided by the teacher.
参考文献	To be introduced in class
評価方法	20% class participation 40% small group discussion leadership 40% multimedia presentation

13 年度以降	Communication Skills（木２）	担当者	R．ダラム

講義目的、講義概要	授業計画
The purposes of the course are to show you how to: a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence); b) learn about and actively discuss **World Issues**, from an ***International*** point of view; c) enjoy *dynamic, interesting conversations* in smooth, Modern English; and d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and e) (perhaps) research and 'give' (present) a *class presentation*. ※同一学期に同一教員の重複履修不可	(* Note: This is a ***tentative*** schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.) Week 1: **Introductions**, in modern English: eye contact; proper handshake; suitable follow-up questions. Practice of Introductions in English. Listening and/or video exercise, & discussion. Week 2: Review/ practice of Introductions, using aliases. Asking *student suggestions for topics/themes which they would like to learn & study (especially with respect to* ***international*** *communication.)* Week 3: Learning how to socialize with people from various cultures. What is "EQ"; and how can we best use it, to have *more effective communication*? **Expressing your opinions**, part one: "How do you feel about _____?" & "What do you think of _____?"[Discussion of News/Current topics/songs/videos. (Focus on striving to obtain and *communicate* a balanced Global viewpoint.)] Week 4: ***Communicating about future plans.*** "What are your plans for Golden Week?"/ "What are your plans for Mother's Day?" Week 5: "How was your Golden Week?" / "How was your Mother's Day?": **communicating a past experience**...and elaborating (explaining a lot). Song-Listening exercise re: Mother's day. Discussion of plans/hopes for Mother's Day. Week 6: Song/ video exercise. Expressing your opinions, part two. **Directions**: asking for and communicating *street directions*, in international English. Perhaps: selecting and preparing for a class presentation. Week 7: Asking and telling other people about likes & dislikes. Pair practice, communicating. Perhaps: selecting and preparing for a class presentation. Ongoing assessment. Week 8: Discussing and communicating about your **hobbies**. Pair practice. Song-listening, and/or video watching/listening exercise. Continuous assessment. Week 9: Perhaps Student research/discussion about a variety of themes/books, such as: 'Global Warming' (a.k.a. 'Climate Change'); International Relations; 'GM' Food; Pros & Cons of the Internet; and many more current topics of interest. Pair practice, re: hobbies. Week 10: "What kind of _____ do you like?": Discussing and communicating about **movies, books, music, food, etc.**, in dynamic, modern English. Ongoing assessment of student abilities & class performance. Perhaps: refining possible presentation topics. Week 11: Examining & using of International vs. Domestic ***etiquette*** and ***manners***. Song exercise, International News exercise, and/or video exercise, with discussion. Preparations for making presentations. Week 12: Preparations for students' presentations. How to ask for and give: ***street directions***, and/or ***train directions***. Preparing for student presentations. Week 13: Continuous assessment. **Ways to meet new people** (using English); and how to continue/develop conversations with them. News, song-listening, and/or video exercise; with discussion thereof. Class presentations. Week 14: **Body Language & 'EQ'** Gestures & postures to be aware of, while travelling internationally. Pair practice. Listening exercise & discussion. Class presentations.

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Please do homework assignments as soon as possible (the same day; or the next day). Waiting until the last minute to do assignments/homework (‘ichiyazuke’) is NOT a good way to prepare for classes.
テキスト	We may be using audio book listening exercises; videos/movies; copies of recent International News articles, Internet research, songs & song-listening exercises; International (travel) videos, and/or library materials. IF a textbook is truly necessary, one will be chosen.
参考文献	特になし　N／A
評価方法	The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you participate in class; how well you speak and elaborate (explain) in English, the ways in which you reason (think); how well you use the information taught to you; how well you work together with other class members; and so on. Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (20%); and homework/test(s)/presentations (45%).. These percentages may vary, depending upon student abilities and needs. Attendance is CRUCIAL (very important) in this class. You must NOT miss more than three classes, for any reason. Please also keep in mind that: a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F"); b) lateness will also greatly affect your grade in this course. (One late = 1/2 absence.)

13 年度以降	Communication Skills（木２）	担当者	R．ダラム

講義目的、講義概要	授業計画
The purposes of the course are to show you how to: a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence); b) learn about and actively discuss **World Issues**, from an ***International*** point of view; c) enjoy *dynamic, interesting conversations* in smooth, Modern English; d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and e) (if students are interested) research and 'give' (present) a *class presentation*. ※同一学期に同一教員の重複履修不可	(* Note: This is a tentative schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.) Week 1: Asking, replying, communicating, and elaborating about your Summer Break, using modern English. Pair practice. Song-listening exercise, and/or video exercise, and/or News exercises. Week 2: "What do you usually do ...?": discussing and communicating about your usual activities. Pair practice. (Perhaps: asking student suggestions for topics, themes, and festivals which they would like to learn about & study.) Continuous assessments. Week 3: "What do you usually do...?, part two. Discussing your usual practices on holidays/weekends/weeknights. More pair practice and discussion. Week 4: Hallowe'en: researching and discussing about this international 'festival'. Hallowe'en video. Ongoing assessment. Assignment of class presentations. Week 5: Researching and discussing 'Guy Fawkes Day' & Hallowe'en. Song/video/News exercise, and discussion thereof. Hallowe'en video, continued. Refinement and preparations for student presentations. Week 6: Asking and communicating how to ask for, give, and receive advice, in English. Pair practice. Ongoing assessments. Week 7: Train and subway directions, part 2. Choosing a country and Fall/Winter festival about which to make a presentation. Discussion about "EQ", and its effect on success in International communication, and on business success. Ongoing assessment. Preparations for student presentations. Week 8: Research and discussion re: Thanksgiving. Song-listening exercise. Student answers to "What are you thankful for?" Preparations for student presentations. Week 9: Pair practice re: Thanksgiving. English-listening and discussion exercise. Preparations for presentations. Ongoing assessments. Preparations for student presentations. Week 10: Start of in-class 'demonstration' mini-presentations/rehearsals. Conversation practice/explanations. Song and/or video exercise. Preparations for student presentations. Week 11: "How often do you ...?": discussing and communicating about activities, and frequency of doing those activities. Pair practice, and elaborating. Using dynamic English & "EQ" in conversations. Continuous assessments. Student presentations. Week 12: Finalizing preparations and practice for presentations. Song-listening activity and/or video, re: Christmas, and Christmas cultures in various countries. Class presentations. Week 13: Asking others, and elaborating about New Year's wishes and plans. Class presentations. Christmas video and/or Christmas song exercise. Student presentations. Week 14: "How was your Christmas?" & "How was your O Sho Gatsu?": discussing and communicating about your Winter Break. Pair practice. Discussing and talking about your "New Year's Resolutions". Final student presentations.

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Please do homework assignments as soon as possible (the same day; or the next day). Waiting until the last minute to do assignments/homework (‘ichiyazuke’) is NOT a good way to prepare for classes.
テキスト	We may be using dynamic conversation topics; videos/movies; song-listening exercises and discussion thereof; International newspaper articles, Internet research, and/or research materials from the library. If a textbook is necessary, one will be chosen.
参考文献	特になし　N／A
評価方法	The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you participate in class; how well you speak and elaborate (explain) in English, the ways in which you reason (think); how well you use the information taught to you; how well you work together with other class members; and so on. Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (25%); and homework/test(s)/presentations (40%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs. Attendance is CRUCIAL (very important) in this class. You must NOT miss more than three classes, for any reason. Please also keep in mind that: a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F"); b) lateness will also greatly affect your grade in this course. (One late = 1/2 absence.)

13 年度以降	Communication Skills（木３）	担当者	Ｒ．ダラム

講義目的、講義概要	授業計画
The purposes of the course are to show you how to: a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence); b) learn about and actively discuss **World Issues**, from an ***International*** point of view; c) enjoy *dynamic, interesting conversations* in smooth, Modern English; and d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and e) (perhaps) research and 'give' (present) a *class presentation*. ※同一学期に同一教員の重複履修不可	(* Note: This is a ***tentative*** schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.) Week 1: **Introductions**, in modern English: eye contact; proper handshake; suitable follow-up questions. Practice of Introductions in English. Listening and/or video exercise, & discussion. Week 2: Review/ practice of Introductions, using aliases. Asking *student suggestions for topics/themes which they would like to learn & study (especially with respect to* ***international*** *communication.)* Week 3: Learning how to socialize with people from various cultures. What is "EQ"; and how can we best use it, to have *more effective communication*? **Expressing your opinions**, part one: "How do you feel about _____?" & "What do you think of _____?"[Discussion of News/Current topics/songs/videos. (Focus on striving to obtain and *communicate* a balanced Global viewpoint.)] Week 4: ***Communicating about future plans.*** "What are your plans for Golden Week?"/ "What are your plans for Mother's Day?" Week 5: "How was your Golden Week?" / "How was your Mother's Day?": **communicating a past experience**...and elaborating (explaining a lot). Song-Listening exercise re: Mother's day. Discussion of plans/hopes for Mother's Day. Week 6: Song/ video exercise. Expressing your opinions, part two. **Directions**: asking for and communicating *street directions*, in international English. Perhaps: selecting and preparing for a class presentation. Week 7: Asking and telling other people about likes & dislikes. Pair practice, communicating. Perhaps: selecting and preparing for a class presentation. Ongoing assessment. Week 8: Discussing and communicating about your **hobbies**. Pair practice. Song-listening, and/or video watching/listening exercise. Continuous assessment. Week 9: Perhaps Student research/discussion about a variety of themes/books, such as: 'Global Warming' (a.k.a. 'Climate Change'); International Relations; 'GM' Food; Pros & Cons of the Internet; and many more current topics of interest. Pair practice, re: hobbies. Week 10: "What kind of _____ do you like?": Discussing and communicating about **movies, books, music, food, etc.**, in dynamic, modern English. Ongoing assessment of student abilities & class performance. Perhaps: refining possible presentation topics. Week 11: Examining & using of International vs. Domestic ***etiquette*** and ***manners***. Song exercise, International News exercise, and/or video exercise, with discussion. Preparations for making presentations. Week 12: Preparations for students' presentations. How to ask for and give: ***street directions***, and/or ***train directions***. Preparing for student presentations. Week 13: Continuous assessment. **Ways to meet new people** (using English); and how to continue/develop conversations with them. News, song-listening, and/or video exercise; with discussion thereof. Class presentations. Week 14: **Body Language & 'EQ'** Gestures & postures to be aware of, while travelling internationally. Pair practice. Listening exercise & discussion. Class presentations.

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Please do homework assignments as soon as possible (the same day; or the next day). Waiting until the last minute to do assignments/homework (‘ichiyazuke’) is NOT a good way to prepare for classes.
テキスト	We may be using audio book listening exercises; videos/movies; copies of recent International News articles, Internet research, songs & song-listening exercises; International (travel) videos, and/or library materials. IF a textbook is truly necessary, one will be chosen.
参考文献	特になし　Ｎ／Ａ
評価方法	The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you participate in class; how well you speak and elaborate (explain) in English, the ways in which you reason (think); how well you use the information taught to you; how well you work together with other class members; and so on. Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (20%); and homework/test(s)/presentations (45%).. These percentages may vary, depending upon student abilities and needs. Attendance is CRUCIAL (very important) in this class. You must NOT miss more than three classes, for any reason. Please also keep in mind that: a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F"); b) lateness will also greatly affect your grade in this course. (One late = 1/2 absence.)

13 年度以降	Communication Skills（木３）	担当者	Ｒ．ダラム

講義目的、講義概要	授業計画
The purposes of the course are to show you how to: a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence); b) learn about and actively discuss **World Issues**, from an ***International*** point of view; c) enjoy *dynamic, interesting conversations* in smooth, Modern English; d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and e) (if students are interested) research and 'give' (present) a *class presentation*. ※同一学期に同一教員の重複履修不可	(* Note: This is a tentative schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.) Week 1: Asking, replying, communicating, and elaborating about your Summer Break, using modern English. Pair practice. Song-listening exercise, and/or video exercise, and/or News exercises. Week 2: "What do you usually do ...?": discussing and communicating about your usual activities. Pair practice. (Perhaps: asking student suggestions for topics, themes, and festivals which they would like to learn about & study.) Continuous assessments. Week 3: "What do you usually do...?, part two. Discussing your usual practices on holidays/weekends/weeknights. More pair practice and discussion. Week 4: Hallowe'en: researching and discussing about this international 'festival'. Hallowe'en video. Ongoing assessment. Assignment of class presentations. Week 5: Researching and discussing 'Guy Fawkes Day' & Hallowe'en. Song/video/News exercise, and discussion thereof. Hallowe'en video, continued. Refinement and preparations for student presentations. Week 6: Asking and communicating how to ask for, give, and receive advice, in English. Pair practice. Ongoing assessments. Week 7: Train and subway directions, part 2. Choosing a country and Fall/Winter festival about which to make a presentation. Discussion about "EQ", and its effect on success in International communication, and on business success. Ongoing assessment. Preparations for student presentations. Week 8: Research and discussion re: Thanksgiving. Song-listening exercise. Student answers to "What are you thankful for?" Preparations for student presentations. Week 9: Pair practice re: Thanksgiving. English-listening and discussion exercise. Preparations for presentations. Ongoing assessments. Preparations for student presentations. Week 10: Start of in-class 'demonstration' mini-presentations/rehearsals. Conversation practice/explanations. Song and/or video exercise. Preparations for student presentations. Week 11: "How often do you ...?": discussing and communicating about activities, and frequency of doing those activities. Pair practice, and elaborating. Using dynamic English & "EQ" in conversations. Continuous assessments. Student presentations. Week 12: Finalizing preparations and practice for presentations. Song-listening activity and/or video, re: Christmas, and Christmas cultures in various countries. Class presentations. Week 13: Asking others, and elaborating about New Year's wishes and plans. Class presentations. Christmas video and/or Christmas song exercise. Student presentations. Week 14: "How was your Christmas?" & "How was your O Sho Gatsu?": discussing and communicating about your Winter Break. Pair practice. Discussing and talking about your "New Year's Resolutions". Final student presentations.

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Please do homework assignments as soon as possible (the same day; or the next day). Waiting until the last minute to do assignments/homework (‘ichiyazuke’) is NOT a good way to prepare for classes.
テキスト	We may be using dynamic conversation topics; videos/movies; song-listening exercises and discussion thereof; International newspaper articles, Internet research, and/or research materials from the library. If a textbook is necessary, one will be chosen.
参考文献	特になし　Ｎ／Ａ
評価方法	The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you participate in class; how well you speak and elaborate (explain) in English, the ways in which you reason (think); how well you use the information taught to you; how well you work together with other class members; and so on. Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (25%); and homework/test(s)/presentations (40%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs. Attendance is CRUCIAL (very important) in this class. You must NOT miss more than three classes, for any reason. Please also keep in mind that: a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F"); b) lateness will also greatly affect your grade in this course. (One late = 1/2 absence.)

13 年度以降	Communication Skills	担当者	P．マッケビリー

講義目的、講義概要	授業計画
This one term, semi-elective course aims to further develop and build on language skills covered in Comprehensive English I/II and Reading Strategies I/II.　The prerequisites for the Communication Skills class are Comprehensive English I/II and Reading Strategies I/II or a TOEIC score of 600 or above. <u>Overall Objectives</u> 1. Giving students maximum opportunity to practice and develop their communication skills. 2. To improve reading comprehension via critical analysis of texts. 3. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process. 4. To foster the presentation of one`s own ideas.	Week 1- Course introduction Week 2- Japan`s demographic sweet spot Week 3- Easier Taught Than Done? Yale`s Most Popular Class Week 4- The case for America First Economics Week 5- African refugees enter Europe Week 6- Thousands Walk Out of Class, Urging Gun Control Week 7- A　Linguistic Melting Pot That Can Still Boil Over Week 8- Language issue divides Northern Ireland Week 9- Van Gogh`s obsession with Japan Week 10- Fish Instead of Flamin` Hot Cheetos, and Feeling Lost Week 11- Ohtani fans six, earns victory in MLB pitching debut Week 12- Saudi Arabia lightens up Week 13- Bitcoin comes to campus Week 14- Final Examination

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to spend 90 minutes each to preview and review course content and I recommend that they read English newspaper articles and watch BBC or CNN news programs.
テキスト	15 Selected Units of English through the News Media – 2019 Edition, M. Takahashi, N. Itoh, R. Powell, Asahi Press
参考文献	―
評価方法	Classroom Participation: 40%, Presentations: 30%, Final Exam: 30%

13 年度以降	Communication Skills	担当者	P．マッケビリー

講義目的、講義概要	授業計画
This one term, semi-elective course aims to further develop and build on language skills covered in Comprehensive English I/II and Reading Strategies I/II.　The prerequisites for the Communication Skills class are Comprehensive English I/II and Reading Strategies I/II or a TOEIC score of 600 or above. <u>Overall Objectives</u> 1. Giving students maximum opportunity to practice and develop their communication skills. 2. To improve reading comprehension via critical analysis of texts. 3. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process. 4. To foster the presentation of one`s own ideas.	Week 1- Course introduction Week 2- Japan`s demographic sweet spot Week 3- Easier Taught Than Done? Yale`s Most Popular Class Week 4- The case for America First Economics Week 5- African refugees enter Europe Week 6- Thousands Walk Out of Class, Urging Gun Control Week 7- A　Linguistic Melting Pot That Can Still Boil Over Week 8- Language issue divides Northern Ireland Week 9- Van Gogh`s obsession with Japan Week 10- Fish Instead of Flamin` Hot Cheetos, and Feeling Lost Week 11- Ohtani fans six, earns victory in MLB pitching debut Week 12- Saudi Arabia lightens up Week 13- Bitcoin comes to campus Week 14- Final Examination

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to spend 90 minutes each to preview and review course content and I recommend that they read English newspaper articles and watch BBC or CNN news programs.
テキスト	15 Selected Units of English through the News Media – 2019 Edition, M. Takahashi, N. Itoh, R. Powell, Asahi Press
参考文献	―
評価方法	Classroom Participation: 40%, Presentations: 30%, Final Exam: 30%

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後 学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	Discussion	担当者	A．ジェネス

講義目的、講義概要	授業計画
Continuing from the Spring, in this course we will use TED talk videos as a springboard to launch into discussion topics. We will spend 3 weeks on each topic. Students will watch and analyse videos, read articles, and practice discussing in pairs and in groups in the first two weeks. In the third week we will hold a “fishbowl discussion”, in which a small group discuss the topic in front of the class, bringing their own questions, ideas and research.	1. Course introduction/ Unit 6: Text generation 2. Unit 6: Discussion skills- Active listening 3. Unit 6: Fishbowl discussion 4. Unit 7: Barriers and bridges 5. Unit 7: Discussion skills- Giving examples 6. Unit 7: Fishbowl discussion 7. Unit 8: Personality types 8. Unit 8: Discussion skills- Restating ideas 9. Unit 8: Fishbowl discussion 10. Unit 9: Smart thinking 11. Unit 9: Discussion skills- Leading a discussion 12. Unit 9: Fishbowl discussion 13. Unit 10: Facing fear 14. Unit 10: Fishbowl discussion

到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。
事前・事後 学修の内容	Students will nee to read articles before attending class, research and present contemporary news topics, and write short reports.
テキスト	21st Century Reading Book 3.　Cengage.　ISBN 9781305265714
参考文献	Provided in class.
評価方法	Discussion participation 40%, Discussion reports 40%, Readings and quizzes 20%

13 年度以降	Discussion	担当者	J．E．マジャール

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to: (1) build students' confidence in English speaking skills: from sentence to presentation (2) improve students' skills in academic speaking strategies: organized and logical (3) build students' confidence in formulating speeches Attendance Policy: 1. If you have four (4) unexcused absences, you will automatically receive a grade of F. If you are more than 10 minutes late for class three (3) times it will count as one absence. 2. Turn off your cell phones in class. 3. Report your absence in advance whenever possible. 4. NO LATE HOMEWORK IS ACCEPTED (Very Important).	1. Hisaye Yamamoto 2. Hisaye Yamamoto 3. Maxine Hong Kingston 4. Maxine Hong Kingston 5. Bruce Chatwin 6. Bruce Chatwin 7. Midterm Exam 8. Toni Morrison 9. Toni Morrison 10. Kate Chopin 11. Kate Chopin 12. Sylvia Plath 13. Sylvia Plath 14. Final Exam

到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベル英語で集団討議ができるようにする。
事前・事後学修の内容	(1) Check the course schedule above and ask fellow students for the class material if you are absent, (2) Go through the content and digest the main points, (3) Use MyDOC to receive notices from me
テキスト	Handouts are prepared by the instructor.
参考文献	―
評価方法	In-class performance (20%), Midterm test (20%), Class assignments (20%), Final paper (40%)

13 年度以降	Discussion	担当者	J．E．マジャール

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to: (1) build students' confidence in English speaking skills: from sentence to presentation (2) improve students' skills in academic speaking strategies: organized and logical (3) build students' confidence in formulating speeches Attendance Policy: 1. If you have four (4) unexcused absences, you will automatically receive a grade of F. If you are more than 10 minutes late for class three (3) times it will count as one absence. 2. Turn off your cell phones in class. 3. Report your absence in advance whenever possible. 4. NO LATE HOMEWORK IS ACCEPTED (Very Important).	1. Kazuo Ishiguro 2. Kazuo Ishiguro 3. Ralph Ellison 4. Ralph Ellison 5. Joy Kogawa 6. Joy Kogawa 7. Midterm Exam 8. Sherman Alexie 9. Sherman Alexie 10. Upton Sinclair 11. Upton Sinclair 12. Julian Barnes 13. Julian Barnes 14. Final Exam

到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベル英語で集団討議ができるようにする。
事前・事後学修の内容	(1) Check the course schedule above and ask fellow students for the class material if you are absent, (2) Go through the content and digest the main points, (3) Use MyDOC to receive notices from me
テキスト	Handouts are prepared by the instructor.
参考文献	―
評価方法	In-class performance (20%), Midterm test (20%), Class assignments (20%), Final paper (40%)

13 年度以降	Discussion	担当者	N．ハミルトン

講義目的、講義概要	授業計画
This course is designed for students who are serious about wanting to communicate in English and express their opinions on various topics. If you want to develop your English skills and your aim is to be coherent and articulate in speaking English in your place of work in the future, this course is for you! This course will be a friendly and fun “English only” environment and will help you to speak English with confidence. We learn through our mistakes, so don’t worry if you make them. Students will be required to take part in the discussions and be willing to share their thoughts and ideas with others, while being respectful to the views of others.	Week 1: Orientation and Introductions Week 2: Discussion skills Week 3: How Japanese are you? (Culture) Week 4: Hikikomori Week 5: Millennials and “Snowflakes” Week 6: Cyber Bullying Week 7: Students choose topic Week 8: J-Pop vs. K-Pop Week 9: Harassment/Bullying Week 10: Text Language/Abbreviations Week 11: Women Only? Week 12: Students choose topic Week 13: Students’ Final Presentations Week 14: Students’ Final Presentations

到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Prepare discussion points and conduct prior research.
テキスト	Text materials will be provided
参考文献	Reference material will be provided or recommended in class.
評価方法	Grades are based on the following: Performance 50%; Final Presentations 50%

13 年度以降	Discussion	担当者	N．ハミルトン

講義目的、講義概要	授業計画
This course is designed for students who are serious about wanting to communicate in English and express their opinions on various topics. If you want to develop your English skills and your aim is to be coherent and articulate in speaking English in your place of work in the future, this course is for you! This course will be a friendly and fun “English only” environment and will help you to speak English with confidence. We learn through our mistakes, so don’t worry if you make them. Students will be required to take part in the discussions and be willing to share their thoughts and ideas with others, while being respectful to the views of others.	Week 1: Summer Adventures Week 2: Music Genres Week 3: Students choose topic Week 4: New Emperor/New Japan? Week 5: Students choose topic Week 6: Politics - Left, Right or Centre? Week 7: Students choose topic Week 8: We Japanese? Week 9: Careers Choices Week 10: Students choose topic Week 11: TBA Week 12: TBA Week 13: Students’ Final Presentations Week 14: Students’ Final Presentations

到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Prepare discussion points and conduct prior research.
テキスト	Text materials will be provided
参考文献	Reference material will be provided or recommended in class.
評価方法	Grades are based on the following: Performance 50%; Final Presentations 50%

13 年度以降	Discussion	担当者	E．フランコ

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to provide friendly forums for student discussions. Each given lesson will provide students with at least 60 minutes of speaking practice. The class goal is to develop and practice discussion skills in order to improve English speaking fluency. Students will learn target discussion skills then practice in pairs and small groups. The weekly topics are based on current local and global issues from English newspaper articles. Students will practice conversation and discussion skills through structured exercises expressing opinions and reasons, asking for opinions and reasons, sharing past experiences, agreeing and disagreeing.	1. Introductions, course outline, evaluation, requirements. 2. McDonald's Fast Food & Genetically Modified Foods. Pair and small groups discussion. Reading, listening & comprehension activities. 3. Harry Potter & Hollywood Blockbusters. Pair and small groups discussion. Reading, listening & comprehension activities. 4. Taylor Swift, Music & Philanthropy. Pair and small groups discussion. Reading, listening & comprehension activities. 5. Adventure Tourism & Traveling, do's and don'ts? Pair and small groups discussion. Reading, listening & comprehension activities. 6. Library research project task 1 – MBTI -Research your individual personality type, complete online personality questionnaire and worksheet. Reading, listening & comprehension activities. 7. Personality Types & Best Jobs. How to find a suitable partner & job. Pair and small groups discussion. Reading, listening & comprehension activities. 8. Stress, Destress & Mitigating techniques. Pair and small groups discussion. Reading, listening & comprehension activities. 9. Sports & endorphins. Pair and small groups discussion. Reading, listening & comprehension activities. 10. English, Lingua Franca. Pair and small groups discussion. Reading, listening & comprehension activities. 11. Learning & Education, learning styles How do we learn best? Pair and small groups discussion. Reading, listening & comprehension activities. 12. Healthy eating, Healthy diets, "We are what we eat". Pair and small groups discussion. Reading, listening & comprehension activities. 13. Happiness, what is happiness? Hedonistic behavior. Pair and small groups discussion. Reading, listening & comprehension activities. 14. The Internet, smart-phones & technology, how much is society changing? Pair and small groups discussion. Reading, listening & comprehension activities

到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Topic discussion and target skills research, speaking, asking opinions, reasons, clarification, confirmation, agreeing, disagreeing and negotiating skills research from the internet.
テキスト	Class notes and handouts will be provided every week
参考文献	Class notes and handouts will be provided every week
評価方法	1. Class participation & target skills 40% 2. Weekly class activities & discussion 60%

13 年度以降	Discussion	担当者	E．フランコ

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to provide friendly forums for student discussions. Each given lesson will provide students with at least 60 minutes of speaking practice. The class goal is to develop and practice discussion skills in order to improve English speaking fluency. Students will learn target discussion skills then practice in pairs and small groups. The weekly topics are based on current local and global issues from English newspaper articles. Students will practice conversation and discussion skills through structured exercises expressing opinions and reasons, asking for opinions and reasons, sharing past experiences, agreeing and disagreeing.	1. Introductions, course outline, evaluation, requirements. 2. Healthy eating, Heart Attack Grill. Pair and small groups discussion. Reading, listening & comprehension activities. 3. Toy Story 3 & Hollywood Movies. Pair and small groups discussion. Reading, listening & comprehension activities. 4. Lady Gaga, Music & Philanthropy. Pair and small groups discussion. Reading, listening & comprehension activities. 5. The River Nile, Egypt & Traveling, do's and don'ts? Pair and small groups discussion. Reading, listening & comprehension activities. 6. Library research project task 1 – Holland's Test -Research your individual personality type, complete online personality questionnaire and worksheet. 7. Personality Types & Best Jobs. How to find a suitable partner & job. Pair and small groups discussion. Reading, listening & comprehension activities. 8. Sleep & Stress, Destress & Mitigating techniques. Pair and small groups discussion. Reading, listening & comprehension activities. 9. Sports, Adidas recycling and feeling good. Pair and small groups discussion. Reading, listening & comprehension activities. 10. The History of English. Pair and small groups discussion. Reading, listening & comprehension activities. 11. Reverse classroom, learning & Education, learning styles. How do we learn best? Pair and small groups discussion. Reading, listening & comprehension activities. 12. Vegetarians Vegans, Healthy diets, "We are what we eat". Pair and small groups discussion. Reading, listening & comprehension activities. 13. Happiness, what is happiness? Hedonistic behavior. Pair and small groups discussion. Reading, listening & comprehension activities. 14. The Internet, smart-phones & technology, how much is society changing? Pair and small groups discussion. Reading, listening & comprehension activities

到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Topic discussion and target skills research, speaking, asking opinions, reasons, clarification, confirmation, agreeing, disagreeing and negotiating skills research from the internet
テキスト	Class notes and handouts will be provided every week
参考文献	Class notes and handouts will be provided every week
評価方法	1. Class participation & target skills 40% 2. Weekly class activities & discussion 60%

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後 学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	Discussion	担当者	S．ペイン

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to learn discussion principles and increase discussion skills, including expression your opinions, supporting your opinions with reasons and examples, explaining your opinions, listening to others' opinions, interrupting appropriately, asking for clarification, summarizing and restating information, etc. All these will be practiced in small groups and pairs while talking about current events and issues.	1. Course Introduction 2. Discussion language 3. Topic 1: brainstorming and research 4. Topic 1: discussion and debrief 5. Discussion language 6. Topic 2: brainstorm and research 7. Topic 2: discussion and debrief 8. Discussion language 9. Topic 3: brainstorm and research 10. Topic 3: discussion and debrief 11. Discussion language 12. Topic 4: brainstorm and research 13. Topic 4: discussion and debrief 14. Final Evalutation

到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベル英語で集団討議が できるようにする。
事前・事後 学修の内容	After each class there will be a research and preparation assignment to complete during the week.
テキスト	No textbook. Handouts will be provided
参考文献	none
評価方法	Grades will be based on: in-class participation 60%, homework assignments 20%, journal 20%

13 年度以降	Discussion	担当者	B．D．タッチャー

講義目的、講義概要	授業計画
This class focuses on developing students' ability to select good topics for discussion as well as forming and structuring their opinions to promote constructive discussion. Students will participate in, and lead, discussions at small group and full class level.	1. Welcome - introductions and course outline. 2. Getting to know you - conversation activities. 3. Agree / disagree - discussion activity. 4. Creating discussions - discussions structures. 5. My discussion articles - teacher topics. 6. Your discussion articles - student topics. 7. Opposing viewpoints - conversation activity. 8. Controversial issues - discussion activity. 9. Group work - your discussion articles. 10. Breaking news - researched discussion topics. 11. Your topics - partnering and preparation. 12. Discussion planning - student-led class discussion preparation. 13. Discussion presentations - discussion performance. 14. Final class work - student-led class discussions.

到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will be expected to research and prepare materials before class and review after class.
テキスト	None
参考文献	None
評価方法	Assessment will be based on in-class performance (40%) and student-led class discussions (60%)

13 年度以降	Discussion	担当者	B．D．タッチャー

講義目的、講義概要	授業計画
This class focuses on developing students' ability to select good topics for discussion as well as forming and structuring their opinions to promote constructive discussion. Students will participate in, and lead, discussions at small group and full class level.	1. Welcome - introductions and course outline. 2. Getting to know you - conversation activities. 3. Agree / disagree - discussion activity. 4. Creating discussions - discussions structures. 5. My discussion articles - teacher topics. 6. Your discussion articles - student topics. 7. Opposing viewpoints - conversation activity. 8. Controversial issues - discussion activity. 9. Group work - your discussion articles. 10. Breaking news - researched discussion topics. 11. Your topics - partnering and preparation. 12. Discussion planning - student-led class discussion preparation. 13. Discussion presentations - discussion performance. 14. Final class work - student-led class discussions.

到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will be expected to research and prepare materials before class and review after class.
テキスト	None
参考文献	None
評価方法	Assessment will be based on in-class performance (40%) and student-led class discussions (60%)

13 年度以降	Discussion	担当者	L．K．ハーキンス

講義目的、講義概要	授業計画
In this course, the students will be provided with ample opportunity to use English and express themselves through a combination of speaking activities, group discussions and presentaions. Students will do plenty of speaking in this class.	1. Introduction 2. The Famous/The Infamous Discussion 3. Famous/Infamous Presentation 4. My Turning Point Discussion 5. My Turning Point Presentation 6. Around the World Discussion 7. Around the World Presentation 8. Challenge facing Japan Discussion 9. Challenge Facing Japan Presentation 10. Mid Term Test 11. My Passion Discussion 12. My Passion Presentation Preparation 13. Final Presentation Day 1 14. Final Presentation Day 2

到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Homework will be assigned in this class
テキスト	No textbook will be assigned for this course
参考文献	—
評価方法	The students will be evaluated on attendance, participation in Discussions, the mid term test and the presentations.

13 年度以降	Discussion	担当者	L．K．ハーキンス

講義目的、講義概要	授業計画
Same as above	1. Introduction 2. Someone I admire Discussion 3. Someone I admire Presentation 4. The Supernatural Discussion 5. The Supernatural Presentation 6. My Favorite Film Disussion 7. My Favorite Film Presentation 8. Music Discussion 9. Music Presentation 10. Mid Term test 11. Christmas Discussion 12. Christmas Presentation Preparation 13. Christmas Presentation Day 1 14. Christmas Presentation Day 2

到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Homework will be assigned for this class
テキスト	No textbook will be assigned for his course
参考文献	—
評価方法	The students will be evaluated on attendance, participation in Discussions, the mid term test and the presentations.

13 年度以降	Discussion	担当者	P．マッケビリー

講義目的、講義概要	授業計画
You will read and discuss interesting topics and issues some of which lend themselves to making opinions. Some of the topics cover cultural aspects and social issues in North America while others are universal. There will also be the opportunity for students to lead discussions and decide on topics they are free to choose. It is expected that the students will do the necessary research on their discussion topic to state their opinion well. For researching their discussion topics, students are free to use the Internet, newspapers, magazines, academic journals, and books. It is hoped that these activities will enhance the students academic research skills.	Week 1- Course introduction Week 2- First Impressions Week 3- Traffic Jam Week 4- Who Needs the Local Language Week 5- Getting Ahead Week 6- Forever Single Week 7- Students Choose Discussion Topic Week 8- What are Friends For? Week 9- What's for Dinner? Week 10- Cyber Bullying Week 11- Taking Care of Father Week 12- Why Go To School? Week 13- Students Choose Discussion Topic Week 14- Students Choose Discussion Topic ＆ Final Examination

到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to spend 90 minutes each to preview and review course content and I recommend that they read English newspaper articles and watch BBC or CNN news programs.
テキスト	Impact Issues – Book 2　Author: Richard R. Day, Joseph Schaules, and Junko Yamanaka
参考文献	特になし
評価方法	It is necessary to participate in discussions. Students will be evaluated on their level of preparedness for class -30%, the discussions they prepare -30%, and the final examination. -40%

13 年度以降	Discussion	担当者	P．マッケビリー

講義目的、講義概要	授業計画
You will read and discuss interesting topics and issues some of which lend themselves to making opinions. Some of the topics cover cultural aspects and social issues in North America while others are universal. There will also be the opportunity for students to lead discussions and decide on topics they are free to choose. It is expected that the students will do the necessary research on their discussion topic to state their opinion well. For researching their discussion topics, students are free to use the Internet, newspapers, magazines, academic journals, and books. It is hoped that these activities will enhance the students academic research skills.	Week 1- Course Introduction Week 2- An International Relationship Week 3- Too Little, Too Late Week 4- Ben and Mike Week 5- Government Control Week 6- Living Together Week 7- Students Choose Discussion Topic Week 8- Size Discrimination Week 9- Who Will Help Them? Week 10- Finding the Right One Week 11- Dress for Success Week 12- A Mother's Story Week 13- Students Choose Discussion Topic Week 14- Students Choose Discussion Topic ＆ Final Examination

到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to spend 90 minutes each to preview and review course content and I recommend that they read English newspaper articles and watch BBC or CNN news programs.
テキスト	Impact Issues － Book 2　Author: Richard R. Day, Joseph Schaules, and Junko Yamanaka
参考文献	特になし
評価方法	It is necessary to participate in discussions. Students will be evaluated on their level of preparedness for class-30%, the discussions they prepare -30%, and the final examination -40%

13 年度以降	Public Speaking I	担当者	S．ペイン

講義目的、講義概要	授業計画
In today's world the ability to cogently present ideas is a vital professional tool. This course aims to train students to become excellent public speakers able to present their ideas effectively to any audience with confidence and professionalism. It also aims to raise awareness of what makes a great speech or presentation. There will be plenty of opportunities for on-stage practice and critical feedback.	1. Course Introduction 2. Components of an effective presentation 3. Posture, gestures, and eye contact 4. Voice inflection, volume, and speed 5. Visuals and effective slide design 6. Presentation introduction and conclusion 7. Presentation body 8. 2-minute presentation 9. 2 minute presentation 10. Informative and Persuasive presentations 11. Final Presentation workshop 12. Final Presentation workshop 13. Final Presentations 14. Final Presentations

到達目標	様々な形態や状況を想定して、中級レベル英語で口頭発表ができるようにする。
事前・事後学修の内容	After each class there will be an assignment to complete during the week. Students will also keep a journal.
テキスト	No textbook. Handouts will be provided.
参考文献	none
評価方法	Grades will be based on in-class participation 30%, homework assignments 20%, presentations 50%

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	Public Speaking I	担当者	D．マッキー

講義目的、講義概要	授業計画
In this course students will develop skills needed for confident and effective group communication - public speaking - and become familiar with some of the various types of public speaking. Students will be guided to choose suitable topics, research information, edit the information, decide how to present it memorably, and finally make appropriate presentations to an audience. Attention will also be paid to aspects of speaker performance such as getting attention, making eye-contact, voice, pace, posture, using space, and involving the listeners.	1. Introduction：Public speaking, why where when. It's not conversation. 2. What listeners need. What speakers do. 3. Topic：Explain a future plan. Ideas, research, homework ! 4. Write and edit 5. Decide how to do it, "props", visuals, practice 6. Presentations, evaluation, feedback. 7. Topic：teaching people how to do something. Ideas, research, homework ! 8. (as Week 4) 9. (as Week 5) 10. Presentations, evaluation, feedback. 11. Topic：making a persuasive argument. Ideas, research, homework ! 12. (as Week 4) 13. (as Week 5) 14. Presentations, evaluation, feedback.

到達目標	様々な形態や状況を想定して、中級レベルの英語で口頭発表ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will have research work preparing for, and then practicing presentations
テキスト	There is no text for this course, but the teacher will provide information and worksheet papers, so each student will need a clip file. You will need a good Learner's Dictionary, too.
参考文献	—
評価方法	There is no final exam. This is a performance course. The teacher's evaluation will be according to the work each student does in preparing and delivering a series of 3 presentations (50%). However, students will also be asked to evaluate each other, and these evaluations will contribute to the final grade (50%)

13 年度以降	Public Speaking I	担当者	D．マッキー

講義目的、講義概要	授業計画
In this course students will develop skills needed for confident and effective group communication - public speaking - and become familiar with some of the various types of public speaking. Students will be guided to choose suitable topics, research information, edit the information, decide how to present it memorably, and finally make appropriate presentations to an audience. Attention will also be paid to aspects of speaker performance such as getting attention, making eye-contact, voice, pace, posture, using space, and involving the listeners.	1. Introduction：Public speaking, why where when. It's not conversation. 2. What listeners need. What speakers do. 3. Topic：Explain a future plan. Ideas, research, homework ! 4. Write and edit 5. Decide how to do it, "props", visuals, practice 6. Presentations, evaluation, feedback. 7. Topic：teaching people how to do something. Ideas, research, homework ! 8. (as Week 4) 9. (as Week 5) 10. Presentations, evaluation, feedback. 11. Topic：making a persuasive argument. Ideas, research, homework ! 12. (as Week 4) 13. (as Week 5) 14. Presentations, evaluation, feedback.

到達目標	様々な形態や状況を想定して、中級レベルの英語で口頭発表ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will have research work preparing for, and then practicing presentations
テキスト	There is no text for this course, but the teacher will provide information and worksheet papers, so each student will need a clip file. You will need a good Learner's Dictionary, too.
参考文献	—
評価方法	There is no final exam. This is a performance course. The teacher's evaluation will be according to the work each student does in preparing and delivering a series of 3 presentations (50%). However, students will also be asked to evaluate each other, and these evaluations will contribute to the final grade (50%)

13 年度以降	Public Speaking I	担当者	J．N．ウェンデル

講義目的、講義概要	授業計画
Speeches This course will develop both the language skills and strategies necessary to give effective speeches in English. First, we will examine the elements of effective public speaking and communication through discussions and the analysis of examples of speeches. Students will then give their own speeches, both on assigned topics and on topics of their own choosing. An important part of effective public speaking is having sufficient command of background information on your topics, so students can expect to do a fair amount of background reading and research during the semester.	1. Orientation 2. Elements of a speech—the purpose 3. Elements of a speech—the design 4. Evaluating a speech—the science 5. Evaluating a speech—the art 6. Delivering a speech—the parts 7. Delivering a speech—the design 8. Delivering a speech—the science 9. Delivering a speech—the art 10. Student speeches—1st draft 11. Student speeches—2nd draft 12. Student speeches—group 1 13. Student speeches—group 2 14. Evaluation and summary

到達目標	様々な形態や状況を想定して、中級レベルの英語で口頭発表ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare speeches and conduct background research. (4 hours homework each week.)
テキスト	**Reading materials will be distributed in class.**
参考文献	Reference materials will be distributed in class
評価方法	Speech preparation and speech delivery = 60%. Participation = 40%

13 年度以降	Public Speaking II	担当者	J．N．ウェンデル

講義目的、講義概要	授業計画
Presentations This course will develop both the language skills and strategies necessary to give effective presentations in English. First, we will examine the elements of effective presentations and communication through discussions and the analysis of several presentations. Students will then give their own presentations. An important part of effective public speaking is having sufficient command of background information on your topics, so students can expect to do a fair amount of background reading and research during the semester.	1. Orientation 2. Elements of a presentation—the purpose 3. Elements of a presentation—the design 4. Evaluating a presentation—the science 5. Evaluating a presentation—the art 6. Delivering a presentation—the parts 7. Delivering a presentation—the design 8. Delivering a presentation—the science 9. Delivering a presentation—the art 10. Student presentations—1st draft 11. Student presentations—2nd draft 12. Student presentations—group 1 13. Student presentations—group 2 14. Evaluation and summary

到達目標	様々な形態や状況を想定して、「Public Speaking I」より高いレベルの英語で口頭発表ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare presentations and conduct background research. (4 hours homework each week.)
テキスト	**Reading materials will be distributed in class.**
参考文献	Reference materials will be distributed in class
評価方法	Presentation preparation and presentation delivery = 60%. Participation = 40%

13 年度以降	Debate I	担当者	N．ハミルトン

講義目的、講義概要	授業計画
This class is designed with two goals in mind: 1) to help students develop debating skills - to understand issues, to articulate or defend their views on those issues. 2) to help students improve their overall language skills - speaking, listening and critical thinking. Debate topics will be decided in advance and will include a variety of enjoyable and challenging topics. Students are required to have a notebook in which articles from the news will be pasted and described. These will serve as a foundation for our warm-up debates. We will watch some of the famous debates in Western history, evaluating them from a critical point of view - looking at debating style, techniques, reasoning and speaking skills, and the overall persuasiveness of the candidates.	Week 1: Class Introduction and Overview Week 2: Mini Lecture on Debating Week 3: Debate Preparations 1 Week 4: Debate and Summations Week 5: Mini Lecture on Debating Week 6: Debate Preparations 2 Week 7: Debate and Summations Week 8: Mini Lecture on Debating Week 9: Debate Preparations 3 Week 10: Debate and Summations Week 11: Mini Lecture on Debating Week 12: Debate Preparations 4 Week 13: Debate and Summations Week 14: Final Group Summations

到達目標	討論という状況で、リサーチを基にして、中級レベルの英語で思考し、討論できるようにする。
事前・事後学修の内容	Prepare for the debates, conduct research and complete notebook requirement.
テキスト	Material will be provided.
参考文献	Reference material will be provided or recommended in class.
評価方法	Grades are based on the following: In-class performance 50%; Homework 25%; Final discussion 25%

13 年度以降	Debate II	担当者	N．ハミルトン

講義目的、講義概要	授業計画
This course is a continuation of Debate I, but will address topics of greater domestic and world importance. It is designed with two goals in mind: to help students develop debating skills- understand issues and to articulate and defend their views on those issues; to help students improve their overall language skills- speaking, listening and critical thinking. Topics will be decided in advance and will include a variety of enjoyable and challenging topics. Students are required to have a notebook in which articles from the news will be pasted and described. These will serve as a foundation for our warm-up debates. We will watch some of the famous debates in Western history, evaluating them from a critical point of view - looking at debating style, techniques, reasoning and speaking skills, and the overall persuasiveness of the candidates.	Week 1: Class Introduction and Overview Week 2: Mini Lecture on Debating Week 3: Debate Preparations 1 Week 4: Debate and Summations Week 5: Mini Lecture on Debating Week 6: Debate Preparations 2 Week 7: Debate and Summations Week 8: Mini Lecture on Debating Week 9: Debate Preparations 3 Week 10: Debate and Summations Week 11: Mini Lecture on Debating Week 12: Debate Preparations 4 Week 13: Debate and Summations Week 14: Final Group Summations

到達目標	「Debate I 」より高いレベルで、討論という状況で、リサーチを基にして、英語で思考し討論できるようにする。
事前・事後学修の内容	Prepare for the debates, conduct research and complete notebook requirement.
テキスト	Material will be provided.
参考文献	Reference material will be provided or recommended in class.
評価方法	Grades are based on the following: In-class performance 50%; Homework 25%; Final discussion 25%

13 年度以降	Academic Lecture	担当者	A．ゾーリンジャー

講義目的、講義概要	授業計画
(Japanese Art History) This course will focus on the history and culture of Japanese art with emphasis on Edo-period painting. To accommodate each lecture, and to aid students in gaining an understanding of the principal styles and characteristics of paintings, numerous slides will be shown featuring examples of representative works. Supplemental readings and associated exercises will be provided to ensure comprehension of specialized terms and to facilitate an understanding of historical and cultural context. By the completion of the course, students will be able to identify and distinguish principal painting styles and their features and to convey this understanding in an articulate and informed manner. The course will conclude with a class trip to a designated museum exhibition featuring works which have been studied in class. Students will compose final, exhibition reports based on their observations and analysis.	1. Course Introduction 2. A Basic Vocabulary of Japanese Art History 3. Principles and Materials of Japanese Painting 4. Yamato-e 大和絵 "Pictures of Japan" 5. Paintings and Artists of the Tosa school（土佐派） 6. Paintings and Artists of the Kanō school（狩野派） 7. Paintings and Artists of the Kanō school（狩野派） 8. Paintings and Artists of the Rimpa school（琳派） 9. Paintings and Artists of the Rimpa school（琳派） 10. Paintings and Artists of the Literati school / Nanga school（文人画・南画） 11. Paintings and Artists of the Maruyama-Shijō school（円山・四条派） 12. Paintings and Artists of the Maruyama-Shijō school（円山・四条派） 13. Museum Exhibition Trip 14. Review and Final Assessment

到達目標	総合的な英語力を習得し、英語で行われる講義に対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are required to complete all assigned readings and homework prior to each class.
テキスト	Lecture outlines and supplementary reading materials will be provided by the instructor.
参考文献	A comprehensive reading list will be distributed in class.
評価方法	Evaluations will be based on participation (15%), the completion of homework and in-class assignments (40%), and achievement on a final report (45%).

13 年度以降	Academic Lecture	担当者	A．ゾーリンジャー

講義目的、講義概要	授業計画
(Japanese Art History) This course will focus on the history and culture of Japanese art with emphasis on Edo-period painting. To accommodate each lecture, and to aid students in gaining an understanding of the principal styles and characteristics of paintings, numerous slides will be shown featuring examples of representative works. Supplemental readings and associated exercises will be provided to ensure comprehension of specialized terms and to facilitate an understanding of historical and cultural context. By the completion of the course, students will be able to identify and distinguish principal painting styles and their features and to convey this understanding in an articulate and informed manner. The course will conclude with a class trip to a designated museum exhibition featuring works which have been studied in class. Students will compose final, exhibition reports based on their observations and analysis.	1. Course Introduction 2. A Basic Vocabulary of Japanese Art History 3. Principles and Materials of Japanese Painting 4. Yamato-e 大和絵 "Pictures of Japan" 5. Paintings and Artists of the Tosa school（土佐派） 6. Paintings and Artists of the Kanō school（狩野派） 7. Paintings and Artists of the Kanō school（狩野派） 8. Paintings and Artists of the Rimpa school（琳派） 9. Paintings and Artists of the Rimpa school（琳派） 10. Paintings and Artists of the Literati school / Nanga school（文人画・南画） 11. Paintings and Artists of the Maruyama-Shijō school（円山・四条派） 12. Paintings and Artists of the Maruyama-Shijō school（円山・四条派） 13. Museum Exhibition Trip 14. Review and Final Assessment

到達目標	総合的な英語力を習得し、英語で行われる講義に対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are required to complete all assigned readings and homework prior to each class.
テキスト	Lecture outlines and supplementary reading materials will be provided by the instructor.
参考文献	A comprehensive reading list will be distributed in class.
評価方法	Evaluations will be based on participation (15%), the completion of homework and in-class assignments (40%), and achievement on a final report (45%).

13 年度以降	Academic Lecture (Understanding International Relations)	担当者	伊藤　兵馬

講義目的、講義概要	授業計画
As societies have become more “globalized” in the recent years, we often come across the term “international relations”. Despite such common usage of the term, it is not an easy task to define international relations. What is the definition of international relations? This course aims to tackle this challenging task. It is designed to help students enhance their knowledge and understanding of international relations. As shown in the course schedule, the course begins with a basic explanation of the term international relations. Students will be exposed to various aspects of the subject throughout the semester. In the first half of the semester, theoretical aspects of international relations will be mainly discussed. In the second half, the focus will be placed on the actual historical events that took place during the Cold War to further increase the understanding of the subject. **This course is taught in English**. It is an ideal course for students who wish to learn international relations in English. This is a lecture course but the style may be modified according to the number of students enrolled.	1. Introduction 2. Why Study International Relations? 3. Nation-State and International Relations 4. Theories of International Relations/ Overview 5. Theories of International Relations/ Discussion 6. Various Aspects of International Relations 7. Interim Course Review 8. Midterm Examination/ The Cold War: A Brief Introduction 9. The Cold War: How it began 10. The Cold War: The 1950s 11. The Cold War: The 1960s 12. The Cold War: The 1970s 13. The Cold War: How it ended 14. Course Review

到達目標	総合的な英語力を習得し、英語で行われる講義に対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare for each class by reviewing lecture and class discussion notes.
テキスト	To be announced.
参考文献	To be announced.
評価方法	Evaluations will be made according to midterm examination (50%), and final examination (50%). Details will be explained by the instructor in the first class.

13 年度以降	Academic Lecture (Understanding International Relations)	担当者	伊藤　兵馬

講義目的、講義概要	授業計画
As societies have become more “globalized” in the recent years, we often come across the term “international relations”. Despite such common usage of the term, it is not an easy task to define international relations. What is the definition of international relations? This course aims to tackle this challenging task. It is designed to help students enhance their knowledge and understanding of international relations. As shown in the course schedule, the course begins with a basic explanation of the term international relations. Students will be exposed to various aspects of the subject throughout the semester. In the first half of the semester, theoretical aspects of international relations will be mainly discussed. In the second half, the focus will be placed on the actual historical events that took place during the Cold War to further increase the understanding of the subject. **This course is taught in English**. It is an ideal course for students who wish to learn international relations in English. This is a lecture course but the style may be modified according to the number of students enrolled.	1. Introduction 2. Why Study International Relations? 3. Nation-State and International Relations 4. Theories of International Relations/ Overview 5. Theories of International Relations/ Discussion 6. Various Aspects of International Relations 7. Interim Course Review 8. Midterm Examination/ The Cold War: A Brief Introduction 9. The Cold War: How it began 10. The Cold War: The 1950s 11. The Cold War: The 1960s 12. The Cold War: The 1970s 13. The Cold War: How it ended 14. Course Review

到達目標	総合的な英語力を習得し、英語で行われる講義に対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare for each class by reviewing lecture and class discussion notes.
テキスト	To be announced.
参考文献	To be announced.
評価方法	Evaluations will be made according to midterm examination (50%), and final examination (50%). Details will be explained by the instructor in the first class.

13 年度以降	Listening and Pronunciation（水 3）	担当者	中田　ひとみ

講義目的、講義概要	授業計画
目的 本講義では英語の楽曲をもとに、様々な音声上の特徴を学習する。洋楽の歌詞には日本人の苦手とする音の要素がコンパクトに集約されているものが多く見られる。授業では一回につき一つ、音声特徴が楽譜（音符）と対応している楽曲を取り上げ、発音の練習及び歌唱の実現へと結びつけていく。尚、リスニング力の強化として NetAcademy2 の素材を用いたディクテーション、及び楽曲の背景を説明したオーディオ教材を使用する。 概要 授業は演習形式で進め、必要に応じて会話活動を取り入れる。受身の姿勢で講義を漫然と聞くのではなく、主体的に「授業に参加する」姿勢が不可欠である。音読、口頭練習、歌唱、そしてペアワークにも力を入れること。	1. コースの説明／概要・録音① 2. 英語の楽曲について＋e-learning への取り組み方法 3. 『ABC song』個別音とアルファベット 4. 『This Land is Your Land』強拍/弱拍のメリハリ 5. 『My Grandfather’s Clock』日本人の苦手な音① 6. 『Moon River』日本人の苦手な音② 7. Web 上の音声教材によるリスニング・発音の強化 8. 中間テスト・映像を介した英語 9. 『We Will Rock You』シラブルの“格差” 10. 『Top Of The World』押韻を意識する 11. 『楽曲未定』連結・同化などの減約 12. イントネーションとメロディーの関係 13. 期末テスト・録音② 14. 総復習 ： 今期のまとめ

到達目標	英語ネイティヴレヴェルのリスニングと発音ができるようにする。
事前・事後学修の内容	次回授業でカバーする語彙や専門用語の意味を調べる・授業後は各 Lesson 最後のページを各自復習
テキスト	指定教科書なし（毎回授業で資料を配布します）
参考文献	必要に応じて文献やウェブサイトを紹介します
評価方法	中間・期末試験の結果（60%）の他に課題提出（20%）や授業への積極的な参加（20%）を加味して総合的に評価します

13 年度以降	Listening and Pronunciation（水 3）	担当者	中田　ひとみ

講義目的、講義概要	授業計画
目的 本講義では英語の楽曲をもとに、様々な音声上の特徴を学習する。洋楽の歌詞には日本人の苦手とする音の要素がコンパクトに集約されているものが多く見られる。授業では一回につき一つ、音声特徴が楽譜（音符）と対応している楽曲を取り上げ、発音の練習及び歌唱の実現へと結びつけていく。尚、リスニング力の強化として NetAcademy2 の素材を用いたディクテーション、及び楽曲の背景を説明したオーディオ教材を使用する。 概要 授業は演習形式で進め、必要に応じて会話活動を取り入れる。受身の姿勢で講義を漫然と聞くのではなく、主体的に「授業に参加する」姿勢が不可欠である。音読、口頭練習、歌唱、そしてペアワークにも力を入れること。	1. コースの説明／概要・録音① 2. 英語の楽曲について＋e-learning への取り組み方法 3. 『ABC song』個別音とアルファベット 4. 『This Land Is Your Land』強拍/弱拍のメリハリ 5. 『My Grandfather’s Clock』日本人の苦手な音① 6. 『Moon River』日本人の苦手な音② 7. Web 上の音声教材によるリスニング・発音の強化 8. 中間テスト・映像を介した英語 9. 『We Will Rock You』シラブルの“格差” 10. 『Top Of The World』押韻を意識する 11. 『楽曲未定』連結・同化などの減約 12. イントネーションとメロディーの関係 13. 期末テスト・録音② 14. 総復習 ： 今期のまとめ

到達目標	英語ネイティヴレヴェルのリスニングと発音ができるようにする。
事前・事後学修の内容	次回授業でカバーする語彙や専門用語の意味を調べる・授業後は各 Lesson 最後のページを各自復習
テキスト	指定教科書なし（毎回授業で資料を配布します）
参考文献	必要に応じて文献やウェブサイトを紹介します
評価方法	中間・期末試験の結果（60%）の他に課題提出（20%）や授業への積極的な参加（20%）を加味して総合的に評価します

13 年度以降	Listening and Pronunciation（水 5）	担当者	中田　ひとみ

講義目的、講義概要	授業計画
目的 本講義では英語の楽曲をもとに、様々な音声上の特徴を学習する。洋楽の歌詞には日本人の苦手とする音の要素がコンパクトに集約されているものが多く見られる。授業では一回につき一つ、音声特徴が楽譜（音符）と対応している楽曲を取り上げ、発音の練習及び歌唱の実現へと結びつけていく。尚、リスニング力の強化として NetAcademy2 の素材を用いたディクテーション、及び楽曲の背景を説明したオーディオ教材を使用する。 概要 授業は演習形式で進め、必要に応じて会話活動を取り入れる。受身の姿勢で講義を漫然と聞くのではなく、主体的に「授業に参加する」姿勢が不可欠である。音読、口頭練習、歌唱、そしてペアワークにも力を入れること。	1. コースの説明／概要・録音① 2. 英語の楽曲について＋e-learning への取り組み方法 3. 『ABC song』個別音とアルファベット 4. 『This Land is Your Land』強拍/弱拍のメリハリ 5. 『My Grandfather’s Clock』日本人の苦手な音① 6. 『Moon River』日本人の苦手な音② 7. Web 上の音声教材によるリスニング・発音の強化 8. 中間テスト・映像を介した英語 9. 『We Will Rock You』シラブルの“格差” 10. 『Top Of The World』押韻を意識する 11. 『楽曲未定』連結・同化などの減約 12. イントネーションとメロディーの関係 13. 期末テスト・録音② 14. 総復習 ： 今期のまとめ

到達目標	英語ネイティヴレヴェルのリスニングと発音ができるようにする。
事前・事後学修の内容	次回授業でカバーする語彙や専門用語の意味を調べる・授業後は各 Lesson 最後のページを各自復習
テキスト	指定教科書なし（毎回授業で資料を配布します）
参考文献	必要に応じて文献やウェブサイトを紹介します
評価方法	中間・期末試験の結果（60%）の他に課題提出（20%）や授業への積極的な参加（20%）を加味して総合的に評価します

13 年度以降	Listening and Pronunciation（水 5）	担当者	中田　ひとみ

講義目的、講義概要	授業計画
目的 本講義では英語の楽曲をもとに、様々な音声上の特徴を学習する。洋楽の歌詞には日本人の苦手とする音の要素がコンパクトに集約されているものが多く見られる。授業では一回につき一つ、音声特徴が楽譜（音符）と対応している楽曲を取り上げ、発音の練習及び歌唱の実現へと結びつけていく。尚、リスニング力の強化として NetAcademy2 の素材を用いたディクテーション、及び楽曲の背景を説明したオーディオ教材を使用する。 概要 授業は演習形式で進め、必要に応じて会話活動を取り入れる。受身の姿勢で講義を漫然と聞くのではなく、主体的に「授業に参加する」姿勢が不可欠である。音読、口頭練習、歌唱、そしてペアワークにも力を入れること。	1. コースの説明／概要・録音① 2. 英語の楽曲について＋e-learning への取り組み方法 3. 『ABC song』個別音とアルファベット 4. 『This Land Is Your Land』強拍/弱拍のメリハリ 5. 『My Grandfather’s Clock』日本人の苦手な音① 6. 『Moon River』日本人の苦手な音② 7. Web 上の音声教材によるリスニング・発音の強化 8. 中間テスト・映像を介した英語 9. 『We Will Rock You』シラブルの“格差” 10. 『Top Of The World』押韻を意識する 11. 『楽曲未定』連結・同化などの減約 12. イントネーションとメロディーの関係 13. 期末テスト・録音② 14. 総復習 ： 今期のまとめ

到達目標	英語ネイティヴレヴェルのリスニングと発音ができるようにする。
事前・事後学修の内容	次回授業でカバーする語彙や専門用語の意味を調べる・授業後は各 Lesson 最後のページを各自復習
テキスト	指定教科書なし（毎回授業で資料を配布します）
参考文献	必要に応じて文献やウェブサイトを紹介します
評価方法	中間・期末試験の結果（60%）の他に課題提出（20%）や授業への積極的な参加（20%）を加味して総合的に評価します

13 年度以降	英語の音声	担当者	青柳　真紀子

講義目的、講義概要	授業計画
音声コミュニケーションを考えたときに、音声がどのように作られ、伝わり、聞き取られるかという問題は興味深いものがある。本授業では、英語学習者や教師にとって重要である英語音声についてその基礎を体系的に学ぶ。日本語や他言語との比較も交えて、英語音声をよりよく理解し、実践できるようになることを目指す。また、音声や言語の様々な面に触れることにより、ことばの面白さを紹介し、これ以降の音声・言語関係の科目への導入とする。 ＜メッセージ＞ ・貴方の英語、「文法や表現」の知識と「音声」の知識はバランスがとれていますか? メッセージ自体が料理なら、音声はそれを運ぶ器のようなもの。 音声について、一度しっかり学んでみませんか。 ・「英語らしさって何?」、「なぜ言えない、聞き取れない?」等、初めて学べば目からウロコ。 ・中学・高校のベテラン英語教師から「発音や音声は教えられないよ…」という声をよく聞きます。知らなければ、この先ずっと知らない「音声」について、今! この機会に学んでほしい。 ・初回（4/9火４限）から参加してください。特にゼミ検討者、履修を!	1. Lingua Francaとしての英語、学習者・指導者として 2. セグメントとプロソディ、音声が運ぶ情報 3. 第4章 英語の母音（1） 基本母音、母音の分類 4. 英語の母音（2） 日本語との比較 5. 第5章 英語の子音（1） 子音の分類 6. 英語の子音（2） 日本語との比較 7. 第3章 音素と異音 日本語の干渉 8. 第6章 音節 音節構造と強勢と母音 9. 第7章 語強勢 強勢と母音、第二強勢 10. リズム フット、弱化と圧縮 11. 第8章 音縮小、第9章 同時調音 12. 第10章 イントネーション（1）音調核 13. イントネーション（2）意味・文法・意図との関係 14. 音声教育、その他の応用

到達目標	英語の音声に関して概括的知識を習得し、分析・論証できるようにする。
事前・事後学修の内容	英語音声学の基礎を学習し、練習する。知識習得には積み重ね学習が重要となる。学生は事前または事後にテキストの指定部分を読み、練習問題などの課題をやってくることが必須となる。
テキスト	佐藤寧・佐藤努（1997）『現代の英語音声学』金星堂
参考文献	その他　配布資料
評価方法	授業参加（準備・参加）：約 15%、クイズ・課題：約 15%、試験：約 70%。 単位認定には約 70%以上の出席が求められる

13 年度以降	英語の音声	担当者	青柳　真紀子

講義目的、講義概要	授業計画
音声コミュニケーションを考えたときに、音声がどのように作られ、伝わり、聞き取られるかという問題は興味深いものがある。本授業では、英語学習者や教師にとって重要である英語音声についてその基礎を体系的に学ぶ。日本語や他言語との比較も交えて、英語音声をよりよく理解し、実践できるようになることを目指す。また、音声や言語の様々な面に触れることにより、ことばの面白さを紹介し、これ以降の音声・言語関係の科目への導入とする。 ＜メッセージ＞ ・貴方の英語、「文法や表現」の知識と「音声」の知識はバランスがとれていますか? メッセージ自体が料理なら、音声はそれを運ぶ器のようなもの。 音声について、一度しっかり学んでみませんか。 ・「英語らしさって何?」、「なぜ言えない、聞き取れない?」等、初めて学べば目からウロコ。 ・中学・高校のベテラン英語教師から「発音や音声は教えられないよ…」という声をよく聞きます。知らなければ、この先ずっと知らない「音声」について、今! この機会に学んでほしい。 ・初回（9/24火４限）から参加してください。特にゼミ検討者、履修を!	1. Lingua Francaとしての英語、学習者・指導者として 2. セグメントとプロソディ、音声が運ぶ情報 3. 第4章 英語の母音（1） 基本母音、母音の分類 4. 英語の母音（2） 日本語との比較 5. 第5章 英語の子音（1） 子音の分類 6. 英語の子音（2） 日本語との比較 7. 第3章 音素と異音 日本語の干渉 8. 第6章 音節 音節構造と強勢と母音 9. 第7章 語強勢 強勢と母音、第二強勢 10. リズム フット、弱化と圧縮 11. 第8章 音縮小、第9章 同時調音 12. 第10章 イントネーション（1） 音調核 13. イントネーション（2） 意味・文法・意図との関係 14. 音声教育、その他の応用

到達目標	英語の音声に関して概括的知識を習得し、分析・論証できるようにする。
事前・事後学修の内容	英語音声学の基礎を学習し、練習する。知識習得には積み重ね学習が重要となる。学生は事前または事後にテキストの指定部分を読み、練習問題などの課題をやってくることが必須となる。
テキスト	佐藤寧・佐藤努（1997）『現代の英語音声学』金星堂
参考文献	その他　配布資料
評価方法	授業参加（準備・参加）：約 15%、クイズ・課題：約 15%、試験：約 70%。 単位認定には約 70%以上の出席が求められる。

13 年度以降	通訳 I （月 3）	担当者	柴原　早苗

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 　英日・日英の基礎的な逐次通訳演習を通じて通訳業の仕組みと国際コミュニケーションの舞台における通訳者の立場を理解します。リスニング、シャドーイングなど通訳者養成に必要な訓練法を通じて英語力の総合的な向上も目指します。授業を機に多様な分野に関心を抱き、教養を身に付けることを目標とします。 講義概要： 　多様な教材を通じて世界情勢をとらえ、英日・日英の通訳演習による通訳の基礎技術を習得します。効率的なリサーチ方法、教養のための読書法など、自立した学習者になるための方法も身に付けます。基礎力強化のため単語・時事問題小テストを毎回実施します。個人演習だけでなく、ペアやグループワークなども行います。学生同士の学び合いと授業への積極的な参加も重視します。	1.　オリエンテーション（履修者は必ず出席のこと） 2.　通訳概論 3.　教育（英日） 4.　教育（日英） 5.　国際関係（英日） 6.　国際関係（日英） 7.　前半の総括 8.　環境（英日） 9.　環境（日英） 10.　軍事（英日） 11.　軍事（日英） 12.　医学（英日） 13.　医学（日英） 14.　総括

到達目標	英語通訳に必要な語彙や、基礎知識、基本スキルを習得し、中級レベル 英語通訳ができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：テーマの事前リサーチおよび事前課題に取り組む 事後学修：通訳パフォーマンスの復習
テキスト	一杉武史編著『改訂版キクタン TOEIC TEST SCORE 990』（アルク、2018 年）（改訂版第 5 刷）
参考文献	適宜紹介します
評価方法	毎回の授業準備・参加・通訳パフォーマンス（50%）、小テスト（30%）、課題などの提出物（20%）

13 年度以降	通訳 I （月 3）	担当者	柴原　早苗

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 　英日・日英の基礎的な逐次通訳演習を通じて通訳業の仕組みと国際コミュニケーションの舞台における通訳者の立場を理解します。リスニング、シャドーイングなど通訳者養成に必要な訓練法を通じて英語力の総合的な向上も目指します。授業を機に多様な分野に関心を抱き、教養を身に付けることを目標とします。 講義概要： 　春学期に学んだことを生かし、精度のより高い通訳を目指します。日本語・英語の運用能力の強化を図り、基礎力強化のため単語・時事問題小テストを毎回実施します。個人演習だけでなく、ペアやグループワークなども行います。学生同士の学び合いと授業への積極的な参加も重視します。秋学期のみの履修も可能ですが、継続学習の重要性ゆえ春学期から引き続き履修することが望ましいです。	1.　オリエンテーション（履修者は必ず出席のこと） 2.　通訳概論 3.　政治（英日） 4.　政治（日英） 5.　技術（英日） 6.　技術（日英） 7.　前半の総括 8.　社会問題（英日） 9.　社会問題（日英） 10.　産業（英日） 11.　産業（日英） 12.　国連（英日） 13.　国連（日英） 14.　総括

到達目標	英語通訳に必要な語彙や、基礎知識、基本スキルを習得し、中級レベル 英語通訳ができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：テーマの事前リサーチおよび事前課題に取り組む 事後学修：通訳パフォーマンスの復習
テキスト	一杉武史編著『改訂版キクタン TOEIC TEST SCORE 990』（アルク、2018 年）（改訂版第 5 刷）
参考文献	適宜紹介します
評価方法	毎回の授業準備・参加・通訳パフォーマンス（50%）、小テスト（30%）、課題などの提出物（20%）

13 年度以降	通訳 I （水 1）	担当者	柴原　早苗

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 　英日・日英の基礎的な逐次通訳演習を通じて通訳業の仕組みと国際コミュニケーションの舞台における通訳者の立場を理解します。リスニング、シャドーイングなど通訳者養成に必要な訓練法を通じて英語力の総合的な向上も目指します。授業を機に多様な分野に関心を抱き、教養を身に付けることを目標とします。 講義概要： 　多様な教材を通じて世界情勢をとらえ、英日・日英の通訳演習による通訳の基礎技術を習得します。効率的なリサーチ方法、教養のための読書法など、自立した学習者になるための方法も身に付けます。基礎力強化のため単語・時事問題小テストを毎回実施します。個人演習だけでなく、ペアやグループワークなども行います。学生同士の学び合いと授業への積極的な参加も重視します。	1.　オリエンテーション（履修者は必ず出席のこと） 2.　通訳概論 3.　教育（英日） 4.　教育（日英） 5.　国際関係（英日） 6.　国際関係（日英） 7.　前半の総括 8.　環境（英日） 9.　環境（日英） 10.　軍事（英日） 11.　軍事（日英） 12.　医学（英日） 13.　医学（日英） 14.　総括

到達目標	英語通訳に必要な語彙や、基礎知識、基本スキルを習得し、中級レベル 英語通訳ができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：テーマの事前リサーチおよび事前課題に取り組む 事後学修：通訳パフォーマンスの復習
テキスト	一杉武史編著『改訂版キクタン TOEIC TEST SCORE 990』（アルク、2018 年）（改訂版第 5 刷）
参考文献	適宜紹介します。
評価方法	毎回の授業準備・参加・通訳パフォーマンス（50%）、小テスト（30%）、課題などの提出物（20%）

13 年度以降	通訳 I （水 1）	担当者	柴原　早苗

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 　英日・日英の基礎的な逐次通訳演習を通じて通訳業の仕組みと国際コミュニケーションの舞台における通訳者の立場を理解します。リスニング、シャドーイングなど通訳者養成に必要な訓練法を通じて英語力の総合的な向上も目指します。授業を機に多様な分野に関心を抱き、教養を身に付けることを目標とします。 講義概要： 　春学期に学んだことを生かし、精度のより高い通訳を目指します。日本語・英語の運用能力の強化を図り、基礎力強化のため単語・時事問題小テストを毎回実施します。個人演習だけでなく、ペアやグループワークなども行います。学生同士の学び合いと授業への積極的な参加も重視します。秋学期のみの履修も可能ですが、継続学習の重要性ゆえ春学期から引き続き履修することが望ましいです。	1.　オリエンテーション（履修者は必ず出席のこと） 2.　通訳概論 3.　政治（英日） 4.　政治（日英） 5.　技術（英日） 6.　技術（日英） 7.　前半の総括 8.　社会問題（英日） 9.　社会問題（日英） 10.　産業（英日） 11.　産業（日英） 12.　国連（英日） 13.　国連（日英） 14.　総括

到達目標	英語通訳に必要な語彙や、基礎知識、基本スキルを習得し、中級レベル 英語通訳ができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：テーマの事前リサーチおよび事前課題に取り組む 事後学修：通訳パフォーマンスの復習
テキスト	一杉武史編著『改訂版キクタン TOEIC TEST SCORE 990』（アルク、2018 年）（改訂版第 5 刷）
参考文献	適宜紹介します。
評価方法	毎回の授業準備・参加・通訳パフォーマンス（50%）、小テスト（30%）、課題などの提出物（20%）

13 年度以降	通訳 I （水 2）	担当者	柴原　早苗

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 　英日・日英の基礎的な逐次通訳演習を通じて通訳業の仕組みと国際コミュニケーションの舞台における通訳者の立場を理解します。リスニング、シャドーイングなど通訳者養成に必要な訓練法を通じて英語力の総合的な向上も目指します。授業を機に多様な分野に関心を抱き、教養を身に付けることを目標とします。 講義概要： 　多様な教材を通じて世界情勢をとらえ、英日・日英の通訳演習による通訳の基礎技術を習得します。効率的なリサーチ方法、教養のための読書法など、自立した学習者になるための方法も身に付けます。基礎力強化のため単語・時事問題小テストを毎回実施します。個人演習だけでなく、ペアやグループワークなども行います。学生同士の学び合いと授業への積極的な参加も重視します。	1.　オリエンテーション（履修者は必ず出席のこと） 2.　通訳概論 3.　教育（英日） 4.　教育（日英） 5.　国際関係（英日） 6.　国際関係（日英） 7.　前半の総括 8.　環境（英日） 9.　環境（日英） 10.　軍事（英日） 11.　軍事（日英） 12.　医学（英日） 13.　医学（日英） 14.　総括

到達目標	英語通訳に必要な語彙や、基礎知識、基本スキルを習得し、中級レベル 英語通訳ができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：テーマの事前リサーチおよび事前課題に取り組む 事後学修：通訳パフォーマンスの復習
テキスト	一杉武史編著『改訂版キクタン TOEIC TEST SCORE 990』（アルク、2018 年）（改訂版第 5 刷）
参考文献	適宜紹介します。
評価方法	毎回の授業準備・参加・通訳パフォーマンス（50%）、小テスト（30%）、課題などの提出物（20%）

13 年度以降	通訳 I （水 2）	担当者	柴原　早苗

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 　英日・日英の基礎的な逐次通訳演習を通じて通訳業の仕組みと国際コミュニケーションの舞台における通訳者の立場を理解します。リスニング、シャドーイングなど通訳者養成に必要な訓練法を通じて英語力の総合的な向上も目指します。授業を機に多様な分野に関心を抱き、教養を身に付けることを目標とします。 講義概要： 　春学期に学んだことを生かし、精度のより高い通訳を目指します。日本語・英語の運用能力の強化を図り、基礎力強化のため単語・時事問題小テストを毎回実施します。個人演習だけでなく、ペアやグループワークなども行います。学生同士の学び合いと授業への積極的な参加も重視します。秋学期のみの履修も可能ですが、継続学習の重要性ゆえ春学期から引き続き履修することが望ましいです。	1.　オリエンテーション（履修者は必ず出席のこと） 2.　通訳概論 3.　政治（英日） 4.　政治（日英） 5.　技術（英日） 6.　技術（日英） 7.　前半の総括 8.　社会問題（英日） 9.　社会問題（日英） 10.　産業（英日） 11.　産業（日英） 12.　国連（英日） 13.　国連（日英） 14.　総括

到達目標	英語通訳に必要な語彙や、基礎知識、基本スキルを習得し、中級レベル 英語通訳ができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：テーマの事前リサーチおよび事前課題に取り組む 事後学修：通訳パフォーマンスの復習
テキスト	一杉武史編著『改訂版キクタン TOEIC TEST SCORE 990』（アルク、2018 年）（改訂版第 5 刷）
参考文献	適宜紹介します。
評価方法	毎回の授業準備・参加・通訳パフォーマンス（50%）、小テスト（30%）、課題などの提出物（20%）

13 年度以降	通訳Ⅱ（月 4）	担当者	柴原　早苗

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 「通訳I」の上級編。通訳業務への理解を深め、通訳の応用技術を習得し、逐次通訳から同時通訳へとスキルを高めることを目標とします。リスニング、シャドーイング、サイト・トランスレーションなど応用技術の習得を通じて英語力の総合的な向上も目指します。授業を機に多様な分野に関心を抱き、教養を身に付けることを目標とします。 講義概要： 多様な教材を通じて世界情勢をとらえ、英日・日英の通訳演習による通訳の応用技術を習得します。文化的背景も踏まえた訳出法を学び、英日両言語で効率的なリサーチ方法も獲得していきます。応用力構築のため単語・時事問題小テストを毎回実施します。個人演習だけでなく、ペアやグループワークなども行います。学生同士の学び合いと授業への積極的な参加も重視します。	1. オリエンテーション（履修者は必ず出席のこと） 2. 通訳概論 3. 教育（英日） 4. 教育（日英） 5. 国際関係（英日） 6. 国際関係（日英） 7. 前半の総括 8. 環境（英日） 9. 環境（日英） 10. 軍事（英日） 11. 軍事（日英） 12. 医学（英日） 13. 医学（日英） 14. 総括

到達目標	英語通訳に必要な語彙を増やし、同時通訳や長時間通訳といった上級 レベル英語通訳ができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：テーマの事前リサーチおよび事前課題に取り組む 事後学修：通訳パフォーマンスの復習
テキスト	一杉武史編著『改訂版キクタン TOEIC TEST SCORE 990』（アルク、2018 年）（改訂版第 5 刷）
参考文献	適宜紹介します
評価方法	毎回の授業準備・参加・通訳パフォーマンス（50%）、小テスト（30%）、課題などの提出物（20%）

13 年度以降	通訳Ⅱ（月 4）	担当者	柴原　早苗

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 「通訳Ⅰ」の上級編。通訳業務への理解を深め、通訳の応用技術を習得し、逐次通訳から同時通訳へとスキルを高めることを目標とします。異文化コミュニケーション力を向上させて教養を深め、自立した学習者になることを目指します。 講義概要： 春学期に学んだことを応用し、題材に応じて効果的なコミュニケーションや文化的背景を踏まえた精度のより高い通訳を目指します。言語運用能力の強化を図り、応用力強化のため単語・時事問題小テストを毎回実施します。個人演習だけでなく、ペアやグループワークなども行います。学生同士の学び合いと授業への積極的な参加も重視します。秋学期のみの履修も可能ですが、継続学習の重要性ゆえ春学期から引き続き履修することが望ましいです。	1. オリエンテーション（履修者は必ず出席のこと） 2. 通訳概論 3. 政治（英日） 4. 政治（日英） 5. 技術（英日） 6. 技術（日英） 7. 前半の総括 8. 社会問題（英日） 9. 社会問題（日英） 10. 産業（英日） 11. 産業（日英） 12. 国連（英日） 13. 国連（日英） 14. 総括

到達目標	英語通訳に必要な語彙を増やし、同時通訳や長時間通訳といった上級 レベル英語通訳ができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：テーマの事前リサーチおよび事前課題に取り組む 事後学修：通訳パフォーマンスの復習
テキスト	一杉武史編著『改訂版キクタン TOEIC TEST SCORE 990』（アルク、2018 年）（改訂版第 5 刷）
参考文献	適宜紹介します
評価方法	毎回の授業準備・参加・通訳パフォーマンス（50%）、小テスト（30%）、課題などの提出物（20%）

13 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（火１）	担当者	野村　誠二

講義目的、講義概要	授業計画
この科目は企業の現場でのビジネスの為に必要とされる英語能力の向上とコミュニケーション・スキルの習得を目的とする。講師の企業での実務体験と大学教員としての経験をベースにし、講義は英語、日本語の二カ国語による。具体的には、貿易および金融取引に関連するビジネスを題材とし、次の方法で演習を行う。英検準1級程度のレベル。 １．英語、日本語のナレーションのDVDおよび/またはハンドアウトを利用し、その内容を理解する。 ２．ほぼ毎回、DVDおよび/またはハンドアウトの内容に関し、日本語、英語によるディスカッションを行う。 ３．受講者参加型の授業であり、相応の事前・事後の学修が必要。 ※同一曜日・時限の英語ビジネス・コミュニケーション既修者は登録不可	1　講義内容の説明と評価方法などのガイダンス 2　コミュニケーションの原理と役割、手段 3　ビジネスの現場の英語力とコミュニケーション 4　日本企業の国際化と海外依存度 5　アジア諸国とのビジネスの重要性（理解度確認テスト） 6　中国とのビジネスの理解 7　ASEANとのビジネスの理解 8　貿易取引の理解 9　サービス貿易の理解 10　国際通貨体制の理解（課題の提出） 11　国際金融と外国為替の理解 12　国際貿易体制と自由貿易協定（FTA）の理解 13　貿易、金融取引とコンプライアンス 14　期末試験と授業のまとめ 上記の授業計画は各種事情により多少変更することがあります。

到達目標	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケー ションができるようにする。
事前・事後学修の内容	テレビ、インターネットでの経済ビジネスニュースの視聴および Nikkei Asian Review などの英語ビジネス雑誌記事による海外経済事情・背景の事前理解、授業での理解不足の場合にはインターネットなどにより知識を補充すること。
テキスト	テキストは使用せず、DVD および/またはハンドアウトを使用
参考文献	開講時ならびに授業中に必要に応じて指示する。
評価方法	期末試験 40%、理解度確認テスト（クイズ）と課題の提出 30%、授業への参加度（平常点） 30%

13 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（火１）	担当者	野村　誠二

講義目的、講義概要	授業計画
この科目は企業の現場でのビジネスの為に必要とされる英語能力の向上とコミュニケーション・スキルの習得を目的とする。講師の企業での実務体験と大学教員としての経験をベースにし、講義は英語、日本語の二カ国語による。具体的には、貿易および金融取引に関連するビジネスを題材とし、次の方法で演習を行う。英検準1級程度のレベル。 １．英語、日本語のナレーションのDVDおよび/またはハンドアウトを利用し、その内容を理解する。 ２．ほぼ毎回、DVDおよび/またはハンドアウトの内容に関し、日本語、英語によるディスカッションを行う。 ３．受講者参加型の授業であり、相応の事前・事後の学修が必要。 ※同一曜日・時限の英語ビジネス・コミュニケーション既修者は登録不可	1　講義内容の説明と評価方法などのガイダンス 2　コミュニケーションの原理と役割、手段 3　ビジネスの現場の英語力とコミュニケーション 4　日本企業の国際化と海外依存度 5　アジア諸国とのビジネスの重要性（理解度確認テスト） 6　中国とのビジネスの理解 7　ASEANとのビジネスの理解 8　貿易取引の理解 9　サービス貿易の理解 10　国際通貨体制の理解（課題の提出） 11　国際金融と外国為替の理解 12　国際貿易体制と自由貿易協定（FTA）の理解 13　貿易、金融取引とコンプライアンス 14　期末試験と授業のまとめ 上記の授業計画は各種事情により多少変更することがあります。

到達目標	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケー ションができるようにする。
事前・事後学修の内容	テレビ、インターネットでの経済ビジネスニュースの視聴および Nikkei Asian Review などの英語ビジネス雑誌記事による海外経済事情・背景の事前理解、授業での理解不足の場合にはインターネットなどにより知識を補充すること。
テキスト	テキストは使用せず、DVD および/またはハンドアウトを使用
参考文献	必要に応じて指示する。
評価方法	期末試験 40%、理解度確認テスト（クイズ）と課題の提出 30%、授業への参加度（平常点） 30%

13 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（火２）	担当者	野村　誠二

講義目的、講義概要	授業計画
この科目は企業の現場でのビジネスの為に必要とされる英語能力の向上とコミュニケーション・スキルの習得を目的とする。講師の企業での実務体験と大学教員としての経験をベースにし、講義は英語、日本語の二カ国語による。具体的には、業務提携、共同事業（JV）、買収（M&A）などにより海外にビジネスを展開する企業を題材とし、国際間での契約コミュニケーション、オフィス・コミュニケーション、投資家コミュニケーション等の観点も取り上げ、次の方法で演習を行う。英検準1級程度のレベル。 １．英語、日本語のナレーションのDVDおよび/またはハンドアウトを利用し、その内容を理解する。 ２．ほぼ毎回、DVDおよび/またはハンドアウトの内容に関し、日本語、英語によるディスカッションを行う。 ３．受講者参加型の授業であり、相応の事前・事後の学修が必要。 ※同一曜日・時限の英語ビジネス・コミュニケーション既修者は登録不可	1　講義内容の説明と評価方法などのガイダンス 2　ビジネス・コミュニケーションの理解 3　業務提携、共同事業（JV）、買収（M&A）の理解 4　事業戦略・計画の理解と策定 5　外部アドバイザーの起用（理解度確認テスト） 6　業務提携等の候補相手先の選定とリサーチ 7　守秘義務契約、Letter of Intent の交渉 8　必要資金の調達交渉 9　デュー・デリジェンスの実施 10　業務提携等の契約交渉（課題の提出） 11　業務提携等の相手先との間の取引トラブル、クレーム 12　業務提携等の相手先との間のコミュニケーション 13　業務提携事業に関する投資家への業績報告 14　期末試験と授業のまとめ 上記の授業計画は各種事情により多少変更することがあります。

到達目標	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケー ションができるようにする。
事前・事後学修の内容	テレビ、インターネットでの経済ビジネスニュースの視聴および Nikkei Asian Review などの英語ビジネス雑誌記事による海外経済事情・背景の事前理解、授業での理解不足の場合にはインターネットなどにより知識を補充すること。
テキスト	テキストは使用せず、DVD および/またはハンドアウトを使用
参考文献	開講時ならびに授業中に必要に応じて指示する。
評価方法	期末試験 40%、理解度確認テスト（クイズ）と課題の提出 30%、授業への参加度（平常点） 30%

13 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（火２）	担当者	野村　誠二

講義目的、講義概要	授業計画
この科目は企業の現場でのビジネスの為に必要とされる英語能力の向上とコミュニケーション・スキルの習得を目的とする。講師の企業での実務体験と大学教員としての経験をベースにし、講義は英語、日本語の二カ国語による。具体的には、業務提携、共同事業（JV）、買収（M&A）などにより海外にビジネスを展開する企業を題材とし、国際間での契約コミュニケーション、オフィス・コミュニケーション、投資家コミュニケーション等の観点も取り上げ、次の方法で演習を行う。英検準1級程度のレベル。 １．英語、日本語のナレーションのDVDおよび/またはハンドアウトを利用し、その内容を理解する。 ２．ほぼ毎回、DVDおよび/またはハンドアウトの内容に関し、日本語、英語によるディスカッションを行う。 ３．受講者参加型の授業であり、相応の事前・事後の学修が必要。 ※同一曜日・時限の英語ビジネス・コミュニケーション既修者は登録不可	1　講義内容の説明と評価方法などのガイダンス 2　ビジネス・コミュニケーションの理解 3　業務提携、共同事業（JV）、買収（M&A）の理解 4　事業戦略・計画の理解と策定 5　外部アドバイザーの起用（理解度確認テスト） 6　業務提携等の候補相手先の選定とリサーチ 7　守秘義務契約、Letter of Intent の交渉 8　必要資金の調達交渉 9　デュー・デリジェンスの実施 10　業務提携等の契約交渉（課題の提出） 11　業務提携等の相手先との間の取引トラブル、クレーム 12　業務提携等の相手先との間のコミュニケーション 13　業務提携事業に関する投資家への業績報告 14　期末試験と授業のまとめ 上記の授業計画は各種事情により多少変更することがあります。

到達目標	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケー ションができるようにする。
事前・事後学修の内容	テレビ、インターネットでの経済ビジネスニュースの視聴および Nikkei Asian Review などの英語ビジネス雑誌記事による海外経済事情・背景の事前理解、授業での理解不足の場合にはインターネットなどにより知識を補充すること。
テキスト	テキストは使用せず、DVD および/またはハンドアウトを使用
参考文献	必要に応じて指示する。
評価方法	期末試験 40%、理解度確認テスト（クイズ）と課題の提出 30%、授業への参加度（平常点） 30%

13 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（木 1）	担当者	土川　孝

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、本格的なビジネスレターの書き方を分かりやすく解説する、実践的なBusiness Writingの講義です。将来、外資系企業、航空業界、貿易業界、国際物流業界、メーカーの国際部、金融業界、ホテル・観光業界等で英語を使用して働きたいと考える学生を対象にしています。 具体的には、テキストを使用して、取引関係の樹立から成立・履行・求償・解決までの貿易の基本的なプロセスに沿って、それぞれの段階における英文ビジネスレターの書き方を学びます。また、新聞・インターネットなどから収集した英文記事を題材に、Readingのスキルアップを行うと同時に、ビジネスの実践の場で役に立つ情報も習得していきます。 なお、授業計画は、授業の進捗等の理由で多少変更することもあります。	1. 講義概要（ガイダンス） 2. ビジネスレターの形式＆練習問題 3. 効果的なﾋﾞｼﾞﾈｽﾚﾀｰの書き方(Readability etc.) 4. 効果的なﾋﾞｼﾞﾈｽﾚﾀｰの書き方(Courteousness etc.) 5. 取引の申込み＆練習問題 6. 取引申込みに対する応答＆練習問題 7. 引合い（具体的な問い合わせ）＆練習問題 8. 中間試験、復習 9. オファー（売手からの申込み）＆練習問題 10. オファーに対する応答＆練習問題 11. 信用状＆練習問題 12. 積出し＆練習問題 13. クレーム＆練習問題 14. クレームに対する応答＆練習問題

到達目標	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に予習しておいて下さい。また、復習をし、課題が出された場合には次回に提出してください。
テキスト	海老沢達郎著『BUSINESS WRITING－英文ビジネスレター入門』（金星堂、2007 年・2011 年重版）
参考文献	都度、紹介
評価方法	中間試験 30%、定期試験 60%、授業貢献度 10%、欠席は原則 5 回まで。

13 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（木 1）	担当者	土川　孝

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、本格的なビジネスレターの書き方を分かりやすく解説する、実践的なBusiness Writingの講義です。将来、外資系企業、航空業界、貿易業界、国際物流業界、メーカーの国際部、金融業界、ホテル・観光業界等で英語を使用して働きたいと考える学生を対象にしています。 具体的には、テキストを使用して、取引関係の樹立から成立・履行・求償・解決までの貿易の基本的なプロセスに沿って、それぞれの段階における英文ビジネスレターの書き方を学びます。また、新聞・インターネットなどから収集した英文記事を題材に、Readingのスキルアップを行うと同時に、ビジネスの実践の場で役に立つ情報も習得していきます。 なお、授業計画は、授業の進捗等の理由で多少変更することもあります。	1. 講義概要（ガイダンス） 2. ビジネスレターの形式＆練習問題 3. 効果的なﾋﾞｼﾞﾈｽﾚﾀｰの書き方(Readability etc.) 4. 効果的なﾋﾞｼﾞﾈｽﾚﾀｰの書き方(Courteousness etc.) 5. 取引の申込み＆練習問題 6. 取引申込みに対する応答＆練習問題 7. 引合い（具体的な問い合わせ）＆練習問題 8. 中間試験、復習 9. オファー（売手からの申込み）＆練習問題 10. オファーに対する応答＆練習問題 11. 信用状＆練習問題 12. 積出し＆練習問題 13. クレーム＆練習問題 14. クレームに対する応答＆練習問題

到達目標	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に予習しておいて下さい。また、復習をし、課題が出された場合には次回に提出してください。
テキスト	海老沢達郎著『BUSINESS WRITING－英文ビジネスレター入門』（金星堂、2007 年・2011 年重版）
参考文献	都度、紹介
評価方法	中間試験 30%、定期試験 60%、授業貢献度 10%、欠席は原則 5 回まで。

13 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（木 2）	担当者	土川　孝

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、将来、外資系企業、航空業界、貿易業界、国際物流業界、メーカーの国際部、金融業界、ホテル・観光業界等で英語を使用して働きたいと考える学生を対象に、ビジネス英文メールの書き方を中心に、ビジネス英語に馴染のない学生に英文Business Writingの基本を分かりやすく解説し、指導していきます。 具体的には、テキストに沿ってPart1「大手旅行会社の世界支店長会議を想定した社内連絡メールの作成」、Part2「食料品専門商社とアメリカのワインメーカーとの商取引を想定した社外向けメールの作成」、Part3「大手製造業の国際展示会出展の準備を想定した社内外向けメールの作成」を１年を通して習得しますが、春期はそのうちPart1とPart2の前半を学びます。 また、新聞・インターネットなどから収集した英文記事を題材に、Readingのスキルアップを行うと同時に、ビジネスの実践の場で役に立つ情報も習得していきます。 なお、授業計画は、多少変更することもあります。	1. 講義概要（ガイダンス） 2. （Part1）ビジネス英文メールの形式 3. 世界主要支社長会議開催のお知らせ＆練習問題 4. 世界主要支社長会議への出席通知＆練習問題 5. 販売本部長の営業報告＆練習問題 6. 宣伝部長報告＆練習問題 7. 企画部長報告＆練習問題 8. 中間試験、復習 9. 議事録送付 10. （Part2）カリフォルニアワイン見本輸入＆練習問題 11. 見本商品の発送通知＆練習問題 12. 引き合い＆練習問題 13. オファー＆練習問題 14. カウンター・オファー＆練習問題

到達目標	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に予習しておいて下さい。また、復習をし、課題が出された場合には次回に提出してください。
テキスト	海老沢達郎・功力義雄著『ENGLISH FOR BUSINESS』（DTP 出版、2014）
参考文献	都度、紹介
評価方法	中間試験 30%、定期試験 60%、授業貢献度 10%。欠席は原則５回まで。

13 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（木 2）	担当者	土川　孝

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、将来、外資系企業、航空業界、貿易業界、国際物流業界、メーカーの国際部、金融業界、ホテル・観光業界等で英語を使用して働きたいと考える学生を対象に、ビジネス英文メールの書き方を中心に、ビジネス英語に馴染のない学生に英文Business Writingの基本を分かりやすく解説し、指導していきます。 具体的には、テキストに沿ってPart1「大手旅行会社の世界支店長会議を想定した社内連絡メールの作成」、Part2「食料品専門商社とアメリカのワインメーカーとの商取引を想定した社外向けメールの作成」、Part3「大手製造業の国際展示会出展の準備を想定した社内外向けメールの作成」を１年を通して習得しますが、秋期は春期に引き続きPart2の後半とPart3を学びます。 また、新聞・インターネットなどから収集した英文記事を題材に、Readingのスキルアップを行うと同時に、ビジネスの実践の場で役に立つ情報も習得していきます。 なお、授業計画は、多少変更することもあります。	1. 講義概要（ガイダンス） 2. カウンター・オファー受託通知＆練習問題 3. 信用状開設準備＆練習問題 4. 船積通知＆練習問題 5. クレーム＆練習問題 6. クレームの解決＆練習問題 7. （Part3）国際展示会及び営業会議招待＆練習問題 8. 中間試験、復習 9. 国際展示会及び営業会議への出席通知＆練習問題 10. 営業会議出席者の宿泊等の申し込み＆練習問題 11. 有力販売店主の工場視察＆練習問題 12. ホテルへの苦情＆練習問題 13. 顧客のホテル苦情への返信＆練習問題 14. 有力販売店主の工場長宛礼状練習問題

到達目標	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に予習しておいて下さい。また、復習をし、課題が出された場合には次回に提出してください。
テキスト	海老沢達郎・功力義雄著『ENGLISH FOR BUSINESS』（DTP 出版、2014）
参考文献	都度、紹介
評価方法	中間試験 30%、定期試験 60%、授業貢献度 10%。尚、欠席は原則５回まで。

13 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（木 3）	担当者	杉山　晴信

講義目的、講義概要	授業計画
時系列的な貿易取引の流れに沿って、各取引段階における英語のビジネス通信文（Business Correspondence）の読解と作成のスキルを身につけるとともに、貿易実務に関する基礎知識を幅広く習得することがねらいです。 具体的には、まず、貿易取引の段階ごとに（右記参照）、下記のテキストに収録されているビジネス通信文の内容を詳細に検討します。さらに、それぞれの単元（春学期は Unit1~12）における実務知識、通信文のスケルトン・プラン（skeleton plan）、および専門語彙（technical terms）を学ぶとともに、通信文の読解（英文和訳）と作成（和文英訳）の訓練を行います。ただし、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。 なお、木曜日 4 時限の同一教員による同一名称科目とは内容が異なりますので注意して下さい。	1．春学期の授業内容と授業計画の説明 2．Unit1（市況） 3．Unit2（取引先の発見） 4．Unit3（取引の申込み） 5．Unit4（信用照会） 6．Unit5（引合い） 7．Unit6（引合いに対する返信） 8．Unit7（オファー） 9．Unit8（カウンター・オファー） 10. Unit9（注文） 11. Unit10（注文の受諾） 12. Unit11（注文の謝絶） 13. Unit12（成約） 14. 春学期の総復習と質疑応答

到達目標	ビジネス英文書読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケー ションができるようにする。
事前・事後学修の内容	各 Unit の Sample Email および解説を熟読するとともに、Exercises を解いて学習成果を必ず確認して下さい。また、Vocabulary（関連語彙集）と Related Expressions（関連表現集）を利用して語彙力と表現力の拡充に努めて下さい。
テキスト	杉山晴信『英文ビジネス通信実践演習２１講（四訂版）』（三恵社、2016 年）
参考文献	杉山晴信『貿易実務の英語　ビジネス英文メール　パーフェクトブック』（すばる舎、2009 年）
評価方法	期末試験の結果（概ね 80%の比重）および平常授業における小テストや課題レポートの実績（概ね 20%の比重）を合計して評価します。

13 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（木 3）	担当者	杉山　晴信

講義目的、講義概要	授業計画
時系列的な貿易取引の流れに沿って、各取引段階における英語のビジネス通信文（Business Correspondence）の読解と作成のスキルを身につけるとともに、貿易実務に関する基礎知識を幅広く習得することがねらいです。 具体的には、まず、貿易取引の段階ごとに（右記参照）、下記のテキストに収録されているビジネス通信文の内容を詳細に検討します。さらに、それぞれの単元（秋学期は Unit13~21）における実務知識、通信文のスケルトン・プラン（skeleton plan）、および専門語彙（technical terms）を学ぶとともに、通信文の読解（英文和訳）と作成（和文英訳）の訓練を行います。ただし、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。 なお、木曜日 4 時限の同一教員による同一名称科目とは内容が異なりますので注意して下さい。	1．秋学期の授業内容と授業計画の説明 2．Unit13（信用状の開設と訂正） 3．Unit14（海上保険） 4．Unit15（輸出手配） 5．Unit16（船積み） 6．Unit17（決済） 7．Unit18（輸入手配） 8．Unit19（クレーム） 9．Unit20（クレーム調整） 10. Unit21の1（会社社交文①：推薦状） 11. Unit21の2（会社社交文②：案内状） 12. Unit21の3（会社社交文③：礼状） 13. Unit21の4（会社社交文④：見舞い状） 14. 秋学期の総復習と質疑応答

到達目標	ビジネス英文書読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケー ションができるようにする。
事前・事後学修の内容	各 Unit の Sample Email および解説を熟読するとともに、Exercises を解いて学習成果を必ず確認して下さい。また、Vocabulary（関連語彙集）と Related Expressions（関連表現集）を利用して語彙力と表現力の拡充に努めて下さい。
テキスト	杉山晴信『英文ビジネス通信実践演習２１講（四訂版）』（三恵社、2016 年）
参考文献	杉山晴信『貿易実務の英語　ビジネス英文メール　パーフェクトブック』（すばる舎、2009 年）
評価方法	期末試験の結果（概ね 80%の比重）および平常授業における小テストや課題レポートの実績（概ね 20%の比重）を合計して評価します。

13 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（木 4）	担当者	杉山　晴信

講義目的、講義概要	授業計画
国際商取引には実に多くの類型がありますが、その中心は物品売買取引である（狭義の）貿易です。そして、貿易を学ぶためには、「モノ」（貨物）、「カネ」（決済資金）、「カミ」（文書・情報）の３つの流れを理解することが必要です。この授業は、上記の「カミ」、すなわち貿易関係書類および関連する英語のビジネス文書の読解と作成の要領を学びながら、貿易実務の基礎知識を習得することを目標とします。春学期は、まずレター・オブ・インテント、スポット売買契約書、長期売買契約書等の法律文書を取上げ、各々の書類の意義と目的、記載事項、読解と作成の注意点等、書類に関する実務的な知識を学んでから当該の書類を実際に読解ないし作成する実習を行います。次に、技術文書として、海外に輸出する工業製品の取扱説明書（マニュアル）を扱い、英語圏（特に米国）のPlain English Act に適合した英文マニュアルを作成する方法を検討します。	1．春学期の授業内容と授業計画の説明 2．法律英語の文体の特徴 3．レター・オブ・インテントのサンプル検討 4．レター・オブ・インテントの作成演習（代理店） 5．レター・オブ・インテントの作成演習（技術援助） 6．スポット売買契約書のサンプル検討（タイプ条項） 7．スポット売買契約書のサンプル検討（裏面約款） 8．スポット売買契約書のサンプル検討（書式の戦い） 9．長期売買契約書のサンプル検討（実質条項） 10．長期売買契約書のサンプル検討（一般条項） 11．長期売買契約書のサンプル検討（定義条項ほか） 12．“Plain English Act”の趣旨と具体的内容 13．英文取扱説明書作成上の注意点と作成演習 14．春学期の総復習と質疑応答

到達目標	ビジネス英文書読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケー ションができるようにする。
事前・事後学修の内容	配布されたテキスト、資料等は事前に必ず精読しておいて下さい。また、実習で作成した貿易関連書類や関連文書は必ず提出して下さい。
テキスト	当方で用意する和文と英文の資料プリント
参考文献	杉山晴信『貿易実務の英語　ビジネス英文メール　パーフェクトブック』（すばる舎、2009 年）
評価方法	期末試験の結果（概ね 80%の比重）および平常授業における小テストや課題レポートの実績（概ね 20%の比重）を合計して評価します。

13 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（木 4）	担当者	杉山　晴信

講義目的、講義概要	授業計画
（上欄から続く） 秋学期は、まず貿易取引の履行段階および決済段階に登場する重要書類として、商業送り状、船荷証券、貨物海上保険証券、原産地証明書等の船積み書類（Shipping Documents; S/D）、為替手形（bill of exchange; draft）、荷為替信用状（documentary letter of credit; L/C）などを取上げて、各々の書類の意義と目的、記載事項、読解と作成の注意点等、書類に関する実務的な知識を学んでから当該の書類を実際に読解ないし作成する実習を行います。次に、通関（customs clearance）についての基本事項、および輸出申告書と輸入（納税）申告書の書き方を学んだ後、実際の輸出入案件に基づいた通関手続きのシミュレーション実習を行います。 なお、右記の授業計画は、春学期、秋学期ともに、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。	1．秋学期の授業内容と授業計画の説明 2．各種の船積み書類の意義と目的 3．商業送り状と包装明細書のサンプル検討 4．商業送り状と包装明細書の作成演習 5．船荷証券のサンプル検討 6．船荷証券の読解演習 7．貨物海上保険証券のサンプル検討 8．貨物海上保険証券の読解演習 9．原産地規則の概要と原産地証明書のサンプル検討 10．輸出通関と輸入通関の基礎知識 11．輸出申告書のサンプル検討と作成演習 12．輸入（納税）申告書のサンプル検討と作成演習 13．荷為替信用状による決済の概要とサンプル検討 14．秋学期の総復習と質疑応答

到達目標	ビジネス英文書読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケー ションができるようにする。
事前・事後学修の内容	配布されたテキスト、資料等は事前に必ず精読しておいて下さい。また、実習で作成した貿易関連書類や関連文書は必ず提出して下さい。
テキスト	当方で用意する和文と英文の資料プリント
参考文献	杉山晴信『貿易実務の英語　ビジネス英文メール　パーフェクトブック』（すばる舎、2009 年）
評価方法	期末試験の結果（概ね 80%の比重）および平常授業における小テストや課題レポートの実績（概ね 20%の比重）を合計して評価します。

13 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション実務	担当者	杉山　晴信

講義目的、講義概要	授業計画
英語と日本語による豊富な参考資料を活用して、実務的な文書を取り扱う実力を養成しながら、貿易実務に関する一巡の手続き、制度、法令等を包括的に学びます。この授業の学習内容は木曜日 3・4 時間目の「英語ビジネス・コミュニケーション」よりも詳細かつ広範囲であり、高度に専門的な知識の習得を目指しています。特に貿易や国際物流・ロジスティクス（logistics）に興味があり、貿易や物流関係の企業への就活や就職を希望する学生諸君、日本貿易実務検定協会の貿易実務検定試験や日商ビジネス英語検定試験の受験を予定している学生諸君、通関士国家試験の受験を検討している学生諸君などに有益な情報を提供できると自負しています。具体的な学習範囲として、春学期は、貿易の基本概念に加え、貿易取引の時系列的な流れを特に輸出者の視点から６つのステージに区分して、右記のように、その前半（貿易マーケティングの段階、取引関係創設の段階、成約段階）に属するテーマを詳しく学習する予定です。	1. 春学期の授業内容および授業計画の説明 2. 貿易の基本概念（1）：貿易の意義、貿易の主体など 3. 貿易の基本概念（2）：貿易実務の遂行手順の概観 4. 貿易の基本概念（3）：種々の貿易形態、貿易関係機関 5. 貿易の基本概念（4）：貿易管理制度、関係法令など 6. 貿易マーケティングの段階（1）：海外市場調査 7. 貿易マーケティングの段階（2）：販売戦略調査 8. 取引関係創設の段階（1）：取引先選定と引合い 9. 取引関係創設の段階（2）：信用照会 10. 成約段階（1）： オファーと承諾、注文と受注 11. 成約段階（2）： 品質と数量に関する条件 12. 成約段階（3）： 価格と決済に関する条件 13. 成約段階（4）： 船積みと保険に関する条件 14. 春学期の授業の総復習と質疑応答

到達目標	英語ビジネス・コミュニケーション実務能力を習得し、英語で貿易実務ができるようにする。
事前・事後学修の内容	配布されたテキスト、資料等は事前に必ず精読しておいて下さい。また、税関、JETRO、経済産業省等のサイトに頻繁にアクセスし、貿易関連の最新情報（特に法令改正や通達）を入手するように努めて下さい。
テキスト	当方で用意する和文と英文の資料プリント
参考文献	杉山晴信『貿易実務の英語　ビジネス英文メール　パーフェクトブック』（すばる舎、2009 年）
評価方法	期末試験の結果（概ね 80%の比重）および平常授業における小テストや課題レポートの実績（概ね 20%の比重）を合計して評価します。

13 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション実務	担当者	杉山　晴信

講義目的、講義概要	授業計画
（上欄から続く） 秋学期は、貿易取引の時系列的な流れを特に輸出者の視点から６つのステージに区分して、右記のように、その後半（履行段階、決済段階、クレームおよびクレーム調整の段階）に属するテーマを詳しく学習する予定です。 春学期、秋学期ともに、履修者はあらかじめ参考資料の所定の箇所を丹念に読んでくるものとし、授業は参考資料の内容を講義で敷衍する形で進めます。また、固有名詞の変更など若干の調整を加えたリアルなビジネス文書に実際に触れていただき、それらを読解したり、新規に作成したりする実習の機会も可能な限りもうけます。 なお、右記の授業計画は春学期、秋学期ともに、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれませんので、念のため申し添えます。	1. 秋学期の授業内容および授業計画の説明 2. 履行段階（1）：“Incoterms 2010”の各貿易条件の概観 3. 履行段階（2）：外為法に基づく輸出許可と輸出承認 4. 履行段階（3）：輸出通関手続き 5. 履行段階（4）：海上運送に関する実務知識と手続き 6. 履行段階（5）：航空運送に関する実務知識と手続き 7. 履行段階（6）：複合運送に関する実務知識と手続き 8. 履行段階（7）：貨物海上保険に関する実務知識と手続き 9. 履行段階（8）：輸出 PL 保険に関する実務知識と手続き 10. 履行段階（9）：各種運送書類 11. 履行段階（10）：為替リスクの種々の回避法 12. 決済段階：荷為替信用状による決済および信用状以外の決済の仕組み 13. クレームおよびクレーム調整の段階：クレームの種類、クレームの予防、クレームの解決法などｐ 14. 秋学期の授業の総復習と質疑応答

到達目標	英語ビジネス・コミュニケーション実務能力を習得し、英語で貿易実務ができるようにする。
事前・事後学修の内容	配布されたテキスト、資料等は事前に必ず精読しておいて下さい。また、税関、JETRO、経済産業省等のサイトに頻繁にアクセスし、貿易関連の最新情報（特に法令改正や通達）を入手するように努めて下さい。
テキスト	当方で用意する和文と英文の資料プリント
参考文献	杉山晴信『貿易実務の英語　ビジネス英文メール　パーフェクトブック』（すばる舎、2009 年）
評価方法	期末試験の結果（概ね 80%の比重）および平常授業における小テストや課題レポートの実績（概ね 20%の比重）を合計して評価します。

13 年度以降	メディア英語 I	担当者	A．R．ファルヴォ

講義目的、講義概要	授業計画
This course will focus on raising the ability of students to focus on current health issues　in the USA through the use of the juicing as seen in Part One of the documentary, "Fat, sick and Nearly Dead”. Students will be expected to make presentations, prepare questions for biweekly quizzes and submit homework on topics viewed in video sources focusing on nonverbal cues. Analysis involves the use of critical think skills that will be presented in class The use of email to submit homework is COMPULSORY. The contents of the course are subject to change.	1. Topic 1/Presentation of Video/ QUIZ questions 2. Quiz 1/Correction and Discussion of Answers 3. Topic 2/Presentation of Video/ QUIZ question 4. Quiz 2/Correction and Discussion of Answers 5. Topic 3/Presentation of Video/ QUIZ questions 6. Quiz 3/Correction and Discussion of Answers 7. Topic 4/Presentation of Video/ QUIZ questions 8. Quiz 4/Correction and Discussion of Answers 9. Topic 5/ Presentation. / QUIZ questions 10. Quiz 5/Correction and Discussion of Answers 11. Topic 6/ Presentation/ QUIZ questions. 12. Quiz 6/Correction and Discussion of Answers 13. Final Evaluation/Presentation of Video/ Final Evaluation questions 14. Final Evaluation

到達目標	テレビや新聞、インターネット等各メディアで使用される英語語彙を 増やすとともに、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	Reading the video scripts and preparing questions for verbal and non verbal items viewed in class.. Weekly review of items discussed previously.
テキスト	Prints of transcripts from video clips sent by email.
参考文献	Fat, Sick and Nearly Dead reviews.
評価方法	35% In-class performance 35% Continuous assessment　based on quizzes, presentations and homework submitted by email as well as other tasks assigned in class 30% Final Evaluation s

13 年度以降	メディア英語 I	担当者	A．R．ファルヴォ

講義目的、講義概要	授業計画
This course will continue the focus on raising the ability of students to focus on current health issues　in the USA through the use of the juicing as seen in Part One of the documentary, "Fat, sick and Nearly Dead”. Students will be expected to make presentations, prepare questions for biweekly quizzes and submit homework on topics viewed in video sources focusing on nonverbal cues. Analysis involves the use of critical think skills that will be presented in class The use of email to submit homework is COMPULSORY. The contents of the course are subject to change.	1. Topic 1/Presentation of Video/ QUIZ questions 2. Quiz 1/Correction and Discussion of Answers 3. Topic 2/Presentation of Video/ QUIZ question 4. Quiz 2/Correction and Discussion of Answers 5. Topic 3/Presentation of Video/ QUIZ questions 6. Quiz 3/Correction and Discussion of Answers 7. Topic 4/Presentation of Video/ QUIZ questions 8. Quiz 4/Correction and Discussion of Answers 9. Topic 5/ Presentation. / QUIZ questions 10. Quiz 5/Correction and Discussion of Answers 11. Topic 6/ Presentation/ QUIZ questions. 12. Quiz 6/Correction and Discussion of Answers 13. Final Evaluation/Presentation of Video/ Final Evaluation questions 14. Final Evaluation

到達目標	テレビや新聞、インターネット等各メディアで使用される英語語彙を 増やすとともに、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	Reading the video scripts and preparing questions for verbal and non verbal items viewed in class. Weekly review of items discussed previously.
テキスト	Prints of　transcripts from video clips　sent by emai
参考文献	Fat, Sick and Nearly Dead reviews.
評価方法	35% In-class performance 35% Continuous assessment　based on quizzes, presentations and homework submitted by email as well as other tasks assigned in class 30% Final Evaluation

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	メディア英語 I	担当者	A．ジェネス

講義目的、講義概要	授業計画
Continuing from the Spring, the aim of this course is to further develop critical thinking skills and the critical literacy to deal with the wide variety of text types that we encounter in the media. Textbook units and articles will provide a platform to learn critical thinking skills and approach discussion topics. In addition, students will be expected to research current news topics related to class themes, and present them in class. At the end of the course, students will take part in a 'critical thinking case study' that will allow them to use the skills they have learned for a group presentation project.	1. Course introduction 2. Unit 6: Women in the workplace 3. Unit 6: Discussion 4. Unit 7: School on Saturdays 5. Unit 7: Discussion 6. Unit 8: Food Labeling 7. Unit 8: Discussion 8. Unit 9: Etiquette in the digital age 9. Unit 9: Discussion 10. Unit 10: Merit based pay 11. Unit 10: Discussion 12. Critical Thinking case study 13. Critical Thinking case study: Presentations 14. Final Class: course review

到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will need to read articles before attending class, research and present contemporary news topics, and write a final report.
テキスト	Think smart: Critical Thinking in Critical Times. Michael Hood. ISBN 978-4-7647-4043-3
参考文献	Provided in class.
評価方法	Discussion participation 20%, Discussion reports 40%, Critical thinking case study 40%

13 年度以降	メディア英語 I	担当者	関根　路代

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、BBCニュースや*The Guardian*、*The New York Times*から厳選した素材をもとに、世界で起きている様々な出来事について学び、世界各国の文化や社会について知識を深めることを目的とする。 授業はプレゼンテーション形式で進める。	1. オリエンテーション 2. Fake News 3. Brexit 4. SNS 5. Veganism 6. Tourism 7. The Olympics 8. Generation Z 9. AI 10. Paternity Leave 11. Gay Marriage 12. Terrorism 13. Home-Schooling 14. Whaling

到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で扱う文献を事前に精読しておくこと。また、授業後に出す課題を次回に提出すること。
テキスト	初回の授業にて指示する。
参考文献	授業中に適宜紹介する。
評価方法	授業内での発表（30%）、参加度（20%）、課題（20%）、レポート（30%） 出席は全体の 1/3 以上を欠席するとその時点で単位認定不能となります。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	メディア英語 I	担当者	土川　孝

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、ツーリズムや航空業界に関する新聞や業界誌の英文記事を読み解くことによって、Reading力を養うと同時に、業界の最新の動向を学び、業界への理解を深めていくことを目的としています。 期中に、業界の旬の話題である訪日観光客とLCCをテーマにした演習を行います。これは、授業で習得した業界の知識に基づき、全員がインターネットなどで情報を収集しながらテーマに沿った企画を策定し、それをグループで相互に発表し合う演習です。その後、各グループでディスカッションを行いグループの代表作品を決め、グループ対抗のプレゼンテーションを経て、全員の投票で最優秀作品を選びます。 なお、授業計画は、授業の進捗等の理由で多少変更することもあります。	1. 講義概要（ガイダンス） 2. “Japan offers fun experiences” 3. “How to avoid tourist trouble in Japan” 4. “The travel industry now supports nearly 10% of world’s jobs” 5. “Five myths about women traveling solo” 6. “Travel tipping guide: Who gets what?” 7. 演習「訪日客ｲﾝﾊﾞｳﾝﾄﾞ・ﾂｱｰ企画」ｸﾞﾙｰﾌﾟ・ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ 8. 演習「訪日客ｲﾝﾊﾞｳﾝﾄﾞ・ﾂｱｰ企画」ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ 9. “Five myths and facts about air travel” 10. “Southwest invested the budget airline” 11. “No-frills carriers: Revolution or evolution?” 12. “Secrets to flying without losing your mind” 13. 演習「LCCを使った海外旅行企画」ｸﾞﾙｰﾌﾟ・ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ 14. 演習「LCCを使った海外旅行企画」ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ

到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に配布されるプリントを十分予習してください。また、2 回の演習時は予めそれぞれの企画を策定する宿題を出しますので、ディスカッションの日に提出できるようにしてください。
テキスト	プリントを使用
参考文献	都度、紹介
評価方法	演習 30%、定期試験 60%、授業貢献度 10%、欠席は原則５回まで。

13 年度以降	メディア英語 I	担当者	土川　孝

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、ツーリズムや航空業界に関する新聞や業界誌の英文記事を読み解くことによって、Reading力を養うと同時に、業界の最新の動向を学び、業界への理解を深めていくことを目的としています。 期中に、業界の旬の話題である訪日観光客とLCCをテーマにした演習を行います。これは、授業で習得した業界の知識に基づき、全員がインターネットなどで情報を収集しながらテーマに沿った企画を策定し、それをグループで相互に発表し合う演習です。その後、各グループでディスカッションを行いグループの代表作品を決め、グループ対抗のプレゼンテーションを経て、全員の投票で最優秀作品を選びます。 なお、授業計画は、授業の進捗等の理由で多少変更することもあります。	1. 講義概要（ガイダンス） 2. “Japan offers fun experiences” 3. “How to avoid tourist trouble in Japan” 4. “The travel industry now supports nearly 10% of world’s jobs” 5. “Five myths about women traveling solo” 6. “Travel tipping guide: Who gets what?” 7. 演習「訪日客ｲﾝﾊﾞｳﾝﾄﾞ・ﾂｱｰ企画」ｸﾞﾙｰﾌﾟ・ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ 8. 演習「訪日客ｲﾝﾊﾞｳﾝﾄﾞ・ﾂｱｰ企画」ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ 9. “Five myths and facts about air travel” 10. “Southwest invested the budget airline” 11. “No-frills carriers: Revolution or evolution?” 12. “Secrets to flying without losing your mind” 13. 演習「LCCを使った海外旅行企画」ｸﾞﾙｰﾌﾟ・ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ 14. 演習「LCCを使った海外旅行企画」ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ

到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に配布されるプリントを十分予習してください。また、2 回の演習時は予めそれぞれの企画を策定する宿題を出しますので、ディスカッションの日に提出できるようにしてください。
テキスト	プリントを使用
参考文献	都度、紹介
評価方法	演習 30%、定期試験 60%、授業貢献度 10%、欠席は原則５回まで。

13 年度以降	メディア英語 I （金 1）	担当者	P．ネルム

講義目的、講義概要	授業計画
Media English I is targeted at students whose English is at an intermediate level. Students with more advanced skills should take Media English II instead. The aim of this course is to introduce students to the various types of English used in the media world, especially newspapers, magazines, and documentaries. The emphasis of this semester will be on political and economic/business stories, with a focus on Japan. Possible documentaries to be shown include “Hiroshima” (BBC) and “The Cove.” As timely articles will be chosen, it is impossible to identify them beforehand. The format of the course will be for students to read/listen to/watch prepared materials every week, to participate actively in discussions and debates, and to submit written one-page essays or make presentations as requested. At the end of the term, students will make final presentations and write self-evaluations. Students taking my Media English I course cannot take Media English II in the same year, and vice versa. This rule will be strictly enforced, with no exceptions.	1 Documentary (or article) #1 2 Documentary (or article) #1 3 Essay or Presentation #1 4 Documentary (or article) #2 5 Documentary (or article) #2 6 Essay or Presentation #2 7 Documentary (or article) #3 8 Documentary (or article) #3 9 Essay or Presentation #3 10 Documentary (or article) #4 11 Documentary (or article) #4 12 Essay or Presentation #4 13 Final preparation 14 Final presentation, Self-evaluation

到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎週の授業内容をノートに記入、要約。配られた資料を予習。
テキスト	Materials to be handed out in class weekly.
参考文献	—
評価方法	Classroom performance 25% (maximum number of absences=4), Essays, final presentation and self-evaluation75% Four or more absences will likely disqualify students from getting credit.　４回以上の欠席は単位取得を困難にする。

13 年度以降	メディア英語 I （金 1）	担当者	P．ネルム

講義目的、講義概要	授業計画
Media English I is targeted at students whose English is at an intermediate level. Students with more advanced skills should take Media English II instead. The aim of this course is to introduce students to the various types of English used in the media world, especially newspapers, magazines, and documentaries. The emphasis of this semester will be on cultural and entertainment stories from around the world, as well as travel guides (online and other). As timely articles will be chosen, it is impossible to identify them beforehand. The format of the course will be for students to read/listen to/watch prepared materials every week, to participate actively in discussions and debates, and to submit written one-page essays or make presentations as requested. At the end of the term, students will make final presentations and write self-evaluations. Students taking my Media English I course cannot take Media English II in the same year, and vice versa. This rule will be strictly enforced, with no exceptions. Preference will be given to students who have already taken the first-semester course of Media English I.	1 Documentary (or article) #1 2 Documentary (or article) #1 3 Essay or Presentation #1 4 Documentary (or article) #2 5 Documentary (or article) #2 6 Essay or Presentation #2 7 Documentary (or article) #3 8 Documentary (or article) #3 9 Essay or Presentation #3 10 Documentary (or article) #4 11 Documentary (or article) #4 12 Essay or Presentation #4 13 Final preparation 14 Final presentation, Self-evaluation

到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎週の授業内容をノートに記入、要約。配られた資料を予習。
テキスト	Materials to be handed out in class weekly.
参考文献	—
評価方法	Classroom performance 25% (maximum number of absences=4), Essays, final presentation and self-evaluation75% Four or more absences will likely disqualify students from getting credit.　４回以上の欠席は単位取得を困難にする。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後 学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	メディア英語 I （金 2）	担当者	P．ネルム

講義目的、講義概要	授業計画
Media English Ⅰ is targeted at students whose English is at an intermediate level. Students with more advanced skills should take Media English Ⅱ instead. The aim of this course is to introduce students to the various types of English used in the media world, especially newspapers, magazines, and documentaries. The emphasis of this semester will be on cultural and entertainment stories from around the world, as well as travel guides (online and other). As timely articles will be chosen, it is impossible to identify them beforehand. The format of the course will be for students to read/listen to/watch prepared materials every week, to participate actively in discussions and debates, and to submit written one-page essays or make presentations as requested. At the end of the term, students will make final presentations and write self-evaluations. Students taking my Media English I course cannot take Media English Ⅱ in the same year, and vice versa. This rule will be strictly enforced, with no exceptions. Preference will be given to students who have already taken the first-semester course of Media English I .	1 Documentary (or article) #1 2 Documentary (or article) #1 3 Essay or Presentation #1 4 Documentary (or article) #2 5 Documentary (or article) #2 6 Essay or Presentation #2 7 Documentary (or article) #3 8 Documentary (or article) #3 9 Essay or Presentation #3 10 Documentary (or article) #4 11 Documentary (or article) #4 12 Essay or Presentation #4 13 Final preparation 14 Final presentation, Self-evaluation

到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。
事前・事後 学修の内容	毎週の授業内容をノートに記入、要約。配られた資料を予習。
テキスト	Materials to be handed out in class weekly.
参考文献	—
評価方法	Classroom performance 25% (maximum number of absences=4), Essays, final presentation and self-evaluation75% Four or more absences will likely disqualify students from getting credit. ４回以上の欠席は単位取得を困難にする

13 年度以降	メディア英語Ⅱ	担当者	A．R．ファルヴォ

講義目的、講義概要	授業計画
This course will focus on raising the ability of students to focus on current health issues　in the USA through the use of the juicing as seen in Part Two of the documentary, "Fat, sick and Nearly Dead”. Students will be expected to make presentations, prepare questions for biweekly quizzes and submit homework on topics viewed in video sources focusing on nonverbal cues. Analysis involves the use of critical think skills that will be presented in class The use of email to submit homework is COMPULSORY. The contents of the course are subject to change.	1. Topic 1/Presentation of Video/ QUIZ questions 2. Quiz 1/Correction and Discussion of Answers 3. Topic 2/Presentation of Video/ QUIZ question 4. Quiz 2/Correction and Discussion of Answers 5. Topic 3/Presentation of Video/ QUIZ questions 6. Quiz 3/Correction and Discussion of Answers 7. Topic 4/Presentation of Video/ QUIZ questions 8. Quiz 4/Correction and Discussion of Answers 9. Topic 5/ Presentation. / QUIZ questions 10. Quiz 5/Correction and Discussion of Answers 11. Topic 6/ Presentation/ QUIZ questions. 12. Quiz 6/Correction and Discussion of Answers 13. Final Evaluation/Presentation of Video/ Final Evaluation questions 14. Final Evaluation

到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される中級レベル英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	Reading the video scripts and preparing questions for verbal and non verbal items viewed in class.. Weekly review of items discussed previously.
テキスト	Weekly Prints (usually transcripts from video clips) will be sent by email to class participants.
参考文献	Fat, Sick and Nearly Dead reviews.
評価方法	35% In-class performance 35% Continuous assessment　based on quizzes, presentations and homework submitted by email as well as other tasks assigned in class 30% Final Evaluation

13 年度以降	メディア英語Ⅱ	担当者	A．R．ファルヴォ

講義目的、講義概要	授業計画
This course will focus on raising the ability of students to focus on current health issues　in the USA through the use of the juicing as seen in Part Two of the documentary, "Fat, sick and Nearly Dead”. Students will be expected to make presentations, prepare questions for biweekly quizzes and submit homework on topics viewed in video sources focusing on nonverbal cues. Analysis involves the use of critical think skills that will be presented in class The use of email to submit homework is COMPULSORY. The contents of the course are subject to change.	1. Topic 7/Presentation of Video/ QUIZ questions 2. Quiz 7 Correction and Discussion of Answers 3. Topic 8 /Presentation of Video/ QUIZ question 4. Quiz 8 Correction and Discussion of Answers 5. Topic 9 Presentation of Video/ QUIZ questions 6. Quiz 9 Correction and Discussion of Answers 7. Topic 10 /Presentation of Video/ QUIZ questions 8. Quiz 10/Correction and Discussion of Answers 9. Topic 11/ Presentation. / QUIZ questions 10. Quiz 11/Correction and Discussion of Answers 11. Topic 12/ Presentation/ QUIZ questions. 12. Quiz 12/Correction and Discussion of Answers 13. Final Evaluation/Presentation of Video/ Final Evaluation questions 14. Final Evaluation

到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される中級レベル英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	Reading the video scripts and preparing questions for verbal and non verbal items viewed in class.. Weekly review of items discussed previously.
テキスト	Weekly Prints (usually transcripts from video clips) will be sent by email to class participants.
参考文献	Fat, Sick and Nearly Dead reviews.
評価方法	35% In-class performance 35% Continuous assessment　based on quizzes, presentations and homework submitted by email as well as other tasks assigned in class 30% Final Evaluation

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後 学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	メディア英語Ⅱ	担当者	関根　路代

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、毎週、*The New York Times*から最新のニュース記事を読む。 トピックは主として学生の興味・関心に応じて厳選する。加えて、日本に関する報道にも注目してみたい。 授業はプレゼンテーション形式で進める。	1. オリエンテーション 2. LGBTQ 3. Racism 4. Regulating SNS 5. Advertisement 6. College Life 7. Tokyo Olympics 8. Dark Tourism 9. AI 10. Fashion Industry 11. Vegan 12. Music & Politics 13. Child Soldier 14. National Defense

到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される中級レベル英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。
事前・事後 学修の内容	授業で扱う文献を事前に精読しておくこと。また、授業後に出す課題を次回に提出すること。
テキスト	初回の授業にて指示する。
参考文献	授業中に適宜紹介する。
評価方法	授業内での発表（30%）、参加度（20%）、課題（20%）、レポート（30%） 出席は全体の 1/3 以上を欠席するとその時点で単位認定不能となります。

13 年度以降	メディア英語Ⅱ	担当者	P．ネルム

講義目的、講義概要	授業計画
Media English Ⅱ is designed for students whose English is at an advanced level. It is more difficult than my Media English Ⅰ course, and students are recommended to take that course before this one. The aim of this course is to introduce students to the various types of English used in the media world, especially newspapers, magazines, and documentaries. The emphasis of this semester will be on political and economic/business stories, with a focus on Japan. Possible documentaries to be shown include “Hiroshima” (BBC) and “The Cove.” As timely articles will be chosen, it is impossible to identify them beforehand. The format of the course will be for students to read/listen to/watch prepared materials every week, to participate actively in discussions and debates, and to submit written one-page essays or give presentations as requested. At the end of the term, students will make final presentations and write self-evaluations. Students taking my Media English Ⅱ course cannot take Media English Ⅰ in the same year, and vice versa.	1 Documentary (or article) #1 2 Documentary (or article) #1 3 Essay or Presentation #1 4 Documentary (or article) #2 5 Documentary (or article) #2 6 Essay or Presentation #2 7 Documentary (or article) #3 8 Documentary (or article) #3 9 Essay or Presentation #3 10 Documentary (or article) #4 11 Documentary (or article) #4 12 Essay or Presentation #4 13 Final preparation 14 Final presentation, Self-evaluation

到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される中級レベル英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎週の授業内容をノートに記入、要約　　配られた資料を予習
テキスト	Materials to be handed out in class weekly.
参考文献	—
評価方法	Classroom performance 25% (maximum number of absences=4), Essays, final presentation and self-evaluation75% Four or more absences will likely disqualify students from getting credit. 4 回以上の欠席は単位取得を困難にする。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	メディア英語Ⅱ	担当者	E．ホフ

講義目的、講義概要	授業計画
Media English Ⅱ is designed for students whose English is from an upper intermediate to an advanced level. It will develop further from the Media English Ⅰ course, looking at media from traditional forms and beyond. The aim of this course is to introduce students to English expressions and vocabulary commonly used in media related sources such as newspapers, magazines, and advertisements. There will be further exploration from these formats with examination of online sources, podcasts and the role of YouTube among others. The course text will serve as an anchor for studies and students will have the opportunity to research and discuss media forms that they find interesting through group discussion and class presentations.	Week1 Course Introduction and Objectives Week2 Unit 1: Newspapers Week3 Unit 2: Radio Week4 Unit 3: Magazines Week5 Unit 4: Television Week6 Midterm Week7 Unit 5: Film Week8 Unit 6: New Media Week9 Unit 7: Advertizing Week10 Unit 8: Marketing Week11 Individual Presentations Week12 Individual Presentations Week13 Individual Presentations Week14 Individual Presentations

到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される中級レベル英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	30 minutes should be set aside for reading before each class and homework will be assigned. Preparation for the final presentation will take more time
テキスト	Nick Ceramella and Elizabeth Lee. *Cambridge English for the Media.* Cambridge University Press
参考文献	—
評価方法	Midterm 20%, Individual presentation 30%, In-class quizzes 30%, Homework 20%

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	シネマ英語	担当者	J．D．コーリス

講義目的、講義概要	授業計画
Films of Steven Spielberg. This course will focus on the films of Steven Spielberg, examining the life and legacy of one of the most successful directors in American cinema history. Spielberg's works are closely linked with the rise of the Hollywood "blockbuster era". They span genres and generations and provide an engaging lens into broader sociocultural and economic trends. Students will practice analyzing the themes, aesthetics, innovations and historic relevance of Spielberg's films through screenings, in-class activities and small group discussions. In addition to viewing a selection from Spielberg's own films, we will examine the director's biography and compare materials from some of his influences, contemporaries, and successors. Key assignments include a short film review, and a movie poster presentation.	1. Greetings and Introduction 2. Creature Features (Jaws, Jurassic Park) 3. Style and Cinematography 4. Influences (John Ford; Alfred Hitchcock; Stanley Kubrick) 5. Action Adventure (Raiders of the Lost Ark, Hook) 6. The "Blockbuster Era" (George Lucas) 7. Sci-fi (E.T., Close Encounters of the Third Kind) 8. New Hollywood (Brian De Palma) 9. Contemporaries (Francis Ford Coppola; Martin Scorsese) 10. Themes and Inspiration 11. Historical and Period Dramas (Lincoln, Schindler's List, Saving Private Ryan) 12. Impact Today (J.J. Abrams, The Duffer brothers) 13. DreamWorks and DreamWorks Interactive 14. Student Poster Presentations

到達目標	英語圏の映画の歴史を学び、映画の諸場面で使用される中級レベルの英語表現を理解し、実際に運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students prepare readings before class and write reviews and summaries of the films shown in class. Students write a short essay on a film of their choice and give a final presentation.
テキスト	All materials will be provided in class.
参考文献	Provided in class.
評価方法	Classroom Participation 40%, Film Reviews 25%, Poster Presentation 25%, Homework 10%

13 年度以降	シネマ英語	担当者	J．D．コーリス

講義目的、講義概要	授業計画
Villains in Film: This course will focus on villains and antagonists in film. The Joker and Batman, Darth Vader and Luke Skywalker, Lord Voldemort and Harry Potter; heroes are made by the villains they overcome. Antagonists are key to understanding the central themes and conflicts of a film, and great villains are often the most compelling characters in a story. We will review common villain tropes in literature and film and screen examples from a wide range of genres. Students will discuss and practice analyzing the themes and aesthetics of cinema villains with reference to the specific social and historic contexts that gave rise to some of the most memorable characters in movie history. Major assignments will include a short comparative essay and a final poster presentation.	1. Intro: Why a great villain is better than a great hero 2. Villain tropes in literature and film (Austin Powers) 3. Survival Instincts (Alien, The Lost Boys, Lake Placid) 4. Logic and Machines (2001, The Terminator, Ex Machina) 5. Authority and Domination (One Flew Over the Cuckoo's Nest, Harry Potter and the Order of the Phoenix) 6. Money and Corruption (Wall Street, There Will Be Blood) 7. Obsessed and Disturbed (Psycho, Fatal Attraction) 8. Chaotic, Inexplicable Evil (The Dark Knight, Halloween) 9. Sympathetic Villains (Jurassic Park, Godzilla) 10. Antiheroes (A Clockwork Orange, American Psycho) 11. The Devil Inside (Fight Club, Blade Runner) 12. Social Ills (Dawn of the Dead, Falling Down, Get Out) 13. Review: What makes a great villain? 14. Final Presentations

到達目標	英語圏の映画の歴史を学び、映画の諸場面で使用される中級レベルの英語表現を理解し、実際に運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students prepare readings before class and write responses to the films shown in class. Students write a short critical essay and research and prepare a final presentation.
テキスト	All materials will be provided in class.
参考文献	Provided in class.
評価方法	Classroom Participation 40%, Homework and Response Papers 20%, Comparative Essay 20%, Final Poster Presentation 20%

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	シネマ英語	担当者	A．ジェネス

講義目的、講義概要	授業計画
Continuing from Spring, the course focuses on “film and and American culture”, and aims to examine American culture and society through film. Time will be spent in class watching and critically analyzing films, as a window onto American culture and society. The two themes for the autumn semester are: “The American dream” and “Social justice”, and we will watch films from a variety of genres in relation to these themes. Films will be show in class in English without subtitles. The films provided on the schedule are a tentative list and may be changed during the course.	1. Course introduction / review 2. Theme 3: The American dream- Pleasantville 3. They live 4. The Founder (pt. 1) 5. The Founder (pt. 2) 6. American Beauty (pt. 1) 7. American Beauty (pt. 2) 8. Theme 4: Crime & Social Justice- 12 Angry Men 9. One flew over the Cukoo’s nest 10. Taxi Driver (pt. 1) 11. Taxi Driver (pt. 2) 12. Philadelphia 13. RBG 14. Final Class: course review

到達目標	英語圏の映画の歴史を学び、映画の諸場面で使用される中級レベルの英語表現を理解し、実際に運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will need to make a presentation about a film of their choice. There will be readings assigned and students need to write film reviews and reports for films shown in class.
テキスト	All materials will be provided in class.
参考文献	Provided in class.
評価方法	Presentation 20%, Film reviews/ reports 50%, class participation 30%

13 年度以降	シネマ英語	担当者	高田　宣子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、英語圏で制作されたさまざまな映画作品を取り上げながら、そのテーマの特色および使われている英語表現の特色を分析し、時代背景や文化認識の変化を探ることを目的とします。前期の前半は、映画の誕生から今日に至るまでの歴史を振り返りながら、主としてアメリカ映画にみられるエスニシティとジェンダーに関する問題を扱います。履修人数にもよりますが、前期の後半はグループごとにひとつの作品を取り上げ、テーマと英語表現上の特色について、日本語と英語でプレゼンテーションを行ってもらいます。また、毎回のプレゼンテーションをもとに、履修者全員にコメント（日本語と英語）を提出してもらいます。	第１回　ガイダンス　サイレントからトーキーへ 第２回　ミュージカル映画について 第３回　映画に見られるテーマと表現分析その１ 第４回　テーマと表現分析その２　および グループ・ワークシート作成　１ 第５回　テーマと表現分析その３　および グループ・ワークシート作成　２ 第６回　テーマと表現分析その４　および グループ・ワークシート作成　３ 第７回　復習テストと発表テーマ確認 第８回　発表資料作成と内容チェック 第９回　発表資料作成と内容チェック 第１０回　発表資料作成と内容チェック 第１１回　学生プレゼンテーションとコメント 第１２回　学生プレゼンテーションとコメント 第１３回　学生プレゼンテーションとコメント 第１４回　まとめと復習テスト

到達目標	英語圏の映画の歴史を学び、映画の諸場面で使用される中級レベルの英語表現を理解し、実際に運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当作品の台詞分析および発表に向けてのパワーポイントの作成
テキスト	プリント配布
参考文献	特になし
評価方法	分析コメント３０％、ワークシート２０％、プレゼンテーション２０％、テスト２０％、レポート１０％とする。なお、４回以上欠席した場合は、原則として成績評価の対象となりません。

13 年度以降	シネマ英語	担当者	高田　宣子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、主に英語圏で制作されたさまざまな映画作品を取り上げながら、テーマの特色および使われている英語表現の特色を分析し、時代背景や文化認識の変化を探ることを目的とします。後期も主としてエスニシティとジェンダーに関する問題を扱いますが、取り上げる作品はアメリカ映画には限定しません。 履修人数にもよりますが、後期の後半はグループごとにひとつの作品を取り上げ、テーマと英語表現上の特色について、日本語と英語でプレゼンテーションを行ってもらいます。また、毎回のプレゼンテーションをもとに、履修者全員にコメント（日本語と英語）を提出してもらいます。	第１回　ガイダンス 第２回　映画に描かれる日本人について 第３回　テーマと表現分析その１ 第４回　テーマと表現分析その２ グループ・ワークシート作成　１ 第５回　テーマと表現分析その３ グループ・ワークシート作成　２ 第６回　グループ・ワークシート作成　３ 第７回　復習テスト プレゼンテーションのテーマチェック 第８回　発表資料作成と内容チェック 第９回　発表資料作成と内容チェック 第１０回　発表資料作成と内容チェック 第１１回　学生プレゼンテーションとコメント 第１２回　学生プレゼンテーションとコメント 第１３回　学生プレゼンテーションとコメント 第１４回　まとめと復習テスト

到達目標	英語圏の映画の歴史を学び、映画の諸場面で使用される中級レベルの英語表現を理解し、実際に運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当作品の台詞分析および発表に向けてのパワーポイントの作成
テキスト	プリント配布
参考文献	特になし
評価方法	分析コメント３０％、ワークシート２０％、プレゼンテーション２０％、テスト２０％、レポート１０％とする。なお、４回以上欠席した場合は、原則として成績評価の対象となりません。

13 年度以降	シネマ英語	担当者	T．ダニー

講義目的、講義概要	授業計画
This a one-semester, semi-elective course where the use of film and theatre and its analysis is central to the work undertaken in the classroom. Further, there will be opportunities for group discussion, practical workshops and presentations allowing the student to improve self-confidence and team work. Such a course will help sharpen the students listening, critical thinking and comprehension skills. Depending on the students level, English sub-titles (or no sub-titles) will be used. **Overall Objectives:** 1. To provide the students with an introduction to a range of film genres 2. To expose the student to a range of International accents, regional dialects, non-verbal communication and colloquial language 3. To enhance the student's critical thinking through teacher and student led discussion 4. To enable the student to develop their general confidence, team work and levels of self expression through the experience of practical exploration of the films themes, text and character	1. Course Introduction & Introductory activities 2. Introduction of 1st Film & Selected Viewing 3. 1st Film Follow-up Class Discussion 4. Introduction of 2nd Film & Selected Viewing 5. 2nd Film Follow-up Class Discussion 6. 2nd Film Script Workshop 7. Mid-Term Assignment: A Profile of an Actor 8. Introduction of 3rd Film & Selected Viewing 9. 3rd Film Follow-up Class Discussion 10. Introduction of 4th Film & Selected Viewing 11. 4th Film Follow-up Class Discussion 12. Film Dialogue & Script Writing: 1st steps 13. Mini Scripts: Presentations 14. Submission of Final Assignment: Film Review

到達目標	英語圏の映画の歴史を学び、映画の諸場面で使用される中級レベルの英語表現を理解し、実際に運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	Read handouts & any other material shown in class and complete all assignments before beginning of the following class. After class, students are required to do all homework tasks set. Students can expect to spend about 90 minutes per week in preparation
テキスト	No textbook is required, instead, handouts and online material will be made available when
参考文献	—
評価方法	Final Grades will be based on: In-class Participation 20%　Mid Term Presentation 30% Final Assignment 50%

13 年度以降	シネマ英語	担当者	T．ダニー

講義目的、講義概要	授業計画
This a one-semester, semi-elective course where the use of film and theatre and its analysis is central to the work undertaken in the classroom. Further, there will be opportunities for group discussion, practical workshops and presentations allowing the student to improve self-confidence and team work. Such a course will help sharpen the students listening, critical thinking and comprehension skills. Depending on the students level, English sub-titles (or no sub-titles) will be used. Overall Objectives: 1. To provide the students with an introduction to a range of film genres 2. To expose the student to a range of International accents, regional dialects, non-verbal communication and colloquial language 3. To enhance the student's critical thinking through teacher and student led discussion 4. To enable the student to develop their general confidence, team work and levels of self expression through the experience of practical exploration of the films themes, text and character	1. Course Introduction & Introductory activities 2. Introduction of 1st Film & Selected Viewing 3. 1st Film Follow-up Class Discussion 4. Introduction of 2nd Film & Selected Viewing 5. 2nd Film Follow-up Class Discussion 6. 2nd Film Script Workshop 7. Mid-Term Assignment: A Profile of an Actor 8. Introduction of 3rd Film & Selected Viewing 9. 3rd Film Follow-up Class Discussion 10. Introduction of 4th Film & Selected Viewing 11. 4th Film Follow-up Class Discussion 12. Film Dialogue & Script Writing: 1st steps 13. Mini Scripts: Presentations 14. Submission of Final Assignment: Film Review

到達目標	英語圏の映画の歴史を学び、映画の諸場面で使用される中級レベルの英語表現を理解し、実際に運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	Read handouts & any other material shown in class and complete all assignments before beginning of the following class. After class, students are required to do all homework tasks set. Students can expect to spend about 90 minutes per week in preparation
テキスト	No textbook is required, instead, handouts and online material will be made available when
参考文献	—
評価方法	Final Grades will be based on: In-class Participation 20%　Mid Term Presentation 30% Final

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	ツーリズム交流論	担当者	鈴木　涼太郎

講義目的、講義概要	授業計画
ツーリズムによる国際的な人間の流動は、経済・社会・文化の幅広い領域に関る複合的な現象である。本講義では、ツーリズム全般に関る基礎的な事象や概念を学び、個別のツーリズム関連産業や観光地について理解するために必要な知識や視座を習得する。 講義では、まずツーリズムに関る基礎的な用語や概念について解説し、次に現代ツーリズムを支える諸産業・メディアについて概説する。その上で、ツーリズムが地域社会に与える経済的、社会的・文化的影響について学ぶ。ゲストスピーカーによる授業を行うこともある。	1.　ガイダンス：なぜツーリズムを学ぶのか？ 2.　ツーリズムとは何か：諸概念の整理 3.　ツーリズムの歴史 4.　ツーリズムを支える諸産業①：交通と宿泊 5.　ツーリズムを支える諸産業②：旅行業 6.　ツーリズムと情報／メディア 7.　ツーリストのまなざし論 8.　ツーリストと観光行動 9.　ツーリズムとオーセンティシティ 10.　ツーリズムの経済効果 11.　ツーリズムの社会的文化的インパクト 12.　ツーリズムの環境へのインパクト 13.　日本における観光政策史 14.　観光地計画と観光政策の現在

到達目標	国際収支改善、雇用促進、地域開発等の経済的側面のみならず社会、文化、教育、環境、国際親善など非常に広範囲な分野に強い影力を及ぼすツーリズム交流について専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業内の指示に従い各自が予習復習を行うこと。
テキスト	指定しない。
参考文献	前田勇編著『新現代観光総論』学文社　大橋昭一ほか編『観光学ガイドブック』ナカニシヤ出版
評価方法	授業への参加／講義内小課題 30%　期末試験 70%

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後 学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	ツーリズムリスク論	担当者	竹田　いさみ

講義目的、講義概要	授業計画
W・ディズニー映画「パイレーツ・オブ・カリビアン」を鑑賞しながら、世界史に登場した「海賊（パイレーツ）」の正体に迫ります。 毎回の授業では、前半にディズニー映画などを取り上げ、授業の後半で、テキストを参照して、知識を獲得します。 この授業では「ツーリズム」を「移動すること」と解釈し、移動のリスクを冒して暴れ回った海賊、パイレーツに光をあてます。世界ブランドになったコーヒー、紅茶、スパイスの世界史も触れます。英国初のブランド・ビジネスは、パイレーツと縁が深いのです。 （注意）既に同担当者の「国際関係特殊講義」を修得済みの場合は履修不可とします。	1 ディズニー映画「パイレーツ・オブ・カリビアン」上 2 ディズニー映画「パイレーツ・オブ・カリビアン」中 3 ディズニー映画「パイレーツ・オブ・カリビアン」下 4 英雄としての海賊　前 5 英雄としての海賊　後 6 映画「エリザベス」＜パイレーツ女王＞ 7 海洋覇権のゆくえ――パイレーツの役割 8 スパイス争奪戦――パイレーツの「東インド会社」前 9 スパイス争奪戦――パイレーツの「東インド会社」後 10 コーヒーから「午後の紅茶」前 11 コーヒーから「午後の紅茶」後 12 ディズニー映画「カリブの海賊――生命の泉」前 13 ディズニー映画「カリブの海賊――生命の泉」後 14 まとめ、質疑応答

到達目標	国際的なツーリズム産業を取り巻く多様なリスク（海賊・テロ・組織犯罪など）について専門知識を習得し、リスクの発生原因やその影響、さらにリスク回避の対策などを分析のうえ見解を提示できるようにする。
事前・事後 学修の内容	授業で扱う映画・パワーポイント資料の時代背景、さらにテキストの範囲を、事前・事後に調べて下さい。
テキスト	竹田いさみ『世界史をつくった海賊』（ちくま新書）など。
参考文献	授業中にお知らせします。
評価方法	評価方法は期末テスト 80%。小テスト 20%です。

13 年度以降	ツーリズム・マネジメント論	担当者	鈴木　涼太郎

講義目的、講義概要	授業計画
現代ツーリズムの発展は、旅行にかかわる諸サービスを大量生産・消費可能な商品として提供するツーリズム／観光関連産業の発展抜きに語ることは出来ない。 本科目では、これまでツーリズム研究で蓄積されてきた理論的枠組みをいくつか紹介しながら、ツーリズムの現場における人間や空間、イメージの管理の在り方を理解する視点を身につけることを目標とする。それゆえ、本講義で扱うマネジメントの範囲は、ツーリズム産業の企業活動における問題解決や現実的課題には限定されない点に留意されたい。 講義では、まずツーリズム商品の基本的な特徴に留意しつつ、関連産業のしくみについて概説する。次に、ツーリズム商品のマネジメントにかかわる具体的な事例を取り上げ、現在のツーリズム産業が抱える課題について検討する。ゲストスピーカーによる授業となることもある。	1. ガイダンス 2. ツーリズム商品の特徴①：マーケティングからの視点 3. ツーリズム商品の特徴②：イメージとパフォーマンス 4. パッケージツアー①：マクドナルド化された旅行？ 5. パッケージツアー②：イメージをパッケージ化する 6. パッケージツアー③：身体化される団体旅行 7. パッケージツアー④：商品企画における「知識の管理」 8. 空間の管理とテーマ化 9. テーマ化された空間とハイブリッド消費 10. 感情労働 11. 舞台としての観光地 12. 生活とツーリズム 13. スピリチュアリティの商品化は可能か 14. 「ツーリズムの終焉」とツーリズム産業

到達目標	ツーリズム・マネジメントの基本であるツーリズム・マーケティングの専門知識を習得し、観光市場調査、観光行動の分析を行い、観光需要予測、商品企画等ができるようにする。
事前・事後学修の内容	授業内での指示に従い各自が予習復習を行うこと。
テキスト	指定しない。
参考文献	授業内で適宜紹介する。
評価方法	授業への参加／講義内小課題 30%　期末試験 70%

13 年度以降	ツーリズム文化論	担当者	鈴木　涼太郎

講義目的、講義概要	授業計画
人間の地球規模での移動の一形態であるツーリズムは、必然的にそれに付随した「モノ」の移動をともなう。本講義では、ツーリズムに関連したモノの移動の代表例として観光みやげを取り上げ考察する。おみやげという身近な存在を通じて、グローバルな人とモノの移動と文化をめぐる動態について考える視野を身につけることを目標とする。 講義では、まず日本における観光みやげの成立やその生産や流通、販売にかかわる産業の現状について紹介し、次にみやげもの存在を規定するいくつかの論理について概説する。その上で、ツーリズムを介したみやげというモノの移動が、文化の消費、移転、生産にいかにかかわっているのかについて具体的な事例をあげながら考察する。	1. ガイダンス 2. ツーリズムにおけるモノの文化的消費 3. おみやげとスーベニア 4. 観光みやげの近代 5. 「民芸品」をめぐるまなざし 6. 観光みやげと「ものがたり」 7. 観光みやげのギフト性 8. 観光みやげと真正性 9. 観光みやげの儀礼的倒錯性 10. こけしと木彫り熊 11. マトリョーシカのルーツ 12. マトリョーシカのルート 13. 民芸品としてのアジアン雑貨 14. アジアン雑貨が創る旅

到達目標	各国・各地域の文化・歴史を象徴する名所や遺跡、建造物等について専門知識を習得し、ツーリズムと文化・歴史との関係性、およびツーリズム産業について分析のうえ見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業内での指示に従い各自が予習復習を行うこと。
テキスト	指定しない。
参考文献	授業内で適宜紹介する。
評価方法	授業への参加／講義内小課題 30%　期末試験 70%

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後 学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	国際会議・イベント事業論	担当者	井上　泰日子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 　２０２０年の東京での開催をひかえ、オリンピック、パラリンピックが大きな注目を集めている。本講義においては、オリンピック、パラリンピックはじめ、博覧会、国際会議、その他各種イベントの歴史、現状などについて学習する。 講義概要： 　オリンピック、パラリンピック、博覧会、国際会議などについて歴史的経緯、現状などを学習し、さらに、その具体的な仕組みや役割を理解する。最後は、東京オリンピック・パラリンピックに焦点をあて、“それをどのように成功させるか”、“どのようにして国や地域振興に生かすか”などについて、各自パワーポイントを使用しプレゼンテーションを行う。	1.　オリエンテーション 2.　イベント・コンベンションの歴史 3.　イベント・コンベンションの意義 4.　国際博覧会 5.　2020 年東京オリンピック・パラリンピック 6.　障害者スポーツとパラリンピックについて 7.　国際会議・イベントについての「ディスカッション」 8.　古代オリンピック 9.　オリンピック商業主義の歴史 10.　商業主義の発展 11.　プレゼンテーション：「2020 年オリパラの成功」　グループ A 12.　〃　グループ B 13.　〃　グループ C 14.　〃　グループ D

到達目標	ツーリズム産業の重要な担い手であり、地域の文化交流や産業経済に刺激を与え、地域の活性化に貢献する国際会議やイベントについて専門知識を習得し、その現状と将来の課題等について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後 学修の内容	新聞、関連文献などを事前に読むこと。配布した資料の復習
テキスト	適宜個別資料を配布する
参考文献	特に指定無し
評価方法	授業での発言、受講姿勢、講義参画 70%、プレゼンテーションとレポート 30%

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	ツーリズム政策論	担当者	井上　泰日子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 　ツーリズムにおける政策や課題を理解することを目的としている。ツーリズム政策は、国家の主要政策として世界各国で推進されてきたが、グローバル化が進展する今日その重要性がさらに高まっている。このような現状を踏まえながらマーケティングの視点も含め多様な視点からツーリズム政策を分析する。同時に、未来に向けての新たなツーリズム政策の考察を行う。 講義概要： 　ツーリズムは単にレジャー領域のものではなく、経済、文化などの社会活動に深く関わるものである。このようなツーリズム政策の各テーマについて、単に一方的な解説だけではなく、ディスカッション等を通して受講生自ら新たなツーリズム政策を提案するなどの試みを通して理解を深めていく。	1. オリエンテーション 2. ツーリズムの基本構造—定義など 3. ツーリズムの基本構造—経済の面からの分析 4. マーケティングとは何か？ 5. ツーリズム政策とマーケティング理論 6. ツーリズム政策の変遷 7. ツーリズム政策における我が国の課題 8. （ツーリズム政策に関する）ディスカッション 9. 世界のツーリズム政策（シンガポール） 10. 世界のツーリズム政策（北欧、ドイツ） 11. 世界のツーリズム政策（スイス） 12. 世界のツーリズム政策（フランス） 13. 日本各地のツーリズム政策（地域振興など） 14. ツーリズムとキャリアデザイン

到達目標	観光政策と行政等、観光に関する政府の具体的な施策、および観光行政組織や「観光立国推進基本法」に関する専門知識を習得し、観光対策や観光立国のあり方などについて分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	新聞などメディアを通して、ツーリズムに関する情報を事前に予習しておくこと
テキスト	適宜個別資料を配布する
参考文献	『急変する世界下のエンプロイアビリティ-豊富な事例から導くキャリア形成のヒント』（丸善プラネット）
評価方法	受講姿勢、ディスカッションでの発言など講義参画 30%、最終試験 70%

13 年度以降	航空産業論	担当者	井上　泰日子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 　我が国は人口減少、一方世界の人口は増え続けている。グローバル化の進展、さらに世界の人口増加で他の輸送手段の追随を許さない航空の重要性はますます高まっている。同時に近年注目を集めているＬＣＣ（低コスト航空会社）の拡大、多様化など、航空産業は大きな変革の過程にある。本講義では、航空の歴史、現状、未来についての基礎的な知識の習得を目的としている。 講義概要： 　本講義では、航空輸送の各テーマに加え、航空輸送と航空機製造の連携の構造についての解説も行う。また、様々なビジネス理論の解説も行う。時間に余裕があれば航空産業におけるキャリアデザイン、就職活動の現状についても解説を行う。タイミングが合えば、航空関係者を招聘し特別講演を実施する。	1.　オリエンテーション 2.　最近の航空産業の動きなど 3.　航空産業とキャリアデザイン 4.　航空とは何か 5.　航空の歴史 6.　LCC（低コスト航空会社）が世界を変える 7.　航空事業の特性と運賃 8.　米国チャプター１１（連邦破産法第１１章） 9.　JAL の破綻と復活 10. 規制緩和とオープンスカイ政策 11. 航空機製造ビジネス 12. 三菱リージョナルジェット（MRJ）飛翔 13. 空港 14. 国際航空法

到達目標	国際航空業の仕組みや成り立ち、国際航空協定と航空ナショナリズムの流れに関する専門知識を習得し、わが国の空港行政の問題点や航空政策の現状と課題、及び LCC やアライアンス等の展望等について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの丁寧な予習と復習の実施
テキスト	教科書：『最新・航空事業論（第 2 版）』（2016 年 12 月、日本評論社）
参考文献	『急変する世界下のエンプロイアビリティ-豊富な事例から導くキャリア形成のヒント』（丸善プラネット）
評価方法	受講姿勢、ディスカッションでの発言など講義参画 30%、最終試験 70%

13 年度以降	旅行・宿泊産業論	担当者	井上　泰日子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 　ツーリズムに大きく関わる旅行業、宿泊業（ホテル、旅館など）、航空事業、クルーズ事業のビジネスの現状と課題について学習する。 講義概要： 　旅行産業の発展経緯、ビジネスの概要、さらにオンライン旅行市場について学習する。宿泊産業においては、ホテル、旅館のビジネスの概要及び課題、さらに将来について学習する。航空事業、及び大きく成長しているクルーズ事業においては、最近の動向を中心に学習する。最後の「プレゼンテーション」では、各産業への提案を各自パワーポイント使用によって行う。	1.　オリエンテーション 2.　旅行産業-歴史と現状 3.　オンライン旅行市場 4.　旅行産業-将来 5.　ホテル、旅館等宿泊産業-歴史 6.　ホテル、旅館等宿泊産業-現状、将来 7.　ツーリズム産業におけるキャリアデザイン 8.　ディスカッション（テーマ：各産業の課題等） 9.　航空事業の最近の動向 10. クルーズ事業の最近の動向 11. プレゼンテーション　グループ A 12. プレゼンテーション　グループ B 13. プレゼンテーション　グループ C 14. プレゼンテーション　グループ D

到達目標	ツーリズム産業の重要な役割を果たしている旅行業と宿泊業の歴史、組織と機能、経営の実態、社会的意義と役割などについて専門知識を習得し、現状の問題点と将来の課題等について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	新聞や関連文献から各産業の最近の動向を事前に調べておくこと。講義内容の復習。
テキスト	適宜個別資料を配布する。
参考文献	『急変する世界下のエンプロイアビリティ-豊富な事例から導くキャリア形成のヒント』（丸善プラネット）
評価方法	受講姿勢、発言、講義参画 70%、プレゼンテーションとレポート 30%

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後 学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	地域開発論	担当者	北野　収

講義目的、講義概要	授業計画
地域や町が発展するということはどういうことでしょうか。道路やビルを造ること、景観を整備すること、イベントにより集客を図り商店街を活性化させる等々いろいろな捉え方があります。本授業では、「地域づくり＝人々の間のコミュニケーションの総和」として捉えます。草の根レベル、ミクロの視点から、地域づくりについて、日本と海外、都市と農村など地域や分野を横断的に取り扱い、そこにある普遍的な理論や問題を考えます。行政と市民の協働、外部者（よそ者）の関わり方、地域リーダー／キーパーソン、住民の参加のあり方について、人々がコミュニケーションする場と空間という観点から考察していきます。取り上げる事例は、生ゴミリサイクルによる地産地消、都市近郊での環境教育、NY のドッグランと防犯、インドネシアでの NGO 活動、ブラジルのスラム開発など多岐にわたります。	1. 地域の発展を理解するための視座（教科書 1 章） 2. 住民参加（participation）の意義と多義性（2 章） 3. 生ごみリサイクルにみる町づくり制度構築：山形県（3 章） 4. 地域づくり・環境教育におけるキーパーソン：兵庫県（4 章） 5. つながりを育む仕組み（ビデオ『坂本龍一・地域通貨の未来』） 6. 共益から公益の創出へ：NY と東京のドッグラン（10 章） 7. スラムとコミュニティ開発：ブラジル（ビデオ） 8. 地域づくりと外部者のまなざし：島根県（7 章） 9. 参加型開発：熊本の事例（教室内ワークショップ） 10. 開発とコミュニケーション：インドネシア NGO 支援（11 章） 11. 百年先を考えたまちづくり（ビデオ『湯布院癒しの里の百年戦争』『ドイツの持続可能な村づくり』） 12. アクセシブル観光・ユニバーサル交流：北海道、山梨、岩手等の事例（8 章） 13. ソーシャルキャピタル・社会関係資本 14. まとめ、試験対策

到達目標	地域開発に関する専門知識を習得し、各国・地域における観光開発のあり方や課題、問題点などについて分析を行い、見解を提示できる
事前・事後 学修の内容	テキストの熟読、授業ノートを踏まえたテキストの再読。
テキスト	北野収編『共生時代の地域づくり論』農林統計出版　※学内書店で各自購入のこと。
参考文献	適宜、授業内で提示する。
評価方法	期末試験（60%）、学期中課題（30%）、教室内ワークショップ貢献（10%）。

13 年度以降	ツーリズム人類学	担当者	須永　和博

講義目的、講義概要	授業計画
ツーリズムがそれを受け入れる社会にもたらす影響は、経済的側面のみならず、社会的・文化的・政治的側面など多岐にわたっています。それゆえツーリズムを学術的に考察する際の方法論も多様です。 本講義では、文化人類学という学問を手がかりに、ツーリズムを「文化」という側面から検討するための基礎的概念・考え方について学ぶことを目的としています。具体的には、1. ツーリズムを生み出す仕掛け、2. ツーリズムがもたらす影響、3. ツーリズムが作り出す文化、という3つの側面から講義を行い、ツーリズムを社会・文化現象として分析する際の基本的な視座の習得を目指します。同時に、ツーリズム研究に関連する現代人類学における主要な問題意識・諸概念についても理解を深めていきます。 受講に際しては、文化人類学の基礎知識は必ずしも必要ありませんが、授業内で紹介する文献資料の読解を各自行なうなど、予習・復習が不可欠となります。	1. 趣旨説明 2. 映画『海と大陸』 3. グローバル化の中の民族文化 4. マクドナルドの民族誌 5. 観光と異文化理解 6. 表象の政治学―情報資本主義と観光 7. メディアと観光―「楽園」ハワイの文化史 8. 文化装置としてのホテル 9. 世界遺産の窮状―カンボジアの事例 10. ジェンダー論からみる客室乗務員の文化史 11. セックス・ツーリズム―タイの事例 12. エスニック・ツーリズム―タイの事例 13. 先住民文化の商品化と著作権―北欧サーミの事例 14. 「記憶の場」と観光―広島および西アフリカの事例

到達目標	ツーリズム人類学（観光人類学）における主要な問題・関心について専門知識を習得し、実際の観光現象について文化人類学的視点から分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	『観光学キーワード』『よくわかる観光社会学』『観光人類学』などで、観光研究についての基本的知識について理解を深めておくこと。
テキスト	特に定めない。
参考文献	『観光学キーワード』（有斐閣）、『よくわかる観光社会学』（ミネルヴァ書房）、『観光人類学』（新曜社）
評価方法	授業毎の小レポート（30%）、期末レポート（70%）。ただし、4 回以上の欠席で単位認定の条件を失う。

13 年度以降	オルタナティブ・ツーリズム論	担当者	須永　和博

講義目的、講義概要	授業計画
オルタナティブ・ツーリズムとは、観光の大衆化（マス・ツーリズム）がもたらす様々な弊害（生活文化の形骸化や自然環境の破壊、新植民地主義等）を克服するために登場した新たな観光開発の理念です。本講義ではまず、オルタナティブ・ツーリズムが生まれた歴史的・社会的背景について概説します。その上で、エコツーリズムやコミュニティ・ベース・ツーリズム、場所性を取り入れたリゾートなど、オルタナティブな観光実践の諸事例を、文化人類学的・社会学的視点から検討し、その可能性について考えます。 本講義では、出来る限り実際の観光の現場で生じている個別具体的な事例から、観光の問題と可能性について考えてみたいと思います。その際に扱う事例としては、東南アジアをはじめとする「第三世界」や、先住民族や少数民族などの「第四世界」的状況の事例が中心となります。	1. 趣旨説明 2. ビデオ上映　（ジャマイカの観光開発） 3. 場所性の商品化―アマンリゾーツの戦略 4. 環境主義の商品化―エコリゾート 5. 世界遺産と観光1―ラオス・ルアンパバンの事例 6. 世界遺産と観光2―中国・麗江の事例 7. 貧困の商品化―都市貧困とツーリズム 8. バックパッカーの歴史と現状 9. 先住民とアート―北米イヌイットの事例 10. 先住民とミュージアム―アイヌの事例 11. エコツーリズムと先住民1―環境主義とは何か 12. エコツーリズムと先住民2―持続可能な開発とは何か 13. コミュニティ・ベース・ツーリズム―タイの事例 14. 現代日本における農山村の再編と観光

到達目標	オルタナティブ・ツーリズムと呼ばれる「新しい」観光の動向について専門知識を習得し、これらの観光の現場において生じている問題等について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	『観光学キーワード』『よくわかる観光社会学』などで、観光研究についての基本的知識について理解を深めておくこと。
テキスト	特に定めない。
参考文献	『観光学キーワード』（有斐閣）、『よくわかる観光社会学』（ミネルヴァ書房）等。
評価方法	授業毎の小レポート（30%）、期末レポート（70%）。ただし、4 回以上の欠席で単位認定の条件を失う。

13年度以降	フィールドワーク論	担当者	須永　和博

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、東京の魅力やそれを支える文化的独自性について、実際に東京各所を歩き回ることを通じて考える実践的講義です。 まず、文化人類学や社会学、地理学、歴史学、建築史など様々な視点から書かれた雑多な「東京論」を講義形式で紹介します。その上で、実際に東京各地を縦横無尽に歩きます。 受講生には、担当教員が指定した6つのコースの中から1~2つ選択し、5月から6月の週末を使って、プチ・フィールドワークをしてもらいます（実費負担）。なお担当教員は、これらのプチ・フィールドワークにすべて同行し、基本的な解説を行ないます。しかしただ解説を聞くのではなく、受講生自身が、想像力と五感をフルに使って東京の文化的独自性やその「味わい方」を発見することが求められます。 街歩きにもとづく「発見」の成果については、学期末に班ごとに発表をし、レポートにまとめてもらいます。	1. 趣旨説明・グループ分け（1回） 2. 東京を「読む」ための方法論（講義） 3. コース解説1：山の手と下町（本郷・上野・浅草） 4. コース解説2：ウォーターフロント（深川、佃、月島） 5. コース解説3：「おばあちゃんの原宿」（巣鴨） 6. コース解説4：繁華街の過去・現在・未来（渋谷・原宿） 7. コース解説5：エスニック・タウン（新宿、新大久保） 8. コース解説6：ジブリ映画の舞台・ニュータウン（多摩） 9. 発表・議論1：山の手と下町（本郷・上野・浅草） 10. 発表・議論2：ウォーターフロント（深川、佃、月島） 11. 発表・議論3：「おばあちゃんの原宿」（巣鴨） 12. 発表・議論4：繁華街の過去・現在・未来（渋谷・原宿） 13. 発表・議論5：エスニック・タウン（新宿、新大久保） 14. 発表・議論6：ジブリ映画の舞台・ニュータウン（多摩）

到達目標	フィールドワークの基本的な理論や技法を習得し、実践できるようにする。
事前・事後学修の内容	雑誌『東京人』等、東京を紹介する各種メディアの記事などを参照すること。
テキスト	特に指定しない。
参考文献	随時、プリントや文献リストを配布する。
評価方法	平常点（30%）、プレゼンテーション（30%）、期末レポート（40%）。 ただし、4回以上の欠席で単位認定の条件を失う。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13年度以降	インターンシップ	担当者	井上　泰日子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 　インターンシップを通して自らの専攻、キャリア形成に関連した就業体験を行うことで、働くことの意義や実社会の理解、さらに自己の職業への適応力等を学習する。同時にキャリア形成・就活に何が重要かを学ぶ。 講義概要： 　本科目は教室内での事前学習と、夏期実習、9月に実施する報告会で構成されている。事前学習は、インターンシップの意義を理解し効果的に実習が受けられるようになるためのものである。同時に、将来のキャリア形成と就活をスムーズに進めるための理論と実践的な方法論についても学習する。報告会では、実施報告書、日誌などに基づき、実習で学んだことに関するプレゼンテーションを行い、実習で得た経験、情報を全員で共有する。	■事前学習 1.　オリエンテーション（授業概要説明） 2.　キャリア形成・就活の研究プレゼン　グループA 3.　キャリア形成・就活の研究プレゼン　グループB 4.　キャリア形成・就活の研究プレゼン　グループC 5.　キャリア形成・就活の研究プレゼン　グループD 6.　研修先選考のための面談グループA,B 7.　講演　星野リゾート 8.　講演　ANA 9.　講演　HIS 10.　講演　ロイヤルパーク 11.　マナー講座 12.　研修先選考のための面談グループC,D 13.　インターンシップ実習前準備 14.　研修先企業の研究 ■夏期休暇中の実習―（約2週間） ■報告会（9月中旬を予定している）

到達目標	ツーリズム業界のインターンシップに必要な知識等を習得し、実習によりツーリズム業界を体験することで、業界の細部や自己の職能・適性等を発見できるようにする。
事前・事後学修の内容	各産業、各企業の研究を事前に行っておくこと。プレゼンテーションの練習を事前、事後に行うこと。
テキスト	『急変する世界下のエンプロイアビリティ-豊富な事例から導くキャリア形成のヒント』（丸善プラネット）
参考文献	特に指定無し
評価方法	研修先での評価50%、春学期プレゼン30%、報告会発表20%

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	ツーリズム特殊講義 （紛争事例から学ぶ旅行契約法入門）	担当者	花本　広志

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、旅行契約に関わる具体的な紛争事例の解決策を検討することを通じて、旅行契約に関わる法（主に民法）のあり様と基本的な考え方を学びます。全部で3つの紛争事例を課題として取り上げる予定ですが、各事例の解決に向けて、グループで活動をしながら、課題の解決に必要な知識や技能、態度を協調的・自立的に学習していきます。最後に総仕上げとして、口頭発表会を開催して、各自（履修者数によってはグループごと）の学習成果を発表したうえ、それをレポートにまとめて提出します。 この授業を通じて、旅行契約において生じる法的問題のうち、少なくとも1つについて、法律学を学習したことのない人に対して、分かりやすく、自分の言葉で、簡潔に（口頭5分、文書2000字程度）、ただし法的思考の作法に従って解答することができるようになることを目指します（これがこの授業の獲得目標の一つになります）。 具体的な授業の進め方や成績評価の方法などについては、第1回のオリエンテーションで詳しく説明します。受講者のみなさんの主体的な参加が必須となる授業ですので、受講希望者は、可能な限り第1回目のオリエンテーションに出席して、どのような授業か理解したうえで履修してください。	1.　オリエンテーション 2.　PBL ガイダンスと練習 3.　IRAC エクササイズ 4.　第 1 事例（その 1）：事例を検討して学習課題を抽出。 5.　第 1 事例（その 2）：学習事項を共有したうえで、事例を再度検討し、追加の学習課題を抽出。 6.　第 1 事例（その 3）：学習事項を共有したうえで、解決策を検討。教員による解説・解題。 7.　第 2 事例（その 1）：第 1 事例（その 1）に同じ。 8.　第 2 事例（その 2）：第 1 事例（その 2）に同じ。 9.　第 2 事例（その 3）：第 1 事例（その 3）に同じ。 10.　第 3 事例（その 1）：第 1 事例（その 1）に同じ。 11.　第 3 事例（その 2）：第 1 事例（その 2）に同じ。 12.　第 4 事例（その 3）：第 1 事例（その 3）に同じ。 13.　口頭発表会 14.　最終レポートのピア評価、授業全体のまとめと振り返り ＊各事例の内容は、事例を検討する際の手がかりとなるので、授業当日までのお楽しみとします。

到達目標	従来の科目では扱ってこなかったツーリズムに関する特定の専門知識を習得し、そこにおける現状および課題等について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業 3 回に 2 回の割合で「予習メモ」、各事例の検討後は、グループでの検討結果をまとめたメモ（グループメモ）の提出を求めます。全事例の検討後は、受講者各自が授業全体を通じて学習した成果を口頭で発表のうえ、レポートにまとめて提出します。
テキスト	学習に必要な文献や資料は、原則として受講者自身が協力し合って調査・収集するものとします。
参考文献	必要に応じて適宜、授業中に紹介します
評価方法	①正当な事由のない欠席 2 回以内、②正当な事由のあるものを含め欠席 4 回以内、③宿題提出率 70%以上、④口頭発表を行い、最終レポートを提出していること、⑤最終レポートのピア評価 70 点以上、⑥ラーニング・ポートフォリオ（受講者自身による学習成果のまとめ）の自己採点 70 点以上、のすべて満たしていることを単位認定（C 以上）の必要条件とします。その他、AA～C の基準を含む成績評価方法について詳細は、第 1 回のオリエンテーションで説明します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	ツーリズム特殊講義（ツーリズム地誌論）	担当者	須永　和博

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、野外民族博物館「リトルワールド」(愛知県犬山市)における1泊3日の研修旅行を通じて、世界各地の幅広い地誌学的・民族誌的知識を習得することを目指します。 リトルワールドには、世界の30以上の地域・民族の家屋・生活道具が移築・復元されています。受講生は、複数のグループに分かれ、そのなかから1つの地域・民族を選び、それぞれの地域・民族の文化や習慣について、事前に文献資料収集を行ないます。その上で、研修旅行では各々が「ガイド」となって、各展示を案内してもらいます。さらに、これら一連の作業を踏まえた上で、期末レポートとしてミニ・エスノグラフィを作成します。 本講義は、リトルワールドへの研修旅行を中心とした科目のため、研修旅行への参加が、履修の条件となります。研修旅行の日程は、12月中旬の週末を予定しています。詳細は、秋学期開始時までに教務課掲示板にてお知らせします。費用は、往路バス・復路新幹線利用、宿泊費込みで3万円程度です。	1.　趣旨説明・グループ分け 2.　講義1：文化人類学の歴史 3.　講義2：民族誌展示の歴史 4.　映像資料：国立民族学博物館の取り組み 5.　発表・議論1：グループ1 6.　発表・議論2：グループ2 7.　発表・議論3：グループ3 8.　発表・議論4：グループ4 9.　発表・議論5：グループ5 10.　発表・議論6：グループ6 11.　発表・議論7：グループ7 12.　発表・議論8：グループ8 13.　リトルワールド研修旅行総括 14.　まとめ：他者を語ることの詩学と政治学

到達目標	従来の科目では扱ってこなかったツーリズムに関する特定の専門知識を習得し、そこにおける現状および課題等について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	リトルワールドに展示されている諸地域・民族集団の民族誌を読むこと。
テキスト	山下晋司・船曳建夫（編）『文化人類学キーワード 改訂版』有斐閣
参考文献	随時、文献リストを配布する。
評価方法	平常点（30%）、プレゼンテーション（30%）、期末レポート（40%）。 ただし、4 回以上の欠席で単位認定の条件を失う。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	ツーリズム特殊講義（ツーリズム・メディア論）	担当者	山口　誠

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、ツーリズムとメディアが取り結ぶ多様な関係を、さまざまな事例から考えます。その目的は、多くの人々が「観光（ツーリズム）」という形での移動（モビリティ）を実行することで、きっと体験できるだろうと想像する「観光的現実」が、どのように生まれるのかを理解することにあります。 「観光的現実」とは、単に観光者と観光地の人々が共有するイメージ（疑似イベント）には留まりません。ときに「観光まちづくり」や「観光くにづくり（観光立国）」のシンボルにもなります。また「観光的現実」は必ずしも経済的発展や地域再生などに役立つばかりではなく、その逆に観光者や観光地の人々を対立させ、歴史や文化を根本から造り替えたりすることがあります。 ここでは担当者が研究しているグアム、観光ガイドブック、映画観光などの具体的な事例を解説することで、ツーリズムとメディアの節合（アーティキュレーション）から生じる「観光的現実」の特性とメカニズムを検討します。	1. ガイダンス：メディアとツーリズムが取り結ぶ関係 2. グアムから考える①：かつてグアムは日本の島だった 3. グアムから考える②：ツーリズムとメディアの「節合」 4. グアムから考える③：「日本人の楽園」が埋立てた記憶 5. 理論編①：「疑似イベント論」をアップデートする 6. ツーリズム・メディア史①：近代の観光ガイドブック 7. ツーリズム・メディア史②：ミシュランと自動車文化 8. ツーリズム・メディア史③：「地球の歩き方」と若者 9. 理論編②：真正性とアーティキュレーション 10. メディア・ツーリズム①：観光地とメディア 11. メディア・ツーリズム②：映画観光の特徴 12. メディア・ツーリズム③：「歴史」と「記憶」の観光資源化 13. 理論編③：複製技術時代の真正性と観光 14. 理論編④：メディア・ツーリズムのメカニズム

到達目標	従来の科目では扱ってこなかったツーリズムに関する特定の専門知識を習得し、そこにおける現状および課題等について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業中に示す事例や重要概念について図書館などで自ら調べ、さらに理解を深めてください。
テキスト	各回講義で適宜提示します。
参考文献	各回講義で適宜提示します。
評価方法	期末試験 85%、授業参加度および学期中レポート 15%。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	ツーリズム特殊講義 （交流文化の思想を読み解く）	担当者	山口　誠

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、交流文化の思想を理解するうえで役立つ「古典」の精読を通じて、3・4年次生の研究に資する高度な読解力と思考力を育てるための技法を学びます。 「古典」は、授業や論文で言及されることが多い割に、学生が実際に読む機会は少ないと考えられます。しかし「古典」は「有名な学者が書いた本」ではなく、そこに時代の精神を捉える「問い」が活き活きと描かれているからこそ、多くの人々に読み継がれてきた良書であるといえます。そのため、筆者の「問い」を再現し、その思考を追体験することで、「古典」を精読する楽しみ（ワクワク感）を出席者とともに味わうことを目指します。 この授業は「反転授業」の方法で行います。全員がテキストを読解して出席していることを前提に、教員やレジュメ担当者が一方的に話すのではなく、逆に出席者の「ここが読めなかった」「ここはこういう意味か」等の質問からスタートし、全員で討論して、「われわれの読解」を練り上げることを試みます。 そのためこの授業は定員を30名に設定し、3・4年次での受講を推奨します。難解な文献を他の出席者と協力して積極的に読解し、その思想を深く理解する喜びを求める方の受講を歓迎します。	1.　ガイダンス：読解の方法、各テキストの説明 2.　ポストモダンとは何か：前半（J.F.リオタール） 3.　ポストモダンとは何か：後半（J.F.リオタール） 4.　「社会」という思想：はじめに（見田宗介） 5.　「社会」という思想：第1章（見田宗介） 6.　「社会」という思想：第2章（見田宗介） 7.　「社会」という思想：第3章（見田宗介） 8.　「社会」という思想：第4章（見田宗介） 9.　「文化」という問題：前半（E. サイードほか） 10.　「文化」という問題：後半（E. サイードほか） 11.　「まなざし」と主体性：前半（M. フーコー） 12.　「まなざし」と主体性：後半（M. フーコー） 13.　「交流」は可能か（J. アーリほか） 14.　総括討論、まとめ

到達目標	従来の科目では扱ってこなかったツーリズムに関する特定の専門知識を習得し、そこにおける現状および課題等について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストを毎回必ず複数回は精読して理解を深め、論点と疑問点を整理して授業に参加してください。 また授業後に 1 回はテキストを読み返してください。
テキスト	必要なテキスト（部分）を配布しますが、1〜2 冊の文庫・新書は購入してもらう予定です。
参考文献	各回講義で適宜提示します。
評価方法	授業参加度 40%、発表 50%、期末レポート 10%によって総合的に評価します。

13 年度以降	トランスナショナル文化論	担当者	高橋　雄一郎

講義目的、講義概要	授業計画
人の移動（移民・難民）を通じて文化の多様性を尊重する社会の構築について考えます。ヨーロッパをめざしたシリア難民、日本の難民政策などを事例に、人の移動の諸相について学びます。	1. 導入、移民・難民について学ぶ意義 2. ヨーロッパをめざす西アジア、アフリカ各地出身の難民 3. SOAR出張授業 4. 難民の受入れ先（ヨルダン、カナダを例に） 5. アメリカ合衆国（トランプ大統領の政策を中心に） 6. サンデル教授の白熱教室①（路面電車と正義） 7. サンデル教授の白熱教室②（国境は必要か） 8. イスラエル・パレスチナと移民、難民 9. 移民難民と日本①（在留資格など） 10.移民難民と日本②（労働者の受入れ） 11.移民難民と日本③（コミュニティーと教育） 12.移民難民と日本④（ロヒンギャ人、クルド人など） 13.移民難民と日本⑤（難民認定と保護） 14.移民難民と日本⑥（難民支援の活動）

到達目標	トランスナショナル文化のフローとそれに関する専門知識を習得し、国境を越えた人や物、思想の動きとその重要性などについて分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テクストを十分に予習し、また背景となる歴史や社会状況について調べ、問題点や質問事項を整理して授業に臨んでください。
テキスト	滝澤三郎『世界の難民をたすける 30 の方法』（2018）合同出版、ポータルで配付するニューヨークタイムズ記事ほか
参考文献	根本かおる『難民鎖国ニッポンのゆくえ』ほか
評価方法	授業レポートシステムを通じて毎週授業後に提出するレポート（50%）、指定された映画リストの中から一作品を選び記述するレポート（20%）、学期末レポート（30%）

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	トランスナショナル・メディア論	担当者	山口　誠

講義目的、講義概要	授業計画
メディアとは、人と人をつなげ、事実やメッセージを伝えるための透明な「パイプ」ではありません。ときに事実と異なる情報を伝え、あるいは「事実」そのものを作り出し、そして人と人を分断することもあります。ならば、いつ、どうして「メディア」は生まれ、どのような仕組みを持ち、いかなる機能を果たすようになったのでしょうか。そしてトランスナショナル・メディアとは、いかなる存在でしょうか。 この講義では、「国際報道」「国際宣伝」「国境を越えて流通するイメージや情報」を柱とするトランスナショナル・メディアの事例を歴史的に検討し、その特性を理解することを目的とします。たとえば中世の活版印刷術と新約聖書、近代の戦争報道と国際プロパガンダ、現代のインターネット・ジャーナリズムなどを多角的に分析します。 メディア研究の基礎から最新の議論を学ぶことで「メディア」の機能と仕組みを考え、トランスナショナル・メディアを「読み解く」だけでなく「使いこなす」ための批判的思考とリテラシーを習得することを目指します。	1. ガイダンス：「トランスナショナル」と「メディア」とは？ 2. メディアの源流①：メディアとしての「本」 3. メディアの源流②：宗教戦争とナショナルな想像力 4. 近代とメディア①：オラリティとリテラシーの転換 5. 近代とメディア②：「個人」の誕生と「国家」の変容 6. 近代とメディア③：「新聞」以前・以後 7. 近代とメディア④：ニューヨーク・タイムズの時代 8. 近代日本のメディア：なぜ一万円札は福澤諭吉なのか？ 9. 20世紀とメディア①：広告、宣伝、プロパガンダ 10. 20世紀とメディア②：ヒッピーとニュー・ジャーナリズム 11. 20世紀とメディア③：”Media War”のリアリティ 12. 国際報道の現在形①：「ライブ」という問題 13. 国際報道の現在形②：ネット時代のメディア変容 14. まとめ：トランスナショナル・メディアとわたしたち

到達目標	トランスナショナル・メディアに関する専門知識を習得し、様々な規模で見た、メディアを通じた文化、歴史、言語、情報・科学技術、環境、政治、経済、社会現象などのインターフェースについて分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業中に示す事例や重要概念について図書館などで自ら調べ、さらに理解を深めてください。
テキスト	各回講義で適宜提示します。
参考文献	各回講義で適宜提示します。
評価方法	期末試験 85%、授業参加度および学期中レポート 15%。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	表象文化論	担当者	高橋　雄一郎

講義目的、講義概要	授業計画
日本の敗戦から70年以上が経ち、戦争について語られる機会も少なくなりました。この授業では、慰霊祭、メディアや学校、ミュージアムなどで、戦争がどのように表象されているかを調べ、記憶の継承や表象の可能性について、皆さんと議論していきます。 1945年、秋田県の花岡鉱山（現・大館市）で、中国から強制連行されていた人たちが蜂起し、鎮圧されて400人以上が犠牲になりました。蜂起のあった6月30日（今年は日曜日）に、現地慰霊祭にあわせ課外授業をおこないます。片道料金で夜行バス10000円、新幹線17000円ですが、往復割引やより安い便などもあるようなので、各自で調べてください。 やむを得ない事情で、大館・花岡での課外授業に参加できない受講生は、春の連休を利用して、『忘却された支配』で取り上げられている地方か、あるいは最低でも、靖国神社、女たちの戦争と平和資料館（wam）など都内周辺で各自フィールドワークをおこなうことが、単位取得の条件になります。	1. イントロダクション（3.1 事件 100 周年、平田オリザ『ソウル市民 1919』を観て考える） 2. 中国人強制連行の政策と思想 3. 花岡事件とは 4. 花岡事件と和解、記憶の継承 5. 強制を思い出す（宇部、北海道） 6. 骨と碑の戦後史（筑豊） 7. 追悼と謝罪の間（紀州） 8. 朝鮮人の特攻（万世・知覧） 9. 朝鮮ジェノサイド（四国） 10. 総督府官僚たち 11. 松代大本営（長野） 12. 沖縄（沖縄戦） 13. 沖縄（慰霊のかたち） 14. まとめのディスカッション

到達目標	表象文化に関する専門知識を習得し、社会における表象の重要性や表象によって意味が構築される過程などについて分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テクストを必ず精読して予習し、背景となる歴史や社会状況についても調べ、問題点や質問事項を整理して授業に臨むこと。授業後は自分の意見をクラスのフェイスブック・グループに投稿し、ポートフォリオ作成の準備をする。
テキスト	杉原達『中国人強制連行』（岩波新書、2002）、伊藤智永『忘却された支配：日本のなかの植民地朝鮮』（岩波、2016）
参考文献	NHK 取材班、『NHK スペシャル 幻の外務省報告書―中国人強制連行の記録』（NHK 出版、1994）ほか。
評価方法	毎週の予習復習、課外授業の成果を含めたポートフォリオを最終授業で提出（40%）、毎週のクラス・フェイスブックへの投稿（30%）、最終レポート（30%）。授業では毎週、積極的な発言が求められます。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13年度以降	開発文化論	担当者	北野　収

講義目的、講義概要	授業計画
開発とは何か。何のために、誰に対して開発支援をするのか。この問いについて、現代の地球社会を考える重要な視座であるグローバルとローカルなものの対抗・交渉から考えます。講義される事例は、担当教員の調査研究の成果であるメキシコ南部の先住民族に関するものが中心となりますが、アジア、アフリカなどその他の国・地域の事例も交え、普遍的な視点から、発展途上地域の開発問題について考察します。開発と貧困、ジェンダー、教育、宗教、先住民族の権利、構造的暴力と民衆、NGOや協力する者の立場といった話題を、現場の事例をみながら考えます。とりわけ、構造的暴力に翻弄される存在（農民、先住民、マイノリティ）の対抗的開発として活発化する、ローカルな文化や環境を重視した現代の内発的発展を展望していきます。	1. 開発とは何か、貧困とは何か　教科書1章 2. 近代化と文化変容（ビデオ『懐かしい未来』） 3. 貧者と共に生きる：フェアトレード誕生秘話3章 4. 教育・学び・文化4章、5章 5. ジェンダーとフェミニズム6章2（ビデオ『女の町ツチタン』） 6. 宗教と社会開発NGO　7章2 7. ローカルメディアとアイデンティティ戦略　7章3 8. 開発ワーカーと異文化適応※教室内ワークショップ 9. 開発は自分たちの手で（ビデオ『グラミン銀行』予定） 10. 新自由主義・構造調整と農民の自己防衛8章2 11. 巨大開発計画と地域住民・NGO　8章3 12. 日本の開発経験：生活改善運動と一村一品運動から 13. 貧者と人間の尊厳（ビデオ『S.サルガド（「アフリカ」等で知られる写真家）』） 14. まとめ、試験対策

到達目標	開発文化に関する専門知識を習得し、近代化イデオロギーとしての「開発」現象としてのグローバリゼーションの現実、グローバリゼーションへの反応としてのローカルな文化活動などについて分析を行い、事例について見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの熟読、授業ノートを踏まえたテキストの再読
テキスト	北野収『南部メキシコの内発的発展とNGO』勁草書房。※学内書店で各自購入してください
参考文献	北野収『国際協力の誕生［改訂版］』創成社新書。
評価方法	期末試験（60%）、学期中課題（ネパール村落開発、30%）、教室内ワークショップ貢献（10%）。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	食の文化論	担当者	北野　収

講義目的、講義概要	授業計画
食と農を題材にしたグローバリゼーション研究の授業です。食べ物は私達にもっとも身近で不可欠なものです。人間、家族、コミュニティに密接不可分・地域固有な存在であった「食」が、近代～現代という歴史的過程で、ナショナル化さらにはグローバル化されていく過程を考え、そこで見落とされがちな問題を考えていきます。一方で、現代の世界は、「飢餓と飽食」が同時に進行するという危機的な状況にあります。私たちの住む日本では、食料の大半を海外から輸入しながら、食べ物の多くを廃棄しています。耕す土地はあるのに耕す人がいないため、耕地が放棄されています。農業は危機的な状況にあります。食べ物は人に幸せをもたらす一方で、それをめぐって国と国が対立し、憎しみ合うこともあります。こうした現象の背景として、政治、経済、文化など様々な要素が複雑に絡み合っています。このような現状を踏まえ、「食」を手がかりに、私たちの身の回りを点検し、地球社会のことを考えます。	1. 講義の概要 2. 食の文化を見る眼：文化とは何か 3. 食の地誌論（風土と食） ※ビデオ『人間は何を食べてきたか』 4. 私たちの食生活の変化：自給率問題を手がかりに 5. 遺伝資源は誰のものか（農民から国家、企業へ） 6. マクドナルド化と食生活：合理化と脱人間 7. ナショナリズムと食：伝統の形成と思い込み 8. 食卓と家族団らん：その意義をあらためて考える 9. コーヒーのグローバルヒストリー 10. フェアトレード：食と社会正義、倫理的消費 11. シビック・アグリカルチャー 12. イタリアのスローフード、日本のテイケイ、地産地消 13. ビデオ『未来の食卓』フランス映画（予定） 14. まとめと試験対策 ※ビデオ　フランス映画『未来の食卓』

到達目標	「食」というキーワードを手がかりに、グローバル化、ナショナル化に統合されていく「文化」の多様性の意義を再定義し、地域人・家庭人としての自分達の食事について理解、分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	資料の通読、自分でとったノートの整理。
テキスト	特に定めない。
参考文献	トーマス・ライソン『シビック・アグリカルチャー：食と農を地域にとりもどす』農林統計出版。
評価方法	期末試験 80%、学期中レポート（シビック・アグリカルチャー）20%

13 年度以降	トランスナショナル社会学	担当者	北野　収

講義目的、講義概要	授業計画
グローバル化時代の現代社会を考える手がかりとして、①国民国家・国境の存在を相対化することによって初めて見えてくる人々や文化の越境現象の実際を知ること、②それを踏まえたより踏み込んだ意味での「共生」概念の可能性を考えること、③国際的視点のみならず民際的視点も併せ持った複眼的な視点から、文化・社会・政治における諸現象を考えられるようになること、の３点を目的とします。グローバル化に伴う社会構造の変動に規定された様々な越境現象の実情と、当事者のアイデンティティ・民族・国家の相関関係について考察します。関連する理論・言説について講義するとともに、ディアスポラとしての外国人花嫁、アイヌと在日の問題、消えた民「サンカ」などの日本国内の事例を中心に取り上げます。それらを踏まえて、「国際」視点から「民際」視点の転換の意義、地域における交流活動や「学び」の実践の可能性について展望します。	1. 授業の概要 2. 社会学とは 3. 諸概念の概説：トランスナショナリズムとは 4. 国境・国民概念①：アイヌからみた日本とロシア 5. 国境・国民概念②：知られざる漂白民サンカの末路 6. グローバル化と越境現象①：移民とトランスナショナリズム 7. グローバル化と越境現象②：移民と地域における受容 8. グローバル化と越境現象③：若者の『文化移民』と日本回帰 9. 国際結婚①：国際結婚の語源と歴史 10. 国際結婚②：日本人の国際結婚と越境する女性達 11. 中間まとめ　※ビデオ『となりの外国人』（予定） 12. 民際協力としての自治体国際協力 13. まとめと試験対策 14. 試験対策

到達目標	トランスナショナル社会学に関する専門知識を習得し、国民国家＝社会という枠組みから、国境を相対化したトランスナショナルな枠組みに置き換えて、移民、留学、結婚等の様々な社会的行為・現象について理解、分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	資料の通読、自分でとったノートの整理。
テキスト	特に定めない。
参考文献	定義、授業中に提示する。
評価方法	期末試験 80%、学期中レポート（在日コリアン文献）20%

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	トランスナショナル文化特殊講義 （パフォーマンス研究）	担当者	高橋　雄一郎

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、オリンピックに反対の立場から、オリンピックの開閉開式を分析する。 20世紀に世界的なパフォーマンス・イヴェントに発展した近代オリンピックが、国民国家のイメージ戦略と密接な関係にあることは、メディアで毎日報道される国別のメダル獲得数や、表彰式で演奏・掲揚される国歌・国旗などに明らかである。 近年、オリンピックはスペクタクル化の傾向を強め、特に開閉開式では、開催地国家の歴史や文化的な特徴を織り込んだパフォーマンスが人気になっている。しかし、オリンピックにおける国家とパフォーマンスの結びつきは、国家イデオロギーを聴衆に刷り込む危険性をはらむ。 授業では主に1998年の長野大会、2012年のロンドン大会を分析し、2020年東京大会への準備を批判的に検証する。また、初回の授業ではヒトラーが主催した1936年ベルリン大会を紹介し、2000年シドニー大会、2008年北京大会の映像なども参照する。	1　1936ベルリン大会 2　近代オリンピックの誕生 3　近代オリンピックの歴史と理念 4　1964東京大会 5　1998長野大会（開会式のパフォーマンス） 6　1998長野大会（パフォームされる日本の伝統） 7　2000シドニー大会 8　2008北京大会 9　2012ロンドン大会（開会式のパフォーマンス） 10　2012ロンドン大会（パフォームされる英国の歴史） 11　2012ロンドン大会（オリンピックと都市） 12　2020東京大会を批判する 13　オリンピックを批判する 14　まとめのディスカッション

到達目標	従来の科目では扱ってこなかったトランスナショナル文化に関する特定の専門知識を習得し、そこにおける現状および課題等について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テクストを必ず精読して予習し、背景となる歴史や社会状況についても調べ、質問や自分の意見を整理して授業に臨むこと。授業後は自分の意見をクラスのフェイスブック・グループに投稿し、レポート作成の準備をする。
テキスト	ポータルサイトで配付、図書館指定書などを利用する
参考文献	ポータルサイトで配付、図書館指定書などを利用する
評価方法	授業での積極的な発言と毎週のクラス・フェイスブックへの投稿（50%）、中間レポート（20%）、最終レポート（30%）

13 年度以降	トランスナショナル文化特殊講義 （東南アジアのナショナリズム、民主主義、平和）	担当者	堀　芳枝

講義目的、講義概要	授業計画
2000年代に入り中国や東南アジアの成長はめざましい。中国はいまや世界第二位のGDPとなり、東アジアの平和のカギを握る存在となった。また、2015年に成立したASEAN共同体は6億人の巨大市場としても注目されている。また、インドもICT産業を牽引する国家である。みなさんは将来、出張先として、ビジネスパートナーとして中国、東南アジア、インドと向き合うことになる。したがって、この授業では、将来みなさんが向き合うことになるアジアの政治や社会―ナショナリズム、戦後の国民国家建設の歩み、そして紛争や平和の課題を理解し、日本との関係について、東南アジア地域研究の観点から考えることを目的とする。それはみなさんが将来、何らかの形でアジアと良い信頼関係を築き、東アジアの平和や安定を創り出す一端を担ってほしいからである。	1. ガイダンス（予習・復習）東南アジア地域の特徴 2. 近代以前の東南アジア 3. 帝国主義と植民地政策 4. 中国、ベトナム、インドのナショナリズム（民族運動） 5. 日本軍政と東南アジア 6. 冷戦と東南アジアの独立 7. 中国の文化大革命と改革開放 8. ベトナム戦争とアメリカ 9. ベトナム戦争とカンボジアのポルポト（大虐殺） 10. タイの国民国家―国王・軍・政治家・中間層 11. フィリピンの権威主義体制と民主化、NGO 12. インドネシアの権威主義体制とアジア通貨危機 13. マレーシア・シンガポールの国民統合と多文化主義 14. ASEANの地域統統合と　今学期のまとめ

到達目標	従来の科目では扱ってこなかったトランスナショナル文化に関する特定の専門知識を習得し、そこにおける現状および課題等について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストを事前に熟読すること、復習については授業の最後で述べるポイントに従って、テキストを振り返ること。
テキスト	中野亜里・遠藤聡ほか『入門　東南アジア現代史（改訂版）』福村出版、2016 年。
参考文献	授業で紹介します。
評価方法	大福帳　15%、期末テスト　85%。

13 年度以降	トランスナショナル文化特殊講義 （グローバル経済とジェンダー）	担当者	堀　芳枝

講義目的、講義概要	授業計画
経済のグローバル化が進展しているが、女性はどのような役割を果たし、影響を受けているのだろうか。それを知るためには、現在経済成長が著しいアジアに着目するとよいだろう。アジア開発銀行は『アジア2050－アジアの世紀の誕生』（2012）の中で、現在のアジアの成長が続けば、その名目GDPは世界全体の50%を超えるとし、21世紀はまさしくアジアの世紀だと述べた。授業では、このアジア経済の成長を牽引する中心に女性の労働があると位置づけ、グローバル経済の実態－古典的国際分業から今日のグローバル経済を構成している3つの新国際分業を再解釈する。 日本女性の労働の問題もその観点から考える。女性の労働の在り方を考えることは、男性の労働や家族との関係についても考えるきっかけとなると考えている。	1. ガイダンス－授業の内容、進め方、予習復習について 2. 古典的国際分業とグローバル経済 3. 新植民地主義について『バナナの逆襲』から考える 4. 途上国ななぜ貧しいのか―従属論 5. 途上国はなぜ貧しいのか―世界システム論 6. でも、中国はなぜ成長したのか―新国際分業（1） 7. 『トゥルーコスト』から考える経済成長とジェンダー 8. 今日のグローバル経済（2）移住労働の女性化 9. フィリピン女性の移動と　家事・育児・介護 10. 香港で働くフィリピン女性とその家族 11. 資本主義の発展と再生産領域についてのまとめ 12. 今日のグローバル経済（3）サービス業の新国際分業 13. グローバル経済の結果としての、「グローバルシティ」（N.Y、ロンドン、東京）の誕生と格差社会 14. 授業のまとめと質疑応答など

到達目標	従来の科目では扱ってこなかったトランスナショナル文化に関する特定の専門知識を習得し、そこにおける現状および課題等について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で示されるポイントに従って復習する。あるいは、授業で出された課題に取り組み、予習復習する
テキスト	授業でプリントを配布します
参考文献	授業で適宜紹介します。
評価方法	大福帳 15%、期末テスト 85%

13 年度以降	トランスナショナル文化特殊講義 （グローバリゼーションと子ども）	担当者	堀　芳枝

講義目的、講義概要	授業計画
世界では約1億7000万人の子どもが児童労働に従事している。こうした子どもたちが抱える問題やその背景を理解すると同時に、グローバリゼーションや私たちがどのようにかかわっているのかを理解する。また、問題を解決するために、国際機関やNGOの取り組みについて理解する。 この授業を通じて、世界の子どもの問題について単に「かわいそう」というだけでなく、社会科学的に理解し説明できるようになります。また、「子どもの権利条約」を理解して、現状を分析し、解決方法について考えることができるようになります。また、国際社会の規範の変容における国連の役割、国家・社会の規範や政策の変容プロセスを理解し、説明することができるようになります。	1. ガイダンス（概要と、予習・復習について） 2. アジアの児童労働 3. タイのストリート・チルドレン 4. 赤ちゃんの値段－国際養子縁組問題 5. ヒューマン・トラフィックの実態 6. ヒューマン・トラフィックの対応 7. 国際犯罪としてのヒューマン・トラフィック 8. 日本の子どもの貧困 9. 在日外国人の子どもの問題 10. アフリカの子ども兵士 11. イラク戦争と子どもたち 12. 国連の安全保障と子どもの保護 13. 子どもの権利の実現に向けての国連の役割 14. 今学期のまとめ（質疑応答など）

到達目標	従来の科目では扱ってこなかったトランスナショナル文化に関する特定の専門知識を習得し、そこにおける現状および課題等について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された部分を事前に読んでおくこと、授業で示されるポイントに従って復習する。あるいは、授業で出された課題に取り組むこと
テキスト	テキスト　初瀬龍平・戸田真紀子・松田哲編『国際関係の中の子どもたち』（晃洋書房、2015 年）
参考文献	授業で適宜紹介します
評価方法	大福帳 15%、期末試験 85%

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	トランスナショナル文化特殊講義 （「観る」ことの文化史）	担当者	山口　誠

講義目的、講義概要	授業計画
旅するとき、人はなぜ写真を撮るのでしょうか。何を撮り、何を撮らないのでしょうか。そもそも旅行にカメラを持って行くことを否定する人がいます。その人は何を忌避しているのでしょうか。逆にSNSへアップするためにフォトジェニックな場所へ旅する人や、旅先で「自撮り」する人が増えています――いったい「撮る」という行為は、いかなる意味を持つのでしょうか？ 「じっさい、観光はたいていが、写真になりそうなところを探し求める行為となった」という考え方もあります（アーリ＆ラースン、2011＝2014）。こうした観光写真あるいは写真観光の研究は世界的に注目を集めてきた一方、日本では極めて希少なのが現状です。 そのためこの講義では、(1) 海外の研究成果を日本の社会文脈に導入し、(2) 写真とツーリズムが出会い、相互に交渉してきた歴史を紐解き、(3) また「自撮り（Selfie)」や「絶景」や「SNSフォト」など最近のトランスナショナルな社会現象を考えること、を試みます。そうして「観る」という行為（パフォーマンス）の社会的意味を探り、近代社会におけるイメージとイマジネーションの諸問題を考えることを目的とします。	1. ガイダンス：「観る」ことと「まなざし」 2. 写真の歴史①：遠近法と写真術 3. 写真の歴史②：コダック化、作品化、ドキュメント化 4. 写真の歴史③：写真が「写真」になるとき 5. 海外の「まなざし」①：帝国主義と写真術 6. 海外の「まなざし」②：外国人が写した「日本」 7. 海外の「まなざし」③：天皇のイメージとイマジネーション 8. 「撮る」の政治学①：「動く画」の衝撃（映画の誕生） 9. 「撮る」の政治学②：映画が「映画」になるとき 10. 「撮る」の政治学③：ディズニー映画とdomestication 11. 「撮る」の政治学④：「まなざし」の政治と主体 12. 写真とツーリズム①：「撮る」ために移動する人々 13. 写真とツーリズム②：「自撮り」とセルフ・ポートレイト 14. 写真とツーリズム③： SNS時代の「観る」体験

到達目標	従来の科目では扱ってこなかったトランスナショナル文化に関する特定の専門知識を習得し、そこにおける現状および課題等について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業中に示す事例や重要概念について図書館などで自ら調べ、さらに理解を深めてください。
テキスト	各回講義で適宜提示します。
参考文献	各回講義で適宜提示します。
評価方法	期末試験 85%、授業参加度および学期中レポート 15%。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	トランスナショナル文化特殊講義 （シティズンシップ教育論）	担当者	花本　広志

講義目的、講義概要	授業計画
シティズンシップ教育とは、citizenship（市民性）、すなわち、市民社会の一員としての知識、技能、態度や価値観を育む教育のことです。「主権者教育」と呼ばれることもあります。もっとも、そもそも「市民性」とは何かについては議論のあるところですし、主権者教育と同じなのかについても議論があります。さらには、法教育との関係も問題となります。それらの点も含めて、この授業では、シティズンシップ教育とは何か、どうあるべきか、その教育方法などについて、協同学習の手法の１つである「ＬＴＤ話し合い学習法」により学習していきます。そのうえで、最終的には、受講者が協同して、中学３年生～高校１年生程度向けのシティズンシップ教育用教材（２時限分）を作成することを目指します。 第１回のオリエンテーションでは、授業の目的と概要、成績評価の方法などについて詳しく説明します。受講者のみなさんの主体的な参加が必須となる授業ですので、受講希望者は、可能な限り第１回目のオリエンテーションに出席して、どのような授業か理解したうえで履修してください。	1.　オリエンテーション 2.　グループ分け、ＬＴＤを支える教育理論と技法 3.　予習及びミーティングの解説と練習 4.　ＬＴＤウォーミングアップ（練習用教材使用） 5.　ＬＴＤ（短縮型）：シティズンシップ教育論① 6.　ＬＴＤ（１）：シティズンシップ教育論② 7.　ＬＴＤ（２）：シティズンシップ教育の課題 8.　ＬＴＤ（３）：シティズンシップの授業 9.　ＬＴＤ（１）～（３）の振り返り 10.　シティズンシップ教育用教材作成（その１）：授業計画の検討 11.　シティズンシップ教育用教材作成（その２）：教材の検討 12.　シティズンシップ教育用教材作成（その３）：模擬授業のリハーサルと最終調整 13.　教材発表会（受講者作成教材による模擬授業） 14.　授業全体のまとめと振り返り

到達目標	従来の科目では扱ってこなかったトランスナショナル文化に関する特定の専門知識を習得し、そこにおける現状および課題等について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修では、ＬＴＤの方法に従って、教材となる文献につき予習ノートを作成します。事後学修では、授業でのＬＴＤミーティングの結果を受けてノートを整理します。また、教材作成では、素材の選定や原案の作成、発表会の準備などを授業外で行うことがあります。
テキスト	教材は、必要に応じてその都度配布します。
参考文献	ＬＴＤ話し合い学習法について予め知りたい人は、安永悟・須藤文『ＬＴＤ話し合い学習法』（ナカニシヤ出版、2014 年）を参照してください。
評価方法	①正当な事由のない欠席２回以内、②正当な事由のあるものを含め欠席４回以内、③宿題提出率 70%以上、④教材作成及び模擬授業の実施に平均以上の貢献をしていること、⑤ラーニング・ポートフォリオ（受講者自身による学習成果のまとめ）の自己採点 70 点以上、のすべて満たしていることを単位認定（C以上）の必要条件とします。その他、AA～C の基準を含む成績評価方法について詳細は、第１回のオリエンテーションで説明します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後 学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	トランスナショナル文化特殊講義 （移民・難民と日本社会）	担当者	高橋　雄一郎

講義目的、講義概要	授業計画
「日本は単一民族国家だ」という人がいますが、間違いです。どんな社会も例外なく多民族で構成されていますし、今後はもっと多民族・多文化・多言語化が進展するでしょう。この授業では、主に日本で、多様性が尊重され、誰もが暮らしやすい社会をどう作っていくか、受講生の皆さんと共に議論していきます。 （テクスト）①西日本新聞社編『新 移民時代：外国人労働者と共に生きる社会へ』（明石書店、2017）②芹澤健介『コンビニ外国人』（新潮新書、2018）。その他、4月に改訂された「出入国管理および難民認定法」の問題など、新聞や雑誌の記事を使って幅広く考察していきます。毎回、授業への積極的参加が必須です。 課外授業を数回予定しています。日程は初回授業で案内しますが、少なくとも2回の参加がないと単位が認定されません。 評価では、レポートのほかに、毎週の授業について、何を調べ、何を考えたかを記録したポートフォリオの提出が大切になります。作成方法については授業中に説明します。	1　イントロダクション 2　『新移民時代』出稼ぎ留学生 3　『新移民時代』留学ビジネス（ネパールからの報告） 4　『新移民時代』日本語学校の乱立 5　『新移民時代』働けど実習生 6　『新移民時代』変わる仕事場 7　『新移民時代』交差する人々 8　『新移民時代』ともに生きる 9　『新移民時代』近未来を歩く 10　『コンビニ外国人』彼らがそこで働く理由 11　『コンビニ外国人』留学生と移民と難民 12　『コンビニ外国人』技能実習生の光と影 13　『コンビニ外国人』ジャパニーズ・ドリーム 14　まとめのディスカッション

到達目標	従来の科目では扱ってこなかったトランスナショナル文化に関する特定の専門知識を習得し、そこにおける現状および課題等について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後 学修の内容	テクストの予習復習、背景となる歴史や社会状況を調査、問題点や質問事項を整理して授業に臨むこと。授業後は自分の意見をクラスのフェイスブック・グループに投稿し、ポートフォリオ作成の準備をする。課外授業への参加が必要
テキスト	『新 移民時代』『コンビニ外国人』とも売店（Duo）に発注ずみ。
参考文献	プリント、ウエブ上の文献、図書館指定書の利用など、適宜紹介します。
評価方法	毎週の予習復習および課外授業の成果を含めたポートフォリオを最終授業で提出（40%）、毎週のフェイスブックへの投稿（30%）、最終レポート（30%）＊授業はディスカッション形式で、積極的な参加が求められます。

13 年度以降	英語圏のエリア・スタディーズ a	担当者	佐藤　唯行

講義目的、講義概要	授業計画
多民族社会米英を舞台にユダヤ系を中心に、黒人その他の集団との関係史を学ぶ。 下記二冊のテキストにそって英米の人種関係史をユダヤ系を主軸にして考察する。	1. 中世英国のユダヤ人金融。 2. 西洋キリスト教世界初の一国規模のユダヤ人追放が行われた原因を探る。 —1290年のイングランド— 3. 隠れユダヤ教徒の足跡、1290～1656年。 4. 千年王国思想とユダヤ人再入国。 5. 17～18世紀英国の外国貿易とユダヤ人。 6. 英国人地主貴族社会への同化現象。 7. 移民排斥と反ユダヤ暴動発生のメカニズム。 8. 英国ファシスト勢力との対決とナチス政権からの亡命ユダヤ人の受け入れ。 9. 8%の有色人種人口を抱える現代英国社会。 10. 高等教育機関におけるユダヤ人排斥。 11. 公民権闘争期の黒人・ユダヤ人関係史。 12. 黒人の反ユダヤ主義。 13. 英労働党の反ユダヤ主義。 14. 在英ムスリム社会の反ユダヤ主義。

到達目標	英語圏の文学、文化、歴史、社会に関する学際的な専門知識を習得し、多様化した英語圏を文学研究、コミュニケーション論、人類学、言語学、国際関係論、ツーリズム研究などの視点から分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいて下さい。また、授業で学んだ箇所を事後に復読して下さい。
テキスト	『アメリカのユダヤ人迫害史』佐藤唯行（2000 年　集英社新書　740 円） 『英国ユダヤ人』佐藤唯行（1995 年 講談社選書　1600 円）
参考文献	—
評価方法	評価はクイズ形式による筆記試験（12 択 20 問）によってのみ決定する。試験はテキストの持込み可。 出席はとらない。

13 年度以降	英語圏のエリア・スタディーズ b	担当者	P．ネルム

講義目的、講義概要	授業計画
This course is intended as a comprehensive survey of American history and culture, introducing students to the diversity of this large country. Materials to be used in class include documentaries, movies, songs, TV programs, audio recordings, primary sources, and other historical materials. The language used for the lectures will be college-level English. This course will start out with an introduction to pre-European North America, followed by the period through independence, with an introduction to various colonial powers. After that, we will look at how the United States developed as a nation, with emphasis placed on different ethnic groups and cities across the land. Technological innovation played a big part in America's development, so that will also be introduced. Music from each period will also be presented so as to give students a more visceral feel of the changing and diverse culture of the United States through the times.	1. Introduction, The First Americans 2. Columbus and the Conquistadors 3. The First British in America 4. War and Independence 5. Building a New Nation 6. Civil War Splits the Country 7. Trains Everywhere, Uniting the Coasts 8. European Immigrants Pour In 9. Agriculture: Amber Waves of Grain 10. Industrialists, Inventors, Tycoons 11. Black Culture in America 12. Imperial World Capital 13. Postwar Good Life & The Sunbelt 14. America the Beautiful

到達目標	英語圏の文学、文化、歴史、社会に関する学際的な専門知識を習得し、多様化した英語圏を文学研究、コミュニケーション論、人類学、言語学、国際関係論、ツーリズム研究などの視点から分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎週の授業内容をノートに記入、要約 小クイズ（抜き打ち）の準備
テキスト	Materials will be handed out in class.
参考文献	—
評価方法	Class performance 20%, final project 30%, final test (essay) 50%. Tardiness over 30 minutes late will not be accepted. Three times tardy equals one absence. Four or more absences will likely disqualify students from getting credit. 4 回以上の欠席は単位取得を困難にする。

13 年度以降	ヨーロッパの文化 （フランスの美術Ⅰ）	担当者	阿部　明日香

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 　ギリシア神話やキリスト教に関連する主題は、西洋絵画において中心的な地位を占めてきました。この講義ではこうした「物語画」の代表的な主題を取り上げ、それらの「読み方」を学ぶことでフランス美術に親しんでゆきます。また、近代フランスの歴史的文化的社会的コンテクストをふまえた上で、同時代の事件や日常生活を描いた絵画について理解を深めます。 講義概要： 　毎回ひとつのテーマを取り上げ、画像や映像を用いて複数の作品を比較検討していきます。受講生の皆さんには毎回コメントペーパーを書いて提出してもらいます。コメントの内容を次回の授業で取り上げ、さらに解説を加える場合もあります。	1.　イントロダクション 2.　ギリシア神話の主題1: アポロ 3.　ギリシア神話の主題2: ディアナ 4.　ギリシア神話の主題3: ウェヌス 5.　ギリシア神話の主題4: プシュケとアモル 6.　ギリシア神話の主題5: パリスの審判 7.　ギリシア神話の主題6: アキレウス 8.　旧約聖書の主題 9.　新約聖書の主題 10.　同時代の事件を描く1: ナポレオンの戴冠 11.　同時代の事件を描く2: 7月革命 12.　日常生活を描く:農民画 13.　日常生活を描く:近代都市パリ 14.　まとめ

到達目標	主にドイツ語圏、フランス語圏を中心としたヨーロッパの各種文化に関して専門知識を習得し、多様なヨーロッパ文化を、言語、芸術、宗教、哲学、思想などの視点から分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で指示された参考文献を読む。美術館、画集などで作品に親しむ。
テキスト	プリントを配布します。
参考文献	授業中に適宜紹介します。
評価方法	学期末試験（80%）、毎回のコメントペーパー（10%）、美術館レポート（10%） ただし「美術館見学レポート」を提出することが試験を受ける条件となります。

13 年度以降	ヨーロッパの文化 （フランスの美術Ⅱ）	担当者	阿部　明日香

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 　毎回一つのキーワードを起点とし、美術作品を批判的に読み解いてゆくことで、絵画をはじめとする表象文化が提起する問題について理解を深めます。 　講義をとおして、フランスの美術にとどまらず、身の回りのさまざまな事象についても、自ら分析する力を養うことを目的とします。 講義概要： 　画像や映像を用いて作品を見ながら解説していきます。受講生の皆さんには毎回コメントペーパーを書いて提出してもらいます。コメントの内容を次回の授業で取り上げ、さらに解説を加える場合もあります。	1.　イントロダクション 2.　権力と美術 1：権力に奉仕するものとしての美術 3.　権力と美術 2：反権力としての美術 4.　オリジナリティと規範 1：マネ 5.　オリジナリティと規範 2：印象派 6.　オリエンタリズム 7.　オリエンタリズムの現在 8.　ジャポニスム 9.　ジェンダー1：女性はどのように描かれてきたか 10.　ジェンダー2：「なぜ女性の大芸術家はいないのか」 11.　プリミティヴィスム 12.　ケ・ブランリー美術館をめぐって 13.　「美術館」というシステム 14.　まとめ

到達目標	主にドイツ語圏、フランス語圏を中心としたヨーロッパの各種文化に関して専門知識を習得し、多様なヨーロッパ文化を、言語、芸術、宗教、哲学、思想などの視点から分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で指示された参考文献を読む。美術館、画集などで作品に親しむ。
テキスト	プリントを配布します。
参考文献	参考文献は授業中に適宜紹介します。
評価方法	学期末試験（80%）、毎回のコメントペーパー（10%）、美術館レポート（10%） ただし「美術館見学レポート」を提出することが試験を受ける条件となります。

13 年度以降	ヨーロッパの文化 （ドイツ語圏の思想 a）	担当者	工藤　達也

講義目的、講義概要	授業計画
主としてドイツ語圏の思想家を通史的に取り上げて、解説する。特に重要となる哲学や思想のキーワードについては具体的に説明していくつもりです。 具体的にどこの書店でも手に入る古典的な哲学書を独力で読める理解能力をトレーニングするのが教師の意図です。 またドイツ語圏に限定せず、背景にあるヨーロッパの思想などにも言及する。特に難解な講時代を追っていくのにじっくり急がないつもりですが、しかし今学期もせめてカントまでは触れます。ドイツ語学科以外の学生の受講も歓迎します（ドイツ語の知識は前提にしない）。	1. はじめに 2. 古典について　古代ギリシャ哲学 3. 古典について　ラテン語文化とローマ帝国 4. キリスト教：ローマ・カトリックとプロテスタント 5. ルネッサンス 6. デカルトの思想 7. カントの思想（1）―純粋理性批判 8. カントの思想（2）－実践理性批判 9. カントの思想（3）－啓蒙の時代 10. カントの思想（4）－判断力の問題 11. ドイツ観念論（1）－フィヒテ 12. ドイツ観念論（2）－ナショナリズム 13. ドイツ観念論（3）－ロマン派 14. 総括

到達目標	主にドイツ語圏、フランス語圏を中心としたヨーロッパの各種文化に関して専門知識を習得し、多様なヨーロッパ文化を、言語、芸術、宗教、哲学、思想などの視点から分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	ヨーロッパ文化の初歩的知識を持つ者が、修了後に 18 世紀ドイツ啓蒙までの思想文化の概略を把握する。
テキスト	プリントを配布します。
参考文献	配布したプリントの中で紹介します。
評価方法	期末テスト（80%）、平常点（20%）に基づいて評価を行う。

13 年度以降	ヨーロッパの文化 （ドイツ語圏の思想 b）	担当者	工藤　達也

講義目的、講義概要	授業計画
主にドイツ語圏の思想家を通史的に取り上げて、解説する。特に重要となる哲学や思想のキーワードについては具体的に説明していく。春学期の講義の続きではありますが、別個に受講してもよい。具体的な目標として、どこの書店でも手に入る古典的な哲学書を独力で読める理解能力をトレーニングするのが教師の意図です。今学期の講義に出ればたぶん、ニーチェの『道徳の系譜』は読めるくらいにはなれます。テーマはドイツ語圏に限定されず、背景にあるヨーロッパの思想などにも言及する。特に難解な講義ではないので興味のある学生は聴講してほしい。ドイツ語学科以外の学生も歓迎すします（ドイツ語の知識は前提にしない）。今学期もハイデガーやベンヤミンなど現代思想に触れられたらいい。現代思想ゆえの過激な展開になります。関心がある学生は歓迎します。	1. はじめに 2. ロマン派 3. ヘーゲルとマルクス 4. 若いマルクスと『資本論』のマルクス 5. 『資本論』と宗教批判 6. マルクス主義と現代思想（1）－ルカーチ 7. マルクス主義と現代思想（2）－ベンヤミン 8. ニーチェ（1）－ツァラトゥストラ 9. ニーチェ（2）－ニーチェ・コントラ・ヴァグナー 10. ニーチェ（3）－道徳の系譜 11. ハイデガー（1）－実存思想 12. ハイデガー（2）－本来性の問題 13. ハイデガー（3）－現存在分析の射程 14. 総括

到達目標	主にドイツ語圏、フランス語圏を中心としたヨーロッパの各種文化に関して専門知識を習得し、多様なヨーロッパ文化を、言語、芸術、宗教、哲学、思想などの視点から分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	ヨーロッパ文化の初歩的知識を持つ者が、修了後には 19 世紀以降の思想の概略を把握している。
テキスト	プリントを配布します。
参考文献	配布したプリントの中で紹介します。
評価方法	期末テスト（80%）、平常点（20%）に基づいて評価を行う。

13 年度以降	ヨーロッパの文化 （フランスの音楽Ⅰ）	担当者	松橋　麻利

講義目的、講義概要	授業計画
目的：春学期は、17世紀バロック時代から19世紀ロマン派までの西洋音楽の主に器楽を通史的に見ていきます。その流れのなかでフランスの作曲家としては19世紀に登場するベルリオーズがどのような貢献をしたのかを確認し理解しておくこともポイントです。 概要：講義は可能なかぎり音楽を聴き、映像などを見ながら進めます。各音楽を真剣に聴き自分の受け止め方を意識するようにしてください。音楽の規則に踏み込んだ話をすることもありますので、「楽典」（月曜日3限）の授業を履修することも有効です。	1. ガイダンス、およびバロック時代（1600-1750）の理念と器楽 1：鍵盤音楽 2. バロック時代の器楽 2：鍵盤音楽と室内楽 3. バロック時代の器楽 3：管弦楽 4. バロック時代の器楽 4：管弦楽 5. 18 世紀古典派 1：古典派の理念とモーツァルトのピアノ・ソナタ 6. 18 世紀古典派 2：モーツァルトの交響曲 7. 中間試験；18 世紀古典派 3：ベートーヴェンのピアノ・ソナタ 8. 18 世紀古典派 4：ベートーヴェンの交響曲 9. 18 世紀古典派 5：フランスの交響曲 10. 19 世紀ロマン派 1：ロマン派の理念とヴェーバー 11. 19 世紀ロマン派 2：ベルリオーズ 12. 19 世紀ロマン派 3：リスト 13. 19 世紀ロマン派 4：国民楽派. 14. まとめと期末試験

到達目標	主にドイツ語圏、フランス語圏を中心としたヨーロッパの各種文化に関して専門知識を習得し、多様なヨーロッパ文化を、言語、芸術、宗教、哲学、思想などの視点から分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	配布プリントと紹介する参考文献を読み、授業中に触れる音楽作品を積極的に聴くこと。
テキスト	プリント。
参考文献	ガイダンス時に紹介。
評価方法	試験 100%（中間と期末の平均）。受験資格：試験対象期間の 2/3 以上の出席

09 年度以降	ヨーロッパの文化 （フランスの音楽Ⅱ）	担当者	松橋　麻利

講義目的、講義概要	授業計画
目的：秋学期は、19世紀ドイツ・ロマン派と19世紀後半以降のフランスの中心的な作曲家の主にピアノ曲を対照させて見ます。それによってフランス音楽の特質をより深く理解することが目的です。 概要：講義は可能なかぎり音楽を聴き、映像などを見ながら進めます。各音楽を真剣に聴き自分の受け止め方を意識するようにしてください。音楽の規則に踏み込んだ話をすることもありますので、「楽典」（月曜日3限）の授業を履修することも有効です。	1. ガイダンス、および 19 世紀ロマン派のピアノ曲 1：シューベルト、シューマン 2. ロマン派のピアノ曲 2：シューマン、ショパン 3. ロマン派のピアノ曲 3：ショパン、ブラームス 4. ロマン派の管弦楽曲 1：シューベルト、メンデルスゾーン 5. ロマン派の管弦楽曲 2：シューマン、ブラームス 6. ヴァーグナーの楽劇（1） 7. 中間試験；ヴァーグナーの楽劇（2） 8. 19 世紀後半以降のフランスのピアノ曲 1：フォーレ 1 9. 同期のフランスのピアノ曲 2：フォーレ 2 10. 同期のフランスのピアノ曲 3：ドビュッシー1 11. 同期のフランスのピアノ曲 4：ドビュッシー2 12. 同期のフランスのピアノ曲 5：ラヴェル 1 13. 同期のフランスのピアノ曲 6：ラヴェル 2 14. まとめと期末試験

到達目標	主にドイツ語圏、フランス語圏を中心としたヨーロッパの各種文化に関して専門知識を習得し、多様なヨーロッパ文化を、言語、芸術、宗教、哲学、思想などの視点から分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	配布プリントと紹介する参考文献を読み、授業中に触れる音楽作品を積極的に聴くこと。
テキスト	プリント。
参考文献	ガイダンス時に紹介。
評価方法	試験 100%（中間と期末の平均）。受験資格：試験対象期間の 2/3 以上の出席

13 年度以降	ヨーロッパの文化 （ドイツ語圏の歴史 a）	担当者	上村　敏郎

講義目的、講義概要	授業計画
外国に旅行したりして異文化に接すると、ちょっとした違和感を覚えることがあります。小さなあれっという感覚は私たちの社会常識の新しい側面に気づくきっかけになるかもしれません。歴史研究は、ある種の異文化研究です。過去という異文化に遭遇し、その理解を通じて自分たちの常識を見つめ直すことにつながっています。 本講義では文化史や社会史を中心としたさまざまなトピックを紹介します。一つ一つのトピックから歴史的な思考力を育み、物事を多面的に見る力をつけていくことを目的としています。また、その過程でドイツ語学科の学生が（ドイツ語圏の）歴史を学ぶ意義について考えていきます。 授業は講義形式で進行しますが、受講生には適宜、課題を出したり、グループワークを求めたりします。	第1回　授業ガイダンス　*受講生は原則参加必須 第2回　イントロダクション 第3回　歴史学の歴史：ランケとアナール学派etc. 第4回　身の周りにある歴史：娯楽作品と歴史 第5回　小括：物語と歴史、フィクションと歴史学 第6回　過去に異文化を見る文化史 第7回　中世という異文化：動物裁判、魔女裁判 第8回　ミクロヒストリー（小さな対象を深掘りする） 第9回　グローバルヒストリー（地球全体を視野に収める） 第10回　戴冠式の政治文化：マリア・テレジアを事例に 第11回　伝統は創造される？ドイツ帝国の伝統 第12回　陰謀論と歴史学、ユダヤ、フリーメイソン 第13回　〇〇が歴史を学ぶ意義とは？ 第14回　全体のまとめ *この授業計画は予定です。実際の構成はガイダンスで説明します

到達目標	主にドイツ語圏、フランス語圏を中心としたヨーロッパの各種文化に関して専門知識を習得し、多様なヨーロッパ文化を、言語、芸術、宗教、哲学、思想などの視点から分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	講義内で指示した課題をおこなう。講義内で取り上げた参考文献を読む。
テキスト	講義内で資料を配布する。
参考文献	講義内で適宜紹介する。
評価方法	課題（実施した場合は期末レポート、試験を含む）85%、講義への積極的な参加 15%

13 年度以降	ヨーロッパの文化 （ドイツ語圏の歴史 b）	担当者	上村　敏郎

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期はハプスブルク君主国の歴史をテーマにします。目的は春学期同様、歴史的な思考力を育むことです。 テーマは ・啓蒙期の印刷メディアはハプスブルク君主国の社会にどのような影響を与えたのか？ ・なぜハプスブルク君主国は崩壊してしまったのか？ ・記憶がもたらす現代への影響、なぜ記念日を祝うのか？ 【例、2019年=日墺修好150周年】 の三本を考えています。 ただし、取り上げるテーマは変更する可能性があります。授業ガイダンスに必ず出席してください。 授業は講義形式で進行しますが、受講生には適宜、課題を出したり、グループワークを求めたりします。	第1回　授業ガイダンス　*受講生は原則参加必須 第2回　メディアと社会変化：導入講義 第3回　メディアと社会変化：発展講義 第4回　メディアと社会変化：アクティビティ 第5回　メディアと社会変化：小括 第6回　ハプスブルク君主国崩壊の理由：導入講義 第7回　ハプスブルク君主国崩壊の理由：発展講義 第8回　ハプスブルク君主国崩壊の理由：アクティビティ 第9回　ハプスブルク君主国崩壊の理由：小括 第10回　記憶をめぐる問題：導入講義 第11回　記憶をめぐる問題：発展講義 第12回　記憶をめぐる問題：アクティビティ 第13回　記憶をめぐる問題：小括 第14回　全体のまとめ *この授業計画は予定です。実際の構成はガイダンスで説明します

到達目標	主にドイツ語圏、フランス語圏を中心としたヨーロッパの各種文化に関して専門知識を習得し、多様なヨーロッパ文化を、言語、芸術、宗教、哲学、思想などの視点から分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	講義内で取り上げたテーマに関する参考文献を読む。指示された課題に取り組む。
テキスト	講義内で資料を配付する。
参考文献	ハプスブルク君主国の通史：岩﨑周一『ハプスブルク帝国』講談社、2017 年
評価方法	課題（実施した場合は期末レポート、試験を含む）85%、講義への積極的な参加 15%

13 年度以降	グローバル社会論 a	担当者	竹田　いさみ

講義目的、講義概要	授業計画
英国スパイ・アクション映画のブランド「００７」シリーズを、鑑賞しながら、授業を進めます。テキストを併用し、情報もしっかりと獲得します。 このスパイ映画に登場する世界の主要都市、世界のブランド、そして当時の国際関係を解説します。ポイントは、インテリジェンスの視点から世界を眺めることです。 スパイ映画「００７」シリーズは、１９６０年代初めにリリースされて以来、「いま」にいたる５０年間を時代ごとに描いており、国際関係を学ぶ格好の材料です。 映画の中では、イギリスが世界に誇る多くのブランド品が登場します。ブランド品にも注目して、解説を行います。“世界ブランド論”の授業の一翼を担います。	1　スパイ映画「００７　スカイフォール」研究　前 2　スパイ映画「００７　スカイフォール」研究　後 3　機密ファイルの争奪戦、国際サイバー戦争 4　国際メディア戦争　上（南シナ海） 5　国際メディア戦争　下（南シナ海） 6　ミサイル誘導マシーンの争奪戦　上　（地中海） 7　ミサイル誘導マシーンの争奪戦　下　（地中海） 8　暗号解読マシーンの争奪戦　上　（ロシア） 9　暗号解読マシーンの争奪戦　下　（ロシア） 10　ダイヤモンド取引のコントロール（ヨーロッパ） 11　「金」ゴールド取引のコントロール（アメリカ） 12　スパイ映画「００７」と冷戦時代 13　原作者　イアン・フレミングの世界 14　ミュージカル映画「チキ・チキ・バン・バン」

到達目標	グローバル社会に関して総論的な専門知識を習得し、英語ニュースなどの情報を的確に理解、取捨選択してグローバル社会の諸問題について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で扱う映画・パワーポイント資料の背景、さらにテキストの範囲を、事前・事後に調べて下さい。
テキスト	『グローバル社会論資料集』
参考文献	授業中にお知らせします。
評価方法	評価方法は期末テスト 80%。小テスト 20%です。

13 年度以降	グローバル社会論 a	担当者	竹田　いさみ

講義目的、講義概要	授業計画
英国スパイ・アクション映画のブランド「００７」シリーズを、鑑賞しながら、授業を進めます。テキストを併用し、情報もしっかりと獲得します。 このスパイ映画に登場する世界の主要都市、世界のブランド、そして当時の国際関係を解説します。ポイントは、インテリジェンスの視点から世界を眺めることです。 スパイ映画「００７」シリーズは、１９６０年代初めにリリースされて以来、「いま」にいたる５０年間を時代ごとに描いており、国際関係を学ぶ格好の材料です。 映画の中では、イギリスが世界に誇る多くのブランド品が登場します。ブランド品にも注目して、解説を行います。“世界ブランド論”の授業の一翼を担います。	1　スパイ映画「００７　スカイフォール」研究　前 2　スパイ映画「００７　スカイフォール」研究　後 3　機密ファイルの争奪戦、国際サイバー戦争 4　国際メディア戦争　上（南シナ海） 5　国際メディア戦争　下（南シナ海） 6　ミサイル誘導マシーンの争奪戦　上　（地中海） 7　ミサイル誘導マシーンの争奪戦　下　（地中海） 8　暗号解読マシーンの争奪戦　上　（ロシア） 9　暗号解読マシーンの争奪戦　下　（ロシア） 10　ダイヤモンド取引のコントロール（ヨーロッパ） 11　「金」ゴールド取引のコントロール（アメリカ） 12　スパイ映画「００７」と冷戦時代 13　原作者　イアン・フレミングの世界 14　ミュージカル映画「チキ・チキ・バン・バン」

到達目標	グローバル社会に関して総論的な専門知識を習得し、英語ニュースなどの情報を的確に理解、取捨選択してグローバル社会の諸問題について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で扱う映画・パワーポイント資料の背景、さらにテキストの範囲を、事前・事後に調べて下さい。
テキスト	『グローバル社会論資料集』
参考文献	授業中にお知らせします。
評価方法	評価方法は期末テスト 80%。小テスト 20%です。

13 年度以降	グローバル社会論 b	担当者	水本　義彦

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、国際関係論の基礎的な概念・分析枠組みの習得を目的とする。グローバル化の時代にあって、我々が見聞きする国際情勢は複雑化の一途をたどっている。現在の国際社会の動きを理解するためには、何に注目すればよいのか。本講義では、国際関係論の基礎的な概念を紹介し、受講生が各自グローバル社会を分析する視点、論理的な分析方法を習得できるように努める。 なお、本講義では、毎週冒頭に、「今週のグローバル・イシューズ」と題して時事問題の解説を行い、受講生の現状問題に対する関心を喚起したい。	1　はじめに 2　行為主体（1）主権国家、主権国家体制 3　行為主体（2）国際組織 4　行為主体（3）ＮＧＯ、多国籍企業 5　地域主義・地域協力（1）ヨーロッパ統合の歩み 6　地域主義・地域協力（2）ＡＳＥＡＮ 7　戦争と平和（1）戦争、勢力均衡、同盟 8　戦争と平和（2）レジーム、制度、規範 9　戦争と平和（3）予防外交、人道的介入、平和構築 10　人間の安全保障 11　グローバリゼーションとは何か 12　グローバル・イシューズ（1）貧困 13　グローバル・イシューズ（2）地球環境問題 14　グローバル・イシューズ（3）人権、民主化

到達目標	グローバル社会に関して総論的な専門知識を習得し、英語ニュースなどの情報を的確に理解、取捨選択してグローバル社会の諸問題について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	日頃から国際問題に関する新聞・雑誌記事、インターネットニュースを読むように努めてください。
テキスト	指定しない。
参考文献	参考文献を適宜紹介する。
評価方法	平常点（コメント点）20%、試験 80%

13 年度以降	グローバル社会論 b	担当者	水本　義彦

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、国際関係論の基礎的な概念・分析枠組みの習得を目的とする。グローバル化の時代にあって、我々が見聞きする国際情勢は複雑化の一途をたどっている。現在の国際社会の動きを理解するためには、何に注目すればよいのか。本講義では、国際関係論の基礎的な概念を紹介し、受講生が各自グローバル社会を分析する視点、論理的な分析方法を習得できるように努める。 なお、本講義では、毎週冒頭に、「今週のグローバル・イシューズ」と題して時事問題の解説を行い、受講生の現状問題に対する関心を喚起したい。	1　はじめに 2　行為主体（1）主権国家、主権国家体制 3　行為主体（2）国際組織 4　行為主体（3）ＮＧＯ、多国籍企業 5　地域主義・地域協力（1）ヨーロッパ統合の歩み 6　地域主義・地域協力（2）ＡＳＥＡＮ 7　戦争と平和（1）戦争、勢力均衡、同盟 8　戦争と平和（2）レジーム、制度、規範 9　戦争と平和（3）予防外交、人道的介入、平和構築 10　人間の安全保障 11　グローバリゼーションとは何か 12　グローバル・イシューズ（1）貧困 13　グローバル・イシューズ（2）地球環境問題 14　グローバル・イシューズ（3）人権、民主化

到達目標	グローバル社会に関して総論的な専門知識を習得し、英語ニュースなどの情報を的確に理解、取捨選択してグローバル社会の諸問題について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	日頃から国際問題に関する新聞・雑誌記事、インターネットニュースを読むように努めてください。
テキスト	指定しない。
参考文献	参考文献を適宜紹介する。
評価方法	平常点（コメント点）20%、試験 80%

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	国際協力論	担当者	金子　芳樹

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、開発途上国の開発をめぐる国際協力を中心に、その歴史、仕組み、変化、課題を検討します。講義は３つのシリーズから構成されます。 第１の「国際協力の歴史」では、植民地期から現在までを時代ごとに区分し、それぞれの時期の国際協力の特徴を多面的に描きながら、その変化を捉えます。 第２の「開発途上国の開発と国際協力」では、途上国が独立以来歩んできた発展の過程を後付けたうえで、それを後押ししてきた国際援助のあり方とその影響について考えます。 第３の「グローバル化時代の開発と国際協力」では、グローバル化時代の特徴・影響や開発のトレンドを探りつつ、MDGsなどを例に新たな開発と国際協力の方向性について検討します。	１．イントロダクション：国際協力、国際開発、開発援助 **＜国際協力の歴史＞** ２．開発の格差を生んだ要因：植民地支配 ３．欧米諸国の植民地政策とその功罪 ４．日本の植民地支配と戦後の国際協力 ５．冷戦期の国際関係と国際協力 ６．ポスト冷戦時代の国際協力 **＜開発途上国の開発と国際協力＞** ７．経済開発の基本形と途上国の実態 ８．工業化の段階と国際協力 ９．高度経済成長の要因と弊害 10．高度成長の弊害としての貧富の格差（中国） 11．経済格差の社会・文化的要因（カースト制度） **＜グローバル化時代の開発と国際協力＞** 12．グローバル化時代の特徴と開発協力 13．グローバル化がもたらす開発途上国への影響 14．新たなテーマと MDGs／SDGs

到達目標	国際協力に関して専門知識を習得し、国際協力に関連した事例、および国際協力の実態や新たな展開などについて分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業では時事的な国際情勢をしばしば例にあげるので、日頃から新聞やネットニュースの国際面などに目を通しておくことを推奨します
テキスト	授業ごとに配布するレジュメ資料を使用します。特定の文献をテキストとして指定することはしません。
参考文献	講義内容を補足する参考文献を授業の中で適宜紹介します。
評価方法	学期末試験の成績をもとに評価を行います。

13年度以降	国際開発論（世界のエアライン・ホテル）	担当者	竹田　いさみ

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、「国際」と「開発」をキーワードに、エアライン、ホテル、リゾートなどツーリズム産業を扱います。 シンガポールでは、強力な政府が国策会社テマセクを設立し、シンガポール航空、ラッフルズ・ホテル、有力な民間企業の大半を傘下に置いてきました。小国シンガポールが生き延び、そして豊かな先進国として成長し続けるために、国家主導で開発政策を導入したのです。 常に顧客のニーズを考え、誰にも負けない比較優位を実現することで、シンガポール航空は世界ナンバーワン・クラスのエアラインへと飛躍しました。 ビデオ映像、パワーポイント資料を活用し、テキストを使用しながら授業を進めます。	1 エアラインの歴史　ＪＡＬとＡＮＡ 2 世界のエアライン　アジア系　シンガポール航空 3 世界のエアライン　中東系　エミレーツ航空 4 世界のエアライン　ヨーロッパ系 5 世界のエアライン　新興国の挑戦 6 世界のエアライン　国力と国家サイズ　国際比較 7 海洋リスク　パイレーツ問題の発生 8 海洋リスク　パイレーツ問題への対処 9 海洋リスク　パイレーツ問題への国際協力 10 小さなスイスが「観光大国」へ変身、その謎を解く 11 世界のホテル　アメリカ系・カナダ系 12 世界のホテル　アジア系 13 世界のホテル　国際比較 14 日本のツーリズム：ＪＴＢ、国際観光ホテル、東京近代化にみるツーリズム開発戦略

到達目標	国際開発に関して専門知識を習得し、開発途上国が直面する課題とその解決方法などについて分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で扱う映画・パワーポイント資料の時代背景、さらにテキストの範囲を、事前・事後に調べて下さい。
テキスト	竹田いさみ『世界を動かす海賊』（ちくま新書）など。
参考文献	授業中にお知らせします。
評価方法	評価方法は期末テスト80%。小テスト20%です。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	国際交流論	担当者	石川　幸子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の狙いは、学生が国際交流の基本的な考え方を学び、現代のグローバル社会において様々な形での国際交流・国際貢献にチャレンジする基盤を作ることです。 授業は2つのパートから構成されます。前半のパートでは異文化コミュニケーションを中心とした国際交流の考え方について学術的、及び実証的な観点から学び、国際的活動への基礎を固めます。後半のパートでは、実際に行われている文化交流や国際協力等の事例を取り上げ、それらの成果を考えると共に、活動に関与している人材が抱える課題等も検討します。 授業では、積極的に参加・発言することが求められます。将来に向けて、国際交流力を付けてグローバルに活動したいと考えている意欲のある学生の受講を歓迎します。	1.　講義の概要 2.　世界とつながる（国際交流の歴史　古代―明治） 3.　世界とつながる（国際交流の歩み：明治―現代） 4.　多文化世界を考える 5.　国際社会に生きる自分（コミュニケーションの障害） 6.　国際社会に生きる自分（アイデンティティ） 7.　共感力を鍛える 8.　３Ｅの法則について 9.　過剰な意識を手放す 10.　総合力を養う 11.　対応力を鍛える 12.　国際交流の実践（青年の船&ボランティア ） 13.　国際協力の実践（青年海外協力隊の活動） 14.　講義のまとめ

到達目標	国際交流に関して専門知識を習得し、分野ごとの文化交流事業、文化交流政策、文化交流目的などについて分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	各自、事前に教科書を読んで授業に臨んでください。その他の資料は、随時、ポータルサイトにアップロードします。
テキスト	石川幸子著『世界のどこでも誰とでもうまくいく共感コミュニケーション』（同文館、2017 年 4 月）
参考文献	石川幸子著『敵をもファンに変える超一流の交渉術』（実務教育出版、2016 年）
評価方法	定期試験７０％、授業内レポート、ディスカッション、及び発表３０％

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後 学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	国際 NGO・ボランティア論	担当者	金子　芳樹

講義目的、講義概要	授業計画
グローバル化、開発途上国の多極化といった現象が進むなか、様々な面で国際協力の重要性が高まっています。国際協力を担う主体も、国家、国際機関、企業などに加え、非政府組織（NGO）やボランティア組織にも注目が集まっています。本講義では、途上国への開発支援における ODA や NGO の役割に注目しながら、開発協力の諸問題について考えます。本講義は３つのシリーズから構成されます。 第１の「開発援助の仕組みと展開」では、援助の主流をなしてきた政府開発援助（ODA）の現状を把握します。 第２の「NGO の役割と課題」では、NGO の歴史、位置付け、実態、役割などを捉えるとともに、開発と NGO の関係を具体的なケースを取り上げながら考えます。 第３の「開発援助の新たなテーマ」では、開発援助に関して現在起こっている新しい動きを捉えます。	１．イントロダクション：国際協力・開発援助・NGO **＜開発援助の仕組みと展開＞** ２．ODA の仕組みとトレンド ３．日本の ODA の特徴 ４．日本の援助実績 ５．開発援助の問題点 ６．ODA の課題と改革 ７．国際援助の新たなトレンドと NGO **＜NGO の役割と課題＞** ８．NGO の定義と歴史的経緯 ９．NGO の機能と途上国での役割 10．開発と NGO：ケーススタディ・バングラデシュ 11．日本における市民活動の歴史と国際協力 NGO 12．日本の国際協力 NGO の実績と課題 **＜開発援助の新たなテーマ＞** 13．マイクロクレジットという方法 14．中国による「ODA」の特徴と問題点

到達目標	国際 NGO・ボランティアに関して専門知識を習得し、現代の国際社会が抱える開発協力の諸課題とその解決方法などについて分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後 学修の内容	授業では時事的な国際情勢をしばしば例にあげるので、日頃から新聞やネットニュースの国際面などに目を通しておくことを推奨します。
テキスト	授業ごとに配布するレジュメ資料を使用します。特定の文献をテキストとして指定することはしません
参考文献	講義内容を補足する参考文献を授業の中で適宜紹介します。
評価方法	学期末試験の成績をもとに評価を行います。

13 年度以降	英語圏の国際関係 a	担当者	永野　隆行

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は、オーストラリアの歴史をイギリスの植民地時代から第二次世界大戦終結時まで振り返り、現代オーストラリア理解の一助とすることである。 多くの日本人が観光客、留学生として訪問し、また経済的にも日本と繋がりが深い国でありながら、オーストラリアがどのような歴史をたどってきたのかを知る者はおどろくほど少ないのが現状である。また知りたいと思っても、日本では情報がそもそも少なく、オーストラリアを知る機会はおのずと限られてしまっている。 本講義では、イギリス人が18世紀後半に入植してから、６つの植民地がそれぞれ発展を遂げ、それが1901年にオーストラリア連邦として独立し、そして20世紀前半の二つの世界大戦を経験するまでの、オーストラリアの歴史を、イギリス（英帝国、英連邦）やアメリカ、アジア地域（日本や中国、東南アジア）との関係の中で振り返っていく。 本講義ではアウトラインを提示したレジメを配付する。なお２回程度、理解度確認テストを実施する予定。	第1回：　イントロダクション〜オーストラリアを学ぶ意義 第2回：　植民地オーストラリア①〜植民地の誕生 第3回：　植民地オーストラリア②〜植民地の発展 第4回：　大英帝国・英連邦とオーストラリア① 〜英帝国のなかのオーストラリア 第5回：　大英帝国・英連邦とオーストラリア② 〜英連邦、コモンウェルスのなかのオーストラリア 第6回：　ゴールドラッシュと白豪主義政策 第7回：　講義前半の総括と質疑応答 第8回：　多文化主義社会オーストラリア 第9回：　20世紀初頭の戦争とオーストラリア 〜「二つのナショナリズム」 第10回：20世紀初頭の戦争とオーストラリア 〜第一次世界大戦とアンザック精神 第11回：20世紀初頭の戦争とオーストラリア 〜第一次世界大戦とオーストラリア国内社会 第12回：第二次世界大戦〜アジア国際関係と黄禍論 第13回：２つの捕虜収容所〜アンボンとカウラ 第14回：総括と質疑応答

到達目標	英語圏の国際関係に関する専門知識を習得し、政治的、経済的、社会的な発展経緯、ならびに背景事情などについて分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業終了 10 分前に当日の授業の整理をおこなうので、それをもとに復習し、疑問点があれば、まとめておくこと。授業開始後 10 分程度で、前回の授業のレビューをおこなうので、確認すること。
テキスト	永野隆行ほか編著『オーストラリア入門』東京大学出版会、2007 年。
参考文献	講義第一回目に詳しい参考文献リストを配布。
評価方法	不定期に実施する数回の小テストの実施（30%）と試験（70%）による評価。

13 年度以降	英語圏の国際関係 b	担当者	永野　隆行

講義目的、講義概要	授業計画
日本にとって、オーストラリアとの関係は極めて重要である。石炭・天然ガス・鉄鉱石など天然資源の供給地として、民主主義・人権など政治的価値観を共有する国家として、さらにはインド太平洋における安全保障協力のパートナーとして、オーストラリアは日本にとって重要な国家である。 それにも関わらず、観光地としてのイメージはあっても、私たちのあいだでオーストラリアに対する全般的理解は浅い。本講義では、戦後のアジア太平洋国際関係においてオーストラリアがどのような外交を展開してきたのかを概観し、受講者には21世紀の国際関係において日本が学ぶべきものは何かを考えてもらいたい。 本講義では、第二次世界大戦後のオーストラリアの外交・安全保障を中心に見ていく。オーストラリアは、第二次世界大戦を契機に、イギリスからアメリカ合衆国へと自らの安全保障の拠り所を変換させ、さらに日本を含めたアジア諸国との関係を深化させていった。こうした流れに沿いながら、オーストラリア外交の歴史を概観していく。 本講義ではアウトラインを提示したレジメを配付する。なお２回程度、理解度確認テストを実施する予定。	第1回：　イントロダクション〜オーストラリア外交を見る眼 第2回：　チフリー労働党政権の外交〜新たな国際関係構築の模索 第3回：　アンザス同盟の実現 第4回：　冷戦下のアジア① 〜中国誕生、マラヤ暴動、朝鮮戦争、第一次インドシナ危機 第5回：　冷戦下のアジア② 〜イギリスのアジアの戦争「対決政策」 第6回：　冷戦下のアジア③ 〜アメリカのアジアの戦争「ベトナム戦争」 第7回：　講義前半の総括と質疑応答 第8回：　ポストベトナムのオーストラリア外交 第9回：　冷戦末期から冷戦後のオーストラリア外交 〜オーストラリアの「アジア化」 第10回：ミドルパワー外交①その定義 第11回：ミドルパワー外交②その実践 第12回：日豪関係の歴史的展開①戦後貿易の再開 第13回：日豪関係の歴史的展開②戦略的パートナーシップへ 第14回：21世紀オーストラリア外交の行方＆質疑応答

到達目標	英語圏の国際関係に関する専門知識を習得し、政治的、経済的、社会的な発展経緯、ならびに背景事情などについて分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業終了 10 分前に当日の授業の整理をおこなうので、それをもとに復習し、疑問点があれば、まとめておくこと。授業開始後 10 分程度で、前回の授業のレビューをおこなうので、確認すること。
テキスト	永野隆行ほか編著『オーストラリア入門』東京大学出版会、2007 年。
参考文献	講義第一回目に詳しい参考文献リストを配布。
評価方法	不定期に実施する数回の小テストの実施（30%）と試験（70%）による評価。

13 年度以降	グローバル・ヒストリーa	担当者	水本　義彦

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、第二次世界大戦後の米ソ二大国によるグローバルな対立、いわゆる「冷戦（The Cold War）」の展開を考察する。 春セメスターでは、ヨーロッパ、地中海周辺地域、アフリカにおける米ソ冷戦の展開とヨーロッパ諸国の冷戦政策に加え、西ヨーロッパ諸国による脱国家的な地域統合（今日の欧州連合）の試み、イギリス、フランス等のヨーロッパ諸国の帝国の解体・脱植民地化と冷戦の関連について考察する。また、国際機関や NGO、市民運動による国際的、またはトランスナショナルな連帯がヨーロッパの冷戦の進展、変容、終焉に及ぼした影響にも注目する。第二次世界大戦後の国際情勢を概観することで、今日の国際関係の成り立ちを理解する手掛かりとしたい。	1　はじめに 2　第二次世界大戦の展開：大戦の起源・展開 3　欧州冷戦の起源 4　欧州分断体制（1）：マーシャル計画、NATO 5　欧州分断体制（2）：西欧統合、ジュネーヴ首脳会談 6　「危機の時代」の米ソ関係とヨーロッパ 7　ヨーロッパ植民地支配の終焉：アフリカ 8　冷戦構造の多極化とデタント 9　米ソ・デタントとヨーロッパ・デタント 10　デタントの崩壊 11　新冷戦とヨーロッパ 12　冷戦の終焉（1）：ゴルバチョフ、東欧革命 13　冷戦の終焉（2）：ドイツ統一、ソ連崩壊 14　冷戦後のヨーロッパ：民主化、市場経済化

到達目標	グローバル社会の歴史に関する専門知識を習得し、その背景事情、および未来の展望等について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	参考文献の講読
テキスト	指定しない。
参考文献	初回講義で参考文献リストを配布する。
評価方法	平常点（コメント点）20%、試験 80%

13 年度以降	グローバル・ヒストリーb	担当者	水本　義彦

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、第二次世界大戦後の米ソ二大国によるグローバルな対立、いわゆる「冷戦（The Cold War）」の展開を考察する。 秋セメスターでは、アジア・中東における米ソ冷戦、米中対立の展開のほか、日本および欧米諸国のアジア、中東における帝国解体とそれに伴う第三世界諸国による世界大での独立戦争、非同盟・中立運動、また、70年代以降のアジア国際関係の構造転換・地域紛争、経済発展、民主化などについて議論する。第二次世界大戦後の国際情勢を概観することで、今日の国際関係の成り立ちを理解する手掛かりとしたい。	1　はじめに 2　第二次世界大戦の展開：日中戦争、日米戦争 3　大戦の終結と占領：日本帝国の解体 4　朝鮮戦争とアジア国際秩序の変容 5　脱植民地化（1）：南アジア、東南アジア 6　脱植民地化（2）：中東 7　非同盟・中立運動 8　アジア冷戦における中ソ対立 9　ベトナム戦争 10　米中和解 11　1970年代の地域紛争 12　新冷戦とアジア 13　経済発展と民主化 14　冷戦の終焉とアジア

到達目標	グローバル社会の歴史に関する専門知識を習得し、その背景事情、および未来の展望等について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	参考文献の講読
テキスト	指定しない。
参考文献	初回講義で参考文献リストを配布する。
評価方法	平常点（コメント点）20%、試験 80%

13 年度以降	グローバル社会特殊講義	担当者	永野　隆行

講義目的、講義概要	授業計画
本講義ではイギリス帝国の誕生、発展、そして解体までの歴史を、当時の国際関係（構造やプロセス）と関連づけながら概観していく。まずは帝国、帝国主義、脱植民地化の定義や国際政治上の意味について説明した上で、イギリス帝国の歴史を概観する。続いて、より詳細にイギリス帝国の誕生と発展のプロセスを振り返り、最後に東南アジア、南アジア、中東、南太平洋における脱植民地化の進展を具体的に検証していく。 講義を進めるにあたっては、帝国とはいったい何か、そして帝国と当時の国際関係にはどのような関係が存在したのか、さらには帝国の解体、脱植民地化と戦後の国際関係（冷戦）がどのように影響を及ぼしあったのか、などを念頭に置きながら、イギリス帝国の歴史を振り返っていく。 イギリス帝国の歴史を振り返ることを通じて、イギリス帝国についての理解を深めるだけでなく、帝国の存在やその解体（を考えること）が現代国際関係にどのようなインプリケーションを持っているのか、自分なりの考え方を持つことができるであろう。	1. オリエンテーション（本講義の目的と概要） 2. 国際政治と帝国・脱植民地化①帝国とは何か 3. 国際政治と帝国・脱植民地化②国際関係における帝国 4. 国際政治と帝国・脱植民地化③帝国と世界経済 5. 国際政治と帝国・脱植民地化④世界大戦と帝国 6. 国際政治と帝国・脱植民地化⑤帝国解体と国際関係 7. 前半の授業のまとめと質疑応答 8. イギリス帝国の誕生と発展①～英帝国の誕生（その１） 9. イギリス帝国の誕生と発展②～英帝国の誕生（その２） 10. イギリス帝国の誕生と発展③～英帝国の再編（その１） 11. イギリス帝国の誕生と発展④～英帝国の再編（その２） 12. イギリス帝国の誕生と発展⑤～英帝国の発展（その１） 13. イギリス帝国の誕生と発展⑥～英帝国の発展（その２） 14. イギリス帝国の解体、脱植民地化（総論）

到達目標	従来の科目では扱ってこなかったグローバル社会に関する特定の専門知識を習得し、そこにおける現状および課題等について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された部分を事前に読んでおくこと。また授業終了直前におこなう「授業のまとめ」にしたがって復習し、次回の授業までに授業内容と疑問点をまとめておくこと。
テキスト	川北稔・木畑洋一編『イギリスの歴史　帝国＝コモンウェルスのあゆみ』有斐閣、2000 年。（図書館所蔵）
参考文献	講義第一回目に詳しい参考文献リストを配布します。
評価方法	リアクションペーパーの提出（30%）と学期末試験（論述形式、70%）による。

13 年度以降	グローバル社会特殊講義	担当者	佐野　康子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は講義形式で進める。サブ・サハラ・アフリカ（SSA）に着目し、歴史、政治、経済、社会などの側面から国際社会におけるアフリカの果たしうる役割について考える。 数多くのアフリカ諸国が独立を果たした1960年は「アフリカの年」と呼ばれる。独立から半世紀以上が経過し、被援助国としての立場から脱却しつつあり、豊富な天然資源、順調な経済成長、労働人口の増加などを背景に「世界最後のフロンティア」として国際社会の関心を集めている。 この授業では、アフリカを取り巻く国際関係を理解するために必要な視点また情報を提供する。映像資料を積極的に用い、地理的・心理的にも未だ遠いアフリカを身近に感じてもらいたい。	１．　授業概要の説明 ２．　多様なアフリカ ３．　つくられたアフリカ像 ４．　奴隷貿易の歴史 ５．　植民地支配の歴史 ６．　植民地支配の影響 ７．　冷戦とアフリカ ８．　国際支援と国家建設 ９．　アフリカ化と構造調整 １０．グッドガバナンス １１．「資源の罠」 １２．人間の安全保障 １３．世界の中のアフリカ １４．授業総括

到達目標	従来の科目では扱ってこなかったグローバル社会に関する特定の専門知識を習得し、そこにおける現状および課題等について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で用いる資料はポータル・サイトに載せる。復習を怠らないこと。
テキスト	適宜配布する。
参考文献	適宜紹介する。
評価方法	レポート 30%、定期試験 70%

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	グローバル社会特殊講義	担当者	石川　幸子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、「紛争・平和と国際協力」をテーマとして、理論（conflict theories）と国際社会における実践を考察しながら、平和を実現するために国際社会が歩んできた歴史を理解するとともに、現代、国際社会が直面する課題とその解決策について考えます。 講義は3つのパートから構成されます。まず、紛争・平和の歴史と理論を学んだ後、パート２で平和実現に向けた国際社会の活動を、国際機構、法、軍事介入、人道援助、並びに開発援助の5つの観点から考察し、それぞれの分野での成果と課題を検討します。パート３では、日本の政府開発援助（開発協力）で実施されてきた平和構築支援について、その政策と実践を学びます。授業では、積極的に参加・発言することが求められます。紛争と平和構築分野に関心の高い学生の受講を歓迎します。	1.　講義の概要 2.　紛争の歴史と変容 3.　冷戦後の新しい紛争 4.　平和構築の理論 5.　平和のための国際機構（国際連盟から国際連合へ） 6.　平和のための国際機構（国際連合の限界） 7.　平和のための法（国際人道法） 8.　人間の安全保障の考え方（理論と変遷） 9.　人間の安全保障の考え方（事例研究） 10.　軍事介入（保護する責任） 11.　人道援助 12.　開発援助（理論と変遷） 13.　開発援助（事例研究） 14.　講義のまとめ

到達目標	従来の科目では扱ってこなかったグローバル社会に関する特定の専門知識を習得し、そこにおける現状および課題等について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	ポータルサイトに授業の資料をアップロードしますので、事前に各自でダウンロード後、目を通してから授業に臨んでください。
テキスト	適宜、授業内で紹介します。
参考文献	適宜、授業内で紹介します。
評価方法	定期試験７０％、授業内レポート及び発表３０％

13年度以降	グローバル社会文献セミナー	担当者	佐野　康子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では国際関係に関する日本語と英語の両方の文献を用いて国際情勢を分析し、多角的な視点を養うことを目的とする。具体的には、持続可能な開発目標（SDGs）、人の移動、女性の権利、食料安全保障、土地収奪など国際社会が現在直面する課題を取り上げる。資料としては、新聞記事、論文、国連決議、国際機関の発行する報告書などを幅広く用いる。 この授業を通じて、文献の調査方法、レポートの執筆方法、発表方法を身に付けてもらいたい。また、グループ・ディスカッションの時間も設ける予定である。学期完結の授業であり、授業効率化のため毎回の授業で課題を出す。	１．授業概要の説明 ２．レポート・プレゼンテーション方法 ３．文献調査方法 ４．広がる格差 ５．核兵器廃絶にむけての取組み ６．持続可能な開発目標（SDGs） ７．国際支援のかたち（伝統的ドナー） ８．国際支援のかたち（新興ドナー） ９．人の移動（難民） １０．人の移動（移民） １１．食料安全保障 １２．環境問題 １３．貿易の自由化 １４．授業総括

到達目標	グローバル社会に関する文献研究を通じて、特定分野について専門知識と理論を習得し、グローバル社会における諸問題を分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で用いる文献をポータル・サイトに載せる。予習・復習を怠らないこと。
テキスト	適宜配布する。
参考文献	適宜紹介する。
評価方法	課題 20%、授業参加度 30%、小テスト 20%、レポート 30%

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	グローバル社会文献セミナー	担当者	石川　幸子

講義目的、講義概要	授業計画
本授業では、「人間の安全保障（human security）」の基礎を理解した上で、東アジア各国（日中韓+ASEAN）において人間の安全保障がどのように理解され、実践されているかについて国別の論文を読み解きながら、各国の比較研究を行います。 1. 授業は、グループによるプレゼン（英語または日本語）とクラス討論形式で進めます。 2. 学年混合の主体的なグループ・ワークによってプレゼンの準備・発表を行います。 授業の流れは、プレゼン内容（対象国・論文）の決定後、グループ準備作業→授業でのプレゼン→全体での討論・まとめ。学期の最後にはグループ、または個人で選んだテーマについて人間の安全保障の切り口からの発表、及びディスカッションを行います。	1. Orientation 2. Introduction: What is human security? 3. Introduction: Development of human security 4. Human security in Japan 5. Human security in Cambodia / Indonesia 6. Human security in Malaysia/ Myanmar 7. Human security in Philippines/ Singapore 8. Human security in Thailand/ Vietnam 9. Human security in China/ Korea 10. Talk like TED on human security 1 (students select topics) 11. Talk like TED on human security 2 (students select topics) 12. Talk like TED on human security 3 (students select topics) 13. Talk like TED on human security 4 (students select topics) 14. Conclusion

到達目標	グローバル社会に関する文献研究を通じて、特定分野について専門知識と理論を習得し、グローバル社会における諸問題を分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	受講生は各自、事前に課題の論文を読んで授業に臨み、積極的にディスカッションに参加してください。発表担当グループは、プレゼン準備としてパワポを作成します。
テキスト	Mine et al., eds. (2018) *Human Security Norms in East Asia.* Cham. Palgrave Macmillan
参考文献	適宜、授業内で紹介します
評価方法	プレゼンテーションの準備と発表 50%　&　授業中討論への参加度(スピーチを含む)　50%

13 年度以降	グローバル社会文献セミナー	担当者	石川　幸子

講義目的、講義概要	授業計画
本授業では、「人間の安全保障（human security）」の基礎を理解した上で、東アジア各国における人間の安全保障の実践について、自然災害、紛争、人身取引、難民等にかかる様々なケース・スタディを読み解き、人間の安全保障の実現に向けた対応策と課題を学びます。 1. 授業は、グループによるプレゼン（英語または日本語）とクラス討論形式で進めます。 2. 学年混合の主体的なグループ・ワークによってプレゼンの準備・発表を行います。 授業の流れは、プレゼン内容（対象国・論文）の決定後、グループ準備作業→授業でのプレゼン→全体での討論・まとめ。学期の最後にはグループ、または個人で選んだテーマについて人間の安全保障の切り口からの発表、及びディスカッションを行います。	1. Orientation 2. Review of the concept of human security (HS) 3. HS in practice (Land grabbing in Cambodia) 4. HS in practice (Conflict and Tsunami in Aceh) 5. HS in practice (Cyclone in Myanmar) 6. HS in practice (Mindanao conflict) 7. HS in practice (Human trafficking in Southeast Asia) 8. HS in practice (Haiyan crisis in the Philippines) 9. HS in practice (Great East Japan earthquake) 10. Talk like TED on human security 1 (students select topics) 11. Talk like TED on human security 2 (students select topics) 12. Talk like TED on human security 3 (students select topics) 13. Talk like TED on human security 4 (students select topics) 14. Conclusion

到達目標	グローバル社会に関する文献研究を通じて、特定分野について専門知識と理論を習得し、グローバル社会における諸問題を分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	受講生は各自、事前に課題の論文を読んで授業に臨み、積極的にディスカッションに参加してください。発表担当グループは、プレゼン準備としてパワポを作成します。
テキスト	Hernandez et al., eds. (2018) *Human Security and Cross-Border Cooperation in East Asia.* Cham. Palgrave Macmillan
参考文献	適宜、授業内で紹介します
評価方法	プレゼンテーションの準備と発表 50%　&　授業中討論への参加度(スピーチを含む)　50%

13 年度以降	ヨーロッパの社会 （フランスの政治経済Ⅰ）	担当者	廣田　愛理

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、フランスの経済についての専門的な知識の習得を目的とする。 学期の前半では、第3共和政期から現代までのフランスの経済の変遷を歴史的に辿る。学期の後半では、フランスの産業構造の特徴をセクターごとに確認した後に、いくつかのトピックを取り上げて、現代のフランスが抱える経済問題について検討していきたい。	1. フランス経済のイメージと実態 2. 第2次工業化 3. 世界恐慌とフランス 4. 第2次大戦とフランス経済 5. 戦後復興、国有化、計画化 6. 国際競争にどう立ち向かうか？ 7. 石油危機と栄光の30年の終焉 8. 産業構造（第1次産業） 9. 産業構造（第2次産業） 10. 産業構造（第3次産業） 11. インフレ 12. 移民問題 13. 失業問題 14. まとめ

到達目標	主にドイツ語圏、フランス語圏を中心としたヨーロッパの各種社会に関して専門知識を習得し、多様なヨーロッパの社会を、歴史、政治、経済などの視点から分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業内で挙げるキーワードについて事前に調べてくること。授業で学んだ内容を自分の言葉で論理的に説明できるようにすること。
テキスト	テキストは用いない。
参考文献	剣持久木編『よくわかるフランス近現代史』ミネルヴァ書房、2018 年。
評価方法	テストと課題提出（70%）、授業への参加度（30%）

13 年度以降	ヨーロッパの社会 （フランスの政治経済Ⅱ）	担当者	廣田　愛理

講義目的、講義概要	授業計画
戦後のフランスにとってヨーロッパ統合は国益追求の重要な手段だと見なされてきた。それゆえフランスは、統合の主導権を握ることを目指し、今日まで統合の進展において常に重要な役割を担ってきた。 本講義では、第2次世界大戦以前から今日のEUに至るまでの過程において、様々なヨーロッパ統合構想にフランスがどのように関わってきたかを学んだうえで、現在のEUにおけるフランスの役割について考えていきたい。	1. なぜ地域統合を行うのか？ 2. ヨーロッパ構想の出現から第1次大戦まで 3. 戦間期のヨーロッパ構想 4. 第2次大戦期のヨーロッパ構想 5. 戦後復興と経済近代化 6. シューマン・プランとECSC 7. フランスはヨーロッパ統合に何を求めたのか？ 8. EECの設立に向けて 9. ドゴールとEEC 10. ドゴールとイギリス 11. 1970年代のフランスとヨーロッパ統合 12. ミッテラン時代のヨーロッパ政策 13. EU誕生から今日まで 14. まとめ

到達目標	主にドイツ語圏、フランス語圏を中心としたヨーロッパの各種社会に関して専門知識を習得し、多様なヨーロッパの社会を、歴史、政治、経済などの視点から分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業内で挙げるキーワードについて事前に調べてくること。授業で学んだ内容を自分の言葉で論理的に説明できるようにすること。
テキスト	テキストは用いない。
参考文献	・田徹編『ヨーロッパ統合とフランス』法律文化社、2012 年。
評価方法	テストと課題提出（70%）、授業への参加度（30%）

13 年度以降	ヨーロッパの社会 （ドイツ語圏の政治・経済 a）	担当者	大重　光太郎

講義目的、講義概要	授業計画
2017年秋の連邦議会選挙では二大政党が大きく議席を減らすなか、極右政党が大きく伸長し初めて国会に議席を獲得しました。政権合意は難航し、今後も政治的な不安定化が予想されます。ドイツはEU最大の経済大国ですが、ドイツの帰趨はイギリスのEU離脱、難民問題で揺れるヨーロッパや国際政治に大きな影響を及ぼすことになるでしょう。ドイツ政治はどのような方向に動こうとしているのでしょうか。 春学期はこうした動きを横目に見ながら、政治領域に注目し、様々な切り口から考えていきます。毎回のテーマごとにドイツのあり方を国際比較のなかで特徴づけ、歴史と現状、現在の問題点などを見ていきます。 日本との比較を意識しながら進めていきます。参加者には時事問題に関するアンテナを広げておくことを期待します。	1. ガイダンス 2. 連邦主義：連邦制－単一国家、中央集権－地方自治 3. 立法：間接民主主義－直接民主主義 4. 行政：大統領制－議院内閣制 5. 司法：一元性－多元性、憲法裁判所 6. メディア：第四権力のあり方 7. 中央銀行：行政からの自立か、従属か 8. コーポラティズム：国際比較とドイツの特徴 9. 社会国家：ドイツの福祉国家の特徴は？ 10. 選挙：小選挙制か、比例代表制か 11. 政党：どのような政党があるか？ 12. 社会主義－共産主義－社会民主主義、東ドイツ 13. ポピュリズム：民主主義と何が違うか？ 14. まとめ

到達目標	主にドイツ語圏、フランス語圏を中心としたヨーロッパの各種社会に関して専門知識を習得し、多様なヨーロッパの社会を、歴史、政治、経済などの視点から分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	講義の後、プリントならびに授業で紹介した文献を読み、自分で関心を持ったテーマを調べてほしい。
テキスト	特定のテキストは使用しない。テーマごとに適宜指示する。
参考文献	西田慎・近藤正基『現代ドイツ政治　統一後の 20 年』ミネルヴァ書房、2014 年。
評価方法	毎回コメントペーパーを提出してもらう。学期末試験（70%）と平常点（30%）により評価する。

13 年度以降	ヨーロッパの社会 （ドイツ語圏の政治・経済 b）	担当者	大重　光太郎

講義目的、講義概要	授業計画
一般にドイツは高度な福祉国家として知られています。ドイツでは福祉国家を表す場合、Sozialstaat（社会国家）という言葉がよく用いられています。ところがドイツにおいても、グローバル化の進展と国際競争の激化のなか、雇用の不安定、貧困率の増大、社会的格差の拡大が大きな経済的・社会的問題となっており、伝統的な社会国家が揺らいできています。 秋学期は、経済・社会の領域を対象とし、様々な切り口から考えていきます。毎回のテーマごとにドイツのあり方を国際比較のなかで特徴づけ、歴史と現状、現在の問題点などを見ていきます。 日本との比較を意識しながら進めていきます。参加者には時事問題に関するアンテナを広げておくことを期待します。	1. ガイダンス――講義の概要 2. 職業教育：職業資格の意味 3. 大学教育：勉強と就職の関係は？ 4. 教育と雇用へのつながり：日本との比較 5. 雇用システム：内部労働市場か、外部労働市場か 6. ワーク・ライフ・バランス：働き方の比較 7. 女性の就労：ドイツの特徴は？何が課題か？ 8. 労働組合：ドイツの特徴は？ 9. 経済民主主義、共同決定、コーポレート・ガバナンス 10. グローバリズム：メリットか、デメリットか？ 11. ネオ・リベラリズム：市場は善か、悪か？ 12. 少子・高齢化：どのように対応すべきか？ 13. 外国人（移民、難民）：統合に限界はあるか？ 14. まとめ

到達目標	主にドイツ語圏、フランス語圏を中心としたヨーロッパの各種社会に関して専門知識を習得し、多様なヨーロッパの社会を、歴史、政治、経済などの視点から分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	講義の後、プリントならびに授業で紹介した文献を読み、自分で関心を持ったテーマを調べてほしい。
テキスト	特定のテキストは使用しない。テーマごとに適宜指示する。
参考文献	西田慎・近藤正基『現代ドイツ政治　統一後の 20 年』ミネルヴァ書房、2014 年。
評価方法	毎回コメントペーパーを提出してもらう。学期末試験（70%）と平常点（30%）により評価する。

13 年度以降	ヨーロッパの社会 （ドイツ語圏の地域・環境問題 a）	担当者	岡村　りら

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目的＞ ドイツは「環境先進国」と言われていますが、どのようにして環境分野での成功を収めてきたのでしょうか。 そしてドイツは本当に「環境先進国」なのでしょうか。 各分野でのドイツの取り組みを概観することにより「ドイツにおける環境問題と環境政策」についての理解を深めます。 テレビやメディアで接する環境問題は、ほんの一部の情報でしかありません。この授業では環境問題を総体的、多角的に考察します。 日本との比較なども織り交ぜながら、原因や解決方法を見出す知識を養うことも目標としています。 ＜講義概要＞ ドイツの環境問題・環境政策についての概観を学びます。 春学期は主に、身近な問題である廃棄物・リサイクルを通じて環境問題への理解を深めます。	1. ガイダンス 2. 環境問題・環境政策の概要 3. ドイツ環境行政の歴史としくみ 4. 各主体（緑の党・企業・NGO・市民など）の役割 5. 廃棄物・リサイクル（概説） 6. 廃棄物・リサイクル（DSD） 7. 廃棄物・リサイクル（デポジット） 8. 放射性廃棄物・核燃料サイクル（概説） 9. 放射性廃棄物・核燃料サイクル（低・高レベル） 10. 放射性廃棄物・核燃料サイクル（核燃料サイクル） 11. 自然/動物保護 12. 食と環境（有機農業） 13. エコマーク 14. まとめ

到達目標	主にドイツ語圏、フランス語圏を中心としたヨーロッパの各種社会に関して専門知識を習得し、多様なヨーロッパの社会を、歴史、政治、経済などの視点から分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：指示された資料を予習してください。 事後学修：授業で扱った内容を復習し、その日のテーマについて調べ学習をして下さい。
テキスト	資料は適宜プリントを配布します。
参考文献	参考文献は必要に応じて指示します。
評価方法	学期末試験 70%、平常点、授業への参加度 30%に基づいて評価します。

13 年度以降	ヨーロッパの社会 （ドイツ語圏の地域・環境問題 b）	担当者	岡村　りら

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目的＞ ドイツは「環境先進国」と言われていますが、どのようにして環境分野での成功を収めてきたのでしょうか。 そしてドイツは本当に「環境先進国」なのでしょうか。 各分野でのドイツの取り組みを概観することにより「ドイツにおける環境問題と環境政策」についての理解を深めます。 テレビやメディアで接する環境問題は、ほんの一部の情報でしかありません。この授業では環境問題を総体的、多角的に考察します。 日本との比較なども織り交ぜながら、原因や解決方法を見出す知識を養うことも目標としています。 ＜講義概要＞ ドイツの環境問題・環境政策についての概観を学びます。	1. ガイダンス 2. 旧東ドイツの環境問題 3. グローバル化と環境問題 4. 地球環境問題とは 5. 国際交渉と日独の役割（京都議定書） 6. 国際交渉と日独の役割（パリ協定） 7. 気候変動とエネルギー政策 8. 再生可能エネルギー 9. 再生可能エネルギーとビジネスチャンス 10. 気候変動と大気汚染・交通政策 11. 環境と観光 12. 環境教育 13. 環境意識 14. まとめ

到達目標	主にドイツ語圏、フランス語圏を中心としたヨーロッパの各種社会に関して専門知識を習得し、多様なヨーロッパの社会を、歴史、政治、経済などの視点から分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：指示された資料を予習してください。 事後学修：授業で扱った内容を復習し、その日のテーマについて調べ学習をして下さい
テキスト	資料は適宜プリントを配布します。
参考文献	参考文献は必要に応じて指示します。
評価方法	学期末試験 70%、平常点、授業への参加度 30%に基づいて評価します。 詳細は第 1 回の授業（ガイダンス）に説明をします。

13 年度以降	ヨーロッパの社会 （フランスの政治経済Ⅰ）	担当者	尾玉　剛士

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、国際比較の視点から現代フランスの政治システムの特徴を理解するとともに、フランスのみならず日本を含めた民主主義諸国の政治動向を見る目を養うことを目的とします。 はじめにフランス革命以降のフランス政治史の大きな流れを整理します。続いて現在の議会や官僚制などの制度の特徴を解説した上で、政治的リーダーシップの行使や街頭デモを含めた実際の政治のダイナミズムへと焦点を合わせていきます。 政治システムの検討にあたっては、国際比較（とくに日本とフランスの比較）の視点に立つことで、現代の民主主義諸国の政治のあり方について知的に考察できるようになることを目指します。	1. 講義目的・概要・評価方法の説明 2. フランス政治史①　フランス革命から第二帝政まで 3. フランス政治史②　第三共和制から第四共和制まで 4. フランス政治史③　第五共和制 5. 現代フランスの政治システムの概要 6. 議会 7. 官僚制 8. 選挙制度 9. 政党システム①　歴史的な特徴 10. 政党システム②　最近の動向 11. 政治的リーダーシップ 12. 政策決定過程 13. 社会運動 14. まとめ

到達目標	主にドイツ語圏、フランス語圏を中心としたヨーロッパの各種社会に関して専門知識を習得し、多様なヨーロッパの社会を、歴史、政治、経済などの視点から分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回、配布資料のなかでキーポイントを整理するので、何が本質的な論点なのかよく復習して次回に備えてください。
テキスト	指定しない。
参考文献	大山礼子『フランスの政治制度（改訂版）』東信堂、2013 年。その他授業中に紹介。
評価方法	平常点（授業への参加度）30%、小テスト 10%×2、期末テスト 50%。テストの無断欠席は 0 点扱い。やむを得ない事情により欠席する場合、必ず事前に連絡すること。

13 年度以降	ヨーロッパの社会 （フランスの政治経済Ⅱ）	担当者	尾玉　剛士

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、年金や医療保険などのフランスの社会保障制度と最近の改革動向を日本と比較しながら学びます。 フランスは北欧諸国と並ぶ巨大な福祉国家であり、年金や医療保険などの社会保障制度の改革は最も重要な政治課題の一つと言っても過言ではありません。日本でも、少子高齢化、雇用や家族の不安定化などを背景として社会保障改革が喫緊の課題になっています。 そこでこの講義では、まず社会保障とは何を目的とした制度なのかを明らかにします。次に年金や医療保険などの個々の社会保障制度の基本的な仕組みと、日仏における改革の動向について解説します。講義と試験を通じて、年金や消費税などのあり方について自分なりの意見を形成できるようになることを目指します。	1. 講義目的・概要・評価方法の説明 2. フランスの社会保障システム 3. フランスの経済・人口・社会の動向 4. 年金①　基本原理 5. 年金②　改革動向 6. 中間まとめ＆医療保険①　基本原理 7. 医療保険②　国際比較 8. 医療保険③　改革動向 9. 高齢者介護 10. 雇用政策（失業・非正規雇用対策） 11. 最低所得保障（生活保護） 12. 家族政策（子ども手当・保育サービス） 13. 社会保障財政 14. まとめ

到達目標	主にドイツ語圏、フランス語圏を中心としたヨーロッパの各種社会に関して専門知識を習得し、多様なヨーロッパの社会を、歴史、政治、経済などの視点から分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回、配布資料のなかでキーポイントを整理するので、何が本質的な論点なのかよく復習して次回に備えてください。
テキスト	指定しない。
参考文献	土田武史編『社会保障論』成文堂、2015 年。その他授業中に紹介。
評価方法	平常点（授業への参加度）30%、中間テスト 20%、期末テスト 50%。テストの無断欠席は 0 点扱い。やむを得ない事情により欠席する場合、必ず事前に連絡すること。

2019 年度

第二外国語（英語プラス1言語）
【全学共通授業科目】
シラバス

13 年度以降	ドイツ語（Ｉa 総合 1）	担当者	Ｓ．ヴィーク

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　ネイティヴ教員のもと、少しずつ段階を踏みながら、日常生活に関するさまざまなことがらが、ドイツ語で表現できるようになることを目指します。 講義概要 　ネイティヴ教員のもと、日常的な場面で使われる典型的な表現を、さまざまな実際的練習を通して身につけていきます。練習は段階的に進められますが、そこで何より重要なのは、声を出して練習し、身体で覚えること。この授業で、ぜひ「ドイツ語を使う楽しさ」を味わってみてください。	（ネイティヴ教員の授業は、週に 2 回） 1.　ドイツ語学習への導入 2.　Lektion 1 Neu hier ? 3.　Lektion 1 同：まとめ 4.　Lektion 2 Mein Kurs 5.　Lektion 2 同：まとめ 6.　Lektion 3 Lieblingstiere, Lieblingsdinge 7.　Lektion 3 同：まとめ 8.　Lektion 4 Mein Tag 9.　Lektion 4 同：まとめ 10.　Lektion 5 Hobbys 11.　Lektion 5 同：まとめ 12.　Lektion 6 Meine Familie 13.　Lektion 6 同：まとめ 14.　Lektion 7 Was kostet das?

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語初習者が履修後にはドイツ語習得の入門段階を修了している。
テキスト	Friedrike Jin ほか :『prima plus＋』A1（朝日出版社）2016 年
参考文献	授業中に適宜指示する。
評価方法	学期末テスト 80%、平常点 20%、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

13 年度以降	ドイツ語（Ｉb 総合 1）	担当者	Ｓ．ヴィーク

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　ネイティヴ教員のもと、少しずつ段階を踏みながら、日常生活に関するさまざまなことがらが、ドイツ語で表現できるようになることを目指します。 講義概要 　ネイティヴ教員のもと、日常的な場面で使われる典型的な表現を、さまざまな実際的練習を通して身につけていきます。練習は段階的に進められますが、そこで何より重要なのは、声を出して練習し、身体で覚えること。この授業で、ぜひ「ドイツ語を使う楽しさ」を味わってみてください。	ネイティヴ教員の授業は、週に 2 回） 1.　既習事項の復習と秋学期への導入 2.　Lektion 8　Mein Zimmer 3.　Lektion 8　同：まとめ 4.　Lektion 9　Das schmeckt gut 5.　Lektion 9　同：まとめ 6.　Lektion 10 Meine Freizeit 7.　Lektion 10 同：まとめ 8.　Lektion 11 Das sieht gut aus 9.　Lektion 11 同：まとめ 10.　Lektion 12 Partys 11.　Lektion 12 同：まとめ 12.　Lektion 13 Meine Stadt 13.　Lektion 13 同：まとめ 14.　Lektion 14 Ferien

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語習得の入門段階を修了している者が履修後には初級ドイツ語を修了している。
テキスト	Friedrike Jin ほか :『prima plus＋』A1（朝日出版社）2016 年
参考文献	授業中に適宜指示する。
評価方法	学期末テスト 80%、平常点 20%、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

13 年度以降	ドイツ語（Ｉa 総合 2）	担当者	Ｓ．ヴィーク

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　ネイティヴ教員のもと、少しずつ段階を踏みながら、日常生活に関するさまざまなことがらが、ドイツ語で表現できるようになることを目指します。 講義概要 　ネイティヴ教員のもと、日常的な場面で使われる典型的な表現を、さまざまな実際的練習を通して身につけていきます。練習は段階的に進められますが、そこで何より重要なのは、声を出して練習し、身体で覚えること。この授業で、ぜひ「ドイツ語を使う楽しさ」を味わってみてください。	（ネイティヴ教員の授業は、週に 2 回） 1.　ドイツ語学習への導入 2.　Lektion 1 Neu hier ? 3.　Lektion 1 同：まとめ 4.　Lektion 2 Mein Kurs 5.　Lektion 2 同：まとめ 6.　Lektion 3 Lieblingstiere, Lieblingsdinge 7.　Lektion 3 同：まとめ 8.　Lektion 4 Mein Tag 9.　Lektion 4 同：まとめ 10.　Lektion 5 Hobbys 11.　Lektion 5 同：まとめ 12.　Lektion 6 Meine Familie 13.　Lektion 6 同：まとめ 14.　Lektion 7 Was kostet das?

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語初習者が履修後にはドイツ語習得の入門段階を修了している。
テキスト	Friedrike Jin ほか :『prima plus＋』A1（朝日出版社）2016 年
参考文献	授業中に適宜指示する。
評価方法	学期末テスト 80%、平常点 20%、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

13 年度以降	ドイツ語（Ｉb 総合 2）	担当者	Ｓ．ヴィーク

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　ネイティヴ教員のもと、少しずつ段階を踏みながら、日常生活に関するさまざまなことがらが、ドイツ語で表現できるようになることを目指します。 講義概要 　ネイティヴ教員のもと、日常的な場面で使われる典型的な表現を、さまざまな実際的練習を通して身につけていきます。練習は段階的に進められますが、そこで何より重要なのは、声を出して練習し、身体で覚えること。この授業で、ぜひ「ドイツ語を使う楽しさ」を味わってみてください。	ネイティヴ教員の授業は、週に 2 回） 1.　既習事項の復習と秋学期への導入 2.　Lektion 8　Mein Zimmer 3.　Lektion 8　同：まとめ 4.　Lektion 9　Das schmeckt gut 5.　Lektion 9　同：まとめ 6.　Lektion 10 Meine Freizeit 7.　Lektion 10 同：まとめ 8.　Lektion 11 Das sieht gut aus 9.　Lektion 11 同：まとめ 10.　Lektion 12 Partys 11.　Lektion 12 同：まとめ 12.　Lektion 13 Meine Stadt 13.　Lektion 13 同：まとめ 14.　Lektion 14 Ferien

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語習得の入門段階を修了している者が履修後には初級ドイツ語を修了している。
テキスト	Friedrike Jin ほか :『prima plus＋』A1（朝日出版社）2016 年
参考文献	授業中に適宜指示する。
評価方法	学期末テスト 80%、平常点 20%、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

13 年度以降	ドイツ語（Ｉa 総合 3）	担当者	辻本　勝好

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　ドイツ語の基本的能力の習得です。具体的には、春学期＋秋学期の学習で「ドイツ語技能検定試験（独検）」4 級に合格できるレベル達成を目指します。 言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する（できるだけアクチュアルな）情報獲得を図ります。 講義概要 　ドイツ語を実際的な練習を通して身につけていきます。 　使用する教材は、ドイツ語の基礎を総合的に学べるよう考えられており、また使われている表現や語彙も、実際にドイツ語圏に旅行したり滞在するときに役立つものばかりです映像と音声はすべて Web の専用ページで PC でもスマホでも視聴できるようになっています。 　授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の基本的な仕組みや語彙を、そしてドイツ事情を、楽しくかつ体系的に学びましょう。	1.　ドイツ語学習への導入 2.　Lektion 1 Ankunft in Berlin 3.　Lektion 1 同：まとめ 4.　Lektion 2 Beim Bäcker 5.　Lektion 2 同：まとめ 6.　Lektion 3 Sprachkurs 7.　Lektion 3 同：まとめ 8.　Lektion 4 In der Mensa 9.　Lektion 4 同：まとめ 10.　Lektion 5 Beim Arzt 11.　Lektion 5 同：まとめ 12.　Lektion 6 Beim Studentenwohnheim 13.　Lektion 6 同：まとめ 14.　ポイントの総復習

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語初習者が履修後にはドイツ語習得の入門段階を修了している。
テキスト	清野智昭：『Meine Deutschstunde. Auf geht’s nach Berlin! und danach』（朝日出版社）2017 年
参考文献	適宜指示する。
評価方法	学期末テスト 80%、平常点 20%、および授業への参加度に基づいて評価を行う。

13 年度以降	ドイツ語（Ｉb 総合 3）	担当者	辻本　勝好

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　ドイツ語の基本的能力の習得です。具体的には、春学期＋秋学期の学習で「ドイツ語技能検定試験（独検）」4 級に合格できるレベル達成を目指します。 言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する（できるだけアクチュアルな）情報獲得を図ります。 講義概要 　ドイツ語を実際的な練習を通して身につけていきます。 　使用する教材は、ドイツ語の基礎を総合的に学べるよう考えられており、また使われている表現や語彙も、実際にドイツ語圏に旅行したり滞在するときに役立つものばかりです。映像と音声はすべて Web の専用ページで PC でもスマホでも視聴できるようになっています。 　授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の基本的な仕組みや語彙を、そしてドイツ事情を、楽しくかつ体系的に学びましょう。	1.　既習事項の復習と新学期への導入 2.　Lektion 7 Zum Wannsee 3.　Lektion 7 同：まとめ 4.　Lektion 8 Beim Friseur 5.　Lektion 8 同：まとめ 6.　Lektion 9 In einem Biergarten 7.　Lektion 9 同：まとめ 8.　Lektion 10 In einer Boutique 9.　Lektion 10 同：まとめ 10.　Lektion 11 Philipps Geburtstag 11.　Lektion 11 同：まとめ 12.　Lektion 12 Vor der Abreise 13.　Lektion 12 同：まとめ 14.　ポイントの総復習

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語習得の入門段階を修了している者が履修後には初級ドイツ語を修了している。
テキスト	清野智昭：『Meine Deutschstunde. Auf geht’s nach Berlin! und danach』（朝日出版社）2017 年
参考文献	適宜指示する。
評価方法	学期末テスト 80%、平常点 20%、および授業への参加度に基づいて評価を行う。

13 年度以降	ドイツ語（Ⅱa 総合 1）	担当者	H．J．トロル

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 ネイティヴ教員のもと、1 年次に学習したことを土台にして、身近なことがらに関するドイツ語圏の事情を学び、さらにそれに対応する日本事情をドイツ語で表現できるようになることを目指します。 講義概要 ネイティヴ教員のもと、さまざまな日常的テーマを扱いながら「話す、聞く、読む、書く」という4技能の一層の向上を図ります。対話、聞き取り、読み物、作文等、いろいろ変化に富んだ練習を行いますが、それによって実際的な言語応用能力を養成していきます。この授業で、ぜひ「ドイツ語で表現する楽しさ」を味わってみてください。	（ネイティヴ教員の授業は、週に 2 回） 1. ドイツ語学習への導入 2. Lektion 9 Feste feiern, wie sie fallen 3. Lektion 9 同：まとめ 4. Lektion 10 Umziehen, ausziehen, einziehn 5. Lektion 10 同：まとめ 6. Lektion 11 Neu in Köln 7. Lektion 11 同：まとめ 8. Lektion 12 Bankgeschichten und andere 9. Lektion 12 Wann können wir einziehen? 10. Lektion 12 同：まとめ 11. Lektion 13 Die Gesundheit ist wie das Salz 12. Lektion 13 Ich fühle mich gar nicht wohl 13. Lektion 13 同：まとめ 14. ポイントの総復習

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語初入門段階を修了している者が修了後にはドイツ語の基礎知識を包括的に理解する。
テキスト	DaF kompakt A2 Kurs- und Übungsbuch mit 2 Audio-CDs (Klett) 2011
参考文献	授業で適宜指示する。
評価方法	学期末テスト 80%、平常点 20%、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

13 年度以降	ドイツ語（Ⅱb 総合 1）	担当者	H．J．トロル

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 ネイティヴ教員のもと、1 年次に学習したことを土台にして、身近なことがらに関するドイツ語圏の事情を学び、さらにそれに対応する日本事情をドイツ語で表現できるようになることを目指します。 講義概要 ネイティヴ教員のもと、さまざまな日常的テーマを扱いながら「話す、聞く、読む、書く」という4技能の一層の向上を図ります。対話、聞き取り、読み物、作文等、いろいろ変化に富んだ練習を行いますが、それによって実際的な言語応用能力を養成していきます。この授業で、ぜひ「ドイツ語で表現する楽しさ」を味わってみてください。	（ネイティヴ教員の授業は、週に 2 回） 1. 既習事項の復習と秋学期への導入 2. Lektion 14 Herbst in München 3. Lektion 14 同：まとめ 4. Lektion 15 Eine Reise nach Wien 5. Lektion 15 同：まとめ 6. Lektion 16 Fünfhundert Berufe! Aber welcher 7. Lektion 16 同：まとめ 8. Lektion 17 Praktikum: Erfahrung, Lernen, Spaß 9. Lektion 17 Hoffentlich bekomme ich die Stelle 10. Lektion 17 同：まとめ 11. Lektion 18 Von den Alpen bis ans Meer 12. Lektion 18 Wohin im Urlaub? 13. Lektion 18 同：まとめ 14. ポイントの総復習

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	イツ語の基礎知識を包括的に把握した者が、履修後には基礎段階を修了し、中級段階へ至る。
テキスト	DaF kompakt A2 Kurs- und Übungsbuch mit 2 Audio-CDs (Klett) 2011
参考文献	授業で適宜指示する。
評価方法	学期末テスト 80%、平常点 20%、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

13 年度以降	ドイツ語（Ⅱa 総合 2）	担当者	H．J．トロル

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 ネイティヴ教員のもと、1 年次に学習したことを土台にして、身近なことがらに関するドイツ語圏の事情を学び、さらにそれに対応する日本事情をドイツ語で表現できるようになることを目指します。 講義概要 ネイティヴ教員のもと、さまざまな日常的テーマを扱いながら「話す、聞く、読む、書く」という4技能の一層の向上を図ります。対話、聞き取り、読み物、作文等、いろいろ変化に富んだ練習を行いますが、それによって実際的な言語応用能力を養成していきます。この授業で、ぜひ「ドイツ語で表現する楽しさ」を味わってみてください。	（ネイティヴ教員の授業は、週に 2 回） 1. ドイツ語学習への導入 2. Lektion 9 Feste feiern, wie sie fallen 3. Lektion 9 同：まとめ 4. Lektion 10 Umziehen, ausziehen, einziehn 5. Lektion 10 同：まとめ 6. Lektion 11 Neu in Köln 7. Lektion 11 同：まとめ 8. Lektion 12 Bankgeschichten und andere 9. Lektion 12 Wann können wir einziehen? 10. Lektion 12 同：まとめ 11. Lektion 13 Die Gesundheit ist wie das Salz 12. Lektion 13 Ich fühle mich gar nicht wohl 13. Lektion 13 同：まとめ 14. ポイントの総復習

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語初入門段階を修了している者が修了後にはドイツ語の基礎知識を包括的に理解する。
テキスト	DaF kompakt A2 Kurs- und Übungsbuch mit 2 Audio-CDs (Klett) 2011
参考文献	授業で適宜指示する。
評価方法	学期末テスト 80%、平常点 20%、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

13 年度以降	ドイツ語（Ⅱb 総合 2）	担当者	H．J．トロル

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 ネイティヴ教員のもと、1 年次に学習したことを土台にして、身近なことがらに関するドイツ語圏の事情を学び、さらにそれに対応する日本事情をドイツ語で表現できるようになることを目指します。 講義概要 ネイティヴ教員のもと、さまざまな日常的テーマを扱いながら「話す、聞く、読む、書く」という4技能の一層の向上を図ります。対話、聞き取り、読み物、作文等、いろいろ変化に富んだ練習を行いますが、それによって実際的な言語応用能力を養成していきます。この授業で、ぜひ「ドイツ語で表現する楽しさ」を味わってみてください。	（ネイティヴ教員の授業は、週に 2 回） 1. 既習事項の復習と秋学期への導入 2. Lektion 14 Herbst in München 3. Lektion 14 同：まとめ 4. Lektion 15 Eine Reise nach Wien 5. Lektion 15 同：まとめ 6. Lektion 16 Fünfhundert Berufe! Aber welcher 7. Lektion 16 同：まとめ 8. Lektion 17 Praktikum: Erfahrung, Lernen, Spaß 9. Lektion 17 Hoffentlich bekomme ich die Stelle 10. Lektion 17 同：まとめ 11. Lektion 18 Von den Alpen bis ans Meer 12. Lektion 18 Wohin im Urlaub? 13. Lektion 18 同：まとめ 14. ポイントの総復習

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語の基礎知識を包括的に把握した者が、履修後には基礎段階を修了し、中級段階へ至る。
テキスト	DaF kompakt A2 Kurs- und Übungsbuch mit 2 Audio-CDs (Klett) 2011
参考文献	授業で適宜指示する。
評価方法	学期末テスト 80%、平常点 20%、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

13 年度以降	ドイツ語（Ⅱa 総合 3）	担当者	井村　行子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 1) 1 年次に学習したことを復習し、さらにそれを発展させながら、一層のドイツ語能力向上を図ります。2 年次春学期＋秋学期の学習を終えた段階で「ドイツ語技能検定試験（独検）」3 級に合格できるレベル達成を目指します。 2) 1 年次に続き、言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する情報の獲得を図ります。 講義概要 1 年次に学習したことを土台に、とりわけ読解を中心とした練習を通して、ドイツ語の応用能力を発展させていきます。使用する教材は、ドイツ語を読む楽しさを味わうことを目指しており、さまざまな練習を通して主体的にテクストとかかわることで、ドイツ語の仕組みを体得できるよう考えられています。 授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の仕組みと、さらに深くドイツ文化を理解しましょう。	1. ドイツ語学習への導入 2. Lektion 1 Wo warst du in den Ferien? 3. Lektion 1 同：まとめ 4. Lektion 2 Wohin stele ich den Computer? 5. Lektion 2 同：まとめ 6. Lektion 3 Hast du Lust mitzukommen? 7. Lektion 3 同：まとめ 8. Lektion 4 Wie gefällt dir das rote Kleid? 9. Lektion 4 同：まとめ 10. Lektion 5 Warum studierst du Wirtschaft? 11. Lektion 5 同：まとめ 12. Lektion 6 Hast du dich erkältet? 13. Lektion 6 同：まとめ 14. ポイントの総復習

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語初入門段階を修了している者が修了後にはドイツ語の基礎知識を包括的に理解する。
テキスト	生駒美喜ほか：『ドイツ語ベータ』（朝日出版社）2017 年
参考文献	適宜指示する。
評価方法	学期末テスト 80%、平常点 20%、および授業への参加度に基づいて評価を行う。

13 年度以降	ドイツ語（Ⅱb 総合 3）	担当者	井村　行子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 1) 1 年次に学習したことを復習し、さらにそれを発展させながら、一層のドイツ語能力向上を図ります。2 年次春学期＋秋学期の学習を終えた段階で「ドイツ語技能検定試験（独検）」3 級に合格できるレベル達成を目指します。 2) 1 年次に続き、言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する情報の獲得を図ります。 講義概要 1 年次に学習したことを土台に、とりわけ読解を中心とした練習を通して、ドイツ語の応用能力を発展させていきます。使用する教材は、ドイツ語を読む楽しさを味わうことを目指しており、さまざまな練習を通して主体的にテクストとかかわることで、ドイツ語の仕組みを体得できるよう考えられています。 授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の仕組みと、さらに深くドイツ文化を理解しましょう。	1. 既習事項の復習と新学期への導入 2. Lektion 7 Ist der Skytree höher als der Turm? 3. Lektion 7 同：まとめ 4. Lektion 8 Wann wurde die Berliner Mauer gebaut? 5. Lektion 8 同：まとめ 6. Lektion 9 Wie heißt der Musiker? 7. Lektion 9 同：まとめ 8. Lektion 10 Hätten Sie vielleicht Zeit für mich? 9. Lektion 10 同：まとめ 10. Lektion 11 Wie feiert man Weihnachten? 11. Lektion 11 同：まとめ 12. Lektion 12 Wie wäre es, wenn wir uns in Europa treffen? 13. Lektion 12 同：まとめ 14. ポイントの総復習

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語の基礎知識を包括的に把握した者が、履修後には基礎段階を修了し、中級段階へ至る。
テキスト	生駒美喜ほか：『ドイツ語ベータ』（朝日出版社）2017 年
参考文献	適宜指示する。
評価方法	学期末テスト 80%、平常点 20%、および授業への参加度に基づいて評価を行う。

13 年度以降	ドイツ語（Ⅲa 応用）	担当者	S．メルテンス

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 「ドイツ語Ⅰ+Ⅱ」で修得したドイツ語の基本的能力を、さらに中級レベルへステップアップさせることが目的です。具体的には、「ドイツ語Ⅲ」を終えた時点でGoethe-InstitutのZD （Zertifikat Deutsch）および独検2級合格レベルに到達できることを目標とします。 講義概要 ドイツの若者たちの日常をテーマにしたDVD教材＜Treffpunkt Berlin＞を用い、言葉遊び、パートナー練習、役割練習など様々な練習を行います。豊富で実際的な練習を通して、ドイツ語による表現能力の向上を図りましょう。	1. 既習事項の復習と春学期への導入 2. Abschnitt 1 Hallo Julia! 3. Abschnitt 1 同：まとめ 4. Abschnitt 2 Zu Hause 5. Abschnitt 2 同：まとめ 6. Abschnitt 3 Was machst du? 7. Abschnitt 3 同：まとめ 8. Abschnitt 4 Probleme 9. Abschnitt 4 同：まとめ 10. Abschnitt 5 Die Boutique 11. Abschnitt 5 同：まとめ 12. Abschnitt 6 Wie schmeckt's? 13. Abschnitt 6 同：まとめ 14. ポイントの総復習

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語基礎段階を修了した者が中級段階に至り、修了後にはドイツ語の応用力を増している。
テキスト	Treffpunkt Berlin 1　プリントを配布します。
参考文献	授業中に適宜指示する。
評価方法	学期末テスト 80%、平常点 20%、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

13 年度以降	ドイツ語（Ⅲb 応用）	担当者	S．メルテンス

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 「ドイツ語Ⅰ+Ⅱ」で修得したドイツ語の基本的能力を、さらに中級レベルへステップアップさせることが目的です。具体的には、「ドイツ語Ⅲ」を終えた時点でGoethe-Institut の ZD （Zertifikat Deutsch）および独検2級合格レベルに到達できることを目標とします。 講義概要 ドイツの若者たちの日常をテーマにした DVD 教材＜Treffpunkt Berlin＞を用い、言葉遊び、パートナー練習、役割練習など様々な練習を行います。豊富で実際的な練習を通して、ドイツ語による表現能力の向上を図りましょう。	1. 既習事項の復習と春学期への導入 2. Abschnitt 7 Wie gefällt dir das? 3. Abschnitt 7 同：まとめ 4. Abschnitt 8 Geburtstag 5. Abschnitt 8 同：まとめ 6. Abschnitt 9 Arbeit 7. Abschnitt 9 同：まとめ 8. Abschnitt 10 Besuch 9. Abschnitt 10 同：まとめ 10. Abschnitt 11 Berlin 11. Abschnitt 11 同：まとめ 12. Abschnitt 12 Sport 13. Abschnitt 12 同：まとめ 14. ポイントの総復習

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語基礎段階を修了した者が中級段階に至り、修了後にはドイツ語の応用力を増している。
テキスト	Treffpunkt Berlin 1　プリントを配布します。
参考文献	授業中に適宜指示する。
評価方法	学期末テスト 80%、平常点 20%、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

13 年度以降	フランス語（Ｉａ 総合 1）	担当者	横地　卓哉

講義目的、講義概要	授業計画
週２回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。 教科書は *Conversation et Grammaire* で、（Ｉａ 総合 1）は日本人講師、（Ｉａ 総合 2）はフランス人講師が担当する。 この（Ｉａ 総合 1）では特に文法と語彙の習得が中心になり、文法や語彙に関する練習を数多く行う。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は異なることがある。	1.　ガイダンス、1a 2.　1b 3.　2a 4.　2b 5.　3a 6.　3b 7.　4a 8.　4b 9.　5a 10.　5b 11.　6a 12.　6b 13.　7a 14.　7a までの révision, bilan

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ文法事項・語彙を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。
テキスト	教科書：*Conversation et Grammaire*（Alma）
参考文献	必要に応じて担当教員から指示。
評価方法	課題等の平常点および試験等：１００％

13 年度以降	フランス語（Ｉｂ 総合 1）	担当者	横地　卓哉

講義目的、講義概要	授業計画
週２回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。 教科書は *Conversation et Grammaire* で、（Ｉｂ 総合 1）は日本人講師、（Ｉｂ 総合 2）はフランス人講師が担当する。 この（Ｉｂ 総合 1）では特に文法と語彙の習得が中心になり、文法や語彙に関する練習を数多く行う。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は異なることがある。	1.　révision bilan 2.　7b 3.　8a 4.　8b 5.　9a 6.　9b 7.　10a 8.　10b 9.　10b までの révision bilan 10.　11a 11.　11b 12.　12a 13.　12b 14.　12b までの révision bilan

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ文法事項・語彙を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。
テキスト	教科書：*Conversation et Grammaire*（Alma）
参考文献	必要に応じて担当教員から指示。
評価方法	課題等の平常点および試験等：１００％

13 年度以降	フランス語（Ｉａ 総合 2）	担当者	Ｄ．ベルテ

講義目的、講義概要	授業計画
週２回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。フランス語の会話の基礎と決まった言い回しを学び、実際的なフランス語の実力を身に付けることを目指す。 フランス語（Ｉａ 総合 1：日本人講師担当）とペアになる授業で、フランス人講師が担当する。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は異なることがある。	1. ガイダンス、1a 2. 1b 3. 2a 4. 2b 5. 3a 6. 3b 7. 4a 8. 4b 9. 5a 10. 5b 11. 6a 12. 6b 13. 7a 14. 7a までの révision, bilan

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。
テキスト	教科書：*Conversation et Grammaire*（Alma）
参考文献	必要に応じて担当教員から指示。
評価方法	課題等の平常点および試験等：１００％

13 年度以降	フランス語（Ib 総合 2）	担当者	Ｄ．ベルテ

講義目的、講義概要	授業計画
週２回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。フランス語の会話の基礎と決まった言い回しを学び、実際的なフランス語の実力を身に付けることを目指す。 フランス語（Ｉｂ 総合 1：日本人講師担当）とペアになる授業で、フランス人講師が担当する。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は異なることがある。	1. révision bilan 2. 7b 3. 8a 4. 8b 5. 9a 6. 9b 7. 10a 8. 10b 9. 10b までの révision bilan 10. 11a 11. 11b 12. 12a 13. 12b 14. 12b までの révision bilan

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。
テキスト	教科書：*Conversation et Grammaire*（Alma）
参考文献	必要に応じて担当教員から指示。
評価方法	課題等の平常点および試験等：１００％

13年度以降	フランス語（Ⅰa応用）	担当者	林　ゆき

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、フランス語の基本的な運用能力の習得を目指します。フランス語力の基礎となる最初歩の文法事項を学びながら、聞き取り、語彙や会話表現、発音の学習も行います。春学期終了時に仏検（フランス語技能検定試験）５級に合格できるレベル達成を目指し、仏検の対策として過去問の演習や模擬試験を行います。また、言語の学習を通して、フランス語圏の文化や日常に関する知識・関心も高めていきましょう。	1．　アルファベ、挨拶、綴り字の読み方 2．　名詞の性と数、冠詞 3．　主語人称代名詞、動詞êtreとavoir 4．　-er動詞、否定文、疑問文 5．　形容詞 6．　指示形容詞、所有形容詞、強勢形 7．　-ir動詞、動詞allerとvenir、定冠詞の縮約 8．　命令法、前置詞の用法 9．　不規則動詞 10.　非人称構文 11.　応答問題（1）疑問詞を用いない疑問文 12.　応答問題（2）疑問詞を用いる疑問 13.　対話文読解と聞きとり 14.　まとめ

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に次回授業で扱う章の文法説明に目を通し、新出単語の意味を確認しておく。宿題として指示された練習問題を解き、授業で学んだ文法事項や語彙を復習する。
テキスト	服部悦子ほか『≪プティ≫シェリーとフランス語―仏検５級・４級対応フランス語文法』（三修社）
参考文献	フランス語の辞書、参考書については授業中に適宜指示します。
評価方法	授業への積極的な参加 30%、小テストあるいは中間試験の成績 30%、最終試験 40%

13年度以降	フランス語（Ⅰb　応用）	担当者	林　ゆき

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、フランス語の総合的な運用能力の習得を目指します。フランス語力の基礎となる文法事項を学びながら、聞き取り、語彙や会話表現、発音の学習も行います。秋学期終了時に仏検（フランス語技能検定試験）４級に合格できるレベル達成を目指し、仏検の対策として過去問の演習や模擬試験を行います。また、言語の学習を通して、フランス語圏の文化や日常に関する知識・関心も高めていきましょう。	1．　不定詞を伴って用いられる動詞 2．　補語人称代名詞 3．　比較級・最上級 4．　現在分詞とジェロンディフ 5．　中性代名詞 6．　直説法複合過去（1）助動詞をavoirとする 7．　直説法複合過去（2）助動詞をêtreとする 8．　関係代名詞、強調構文 9．　代名動詞 10.　応答問題（1）計画、気持ちを言う、たずねる 11.　応答問題（2）状況、日常について話す 12.　対話文読解 13.　対話文聞きとり 14.　まとめ

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に次回授業で扱う章の文法説明に目を通し、新出単語の意味を確認しておく。宿題として指示された練習問題を解き、授業で学んだ文法事項や語彙を復習する。
テキスト	服部悦子ほか『≪プティ≫シェリーとフランス語―仏検５級・４級対応フランス語文法』（三修社）
参考文献	フランス語の辞書、参考書については授業中に適宜指示します。
評価方法	授業への積極的な参加 30%、小テストあるいは中間試験の成績 30%、最終試験 40%

13 年度以降	フランス語（Ⅱa 総合 1）	担当者	上杉　未央

講義目的、講義概要	授業計画
１年次のフランス語（Ⅰa 総合 1）に引き続き、週２回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。 教科書は *Conversation et Grammaire* で、(Ⅱa 総合 1) は日本人講師、(Ⅱa 総合 2) はフランス人講師が担当する。 この（Ⅱa 総合 1）では特に文法と語彙の習得が中心になり、文法や語彙に関する練習を数多く行う。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は異なることがある。	1. révision bilan 2. 13a 3. 13b 4. 14a 5. 14b 6. 15a 7. 15b 8. 15b までの révision bilan 9. 16a 10. 16b 11. 16b までの révision bilan 12. 17a 13. 17b 14. 17b までの révision bilan

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ文法事項・語彙を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。
テキスト	教科書：*Conversation et Grammaire* (Alma)
参考文献	必要に応じて担当教員から指示。
評価方法	課題等の平常点および試験等：１００％

13 年度以降	フランス語（Ⅱb 総合 1）	担当者	上杉　未央

講義目的、講義概要	授業計画
１年次のフランス語（Ⅰb 総合 1）に引き続き、週２回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。 教科書は *Conversation et Grammaire* で、(Ⅱb 総合 1) は日本人講師、(Ⅱb 総合 2) はフランス人講師が担当する。 この（Ⅱb 総合 1）では特に文法と語彙の習得が中心になり、文法や語彙に関する練習を数多く行う。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は異なることがある。	1. révision bilan 2. 18a 3. 18b 4. 18b までの révision bilan 5. 19a 6. 19b 7. 20a 8. 20b 9. 20b までの révision bilan 10. 21a 11. 21b 12. 22a 13. 22b 14. 22bまでのrévision bilan

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ文法事項・語彙を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。
テキスト	教科書：*Conversation et Grammaire* (Alma)
参考文献	必要に応じて担当教員から指示。
評価方法	課題等の平常点および試験等：１００％

13 年度以降	フランス語（Ⅱa 総合 2）	担当者	Ｆ．Ｘ．レット

講義目的、講義概要	授業計画
１年次のフランス語（Ⅰa 総合 2）に引き続き、週２回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。 教科書は *Conversation et Grammaire* で、(Ⅱa 総合 1) は日本人講師、(Ⅱa 総合 2) はフランス人講師が担当する。 この（Ⅱa 総合 2）では決まった言い回しと会話が中心となる。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は異なることがある。	1. révision bilan 2. 13a 3. 13b 4. 14a 5. 14b 6. 15a 7. 15b 8. 15b までの révision bilan 9. 16a 10. 16b 11. 16b までの révision bilan 12. 17a 13. 17b 14. 17bまでのrévision bilan

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。
テキスト	教科書：*Conversation et Grammaire* (Alma)
参考文献	必要に応じて担当教員から指示。
評価方法	課題等の平常点および試験等：１００％

13 年度以降	フランス語（Ⅱb 総合 2）	担当者	Ｆ．Ｘ．レット

講義目的、講義概要	授業計画
１年次のフランス語（Ⅱb 総合 2）に引き続き、週２回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。 教科書は *Conversation et Grammaire* で、(Ⅱb 総合 1) は日本人講師、(Ⅱb 総合 2) はフランス人講師が担当する。 この（Ⅱb 総合 2）では決まった言い回しと会話が中心となる。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は異なることがある。	1. révision bilan 2. 18a 3. 18b 4. 18b までの révision bilan 5. 19a 6. 19b 7. 20a 8. 20b 9. 20b までの révision bilan 10. 21a 11. 21b 12. 22a 13. 22b 14. 22b までの révision bilan

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。
テキスト	教科書：*Conversation et Grammaire* (Alma)
参考文献	必要に応じて担当教員から指示。
評価方法	課題等の平常点および試験等：１００％

13 年度以降	フランス語（Ⅱa 応用）	担当者	竹内　久雄

講義目的、講義概要	授業計画
(1) 初級文法の知識をフランス語文を読むことにつなげる．(2) 世界のフランス語圏についての基本的な知識を身につけてもらう．(3) 言語を通じてフランス文化の流れ，現代フランス事情を知る．	(1) 授業の説明，履修者のフランス語力判定． (2) 1 課会話．聞き取り．作文．名詞関連の文法復習． (3) 1 課本文．名詞関連の文法復習． (4) 2 課会話．聞き取り．作文．être と avoir 復習． (5) 2 課本文．être と avoir 関連の文法復習． (6) 3 課会話．聞き取り．作文，er 動詞復習． (7) 3 課本文．er 動詞復習． (8) 復習と応用． (9) 4 課会話．聞き取り．作文．不規則動詞復習 1． (10) 4 課本文．不規則動詞復習． (11) 5 課会話．聞き取り．作文．不規則動詞復習 2． (12) 5 課本文．不規則動詞復習 2． (13) 復習と応用． (14) 復習と応用，総まとめ

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前には，教科書巻末の各課ごとの文法まとめを読んでおいてください．事後は，テキストを構文という観点から復習してください．興味の持てた内容についてはいろいろ調べてもらいたいと思います
テキスト	小松　祐子，フランコフォニーへの旅（駿河台出版社）
参考文献	平野千果子，フランス植民地主義の歴史，人文書院
評価方法	平常点（発表，宿題など：50%）と期末試験（50%）

13 年度以降	フランス語（Ⅱb 応用）	担当者	竹内　久雄

講義目的、講義概要	授業計画
(1) 初級文法の知識をフランス語文を読むことにつなげる．(2) 世界のフランス語圏についての基本的な知識を身につけてもらう．(3) 言語を通じてフランス文化の流れ，現代フランス事情を知る．	(1) 授業の説明，前期のまとめ． (2) 6 課会話．聞き取り．作文．代名詞，代名動詞復習． (3) 6 課本文．代名詞，代名動詞復習． (4) 7 課会話．聞き取り．作文．複合過去復習． (5) 7 課本文．複合過去復習． (6) 8 課会話．聞き取り．作文，半過去復習． (7) 8 課本文．半過去復習． (8) 復習と応用． (9) 9 課会話．聞き取り．作文．単純未来復習． (10) 9 課本文．単純未来復習． (11) 10 課会話．聞き取り．作文．条件法，接続法復習． (12) 10 課本文．条件法，接続法復習． (13) 復習と応用． (14) 復習と応用，総まとめ

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前には，教科書巻末の各課ごとの文法まとめを読んでおいてください．事後は，テキストを構文という観点から復習してください．興味の持てた内容についてはいろいろ調べてもらいたいと思います
テキスト	小松　祐子，フランコフォニーへの旅（駿河台出版社）
参考文献	平野千果子，フランス植民地主義の歴史，人文書院
評価方法	平常点（発表，宿題など：50%）と期末試験（50%）

13 年度以降	フランス語（Ⅲa 応用）	担当者	C．ラビニャス

講義目的、講義概要	授業計画
Le cours a pour but de préparer à l'examen de DELF. Nous mettrons l'accent sur l'oral afin de rendre la classe dynamique. Dans ce but nous travaillerons sur des sons et des vidéos avec lesquels nous approfondirons la compréhension et la production orales. Ces exemples permettent le développement de la prononciation et le naturel. De plus, nous travaillerons l'écrit, aussi bien la rédaction que la compréhension écrite, en particulier dans la mise en forme de textes courts sur des sujets quotidiens. Des devoirs seront donnés après chaque leçon.	1 Se présenter et saluer quelqu'un 2 S'informer sur quelqu'un ou sur un lieu 3 Parler de ce que l'on aime 4 Parler de ses loisirs 5 Parler de ses habitudes 6 Raconter sa journée 7 Demander où on va, à quelle heure, pour quoi faire 8 Interroger sur les études et sur l'emploi du temps 9 S'exprimer par e-mail en français 10 Demander à quelqu'un ce qu'il a fait le week-end 11 Raconter ses dernières vacances 12 Les vêtements et les prix 13 Faire des achats 14 révision et test

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	宿題、作文　Short texts
テキスト	プリントを配布する
参考文献	なし
評価方法	宿題 20%、授業態度及び授業への参加 30%、テスト 50%

13 年度以降	フランス語（Ⅲb 応用）	担当者	C．ラビニャス

講義目的、講義概要	授業計画
Le cours a pour but de préparer à l'examen de DELF. Nous mettrons l'accent sur l'oral afin de rendre la classe dynamique. Dans ce but nous travaillerons sur des sons et des vidéos avec lesquels nous approfondirons la compréhension et la production orales. Ces exemples permettent le développement de la prononciation et le naturel. De plus, nous travaillerons l'écrit, aussi bien la rédaction que la compréhension écrite, en particulier dans la mise en forme de textes courts sur des sujets quotidiens. Des devoirs seront donnés après chaque leçon.	1 Raconter ses vacances 2 Découvrir la pop française 3 Parler de sa famille 4 Apprendre à débattre en français 5 Débattre　sur l'art 6 Débattre sur le cinéma 7 Parler des ses repas 8 Donner des conseils 9 Commander au restaurant 10 Expliquer une recette de cuisine 11 Comparer les habitudes culturelles 12 Dire ce qu'on a envie de faire 13 Projets de vacances 14 révision et test

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	宿題、作文　Short texts
テキスト	プリントを配布する
参考文献	なし
評価方法	宿題 20%、授業態度及び授業への参加 30%、テスト 50%

13 年度以降	スペイン語（Ｉａ 総合 1）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ｉ）は、スペイン語初習者向け入門の授業である。直説法現在形までの基礎的文法事項を学び、それにより簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力を獲得することを目指す。 （総合1, 2）では、文法項目をおいながら基礎的な単語を使った短文を学ぶことで、あいさつや自己紹介ができ、習慣、希望・情報、一日の出来事、予定などを伝え、聞き取ることができる総合的初級スペイン語を習得することを目的とする。 基本的に採用教科書に沿って右記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。 なお、この授業はスペイン語（Ｉａ 総合2）とのペア授業である。 この授業ではとくに予習が不可欠である。	① 発音 ② アクセント ③ 名詞の性・数 ④ 冠詞 ⑤ 形容詞 ⑥ ser, estar動詞の活用 ⑦ ser, estar動詞の用法 ⑧ 動詞の活用 --- 直説法現在規則活用 ⑨ 代名詞の用法 ⑩ 動詞の活用 --- 直説法現在規則活用の練習 ⑪ 動詞の活用 --- 直説法現在不規則活用 ⑫ 動詞の活用 --- 直説法現在不規則活用の練習 ⑬ 動詞の活用 --- 再帰動詞の用法 ⑭ 動詞の活用 --- 再帰動詞の練習

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト	柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor Ｉ（青い表紙）” 朝日出版社
参考文献	スペイン語－日本語辞書。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入のこと。
評価方法	定期試験 100%

13 年度以降	スペイン語（Ｉｂ 総合 1）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ｉb総合1）は、スペイン語（Ｉａ 総合1, 2）の継続の授業である。 直説法未来形・過去未来形までの基礎的文法事項を学び、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し聞き取る能力の一層の向上を目指す。直説法までの初級スペイン語文法の学習はすべて完了する。 （総合1, 2）では、文法項目をおいながら基礎的な単語を使った短文を学ぶことで、動詞のすべての活用とその使い方、および複文を使った多様な表現を習得し、日常生活に支障がない程度に書きくこと、話すこと、聞き取ることができる総合的初級スペイン語能力の完成を目的とする。 基本的に採用教科書に沿って右記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。 なお、この授業はスペイン語（Ｉｂ総合 2）とのペア授業である。	① 春学期の復習 ② 動詞の活用---再帰動詞 ③ 再帰動詞と諸用法 ④ 動詞の活用---直説法現在完了形 ⑤ 動詞の活用---直説法現在進行形 ⑥ 比較表現 ⑦ 動詞の活用---直説法点過去規則活用 ⑧ 動詞の活用---直説法点過去不規則活用 ⑨ 動詞の活用---直説法点過去不規則活用の練習 ⑩ 動詞の活用---直説法線過去 ⑪ 点過去と線過去の違い ⑫ 受け身表現 ⑬ 動詞の活用---未来形 ⑭ 動詞の活用---過去未来形

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト	柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor Ｉ（青い表紙）” 朝日出版社
参考文献	授業中に紹介。
評価方法	定期試験 100%

13 年度以降	スペイン語（Ｉａ 総合 2）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ｉａ 総合 2）はスペイン語（Ｉａ 総合 1）とのペア授業である。ふたりの教員によりリレー進行して行く。 受講生は週にスペイン語（Ｉａ 総合1）と（Ｉａ 総合2）のふたつを同時に履修することになる。	① 発音 ② アクセント ③ 名詞の性・数 ④ 冠詞 ⑤ 形容詞 ⑥ ser, estar動詞の活用 ⑦ ser, estar動詞の用法 ⑧ 動詞の活用 --- 直説法現在規則活用 ⑨ 代名詞の用法 ⑩ 動詞の活用 --- 直説法現在規則活用の練習 ⑪ 動詞の活用 --- 直説法現在不規則活用 ⑫ 動詞の活用 --- 直説法現在不規則活用の練習 ⑬ 動詞の活用 --- 再帰動詞の用法 ⑭ 動詞の活用 --- 再帰動詞の練習

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト	柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor Ｉ（青い表紙）” 朝日出版社
参考文献	スペイン語－日本語辞書。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入のこと。
評価方法	定期試験 100%

13 年度以降	スペイン語（Ｉｂ 総合 2）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ｉａ 総合 2）の継続の授業である。 スペイン語（Ｉｂ 総合 2）はスペイン語（Ｉｂ 総合 1）とのペア授業である。ふたりの教員によりリレー進行して行く。 受講生は週にスペイン語（Ｉｂ 総合 1）と（Ｉｂ 総合 2）のふたつを同時に履修することになる。	① 春学期の復習 ② 動詞の活用---再帰動詞 ③ 再帰動詞と諸用法 ④ 動詞の活用---直説法現在完了形 ⑤ 動詞の活用---直説法現在進行形 ⑥ 比較表現 ⑦ 動詞の活用---直説法点過去規則活用 ⑧ 動詞の活用---直説法点過去不規則活用 ⑨ 動詞の活用---直説法点過去不規則活用の練習 ⑩ 動詞の活用---直説法線過去 ⑪ 点過去と線過去の違い ⑫ 受け身表現 ⑬ 動詞の活用---未来形 ⑭ 動詞の活用---過去未来形

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト	柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor Ｉ（青い表紙）” 朝日出版社
参考文献	授業中に紹介。
評価方法	定期試験 100%

13 年度以降	スペイン語（Ｉａ 会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ｉ）は、スペイン語初習者向け入門の授業である。直説法現在形までの基礎的文法事項を学び、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目ざす。 （会話）では、スペイン語（Ｉａ 総合1, 2）での文法項目の進展にあわせて、語彙を補いながら基本的な日常会話ができるよう練習を行うことを目的とする。（会話）の担当者は、スペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。	学習目標となる文法項目は、スペイン語（Ｉａ 総合1, 2）の項目と同じであるが、（会話）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 ① 発音 ② アクセント ③ 名詞の性・数 ④ 冠詞 ⑤ 形容詞 ⑥ ser, estar動詞の活用 ⑦ ser, estar動詞の用法 ⑧ 動詞の活用 --- 直説法現在規則活用 ⑨ 代名詞の用法 ⑩ 動詞の活用 --- 直説法現在規則活用の練習 ⑪ 動詞の活用 --- 直説法現在不規則活用 ⑫ 動詞の活用 --- 直説法現在不規則活用の練習 ⑬ 動詞の活用 --- 再帰動詞の用法 ⑭ 動詞の活用 --- 再帰動詞の練習

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）。
参考文献	スペイン語－日本語辞書。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入のこと。
評価方法	定期試験 100％

13 年度以降	スペイン語（Ｉｂ 会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ｉａ 会話）の継続の授業である。 直説法未来・過去未来までの基礎的文法事項を学び、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目ざす。直説法の初級スペイン語文法の学習を終える。 （会話）では、スペイン語（Ｉｂ 総合1, 2）での文法項目の進展にあわせて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的とする。（会話）の担当者は、スペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。	学習目標となる文法項目は、スペイン語（Ｉｂ 総合1, 2）の項目と同じであるが、（会話）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 ① 春学期の復習 ② 動詞の活用---再帰動詞 ③ 再帰動詞と諸用法 ④ 動詞の活用---直説法現在完了形 ⑤ 動詞の活用---直説法現在進行形 ⑥ 比較表現 ⑦ 動詞の活用---直説法点過去規則活用 ⑧ 動詞の活用---直説法点過去不規則活用 ⑨ 動詞の活用---直説法点過去不規則活用の練習 ⑩ 動詞の活用---直説法線過去 ⑪ 点過去と線過去の違い ⑫ 受け身表現 ⑬ 動詞の活用---未来形 ⑭ 動詞の活用---過去未来形

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）。
参考文献	授業中に紹介。
評価方法	定期試験 100％

13 年度以降	スペイン語（Ⅱa 会話 1）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ⅱ）は、スペイン語（Ⅰ）で身につけたスペイン語の基礎能力をもとに、それを発展、実用化する授業である。 （会話 1）では、（総合）の文法事項の進度に合わせて、基本的な会話文を使いながら会話の練習をし、より高度な聞き取り能力と表現力を身につけることを目的とする。中級用の教材を用い、その文法項目に沿って口答練習を中心に授業を進める。	クラスの状況、語学の習得具合から判断して、スペイン語（Ⅱa 総合）の担当者と相談の上、14回分の授業構成について、各担当者が初回の授業で説明する。

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）。
参考文献	担当者が随時紹介する。
評価方法	定期試験 100%

13 年度以降	スペイン語（Ⅱb 会話 1）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ⅱa会話1）の継続の授業である。 スペイン語（Ⅱ）は、スペイン語（Ⅰ）で身につけたスペイン語の基礎能力をもとに、それを発展、実用化する授業である。 （会話1）では、（総合）の文法事項の進度に合わせて、基本的な会話文を使いながら会話の練習をし、より高度な聞き取り能力と表現力を身につけることを目的とする。中級用の教材を用い、その文法項目に沿って口答練習を中心に授業を進める。	クラスの状況、語学の習得具合から判断して、スペイン語（Ⅱb 総合）の担当者と相談の上、14回分の授業構成について、各担当者が初回の授業で説明する。

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）。
参考文献	担当者が随時紹介する。
評価方法	定期試験 100%

13 年度以降	スペイン語（Ⅱa 会話 2）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ⅱ）は、スペイン語（Ⅰ）で身につけたスペイン語の基礎能力をもとに、それを発展、実用化する授業である。 （会話2）では、（総合）の文法事項の進度に合わせて、聞き取り能力を定着させること、また場面設定に合わせた受け答えができるようになることを目標に口答練習をおこなう。また作文力、語彙力の強化を図る。	クラスの状況、語学の習得具合から判断して、スペイン語（Ⅱa 総合）の担当者と相談の上、14回分の授業構成について、各担当者が初回の授業で説明する。

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）
参考文献	授業中に紹介する。
評価方法	定期試験 100%

13 年度以降	スペイン語（Ⅱb 会話 2）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ⅱa会話2）の継続の授業である。 スペイン語（Ⅱ）は、スペイン語（Ⅰ）で身につけたスペイン語の基礎能力をもとに、それを発展、実用化する授業である。 （会話2）では、（総合）の文法事項の進度に合わせて、聞き取り能力を定着させること、また場面設定に合わせた受け答えができるようになることを目標に口答練習をおこなう。また作文力、語彙力の強化を図る。	クラスの状況、語学の習得具合から判断して、スペイン語（Ⅱb 総合）の担当者と相談の上、14回分の授業構成について、各担当者が初回の授業で説明する。

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）
参考文献	授業中に紹介する。
評価方法	定期試験 100%

13 年度以降	スペイン語（Ⅱa 総合）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ⅱ）は、スペイン語（Ⅰ）で身につけたスペイン語の基礎力をもとに、それを発展、実用化する授業である。 （総合）の授業では、初級文法のうち、1年目で未習の接続法を中心に扱う。また、命令表現を新たに学ぶとともに、点過去・線過去・現在完了・過去完了、未来・過去未来、関係詞、前置詞などの重要文法事項については重点的に復習し、より高度な表現力を身につける。そのため、作文には力を入れる。 なお、文法の復習の際に1年目で使用した教科書を使用することがあるので持参のこと。 この授業ではとくに予習が不可欠である。	クラスの状況、語学の習得具合から判断して、14回分の授業構成について、各担当者が初回の授業で説明する。 左記の講義目的、講義概要を参照のこと。

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト	パロマ・トレナド 他 著 “Plaza Mayor Ⅱ ソフト版（オレンジ色の表紙）” 朝日出版社
参考文献	授業中に紹介する。
評価方法	定期試験 100%

13 年度以降	スペイン語（Ⅱb 総合）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ⅱa 総合）の継続の授業である。 この授業では、初級文法のうち、1年目で不十分だった接続法を中心に扱う。また、その他の重要な文法事項についての復習も行い、接続法現在までの初級文法の学習を完了する。より高度な表現方法を学び、表現力をさらに向上させることも重視する。そのため、作文には力を入れる。 なお、文法の復習の際に1年目で使用した教科書を使用することがあるので持参のこと。この授業ではとくに予習が不可欠である。 この授業ではとくに予習が不可欠である。	クラスの状況、語学の習得具合から判断して、14回分の授業構成について、各担当者が初回の授業で説明する。 左記の講義目的、講義概要を参照のこと。

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト	パロマ・トレナド 他 著 “Plaza Mayor Ⅱ ソフト版（オレンジ色の表紙）” 朝日出版社
参考文献	授業中に紹介する。
評価方法	定期試験 100%

13 年度以降	スペイン語（Ⅲa 応用）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ⅲ）の授業では、スペイン語（Ⅱ）までに培ったスペイン語力を基礎に、より高度なスペイン語の運用能力を獲得することを目標とする。具体的には、専門的な文章の一部や新聞記事などの読解力、実務的な文書の作成や会議での発言といったパブリックな場面でのプレゼンテーション能力を身につけることを目ざす。 なお、接続法過去、条件文など、スペイン語（Ⅱ）までに必ずしも十分に学習できていない文法事項がある場合は、その学習にも重きをおき、中級文法を終了する。 この授業ではとくに予習が不可欠である。	クラスの状況、語学の習得具合から判断して、14 回分の授業構成について、各担当者が初回の授業で説明する。 左記の講義目的、講義概要を参照のこと。

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）
参考文献	授業中に紹介する。
評価方法	定期試験 100%

13 年度以降	スペイン語（Ⅲb 応用）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ⅲa 応用）の継続の授業である。 この授業では、スペイン語（Ⅱ）までに培ったスペイン語力を基礎に、より高度なスペイン語の運用能力を獲得することを目標とする。具体的には、専門的な文章の一部や新聞記事などの読解力、実務的な文書の作成や会議での発言といったパブリックな場面でのプレゼンテーション能力を身につけることを目ざす。 この授業ではとくに予習が不可欠である。	クラスの状況、語学の習得具合から判断して、14回分の授業構成について、各担当者が初回の授業で説明する。 左記の講義目的、講義概要を参照のこと。

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）
参考文献	授業中に紹介する。
評価方法	定期試験 100%

13 年度以降	中国語（Ｉａ講読・文法 ）	担当者	周　俊宇

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 　中国語を初めて学ぶ学生を対象とし、発音の基礎及びその表記法、簡体字（中国で現在使用されている漢字）の書き方、文法の基礎を学習し、平易な文章の読解ができることを目指す。 【講義概要】 ・週2回の総合コースでこの時間は語学力の四分野「聴く、話す、書く、読む」のうち、「書く」「読む」⇒「中国語の文法を知り、文章が読める」に重点を置く。 ・中国語の発音表記法であるローマ字を用いた“ピンイン”による表記法と発音のルールを知り、単語、フレーズ、文を音読できるようにする。 ・基本的な文型を学習し、作文練習などのドリルで知識を定着化し、さらに既習文型を用いた文章の読解をする。 ・1年間で初級レベルの語彙および基本的文法事項を学び、2年次でさらに発展した学習ができる基礎を作る。	1.　中国語とは？　授業の進め方など 2.　第1課　韻母1、韻母2、声母1、軽声 3.　第2課　声母2、鼻母音、声調変化① 4.　第3課　軽声2、変調②③、ｒ化、声調の組合せ　等 5.　第4課　“是”の文、〝吗〟疑問文、副詞“也”“都” 6.　第5課　〝Ｓ＋Ｖ＋Ｏ〟構造、姓名の言い方 7.　第5課　疑問詞疑問文、選択疑問文 8.　前半のまとめ、練習　など 9.　第6課　名詞述語文、省略疑問文、省略可能な“的” 10.　第6課　第7課　形容詞述語文 11.　第7課　比較文、反復疑問文、指示代名詞のまとめ 12.　第8課　所在の“在”、存在・所有の“有” 13.　第8課　時点と時量、量詞 14.　後半のまとめ、練習　など

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする。
テキスト	『中国語への道　―近きより遠きへ―』内田慶市　他　著　金星堂
参考文献	書籍版（＝紙の）中日辞典　※　見出し字をたてる伝統的配列であることを条件に各自の選択で
評価方法	中間・期末などの試験 70%　　授業への参加度など 30%

13 年度以降	中国語（Ｉｂ講読・文法 ）	担当者	周　俊宇

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 　春学期に引き続き、語彙を増やし、基礎的文法事項を学び「使える単語」「使える言い回し」を増やす。 【講義概要】 ・発音に留意し、「聞いて分かる単語」、「相手に通じる単語」＝「使える単語」にする。 ・基本文型を用いた作文練習などのドリルを通じて知識を定着させ、中国語の初級レベルの文法ルールを知る。 ・それによって平易な文章の読解力をつけ、併せて「文を書く」「話す」などの発信できる力をつけられるように練習する。	1.　春学期の復習、口慣らし 2.　第9課　前置詞、経験の“过”、数量補語　方位詞 3.　第10課　主述述語文、２つの“了” など 4.　第10課　“有点儿”と“一点儿”、願望・意思の助動詞 5.　第11課　進行の“在”、持続の“着”、連動文 6.　第11課　結果補語、｛V／Adj.｝を含む連体修飾節・第12課 7.　第12課　可能、必然・当然の助動詞、“是～的”構文“など 8.　前半のまとめ、練習など 9.　第13課　様態補語、二重目的語をとる動詞 10.　第13課　受身文、動詞の重ね型 11.　第14課　存現文、方向補語 12.　第14課　可能補語、“把”構文 13.　第15課　使役文、副詞“又”と“再”、“不是～吗” 14.　後半のまとめ、練習など

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする。
テキスト	『中国語への道　―近きより遠きへ―』内田慶市　他　著　金星堂
参考文献	書籍版（＝紙の）中日辞典　※　見出し字をたてる伝統的配列であることを条件に各自の選択で
評価方法	中間・期末などの試験 70%　　授業への参加度など 30%

13 年度以降	中国語（Ｉa 会話 1）	担当者	張　亜紅

講義目的、講義概要	授業計画
中国語Ｉa（会話1）・中国語Ｉa（会話2）は異なる科目として、異なる教員が担当し異なる教科書を使用する。 【講義目的】 中国語を初めて学ぶ学生を対象とする。発音の基礎及び中国語の表記法―“简体字”（中国で現在使用されている漢字）、ピンイン（中国で使用されている発音表記法）―から学び始め、基本的な文法を学習し、平易な会話ができることを目指す。 【講義概要】 ・週3コマの中で（会話1，2）は語学力の4分野「聴く」「話す」「読む」「書く」のうち、「聴く」「話す」―（会話）に重点を置く。 ・単語レベル・フレーズレベル・文レベルで正しい発音・声調で読めるように徹底する。 ・学習した文法項目を練習により身についた知識とする	1. 授業について　発音篇part 1　声調、単母音、無気と有気 2. 発音篇part 2　韻母、音節、声調記号を付ける位置 3. 発音篇part 3　声母と韻母の組み合わせ、変調、儿化 4. 第1課　你好！　“吗”疑問文など、あいさつと応答表現 5. 第2課　我叫张瑞　姓名の言い方など 6. 第3課　我很喜欢日本“动漫”　主述述語文など 7. 第4課　我们看电影，怎么样?　“在”の文など 8. 前半のまとめ・練習など 9. 第5課　我有点儿饿了　語気助詞“了”など 10. 第6課　学校附近有商店吗？　“有”の文、量詞など 11. 第7課　送礼物　アスペクト助詞“了”など 12. 第8課　介绍家人　名詞述語文・年齢の言い方など 13. 第9課　打电话　時刻の表現など 14. 総まとめ・練習など

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする。
テキスト	『たのしいの中国語　愉快的汉语』首都大学東京中国文学研究室編　　金星堂
参考文献	書籍版（＝紙の）中日辞典　※　見出し字をたてる伝統的配列であることを条件に各自の選択で
評価方法	中間・期末などの試験 70%　　授業への参加度など 30%

13 年度以降	中国語（Ｉb 会話 1）	担当者	張　亜紅

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 ・春学期に引き続き、基本的な文法を学習しつつ、平易な会話ができることを目指す。 ・常用の文を暗記し、それらを用いて中国語の初級レベルの運用能力を身につけることを目指す。 【講義概要】 ・春学期に引き続き発音訓練を行い、発音・声調の矯正を徹底する。 ・学んだ語彙・文型を用いて、場面に応じて表現練習を重ね、会話力習得に重点を置く	1. 春学期の復習、口慣らし 2. 第10課　回市内　アスペクト助詞“过”など 3. 第11課　你吃得太多了　様態補語など 4. 第12課　飞机票买来了吗？　結果補語、比較文など 5. 第13課　味道好极了　程度補語、可能補語など 6. 第14課　我们是坐飞机去的　“是～的”構文など 7. 前半のまとめ、練習など 8. 第15課　请你来我家玩儿吧　兼語文、二重目的語文など 9. 第16課　汉语不这么说　“这么”と“那么”（“这样”“那样）など” 10. 第17課　进修就要结束了　近未来の表現、存現文など 11. 第18課　张瑞的日记　使役文、受け身文など 12. <补充课文>　山口的电子邮件　発音と内容把握 13. 発音練習、発音矯正など 14. 総まとめ

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする。
テキスト	『たのしいの中国語　愉快的汉语』首都大学東京中国文学研究室編　　金星堂
参考文献	書籍版（＝紙の）中日辞典　※　見出し字をたてる伝統的配列であることを条件に各自の選択で
評価方法	中間・期末などの試験 70%　　授業への参加度など 30%

13 年度以降	中国語（Ｉa 会話 2）	担当者	蔡　暁軍

講義目的、講義概要	授業計画
中国語Ｉa（会話1）・中国語Ｉa（会話2）は異なる科目として、異なる教員が担当し異なる教科書を使用する 【講義目的】 中国語を初めて学ぶ学生を対象とし、発音の基礎及び発音の表記法（ピンイン）、簡体字（中国で現在使用されている漢字）の書き方から学び始め、文法の基礎を学習し、平易な日常会話ができることを目指す。 【講義概要】 ・語学力の四分野「聴く、話す、書く、読む」のうち、「聴く」「話す」⇒「会話」に重点を置く ・言語をコミュニケーション手段として使いこなすには正しい発音・声調を身につけることが前提であり、授業において発音練習、リスニング練習などを行う。 ・基礎的な文法を理解し、ドリルなどによって定着した知識とする。	1. 授業について・中国語とは [発音入門]声調、単母音 等 2. 子音一覧、有気音と無気音、巻舌音 等 3. 複母音、鼻母音、ピンインの読み方の注意点 4. 声調変化、ｒ化、 軽声の高さ 等 5. 第1課 人称代名詞、“是”述語文、“吗”疑問文 等 6. 第2課 姓名、疑問詞“什么”、形容詞述語文 等 7. 第3課 動詞述語文、“有”述語文、指示代名詞 等 8. 第4課 存在の“有”、疑問詞“几”、量詞 等 9. まとめ、練習 等 10. 第5課 年月日・曜日、語気助詞“了”・“吧” 等 11. 第6課 時刻と時間量、連動文、完了の“了” 等 12. 第7課 場所を表す代名詞、動詞“在”、介詞 等 13. 第8課 動詞“喜欢”、経験の“过”、離合詞、V重畳 等 14. まとめ、練習 等

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする。
テキスト	『老师好！ －王先生との出会いー』守屋宏則、陳浩、梁月軍 著 郁文堂
参考文献	書籍版（＝紙の）中日辞典 ※ 見出し字をたてる伝統的配列であることを条件に各自の選択で
評価方法	中間・期末などの試験 70％ 授業への参加度など 30％

13 年度以降	中国語（Ｉb 会話 2）	担当者	蔡　暁軍

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 春学期に引き続いて、コミュニケーション手段としての〝話せる・聴ける〟中国語の習得を目指す。 【講義概要】 ・「正しい発音・声調で話すこと」および「聴きとる」訓練を経て、「発音できる語彙」「聴きとれる語彙」を増やす。 ・学んだ基礎的文法事項を定着させるため、置き換え練習、聞き取り練習、作文などを行う。 ・既習の文法事項を用いて、日常生活に関することを表現する。そのために必要な教科書以外の語彙を補充する。	1. 春学期の復習、発音練習 等 2. 第9課 比較の表現、程度補語、選択疑問文 等 3. 第10課 数量補語、動詞“打算”、助動詞“想” 等 4. 第11課 方向補語、“请”の兼語文、持続の“着” 等 5. 第12課 動作の進行、結果補語、V＋“给” 等 6. 第13課 助動詞“能”“会”“可以”、方位詞、“一下”等 7. まとめ、練習等 8. 第14課 “把”文型、方向補語の（基本義と）派生義 9. 第14課 助動詞“要”、 副詞の“不用”、可能補語 10. 第15課 条件・仮定を表す“了”、副詞“可能” 11. 第15課 “是…的”文型、疑問詞“怎么” 12. 第16課 近接未来の表現、様態補語、助動詞“应该” 13. 第16課 “让”“叫”“使”の 兼語文、連用修飾の“地” 14. まとめ、練習等

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする。
テキスト	『老师好！ －王先生との出会いー』守屋宏則、陳浩、梁月軍 著 郁文堂
参考文献	書籍版（＝紙の）中日辞典 ※ 見出し字をたてる伝統的配列であることを条件に各自の選択で
評価方法	中間・期末などの試験 70％ 授業への参加度など 30％

13 年度以降	中国語（Ⅱa 講読・文法）	担当者	関　久美子

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 1年次に中国語Ⅰを履修した学生を対象とし、学んだ文法の基礎を確認しつつ更に進んだレベルの文法項目を学習し、150字～350字程度の文章を読みこなす読解力をつけることを目指す。 【講義概要】 ・週2回の総合コースでこの時間は語学力の四分野「聴く、話す、書く、読む」のうち、「書く」「読む」⇒「中国語の文法を知り、文章が読める」に重点を置く。 ・1年次より量的に多い文章に対し、語の意味を適切に把握し、学んだ文法事項を生かして文の意味を正確に読み取る練習をする。 ・学習した文法事項を用いた作文など練習問題を行い定着した知識とする。 ・1年次に引き続き発音練習を行い、一文ではなく文章を読む練習をする。 ・各課の内容に即して初歩的な中国事情を知る。	1.　1年次の復習、ガイダンス 2.　第1課　「大学生の週末」ポイント、本文 3.　第1課　練習問題 4.　第2課　「食習慣」ポイント、本文 5.　第2課　練習問題 6.　第3課　「北京の交通」ポイント、本文 7.　第3課　練習問題 8.　第4課　「数字の好み」ポイント、本文 9.　第4課　練習問題 10.　第5課　「大学生のアルバイト事情」ポイント、本文 11.　第5課　練習問題 12.　第6課　「集団生活の利点」ポイント、本文 13.　第6課　練習問題 14.　まとめ、練習など

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする
テキスト	『知っておきたい中国事情　改訂版』　吉田泰謙　相原里美　葛婧　著　　白水社
参考文献	書籍版（＝紙の）中日辞典　※　見出し字をたてる伝統的配列であることを条件に各自の選択で
評価方法	中間・期末などの試験 70%　　授業への参加度など 30%

13 年度以降	中国語（Ⅱb 講読・文法）	担当者	関　久美子

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 春学期に引き続き、中国語Ⅰで学んだ文法の基礎を確認しつつ、更に進んだレベルの文法項目を学習し、やや長い文章を読みこなす読解力をつけることを目指す。 【講義概要】 ・語学力の四分野「聴く、話す、書く、読む」のうち、「読む」「書く」ことに重点を置く。 ・量的に多い文章に対し、学んだ文法事項を生かして単語・文の意味を正確に読み取り、文章の趣旨を的確に把握する練習をする。 ・学習した文法事項を用いた作文練習をおこなう、文章理解をもとに、内容についての中国語の質問に答えるなど、発信できる力を身につける練習をする。 ・春学期に引き続き発音練習を行う。 ・日本文化に大きな影響を与えてきた中国について知る。	1.　春学期の復習、ガイダンス 2.　第7課　「値切る」ポイント、本文 3.　第7課　練習問題 4.　第8課　「贈り物」ポイント、本文 5.　第8課　練習問題 6.　第9課　「中国式の結婚」ポイント、本文 7.　第9課　練習問題 8.　第10課　「共働き世帯」ポイント、本文 9.　第10課　練習問題 10.　第11課　「中国人の人への呼称」ポイント、本文 11.　第11課　練習問題 12.　第12課　「理想の職業」ポイント、本文 13.　第12課　練習問題 14.　まとめ、練習など

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする
テキスト	『知っておきたい中国事情　改訂版』　吉田泰謙　相原里美　葛婧　著　　白水社
参考文献	書籍版（＝紙の）中日辞典　※　見出し字をたてる伝統的配列であることを条件に各自の選択で
評価方法	中間・期末などの試験 70%　　授業への参加度など 30%

13 年度以降	中国語（Ⅱa 会話 1）	担当者	星野　芳欣

講義目的、講義概要	授業計画
中国語Ⅰa（会話1）・中国語Ⅰa（会話2）は異なる科目として、異なる教員が担当し異なる教科書を使用する 【講義目的】 1年次に履修した中国語Ⅰの基礎を適時復習しつつ、更に語彙や文法の知識を積み重ね、中国語の運用能力を高めていくことを目指す。 【講義概要】 ・語学力の四分野「聴く、話す、書く、読む」のうち、「聴く」「話す」⇒「会話」に重点を置く。 ・さまざまなテーマに基づく会話文の内容を理解し、正しい発音、声調で音読できるようにする。 ・文法事項を学び、ドリルを経て定着させ、実際に会話などで使える知識とする。	1. 復習課　1年次の復習、 2. 第1課　「打电话」　課文、ポイント 3. 第1課　ドリル　・第2課　「接风」　課文 4. 第2課　ポイント・ドリル 5. 第3課　「介绍」　課文、ポイント 6. 第3課　ドリル　・第4課「交通工具1」課文、 7. 第4課　ポイント、ドリル 8. 前半の復習など 9. 第5課　「换钱」　課文、ポイント 10. 第5課　ドリル　・第6課　「吃饭」　課文 11. 第6課　ポイント、ドリル 12. 第7課　「生病」　課文、ポイント 13. 第7課　ドリル 14. 後半の復習など

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする
テキスト	『スリム版　表現する中国語Ⅱ』　楊凱栄・張麗群著　白帝社
参考文献	書籍版（＝紙の）中日辞典　※　見出し字をたてる伝統的配列であることを条件に各自の選択で
評価方法	中間・期末などの試験 70%　授業への参加度など 30%

13 年度以降	中国語（Ⅱb 会話 1）	担当者	星野　芳欣

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 1年次に履修した中国語Ⅰの基礎を適時復習しつつ、更に語彙や文法の知識を積み重ね、中国語の運用能力を高めていくことを目指す。 【講義概要】 ・語学力の四分野「聴く、話す、書く、読む」のうち、「聴く」「話す」⇒「会話」に重点を置く。 ・さまざまなテーマに基づく会話文の内容を理解し、正しい発音、声調で音読できるようにする。 ・文法事項を学び、ドリルを経て定着させ、実際に会話などで使える知識とする。	1. 春学期の復習、口慣らし 2. 第8課　「交通工具2」　課文、ポイント 3. 第8課　ドリル　・第9課「网上聊天儿1」　課文、 4. 第9課　ポイント、ドリル 5. 第10課　「网上聊天儿2 」　課文、ポイント 6. 第10課　ドリル　・第11課　「买东西」　課文 7. 第11課　ポイント、ドリル 8. 第12課　「爱好」　課文、ポイント、ドリル 9. 前半の復習など 10. 第13課　「坐火车」　課文、ポイント 11. 第13課　ドリル　・第14課「观光(游外滩)」課文、 12. 第14課　ポイント、ドリル 13. 第15課　「送行」　課文、ポイント、ドリル 14. 後半の復習など

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする
テキスト	『スリム版　表現する中国語Ⅱ』　楊凱栄・張麗群著　白帝社
参考文献	書籍版（＝紙の）中日辞典　※　見出し字をたてる伝統的配列であることを条件に各自の選択で
評価方法	中間・期末などの試験 70%　授業への参加度など 30%

13 年度以降	中国語（Ⅱa 会話 2）	担当者	秦　敏

講義目的、講義概要	授業計画
中国語Ⅱa（会話1）と中国語Ⅱa（会話2）は2つの科目として異なる教員が担当し異なる教科書を使用する。 【講義目的】 中国語Ⅰで学んだ基礎の上に更に語彙・文法の知識を積み重ね、発音練習・会話練習により中国語の運用能力を高める。 【講義概要】 ・テキストは本文・語句・トレーニングからなり、トレーニング部分で「読む」「書く」「聞く」「話す」の4分野の総合的な訓練を行い、特に「話す」・「書く」という発信方面に力を入れる。当然発音練習も行う。 ・単語レベル・フレーズレベル・文レベルでの発音練習を徹底する。	1.　1年次の復習、履修上の注意など 2.　第1課　认识一下儿好吗　Story, Point本文の発音と理解 3.　第1課　Drillこの課で学んだ文法・単語・発音等の確認 4.　第2課　想去的地方很多　Story, Point本文の発音と理解 5.　第2課　Drillこの課で学んだ文法・単語・発音等の確認 6.　第3課　好久不见　Story, Point本文の発音と理解 7.　第3課　Drillこの課で学んだ文法・単語・発音等の確認 8.　第4課　让爱子去旅行　Story, Point本文の発音と理解 9.　第4課　Drillこの課で学んだ文法・単語・発音等の確認 10.　第5課　外国人都喜欢吃　Story, Point本文の発音と理解 11.　第5課　Drillこの課で学んだ文法・単語・発音等の確認 12.　第6課　今天我请客　Story, Point本文の発音と理解 13.　第6課　Drillこの課で学んだ文法・単語・発音等の確認 14.　復習など

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする。
テキスト	『仲間で話そう中国語』　徐送迎著　朝日出版社
参考文献	書籍版（＝紙の）中日辞典　※　見出し字をたてる伝統的配列であることを条件に各自の選択で
評価方法	中間・期末などの試験 70%　　授業への参加度など 30%

13 年度以降	中国語（Ⅱb 会話 2）	担当者	秦　敏

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 春学期に引き続き、更に語彙・文法の知識を積み重ね、発音練習・会話練習により中国語の運用能力を高める。 【講義概要】 ・（会話１）とともに会話の習得に重点を置く。 ・テキストは本文・語句・トレーニングからなり、トレーニング部分で「読む」「書く」「聞く」「話す」の4分野の総合的な訓練を行い、特に「話す」・「書く」という発信方面に力を入れる。 ・春学期に引き続き、発音練習―発音の矯正・声調―を徹底する。 ・自然なイントネーションを身につけ、ナチュラルスピードで音読できることを目指す。	1.　前学期の復習、口慣らしなど 2.　第7課　我们的梦想　Story, Point 本文の発音と理解 3.　第7課　Drillこの課で学んだ文法・単語・発音等の確認 4.　第8課　有一个愿望　Story, Point本文の発音と理解 5.　第8課　Drillこの課で学んだ文法・単語・発音等の確認 6.　第9課　谈谈个人问题　Story, Point本文の発音と理解 7.　第9課　Drillこの課で学んだ文法・単語・発音等の確認 8.　第10課　联系方法　Story, Point本文の発音と理解 9.　第10課　Drillこの課で学んだ文法・単語・発音等の確認 10.　第11課　欢聚北京　Story, Point本文の発音と理解 11.　第11課　Drillこの課で学んだ文法・単語・発音等の確認 12.　第12課　请到我家作客　Story, Point本文の発音と理解 13.　第12課　Drillこの課で学んだ文法・単語・発音等の確認 14.　復習など

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする。
テキスト	『仲間で話そう中国語』　徐送迎著　朝日出版社
参考文献	書籍版（＝紙の）中日辞典　※　見出し字をたてる伝統的配列であることを条件に各自の選択で
評価方法	中間・期末などの試験 70%　　授業への参加度など 30%

13 年度以降	中国語（Ⅲa 応用）	担当者	馮　曰珍

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、中級レベルの語学力を持つ中国語学習者を対象に、より実践的な会話能力、読解能力を養うことを目指します。 教材は中国語地理、歴史、言語、教育などの内容の会話と短文で構成されている。会話と読解文を通して、発音や本文への理解度を確認しつつ、その都度解説を加えます。最後に中国語によるグループ発表を行う。 ※初回から教科書を使用するため、初回までに準備しておいてください。	1. 中国菜　程度補語 2. 中華料理についての文章の内容理解 3. 中国的饮料　把構文 4. 中国茶についての文章の内容理解 5. 中国的糕点　“思う”の表現 6. 中華菓子についての文章の内容理解 7. 中国的体育　受け身文 8. 流行のスポーツについての文章の内容理解 9. 中国的自然地理　比較文 10. 中国の地形についての文章の内容理解 11. 中国的行政区划　可能補語 12. 期末グループ発表の準備 13. グループ発表 14. まとめ

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストは必ずスムーズに読めるように繰り返し音読をしてくること。
テキスト	『やさしく楽しい中級中国語』　白帝社
参考文献	授業中に指示する
評価方法	テスト 50%、予習 25%、授業の参加度 25%

13 年度以降	中国語（Ⅲb 応用）	担当者	馮　曰珍

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、中級レベルの語学力を持つ中国語学習者を対象に、より実践的な会話能力、読解能力を養うことを目指します。 教材は中国語地理、歴史、言語、教育などの内容の会話と短文で構成されている。会話と読解文を通して、発音や本文への理解度を確認しつつ、その都度解説を加えます。最後に中国語によるグループ発表を行う。	1. 中国的人口与民族　語気助詞 2. 中国の各民族の紹介文を読む 3. 中国的语言　様態補語　使役文 4. 中国の言語についての文を読む 5. 中国的历史　物事の順序だてていう 6. 日本の歴史を中国語で説明する 7. 中国的教育　関連詞 8. 日本の教育制度について説明する 9. 中国的宗教　複文 10. 日本の神社仏閣を紹介する 11. 中国的经济 12. 期末グループ発表の準備 13. グループ発表 14. まとめ

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストは必ずスムーズに読めるように繰り返し音読をしてくること。
テキスト	『やさしく楽しい中級中国語』　白帝社
参考文献	授業中に指示する
評価方法	テスト 50%、予習 25%、授業の参加度 25%

13 年度以降	韓国語（Ｉａ総合 1）	担当者	森　勇俊

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は韓国語の基礎を習得することを目標とし、「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能に重点を置く。 ハングルのしくみからはじめて簡単な挨拶、自己紹介、注文するなど、交流や日常生活に必要な基本文と共に、文化的知識を身に付けていく。「生きた韓国語」に接する機会をできるだけ多く提供していきたい。	1.　字母編1課　基本母音・2課　基本子音 2.　字母編3課　合成母音・4課　パッチム 3.　1課 SET1　自己紹介 4.　1課 SET2　疑問文 5.　1課 SET3　이/가 아닙니다 6.　2課 SET1　注文 7.　2課 SET2　位置関連 8.　2課 SET3　漢数字 9.　復習 10. 3課 SET1　場所 11. 3課 SET2　固有数字 12. 3課 SET3　해요体 13. 3課 SET3　否定形 14. まとめ

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト	K.S.Jeong & S.S.Rung 『おいしい KOREAN レッスン』Asahi Press
参考文献	特になし。
評価方法	中間テスト 30%、期末テスト 30%、小テスト 20%、プレゼンテーション 20%

13 年度以降	韓国語（Ｉｂ総合 1）	担当者	森　勇俊

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、春学期に学んだ単語、文法などを活用し、「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能を中心に韓国語の円滑なコミュニケーションを取れることを目的とする。	1.　基本事項の確認 2.　4課 SET1　過去形・否定形 3.　4課 SET2　曜日 4.　4課 SET3　時間表現 5.　5課 SET1　敬語表現 6.　5課 SET2　様々な表現 7.　5課 SET3　比較表現 8.　6課 SET1　天気予報 9.　6課 SET2　ㅂ変則・丁寧な命令形 10. 6課 SET3　季節の食べ物 11. 7課 SET1　電話表現・不可能の呉 12. 7課 SET2　理由説明の表現 13. 7課 SET3　誕生日と食べ物・誘いの表現 14. まとめ

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト	K.S.Jeong & S.S.Rung『おいしい KOREAN レッスン』Asahi Press
参考文献	特になし。
評価方法	中間テスト 30%、期末テスト 30%、小テスト 20%、プレゼンテーション 20%

13 年度以降	韓国語（Ｉa 総合 2）	担当者	柳　蓮淑

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は韓国語の基礎を習得することを目標とし、「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能に重点を置く。 ハングルのしくみからはじめ簡単な挨拶、自己紹介、注文するなど、交流や日常生活に必要な基本文と共に、文化的知識を身に付けていく。「生きた韓国語」に接する機会をできるだけ多く提供していきたい。	1. ハングルのしくみ 2. 有声音化、激音、濃音 3. 終声、連音化 4. 名詞文 5. 存在文 6. 用言文 7. 漢語系数詞 8. 固有語系数詞、助数詞 9. 否定形 10. 尊敬形 11. 連用形 12. 해요体 13. 해요体の尊敬形 14. まとめ

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト	生越直樹・チョ・ヒチョル『ことばの架け橋改訂版』白帝社
参考文献	期末テスト（60%）、小テスト（40%）
評価方法	中間テスト、期末テスト、小テスト

13 年度以降	韓国語（Ｉb 総合 2）	担当者	柳　蓮淑

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、春学期に学んだ単語、文法などを活用し、過去形、未来形、変則用言などを学ぶことにより、韓国語の基礎を完成させることを目的とする。	1. 基本事項の確認 2. 逆接・移動の目的表現 3. 連体形（未来・回想） 4. 婉曲表現 5. 不可能表現 6. 復習 7. 意志・意向の表現/謙譲・推量表現 8. 禁止表現/理由・誘い表現 9. 状態・動作の羅列/気づき・発見の表現 10. 復習 11. 条件・譲歩表現 12. 不可能表現 13. いろいろな形容詞 14. まとめ

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト	生越直樹・チョ・ヒチョル『ことばの架け橋改訂版』白帝社
参考文献	期末テスト（60%）、小テスト（40%）
評価方法	中間テスト、期末テスト、小テスト

13年度以降	韓国語（Ⅰa応用）	担当者	朴　鍾厚

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は韓国語の基礎を習得することを目標とし、「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能に重点を置く。 ハングルのしくみからはじめ簡単な挨拶、自己紹介、注文するなど、交流や日常生活に必要な基本文と共に、文化的知識を身に付けていく。「生きた韓国語」に接する機会をできるだけ多く提供していきたい。	1. オリエンテーション 2. 1課 文字と発音－短母音・初声 3. 1課 文字と発音－半母音・終声 4. 2課 文字と発音－初声・有声音化 5. 2課 文字と発音－半母音・二重母音・連音化 6. 3課 文字と発音－初声・濃音化 7. 復習 8. 4課 한국사람입니다/ 鼻音化・あいさつことば 9. 4課 입니다/ 이라고 합니다 10. 5課 한국어는 전공이 아니에요/激音化・漢字音 11. 5課 예요 / 가 아니에요 12. 6課 강의실은 계단 옆에 있어요 漢数字 13. 6課 있다/없다 位置表現 14. まとめ

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト	李潤玉他『韓国語の世界へ初中級編』朝日出版社
参考文献	
評価方法	中間テスト40%、期末テスト40%、小テスト20%

13年度以降	韓国語（Ⅰb応用）	担当者	朴　鍾厚

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、春学期に学んだ単語、文法などを活用し、過去形、未来形、変則用言などを学ぶことにより、韓国語の基礎を完成させることを目的とする。	1. 基本事項の確認 2. 7課 오후에 시간 괜찮아요? 을/를 도 3. 7課 해요体 4. 8課 초등학생에게 태권도를 가르쳐요 에서/에게 5. 8課 指示詞 6. 9課 보통 여섯 시에 일어나요 으로/ 까지/ 에서 7. 9課 固有数字 時を表すことば 8. 10課 야구를 아주 좋아해요　으러/ 부터・까지 9. 10課 해요体と합니다体について 10. 11課 점심 안 먹었어요? 안 用言　으語幹の活用 11. 11課 過去形 12. 12課 봄 방학 때 뭐 할 거예요? 을 거예요/ 고 싶다 13. 12課 命令形 14. まとめ

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト	李潤玉他『韓国語の世界へ』朝日出版社
参考文献	
評価方法	中間テスト40%、期末テスト40%、小テスト20%

13 年度以降	韓国語（Ⅱa 総合 1）	担当者	柳　蓮淑

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は1年生の時に習った韓国語の知識を生かして、「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能の上達を目標とする。 基本文型や文法知識を生かして韓国語の円滑なコミュニケーションを取れることを目的とする。韓国の文化的知識も身に付けていく。「生きた韓国語」に接する機会をできるだけ多く提供していきたい。	1. オリエンテーション 2. 8課 SET1　国の名前・理由の으니까 3. 8課 SET2　ㄷ変則・으変則 4. 8課 SET2　意図の으려고　条件の으면　目的の으러 5. 9課 SET1　時間の順次 아서 6. 9課 SET1　連体形（現在） 7. 9課 SET2　許可の아도 되다　禁止の 으면 안 되다 8. 10課 SET1　連体形の未来・フォーマルな表現 9. 10課 SET2　ㅅ変則・意志の을 거예요 10. 10課 SET2　可能・不可能の을 수 있다/없다 11. 11課 SET1　進行の고 있다　推測の나 보다 12. 11課 SET2　ㄹ変則/ 病状のオノマトペ・病状の表現 13. 11課 SET2　状態の変化 아지다 14. まとめ

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト	K.S.Jeong & S.S.Rung 『おいしい KOREAN レッスン』Asahi Press
参考文献	特になし。
評価方法	中間テスト 40%、期末テスト 40%、小テスト 20%

13 年度以降	韓国語（Ⅱb 総合 1）	担当者	柳　蓮淑

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、春学期に学んだ単語、文法などを活用し、「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能を中心に韓国語の円滑なコミュニケーションを取れることを目的とする	1. オリエンテーション 2. 基本事項の確認 3. 12課 SET1　道案内 4. 12課 SET2　連体形（過去）은 후에 5. 12課 SET2　同時の으면서/ 자마자 6. 12課 プレゼンテーション課題発表 7. 13課 SET1　色のことば、ㅎ脱落 8. 13課 SET2　直接引用文 9. 13課 SET2　命令の否定形・推量表現 10. 13課 プレゼンテーション課題発表 11. 14課 SET1　伝聞/ 기の慣用句 12. 14課 SET2　推量の을 것 같다 13. 14課 SET2　予想外の는 줄 알다 14. プレゼンテーション課題発表・まとめ

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト	K.S.Jeong & S.S.Rung 『おいしい KOREAN レッスン』Asahi Press
参考文献	特になし。
評価方法	中間テスト 40%、期末テスト 40%、小テスト 20%

13 年度以降	韓国語（Ⅱa 総合 2）	担当者	朴　鍾厚

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は1年生の時に習った韓国語の知識を生かして、「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能の上達を目標とする。 基本文型や文法知識を生かして韓国語の円滑なコミュニケーションを取れることを目的とする。韓国の文化的知識も身に付けていく。「生きた韓国語」に接する機会をできるだけ多く提供していきたい。	1.　1課 復習 2.　2課 復習 3.　3課 会話・読解；図書館で 4.　3課 推量表現 5.　4課 会話・読解；引っ越し祝い 6.　4課 未来連体形 7.　4課 さまざまな表現 8.　5課 会話・読解；手紙 9.　5課 引用形 10. 5課 引用形のさまざまな表現 11. 6課 会話・読解；映画 12. 6課 さまざまな表現 13. 6課 名詞化語尾 14. まとめ

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト	生越直樹『ことばの架け橋』中級表現編　白帝社
参考文献	特になし。
評価方法	中間テスト 40%、期末テスト 40%、小テスト 20%

13 年度以降	韓国語（Ⅱb 総合 2）	担当者	朴　鍾厚

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、春学期に学んだ単語、文法などを活用し、「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能を中心に韓国語の円滑なコミュニケーションを取れることを目的とする。	1.　基本事項の確認 2.　7課 会話・読解；東大門市場で 3.　7課 受身形 4.　7課 さまざまな表現 5.　8課 会話・読解；民俗村 6.　8課 さまざまな表現 7.　8課 慣用句 8.　復習 9.　9課 会話・読解；チュソク 10. 9課 使役形 11. 9課 名詞に続く慣用句 12. 10課 会話・読解；日本国会演説 13. 10課 書きことばで使われる表現 14. まとめ

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト	生越直樹『ことばの架け橋』中級表現編　白帝社
参考文献	特になし。
評価方法	中間テスト 40%、期末テスト 40%、小テスト 20%

13年度以降	韓国語（Ⅱa応用）	担当者	白　寅英

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は1年生の時に習った韓国語の知識を生かして、「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能の上達を目標とする。 基本文型や文法知識を生かして韓国語の円滑なコミュニケーションを取れることを目的とする。韓国の文化的知識も身に付けていく。「生きた韓国語」に接する機会をできるだけ多く提供していきたい。	1. オリエンテーション 2. 1課 何年度入学ですか 3. 1課 해요体の作り方 4. 2課 韓国語を一生懸命勉強するつもりです 5. 2課 -을 거예요/ -고/ -지요? 6. 3課 あの靴、ちょっと見せてください 7. 3課 -지만/ 은(形容詞の現在連体形) / -아 주다 8. 4課 よく行く韓国料理のお店があれば紹介してください 9. 4課 으면/ 는/ 지 않다 10. 5課 一緒に撮った写真を添付しました 11. 5課 은(動詞の過去連体形)/ -네요/ ㄷ変則 12. 6課 発表の時間に遅れてすみません 13. 6課 -시-/ 아서/을/지 못하다 14. まとめ

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト	李潤玉他 『韓国語の世界へ初中級編』朝日出版社
参考文献	特になし。
評価方法	中間テスト 40%　期末テスト 40%　小テスト 20%

13年度以降	韓国語（Ⅱb応用）	担当者	白　寅英

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、春学期に学んだ単語、文法などを活用し、「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能を中心に韓国語の円滑なコミュニケーションを取れることを目的とする。	1. 基本事項の確認 2. 7課 暑い夏にサムゲタンを食べます 3. 7課 은 적이 있다/없다 / -고 있다 / ㅂ変則 4. 8課 重くないので一人でしますよ 5. 8課 아 있다/ 으니까/ 을게요 6. 9課 パソコンちょっと借りてもいいですか 7. 9課 는데/ 아도 되다/ 르変則 8. 10課 リムジンバスの方がいいでしょうね 9. 10課 겠/ 거든요/ 아야 되다 10. 11課 陶磁器も作ってみましたか 11. 11課 을까요 / 아 보다/ 을 수 있다/없다 12. 12課 韓国の会社に就職しようと思っています 13. 12課 것 같다/ 으려고 하다/ 지 말다 14. まとめ

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト	李潤玉他 『韓国語の世界へ初中級編』朝日出版社
参考文献	特になし。
評価方法	中間テスト 40%　期末テスト 40%　小テスト 20%

13 年度以降	韓国語（Ⅲa 応用）	担当者	羅　一等

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は1-2年生の時に習った内容を復習しつつ、新しい文法の知識や語彙を増やすことにより、より高度な韓国語の表現力の習得をめざす。 履修者には韓国語ができるという実感と実際のコミュニケーションができるように期待したい。	1. 基本事項の確認 2. 1課 은 지 (time) 됐다/ 인데 3. グループワーク；有名人を紹介する 4. 2課 情報交換をする 5. 2課 으려면/間接話法 6. グループワーク； 部活やサークルの情報について 7. 3課 家探し 8. 3課 은/는 편이다/ 긴 하다 9. グループワーク；住みたい家について 10. 4課 招待をする 11. 4課 을 테니까/ 으면서 12. グループワーク；結婚式やお葬式について発表 13. 課外授業；慣用句 14. まとめ

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト	西江大学韓国語教育院『NEW 西江韓国語 Student’s Book 3A』西江大学韓国語教育院
参考文献	別冊、CD
評価方法	中間テスト 40%、期末テスト 40%、小テスト 20%

13 年度以降	韓国語（Ⅲb 応用）	担当者	羅　一等

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は1-2年生の時に習った内容を復習しつつ、新しい文法の知識や語彙を増やすことにより、より高度な韓国語の表現力の習得をめざす。 履修者には韓国語ができるという実感と実際のコミュニケーションができるように期待したい。	1. 基本事項の確認 2. 5課 外見・性格の描写 3. 5課 아 보니까 4. グループワーク；友達について描写とクイズ 5. 6課 問題の解決 6. 6課 기 때문에/ 았으면 좋겠다/ 던데 7. グループワーク；改善してほしいことについて発表する 8. 7課 心配を表現する 9. 7課 다면서요 / 을 텐데 걱정이다 10. グループワーク；10年後消える仕事と有望な仕事 11. 8課 公共施設の利用 12. 8課 을 텐데 / 다면서요? 13. グループワーク；アルバイトの経験について発表 14. まとめ

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト	西江大学韓国語教育院『NEW 西江韓国語 Student’s Book 3A』西江大学韓国語教育院
参考文献	別冊、CD
評価方法	中間テスト 40%、期末テスト 40%、小テスト 20%

外国語学部共通科目シラバス

13 年度以降	総合講座	担当者	山口　誠

講義目的、講義概要	授業計画
モビリティの世紀：文化、メディア、ツーリズム 年間で12億人もの人々が国境を超える今日、「移動」は重要なキーワードです。テレビや新聞では観光者をはじめ、移民や難民など、さまざまなツーリスト（移動者）たちのニュースを連日、目にします。そうしたヒトの移動に加え、モノや情報（コト）の移動を考慮すれば、21世紀は「移動（モビリティ）の世紀」といえます。 この総合講座では、モビリティという切り口から、われわれの社会と文化の特徴を考えます。 各回のテーマは21世紀の最新状況に限定せず、またモビリティと深い関わりをもつメディアや文化現象にも着目し、現代に至るまでの歴史や、さまざまな時代や地域の「モビリティ」を取り上げることで、多様な事例から「モビリティ」の世紀の課題と可能性を考えるための知見を学びます。	1. 4/10 ガイダンス：モビリティとは何か？（山口誠） 2. 4/17 モビリティが作り出す文化:タイ国プーケットを事例に（須永和博） 3. 4/24 表象のモビリティ（柿田秀樹） 4. 5/8 移動・観光からみる民俗芸能（鈴木涼太郎） 5. 5/15 移民社会日本のチャレンジ（高橋雄一郎） 6. 5/22 カレーのジャングルをめぐって（藤田朋久） 7. 5/29 ことばの移動（田中善英） 8. 6/5 留学しない留学：トランスナショナル教育の可能性と課題（工藤和宏） 9. 6/12 18世紀のシェイクスピア・ツーリズム（前沢浩子） 10. 6/19 アフリカにおけるヒトのモビリティ：ディアスポラの役割（佐野康子） 11. 6/26 ドイツと移民：その歴史的展開（古田善文） 12. 7/3 グローバル化・ツーリズムと異文化間コミュニケーション（マティアス・ビティヒ） 13. 7/10 モビリティと環境（岡村りら） 14. 7/17 まとめ（山口誠）

到達目標	学科の専門領域を越えた総合的な知識を習得し、国際的・学際的視野をもって分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業中に示す事例や重要概念について図書館などで自ら調べ、さらに理解を深めてください。
テキスト	各回講義で適宜提示します。
参考文献	各回講義で適宜提示します。
評価方法	各講義後コメントペーパーを試験解答として提出するため、出席と講義の内容の復習が不可欠である。 75 分の講義の後、担当の先生の各テーマについて 15 分ほどのテストを毎回行う。このテストをもとに成績を評価する。

13 年度以降	総合講座	担当者	堀　芳枝

講義目的、講義概要	授業計画
今期のテーマは「私たちの暮らしとジェンダー」とする。 ジェンダーとは生物学的に分類された男性や女性ではなく、その国家や地域の歴史や社会、文化によって規定される「男らしさ」、「女らしさ」である（今日では生物学的に分類された男性・女性（セックス）もまた、文化によって構築されたという議論もあるが）。このジェンダー観やジェンダー規範は、政治や経済、そして私たちの暮らしにどのような影響を与えているのだろうか。今日ジェンダーに関する研究は、文学や社会学、人類学、政治学や経済学、国際関係論にまでおよんでいる。また、昨年の＃Me too運動のように、世界では様々なムーブメントも起こっている。そこで、本講義ではさまざまな分野の研究者だけでなく、国際協力の現場で活躍しているNGOスタッフらも招き、いろいろな角度からジェンダーについての講義を行うこととする。	1. ガイダンス 2. 平成の日本経済、労働、結婚、家族の変容（堀芳枝） 3. デート DV について考えよう（狛潤一） 4. 世界の難民問題とジェンダー（UNHCR 協会・滝澤三郎） 5. 東チモールのフェアトレードと女たち（NGO/野川未央） 6. グローバルアジェンダとしての女性の権利の問題（水本義彦） 7. ボーヴォワールの女性論 ―『第二の性』、サルトルとの関係から考える（根木昭英） 8. 昔話とジェンダー（渡部重美） 9. 妊娠中絶について考える：文学研究の立場から（片山亜紀） 10. Family, Life, Work and Being a Woman: What Does It Take?（英語）（本橋エレン） 11. ドイツ近代史とジェンダー（伊豆田俊輔） 12. 19 世紀フランスの女性像－経済史と美術史の観点から（廣田愛理・阿部明日香） 13. ジェンダー福袋（上野直子） 14. 男性ヌードの神話（青山愛香）

到達目標	学科の専門領域を越えた総合的な知識を習得し、国際的・学際的視野をもって分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	配布プリントや授業内で紹介された参考文献をもとに、自分が関心をもった点について調べて理解を深める。
テキスト	授業で指示します。
参考文献	授業で指示します。
評価方法	期末テストは行わず、毎回提出するコメントペーパー（1 回 10 点）とし、 最終的に 14 回分を 100 点に換算して評価することとする。

13 年度以降	総合講座	担当者	永本　哲也

講義目的、講義概要	授業計画
この講義の主な目的は、古代から中世までのキリスト教と社会の関係を概観することにあります。ユダヤ教の影響を受けて中東で生まれたキリスト教は、その後地中海地方全域へと広がっていきました。中世を通じてヨーロッパもまた、次第にキリスト教化されていきます。 政教分離も信教の自由もまだ実現していなかった前近代社会において、宗教は、政治や文化など社会の全域に大きな影響を及ぼしていました。そのため、ヨーロッパの歴史、文化、社会を理解するためには、キリスト教に関する知識が必要不可欠だと言えるでしょう。 本講義では、キリスト教が、いかに生まれ、広がり、変質し、地中海世界、そしてヨーロッパの社会を大きく変えていったかを学んでいきます。	1. 講義の概要 2. キリスト教とはどのような宗教か？ 3. ユダヤ教 4. 史的イエス 5. 使徒たちの宣教 6. 聖書 7. キリスト教の広がり 8. 古代末期のキリスト教と社会 9. 初期中世の教会と国家 10. カトリックと正教会の分裂 11. 修道院 12. 教会改革 13. 教会と生活 14. 中世のまとめ

到達目標	学科の専門領域を越えた総合的な知識を習得し、国際的・学際的視野をもって分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	参考文献の該当個所を事前に精読しておいてください。また、授業中に配付するプリントを用いて、復習を行ってください。凡そ 4 時間分の学修時間になります。
テキスト	テキストは使用せず。
参考文献	松本宣郎編『キリスト教の歴史 1 初期キリスト教～宗教改革』山川出版社、2009 年
評価方法	定期試験 100%

13 年度以降	総合講座	担当者	有信　真美菜

講義目的、講義概要	授業計画
「ヨーロッパ」はどのようにして形成されたか 現在のヨーロッパにあるもの（大学、言語、「ヨーロッパらしい」町並み、今のヨーロッパ諸国）の多くが、おそらく多くの人が学ぶ機会のなかった中世に作られています。この講義では、一般に「ヨーロッパ的なもの」として知られているものが、いつどのようにして出来たのかを、歴史をたどってテーマごとに話していきます。「歴史」と聞くと、中学・高校の退屈な歴史の授業を思い出すかもしれませんが、外国に旅行に行った際、ガイドブックに書いてあるその町や古い建物の歴史は興味を持って楽しく読むと思います。そのような話をする予定です。 ここでは、簡単に読める概説書を参考文献で挙げておきます。各テーマに関する文献は、授業時に提示します。	1. ガイダンス 2. EU以前のヨーロッパ「統合」―ヨーロッパ前史― 3. ヨーロッパ史のイメージ―ファッションの変遷― 4. ヨーロッパの街並みはいつできたのか 5. 流行先進国はどこか 6. 昔の題材にのっとって―ヴァーグナーのオペラ― 7. 歴史と文学 8. どこで何語が話されたか1（古代～中近世） 9. どこで何語が話されたか2（近世～現代） 10. 中世の残滓―ギリシャ語とラテン語― 11. 食文化とテーブルマナー 12. 海外で働く―ハンザ都市と貿易― 13. まとめ 14. 質疑、授業内試験

到達目標	学科の専門領域を越えた総合的な知識を習得し、国際的・学際的視野をもって分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業の内容を復習し、必要に応じて参考文献を読んで下さい。
テキスト	プリントを配布します。
参考文献	服部良久（他）編『大学で学ぶ西洋史[古代・中世]』（ミネルヴァ書房、2006 年）
評価方法	授業内試験 70%、授業への参加 30%（最低 3 分の 2 以上要出席）

13 年度以降	情報科学概論 a	担当者	呉　浩東

講義目的、講義概要	授業計画
高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。とくに、コンピュータを使用する多言語情報処理の重要性がますます増大しています。 本講義では、(1) コンピュータと情報処理に関する基礎知識 (2) コンピュータのハードウェアとソフトウェアの仕組み (3) コンピュータによる多言語処理の技術と応用法などについて知識の形成と応用力の育成を目標とします。 本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係、コンピュータのハードウェアとソフトウェアについて学びます。そのうえで、コンピュータとインターネット技術を利用した多言語情報処理の仕組みについて学びます。さらに、実習を通じて、多言語情報の活用法などの理解を深めます。	1. 講義の概要と目標、情報のデジタル化 2. オペレーティングシステムとは 3. データ構造入門 4. アルゴリズムの表現法、アルゴリズムの例 5. プログラミング言語入門 6. コンピュータ・ハードウェア 7. 言葉と言語処理の仕組み 8. 言語処理ための構文解析と言語資源 9. 言葉の意味解析と知識表現 10. 情報検索における言語処理 11. 質問応答システムと対話システム 12. 機械翻訳の原理 13. 講義のまとめ（前半部分の復習） 14. 講義のまとめ（後半部分の復習と演習課題の提出）

到達目標	コンピュータの基礎理論およびコンピュータ言語に関する知識を習得し、コンピュータの基本的操作ができるようにする。
事前・事後学修の内容	サーバー上に開示するテキストの指定される内容を予習し、前回出される課題を次回に提出します。
テキスト	使用しません。
参考文献	随時紹介します。
評価方法	定期試験の成績 60%、課題の完成度 30%、授業への参加度 10%を併せて評価します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	［入門］情報科学各論（情報処理演習）［総合］	担当者	金子　憲一

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。 コンピュータ初心者を対象に、1 人 1 台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、［応用］科目を履修できる。	1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word：簡単な書式設定など 4. Word：応用的な書式設定など 5. Word：レイアウト関係の設定など 6. インターネットの活用法：情報検索方法など 7. インターネットの活用法：ネットのマナーなど 8. Excel：基本操作など 9. Excel：簡単な作表など 10. Excel：複雑な作表、計算など 11. PowerPoint：基本操作など 12. PowerPoint：資料の作成など 13. PowerPoint：発表 14. まとめ

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。
テキスト	適宜指示する。
参考文献	適宜指示する。
評価方法	課題等の平常点：100%

13 年度以降	［入門］情報科学各論（情報処理演習）［総合］	担当者	金子　憲一

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。 コンピュータ初心者を対象に、1 人 1 台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、［応用］科目を履修できる。	1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word：簡単な書式設定など 4. Word：応用的な書式設定など 5. Word：レイアウト関係の設定など 6. インターネットの活用法：情報検索方法など 7. インターネットの活用法：ネットのマナーなど 8. Excel：基本操作など 9. Excel：簡単な作表など 10. Excel：複雑な作表、計算など 11. PowerPoint：基本操作など 12. PowerPoint：資料の作成など 13. PowerPoint：発表 14. まとめ

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。
テキスト	適宜指示する。
参考文献	適宜指示する。
評価方法	課題等の平常点：100%

13 年度以降	［入門］情報科学各論（情報処理演習）［英語］	担当者	黄　海湘

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。 　コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、［応用］科目を履修できる。	1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word：簡単な書式設定など 4. Word：応用的な書式設定など 5. Word：レイアウト関係の設定など 6. インターネットの活用法：情報検索方法など 7. インターネットの活用法：ネットのマナーなど 8. Excel：基本操作など 9. Excel：簡単な作表など 10. Excel：複雑な作表、計算など 11. PowerPoint：基本操作など 12. PowerPoint：資料の作成など 13. PowerPoint：発表 14. まとめ

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。
テキスト	適宜指示する。
参考文献	適宜指示する。
評価方法	題等の平常点：100%

13 年度以降	［入門］情報科学各論（情報処理演習）［英語］	担当者	黄　海湘

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。 　コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、［応用］科目を履修できる。	1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word：簡単な書式設定など 4. Word：応用的な書式設定など 5. Word：レイアウト関係の設定など 6. インターネットの活用法：情報検索方法など 7. インターネットの活用法：ネットのマナーなど 8. Excel：基本操作など 9. Excel：簡単な作表など 10. Excel：複雑な作表、計算など 11. PowerPoint：基本操作など 12. PowerPoint：資料の作成など 13. PowerPoint：発表 14. まとめ

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。
テキスト	適宜指示する。
参考文献	適宜指示する。
評価方法	課題等の平常点：100%

13 年度以降	［入門］情報科学各論（情報処理演習）［ヨーロッパ言語］	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。受講生の外国語の能力自体は問わない。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。 　コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、［応用］科目を履修できる。	1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word：簡単な書式設定など 4. Word：応用的な書式設定など 5. Word：レイアウト関係の設定など 6. インターネットの活用法：情報検索方法など 7. インターネットの活用法：ネットのマナーなど 8. Excel：基本操作など 9. Excel：簡単な作表など 10. Excel：複雑な作表、計算など 11. PowerPoint：基本操作など 12. PowerPoint：資料の作成など 13. PowerPoint：発表 14. まとめ

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。
テキスト	適宜指示する。
参考文献	適宜指示する。
評価方法	課題等の平常点：100%

13 年度以降	［入門］情報科学各論（情報処理演習）［ヨーロッパ言語］	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。受講生の外国語の能力自体は問わない。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。 　コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、［応用］科目を履修できる。	1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word：簡単な書式設定など 4. Word：応用的な書式設定など 5. Word：レイアウト関係の設定など 6. インターネットの活用法：情報検索方法など 7. インターネットの活用法：ネットのマナーなど 8. Excel：基本操作など 9. Excel：簡単な作表など 10. Excel：複雑な作表、計算など 11. PowerPoint：基本操作など 12. PowerPoint：資料の作成など 13. PowerPoint：発表 14. まとめ

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。
テキスト	適宜指示する。
参考文献	適宜指示する。
評価方法	課題等の平常点：100%

13 年度以降	［応用］情報科学各論（Excel・プレゼンテーション中級）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、［入門］科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 　実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、受講生の習熟度等によって、進度・扱う内容が多少異なることがある。	1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認 3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認、フィルタによる抽出 4. グラフ作成、装飾の確認 5. 関数とは 6. 基本的な関数 7. 応用的な関数 8. マクロの基礎 9. マクロの利用 10. プレゼンテーション実習（1）-作成 11. プレゼンテーション実習（1）-発表 12. プレゼンテーション実習（2）-作成 13. プレゼンテーション実習（2）-発表 14. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。
テキスト	適宜指示する。
参考文献	適宜指示する。
評価方法	課題等の平常点：100％

13 年度以降	［応用］情報科学各論（Excel・プレゼンテーション中級）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、［入門］科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 　実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、受講生の習熟度等によって、進度・扱う内容が多少異なることがある。	1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認 3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認、フィルタによる抽出 4. グラフ作成、装飾の確認 5. 関数とは 6. 基本的な関数 7. 応用的な関数 8. マクロの基礎 9. マクロの利用 10. プレゼンテーション実習（1）-作成 11. プレゼンテーション実習（1）-発表 12. プレゼンテーション実習（2）-作成 13. プレゼンテーション実習（2）-発表 14. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。
テキスト	適宜指示する。
参考文献	適宜指示する。
評価方法	課題等の平常点：100％

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後 学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	［応用］情報科学各論（プレゼンテーション中級）	担当者	金子　憲一

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、［入門］科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、実際の発表（質疑応答も含む）を通じて、「わかりやすいプレゼンテーションとは何か」を考えていく半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 なお、課題（演習）が締め切り日までに提出されなかったり、また提出はあっても、発表の準備をしていない場合は、実際の発表ができません。	1. ガイダンス、基本知識と操作の確認 2. プレゼンテーションとは 3. スライドの作成法－入力 4. スライドの作成法－実行、印刷 5. 演習 1：時間の意識 6. 発表－第 1 グループ 7. 発表－第 2 グループ 8. 演習 2：配布資料の利用 9. 発表－第 1 グループ 10. 発表－第 2 グループ 11. 演習 3：「言葉」の定義 12. 発表－第 1 グループ 13. 発表－第 2 グループ 14. まとめ

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後 学修の内容	各回で指示される、課題、復習、準備（予習）等を行うこと。
テキスト	授業用 Web にて情報の提示や資料等を配布。
参考文献	随時紹介。
評価方法	原則として、欠席数が規定回数以内であること。 演習（作成・発表・振り返り）90%、平常点（練習問題等）10%。

13 年度以降	［応用］情報科学各論（Word 中級）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、［入門］科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Word の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 　実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、受講生の習熟度等によって、進度・扱う内容が多少異なることがある。	1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 段落、段組など設定方法 3. 段落、段組、その他書式設定 4. アウトラインに沿った編集方法 5. アウトラインに沿った編集の実践 6. 脚注・コメントの作成 7. ワードアートの利用 8. 図形の利用方法 9. 図形の利用の実践 10. 図形の利用および組織図の作成 11. 目次作成・索引作成 12. Excel との基本的な連携 13. Excel との応用的な連携 14. まとめ

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。
テキスト	適宜指示する。
参考文献	適宜指示する。
評価方法	課題等の平常点：100%

13 年度以降	［応用］情報科学各論（Word 中級）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、［入門］科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Word の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 　実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、受講生の習熟度等によって、進度・扱う内容が多少異なることがある。	1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 段落、段組など設定方法 3. 段落、段組、その他書式設定 4. アウトラインに沿った編集方法 5. アウトラインに沿った編集の実践 6. 脚注・コメントの作成 7. ワードアートの利用 8. 図形の利用方法 9. 図形の利用の実践 10. 図形の利用および組織図の作成 11. 目次作成・索引作成 12. Excel との基本的な連携 13. Excel との応用的な連携 14. まとめ

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。
テキスト	適宜指示する。
参考文献	適宜指示する。
評価方法	課題等の平常点：100%

13年度以降	［応用］情報科学各論（Office 中級）	担当者	松山　恵美子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、［入門］科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Office（Word、Excel、PowerPoint）の実践的・統合的な使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とする授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、受講生の習熟度等によって、進度・扱う内容が多少異なることがある。	1. ガイダンス・基本操作の確認 2. Word　オブジェクトを使った文書の作成 3. Word　アウトラインを使った文書の作成 4. Word　長文の作成（Word習熟度の確認） 5. Excel　相対・絶対参照での計算式 6. Excel　シート間の作業。グラフの編集 7. Excel　基本関数の利用 8. Excel　応用関数の利用 9. Excel　関数・グラフの習熟度の確認 10. WordとExcel 統合的な使い方 11. PowerPoint　目的に合わせた表現方法 12. PowerPoint　テーマに沿ったプレゼン作成 13. PowerPoint　プレゼンの発表 14. まとめ　Word、Excelの習熟度の復習

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業の内容に合わせた事前・事後学修を指示する。欠席した学生も必ず提出すること。
テキスト	「情報活用とアカデミック・スキル　Office2016」　共立出版
参考文献	適宜指示する。
評価方法	3分の2以上の出席をした学生を対象に以下に従い評価を行う。 Word および Excel の習熟度、プレゼン発表　50%、授業内課題　20%、事前・事後課題　30%

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13年度以降	［HTML］情報科学各論（HTML初級）（月5）	担当者	金子　憲一

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、［入門］科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、実際のWebページの作成を通じて、Webページの仕組みとインターネットにおける情報の発信、著作権等について学んでいく半期完結授業である。 まず、コンピュータとネットワークの基本構成、ファイル・フォルダ・ドライブといったコンピュータに関する基本知識を復習する。その上で、インターネットサービスの１つである「WWW（World Wide Web)」における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML（Hyper-Text Markup Language)」を学ぶ。更に自分自身のWebページ（ホームページ）も作成する。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 コンピュータの言語（Language）を習得するには、外国語を習得するのと同様に、「繰り返し（復習)」が極めて重要です。	1. ガイダンス、基本知識と操作の確認 2. Webページとは、情報倫理、著作権 3. 文字中心のページ、リンク 4. 画像 5. 表 6. FTP 7. 課題－表紙（目次） 8. 課題－枠組み（リンク） 9. 小鑑賞会、企画書の作成 10. CSS 11. 総合課題－表紙（目次） 12. 総合課題－枠組み（リンク） 13. 作品紹介のプレゼンテーション 14. 鑑賞会・まとめ

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	各回で指示される、課題、復習、準備（予習）等を行うこと。
テキスト	授業用Webにて情報の提示や資料等を配布。
参考文献	随時紹介。
評価方法	原則として、欠席数が規定回数以内であること。 総合課題（作品）40%、平常点（課題、著作権のレポート等）60%。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	［HTML］情報科学各論（HTML 初級）（木 4）	担当者	金子　憲一

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、［入門］科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、実際のWebページの作成を通じて、Webページの仕組みとインターネットにおける情報の発信、著作権等について学んでいく半期完結授業である。 まず、コンピュータとネットワークの基本構成、ファイル・フォルダ・ドライブといったコンピュータに関する基本知識を復習する。その上で、インターネットサービスの１つである「WWW（World Wide Web)」における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML（Hyper-Text Markup Language)」を学ぶ。更に自分自身のWebページ（ホームページ）も作成する。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 コンピュータの言語（Language）を習得するには、外国語を習得するのと同様に、「繰り返し（復習)」が極めて重要です。	1. ガイダンス、基本知識と操作の確認 2. Webページとは、情報倫理、著作権 3. 文字中心のページ、リンク 4. 画像 5. 表 6. FTP 7. 課題－表紙（目次） 8. 課題－枠組み（リンク） 9. 小鑑賞会、企画書の作成 10. CSS 11. 総合課題－表紙（目次） 12. 総合課題－枠組み（リンク） 13. 作品紹介のプレゼンテーション 14. 鑑賞会・まとめ

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	各回で指示される、課題、復習、準備（予習）等を行うこと。
テキスト	授業用 Web にて情報の提示や資料等を配布。
参考文献	随時紹介。
評価方法	原則として、欠席数が規定回数以内であること。 総合課題（作品）40%、平常点（課題、著作権のレポート等）60%。

13 年度以降	［HTML］情報科学各論（HTML 中級）	担当者	金子　憲一

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、「情報科学各論（HTML初級)」の次に位置する中級科目である。コンピュータやインターネットの基礎知識、及び「HTMLを用いたWebページ作成技術を習得した人（FTPの理解を含む）を対象」に、一方向の情報発信ではなく、インタラクティブなページの作成を通じて、コンピュータの深い理解とコミュニケーション技術を得ることを目標とする。 まず、コンピュータとネットワーク（インターネット）の基礎知識の確認、及びHTML、FTPなどの復習を行う。次にJavaScriptやCGIプログラムを利用して、メッセージの表示や画像の変化、カウンタ、掲示板の設置等を行う。作成の成果は、受講生相互で批評・検討する。 受講上の注意：授業内容や評価方法等を詳しく説明するので、ガイダンスには必ず出席すること。原則として、HTML初級を履修済みであること。プログラミングの授業なので、特に欠席や遅刻はしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 抽象度が高いので、準備と復習をしっかり行い、こまめにメモを取ることが必須です。	1. ガイダンス 2. HTMLとFTPの復習 3. インタラクティブなページとは 4. プログラミングの基礎知識 5. JavaScript－順次 6. JavaScript－選択 7. JavaScript－繰り返し 8. JavaScript－イベントハンドラ 9. JavaScript－画像の切り替え 10. CGIの利用 11. 総合課題－表紙（目次） 12. 総合課題－枠組み（リンク） 13. 総合課題－JSの活用 14. 鑑賞会・まとめ

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	各回で指示される、課題、復習、準備（予習）等を行うこと。
テキスト	授業用 Web にて情報の提示や資料等を配布。
参考文献	随時紹介。
評価方法	原則として、欠席数が規定回数以内であること。 総合課題（作品）70%、平常点（課題等）30%。

シラバス 交流文化学科

2019 年 4 月 1 日発行

獨協大学教務課

〒340-0042　埼玉県草加市学園町1－1
電　話　048 - 946 - 1656

DOKKYO UNIVERSITY

学　　科	学年	氏　　名
学科	年	